HANDBOOK 2023

大　学　要　覧

千里山キャンパス

関西大学
KANSAI UNIVERSITY

創立者群像のレリーフ
後列左から　有田徳一、 大島貞敏、 児島惟謙、 土居通夫、 吉田一士
前列左から　野村鈔吉、 手塚太郎、 小倉久、 井上操、 堀田正忠、 志方鍛、 鶴見守義

正義と自由を

■

関西大学は1886（明治19）年に創立された。明治維新以来、わが国はしきりに欧米の新しい文物を輸入して近代国家への発展を急ぎ、法治国家としての体制を整えるため諸般の法律を制定したが、それらとともに、法律についての国民大衆に対する教育の必要性を痛感してきた。

当時、大阪で言論活動を展開していた自由民権運動の活動家吉田一士は時代の要請を敏感に読み取り、時の大阪控訴院長（のち大審院長）児島惟謙らの後援を得て、小倉久、鶴見守義らとともに、井上操、志方鍛、手塚太郎らの若い司法官たちに働きかけ、関西法律学校を大阪に開いた。これがわが関西大学の前身であり、関西における最初の法律学校であった。創立者たちは、「法律は市民のものであり、市民は法律によってみずからを守るべきである」と教えた。そこに正義と自由を愛するわれわれの学風が生まれたのである。

学歌

服部嘉香　作詞
山田耕筰　作曲

自然の秀麗　人の親和
たぐいなき　此(こ)の学園
我等立つ　人生の曙に
燦(さん)たる理想　仰ぎつつ
学ぶは一途(いちず)　純正の
若き心に　讃(たた)えなん

関西大学　関西大学
関西大学　長き歴史

校章のいわれ

関西大学の校章は、「大学」の二字を葦の葉で囲んだものです。

大阪を貫流する淀川の絶えぬ流れに、風雨に耐えて根強く生い繁っている葦の葉は、1886(明治19)年なにわの地に関西法律学校として創立され、年とともに発展してきた本学の質実剛健の気風を表したものであると伝えられています。

HANDBOOK 2023

―大学要覧―

（千里山キャンパス）

本冊子はインフォメーションシステムのメニュー
「大学要覧」からも閲覧することができます。

関西大学

目　　次

はじめに

各種対応窓口について …… 1
教務センター …… 6
授業支援ステーション …… 7
学生相談・支援センター（障がいのある学生に対する修学支援窓口） …… 8
自然災害発生時の休講等の取り扱いについて …… 9
住所等変更の届出について …… 10
大学からの連絡について …… 11
インフォメーションシステムについて …… 11

第１章　学習をすすめるにあたって

学　籍

学生証・学籍上の氏名・学籍番号 …… 15
学費 …… 17
休学・復学 …… 18
退学・再入学 …… 19
除籍・復籍 …… 19
在学期間との関連 …… 19

教育課程

教育に関する三つの方針 …… 20
単位について …… 21
学期（セメスター）と授業について …… 21
授業科目の選択と履修登録について …… 23
試験と成績について …… 24
法学部 …… 29
文学部 …… 49
経済学部 …… 83
商学部 …… 103
社会学部 …… 127
政策創造学部 …… 155
外国語学部 …… 177
システム理工学部 …… 199
環境都市工学部 …… 227
化学生命工学部 …… 251
共通教養科目について …… 272
健康・スポーツ科目群の履修について …… 276
外国語検定試験の単位認定について …… 277
各種資格取得課程について …… 279

第 2 章　学生生活いろいろ

コラム―学生生活のルールと危機管理 …… 286

定期券・学割証など

通学定期券・学割証など …… 287

教育環境

総合図書館 …… 289
インフォメーションテクノロジーセンター（ITセンター） …… 293
ライティングラボ …… 294
コラボレーションコモンズ …… 295
国際部 …… 296
博物館 …… 297
保健管理センター …… 298
誠之館 …… 300
KUシンフォニーホール …… 301
総合学生会館（メディアパーク凜風館） …… 301
体育施設 …… 301
各種セミナーハウス …… 304

経済援助

奨学金について …… 306
アルバイトについて …… 309
学生寮について …… 310
下宿について …… 311
学生教育研究災害傷害保険について …… 312
生活協同組合 …… 313

学生生活の充実

学生相談について …… 314
留学について …… 316
エクステンション・リードセンター …… 317
キャリアセンターの就職・進路選択に関するサポート …… 318
教職支援センター …… 322
公認会計士試験受験の支援について …… 323
大学院への進学について …… 324
編入学・転入学について …… 326
課外活動について …… 327
学生諸団体一覧表 …… 328
ボランティアセンター …… 330
梅田キャンパス …… 331
東京センター …… 332
学会案内 …… 333

第 3 章　関西大学の組織・研究機関など

関西大学概要
関西大学の沿革 …… 337
関西大学年表 …… 338
事務組織図 …… 339
大学の組織の概略 …… 340
研究機関の紹介
社会連携部 …… 341
先端科学技術推進機構 …… 342
東西学術研究所 …… 342
経済・政治研究所 …… 343
法学研究所 …… 343
人権問題研究室 …… 344
ソシオネットワーク戦略研究機構 …… 344
大学関係諸団体の紹介
教育後援会 …… 345
校友会 …… 347
学則及び諸規程 …… 349
学歌 …… 383
キャンパス位置図 …… 391

千里山キャンパス学舎配置図 …… 392
千里山キャンパスマップ
堺キャンパスマップ
高槻キャンパスマップ
高槻ミューズキャンパスマップ
梅田キャンパスマップ

各種対応窓口について

□各種届け出・願い出

問合せ事項	対応窓口等	注意点等	参照頁
履修登録するとき	Ｗｅｂ で　登　録	年度始めに各自で登録します。 ただし、履修変更期間内であれば一定の条件のもと変更することができます。 新入生についてはオリエンテーション期間にWeb履修登録説明会を実施します。	23
インフォメーションシステムのID・パスワードを忘れたとき	IT　セ　ン　タ　ー　４Ｆ	パスワードの再発行には、学生証が必要です。	12
演習科目を受講したい	教　務　セ　ン　タ　ー	申込方法は各学部で異なるので注意してください。	29 〜 276
定員制科目を受講したい		新入生については４月に受付を行います。 ２年次生以上は３月に受付を行います。 ※履修登録前の指定した日に所定の受講申し込みをしないと履修できません。	
健康・スポーツ科学実習等を受講したい			
学費に関する問い合わせ	出　納　課　分　室	―	17
追試験を受験するとき	教　務　セ　ン　タ　ー	インフォメーションシステムにログイン後、「試験システム」をクリックして、追試験の手続き方法について確認してください。	25
住所・電話番号・氏名・保証人等が変わったとき		異動届を提出してください。	10
休学・復学・退学・再入学・復籍 するとき		所定の用紙を提出し、願い出てください。	18 〜 19
学内でケガをした	教　務　セ　ン　タ　ー 学　生　セ　ン　タ　ー 学生生活支援グループ スポーツ振興グループ	学生教育研究災害傷害保険に加入しています。 窓口へ問い合わせてください。	312
遺失物・拾得物・盗難について	学　生　セ　ン　タ　ー 学生生活支援グループ 教　務　セ　ン　タ　ー 授業支援ステーション	窓口へ届け出てください。 持ち主がわかる拾得物は電話・インフォメーションシステムの「個人伝言」等でお知らせします。	286

□各種相談

☆修学に関して

問合せ事項	対応窓口等	注意点等	参照頁
学習面で相談したい	教務センター	随時窓口で相談に応じます。	314
転学部したい		詳細については窓口へ問い合わせてください。	326
自然災害発生時の休講等の取り扱いについて		「休講等の取り扱い」についてを確認してください。不明な点があれば問い合わせてください。	9
障がいがあり修学支援を受けたい（障がいのある学生の支援をしたい）	学生相談・支援センター	詳細については窓口へ問い合わせてください。	8

☆経済上の相談

問合せ事項	対応窓口等	注意点等	参照頁
学費を延納・分納したい	出納課分室	―	17
各種奨学金を受けたい	学生センター 奨学支援グループ	毎年2月及び7月（予定）に主な奨学金制度の募集案内を開始します。	306
一時的にお金が必要になった		緊急・応急奨学金制度や短期貸付金制度がありますので、窓口へ問い合わせてください。	
アルバイトを紹介してほしい	学生センター 学生生活支援グループ	インターネットを通じて紹介しています。	309
下宿を紹介してほしい	関西大学生活協同組合	希望者は直接相談に行ってください。 関西大学生活協同組合：凜風館3階	311

☆学生生活について

問合せ事項	対応窓口等	注意点等	参照頁
不安や悩みがあるとき	教務センター 学部学生相談室 学生センター 大学学生相談室 学生相談・支援センター 心理相談室 ハラスメント相談室	随時相談に応じます。	314
健康上の悩みがあるとき	保健管理センター	随時相談に応じます。	298
課外活動に関すること	学生センター 学生生活支援グループ スポーツ振興グループ ボランティア活動支援グループ	詳細については窓口へ問い合わせてください。	327
留学や語学研修についての情報がほしい	国際部	詳細については窓口へ問い合わせてください。	296 316

☆将来へ向けて（就職等）

問合せ事項	対応窓口等	注意点等	参照頁
各種資格課程を受講したい	教職支援センター	希望者には窓口で説明します。	279
各種資格講座を受講したい	エクステンション・リードセンター	随時窓口で相談に応じます。	317
公認会計士の勉強をしたい	経商オフィス	希望者には窓口で説明します。	323
就職活動を含め、将来について相談したい	キャリアセンター	１年次生から、随時相談に応じます。	318

□施設利用に関すること

問合せ事項	対応窓口等	注意点等	参照頁
図書館を利用したい	総合図書館	学生証が必要です。	289
インフォメーションテクノロジーセンター（ITセンター）を利用したい	ITセンター	学生証が必要です。	293
誠之館等の課外活動施設を利用したい	学生センター 学生生活支援グループ スポーツ振興グループ	詳細については各窓口へ問い合わせてください。	300
体育諸施設を利用したい	学生センター スポーツ振興グループ		301
飛鳥文化研究所・植田記念館を利用したい	教育後援会		304
100周年記念セミナーハウス・高岳館を利用したい	教育後援会 学生センター 学生生活支援グループ スポーツ振興グループ		304
彦根荘を利用したい	教育後援会		304
白馬栂池高原ロッジを利用したい			304
六甲山荘を利用したい			304

□各種証明書の発行

問合せ事項	対応窓口等	注意点等	参照頁
各種証明書がほしい	教職支援センター	※在学証明書 ※成績証明書 ※卒業見込証明書 単位修得証明書 教員免許状取得 見込証明書 卒業証明書　手数料１通100円 調査書　手数料１通300円	—
外国文証明書がほしい		外国文卒業証明書　手数料１通300円 外国文成績証明書　手数料１通300円 外国文証明書　手数料１通300円	
学割証がほしい		後掲の自動発行機にて、年度ごとに１人20枚まで発行できます。	287
通学証明書がほしい	教務センター	窓口で随時発行します。	
団体旅行証明書がほしい	教職支援センター 学生センター 学生生活支援グループ スポーツ振興グループ	詳細については窓口へ問い合わせてください。	288
学生証を再交付してほしい	教務センター	学生証再交付願を提出してください。 なお、手数料900円（学生証700円、在籍確認票200円）が必要です。	15
健康診断証明書がほしい	保健管理センター	※本学所定の健康診断証明書　手数料１通　200円 本学所定用紙以外の証明書　手数料１通　500円 外国文証明書　手数料１通1,000円	298
帽章・襟章がほしい	学生センター 学生生活支援グループ	帽章60円・襟章40円で販売しています。	—

証明書・学割証自動発行サービスについて

千里山、高槻、高槻ミューズ及び堺各キャンパスには証明書自動発行機が設置されており、即日発行ができます。自動発行機で発行できる証明書等は、上記表中に記載されている※印のものに限ります。

なお、健康診断証明書については、卒業見込者に限ります。

各キャンパスの証明書自動発行機の設置場所・取扱い時間は、次のとおりです。

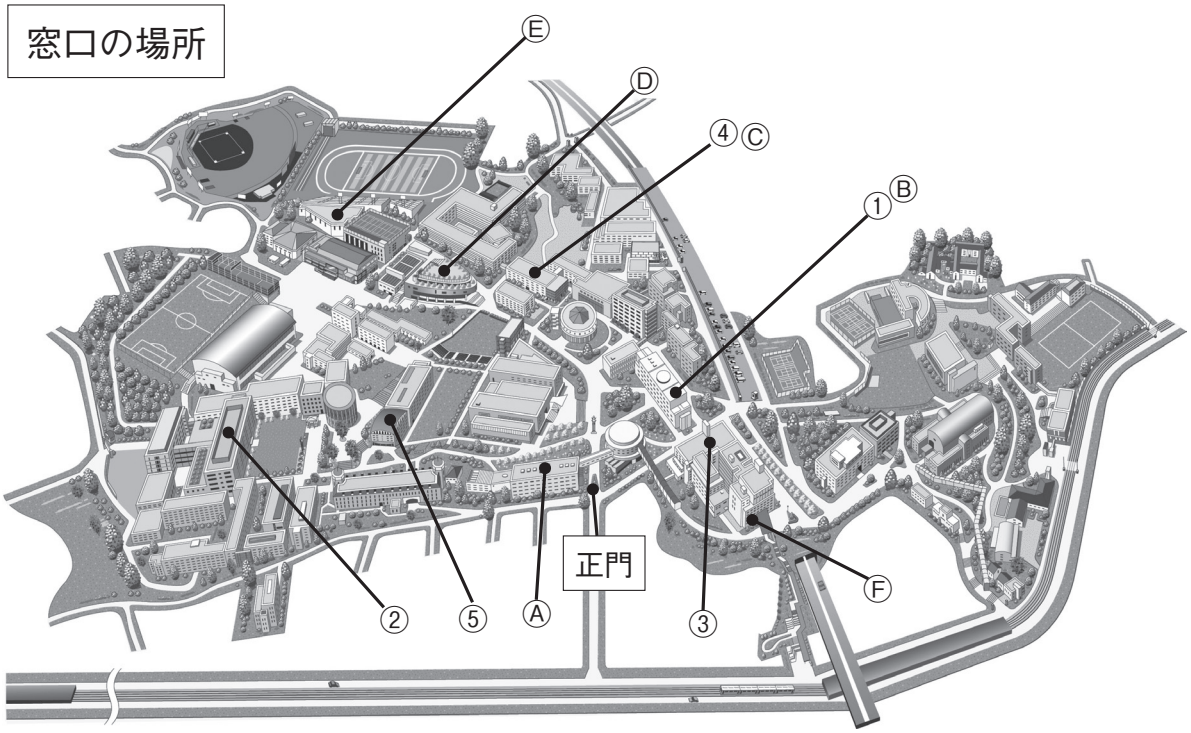
キャンパス	設置場所		取扱い時間
千里山キャンパス	第２学舎１号館１階	ホール	月～金：９時～18時30分 土　：９時～17時
高槻キャンパス	A棟１階	総合情報学部オフィス横	月～金：９時～20時 土　：９時～17時
高槻ミューズキャンパス	西館(大学・大学院学舎棟) ２階	ミューズオフィス横	月～金：９時～20時 土　：９時～17時
堺キャンパス	A棟１階	堺キャンパス事務室横	月～金：９時～18時30分 土　：９時～17時
梅田キャンパス	５階	キャリアセンター 梅田オフィス内	月～金：10時～18時 ※時期によっては土曜日開室有

※　休業期間中等で、取扱い時間が変わることがありますので、インフォメーションシステムで確認してください。

（各窓口の場所は巻末のキャンパスマップで確かめてください）

〈教務関係窓口〉

	教務センター	教職支援センター	授業支援ステーション	学生相談・支援センター
履修や学習面の相談	●			
不安や悩みについての相談				●
住所・氏名・通学区間等が変わったとき	●			
休学・復学・退学・再入学・復籍するとき	●			
平常レポートの提出			●	
拾得物			●	
自動発行機で発行できない証明書が必要なとき		●		
学生証・在籍確認票の再交付	●			
障がいのある学生に対する修学支援				●
教職課程等各種資格		●		



① 第２学舎１号館１階
・教務センター（全学部、大学院）
・授業支援ステーション
・教職支援センター（証明書発行窓口含む）

② 第１学舎１号館１階
・授業支援ステーション

③ 第３学舎１号館１階
・授業支援ステーション

④ 第４学舎１号館１階
・授業支援ステーション

⑤ 尚文館３階（大学院）
・授業支援ステーション

Ⓐ 新関西大学会館北棟
１階　学生相談・支援センター
３階　キャリアセンター
４階　保健管理センター、心理相談室

Ⓑ 第２学舎１号館２階　国際部

Ⓒ 第４学舎１号館２階
キャリアセンター理工系事務室

Ⓓ 凜風館１階　学生センター
（学生生活支援グループ、
奨学支援グループ、
ボランティア活動支援グループ）

Ⓔ 新凱風館１階　学生センター
（スポーツ振興グループ）

Ⓕ 第３学舎３号館２階
エクステンション・リードセンター事務室

教務センター

教務センターでは、修学上必要な諸手続や履修・成績に関する相談等のいわゆる教育支援について、全学部一元でサービスを行っています。

後掲の「第１章　学習をすすめるにあたって」を熟読し、卒業要件を満たすために、自主的に履修計画を立てなければなりません。その上で必要となる諸手続や質問・確認事項がある場合には、第２学舎１号館１階にある教務センターまで来てください。

教務センターでの具体的な業務は次のとおりです。

〈履修関係〉
- 授業科目の履修や学習面の相談
- 演習や外国語科目の履修申込み

〈試験・成績関係〉
- 試験や成績に関する相談
- 各種単位認定の申請

〈学籍関係〉
- 休学や復学などの学籍に関する相談及び手続

〈庶務〉
- 住所、電話番号、氏名などの変更手続
- 学生証、在籍確認票の再発行手続

その他、修学上の相談や諸手続に関すること

※〈資格関係〉及び〈証明書〉については、教職支援センター（P322）が窓口です。

〈資格関係〉
- 教員免許等の資格取得に関する相談

〈証明書〉
- 証明書発行に関する手続

開室時間は原則として以下の通りです。
月曜日～金曜日　　9：00～18：30
土曜日　　9：00～17：00
※試験期間中、夏季・冬季休業中の扱いについては
別途インフォメーションシステムでお知らせします。

授業支援ステーション

開室時間は原則として以下のとおりです。
【第１学舎、第２学舎、第３学舎、第４学舎ステーション】
月曜日～金曜日　　８：30～18：00(第２学舎のみ　～20：00)
土曜日　　８：30～18：00(第３学舎のみ　～16：30)
※試験期間中、夏季・冬季休業中の扱いについては別途インフォメーションシステムでお知らせします。

授業を受講するにあたってのさまざまな相談対応など、幅広く授業受講に係わるサポートを行う「授業支援ステーション」が各学舎にあります。授業支援ステーションは本学の教育・授業の質的向上を目的として設置され、学生への支援サービスのほか、教員への授業運営支援も行っています。

受講上で困ったこと、わからないことがあれば、まず授業支援ステーションに来てください。授業支援SA（スチューデントアシスタント）と呼ばれる学生スタッフと事務職員が応対します。

授業支援ステーションでの具体的な業務は次のとおりです。

○平常レポートの受付

授業支援ステーションに設置している「平常レポート提出ボックス」にて提出を受け付けています（ただし論文試験提出日や大学入学共通テスト・大学入学試験期間（試験日前日を含む)、授業支援ステーション閉室日は平常レポートの提出はできません)。

○欠席届の発行

授業をやむを得ない理由で欠席した場合は、授業を欠席した日から10日以内であれば、「欠席届」を当該科目の授業担任者に提出することができます（要証明書)。ただし、欠席に対する取扱い、配慮の有無についてはすべて授業担任者に委ねられています。

また、長期（２週間以上）の欠席が予めわかっている場合は、授業支援ステーションに相談してください。

○拾得物の取扱

各学舎授業支援ステーションに届出後、２週間保管します。その後は、落とし物コーナーにて３ヶ月間保管します。

○インフォメーションシステム等の操作相談

○演習（ゼミナール）の発表用資料の印刷（理工系学部を除く）

担当教員の指示により自己の研究成果発表のため、他の受講生にレジュメを配付する必要がある場合、各学舎授業支援ステーションのコピー機を利用することができます（一人あたり片面原稿５枚まで)。

その他、授業を受講するにあたってのさまざまな相談に関することに対応します。

学生相談・支援センター
（障がいのある学生に対する修学支援窓口）

学生相談・支援センター（以下、「センター」）は、訪れた学生の相談内容に応じて専門部局へのコーディネートを行う『総合相談窓口』と、『障がいのある学生に対する修学支援窓口』の２つの機能を持っています。

『総合相談窓口』

センターは千里山キャンパスの正門（新関西大学会館北棟１階）にあり、立ち寄りやすいことから道案内（教室や、手続きの場所などを案内）を行うことも多々ありますが、例えば「履修方法がわからない」と訪ねてきた学生が本当に相談したかったことは別にあり、センターに相談することにより、本当の困りごとが出てくることがよくあります。本学では様々な部署が学生支援を行っており、相談内容に応じて教務センター、授業支援ステーション、学部オフィス、各キャンパスオフィス、学生センター、キャリアセンター、国際部、保健管理センターなどの専門部局をご案内しています。学生生活のなかで「どこに相談に行けばいいのかな？」ということがあれば、センターを訪ねてください。

また、カウンセリングを希望しているにもかかわらず、一人で心理相談室を訪れることに抵抗を感じるような学生には、心理相談室のカウンセラーへの橋渡しも行っています。

『障がいのある学生に対する修学支援窓口』

障がいのある学生が、他の学生と分け隔てられることなく修学できるように、センターは障がいのある学生に対する全学的な修学支援の窓口としての役割を担っています。障がい学生支援コーディネーターを配置し、各学部をはじめとする学内外の関係機関と連携しながら障がいのある学生に対する組織的なサポートを行っています。また、障がいのある学生に対するパソコンテイク、ノートテイク、点訳などの支援活動は、研修を受講した学生支援スタッフによって行われています。主な支援内容は、以下のとおりです。

〈障がいの種別〉……〈支援内容〉
○共通の支援……個別相談、学内設備の改善相談等
○聴覚障がい……ノートテイク、パソコンテイク、字幕付け、文字起こし等
○視覚障がい……教材のテキストデータ化、教材の点訳、対面朗読、授業への同席、支援機器の利用等
○肢体不自由……車両の入構及び駐車許可、休憩室の利用、授業教室の調整、ノート作成補助（代筆）等
○病弱・虚弱……受講時の配慮（着席位置の指定、途中退席許可）等
○神経発達症／神経発達障がい（発達障がい）及び精神障がい
……障がいの状況に応じて個別に対応

※性別に違和感を感じている学生への修学上の配慮
個別に対応（本学では、学生相談・支援センターが窓口となり、関係部署と連携して、本人の困りごとの申し出に応じて修学上の配慮を行っています。）

心理相談を希望される場合は、心理相談室を紹介しています。

心理相談室

心理相談室では、学生やその家族、教職員あるいは卒業生を対象に心理相談を受け付けています。例えば、気力がわかない、不安になる、友達ができない、自分について考えてみたいなど、日々の生活を送るなかで直面する様々な悩みについて、カウンセラー（公認心理師・臨床心理士など）がお話をうかがいます。ご予約や詳細については、心理相談室にお問い合わせください。

自然災害発生時の休講等の取り扱いについて

自然災害が発生した際の休講等（授業（遠隔授業を含む。以下同じ。）の休講、キャンパス内の入構禁止措置、授業時間の短縮及び定期試験の延期措置を含む）の取り扱いについては、下記のとおりとします。

なお、授業時間中に自然災害が発生した際は、授業を中止し、授業時間を短縮します。

※「自然災害」とは、各キャンパスの所在地域に深刻な被害を生じさせる地震、津波、暴風、豪雨、洪水、大雪等に起因する災害をいいます。

記

1　休講等の基準は、次のとおりとします。

⑴　地震・津波等

ア　大阪都市圏に震度５強以上の地震が発生し、大きな被害が発生することが懸念されるとき。

イ　大阪都市圏に大津波警報が発表され、津波による被害の発生が懸念されるとき。

ウ　その他地震・津波等によりキャンパス内の施設等に授業の継続が困難な被害が発生したとき。

⑵　大雨・暴風等

ア　大阪府に大雨、暴風、暴風雪、大雪のいずれかの特別警報が発表されたとき。

イ　大阪府内の市町村のいずれかに暴風警報が発表されたとき。

ウ　気象庁の予報等により、翌日の未明から夕刻までに大阪府に大規模な台風や豪雨などの来襲が予測されるとき。

⑶　その他

ア　自然災害により別表１に定める各キャンパスにおけるいずれかの鉄道路線（区間）等について、鉄道会社が自然災害による運行停止又は計画運休の実施を公表したとき。

イ　大阪市長、吹田市長、高槻市長又は堺市長のいずれかが、各キャンパス所在地を含む地域の居住者に対して避難を指示したとき。

2　休講等の取り扱いは、次のとおりとします。

警報等の発令及び鉄道路線（区間）等の運行停止又は計画運休に係る必要な措置は、次の表のとおりとします。

警報等の発令及び交通機関の運行状況	措　置
６時までに解除・運行再開	平常どおり
10時までに解除・運行再開	第３時限から授業
13時までに解除・運行再開	第６時限から授業
13時をすぎて解除・運行再開	休　　講

・該当交通機関での事故等による一時的な運転の見合わせの際は、休講等としません。

・梅田キャンパスについては、特別な状況に応じて休講等を行うことがあります。

3　休講等の周知については、次のとおりとします。

休講等の周知及び授業再開の周知は、関西大学ホームページ等を通じて速やかに行うものとします。また、次のいずれかに該当する場合は、前日のうちに休講等を周知します。

⑴　気象庁の予報等によって、大阪府に翌日の未明から夕刻までに、大規模な台風や豪雨などの来襲が予測される場合、前日の22時までを目処に周知します。

⑵　鉄道会社が別表１に定める鉄道路線（区間）について翌日以降の計画運休の実施を公表した場合、前日の22時までを目処に周知します。

4　上記にかかわらず、授業の休講等の取り扱いは別途関西大学ホームページ等でお知らせします。

5　自然災害による休講等の措置が行われない場合において、通学経路上の公共交通機関の運休等や居住地で自然災害が発生したために授業に出席できないときは、当該交通機関発行の証明書を添え、又は特別警報等が発表されたことを欠席届発行窓口に申し出ることで「欠席届」の発行手続きが可能です。

以　上

別表１　鉄道路線（区間）等

千里山キャンパス ※南千里国際プラザを含む	・JR東海道本線（京都駅～神戸駅） ・阪急千里線（天神橋筋六丁目～北千里駅）、京都線（十三駅～京都河原町駅）、神戸線（大阪梅田駅～神戸三宮駅）
高槻キャンパス	・高槻市営バス（JR高槻駅北～関西大学、JR富田駅～関西大学） ・JR東海道本線（京都駅～神戸駅） ・阪急京都線（十三駅～京都河原町駅）、神戸線（大阪梅田駅～神戸三宮駅）
高槻ミューズキャンパス	・JR東海道本線（京都駅～神戸駅） ・阪急京都線（十三駅～京都河原町駅）、神戸線（大阪梅田駅～神戸三宮駅）
堺キャンパス	・南海高野線（難波駅～堺東駅） ・大阪メトロ堺筋線（天神橋筋六丁目駅～天下茶屋駅） ・阪急千里線（天神橋筋六丁目駅～関大前駅）
梅田キャンパス	・JR東海道本線（京都駅～神戸駅） ・阪急千里線（天神橋筋六丁目駅～北千里駅）、京都線（十三駅～京都河原町駅）、神戸線（大阪梅田駅～神戸三宮駅） ・大阪メトロ堺筋線（天神橋筋六丁目駅～天下茶屋駅）、御堂筋線（新大阪駅～天王寺駅）

住所等変更の届出について

異動の届け出

次の事項に変更があった時は、直ちに「異動届」（窓口備付）を次の窓口へ提出してください。「異動届」を提出しない場合、大学からの郵便物等が届かなくなりますので、提出忘れが無いよう注意してください。

なお、氏名等については、住民票又は在留カード（又はパスポート）に基づき、丁寧に記入してください。

○本人の住所・電話番号（携帯電話を変更した場合も届出してください。）
○本人の通学区間
○本人の氏名（氏名変更を証明する書類の提示が必要）
○本人の本籍地
○保証人の住所・電話番号
○保証人の氏名

学　部	窓　口
下記以外の学部	千里山キャンパス 教務センター
総合情報学部	総合情報学部オフィス
社会安全学部	ミューズオフィス
人間健康学部	堺キャンパス事務室

大学からの連絡について

大学からの諸連絡はインフォメーションシステムを、個別の授業に関するお知らせは関大LMS等を通じて行います。常に、発信される情報に注意し内容を確認してください。

大地震や風水害等の大規模事故災害が発生した場合、学校保健安全法が定める第１種及び第２種感染症が集団発生した場合、その他危機管理マニュアルに定める危機レベルⅢに相当する事象が発生した場合、インフォメーションシステムを通じて、情報提供や安否確認等のため連絡を行います。

インフォメーションシステムや関大LMS等にアクセスするためには、利用者IDとパスワードが必要となります。入学時に配付するパスワード通知書を参照してください。

また、連絡内容によっては、学内の掲示板に掲示するものもありますので、併せて確認するようにしてください。

インフォメーションシステムについて

詳細は『KANSAI University Information System & 関大LMS操作マニュアル〔学生用〕』を参照してください。

インフォメーションシステム

大学生活に関わるあらゆる情報を、手軽にタイムリーに入手できるポータルサイトです。

大学が発信するお知らせや各種学内サービスへのリンク集など欲しい情報をすぐに見つけることができ、大学生活をより身近に感じることができます。

WEB版とスマートフォンアプリ「関大ポータル」があります。

トップページ（ホーム画面）

トップページは大学からの諸連絡（お知らせ、個人伝言、休講・補講情報など）をはじめ、あらゆる新着情報が一覧で確認できます。あなたにとって重要な情報が多数発信されますので、必ず１日１回ログインし、内容を確認してください。

メインメニューの「教務情報」には、授業に関係するシラバスシステムや履修登録システム、学習支援システムのリンクがあります。

トップページの情報はスマートフォンからでも確認することができます。

シラバスシステム

授業科目の開講曜日・時限、担任者情報、授業概要（到達目標含む）、授業計画、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等の総合的なシラバス（講義要項）情報が閲覧できます。

検索方法には、カリキュラム検索、科目検索、教員検索、授業目的・概要などのキーワード検索があります。

履修登録システム（WEB履修）

インターネットがつながる環境であれば、学内外を問わず、場所の制約を受けることなく、登録期間中は自由に履修の登録手続ができ、シラバスシステムを閲覧しながら、各自の学修プランに応じた授業科目を選択することができます。あわせて、抽選システムから抽選を行う科目の申し込みや抽選結果を確認することができます。抽選対象となる科目の詳細は「お知らせ」などを参照してください。また、抽選システムはインフォメーションシステムのWEB版のみアクセスが可能です。

学習支援システム（関大LMS等）

個別の授業に関するお知らせ、予習・復習、課題レポート、各種テスト、授業に関する質問受付・回答などの授業を補完できるシステムです。

なお、授業に関するお知らせが掲出されますので、授業期間中は毎日確認してください。

利用方法について

【パソコン】

1　関西大学ホームページ（www.kansai-u.ac.jp）トップページより「メニュー」⇒「学生・教職員専用」⇒「インフォメーションシステム」をクリックしてください。
2　ログイン画面から利用者IDとパスワードを入力してください。
3　ログイン後、トップページが表示されますので、必要な項目を選び、閲覧してください。

【スマートフォン】

1　iOS、Androidの各アプリストアで「関大ポータル」を検索し、アプリをインストールしてください。
※「関大ポータル」は関西大学が提供するスマートフォン用公式アプリです。本学と関係のない業者により開発された類似のアプリは使用しないでください。
2　アプリを開き、エンドユーザライセンスをお読みください。
3　ログイン画面から利用者IDとパスワードを入力してください。
4　ログイン後、お知らせ、個人伝言、学年暦、時間割などが閲覧できます。

利用者IDとパスワードについて

利用者IDと初期パスワードは、入学時にお知らせします。

利用者ID・パスワードの詳細は、次のITセンターホームページをご覧ください。

www.itc.kansai-u.ac.jp/services/idpw.html

なお、パスワードを忘れたときは、学生証を持参のうえ、次の窓口にて再設定の手続きを行ってください。

キャンパス	窓　口
千里山	ITセンター 4階
高槻	総合情報学部オフィス
高槻ミューズ	ミューズオフィス
堺	堺PCルーム受付

第１章　学習をすすめるにあたって

学生証・学籍上の氏名・学籍番号

学生証・在籍確認票について

学生証・在籍確認票は、本学の学生であることを証明するとともに、近郊主要交通機関に対する「通学証明書」の役割も果たしています。また、図書館等の施設の利用に際しても必要となります。したがって、学生生活を送るうえで重要なものですから、大切に取り扱ってください。

学生証・在籍確認票はセットで常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。

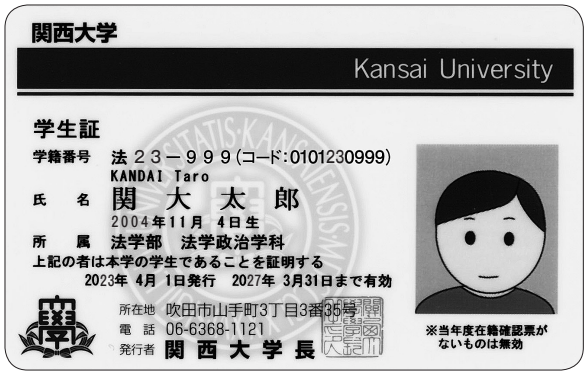
1　定期試験・「到達度の確認（筆記による学力確認）」を受験する場合
2　本学教職員の請求があった場合（夜間に警備員の請求があった場合を含む）
3　各種証明書及び学割証の交付を受ける場合
4　通学定期券又は学生割引乗車券を購入の際、及びそれを利用して乗車乗船し係員の請求があった場合

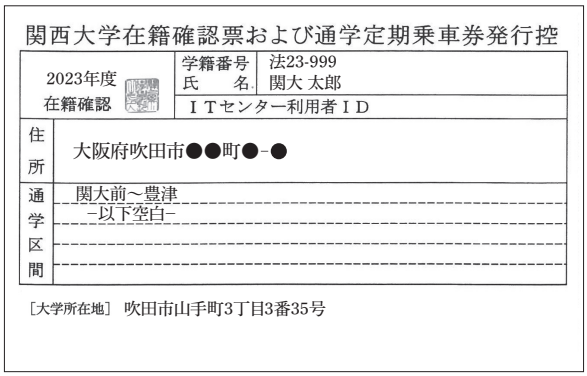
学生証は、新入生指導行事期間中に交付され、４年間有効です（入学後５年目以降は、所管部署窓口での交換となります）。

在籍確認票は、入学時（１年目）に学生証とともに交付され、１年間（４月１日～３月31日）有効で、２年目～４年目は毎年３月下旬、大学に届出の本人住所宛に送付します（入学後５年目以降は、所管部署窓口での交換となります）。

学生証・在籍確認票は他人に貸与したり、譲渡することはできません。また、紛失したり汚損したりしたときは、直ちに次の窓口へ手数料を添えて再交付願（用紙は窓口備付）を提出し、再交付を受けてください。

学　部	窓　口
下記以外の学部	千里山キャンパス 教務センター
総合情報学部	総合情報学部オフィス
社会安全学部	ミューズオフィス
人間健康学部	堺キャンパス事務室





※「コード」は「学籍番号コード」の略称です。

学籍上の氏名について

学籍上の氏名は、入学手続時に本人が届け出たもの（住民票又は在留カード、パスポートに記載された氏名）としています。

なお、漢字はJIS第１水準・第２水準までとし、入学手続時に確認のとおり、JIS第１水準及び第２水準以外の文字は代替の文字（カタカナを含む）に変換し、登録しています。

また、外国人留学生の氏名については、原則として全てカタカナ表記としています。ただし、漢字表記を希望する者については、所定の手続きを行うことで漢字表記とすることも可能です。この場合も漢字はJIS第１水準・第２水準までとします。

英語表記については、ヘボン式ローマ字（外国人留学生は「パスポート記載の英字表記」）にて、姓・ファミリーネーム（大文字）→名・ファーストネーム（頭文字は大文字、２文字目から小文字）の順となります（例：KANDAI Taro）。

外国人留学生等でミドルネームのある場合は、ファミリーネーム（大文字）→ファーストネーム（頭文字は大文字、２文字目から小文字）→ミドルネーム（頭文字は大文字、２文字目から小文字）の順となります（例：KANDAI Taro Middle）。

学生証、証明書など本学が交付する書類等は、学籍上の氏名に基づき取り扱います。

ただし、学位記（卒業証書）については、所定の手続きを行うことで、住民票又は在留カード、パスポート、英語表記についてはパスポートに基づいた氏名表記で交付します。

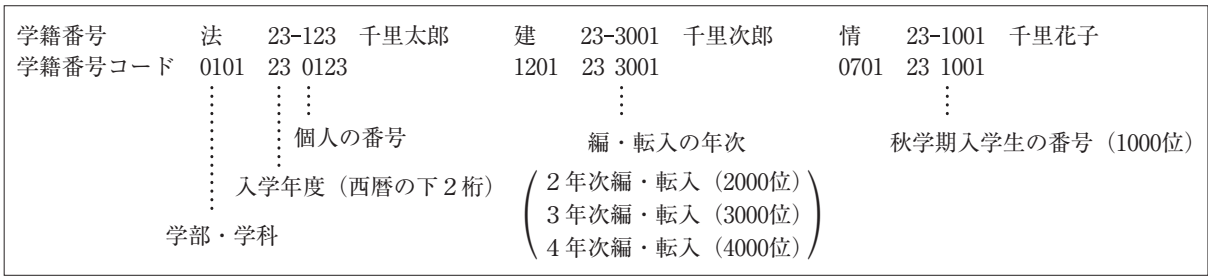
学籍番号について

入学と同時に、学生に学籍番号が与えられます。この番号は学生ごとに異なり、在学中はもとより、卒業後も変わらない本人固有の番号です。在学中の学内におけるすべての事務手続は、この学籍番号によって行われますので、正確に記憶し省略せずに記入するようにしてください。

※学籍番号コードについて

学籍番号コードは、学籍番号をコード化したものです。コードは、学部・学科を表す４桁、年度を表す２桁、個人の番号を表す４桁で構成されています。

学籍番号のしくみは次のとおりです。



学籍番号コード一覧表

学部名	学科名	学籍番号の学科表記	学部・学科コード
法学部	法学政治学科	法	01 01
文学部	総合人文学科	文	02 01
経済学部	経済学科	経	03 01
商学部	商学科	商	04 01
社会学部	社会学科	社	05 01
総合情報学部	総合情報学科	情	07 01
政策創造学部	政策学科	政策	08 01
	国際アジア学科	国際	08 02
外国語学部	外国語学科	外	14 01
人間健康学部	人間健康学科	人	15 01
社会安全学部	安全マネジメント学科	安全	16 01
システム理工学部	数学科	数	11 01
	物理・応用物理学科	物	11 02
	機械工学科	機	11 03
	電気電子情報工学科	電	11 04
環境都市工学部	建築学科	建	12 01
	都市システム工学科	都	12 02
	エネルギー環境・化学工学科	エ	12 03
化学生命工学部	化学・物質工学科	化	13 01
	生命・生物工学科	生	13 02

学　　費

納入期日・方法

〈納入期日〉※入学初学期を除く

・春学期分 ――― 5 月31日	・秋学期分 ――― 10月31日

〈納入方法〉

原則、学期ごとに、口座振替による納入となります。

口座振替の具体的な手続方法については、関西大学ホームページの学費・諸費のページをご覧ください。

〈注意事項〉

1　一旦納入された学費は、返還いたしません。

2　休学の場合は、休学在籍料を徴収いたします。詳細については、「休学・復学」（P.18）をご覧ください。

3　学費（休学在籍料を含む）を納入しなかった場合は、除籍となります。詳細については、「除籍・復籍」（P.19）をご覧ください。

延納・分納制度

〈延納制度〉

学費の納入期日が、次のとおり 1 か月延長される制度です。

・春学期分 ――― 6 月30日	・秋学期分 ――― 11月30日

〈分納制度〉

学費を春学期 2 回・秋学期 2 回に分けて納入できる制度です。1 回目の期日までに納入がない場合は、当該学期の分納が取り消されます。

・春学期分 ―――	第 1 回期日：5 月31日	第 2 回期日：6 月30日
・秋学期分 ―――	第 1 回期日：10月31日	第 2 回期日：11月30日

〈手続期間〉

・春学期 ――― 4 月20日～ 4 月30日	・秋学期 ――― 9 月1日～ 9 月24日

※春学期分の手続期間に、秋学期分も併せて申し込むことができます。

〈手続方法〉

インフォメーションシステムの「申請・アンケート」から申請してください。延納と分納の併用はできません。延納と分納を同時に申請された場合、分納として取り扱います。

※休学在籍料には延納・分納制度はありません。

休学・復学

休学

病気その他やむを得ない理由で、就学できないときは休学することができます。

休学を希望するときは「休学願」（窓口備付）を次の窓口を通じて学部長に提出し、許可を得なければなりません。健康上の理由や、兵役による休学の場合は、医師の診断書や証明書が必要です。

手続期間及び学費については、下記の表を参照してください。

なお、休学できる期間は当該学期末（9月20日又は3月31日）までとなっています。したがって引き続き休学を翌学期に延長するときは、休学期間中の所定期間内に手続きが必要です。この手続きを行わなかったときは、休学中の学期末をもって退学となりますので、特に注意してください。

休学できる期間は、通算して4学期以内となっています。

また、在学期間に算入されない学期が通算して4学期を超えるときは、休学を許可しません。

学　部	窓　口
下記以外の学部	千里山キャンパス 教務センター
総合情報学部	総合情報学部オフィス
社会安全学部	ミューズオフィス
人間健康学部	堺キャンパス事務室

復学

休学を許可されていた者が翌学期に復学を希望するときは、「復学願」（窓口備付）を所定期間内に上記窓口を通じて学部長に提出し、許可を得る必要があります。休学者が復学手続を行わなかった場合は、休学中の学期末をもって退学となりますので、特に注意してください。

健康上の理由により休学していたときは、医師の診断書をあわせて提出してください。

手続期間と学費

休学（初めての場合）

手続期間		所定の学費
春学期	秋学期	
5／31まで	10／31まで	休学在籍料（60,000円）
6／1～7／30	11／1～1／30	当該学期の学費

休学（継続する場合）

手続期間		所定の学費
春学期	秋学期	
3／1～3／14	8／28～9／10	休学在籍料（60,000円）

復学

手続期間	
春学期	秋学期
3／1～3／14	8／28～9／10

※各学期とも、上記手続期間以降は休学・復学することはできません。

退学・再入学

退学

病気その他やむを得ない理由で退学しようとする者は、所定の手続きを経て退学することができます。

再入学

退学した者が再入学を希望するときは「再入学願」（窓口備付）を所定期間内に前ページ記載の窓口を通じて学部長に提出し、許可を得たうえで、再入学金を納入した場合に限り、翌学期から再入学することができます。ただし、在学期間に算入されない学期が通算して４学期を超えるときは、再入学できません。

手続期間

再入学を希望する学期	手続期間	再入学金納入期間
春　学　期	3／1～3／14	許可日～3／31
秋　学　期	8／28～9／10	許可日～9／20

除籍・復籍

除籍

所定の期日（除籍となる日の前日）までに学費を納入しなかったときは、学則第46条に基づいて、学費滞納による除籍となり、除籍になった学期は、在学期間に含みません。また、除籍になった学期に履修した科目の単位も認められません。

除籍となる日付は次のとおりです。

春学期　　７月31日

秋学期　　１月31日

復籍

除籍となった者が翌学期以降に復籍を希望するときは「復籍願」（窓口備付）を所定期間内に前ページ記載の窓口を通じて学部長に提出し、許可を得たうえで復籍料を納入した場合に限り、翌学期から復籍することができます。ただし、在学期間に算入されない学期が通算して４学期を超えるときは、復籍できません。

なお、除籍になった学期に復籍することはできません。

手続期間

復籍を希望する時期	手続期間	復籍料納入期間
春　学　期	3／1～3／14	許可日～3／31
秋　学　期	8／28～9／10	許可日～9／20

※学籍異動に伴う手数料等については、巻末の学費規程をご覧ください。

在学期間との関連

在学期間との関連

休学した学期、除籍及び退学となった学期は、在学期間に含みません。本学を卒業するには、８学期以上在学し、所定の単位を修得する必要がありますので、休学した学期等、在学期間に含まない学期がある場合には、その期間分、卒業時期が延期されます。

また、在学期間に含まれない学期が通算４学期を超える場合は、休学、再入学及び復籍はできません。

教育に関する三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

関西大学は、各学位プログラムにおける所定の教育課程を修めたうえで、次の知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を身につけた者に対して学士の学位を授与します。

1　（知識・技能）

幅広い教養に裏打ちされた専門的知識・技能を修得し、それらを総合的に活用することができる。

2　（思考力・判断力・表現力等の能力）

グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、「考動力」を発揮して社会に貢献することができる。

3　（主体的な態度）

自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

関西大学は、学位授与の方針に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を修得できるように、以下の点を踏まえて、共通教養科目、専門教育科目及びその他必要な科目を体系的に教育課程として編成します。

1　教育内容

⑴ 教養教育

ア　社会で活躍するために必要な幅広い教養と柔軟な思考を培うことを目指す。

イ　身近な事柄に学問知を発見し、大学の学問知への興味を醸成するとともに、学問の進め方を体得できることに重点を置いたプログラムを配置する。

ウ　異文化を理解し、異なる意見を持つ人々の立場に立って考えることができる能力、及び外国語によるコミュニケーション力を育成する。

⑵ 専門教育

ア　講義、演習、実習等を体系的に組み合わせて、専門的知識・技能を効率的に修得させることを目指す。

イ　初年次においては、様々な学習履歴を持った学生に学びの転換を促す導入・入門科目を準備し、学問分野に応じた「考動力」の基礎を育成する。

ウ　上位年次においては、学生一人ひとりの学問研究を促進するために演習科目等の少人数教育を中心とした学問の本質に接する場を提供し、「考動力」の獲得に重点を置いた教育を実践する。

2　学習成果の評価

⑴　知識・技能の修得に関しては、総合GPAの分析、及び各種の学修行動調査と到達度調査の結果を組み合わせて把握する。

⑵　「考動力」に集約される思考力・判断力・表現力等の能力の評価に関しては、関西大学コンピテンシー調査の集計等によって行う。

⑶　主体的に学びに取り組む態度に関しては、各種学生調査の集計によって把握する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

関西大学は、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできる者として、様々な入試制度を通じて、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた入学者を広く受け入れます。

1　高等学校の教育課程を通じて、基礎的な知識・技能を幅広く習得している。

2　高等学校の正課及び正課外での学習を通じて、柔軟な思考力、旺盛な知的好奇心、社会に貢献しようとする高い目的意識など、「考動力」の基盤を培っている。

3　特定の学問領域を主体的に学んでいく強い意欲を持っている。

単位について

単位とは

各授業科目の単位数は、大学設置基準及び学則第14条において、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して定めています。

学生のみなさんには、各年次に配当された授業科目を履修し、以下に記載する授業時間外の学修を含めて、各学部が定める卒業に必要な単位を修得することが求められます。

本学では、１時限の授業時間を90分とし、原則として１学期15週実施します。

なお、制度上、実時間45分を１時間の学修とみなしますので、１時限（90分）の授業は２時間の学修となります。

主な授業科目	必要な学修（１単位につき45時間）		１週当たりに必要な授業時間外の学修
	授業時間の学修	授業時間外の学修	
１時限(90分)の授業科目【１単位】 外国語、実技、実習、演習など	２時間×15週＝30時間	15時間	15時間÷15週＝１時間
１時限(90分)の授業科目【２単位】 講義、演習など	２時間×15週＝30時間	60時間	60時間÷15週＝４時間
２時限(180分)の授業科目【２単位】 実習、製図など	４時間×15週＝60時間	30時間	30時間÷15週＝２時間
３時限(270分)の授業科目【２単位】 実習、実験など	６時間×15週＝90時間	―――	―――

※上表以外にもさまざまな授業科目がありますが、「１単位＝45時間の学修」で構成されています。

例えば、上表１行目の１時限【１単位】の外国語科目の場合、１単位の授業科目は45時間の学修を必要としますので、授業時間の学修が30時間（２時間×15週）、授業時間外の学修が15時間となり、毎週１時間の授業時間外の学修（自習）が求められます。

履修登録にあたっては、各授業科目のシラバスを確認したうえで、予習・復習、課題・レポート作成などの授業時間外の学修に励んでください。

学期（セメスター）と授業について

学期（セメスター）とは

学年度は春学期と秋学期の２学期（セメスター）に分かれ、春学期は４月１日に始まって９月20日に終わり、秋学期は９月21日に始まって３月31日に終わることが学則第10条、第11条に定められています。そして、春学期試験は７月下旬に、秋学期試験は１月下旬に実施されます。

このような学期の期間中には、学則第12条に定めるとおりの休業日（祝日＋休日）があります。

なお、当該年の年間行事予定表（学年暦）が毎年作成され、これをインフォメーションシステムに掲載していますので、参照してください。

授業の実施方法について

授業は、教員と受講生が教室等に集合して行う「対面授業（面接授業)」、または「遠隔授業（大学設置基準第25条第2項等で規定する授業)」で実施します。

本学では、全授業回を対面で実施する「対面授業」を原則とします。ただし、学部等のカリキュラムポリシーに基づき、一部の科目は「遠隔授業」で実施します。また、「対面授業」に分類される科目において一部の授業回または補講を遠隔授業で実施する場合があります。各授業科目の授業方法についてはシラバスで確認してください。

なお、本学における「遠隔授業」は、以下の3種類で実施します。

① オンデマンド配信：関大LMSを活用し、各回の講義動画やナレーション付き講義資料を視聴することで学び、小テストや課題提出による理解度確認や質疑応答、受講生同士の意見交換等を行う

② リアルタイム配信：Web会議システム（Zoom等）を活用し、リアルタイムで配信される講義や双方向での議論をとおして学び、小テストや課題提出による理解度確認や質疑応答、受講生同士の意見交換等を行う

③ 教室配信：教員と受講生が集合する教室と別教室（主に複数キャンパス）に同時配信して行う

授業時間割について

1年間の授業時間割は、毎年度春学期始めに発表されます。

授業は原則として学期ごとに終了し、月曜日から土曜日の6日間にわたって、第1時限から第5時限（科目によっては、第6時限、第7時限）まで行われています。遠隔授業で実施する一部の科目は「曜限なし」として、時間割が定められない場合があります。

なお、千里山キャンパス以外では土曜日は補講日となっています。

このように編成された授業時間割のなかから、履修制限の範囲内で自分の年次、クラスによって、授業科目を履修することになります。

なお、授業時間帯は次のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限	第7時限
9：00～10：30	10：40～12：10	13：00～14：30	14：40～16：10	16：20～17：50	18：00～19：30	19：40～21：10

授業に関する留意事項

1　科目の性質上、出席を重視されるもの（外国語科目等）は授業回数の少なくとも3分の2以上の出席が必要です。

2　「シラバス」を熟読してください。
　授業には必ず出席しなければなりません。やむを得ず授業を欠席する場合は、担任者又は授業支援ステーションにご相談ください。

3　授業は時間割に則して行われますが、事情によって時間割どおりに行えない場合があります。休講・補講の告知・連絡は、原則としてインフォメーションシステムによって行われますので、インフォメーションシステムを確認するよう習慣づけてください。

4　電話による問い合わせには応じられません。

5　非常変災その他急迫の事態が発生した場合、休講となることがあります。詳細については、「自然災害発生時の休講等の取り扱いについて」を参照してください。

授業科目の選択と履修登録について

履修登録とは

履修登録とは、毎学年度の始めに、その年度に履修しようとする授業科目を選択し、学部長に届け出ることです。

履修登録は、授業科目の受講ならびに受験に関して最も重要な手続きですから、次のことに十分注意のうえ、指定された期日までに行ってください。

1　所定の期日までに履修登録を行わない者は、その年度の授業科目の履修ならびに受験は許可されません。やむを得ない理由があって、所定の期日までに履修登録できない場合は、あらかじめその旨を教務センターに届け出ておかなければなりません。

2　履修登録期間終了後の授業科目の変更・追加等については認められません。ただし、履修変更期間内であれば一定の条件のもと変更が可能です。

3　履修登録をしていない授業科目については、受講及び受験することができません。

4　授業科目によってはクラスを指定する場合がありますので、指定されたクラス分割に従って履修しなければなりません。

履修登録の方法について

学年度の始めに発表される授業時間割などに従って、各自の履修時間割を作成し、履修登録を行わなければなりません。

履修の手順は、次のとおりです。

1　履修は指定された期間内にインフォメーションシステム内の履修登録システムから行います。各自の履修する科目・クラス・担任者に間違いがないよう十分注意してください。

2　指定された確認期間内に再度誤りがないか確認し、間違いがなければ登録完了です。

科目の選択・履修に関する留意事項

1　科目には必ず修得しなければならない科目（必修科目）と選択できる科目（選択科目）の二種類があります。必修科目は卒業するために必要な科目であるため、配当された年次に必ず修得するよう心がけてください。

　選択科目は学部によって若干異なりますが、必修科目に準ずるもの、専攻外の専門的なもの、実学的なもの、資格取得に必要なものなどに大別することができます。そのためこれらの履修にあたっては「シラバス」等を熟読し慎重に選択してください。

2　「遠隔授業」により修得する単位数は、卒業に必要な単位のうち60単位を超えないものとします。履修登録にあたっては、各授業科目の授業方法をシラバスで必ず確認し、計画的に履修してください。

3　科目の選択は原則的には各自の自由に委ねられていますが、各年次配当の授業科目の履修にあたっては、第一に必修科目の履修に不足がないかどうかを調べ、次に選択科目を履修するよう心がけてください。

4　履修を希望する科目が時間割で重複することがあったり、年度によっては不開講の科目等があって各自の自由になり得ないこともありますので、特に卒業に要する必修科目の修得方法を十分考慮して履修するよう注意してください。

5　科目の履修に際しては、単位制の本質からみて単に授業に出席するだけでなく所要の自習時間を活用し、毎週毎時の授業について自主的に学習を進める必要がありますので、計画的に学習が進められるよう心がけて科目を選択してください。特に、教室において行われる学習指導に留意し、指定された参考図書について十分に学習するとともに試験・論文・レポート等に対する準備を常にしておかなければなりません。

6　授業において出席状況のきわめて悪い者、あるいは単位修得状況不良の者に対しては指導を行いますが、それ以前に各自が計画的に学習するよう努力しなければなりません。

履修辞退制度

春・秋各学期の授業開始約１カ月後に、履修辞退期間を設けています。履修登録後、授業・試験を受ける意思をなくした場合には、指定の期間中に履修辞退の手続を行えば、GPA算出（後掲）の対象になりません。

詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

なお、履修辞退に伴う追加科目登録は認めていません。また、学部により履修辞退を認めていない科目がありますので注意してください。

試験と成績について

履修登録した授業科目は、試験その他の学部が定める適切な方法により学修の成果が評価され、合格した者には所定の単位が与えられます。成績評価方法には１定期試験（筆記）、２到達度の確認（筆記による学力確認）、３論文（レポート）の提出、４平常成績による評価があります。

また、定期試験もしくは到達度の確認（筆記による学力確認）を正当な理由で受験できなかった者に対して追試験・到達度の確認に相当する学力確認を実施します。(P.25参照)。

定期試験について

1　春学期末と秋学期末にそれぞれ試験を行います。

2　学費を滞納している者であっても、試験の受験は可能ですが、指定された納入期間内に滞納学費を納入しないときは、受験した科目の単位は認定されません。

3　試験時間は原則として60分です。ただし、科目によっては80分とするものもあります。

4　試験の時間割は、春学期：７月上旬、秋学期：12月中旬にインフォメーションシステムにて発表します。なお、受験科目は学期当初に履修登録した科目に限ります。

5　試験に際しては「定期試験受験心得」（後掲）を熟読のうえ受験してください。

6　受験した結果、不合格となった科目は、改めて履修登録しなければ受験できません。

到達度の確認（筆記による学力確認）について

到達度の確認（筆記による学力確認）とは、授業期間の15週目に授業内で行う講義のまとめ及び筆記による学力確認のことを意味します。

受講に際しては『「到達度の確認（筆記による学力確認）」受講心得』（後掲）を熟読のうえ受講してください。

論文（レポート）について

科目の中には、論文（レポート）の提出をもって成績評価を行うことがあります。この場合の論文（レポート）提出の要領は次のとおりです。

1　所定の期日に、必ず教務センターを経て提出してください。たとえ期日前であっても直接担任者へ提出したものは一切無効です。また、所定の期日に遅れた場合、及び事前の許可なく郵送されたものは理由の如何にかかわらず受理しません。

2　論文（レポート）用紙

(1)　大学指定用紙

(2)　Ａ４判用紙

(3)　その他

3　装丁等

(1)　大学指定用紙…用紙下部に付いている論文（レポート）提出票、受領書を切り離さずに提出してください。

(2)　Ａ４判用紙及びその他…論文（レポート）表紙兼受領書を付け、上部（２カ所）を綴じてください。

4　その他

ワープロソフト・手書き、枚数、字数等は担任者の指示に従ってください。また、手書きの場合は必ず「ボールペン（消せるボールペンは除く）」で記入してください。

平常成績による評価について

平常成績による評価とは、定期試験または到達度の確認（筆記による学力確認）を行わず、平常授業時において、試験・レポート等により様々な観点から総合的に評価することを意味します。

なお、各科目の評価の基準・方針はシラバスで公開され、具体的な指示は授業時に行われます。

追試験・到達度の確認に相当する学力確認について

追試験・到達度の確認に相当する学力確認とは、正当な理由（病気、その他やむを得ない理由）により、「定期試験」、もしくは授業期間の15週目に授業内で行う「到達度の確認（筆記による学力確認）」が受験できなかった者に対して行われる試験で、次のとおり実施します。

実施科目	「定期試験」、もしくは「到達度の確認（筆記による学力確認）」を実施する科目
受験資格	その学期（年度）に履修した上記実施科目のうち、病気、その他やむを得ない理由により「定期試験」、もしくは「到達度の確認（筆記による学力確認）」を受験できなかったと各学部教授会が判断した者
受験手続	教務センターで、決められた期間内に所定の手続を行ってください。 なお、受験できなかった理由を証明する書類（医師の診断書等）が必要です（詳細はインフォメーションシステム等でお知らせします）。

※論文（レポート）の提出をもって成績評価を行う科目及び平常成績による評価をもって単位認定をしている科目は追試験の対象ではありません。

成績評価

成績は科目ごとに次の評語によって発表します。不合格・不受験科目については、当該学期の成績発表画面にのみ表示し、成績証明書には記載しません。

なお、合格点を得た科目を再度履修することはできません。

評点	評語	合否
100点～90点	秀　（S）	合格
89点～80点	優　（A）	
79点～70点	良　（B）	
69点～60点	可　（C）	
59点以下	不可（F）	不合格

注１）　成績を段階表示することになじまない科目については、合格を「合」（P）とします。

注２）　編入学、海外留学等本学以外で修得した科目の単位を本学で認定する場合は、原則として「認」（N）で表示します。

GPA

各学生の授業に対する習熟度を測ることにより、効果的な学習指導に役立てることを目的に、GPA（Grade Point Average）制度を採用しています。この制度では、各評価に対し、秀(S) ＝ 4.0、優(A) ＝ 3.0、良(B) ＝ 2.0、可(C) ＝ 1.0、不可(F)／不受験(I) ＝ 0 のGP（Grade Point）を付与し、次のとおり平均点（GPA）を算出します。

$$\frac{\text{秀(S)修得単位数}\times 4.0+\text{優(A)修得単位数}\times 3.0+\text{良(B)修得単位数}\times 2.0+\text{可(C)修得単位数}\times 1.0}{\text{総履修単位数（S＋A＋B＋C＋F＋I）}}$$

注１）　卒業所要単位に含まれない科目及び「合」（P）、「認」（N）評価科目については、総履修単位数（分母）に含めません。

注２）　GPA算出対象科目は、学部により異なります。

注３）　原則として、成績発表画面にGPAを記載します。また、商・政策創造・外国語学部は、成績証明書にもGPAを記載します。

成績発表

詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

各学期の成績は、春学期末（9月中旬）及び秋学期末（3月中旬）にインフォメーションシステムにより発表します。

また、各学期の履修届を毎年5月及び10月に保証人（父母）宛に郵送します。

成績評価に対する疑義について

成績発表の結果、筆記試験・論文（レポート）提出の結果などから判断して、明らかに誤り（採点・登録上のミス）があると考えられる場合は、成績評価に関する疑義申し立てを行うことができます。所定の用紙（教務センター備付）で申し出てください（電話、メールでの問い合わせには応じません）。申し立て期間等の詳細については、定期試験の時間割発表時にインフォメーションシステム等によりお知らせします。

なお、成績評価上の特別な配慮を求める申し立ては受け付けません。

定 期 試 験 受 験 心 得

1　学生証は必ず携帯し、監督者の指示した位置にケースから取り出して提示すること。

2　学生証を携帯しない者には受験を許可しない。

3　答案用紙には、科目・担任者・クラス・学籍番号・氏名を２カ所（科目によっては１カ所）試験開始の合図と同時に必ずボールペン（消せるボールペンは除く）で正確に記入すること。

⑴　解答は、担任者が指定した筆記具で書くものとする。

ただし、鉛筆を使用する場合は、HB又はFとする。

⑵　答案用紙は表裏とも書き尽くし、必要でなければ新たに請求してはならない。

⑶　学籍番号及び氏名が正確に記入されていない答案は無効とする。

4　筆記具及び参照許可・使用許可されたもの以外は、一切机上に置かないこと。

⑴「すべて参照許可」の場合でも、情報機器（パソコン・モバイル機器・電子辞書等）の参照・使用は一切許可しない。

⑵　携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等のウエアラブルデバイスは、時計としても使用できないので、必ず電源を切って鞄にしまわなければならない。

5　携帯品及び答案は、監督者の指定する場所に置くこと。

6　試験開始後30分以上遅刻した者は受験できない。

7　試験開始後30分以上を経過しなければ退室できない。

8　不正行為をした者には即時試験の中止を命じ、当該試験期においては既に受験した科目については、これを無効とし、残りの科目については受験を許可しない。

なお、学則第40条により処分することがある。

9　故意に学籍番号及び氏名を偽った場合は不正行為とみなす。

10　答案を提出しなかった場合は、不正行為とみなす。

11　試験時間中は、試験会場内外において迷惑行為（私語等）を行ってはならない。

12　試験開始後、地震・火災等緊急事態が発生した場合は、監督者・避難誘導員の指示に従って、慌てず速やかに行動すること。なお、答案の取り扱いについては、追って指示する。

13　第６時限の試験において試験開始後30分以内に「停電」した場合は、原則として当該科目の試験は期日を改めて再試験を行い、30分経過後に「停電」した場合はその答案を有効とする。なお、「停電」した場合は監督者の指示に従って、特に厳正に行動すること。

14　その他試験場では、すべて監督者の指示に従うこと。

「到達度の確認（筆記による学力確認）」受講心得

1　「到達度の確認（筆記による学力確認）」とは、授業15週目に授業内で実施する「講義のまとめ」「筆記による学力確認（60分）」及び「講評」のことである。

2　学生証は必ず携帯し、監督者の指示した位置にケースから取り出して提示すること。

3　学生証を携帯しない者には受講を許可しない。

4　答案用紙には、科目・担任者・クラス・学籍番号・氏名を２カ所（科目によっては１カ所）「筆記による学力確認（60分）」開始の合図と同時に必ずボールペン（消せるボールペンは除く）で正確に記入すること。

⑴　解答は、担任者が指定した筆記具で書くものとする。
　ただし、鉛筆を使用する場合は、HB又はFとする。

⑵　答案用紙は表裏とも書き尽くし、必要でなければ新たに請求してはならない。

⑶　学籍番号及び氏名が正確に記入されていない答案は無効とする。

5　筆記具及び参照許可・使用許可されたもの以外は、一切机上に置かないこと。

⑴「すべて参照許可」の場合でも、情報機器（パソコン・モバイル機器・電子辞書等）の参照・使用は一切許可しない。

⑵　携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等のウエアラブルデバイスは、時計としても使用できないので、必ず電源を切って鞄にしまわなければならない。

6　携帯品及び答案は、監督者の指定する場所に置くこと。

7　「筆記による学力確認（60分）」実施時間中に途中退室することはできない。

8　不正行為をした者には即時中止を命じ、既に受講した科目については、これを無効とし、残りの科目については受講を許可しない。
　なお、学則第40条により処分することがある。

9　故意に学籍番号及び氏名を偽った場合は不正行為とみなす。

10　答案を提出しなかった場合は、不正行為とみなす。

11　授業時間中は、教室内外において迷惑行為（私語等）を行ってはならない。

12　「筆記による学力確認（60分）」開始後、地震・火災等緊急事態が発生した場合は、監督者・避難誘導員の指示に従って、慌てず速やかに行動すること。なお、答案の取り扱いについては、追って指示する。

13　第６時限において「筆記による学力確認（60分）」開始後30分以内に「停電」した場合は、原則として当該科目の「到達度の確認（筆記による学力確認）」は期日を改めて再度行い、「筆記による学力確認（60分）」開始30分経過後に「停電」した場合はその答案を有効とする。なお、「停電」した場合は監督者の指示に従って、特に厳正に行動すること。

14　その他教室では、すべて監督者の指示に従うこと。

法　学　部

Ⅰ　教育に関する三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

法学部では、法学・政治学の知識と能力を修得し、それを通じて社会に十分な貢献をなし得ると判断される学生に対して学士の学位（法学）を授与します。学位授与の適否は、具体的には次に掲げる知識及び能力を修得したかどうかによって判断します。

1　（知識・技能）

次の知識・技能を修得し、それを活用することができる。

⑴　制度に関する体系的知識

⑵　概念や理論に関する知識

⑶　歴史や思想に関する知識

⑷　必要な情報を探索する技能

2　（思考力・判断力・表現力等の能力）

制度の正確な理解に基づいて問題状況を客観的に説明し、規範や歴史的経験によって根拠づけられた説得的な議論を踏まえて「考動」ができる。

3　（主体的な態度）

具体的な法的紛争や政治的状況について、既存のルールを用いて、又は、新しいルールを提案することを通じて、その解決に向けて、公正かつ柔軟に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

法学部では、法学・政治学に関する素養を十分に備え、社会のさまざまな分野において、それを能動的かつ有効に活用できる市民の育成を目指しています。そのため、次に掲げる能力の養成に重点を置いて、共通教養科目、専門教育科目及びその他必要な科目を編成します。

1　教育内容

⑴　教養教育

ア　世界に対する広い視野と人間に対する深い洞察力を得られるよう、人間・社会・自然に関する多様な学問知を養う。

イ　論理的な思考能力と説得的な弁論能力を養う。

ウ　現実に生じている社会的・政治的諸問題について関心を持ち、その解決について主体的に考察する能力を養う。

⑵　専門教育

ア　基礎的・体系的な知識や、専門的な知識、実践的な技能をバランスよく養う。そのため、「基幹講義科目」・「専門科目」・「演習科目」を組み合わせたカリキュラムを設定している。

①「基幹講義科目」では、基礎的な知識を修得する。

②「専門科目」では、多岐にわたる専門領域に関する知識を修得する。

③「演習科目」では、個別的な問題を具体的に調査・検討する能力を養う。

イ　論理的な思考能力や説得的な弁論能力、民主的な合意の形成能力を養う。そのため、入学から卒業までの間に、次の少人数演習科目を配置している。

①学問的に議論を構築することの必要性を理解するための「導入演習」（1年次春学期）

②基礎的な知識を用いて学問的な議論を展開することを目指す「基礎演習」（1年次秋学期）

③個別的な重要テーマについて深く考察する「トピック演習」（2年次）

④専門的知識を実践的問題と結びつけることを目指す「発展演習」（2年次）

⑤各人の関心に合わせて専門的・理論的な問題に関する検討を行う「専門演習」（3－4年次）

ウ　主体的に問題を解決する姿勢と能力を養う。そのため、「演習科目」と「展開講義」を充実させている。

①「演習科目」では、具体的な法律紛争や政治的状況に関する自らの分析と検討を参加者に求める。
②「展開講義」では、具体的・実践的な問題を深く検討する。

エ　体系的な知識の習得を促すために「科目群」をおく。科目群は「キー科目」と「関連科目」から構成される。

オ　共通の目標や問題関心を持つ学生がお互いに刺激しあい、切磋琢磨して、それぞれの勉学意欲と能力を高める。そのため、１年次生・２年次生を対象に、共通の志望や関心という観点から講義と演習を組み合わせた「特修プログラム」を設置している。現在、「法曹プログラム」「公務員プログラム」「英語で発信する政治学プログラム」「ビジネス法プログラム」という四つの特修プログラムがある。

カ　学生自身が、学問的な興味関心やキャリア形成に応じて主体的に学生生活をデザインするように、履修指導や支援体制を充実させている。

2　教育評価

⑴　知識・技能の修得や論理的思考力に関しては、主に、各学期末に行われる学期末試験又は到達度確認を通じて評価する。

⑵　弁論能力や合意形成能力、主体的問題解決能力に関しては、１年次から４年次まで配置された演習科目において、教員との密なコミュニケーションのもと、報告やレポート・論文執筆の指導を通じて、個々の能力をきめ細かく評価する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

法学部では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づく教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた人を求めます。

1　次の知識・技能を有している。

⑴　今日の社会制度の歴史的形成過程に関する知識

⑵　外国で行われている議論を理解するための外国語能力

⑶　他者の見解を十分に理解し、かつ、自己の見解を表明し得る日本語能力

2　さまざまな文化的背景や価値観を持つ他者の見解の意義を認めつつ、十分に根拠づけられた議論を通じて他者を説得し、合意を形成する能力を有している。

3　広く社会の出来事に関心を持ち、法と政治を学ぶことで自らの考えを形づくり、さまざまな利益や価値を民主的に調整しながら問題解決に向けて行動しようとする意欲を有している。

Ⅱ　教育課程について

授業科目の構成

1　法学部の授業科目は、共通教養科目、外国語科目及び専門教育科目に大別されます。

⑴　共通教養科目は、関西大学科目群、基盤科目群、自己形成科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群、グローバル科目群、大学・学部・社会連携科目群の７つの科目群により構成されます。

⑵　外国語科目は、次の科目で構成されています。

ア　英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語の各々Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ

イ　外国語検定試験により単位認定を行う科目

検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）、検定認定３（各検定試験）

⑶　専門教育科目は、基幹科目、演習科目、講義科目及び自由科目に分かれます。

2　上記のほか、外国人留学生のために外国人留学生科目（後掲）があります。

3　授業科目の詳細は、「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。

履修と修得について
「履修」とは、教育課程に定められた授業科目を登録し、学習することです。
「修得」とは、授業科目を学習した結果、合格の評価を受け単位を認定されることです。

Ⅲ　卒業所要単位について

卒業所要単位の内訳

法学部に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、124単位以上を修得した者に卒業を認め、卒業者には学士（法学）の学位が与えられます。

124単位の内訳は、次のとおりです。

1　共通教養科目（20単位）

共通教養科目は、次の要領に従って、合計20単位以上を修得しなければなりません。

⑴　自己形成科目群

「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」の各領域からそれぞれ２単位以上を修得しなければなりません。

⑵　グローバル科目群

グローバル科目群の科目を修得した場合は、共通教養科目の卒業所要単位に含めることができます。

⑶　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群、大学・学部・社会連携科目群

関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群、大学・学部・社会連携科目群の科目を修得した場合は、合計６単位まで共通教養科目の卒業所要単位に含めることができます。

2　外国語科目（16単位）

外国語科目は、次の要領に従って、７カ国語（英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語）のうちから英語４単位以上とドイツ語又はフランス語４単位以上を含めて、３カ国語の範囲内で合計16単位以上を修得しなければなりません。

⑴　第１選択外国語（８単位）

上記７カ国語のうちから１カ国語を選択し、そのⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの計８単位以上を修得しなければなりません。ただし、特に申し出のない限り、第１選択外国語は英語とします。

⑵　第２選択外国語（４単位）

第１選択外国語で選択した外国語以外の外国語から１カ国語を選択し、そのⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・ⅡｂまたはⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・ⅣｂもしくはⅤａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂの計４単位以上を修得しなければなりません。ただし、英語以外の外国語を第１選択外国語として選択した場合は、第２選択外国語は英語とします。

⑶　第３選択外国語（４単位）

第１選択外国語及び第２選択外国語で選択した外国語以外の外国語から１カ国語を選択し、そのⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂの計４単位以上を修得しなければなりません。

なお、第２選択外国語としてドイツ語又はフランス語を選択し、８単位以上を履修する場合は、第３選択外国語を履修する必要はありません。

この単位修得方法の決定手続は、１年次の所定の期間に行います。決定後の変更はできません。

⑷　英語の単位の取り扱いについて

①英語はⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの８単位(第２選択外国語とする場合は、Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂの４単位）を修得しなければなりません。

②上記①の単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂとして単位の認定を行うことができます（詳細は後掲)。

③英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの８単位(第２選択外国語とする場合は、Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂの４単位）を修得したうえで、さらに検定認定１（各検定試験)、検定認定２（各検定試験)、検定認定３（各検定試験）を修得した場合は、合計６単位まで外国語科目の単位に含めることができます（⑹のとおり算入)。

⑸　英語以外の単位の取り扱いについて

みずからが選択している外国語に限り、検定認定１（各検定試験)、検定認定２（各検定試験）を修得した場合は、各４単位まで当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

⑹　上記⑴～⑸の条件を満たしたうえで、16単位を超えて修得した単位は、８単位を限度に専門教育科目の単位に算入することができます。

3　専門教育科目（88単位）

合計88単位以上を修得しなければなりません。

⑴　他学部配当専門教育科目

教授会が適当と認めた他学部配当専門教育科目を履修する場合、当該科目の配当年次にかかわらず、３年次以上で年度内に８単位まで履修することができます。この場合、修得した単位は、合計12単位までを専門教育科目の卒業所要単位に含めることができます。

⑵　自由科目ならびに各種資格取得に必要な他学部配当科目

自由科目ならびに各種資格取得に必要な他学部配当科目は、これを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

なお、自由科目とは、主として教育職員免許状及び各種資格取得に必要な授業科目をいいます。

卒業所要単位　内訳表

<table>
<tr><th colspan="3">科目区分</th><th colspan="2">最低修得単位数</th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="10">共通教養科目</td><td rowspan="3">自己形成科目群</td><td>人間を知る</td><td>２単位以上</td><td rowspan="8">20単位以上</td><td rowspan="15">124単位以上</td></tr>
<tr><td>社会を知る</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>自然と向き合う</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">グローバル科目群</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">関西大学科目群</td><td rowspan="6">６単位まで卒業所要単位に含めることができる</td></tr>
<tr><td colspan="2">基盤科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">健康・スポーツ科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャリア形成科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">大学・学部・社会連携科目群</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外国語科目</td><td colspan="2">第１選択外国語</td><td>８単位以上</td><td rowspan="3">16単位以上（※２）</td></tr>
<tr><td colspan="2">第２選択外国語</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">第３選択外国語（※１）</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td colspan="2">基幹科目</td><td colspan="2" rowspan="3">88単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">演習科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">講義科目</td></tr>
</table>

※１　第２選択外国語としてドイツ語又はフランス語を選択し、８単位以上を履修する場合は、第３選択外国語を履修する必要はない。

※２　16単位を超えて外国語科目を修得した場合、８単位を限度に専門教育科目の単位に算入することができる。

外国人留学生

1　外国人留学生における外国語科目は、日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの計８単位を修得しなければなりません。また英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び朝鮮語のうちから１カ国語（日常使用語を除く）を選択し、その外国語のⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの計８単位を修得しなければなりません。

2　その他、外国語科目の単位の取り扱いについては、前述「２　外国語科目（４）～（６）」の通りとします。

3　外国人留学生科目の選択科目を修得した場合は、10単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に含めることができます。

4　外国人留学生科目の自由科目を履修した場合は、履修制限単位に含めますが、これを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

編･転入学生

法学部３年次に編・転入学した者は、２年〈４学期〉以上（６年〈12学期〉以内）在学し、専門教育科目88単位以上を修得した場合に卒業が認められます。卒業者には学士（法学）の学位が与えられます。

編・転入学以前に修得した単位については、法学部配当の科目の単位として認定する場合があります。

なお、共通教養科目及び外国語科目については、学部が定めた単位に満たない場合、不足単位を修得しなければなりません。

Ⅳ　履修・修得について特に注意すべき事項

履修制限単位

履修制限単位は、各学期とも23単位以内、年間44単位までです。

研究論文（２単位）を履修した場合は、原則として、秋学期の履修単位に算入するものとします。

また、教授会が適当と認めた他学部配当専門教育科目を履修する場合の単位（３年次以上で年度内に８単位以内）については、履修制限単位に含めなければなりません。

なお、次の科目は履修制限単位に含めません。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C
外国語検定認定１・２・３	

1　自由科目及び各種資格取得に必要な他学部配当科目を履修する場合は、上記の履修制限単位外で毎年度30単位まで履修することができます。

ただし、教育実習事前指導、教育実習（一）、教育実習（二）は、この30単位には含めません。

2　３年次に編・転入学した者の履修制限単位は、各学期とも23単位以内、年間44単位までです。

４年次生の履修単位

４年次生においては、春学期、秋学期とも４単位以上を履修しなければなりません。

共通教養科目の履修

共通教養科目の履修については、次の点に注意してください。

1　共通教養科目の概要については、「共通教養科目について」（後掲）を参照してください。ただし法学部で履修・修得できる授業科目は「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。

2　同一年度の春学期及び秋学期に同じ授業科目を二度履修することはできません。

3　定員制等のため事前登録が必要な科目、履修者数が一定以上に達した場合に事後抽選を行う科目があります。詳細はインフォメーションシステムで確認してください。

4　次の科目は履修制限単位に含めません。それぞれ該当のプログラムに応募のうえ参加許可を受けることをもって、履修登録に代えます。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C

外国語科目の履修

外国語科目の履修については、次の点に注意してください。

1　卒業所要単位(16単位)に含める外国語科目は、当該科目を履修する初年度において、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵのそれぞれａ・ｂをセットで履修登録することを原則とします。ただし、英語Ⅴａ・ｂ（各テーマ)、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、各テーマを複数科目履修することができ、かつ、ａ・ｂセット履修の必要はありません。

2　１年次においては、第１及び第２選択外国語のⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂのみを履修することができます。ただし、第２選択外国語については、特に希望のあるときは、新入生指導行事期間中に所定の申込手続を行い許可された場合、上位年次配当科目（Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ又はⅤａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ）を履修することができます。

3　第１、第２及び第３選択外国語の選択パターンの決定は、１年次の所定の期間に行います。日程等の詳細については、インフォメーションシステムにより指示します。

なお、決定後の変更はできません。

4　英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbの履修に際しては、原則として事前にプレースメントテストを受験しなければなりません。

なお、受験に関する詳細については、インフォメーションシステム等により指示します。

5　原則として、英語以外の外国語のⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂは、その外国語のⅠｂ、Ⅱｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

また、英語以外の外国語のⅤａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂは、そのⅢｂ、Ⅳｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

6　本学が指定する外国語検定試験で所定のスコアを取得した者、又はその試験に合格した者は、単位認定の申請ができます。なお、詳細については、「外国語検定試験の単位認定について」(後掲) を参照してください。

7　３年次配当の英語Ⅴａ・ｂ（各テーマ)、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、一定の条件を付して下位年次生の履修を認めています。履修希望者は所定の受付期間中に必要な手続きを行ってください。

専門教育科目の履修留意事項

専門教育科目の履修に際しては、次の点に注意してください。

1　基幹科目及び導入演習については、１年次に必ず履修しなければなりません。

2　履修科目群等を参考にして、履修登録を行ってください。

3　一部の専門教育科目には、履修条件があります。次の科目を履修する場合は、それぞれの要件を満たす必要があります。

配当年次	科目名	左記科目の履修条件
１～４	民法３	民法１を履修済であること。
１～４	民法７	民法１を履修済であること。
２	発展演習民法	民法３を履修済であること。(同時履修可)
２～４	行政法２	行政法１を履修済であること。
２～４	民法４	民法３を履修済であること。
２～４	民法詳論１	民法６を履修済であること。
２～４	民法詳論２	民法７を履修済であること。
２～４	事例講義民事法（各テーマ）	民法３を履修済であること。
２～４	刑事訴訟法２	刑事訴訟法１を履修済であること。
２～４	会社法３	会社法１及び２を履修済であること。(いずれも同時履修可)
２～４	民事訴訟法２	民事訴訟法１を履修済であること。
２～４	民事訴訟法３	民事訴訟法１及び民事訴訟法２を履修済であること。
２～４	民事執行・保全法１	民事訴訟法１、民事訴訟法２及び民法４を履修済であること。(いずれも同時履修可)
２～４	民事執行・保全法２	民事訴訟法１、民事訴訟法２、民法４及び民事執行・保全法１を履修済であること。(民事訴訟法１、民事訴訟法２及び民法４は同時履修可)

4　専門教育科目のうち、次の「テーマ」を付した科目については、テーマ数に制限なく履修・修得することができ、全て卒業所要単位に含めることができます。

配当年次	科目名
2 ～ 4	事例講義憲法（各テーマ）
2 ～ 4	事例講義民事法（各テーマ）
2 ～ 4	事例講義刑事法（各テーマ）
2 ～ 4	展開講義 1（各テーマ）
3 ・ 4	展開講義 2（各テーマ）
3 ・ 4	外国法（各テーマ）

5　同一年度の春学期及び秋学期に同じ授業科目を二度履修することはできません。

演習科目の履修

基礎演習は、１年次生のみ履修することができます。

また、発展演習政治学、発展演習憲法、発展演習民法、発展演習刑法、発展演習基礎法及びトピック演習については、２年次生のみ履修することができます。

特修プログラム

特修プログラムは、演習科目と講義科目等を一体的に履修することで、体系的な知識の習得を促すとともに、学習意欲や進路選択のモチベーションを維持・強化することを目的としています。

特修プログラムの履修を希望する場合は、１年次春学期又は秋学期の所定の期間に申し込みをする必要があります。また、その他特修プログラムに関する詳細は、インフォメーションシステム、ガイダンスでお知らせします。

なお、各特修プログラムを修了した者には、成績証明書にその旨を記載します。

※特修プログラムの１つである「法曹プログラム」は、国の認定を受けた「関西大学法曹コース」に包括されます。

関西大学法曹コース

法学部における法曹志望者や法律学の学修に関心を有する学生に対して行う教育と、本学法務研究科（法科大学院）における教育との円滑な接続を図るための課程として「関西大学法曹コース」を設置し、履修を許可され所定の単位を修得した者を【関西大学法曹コース修了者】として認定します。また、本コースを修了し、所定の出願要件を満たせば、法科大学院（他大学も含む）が実施する「特別選抜入学試験」への出願が可能となります。（法曹コース修了見込者も出願可能）

構成科目や修了要件及び法科大学院が実施する特別選抜入学試験等の詳細については、ガイダンス等を実施のうえお知らせします。

○「関西大学法曹コース」と「法曹プログラム」との関係性について

法学部では、法曹コースの骨格となる基本的な科目を体系的に履修してもらうため、第１段階として、「法曹プログラム」を設けています。法曹コース受講者で、法曹プログラムの修了要件を満たした者を【法曹プログラム修了者】として認定します。

さらに、法曹コース修了要件を満たすことができた場合は、【関西大学法曹コース修了者】として認定します。なお、ともに、成績証明書にその旨を記載します。

「関西大学法曹コース」の中に「法曹プログラム」が包括されており、関西大学法曹コース修了への第１段階が、法曹プログラム修了であるとイメージしてください。

履修科目群

関連する分野に応じて分類された「法職科目群」「ビジネス法科目群」「公共政策科目群」「法政史・法政理論科目群」「国際関係科目群」「政治学科目群」の６つの科目群を参考にして、履修登録を行ってください。履修科目群は、将来の進路や興味・関心などに従って、より効率的に学習を進められるよう設計されたものです。履修科目群一覧表は、ガイダンス等でお知らせします。

専門演習・研究論文の履修

専門演習１a・１b、２a・２bは、同一担任者により２年継続して行われるクラス（Aグループ）と、それぞれ１年間で完結するクラス（Bグループ）があります。

原則として、専門演習１a・１b、専門演習２a・２bはそれぞれ４単位をセットで履修登録することとします。

履修するうえでの条件は、次のとおりとします。

1　専門演習１a・１bは、履修する前年度までに、卒業所要単位のうち60単位以上を修得していなければ履修することはできません。

2　Aグループの専門演習２a・２bを履修するには、Aグループの同一担任者による専門演習１a・１bを修得していなければなりません。ただし、交換派遣留学、認定留学等の場合は、担任者によっては、例外を認める場合があります。

3　Bグループの専門演習２a・２bを履修するには、申し込み時にBグループの専門演習１a・１bを履修済でなければなりません。ただし、交換派遣留学、認定留学等の場合は、担任者によっては、例外を認める場合があります。

4　専門演習２a・２bを履修する場合、同じ年度に研究論文を履修することができます。ただし、Bグループの専門演習２a・２bを履修する場合、担任者によっては研究論文の履修を認めないことがあります。

研究論文は、研究論文の審査に合格することで単位が認定されます。

なお、論文の作成・提出要領については、別に定めます。

5　３年次編・転入学生及び復学、復籍、再入学した者の専門演習の募集については、教務センターにお問い合わせください。

履修者数が大規模となる科目の履修制限

法学部では、教育環境の保持と教育効果の向上を目的として、履修者数が大規模な専門教育科目については履修者数の制限を行う場合があります。

詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

各種資格取得

各種資格取得に必要な他学部配当科目については、次のとおりとします。

1　他学部配当の授業科目は、審査のうえ履修を許可します。

2　他学部配当の授業科目は、当該科目の配当年次又はそれ以上の年次でなければ履修することはできません。

早期卒業制度について

法学部では、大学院への進学を強く希望する学生を対象に、卒業所要単位を優秀な成績で修得した場合には３年の在学期間でも卒業を認める「早期卒業制度」を設けています。概要は以下のとおりですが、詳細はインフォメーションシステム、ガイダンスでお知らせします。

1　出願

２年次秋学期（11月を予定）に、所定の要件を満たしている学生のうち、早期卒業を希望する者から出願を受付けます。

2　早期卒業候補者の認定

出願者のうち、２年次秋学期終了時点で所定の要件を満たした者を、早期卒業候補者として認定します。

3　早期卒業者の認定

早期卒業候補者のうち、３年次秋学期終了時点で所定の要件を満たした者を、早期卒業者として認定します。

4　その他

ア　早期卒業候補者に学籍異動が生じた場合は、早期卒業候補者から外します。

イ　早期卒業候補者から、辞退の申し出があった場合は、早期卒業候補者から外し、４年間の在学を認めます。

ウ　早期卒業を辞退した者又は早期卒業が認められなかった者が３年次末に卒業所要単位を全て修得した場合でも、４年次の各学期において４単位以上を履修し、１年間在学する必要があります。

授業科目一覧表

1　共通教養科目

《関西大学科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	関西大学を知る				
GEA1001	日本の近現代史と関西大学―知の群像	1	2	1	2
GEA1002	吹田市と関西大学	1	2	1	2
GEA1003	学生生活とリスク	1	2	1	2
	戦略トピックス				
GEA1004	SDGs入門	1	2	1	2
GEA1005	SDGsの実践	1	2	1	2
GEA1006	金融の実務から見るSDGs	1	2	1	2
GEA1007	環境問題と環境政策のルーツ	1	2	1	2
GEA1008	活用法を見聞するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1009	活用法を体験するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1010	起業に学ぶ「考動力」入門（関大出身起業家と考える未来の自分）	1	2	1	2
GEA1011	起業に学ぶ「考動力」実践（企業と考える未来のデザイン）	1	2	1	2
GEA2001	社会のためのデータサイエンス実践基礎	2	2	1	2
GEA2002	AI・データエンジニアリング実践基礎	2	2	1	2

《基盤科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEB1001	スタディスキルゼミ（各テーマ）	1	2	1	2
GEB1002	プロジェクト学習１	1	2	1	2
GEB2001	プロジェクト学習２	2	2	1	2

《自己形成科目群》

領域：人間を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1001	こころとからだを哲学する
	GEC1002	文化・社会と心理学
	GEC1003	身体運動の人間学
	GEC1004	ことばと思考
	GEC1005	地図の知恵、地図の思想
	GEC1006	自己と他者
	GEC1007	自己をみつめる
	GEC1008	日本人の宗教観
	GEC1009	美術からみる表現と理解
	GEC1010	入門・新しい部落問題
	GEC1011	現代社会とジェンダー
	GEC1012	現代社会とセクシュアリティ
	GEC1013	生と死の倫理学
	GEC1014	食を知る
	GEC1015	食のリスクマネジメント
	GEC1016	宗教と現代
	GEC1017	新しい人権論への招待
教養を深める（知の見取り図）	GEC1018	哲学を学ぶ
	GEC1019	論理学を学ぶ
	GEC1020	心理学を学ぶ
	GEC1021	宗教学を学ぶ
	GEC1022	イスラーム世界の歴史を学ぶ
	GEC1023	考古学を学ぶ
	GEC1024	日本語を学ぶ
	GEC1025	日本文学を学ぶ
	GEC1026	人文地理学を学ぶ
	GEC1027	地域社会の生活と資源
	GEC1028	芸術学を学ぶ
	GEC1029	人類学入門
教養を深める（知の探求）	GEC1030	日本の古典文学を読む
	GEC1031	日本の近代文学を読む
	GEC1032	わかる諸子百家
	GEC1033	日本の文化と人間を考える
	GEC1034	子供から大人への過程を考える
	GEC1035	社会と個人の心理学
	GEC1036	世界の文学を味わう
	GEC1037	西洋美術を味わう
	GEC1038	日本・東洋美術を味わう
	GEC1039	文化史に親しもう
	GEC1040	アジアの文化と世界遺産
	GEC1041	大学教育論～大学の主人公はきみたちだ！～
チャレンジ科目	GEC1042	各テーマ

【配当年次：１・２・３・４　　単位：２
授業期間：１　　毎週授業時間：２】

領域：社会を知る

	科目番号	授　業　科　目
日常への洞察	GEC1043	今日の道徳的ディレンマ
	GEC1044	世界の宗教
	GEC1045	環境の倫理学
	GEC1046	企業と社会
	GEC1047	技術と社会
	GEC1048	生活の中の経済学
	GEC1049	メディア・リテラシー入門
	GEC1050	イスラム社会を考える
	GEC1051	日本の伝統文化
	GEC1052	方言学入門
	GEC1053	共生社会のライフデザイン
	GEC1054	日本の社会と生活の歴史
	GEC1055	優良企業の見分け方
	GEC1056	社会学で学ぶ現代社会
	GEC1057	法実務入門
	GEC1058	地域再発見の旅
	GEC1059	旅から始める知の冒険
	GEC1060	移動する人々
	GEC1061	オリンピックの共生思想
	GEC1062	外来文化と日本の歴史
	GEC1063	アジアの中の日本歴史
	GEC1064	世界の中の日本経済
	GEC1065	日本史の中の平和と戦争
	GEC1066	世界史の中の平和と戦争
	GEC1067	読書への誘い
教養を深める（知の見取り図）	GEC1068	倫理学を学ぶ
	GEC1069	民俗学を学ぶ
	GEC1070	基礎からのマクロ経済学
	GEC1071	基礎からのミクロ経済学
	GEC1072	社会学入門
	GEC1073	基礎からの情報処理
	GEC1074	ビジネスを学ぶ
	GEC1075	日本の歴史を学ぶ
	GEC1076	アジア史を学ぶ
	GEC1077	西洋の歴史を学ぶ
	GEC1078	社会思想史を学ぶ
教養を深める（知の探求）	GEC1079	名作を読む
	GEC1080	哲学の古典を読み解く
	GEC1081	聖典と宗教思想
	GEC1082	近代市民社会思想を知ろう
	GEC1083	労働と雇用を考える
	GEC1084	日本の地域史を考える
	GEC1085	世界の地域文化を知ろう
	GEC1086	少子高齢化社会を考える
	GEC1087	日本史の中の女性と社会を知ろう
	GEC1088	日本社会の成熟と変動を知ろう
	GEC1089	強い会社のマネジメントを知る
	GEC1090	西洋世界の社会と歴史を考える
	GEC1091	欧米世界の歴史と文化を知ろう
	GEC1092	中国と日本の文化交流
	GEC1093	異文化への理解を深める
	GEC1094	現代都市の生態とエスニシティ
	GEC1095	社会的養育を考える
チャレンジ科目	GEC1096	各テーマ

領域：自然と向き合う

	科目番号	授　業　科　目
日常への洞察	GEC1097	身の回りの化学
	GEC1098	確率・統計でものを考える
	GEC1099	自然災害の科学
	GEC1100	科学と文化
	GEC1101	生物と環境
	GEC1102	人類紀の環境変動
	GEC1103	建築と景観
	GEC1104	エネルギーと環境
	GEC1105	科学と技術
	GEC1106	現代科学の展開
	GEC1107	統計学を学ぶ
教養を深める（知の見取り図）	GEC1108	自然地理学を学ぶ
	GEC1109	自然科学史を学ぶ
	GEC1110	バイオサイエンス入門
	GEC1111	数学を学ぶ（各テーマ）
	GEC1112	物理を学ぶ（各テーマ）
教養を深める（知の探求）	GEC1113	仕組みを形にする科学技術
	GEC1114	現代社会を支える電気電子情報技術
	GEC1115	宇宙のすがたと歴史
	GEC1116	近代科学の系譜
	GEC1117	気象と気候を学ぶ
	GEC1118	地震と火山のメカニズムと防災
チャレンジ科目	GEC1119	各テーマ

【配当年次：1・2・3・4　　単位：2　　授業期間：1　　毎週授業時間：2】

《健康・スポーツ科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GED1001	健康・スポーツ科学実習a(各種目)	1	1	1	2
GED1002	健康・スポーツ科学実習b(各種目)	1	1	1	2
GED1003	健康・スポーツ科学実習c(各種目)	1	1	1	2
GED1004	健康・スポーツ科学論	1	2	1	2
	(生涯スポーツ・身体運動文化コース)				
GED1005	関西大学スポーツ文化論	1	2	1	2
GED1006	スポーツ運動学概論	1	2	1	2
GED1007	スポーツ社会学概論	1	2	1	2
GED1008	スポーツ心理学概論	1	2	1	2
GED1009	スポーツ栄養学概論	1	2	1	2
GED1010	コーチングの科学	1	2	1	2
GED1011	トレーニング科学概論	1	2	1	2
GED1012	コンディショニング科学概論	1	2	1	2

《キャリア形成科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEE1001	大学生から始めるキャリア形成	1	2	1	2
GEE1002	キャリア形成入門演習	1	2	1	2
GEE2001	理論と実践から探求するキャリア形成	2	2	1	2
GEE2002	現代社会を生き抜くためのキャリア形成	2	2	1	2
GEE2003	キャリア形成実践演習	2	2	1	2
GEE1003	インターンシップ(ビジネス)	1~3	2	1	4
GEE1004	インターンシップ（学校１）	1~4	2	1	4
GEE1005	インターンシップ（学校２）	1~4	2	1	4
GEE1006	インターンシップ（学校３）	1~4	2	1	4

《グローバル科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学準備スキルアップ科目】				
GEF2001	Foundation for Academic English	1~4	2	1	2
GEF1001	Academic Writing Practice	1~4	2	1	2
GEF2002	Academic Discussions & Debates	1~4	2	1	2
GEF2003	Presentation Skills	1~4	2	1	2
GEF2004	留学のための英語スキルアップ	1~4	2	1	2
GEF2005	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2006	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2007	ASEAN Studies	1~4	2	1	2
GEF1002	Understanding Cross-Cultural Communication	1~4	2	1	2
GEF1003	KUGF Independent Study (English Skills Development)	1~4	2	1	2
GEF2008	KUGF Independent Study (Doing a Research in English)	1~4	2	1	2
GEF2009	Global Awareness Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2010	Global Awareness Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2011	English Communication Skills for Business Contexts	1~4	2	1	2
	【グローバル・フロンティア科目】				
	Module 1 . Engineering Approach to Urban Issues				
GEF3001	Disaster Transport Planning	1~4	2	1	2
	Module 2. Food Science & Biotechnology				
GEF3002	Biotechnology and Bioethics	1~4	2	1	2
GEF3003	Marketing of Food, Alcohol and Cosmetics	1~4	2	1	2
GEF3004	Science of Washoku (Japanese Cuisine)	1~4	2	1	2
GEF3005	Food Safety	1~4	2	1	2
GEF3006	Polysaccharide Science	1~4	2	1	2
	Module 3 .International Business & Entrepreneurship				
GEF3007	International Business for Entrepreneurs	1~4	2	1	2
GEF3008	Japanese Industries and Companies (The Global Competition)	1~4	2	1	2
GEF3009	Business & Japanese People	1~4	2	1	2
GEF3010	Marketing in Japan	1~4	2	1	2
GEF3011	Business for SDGs (Sustainable Development Goals)	1~4	2	1	2
	Module 4 . Japan Studies				
GEF3012	Japanese Philosophy and Thoughts	1~4	2	1	2
GEF3013	Japanese Religion	1~4	2	1	2
GEF3014	Japanese Arts	1~4	2	1	2
GEF3015	Japanese History (The History and Culture of Medieval Japan)	1~4	2	1	2
GEF3016	Japanese History (Bushido: The Way of the Warrior)	1~4	2	1	2
GEF3017	Japanese Literature (Survey of Post-1945)	1~4	2	1	2
GEF3018	Japanese Literature (Intro. to Classical JPN Literature)	1~4	2	1	2
GEF3019	Japanese Culture (Modern Culture and Post-war History)	1~4	2	1	2
GEF3020	Japanese Culture (JPN Culture and Contemporary Literature)	1~4	2	1	2
GEF3021	Comparative Asian Cultures Studies	1~4	2	1	2
GEF3022	Japanese Law and Politics	1~4	2	1	2
GEF3023	Japanese Economy (Topics in Japanese Economy and Discussion)	1~4	2	1	2
GEF3024	Japanese Society	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEF3025	Japanese Popular Culture (Postwar Japanese Culture)	1~4	2	1	2
GEF3026	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. to Kendo)	1~4	2	1	2
GEF3027	Seminar in Japanology (The Japanese Language and Society)	1~4	2	1	2
GEF3028	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. To Naginata)	1~4	2	1	2
GEF3029	Seminar in Japanology (War and Conflict through JPN Film)	1~4	2	1	2
	Module 5 . Language Teaching & Communication				
GEF3030	Second Language Acquisition	3	2	1	2
GEF3031	Individual Differences in Language Learning	3	2	1	2
GEF3032	Ed. Tech. & Materials Development in FLT	3	2	1	2
GEF3033	Early Foreign Language Education	3	2	1	2
GEF3034	Structure of Language (discourse and meaning)	3	2	1	2
GEF3035	Linguistic Analysis (English)	3	2	1	2
GEF3036	International Business Communication	3	2	1	2
	Module 6 . Studies on Foreign Affairs				
GEF3037	International Development	1~4	2	1	2
GEF3038	Area Studies (Europe I)	1~4	2	1	2
GEF3039	Area Studies (Europe II)	1~4	2	1	2
GEF3040	Area Studies (India)	1~4	2	1	2
GEF3041	Japan in International Affairs	1~4	2	1	2
	Module 7 . Fundamentals for Social Science Studies				
GEF3042	Critical Thinking for Social and Global Issues	1~4	2	1	2
GEF3043	Research Methods for Social Science	1~4	2	1	2
GEF3044	Global Sociology	1~4	2	1	2
GEF3045	Japanese Computerization and Society	1~4	2	1	2
GEF3046	Methods of Comparative Analysis (ENG and JPN Communication)	1~4	2	1	2
GEF3047	Contemporary Gender Studies	1~4	2	1	2
	Module 8 . Applied Science and Engineering				
GEF3048	Japanese Science and Technology	1~4	2	1	2
GEF3049	Environmental Biology	1~4	2	1	2
GEF3050	Information and Communication Technologies	1~4	2	1	2
GEF3051	Introduction to Applied Science	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学実践科目】				
GEF1004	KUGF Field Study（各プログラム）	1~4	2	1	4
GEF1005	海外研修（各セミナー）	1~4	1~2	1	4
GEF1006	外国語運用実習(各セミナー)	1~4	1	1	2

《大学・学部・社会連携科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【大学連携科目】				
	〔大学コンソーシアム大阪プログラム〕				
GEG1001	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【学部連携科目】				
	〔学部オープン科目〕				
GEG1002	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【社会連携科目】				
	(講義科目)				
GEG1003	国際協力の基礎を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1004	国際協力ボランティアの理論を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1005	国際協力レディネス	1~4	2	1	2
GEG1006	国際協力フォローアップ	1~4	2	1	2
	(実習科目)				
GEG1007	国際協力ボランティア実習A	1~4	4	1	8
GEG1008	国際協力ボランティア実習B	1~4	2	1	4
GEG1009	国際協力ボランティア実習C	1~4	1	1	2
GEG3001	サービスラーニング(各テーマ)	3	2	1	2

※共通教養科目の開講科目等詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

2　外国語科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GFE1001	英語Ⅰa	1	1	2	1
GFE1002	英語Ⅰb	1	1	2	
GFE1003	英語Ⅱa	1	1	2	
GFE1004	英語Ⅱb	1	1	2	
GFG1001	ドイツ語Ⅰa	1	1	2	
GFG1002	ドイツ語Ⅰb	1	1	2	
GFG1003	ドイツ語Ⅱa	1	1	2	
GFG1004	ドイツ語Ⅱb	1	1	2	
GFF1001	フランス語Ⅰa	1	1	2	
GFF1002	フランス語Ⅰb	1	1	2	
GFF1003	フランス語Ⅱa	1	1	2	
GFF1004	フランス語Ⅱb	1	1	2	
GFR1001	ロシア語Ⅰa	1	1	2	
GFR1002	ロシア語Ⅰb	1	1	2	
GFR1003	ロシア語Ⅱa	1	1	2	
GFR1004	ロシア語Ⅱb	1	1	2	
GFS1001	スペイン語Ⅰa	1	1	2	
GFS1002	スペイン語Ⅰb	1	1	2	
GFS1003	スペイン語Ⅱa	1	1	2	
GFS1004	スペイン語Ⅱb	1	1	2	
GFC1001	中国語Ⅰa	1	1	2	
GFC1002	中国語Ⅰb	1	1	2	
GFC1003	中国語Ⅱa	1	1	2	
GFC1004	中国語Ⅱb	1	1	2	
GFK1001	朝鮮語Ⅰa	1	1	2	
GFK1002	朝鮮語Ⅰb	1	1	2	
GFK1003	朝鮮語Ⅱa	1	1	2	
GFK1004	朝鮮語Ⅱb	1	1	2	
GFE2001	英語Ⅲa	1	1	2	2
GFE2002	英語Ⅲb	1	1	2	
GFE2003	英語Ⅳa	1	1	2	
GFE2004	英語Ⅳb	1	1	2	
GFG2001	ドイツ語Ⅲa	1	1	2	
GFG2002	ドイツ語Ⅲb	1	1	2	
GFG2003	ドイツ語Ⅳa	1	1	2	
GFG2004	ドイツ語Ⅳb	1	1	2	
GFF2001	フランス語Ⅲa	1	1	2	
GFF2002	フランス語Ⅲb	1	1	2	
GFF2003	フランス語Ⅳa	1	1	2	
GFF2004	フランス語Ⅳb	1	1	2	
GFR2001	ロシア語Ⅲa	1	1	2	
GFR2002	ロシア語Ⅲb	1	1	2	
GFR2003	ロシア語Ⅳa	1	1	2	
GFR2004	ロシア語Ⅳb	1	1	2	
GFS2001	スペイン語Ⅲa	1	1	2	
GFS2002	スペイン語Ⅲb	1	1	2	
GFS2003	スペイン語Ⅳa	1	1	2	
GFS2004	スペイン語Ⅳb	1	1	2	
GFC2001	中国語Ⅲa	1	1	2	2
GFC2002	中国語Ⅲb	1	1	2	
GFC2003	中国語Ⅳa	1	1	2	
GFC2004	中国語Ⅳb	1	1	2	
GFK2001	朝鮮語Ⅲa	1	1	2	
GFK2002	朝鮮語Ⅲb	1	1	2	
GFK2003	朝鮮語Ⅳa	1	1	2	
GFK2004	朝鮮語Ⅳb	1	1	2	
GFE3001	英語Ⅴa（各テーマ）	1	1	2	3
GFE3002	英語Ⅴb（各テーマ）	1	1	2	
GFE3003	英語Ⅵa（各テーマ）	1	1	2	
GFE3004	英語Ⅵb（各テーマ）	1	1	2	
GFG3001	ドイツ語Ⅴa	1	1	2	
GFG3002	ドイツ語Ⅴb	1	1	2	
GFG3003	ドイツ語Ⅵa	1	1	2	
GFG3004	ドイツ語Ⅵb	1	1	2	
GFF3001	フランス語Ⅴa	1	1	2	
GFF3002	フランス語Ⅴb	1	1	2	
GFF3003	フランス語Ⅵa	1	1	2	
GFF3004	フランス語Ⅵb	1	1	2	
GFR3001	ロシア語Ⅴa	1	1	2	
GFR3002	ロシア語Ⅴb	1	1	2	
GFR3003	ロシア語Ⅵa	1	1	2	
GFR3004	ロシア語Ⅵb	1	1	2	
GFS3001	スペイン語Ⅴa	1	1	2	
GFS3002	スペイン語Ⅴb	1	1	2	
GFS3003	スペイン語Ⅵa	1	1	2	
GFS3004	スペイン語Ⅵb	1	1	2	
GFC3001	中国語Ⅴa	1	1	2	
GFC3002	中国語Ⅴb	1	1	2	
GFC3003	中国語Ⅵa	1	1	2	
GFC3004	中国語Ⅵb	1	1	2	
GFK3001	朝鮮語Ⅴa	1	1	2	
GFK3002	朝鮮語Ⅴb	1	1	2	
GFK3003	朝鮮語Ⅵa	1	1	2	
GFK3004	朝鮮語Ⅵb	1	1	2	
GFO1001	検定認定1（各検定試験）	2	—	—	1~4
GFO1002	検定認定2（各検定試験）	2	—	—	
GFO1003	検定認定3（各検定試験）	2	—	—	

3　専門教育科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
	〔基幹科目〕				
LAP1	現代政治論1	2	1	2	1
LAP1	現代政治論2	2	1	2	
LAP1	基礎法学	2	1	2	
LAP1	憲法1	2	1	2	
LAP1	憲法2	2	1	2	
LAP1	民法1	2	1	2	
LAP1	民法2	2	1	2	
LAP1	刑法各論	2	1	2	
	〔演習科目〕				
LAP1	導入演習	2	1	2	*1
LAP1	基礎演習	2	1	2	
LAP2	発展演習政治学	2	1	2	*2
LAP2	発展演習憲法	2	1	2	
LAP2	発展演習民法	2	1	2	
LAP2	発展演習刑法	2	1	2	
LAP2	発展演習基礎法	2	1	2	
LAP2	トピック演習	2	1	2	
LAP2	外国書研究1	2	1	2	2
LAP2	外国書研究2	2	1	2	
LAP3	専門演習1a	2	1	2	3
LAP3	専門演習1b	2	1	2	
LAP3	外国書研究3	2	1	2	3
LAP3	外国書研究4	2	1	2	
LAP4	専門演習2a	2	1	2	*4
LAP4	専門演習2b	2	1	2	
LAP4	研究論文	2	—	—	
	〔講義科目〕				
LAP1	法思想史1	2	1	2	1
LAP1	法思想史2	2	1	2	
LAP1	法社会学1	2	1	2	
LAP1	法社会学2	2	1	2	
LAP1	民法3	2	1	2	
LAP1	民法7	2	1	2	
LAP1	刑法総論	2	1	2	
LAP1	法学入門	2	1	2	
LAP1	日本政治史1	2	1	2	
LAP1	日本政治史2	2	1	2	
LAP1	西洋政治史1	2	1	2	
LAP1	西洋政治史2	2	1	2	
LAP1	政治思想史1	2	1	2	
LAP1	政治思想史2	2	1	2	
LAP2	法哲学1	2	1	2	2
LAP2	法哲学2	2	1	2	2
LAP2	日本法制史1	2	1	2	2
LAP2	日本法制史2	2	1	2	2
LAP2	東洋法制史1	2	1	2	2
LAP2	東洋法制史2	2	1	2	2
LAP2	西洋法制史1	2	1	2	2
LAP2	西洋法制史2	2	1	2	2
LAP3	ローマ法1	2	1	2	3
LAP3	ローマ法2	2	1	2	3
LAP3	比較法文化学	2	1	2	3
LAP3	外国法（各テーマ）	2	1	2	3
LAP2	憲法3	2	1	2	2
LAP2	憲法4	2	1	2	2
LAP3	比較憲法	2	1	2	3
LAP2	行政法1	2	1	2	2
LAP2	行政法2	2	1	2	2
LAP2	行政救済法1	2	1	2	2
LAP2	行政救済法2	2	1	2	2
LAP3	地方自治法	2	1	2	3
LAP2	租税法1	2	1	2	2
LAP2	租税法2	2	1	2	2
LAP2	事例講義憲法(各テーマ)	2	1	2	2
LAP2	民法4	2	1	2	2
LAP2	民法5	2	1	2	2
LAP2	民法6	2	1	2	2
LAP2	民法8	2	1	2	2
LAP2	民法詳論1	2	1	2	2
LAP2	民法詳論2	2	1	2	2
LAP2	事例講義民事法(各テーマ)	2	1	2	2
LAP2	知的財産法1	2	1	2	2
LAP2	知的財産法2	2	1	2	2
LAP2	刑事訴訟法1	2	1	2	2
LAP2	刑事訴訟法2	2	1	2	2
LAP2	刑事学総論	2	1	2	2
LAP2	刑事学各論	2	1	2	2
LAP2	事例講義刑事法(各テーマ)	2	1	2	2
LAP2	商法総則・商行為法	2	1	2	2
LAP2	会社法1	2	1	2	2
LAP2	会社法2	2	1	2	2
LAP3	会社法3	2	1	2	3
LAP2	有価証券法	2	1	2	2
LAP2	保険法	2	1	2	2
LAP2	海商法	2	1	2	2
LAP2	経済法1	2	1	2	2
LAP2	経済法2	2	1	2	2
LAP2	民事訴訟法1	2	1	2	2
LAP2	民事訴訟法2	2	1	2	2
LAP3	民事訴訟法3	2	1	2	3
LAP3	民事執行・保全法1	2	1	2	3
LAP3	民事執行・保全法2	2	1	2	3
LAP3	倒産法1	2	1	2	3
LAP3	倒産法2	2	1	2	3
LAP2	国際法1	2	1	2	2
LAP2	国際法2	2	1	2	2
LAP3	国際法3	2	1	2	3
LAP3	国際法4	2	1	2	3
LAP3	国際法5	2	1	2	3
LAP3	国際法6	2	1	2	3
LAP2	国際私法1	2	1	2	2
LAP2	国際私法2	2	1	2	2

・配当年次は、該当年次以上において履修可能であることを示しています。
・「＊」がついている科目については、記載の年次の学生のみ履修可能であることを意味します。

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
LAP3	国際取引法1	2	1	2	3
LAP3	国際取引法2	2	1	2	3
LAP2	労働法1	2	1	2	2
LAP2	労働法2	2	1	2	2
LAP2	労働法3	2	1	2	2
LAP2	労働法4	2	1	2	2
LAP2	社会保障法1	2	1	2	2
LAP2	社会保障法2	2	1	2	2
LAP2	経済原論1	2	1	2	2
LAP2	経済原論2	2	1	2	2
LAP2	政治哲学1	2	1	2	2
LAP2	政治哲学2	2	1	2	2
LAP2	国際政治学1	2	1	2	2
LAP2	国際政治学2	2	1	2	2
LAP2	外交史1	2	1	2	2
LAP2	外交史2	2	1	2	2
LAP2	国際政治経済論1	2	1	2	2
LAP2	国際政治経済論2	2	1	2	2
LAP3	中国の政治	2	1	2	3
LAP3	東南アジアの政治	2	1	2	3
LAP3	アメリカの政治	2	1	2	3
LAP3	イスラーム圏の政治	2	1	2	3
LAP2	政治学原論1	2	1	2	2
LAP2	政治学原論2	2	1	2	2
LAP2	政治過程論1	2	1	2	2
LAP2	政治過程論2	2	1	2	2
LAP2	比較政治学1	2	1	2	2
LAP2	比較政治学2	2	1	2	2
LAP2	政治心理学1	2	1	2	2
LAP2	政治心理学2	2	1	2	2
LAP2	行政学1	2	1	2	2
LAP2	行政学2	2	1	2	2
LAP3	地方政治論1	2	1	2	3
LAP3	地方政治論2	2	1	2	3
LAP2	社会学概論1	2	1	2	2
LAP2	社会学概論2	2	1	2	2
LAP3	公務員論1	2	1	2	3
LAP3	公務員論2	2	1	2	3
LAP2	公共政策学1	2	1	2	2
LAP2	公共政策学2	2	1	2	2
LAP3	公共政策学3	2	1	2	3
LAP3	公共政策学4	2	1	2	3
LAP3	経済政策1	2	1	2	3
LAP3	経済政策2	2	1	2	3
LAP3	社会政策1	2	1	2	3
LAP3	社会政策2	2	1	2	3
LAP3	財政学1	2	1	2	3
LAP3	財政学2	2	1	2	3
LAP2	展開講義1（各テーマ）	2	1	2	2
LAP3	展開講義2（各テーマ）	2	1	2	3

・配当年次は、該当年次以上において履修可能であることを示しています。
・「＊」がついている科目については、記載の年次の学生のみ履修可能であることを意味します。

4　専門教育科目（自由科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
LAP1	教職概説	2	1	2	1~4
LAP1	教育原理	2	1	2	
LAP1	図書館情報資源概論	2	1	2	
LAP1	日本史概説a	2	1	2	
LAP1	日本史概説b	2	1	2	
LAP1	人文地理学概説a	2	1	2	
LAP1	人文地理学概説b	2	1	2	
LAP1	自然地理学概説a	2	1	2	
LAP1	自然地理学概説b	2	1	2	
LAP1	地誌学a	2	1	2	
LAP1	地誌学b	2	1	2	
LAP1	宗教学概論a	2	1	2	
LAP1	宗教学概論b	2	1	2	
LAP1	心理学の諸理論	2	1	2	
LAP1	倫理学概論a	2	1	2	
LAP1	倫理学概論b	2	1	2	
LAP2	教育制度論	2	1	2	2~4
LAP2	教育心理学	2	1	2	
LAP2	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）	2	1	2	
LAP2	社会科教育法（一）	2	1	2	
LAP2	社会科教育法（二）	2	1	2	
LAP2	地理歴史科教育法（一）	2	1	2	
LAP2	地理歴史科教育法（二）	2	1	2	
LAP2	公民科教育法（一）	2	1	2	
LAP2	公民科教育法（二）	2	1	2	
LAP2	道徳教育の理論と方法	2	1	2	
LAP2	人権教育論	2	1	2	
LAP2	東洋史	2	1	2	
LAP2	西洋史	2	1	2	
LAP2	地理学概説a	2	1	2	
LAP2	地理学概説b	2	1	2	
LAP2	メディア教育論	2	1	2	
LAP2	特別活動論	2	1	2	
LAP2	教育相談論	2	1	2	
LAP2	ジェンダーと教育	2	1	2	
LAP2	教育と文化の社会学	2	1	2	
LAP2	情報資源組織論	2	1	2	
LAP2	学校経営と学校図書論	2	1	2	
LAP2	学習指導と学校図書館	2	1	2	
LAP2	読書と豊かな人間性	2	1	2	
LAP2	情報メディアの活用	2	1	2	
LAP2	哲学概論a	2	1	2	
LAP2	哲学概論b	2	1	2	
LAP3	教育実習事前指導	1	1	2	3
LAP3	特別支援教育論	1	1	2	3~4
LAP3	カリキュラム開発論	2	1	2	
LAP3	社会科教育法（三）	2	1	2	
LAP3	社会科教育法（四）	2	1	2	
LAP3	生徒・進路指導論	2	1	2	
LAP3	総合的な学習の時間の指導法	1	1	2	
LAP3	教育実習（一）	2	1	4	
LAP4	教育実習（二）	2	1	4	4
LAP4	教職実践演習（中等）	2	1	2	

5　外国人留学生科目・外国語科目

種別		科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
外国人留学生科目	必修	FOS1001	日本語Ⅰ	2	1	4	1
		FOS1002	日本語Ⅱ	2	1	4	
		FOS1003	日本語Ⅲ	2	1	4	
		FOS1004	日本語Ⅳ	2	1	4	
	選択	FOS1005	日本事情Ⅰ	2	1	2	1~4
		FOS1006	日本事情Ⅱ	2	1	2	
		FOS2001	実践ビジネス日本語Ⅰ	2	1	2	2~4
		FOS2002	実践ビジネス日本語Ⅱ	2	1	2	
		FOS2003	キャリアデザインⅠ（日本の社会と企業）	2	1	2	
		FOS2004	キャリアデザインⅡ（日本の就職と働き方）	2	1	2	
		FOS3001	キャリアデザインⅢ（日本の社会で働く）	2	1	2	3~4
	自由	FOS1007	Contemporary Japan (Understanding Japan)	2	1	2	1~4
		FOS1008	Contemporary Japan (Researching Japan)	2	1	2	1~4
		FOS1009	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 1)	2	1	2	1~4
		FOS1010	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 2)	2	1	2	1~4
		FOS1011	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 1)	2	1	2	1~4
		FOS1012	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 2)	2	1	2	1~4
		FOS1013	Communication in Japanese Society (Business Japanese)	2	1	2	1~4
		FOS1014	Communication in Japanese Society JPN Corporate Culture)	2	1	2	1~4
		FOS1015	Field-Based Learning (Society and Workplace Culture in Japan)	2	1	2	1~4
		FOS1016	Japanese（1-a）	2	1	4	1~4
		FOS1017	Japanese（1-b）	2	1	4	1~4
		FOS1018	Japanese（2-a）	2	1	4	1~4
		FOS1019	Japanese（2-b）	2	1	4	1~4
		FOS1020	Japanese（3-a）	2	1	4	1~4
		FOS1021	Japanese（3-b）	2	1	4	1~4
		FOS1022	Japanese（4-a）	2	1	4	1~4
		FOS1023	Japanese（4-b）	2	1	4	1~4
		FOS1024	Japanese（5-a）	2	1	4	1~4
		FOS1025	Japanese（5-b）	2	1	4	1~4
		FOS1026	Japanese（6-a）	2	1	4	1~4
		FOS1027	Japanese（6-b）	2	1	4	1~4
		FOS1028	Japanese（7-a）	2	1	4	1~4
		FOS1029	Japanese（7-b）	2	1	4	1~4
外国語科目	選択必修	GFE1001	英語Ⅰa	1	1	2	1
		GFE1002	英語Ⅰb	1	1	2	
		GFE1003	英語Ⅱa	1	1	2	
		GFE1004	英語Ⅱb	1	1	2	
		GFG1001	ドイツ語Ⅰa	1	1	2	
		GFG1002	ドイツ語Ⅰb	1	1	2	
		GFG1003	ドイツ語Ⅱa	1	1	2	
		GFG1004	ドイツ語Ⅱb	1	1	2	
		GFF1001	フランス語Ⅰa	1	1	2	
		GFF1002	フランス語Ⅰb	1	1	2	1
		GFF1003	フランス語Ⅱa	1	1	2	
		GFF1004	フランス語Ⅱb	1	1	2	
		GFR1001	ロシア語Ⅰa	1	1	2	
		GFR1002	ロシア語Ⅰb	1	1	2	
		GFR1003	ロシア語Ⅱa	1	1	2	
		GFR1004	ロシア語Ⅱb	1	1	2	
		GFS1001	スペイン語Ⅰa	1	1	2	
		GFS1002	スペイン語Ⅰb	1	1	2	
		GFS1003	スペイン語Ⅱa	1	1	2	
		GFS1004	スペイン語Ⅱb	1	1	2	
		GFC1001	中国語Ⅰa	1	1	2	
		GFC1002	中国語Ⅰb	1	1	2	
		GFC1003	中国語Ⅱa	1	1	2	
		GFC1004	中国語Ⅱb	1	1	2	
		GFK1001	朝鮮語Ⅰa	1	1	2	
		GFK1002	朝鮮語Ⅰb	1	1	2	
		GFK1003	朝鮮語Ⅱa	1	1	2	
		GFK1004	朝鮮語Ⅱb	1	1	2	
		GFE2001	英語Ⅲa	1	1	2	2
		GFE2002	英語Ⅲb	1	1	2	
		GFE2003	英語Ⅳa	1	1	2	
		GFE2004	英語Ⅳb	1	1	2	
		GFG2001	ドイツ語Ⅲa	1	1	2	
		GFG2002	ドイツ語Ⅲb	1	1	2	
		GFG2003	ドイツ語Ⅳa	1	1	2	
		GFG2004	ドイツ語Ⅳb	1	1	2	
		GFF2001	フランス語Ⅲa	1	1	2	
		GFF2002	フランス語Ⅲb	1	1	2	
		GFF2003	フランス語Ⅳa	1	1	2	
		GFF2004	フランス語Ⅳb	1	1	2	
		GFR2001	ロシア語Ⅲa	1	1	2	
		GFR2002	ロシア語Ⅲb	1	1	2	
		GFR2003	ロシア語Ⅳa	1	1	2	
		GFR2004	ロシア語Ⅳb	1	1	2	
		GFS2001	スペイン語Ⅲa	1	1	2	
		GFS2002	スペイン語Ⅲb	1	1	2	
		GFS2003	スペイン語Ⅳa	1	1	2	
		GFS2004	スペイン語Ⅳb	1	1	2	
		GFC2001	中国語Ⅲa	1	1	2	
		GFC2002	中国語Ⅲb	1	1	2	
		GFC2003	中国語Ⅳa	1	1	2	
		GFC2004	中国語Ⅳb	1	1	2	
		GFK2001	朝鮮語Ⅲa	1	1	2	
		GFK2002	朝鮮語Ⅲb	1	1	2	
		GFK2003	朝鮮語Ⅳa	1	1	2	
		GFK2004	朝鮮語Ⅳb	1	1	2	
		GFE3001	英語Ⅴa（各テーマ）	1	1	2	3
		GFE3002	英語Ⅴb（各テーマ）	1	1	2	
		GFE3003	英語Ⅵa（各テーマ）	1	1	2	
		GFE3004	英語Ⅵb（各テーマ）	1	1	2	
		GFG3001	ドイツ語Ⅴa	1	1	2	

種別		科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
外国語科目	選択必修	GFG3002	ドイツ語Vb	1	1	2	
		GFG3003	ドイツ語VIa	1	1	2	
		GFG3004	ドイツ語VIb	1	1	2	
		GFF3001	フランス語Va	1	1	2	
		GFF3002	フランス語Vb	1	1	2	
		GFF3003	フランス語VIa	1	1	2	
		GFF3004	フランス語VIb	1	1	2	
		GFR3001	ロシア語Va	1	1	2	
		GFR3002	ロシア語Vb	1	1	2	
		GFR3003	ロシア語VIa	1	1	2	
		GFR3004	ロシア語VIb	1	1	2	
		GFS3001	スペイン語Va	1	1	2	3
		GFS3002	スペイン語Vb	1	1	2	
		GFS3003	スペイン語VIa	1	1	2	
		GFS3004	スペイン語VIb	1	1	2	
		GFC3001	中国語Va	1	1	2	
		GFC3002	中国語Vb	1	1	2	
		GFC3003	中国語VIa	1	1	2	
		GFC3004	中国語VIb	1	1	2	
		GFK3001	朝鮮語Va	1	1	2	
		GFK3002	朝鮮語Vb	1	1	2	
		GFK3003	朝鮮語VIa	1	1	2	
		GFK3004	朝鮮語VIb	1	1	2	
		GFO1001	検定認定1(各検定試験)	2	—	—	
		GFO1002	検定認定2(各検定試験)	2	—	—	1~4
		GFO1003	検定認定3(各検定試験)	2	—	—	

［科目番号について］

本学では、科目の特性・配当年次を示すため、各科目に科目番号を付与しています。

〈共通教養科目〉

アルファベット３桁で「共通教養科目」と「群」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。また、共通教養科目のうちグローバル科目群の留学準備スキルアップ科目及びグローバル・フロンティア科目は、配当年次に代えて外部テストによる難易度を示しています。

GE	A	1	000
種別	群	配当年次（難易度）	連番

種別　共通教養科目はすべてGE

群

A	関西大学科目群
B	基盤科目群
C	自己形成科目群
D	健康・スポーツ科目群
E	キャリア形成科目群
F	グローバル科目群
G	大学・学部・社会連携科目群

難易度（受講には各レベルの英語運用能力が必要です）

番号	レベル
1	GTECテスト180点未満 TOEFL ITP®Test430点未満 TOEFL iBT®Test40点未満 TOEIC®L&RTest375点未満 英語検定準２級未満
2	GTECテスト180点以上260点未満 TOEFL ITP®Test430点以上505点未満 TOEFL iBT®Test40点以上60点未満 TOEIC®L&RTest375点以上580点未満 英語検定準２級及び２級
3	GTECテスト260点以上 TOEFL ITP®Test505点以上 TOEFL iBT®Test60点以上 TOEIC®L&RTest580点以上 英語検定準１級及び１級

〈外国語科目〉

アルファベット3桁で「外国語科目」と「語種」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

GF　E　1　000
種別　語種　配当年次　連番

種別　外国語科目はすべてGF

語種

E	英語
G	ドイツ語
F	フランス語
R	ロシア語
S	スペイン語
C	中国語
K	朝鮮語
O	検定認定：Official-Test　Accreditation

〈外国人留学生科目〉

アルファベット3桁で「外国人留学生科目」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

FOS　1　000
種別　配当年次　連番

種別　外国人留学生科目はすべてFOS

〈専門教育科目〉

法学部を示すアルファベット3桁（LAP）、配当年次以上を示す1桁で構成されています。

「＊」がついている科目については、記載の年次の学生のみ履修可能であることを意味します。

LAP　1
学部　配当年次

文　学　部

文学部　総合人文学科には、次の16専修があります。〔(　) 内はカリキュラムコースを示す〕

英米文学英語学専修	英米文化専修	国語国文学専修 (国文学、国語学)	哲学倫理学専修
比較宗教学専修	芸術学美術史専修	ヨーロッパ文化専修 (フランス言語文化、ドイツ言語文化)	日本史・文化遺産学専修
世界史専修	地理学・地域環境学専修	教育文化専修	初等教育学専修
心理学専修	映像文化専修	文化共生学専修	アジア文化専修 (アジア文化、中国言語文化)

Ⅰ　教育に関する三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部では、人文学各分野の専門性とそれを俯瞰する総合性を兼ね備えた21世紀型市民の育成をめざします。この目的を具現化した人材として、以下の能力を身につけた者に対して学士（文学）の学位を授与します。

1　（知識・技能）

現代の知的営みの一環である人文学に対する幅広い理解に基づき、専門分野の知識を体系的に述べることができる。

2　（思考力・判断力・表現力等の能力）

「考動力」を発揮して、自ら課題を発見し、人文学の知見と方法に照らして多角的に探求し、思考の過程を的確に表現することができる。

3　（主体的な態度）

社会や文化の多様性を把握し、他者とのコミュニケーションのなかで自己を自律的に確立していくことができる。

教育課程編成･実施の方針（カリキュラム･ポリシー）

文学部では、学位授与の方針に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体的な態度の修得を実現するために、以下の方針にしたがって、教養教育、専門教育の科目を体系的に編成します。

1　教育内容

(1)　教養教育

ア　人間・社会・自然・国際等の各領域にまたがる幅広い教養を身につけ、人類の知的営みのなかで自らの学びを位置づけられるように、多様な共通教養科目を配置する。

イ　異文化を理解し、異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーション手段としての外国語運用能力の修得をはかるために、複数の外国語科目を配置する。

ウ　自らを取り巻く日常を客観的に捉え、生涯を通じて学び続ける姿勢を養うために、特色ある教養教育科目群を配置する。

(2)　専門教育

ア　人文学各分野の多様性と特性を理解し、大学での学びの技法を身につけるために初年次導入科目を設置する。

イ　選択した専門分野の知識を体系的に身につけ、自ら課題を発見し解決する力を養成するために、講義・演習・実習等の必修科目を適切に組み合わせて設置する。

ウ　人文学の総合性を俯瞰するとともに、専門性と学際性を深めるための多様な選択科目を設置する。

エ　他者とのコミュニケーション能力の伸張を目指して独自の外国語科目を設置する。

オ　上記科目には、少人数教育の環境を活かした体験学習的要素を適切に取り入れる。

2　教育評価

⑴　1年次秋学期開始時及び2・3・4年次春学期開始時に前学期までの学修状況を確認し、修得単位数・GPA等の基準に照らして適切な個別指導を行う。

⑵　4年間の学修成果の集大成として卒業論文の作成を必修とし、口頭試問を含めて合否を決定する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

文学部では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づく教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた人を求めます。

1　高等学校等での教育課程で求められる基礎的な学力を有している。具体的には、次のような学力を身につけていることを推奨する。

⑴　文章を的確に理解する読解力と、自己の考えを明確に述べるのに十分な語彙力・表現力（国語・外国語）

⑵　日本を含めた現代世界の情勢とその歴史的・地理的背景に関する基礎的事項（地歴・公民）知識

⑶　基礎的な数学的思考や自然科学的説明様式への理解力（数学・理科）

2　自己を表現し他者を理解するために必要な基本的言語運用能力を備えている。

3　人間の文化的営みに対する関心と感性を持ち、主体的に探求する姿勢を有している。

Ⅱ　教育課程について

カリキュラムの構成

文学部　総合人文学科は、次のようなカリキュラム構成となっています。文学部の開講科目には科目番号が施されています。

＊1　一般入学試験合格者のうち、「初等教育学専修」で入学した者は、1年次から初等教育学専修に分属します。

＊2　4年次に大学院文学研究科・東アジア文化研究科の一部科目を履修できますが、卒業所要単位には算入されません。

授業科目の構成

文学部で履修・修得できる授業科目は、次のとおりに大別されます。なお、各授業科目の詳細は、「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。

共通教養科目	外国語科目	専門教育科目

1　共通教養科目は、次の科目で構成されています。

<table>
<tr><td rowspan="3">関西大学
科目群</td><td rowspan="3">基盤科目群</td><td colspan="2">自己形成科目群</td><td rowspan="3">健康・スポーツ
科目群</td><td rowspan="3">キャリア形成
科目群</td><td rowspan="3">グローバル
科目群</td><td rowspan="3">大学・学部・
社会連携科目群</td></tr>
<tr><td>人間を知る</td><td>自然と向き合う</td></tr>
<tr><td>社会を知る</td><td></td></tr>
</table>

2　外国語科目は、次の科目で構成されています。

英語　ドイツ語　フランス語　ロシア語 スペイン語　中国語　朝鮮語	Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb Ⅳa・Ⅳb、Ⅴa・Ⅴb、Ⅵa・Ⅵb
外国語検定科目	検定認定１（各検定試験） 検定認定２（各検定試験） 検定認定３（各検定試験）

3　専門教育科目は、次の科目で構成されています。そして履修上、卒業のために必ず修得しなければならない「必修科目」、一定の科目選択の余地がある「選択必修科目」、自由に選択できる「選択科目」、資格取得のための「自由科目」に分かれています。

初年次導入科目 （選択必修）	・１年次に修得すべき科目で、各専修の内容を紹介する「学びの扉」「知へのパスポート」があります。 ・どの専修の科目を選択するかは自由ですが、一定の単位数は必ず修得しなければならない「選択必修科目」です。 ・また、一定数の単位未修得科目があると２年次に専修に分属できません。（詳しくは、後掲「Ⅳ専修分属について」）
総合人文学科目 （必履修及び選択）	・どの専修に所属するかにかかわらず、文学部生としての学びに不可欠な教養、アカデミックスキル、学際的視点を身につけるための科目です。 ・「知のナヴィゲーター」は１年次に必ず履修しなければなりません。「ICTベーシックス」は１年次での履修を強く推奨します。
文学部外国語科目 （選択）	・英語や第２選択外国語の「外国語科目」とは別に、文学部の学生むけに独自に開講されている科目です。 ・総合人文学を学ぶ上で特に必要とされる各言語の運用能力を修得し、言語についての知識を深めます。 ・外国語科目で選択した語種にかかわらず、自由に選択できる科目です。
専修固有科目 （必修※）	・２年次以降、所属専修で修得すべき科目で、所属専修の「○○専修ゼミ」「○○専修研究」、及び「卒業論文」がこれにあたります。 ・所属専修のものを必ず修得しなければならない「必修科目」です。 ※　所属する専修によっては、専修固有科目の一部を選択必修としている場合や、選択であるけれども資格取得のために修得を必要とする場合があります。
専修関連科目 （選択）	・２年次以降、各専修に関係の深い内容の科目が含まれます。 ・所属した専修以外の他の専修関連科目であっても自由に選択できる「選択科目」です。
資格関連科目等 （自由）	・教員免許や図書館司書など各種の資格取得のための科目などが含まれます。 ・資格取得のための「自由科目」です。

4　上記のほかに、外国人留学生のために外国人留学生科目が構成されています。
詳細は、授業科目一覧表の「４　外国人留学生科目」（後掲）を参照してください。

Ⅲ　卒業所要単位について（編・転入学生以外の１年次入学生）

卒業所要単位の内訳

1　文学部に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、124単位以上を修得した者に卒業を認め、卒業者には学士（文学）の学位が与えられます。

124単位の内訳は、２年次で分属した専修・カリキュラムコースにより次の３つに分かれます。なお、**後掲の一覧表、及び、注意事項に従って単位を修得しなければなりません**ので、間違いのないように十分注意してください（必修科目の単位数が専修・カリキュラムコースにより異なります）。

また、ここに示す単位数は科目区分ごとに必要な最低の単位数を示すもので、これが１単位でも不足すれば卒業は認められません。

【各専修における卒業所要単位の内訳】

<table>
<tr><td colspan="6">英米文学英語学、英米文化、国語国文学、哲学倫理学、比較宗教学、芸術学美術史、ヨーロッパ文化、日本史・文化遺産学、世界史、教育文化、心理学、映像文化、文化共生学、アジア文化</td></tr>
<tr><td colspan="3">科目区分</td><td colspan="3">最低修得単位数</td></tr>
<tr><td rowspan="10">共通教養科目</td><td colspan="2">関西大学科目群</td><td rowspan="10">20単位以上</td><td rowspan="13">合計
124単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">基盤科目群</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自己形成科目群</td><td>人　間　を　知　る</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>社　会　を　知　る</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>自 然 と 向 き 合 う</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">健康・スポーツ科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャリア形成科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">グローバル科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">大学・学部・社会連携科目群</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語科目</td><td colspan="2">第　１　選　択　外　国　語</td><td>８単位以上</td><td rowspan="2">16単位以上
（28単位まで）</td></tr>
<tr><td colspan="2">第　２　選　択　外　国　語</td><td>８単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td colspan="2">必　修　科　目</td><td>18単位</td><td rowspan="3">60単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">選　択　必　修　科　目</td><td>６単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">選 択 科 目 及 び 自 由 科 目</td><td>36単位以上</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">地理学・地域環境学</td></tr>
<tr><td colspan="3">科目区分</td><td colspan="3">最低修得単位数</td></tr>
<tr><td rowspan="10">共通教養科目</td><td colspan="2">関西大学科目群</td><td rowspan="10">20単位以上</td><td rowspan="13">合計
124単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">基盤科目群</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自己形成科目群</td><td>人　間　を　知　る</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>社　会　を　知　る</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td>自 然 と 向 き 合 う</td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">健康・スポーツ科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャリア形成科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">グローバル科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">大学・学部・社会連携科目群</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語科目</td><td colspan="2">第　１　選　択　外　国　語</td><td>８単位以上</td><td rowspan="2">16単位以上
（28単位まで）</td></tr>
<tr><td colspan="2">第　２　選　択　外　国　語</td><td>８単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td colspan="2">必　修　科　目</td><td>14単位</td><td rowspan="3">60単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">選　択　必　修　科　目</td><td>６単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">選 択 科 目 及 び 自 由 科 目</td><td>40単位以上</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="5">初等教育学</th></tr>
<tr><th colspan="3">科目区分</th><th colspan="2">最低修得単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="9">共通教養科目</td><td colspan="2">関西大学科目群</td><td rowspan="9">20単位以上</td><td rowspan="12">合計
124単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">基盤科目群</td></tr>
<tr><td rowspan="3">自己形成
科目群</td><td>人　間　を　知　る</td><td>2単位以上</td></tr>
<tr><td>社　会　を　知　る</td><td>2単位以上</td></tr>
<tr><td>自 然 と 向 き 合 う</td><td>2単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">健康・スポーツ科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャリア形成科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">グローバル科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">大学・学部・社会連携科目群</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語科目</td><td>第　1　選　択　外　国　語</td><td>8単位以上</td><td rowspan="2">16単位以上
(28単位まで)</td></tr>
<tr><td>第　2　選　択　外　国　語</td><td>8単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td>必　修　科　目</td><td>10単位</td><td rowspan="3">60単位以上</td></tr>
<tr><td>選　択　必　修　科　目</td><td>6単位以上</td></tr>
<tr><td>選 択 科 目 及 び 自 由 科 目</td><td>44単位以上</td></tr>
</table>

※　初等教育学専修に分属し、小学校教員免許状を取得する場合は、専修ガイダンスでの説明及び配布資料や教職支援センターホームページから自身の入学年度用の『教職課程履修の手引き』を参照し、間違いのないように履修計画を立てるようにしてください（後掲の専修固有科目（初等教育学専修）のみでは小学校教員免許状の取得はできません)。

2　各授業科目の注意事項について

⑴　共通教養科目（20単位以上）

共通教養科目の自己形成科目群の各領域（人間を知る、社会を知る、自然と向き合う）からそれぞれ2単位以上を含めて、合計20単位以上を修得しなければなりません。

なお、健康・スポーツ科目群のうち、生涯スポーツ・身体運動文化コースの科目は、スポーツ・フロンティア入学試験による入学生に限り履修できるものとし、修得した場合は、共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑵　外国語科目（16単位以上）

①　外国語科目の内訳

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語のうち、英語を含む2ヶ国語を必修とし、ひとつを第1選択外国語、他を第2選択外国語とします。なお、入学時には英語を第1選択外国語とします。

②　外国語科目の修得方法

外国語科目は、次の要領に従って合計16単位以上を修得しなければなりません。

ア　第1選択外国語

各外国語共通	Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbの計8単位必修

イ　第2選択外国語

各外国語共通	Aグループ	Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb	左記3グループのうち2グループ計8単位必修
	Bグループ	Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb	
	Cグループ	Va・Vb、Ⅵa・Ⅵb	

ウ　外国語検定科目

○第1選択外国語について、上記表アの単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbとして単位の認定を行うことができます。

なお、既に上記表アの単位を全て修得している場合は、次ページ エを参照してください。

○第2選択外国語に関する、「検定認定1・2・3（各検定試験)」の単位を修得した場合、4単位まで

第２選択外国語の卒業所要単位に含めることができます。この場合、卒業所要単位８単位から、修得した「検定認定１・２・３（各検定試験）」の単位を差し引いた単位数相当の科目を第２選択外国語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb、Ⅴa・Ⅴb、Ⅵa・Ⅵbのなかから前ページ表イに従って修得しなければなりません。

（例）　第２選択外国語をドイツ語とし、「検定認定１（ドイツ語技能検定４級）」（２単位）を修得した場合には、第２選択外国語の卒業所要単位８単位から２単位を引いた残り６単位をドイツ語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb、Ⅴa・Ⅴb、Ⅵa・Ⅵbのなかから前ページ表イに従って修得しなければなりません。

○外国語検定試験の単位認定についての詳細は、「外国語検定試験の単位認定について」（後掲）を参照してください。

エ　第１選択外国語及び第２選択外国語の卒業所要単位合計16単位を充足したうえで、16単位を超えて修得した下記の単位は、12単位を限度に卒業所要単位に算入することができます。

○第１選択外国語について、８単位を超えて修得した単位
○第２選択外国語について、８単位を超えて修得した単位
○第３選択外国語として修得した単位

(3)　専門教育科目（60単位以上）

専門教育科目には、初年次導入科目、総合人文学科目、文学部外国語科目、専修固有科目、専修関連科目、資格関連科目等（自由科目）などがあり、それぞれが履修上、必修、選択必修、選択、自由のいずれかに区分されています。履修・単位修得にあたっては、前述Ⅱ「授業科目の構成」３「専門教育科目」表、及びⅡ１「各専修における卒業所要単位の内訳」表を熟読してください。選択必修科目、選択科目及び自由科目の卒業所要単位数は、前掲「各専修における卒業所要単位の内訳」表では最低単位数（「○単位以上」）で表記しています。実際の必要単位数は各人の共通教養科目及び外国語科目の修得単位数によって変動しますので、間違いのないように履修・単位修得をしてください。

外国人留学生

1　外国人留学生における外国語科目は、次のとおり16単位以上修得しなければなりません。

<table>
<tr><td>第１選択
外国語</td><td colspan="2">日　本　語</td><td colspan="3">Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの合計８単位必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">第２選択
外国語</td><td rowspan="3">英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び朝鮮語（日常使用語を除く）</td><td>Ａグループ</td><td>Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb</td><td rowspan="3">左記３グループのうち２グループ計８単位必修</td></tr>
<tr><td>Ｂグループ</td><td>Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb</td></tr>
<tr><td>Ｃグループ</td><td>Ⅴa・Ⅴb、Ⅵa・Ⅵb</td></tr>
</table>

なお、外国語検定科目については前掲「卒業所要単位の内訳（外国語科目）」欄を参照してください。

2　外国人留学生科目の選択科目を修得した場合には、共通教養科目の卒業所要単位に含めることができます。

3　外国人留学生科目の自由科目を履修した場合は、履修制限単位に含めますが、これを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

外国人留学生科目の詳細は、授業科目一覧表の「４　外国人留学生科目」（後掲）を参照してください。

Ⅳ　専修分属について

専修分属

専修への分属について

1　**各専修へは、２年次より分属**することになります。ただし、一般入学試験等合格者のうち、「初等教育学専修」で入学した者は、１年次から初等教育学専修に分属します。

2　専修分属条件：各専修へは、次の２つの条件を満たしていなければ分属することができません。

条件	対　象　科　目	条　　件
1	学びの扉（各専修）	１科目２単位 以上修得していること
2	知へのパスポートa（各専修） 知へのパスポートb（各専修） 知のナヴィゲーター	左記３科目のなかから １科目１単位 以上修得していること

なお、この条件は「卒業要件」（卒業所要単位）とは異なりますので注意してください。詳細は、授業科目一覧表の「３専門教育科目（１）初年次導入科目」（後掲）を参照してください。

3　各専修には、「最大受入人数」（人数は事前に公表されます）が設定されています。ついては、希望する当該専修への申し込み者数により、次のとおり取り扱います。

最大受入人数の取扱い	
最大受入人数を超えなかった場合	希望者全員が当該専修への分属を許可されます
最大受入人数を超えた場合	各専修が定める方法によって選考が行われます

4　専修への分属に関する日程は次のとおりです（詳細はインフォメーションシステムで連絡します）。

日　　程	手　続　内　容　等
１年次・12月上旬頃	「専修分属希望届」の提出
１年次・12月中旬頃	専修分属希望者数の発表及び変更希望受付
１年次・12月下旬頃	①「専修分属希望届」の最終結果発表 ⇒最大受入人数を超えなかった専修は、この時点で専修への分属が許可されます。 ②選考を行う専修の発表及び課題等の発表
１年次・２月中旬頃	①選考結果の発表 ②第２志望の受付
１年次・２月下旬頃	第２志望の結果発表 ⇒最大受入人数を超えなかった専修は、この時点で専修への分属が許可されます。

5　専修への分属に関する選考方法は、事前に公表したうえで行われます。

希望者数が最大受入人数を上回る場合、希望専修の「学びの扉」「知へのパスポート」の成績、春学期の全履修科目の成績を用いて、各専修が総合的に判断します。詳細については、ガイダンスやインフォメーションシステム等でお知らせします。

6　カリキュラムコースが設定されている専修は次のとおりです。

専　　修	カリキュラムコース	
国語国文学	国文学	国語学
ヨーロッパ文化	フランス言語文化	ドイツ言語文化
アジア文化	アジア文化	中国言語文化

カリキュラムコースは、専修へ分属する際に選択しなければなりません。なお、原則として、一度決定したカリキュラムコースを変更することはできません。

7　専修の分属に関する詳しい内容については、新入生指導行事期間中などに実施するガイダンスならびにインフォメーションシステム等によりお知らせします。

所属専修の変更（転専修）

3年次以降で所属専修の変更を行う場合の要領は、次のとおりです。
詳細については、インフォメーションシステムでお知らせします。

資　　格	①2年次以上であること ②卒業に必要な単位のうち、60単位以上修得した者（2年次末に修得見込の者を含む）
手続期間	指定された期間（11月～12月の予定）
選 考 料	7,000円（2022年度現在）が必要です
選考方法	面接（口頭試問を含みます）による選考を行います
条　　件	2年次専修分属時に、希望者が専修の最大受入人数を超え、選考によって分属を許可した専修へは専修変更をすることはできません

（注意事項）
1　初等教育学専修への転専修は専修分属の人数に関わらず、これを行うことはできません。
2　専修の変更は、在学期間中1回とします。
3　転専修が許可された者は、理由のいかんにかかわらず、許可の取消し及び変更等はできません。

Ⅴ　履修・修得について特に注意すべき事項

履修制限単位

各年次での履修制限単位は、次のとおりです。

1～4年次	各学期とも25単位以内、年間49単位以内

なお、次の科目は履修制限単位に含めません。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校1・2・3）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C
外国語検定認定1・2・3	小学校教育実習（一）・（二）
教育実習事前指導	教育実習（一）・（二）

共通教養科目の履修

共通教養科目の履修については、次の点に注意してください。
1　共通教養科目の概要については、「共通教養科目について」（後掲）を参照してください。ただし、文学部で履修・修得できる授業科目は「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。
2　同一年度の春学期及び秋学期に同じ授業科目を二度履修することはできません。
3　定員制等のため事前登録が必要な科目、履修者数が一定以上に達した場合に事後抽選を行う科目があります。詳細はインフォメーションシステムで確認してください。
4　次の科目は履修制限単位に含めません。それぞれ該当のプログラムに応募のうえ参加許可を受けることをもって、履修登録に代えます。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校1・2・3）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C

5　健康・スポーツ科目群の「生涯スポーツ・身体運動文化コース」の科目は、スポーツ・フロンティア入学試験による入学生のみ履修を認めます。

外国語科目の履修条件

外国語科目の履修条件について

1　卒業所要単位に含める外国語科目は、当該外国語を履修する初年度において、Ⅰａ とⅠｂ、Ⅱａ とⅡｂ、Ⅲａ とⅢｂ、Ⅳａ とⅣｂ、Ⅴａ とⅤｂ、Ⅵａ とⅥｂのそれぞれをセットで履修登録することを原則とします。ただし、英語Ⅴａ・ｂ（各テーマ）、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、各テーマを複数科目履修することができ、かつ、ａ・ｂセット履修の必要はありません。

2　１年次においては、第１選択外国語、第２選択外国語のⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂのみを履修することができます。

ただし、第２選択外国語については、特に希望のあるときは、上位年次配当科目（Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ又はⅤａ・Ⅴｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ）を履修することができます。この場合は、新入生指導行動期間中に申込手続を行い、許可を受けなければなりません。なお、上位年次配当科目の英語を履修する場合には、第１選択外国語と第２選択外国語を入れ替えることになります。

3　３年次配当の英語Ⅴａ・ｂ（各テーマ）、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、一定の条件を付して下位年次生の履修を認めています。履修希望者は所定の受付期間中に必要な手続きを行ってください。

4　入学手続きに届け出た外国語科目の、第１選択外国語と第２選択外国語を入れ替えることができます。入れ替えは１年次のみ可能です。希望の方は教務センターで相談を受けてください。

外国語検定試験の単位認定

詳細については、「外国語検定試験の単位認定について」（後掲）を参照してください。

履修条件附帯科目

履修条件が附帯されている科目は次のとおりです。

<table>
<tr><td>授業科目</td><td colspan="2">左記の授業科目を履修するための条件</td></tr>
<tr><td rowspan="3">英語以外の外国語
Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb</td><td>第１条件</td><td>第２条件</td></tr>
<tr><td>原則として当該外国語のⅠb、Ⅱbのいずれか１科目を修得済</td><td>原則として当該外国語のⅠa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱbから２科目以上修得済</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記第１条件、第２条件のいずれも満たしていること</td></tr>
<tr><td rowspan="3">英語以外の外国語
Va・Vb、Ⅵa・Ⅵb</td><td>第１条件</td><td>第２条件</td></tr>
<tr><td>原則として当該外国語のⅢb、Ⅳbのいずれか１科目を修得済</td><td>原則として当該外国語のⅢa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbから２科目以上修得済</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記第１条件、第２条件のいずれも満たしていること</td></tr>
<tr><td>卒業論文</td><td colspan="2">※後掲「専修ゼミⅤ・Ⅵ、卒業論文の履修」欄参照のこと</td></tr>
</table>

※ただし、英語以外の外国語科目について、外国語検定科目を修得した者には、この条件を適用しない場合があります。

※上記以外に、科目の内容・水準に応じてシラバスで履修条件を付している場合がありますので注意してください。

科目履修の配当年次

履修する科目は、当該年次の配当科目又は下位年次科目のうちから選択してください。上位年次配当科目は履修することができません。ただし、外国語科目において、特に許可された履修については、この限りではありません。

【例】	「１・２年次配当」は１～４年次で受講可能です。 「２・３年次配当」は２～４年次で受講可能です。

配当外科目の履修

配当外科目（当該専修に配当されていない科目）の履修について

1　配当外科目の履修は、各種資格取得に必要な場合に限り、３年次から履修制限単位外で毎年度30単位まで履修を認めます。ただし、演習科目の履修は原則として認めません。

2　配当外科目は、これを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

専修ゼミⅤ・Ⅵ、卒業論文の履修について

1　「専修ゼミⅤ」「専修ゼミⅥ」「卒業論文」の履修登録は、次のいずれかのパターンによるセット履修を原則とします。「卒業論文」単独の履修はできません。

履修パターン	専修ゼミⅤ（春学期開講）＋専修ゼミⅥ・卒業論文（秋学期開講）
	専修ゼミⅤ・卒業論文（春学期開講もしくは秋学期開講）
	専修ゼミⅥ・卒業論文（春学期開講もしくは秋学期開講）

2　「卒業論文」は、卒業見込当該年度又は当該学期でなければ履修できません。また、学籍異動等により卒業見込が取り消された場合は、「卒業論文」の履修は取り消されます。

卒業論文の提出要領

「卒業論文」の提出要領と審査は次のとおりです。

提出期日	・秋学期に提出する場合：１月上旬 ・春学期に提出する場合：７月上旬 ※詳細はインフォメーションシステムで発表します。 ※指定された期日に遅れた場合は、理由のいかんにかかわらず、受理しません。
提出場所	指定された場所（郵送によるものは一切受理しません）
字　　数	20,000字程度とします。
体 裁 等	詳細な体裁は所属専修又は指導教員の指示に従うこと。
口頭試問	卒業論文の審査は、下記の日程で口頭試問により行います。 ・秋学期に提出する場合：２月中旬 ・春学期に提出する場合：７月下旬 詳細はインフォメーションシステムでお知らせします。

論文･レポートの提出

科目によっては論文・レポートを課される場合があります。提出要領については「試験について」（前掲）を参照してください。

オフィスアワー

文学部では、学生のみなさんに対する学習上の指導や助言のために、正課の授業のほかに、学習上の相談時間として、文学部所属専任教員による「オフィスアワー」を設けています。この制度の実施方法・内容等詳細については、毎学年度始めにインフォメーションシステムでお知らせします。この制度を積極的に活用して、学習上大きな成果をあげられることを期待します。

Ⅵ　日本語教師養成講座について

1　文学部では、国内外で日本語を教える専門能力を持つ人材を育成する目的で、日本語教師養成講座を設けています。

2　日本語教師養成講座を修了するためには、次の表のとおり28単位以上を修得しなければなりません。

3　日本語教師養成講座修了者（修了見込者）には、文学部の発行する成績証明書に、同講座を修了したこと（修了見込であること）を明記します。また、卒業時に日本語教師養成講座修了証を授与します。

4　「日本語教育実習」を履修するためには、次の⑴⑵をともに満たしていなければなりません。

⑴　以下の科目を修得済みであること。（「日本語教育実習」と同時に履修することはできません）
「言語学研究」、「国語学概論a」、「日本語教育概論」、「日本語教授法」

⑵　以下の科目を修得済みであること、もしくは「日本語教育実習」と同時に履修すること。
春学期に「日本語教育実習」を履修する者　「日本語教育方法論」
秋学期に「日本語教育実習」を履修する者　「日本語教育授業分析」

領域	区分	必要単位数	科目名	必修	配当年次	単位
1．社会・文化・地域に関わる領域	1）社会・文化・地域 2）言語と社会	必修2単位を含む4単位以上	総合人文基礎講義（各テーマ）		1～4	2
			専修横断講義（各テーマ）		1～4	2
			専修横断演習（各テーマ）		2～4	1
			日本語教育概論	☆	2	2
2．教育に関わる領域	3）言語と心理	4単位以上	教育と文化の社会学		2	2
			教育人類学		2	2
			子どもの発達多様性		2	2
			人間発達と教育の心理学		2	2
			第二言語習得論		3	2
			教育心理学		2	2
	4）言語と教育	必修8単位を含む10単位以上	日本語表現論a		2	2
			日本語表現論b		2	2
			日本語教授法	☆	2	2
			日本語教育方法論	☆	3	2
			日本語教育授業分析	☆	3	2
			日本語教育実習	☆	3	2
			英語科教育法（一）		2	2
			英語科教育法（二）		2	2
			英語科教育法（三）		3	2
			英語科教育法（四）		3	2
			ドイツ語科教育法（一）		3	2
			ドイツ語科教育法（二）		3	2
			ドイツ語科教育法（三）		3	2
			ドイツ語科教育法（四）		3	2
			フランス語科教育法（一）		3	2
			フランス語科教育法（二）		3	2
			フランス語科教育法（三）		3	2
			フランス語科教育法（四）		3	2
			中国語科教育法（一）		3	2
			中国語科教育法（二）		3	2
			中国語科教育法（三）		3	2
			中国語科教育法（四）		3	2
		2単位以上	ICTベーシックス		1	2
			情報社会と研究倫理		2	2
			メディア教育論		2	2
			情報メディアの活用		2	2
3. 言語に関わる領域	5）言語	必修4単位を含む8単位以上	言語学研究	☆	1	2
			国語学概論a	☆	1・2	2
			国語学概論b		1・2	2
			日本語学Ⅰa		2	2
			日本語学Ⅰb		2	2
			日本語学Ⅱa		2	2
			日本語学Ⅱb		2	2

Ⅶ　編・転入学生の単位履修について

卒業所要単位

1　3年次編・転入学（心理学専修除く）

文学部3年次に編・転入学した者は、文学部に2年〈4学期〉以上（6年〈12学期〉以内）在学し、次の表に従って専門教育科目64単位以上を修得した者に卒業を認め、卒業者には学士（文学）の学位が与えられます。

64単位の内訳は、所属の専修・カリキュラムコースにより次の3つに分かれます。なお、**後掲の一覧表、及び、注意事項に従って単位を修得しなければなりません**ので、間違いのないように十分注意してください（必修科目の単位数が専修・カリキュラムコースにより異なります）。

また、ここに示す単位数は科目区分ごとに必要な最低の単位数を示すもので、これが1単位でも不足すれば卒業は認められません。

ただし、専門教育科目のうち、下記科目は選択必修を適用せず、選択とし、修得した場合には選択科目の単位として卒業所要単位に算入します。

科目区分	対象専修	授　業　科　目
「選択必修」を「選択」とする科目	全専修	「学びの扉（各専修）」 「知へのパスポートａ（各専修）」 「知へのパスポートｂ（各専修）」

【各専修における卒業所要単位の内訳】

英米文学英語学、英米文化、国語国文学、哲学倫理学、比較宗教学、芸術学美術史、ヨーロッパ文化、日本史・文化遺産学、世界史、教育文化、映像文化、文化共生学、アジア文化			
科目区分		最低修得単位数	
専門教育科目	必　修　科　目	18単位	64単位以上
	選　択　必　修　科　目		
	選択科目及び自由科目	46単位以上	

地理学・地域環境学			
科目区分		最低修得単位数	
専門教育科目	必　修　科　目	14単位	64単位以上
	選　択　必　修　科　目		
	選択科目及び自由科目	50単位以上	

初等教育学			
科目区分		最低修得単位数	
専門教育科目	必　修　科　目	10単位	64単位以上
	選　択　必　修　科　目		
	選択科目及び自由科目	54単位以上	

2　2年次編・転入学（心理学専修のみ）

文学部2年次に編・転入学した者は、文学部に3年〈6学期〉以上（7年〈14学期〉以内）在学し、次の表に従って専門教育科目64単位以上を修得した者に卒業を認め、卒業者には学士（文学）の学位が与えられます。

64単位の内訳は、下記［卒業所要単位の内訳］を確認してください。なお、**後掲の一覧表、及び、注意事項に従って単位を修得しなければなりません**ので、間違いのないように十分注意してください。

また、ここに示す単位数は科目区分ごとに必要な最低の単位数を示すもので、これが1単位でも不足すれば卒業は認められません。

ただし、専門教育科目のうち、下記科目は選択必修を適用せず、選択とし、修得した場合には選択科目の単位として卒業所要単位に算入します。

科目区分	対象専修	授　業　科　目
「選択必修」を「選択」とする科目	全専修	「学びの扉（各専修）」 「知へのパスポートａ（各専修）」 「知へのパスポートｂ（各専修）」

【卒業所要単位の内訳】

心理学			
科目区分		最低修得単位数	
専門教育科目	必　修　科　目	18単位	64単位以上
	選　択　必　修　科　目		
	選択科目及び自由科目	46単位以上	

その他

1　その他、履修制限単位数やオフィスアワーなどについては、56ページに掲載の（**Ⅴ　履修・修得について特に注意すべき事項**）を参照してください。

2　教員免許状などの取得を希望する者は、必ず教務センターの教職担当窓口で相談のうえ、間違いのないよう履修計画を立てるようにしてください（上記の表【各専修における卒業所要単位の内訳】に記載の各単位数は、卒業所要単位の内訳であって、２年〈４学期〉間で各種資格にかかわる単位の取得をすることができない場合があります）。

Ⅷ　関西大学大学院文学研究科・東アジア文化研究科博士課程前期課程の授業科目の履修について

関西大学大学院文学研究科・東アジア文化研究科への進学を希望する文学部４年次生が所定の基準を満たした場合、次のとおり大学院科目の履修を許可します。

履修許可科目、履修許可基準及び履修申込手続き等の詳細は、インフォメーションシステム等でお知らせします。

1　所定の大学院授業科目を年間４科目８単位まで履修することができます。

2　履修が許可された科目を修得した場合は、配当外科目として単位認定されます。ただし、文学研究科・東アジア文化研究科に進学した場合の入学前既修得単位の対象にはなりません。

3　履修単位については、各種資格取得に必要な配当外科目の履修制限単位（年間30単位）に含まれます。

授業科目一覧表

1　共通教養科目

《関西大学科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	関西大学を知る				
GEA1001	日本の近現代史と関西大学―知の群像	1	2	1	2
GEA1002	吹田市と関西大学	1	2	1	2
GEA1003	学生生活とリスク	1	2	1	2
	戦略トピックス				
GEA1004	SDGs入門	1	2	1	2
GEA1005	SDGsの実践	1	2	1	2
GEA1006	金融の実務から見るSDGs	1	2	1	2
GEA1007	環境問題と環境政策のルーツ	1	2	1	2
GEA1008	活用法を見聞するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1009	活用法を体験するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1010	起業に学ぶ「考動力」入門（関大出身起業家と考える未来の自分）	1	2	1	2
GEA1011	起業に学ぶ「考動力」実践（企業と考える未来のデザイン）	1	2	1	2
GEA2001	社会のためのデータサイエンス実践基礎	2	2	1	2
GEA2002	AI・データエンジニアリング実践基礎	2	2	1	2

《基盤科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEB1001	スタディスキルゼミ（各テーマ）	1	2	1	2
GEB1002	プロジェクト学習１	1	2	1	2
GEB2001	プロジェクト学習２	2	2	1	2

《自己形成科目群》

領域：人間を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1001	こころとからだを哲学する
	GEC1002	文化・社会と心理学
	GEC1003	身体運動の人間学
	GEC1004	ことばと思考
	GEC1005	地図の知恵、地図の思想
	GEC1006	自己と他者
	GEC1007	自己をみつめる
	GEC1008	日本人の宗教観
	GEC1009	美術からみる表現と理解
	GEC1010	入門・新しい部落問題
	GEC1011	現代社会とジェンダー
	GEC1012	現代社会とセクシュアリティ
	GEC1013	生と死の倫理学
	GEC1014	食を知る
	GEC1015	食のリスクマネジメント
	GEC1016	宗教と現代
	GEC1017	新しい人権論への招待
教養を深める（知の見取り図）	GEC1018	哲学を学ぶ
	GEC1019	論理学を学ぶ
	GEC1020	心理学を学ぶ
	GEC1021	宗教学を学ぶ
	GEC1022	イスラーム世界の歴史を学ぶ
	GEC1023	考古学を学ぶ
	GEC1024	日本語を学ぶ
	GEC1025	日本文学を学ぶ
	GEC1026	人文地理学を学ぶ
	GEC1027	地域社会の生活と資源
	GEC1028	芸術学を学ぶ
	GEC1029	人類学入門
教養を深める（知の探求）	GEC1030	日本の古典文学を読む
	GEC1031	日本の近代文学を読む
	GEC1032	わかる諸子百家
	GEC1033	日本の文化と人間を考える
	GEC1034	子供から大人への過程を考える
	GEC1035	社会と個人の心理学
	GEC1036	世界の文学を味わう
	GEC1037	西洋美術を味わう
	GEC1038	日本・東洋美術を味わう
	GEC1039	文化史に親しもう
	GEC1040	アジアの文化と世界遺産
	GEC1041	大学教育論～大学の主人公はきみたちだ！～
チャレンジ科目	GEC1042	各テーマ

【配当年次：１・２・３・４　　単位：２
授業期間：１　　毎週授業時間：２】

領域：社会を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1043	今日の道徳的ディレンマ
	GEC1044	世界の宗教
	GEC1045	環境の倫理学
	GEC1046	企業と社会
	GEC1047	技術と社会
	GEC1048	生活の中の経済学
	GEC1049	メディア・リテラシー入門
	GEC1050	イスラム社会を考える
	GEC1051	日本の伝統文化
	GEC1052	方言学入門
	GEC1053	共生社会のライフデザイン
	GEC1054	日本の社会と生活の歴史
	GEC1055	優良企業の見分け方
	GEC1056	社会学で学ぶ現代社会
	GEC1057	政治学と21世紀社会
	GEC1058	法実務入門
	GEC1059	地域再発見の旅
	GEC1060	旅から始める知の冒険
	GEC1061	移動する人々
	GEC1062	オリンピックの共生思想
	GEC1063	外来文化と日本の歴史
	GEC1064	アジアの中の日本歴史
	GEC1065	世界の中の日本経済
	GEC1066	日本史の中の平和と戦争
	GEC1067	世界史の中の平和と戦争
	GEC1068	読書への誘い
教養を深める（知の見取り図）	GEC1069	倫理学を学ぶ
	GEC1070	法学を学ぶ
	GEC1071	政治学のすすめ
	GEC1072	民俗学を学ぶ
	GEC1073	基礎からのマクロ経済学
	GEC1074	基礎からのミクロ経済学
	GEC1075	社会学入門
	GEC1076	日本国憲法
	GEC1077	基礎からの情報処理
	GEC1078	ビジネスを学ぶ
	GEC1079	日本の歴史を学ぶ
	GEC1080	アジア史を学ぶ
	GEC1081	西洋の歴史を学ぶ
	GEC1082	社会思想史を学ぶ
教養を深める（知の探求）	GEC1083	名作を読む
	GEC1084	哲学の古典を読み解く
	GEC1085	聖典と宗教思想
	GEC1086	近代市民社会思想を知ろう
	GEC1087	労働と雇用を考える
	GEC1088	日本の地域史を考える
	GEC1089	世界の地域文化を知ろう
	GEC1090	少子高齢化社会を考える
	GEC1091	法の社会学
	GEC1092	日本史の中の女性と社会を知ろう
	GEC1093	日本社会の成熟と変動を知ろう
	GEC1094	強い会社のマネジメントを知る
	GEC1095	西洋世界の社会と歴史を考える
	GEC1096	欧米世界の歴史と文化を知ろう
	GEC1097	中国と日本の文化交流
	GEC1098	異文化への理解を深める
	GEC1099	現代都市の生態とエスニシティ
	GEC1100	社会的養育を考える
チャレンジ科目	GEC1101	各テーマ

領域：自然と向き合う

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1102	身の回りの化学
	GEC1103	確率・統計でものを考える
	GEC1104	自然災害の科学
	GEC1105	科学と文化
	GEC1106	生物と環境
	GEC1107	人類紀の環境変動
	GEC1108	建築と景観
	GEC1109	エネルギーと環境
	GEC1110	科学と技術
	GEC1111	現代科学の展開
	GEC1112	統計学を学ぶ
教養を深める（知の見取り図）	GEC1113	自然地理学を学ぶ
	GEC1114	自然科学史を学ぶ
	GEC1115	バイオサイエンス入門
	GEC1116	数学を学ぶ（各テーマ）
	GEC1117	物理を学ぶ（各テーマ）
教養を深める（知の探求）	GEC1118	仕組みを形にする科学技術
	GEC1119	現代社会を支える電気電子情報技術
	GEC1120	宇宙のすがたと歴史
	GEC1121	近代科学の系譜
	GEC1122	気象と気候を学ぶ
	GEC1123	地震と火山のメカニズムと防災
チャレンジ科目	GEC1124	各テーマ

【配当年次：1・2・3・4　　単位：2　　授業期間：1　　毎週授業時間：2】

《健康・スポーツ科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GED1001	健康・スポーツ科学実習a(各種目)	1	1	1	2
GED1002	健康・スポーツ科学実習b(各種目)	1	1	1	2
GED1003	健康・スポーツ科学実習c(各種目)	1	1	1	2
GED1004	健康・スポーツ科学論	1	2	1	2
	(生涯スポーツ・身体運動文化コース)				
GED1005	関西大学スポーツ文化論	1	2	1	2
GED1006	スポーツ運動学概論	1	2	1	2
GED1007	スポーツ社会学概論	1	2	1	2
GED1008	スポーツ心理学概論	1	2	1	2
GED1009	スポーツ栄養学概論	1	2	1	2
GED1010	コーチングの科学	1	2	1	2
GED1011	トレーニング科学概論	1	2	1	2
GED1012	コンディショニング科学概論	1	2	1	2

《キャリア形成科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEE1001	大学生から始めるキャリア形成	1	2	1	2
GEE1002	キャリア形成入門演習	1	2	1	2
GEE2001	理論と実践から探求するキャリア形成	2	2	1	2
GEE2002	現代社会を生き抜くためのキャリア形成	2	2	1	2
GEE2003	キャリア形成実践演習	2	2	1	2
GEE1003	インターンシップ(ビジネス)	1~3	2	1	4
GEE1004	インターンシップ（学校１）	1~4	2	1	4
GEE1005	インターンシップ（学校２）	1~4	2	1	4
GEE1006	インターンシップ（学校３）	1~4	2	1	4

《グローバル科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学準備スキルアップ科目】				
GEF2001	Foundation for Academic English	1~4	2	1	2
GEF1001	Academic Writing Practice	1~4	2	1	2
GEF2002	Academic Discussions & Debates	1~4	2	1	2
GEF2003	Presentation Skills	1~4	2	1	2
GEF2004	留学のための英語スキルアップ	1~4	2	1	2
GEF2005	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2006	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2007	ASEAN Studies	1~4	2	1	2
GEF1002	Understanding Cross-Cultural Communication	1~4	2	1	2
GEF1003	KUGF Independent Study (English Skills Development)	1~4	2	1	2
GEF2008	KUGF Independent Study (Doing a Research in English)	1~4	2	1	2
GEF2009	Global Awareness Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2010	Global Awareness Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2011	English Communication Skills for Business Contexts	1~4	2	1	2
	【グローバル・フロンティア科目】				
	Module 1 . Engineering Approach to Urban Issues				
GEF3001	Disaster Transport Planning	1~4	2	1	2
	Module 2. Food Science & Biotechnology				
GEF3002	Biotechnology and Bioethics	1~4	2	1	2
GEF3003	Marketing of Food, Alcohol and Cosmetics	1~4	2	1	2
GEF3004	Science of Washoku (Japanese Cuisine)	1~4	2	1	2
GEF3005	Food Safety	1~4	2	1	2
GEF3006	Polysaccharide Science	1~4	2	1	2
	Module 3 .International Business & Entrepreneurship				
GEF3007	International Business for Entrepreneurs	1~4	2	1	2
GEF3008	Japanese Industries and Companies (The Global Competition)	1~4	2	1	2
GEF3009	Business & Japanese People	1~4	2	1	2
GEF3010	Marketing in Japan	1~4	2	1	2
GEF3011	Business for SDGs (Sustainable Development Goals)	1~4	2	1	2
	Module 4 . Japan Studies				
GEF3012	Japanese Philosophy and Thoughts	1~4	2	1	2
GEF3013	Japanese Religion	1~4	2	1	2
GEF3014	Japanese Arts	1~4	2	1	2
GEF3015	Japanese History (The History and Culture of Medieval Japan)	1~4	2	1	2
GEF3016	Japanese History (Bushido: The Way of the Warrior)	1~4	2	1	2
GEF3017	Japanese Literature (Survey of Post-1945)	1~4	2	1	2
GEF3018	Japanese Literature (Intro. to Classical JPN Literature)	1~4	2	1	2
GEF3019	Japanese Culture (Modern Culture and Post-war History)	1~4	2	1	2
GEF3020	Japanese Culture (JPN Culture and Contemporary Literature)	1~4	2	1	2
GEF3021	Comparative Asian Cultures Studies	1~4	2	1	2
GEF3022	Japanese Law and Politics	1~4	2	1	2
GEF3023	Japanese Economy (Topics in Japanese Economy and Discussion)	1~4	2	1	2
GEF3024	Japanese Society	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEF3025	Japanese Popular Culture (Postwar Japanese Culture)	1~4	2	1	2
GEF3026	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. to Kendo)	1~4	2	1	2
GEF3027	Seminar in Japanology (The Japanese Language and Society)	1~4	2	1	2
GEF3028	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. To Naginata)	1~4	2	1	2
GEF3029	Seminar in Japanology (War and Conflict through JPN Film)	1~4	2	1	2
	Module 5 . Language Teaching & Communication				
GEF3030	Second Language Acquisition	3	2	1	2
GEF3031	Individual Differences in Language Learning	3	2	1	2
GEF3032	Ed. Tech. & Materials Development in FLT	3	2	1	2
GEF3033	Early Foreign Language Education	3	2	1	2
GEF3034	Structure of Language (discourse and meaning)	3	2	1	2
GEF3035	Linguistic Analysis (English)	3	2	1	2
GEF3036	International Business Communication	3	2	1	2
	Module 6 . Studies on Foreign Affairs				
GEF3037	International Development	1~4	2	1	2
GEF3038	Area Studies (Europe I)	1~4	2	1	2
GEF3039	Area Studies (Europe II)	1~4	2	1	2
GEF3040	Area Studies (India)	1~4	2	1	2
GEF3041	Japan in International Affairs	1~4	2	1	2
	Module 7 . Fundamentals for Social Science Studies				
GEF3042	Critical Thinking for Social and Global Issues	1~4	2	1	2
GEF3043	Research Methods for Social Science	1~4	2	1	2
GEF3044	Global Sociology	1~4	2	1	2
GEF3045	Japanese Computerization and Society	1~4	2	1	2
GEF3046	Methods of Comparative Analysis (ENG and JPN Communication)	1~4	2	1	2
GEF3047	Contemporary Gender Studies	1~4	2	1	2
	Module 8 . Applied Science and Engineering				
GEF3048	Japanese Science and Technology	1~4	2	1	2
GEF3049	Environmental Biology	1~4	2	1	2
GEF3050	Information and Communication Technologies	1~4	2	1	2
GEF3051	Introduction to Applied Science	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学実践科目】				
GEF1004	KUGF Field Study（各プログラム）	1~4	2	1	4
GEF1005	海外研修（各セミナー）	1~4	1~2	1	4
GEF1006	外国語運用実習(各セミナー)	1~4	1	1	2

《大学・学部・社会連携科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【大学連携科目】				
	〔大学コンソーシアム大阪プログラム〕				
GEG1001	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【学部連携科目】				
	〔学部オープン科目〕				
GEG1002	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【社会連携科目】				
	(講義科目)				
GEG1003	国際協力の基礎を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1004	国際協力ボランティアの理論を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1005	国際協力レディネス	1~4	2	1	2
GEG1006	国際協力フォローアップ	1~4	2	1	2
	(実習科目)				
GEG1007	国際協力ボランティア実習A	1~4	4	1	8
GEG1008	国際協力ボランティア実習B	1~4	2	1	4
GEG1009	国際協力ボランティア実習C	1~4	1	1	2
GEG3001	サービスラーニング(各テーマ)	3	2	1	2

※共通教養科目の開講科目等詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

2　外国語科目

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GFE1001	英語Ⅰa	1	1	1	2
GFE1002	英語Ⅰb	1	1	1	2
GFE1003	英語Ⅱa	1	1	1	2
GFE1004	英語Ⅱb	1	1	1	2
GFG1001	ドイツ語Ⅰa	1	1	1	2
GFG1002	ドイツ語Ⅰb	1	1	1	2
GFG1003	ドイツ語Ⅱa	1	1	1	2
GFG1004	ドイツ語Ⅱb	1	1	1	2
GFF1001	フランス語Ⅰa	1	1	1	2
GFF1002	フランス語Ⅰb	1	1	1	2
GFF1003	フランス語Ⅱa	1	1	1	2
GFF1004	フランス語Ⅱb	1	1	1	2
GFR1001	ロシア語Ⅰa	1	1	1	2
GFR1002	ロシア語Ⅰb	1	1	1	2
GFR1003	ロシア語Ⅱa	1	1	1	2
GFR1004	ロシア語Ⅱb	1	1	1	2
GFS1001	スペイン語Ⅰa	1	1	1	2
GFS1002	スペイン語Ⅰb	1	1	1	2
GFS1003	スペイン語Ⅱa	1	1	1	2
GFS1004	スペイン語Ⅱb	1	1	1	2
GFC1001	中国語Ⅰa	1	1	1	2
GFC1002	中国語Ⅰb	1	1	1	2
GFC1003	中国語Ⅱa	1	1	1	2
GFC1004	中国語Ⅱb	1	1	1	2
GFK1001	朝鮮語Ⅰa	1	1	1	2
GFK1002	朝鮮語Ⅰb	1	1	1	2
GFK1003	朝鮮語Ⅱa	1	1	1	2
GFK1004	朝鮮語Ⅱb	1	1	1	2
GFE2001	英語Ⅲa	2	1	1	2
GFE2002	英語Ⅲb	2	1	1	2
GFE2003	英語Ⅳa	2	1	1	2
GFE2004	英語Ⅳb	2	1	1	2
GFG2001	ドイツ語Ⅲa	2	1	1	2
GFG2002	ドイツ語Ⅲb	2	1	1	2
GFG2003	ドイツ語Ⅳa	2	1	1	2
GFG2004	ドイツ語Ⅳb	2	1	1	2
GFF2001	フランス語Ⅲa	2	1	1	2
GFF2002	フランス語Ⅲb	2	1	1	2
GFF2003	フランス語Ⅳa	2	1	1	2
GFF2004	フランス語Ⅳb	2	1	1	2
GFR2001	ロシア語Ⅲa	2	1	1	2
GFR2002	ロシア語Ⅲb	2	1	1	2
GFR2003	ロシア語Ⅳa	2	1	1	2
GFR2004	ロシア語Ⅳb	2	1	1	2
GFS2001	スペイン語Ⅲa	2	1	1	2
GFS2002	スペイン語Ⅲb	2	1	1	2
GFS2003	スペイン語Ⅳa	2	1	1	2
GFS2004	スペイン語Ⅳb	2	1	1	2
GFC2001	中国語Ⅲa	2	1	1	2
GFC2002	中国語Ⅲb	2	1	1	2
GFC2003	中国語Ⅳa	2	1	1	2
GFC2004	中国語Ⅳb	2	1	1	2
GFK2001	朝鮮語Ⅲa	2	1	1	2
GFK2002	朝鮮語Ⅲb	2	1	1	2
GFK2003	朝鮮語Ⅳa	2	1	1	2
GFK2004	朝鮮語Ⅳb	2	1	1	2
GFE3001	英語 Va（各テーマ）	3	1	1	2
GFE3002	英語 Vb（各テーマ）	3	1	1	2
GFE3003	英語 Ⅵa（各テーマ）	3	1	1	2
GFE3004	英語 Ⅵb（各テーマ）	3	1	1	2
GFG3001	ドイツ語Va	3	1	1	2
GFG3002	ドイツ語Vb	3	1	1	2
GFG3003	ドイツ語Ⅵa	3	1	1	2
GFG3004	ドイツ語Ⅵb	3	1	1	2
GFF3001	フランス語Va	3	1	1	2
GFF3002	フランス語Vb	3	1	1	2
GFF3003	フランス語Ⅵa	3	1	1	2
GFF3004	フランス語Ⅵb	3	1	1	2
GFR3001	ロシア語Va	3	1	1	2
GFR3002	ロシア語Vb	3	1	1	2
GFR3003	ロシア語Ⅵa	3	1	1	2
GFR3004	ロシア語Ⅵb	3	1	1	2
GFS3001	スペイン語Va	3	1	1	2
GFS3002	スペイン語Vb	3	1	1	2
GFS3003	スペイン語Ⅵa	3	1	1	2
GFS3004	スペイン語Ⅵb	3	1	1	2
GFC3001	中国語Va	3	1	1	2
GFC3002	中国語Vb	3	1	1	2
GFC3003	中国語Ⅵa	3	1	1	2
GFC3004	中国語Ⅵb	3	1	1	2
GFK3001	朝鮮語Va	3	1	1	2
GFK3002	朝鮮語Vb	3	1	1	2
GFK3003	朝鮮語Ⅵa	3	1	1	2
GFK3004	朝鮮語Ⅵb	3	1	1	2
GFO1001	検定認定１（各検定試験）	1~4	2	—	—
GFO1002	検定認定２（各検定試験）	1~4	2	—	—
GFO1003	検定認定３（各検定試験）	1~4	2	—	—

3　専門教育科目

専門教育科目については、以下の(1)～(6)の科目からそれぞれの要件を満たしながら、合計60単位以上を修得しなければなりません（編・転入学生を除く）。「Ⅲ卒業所要単位について（編・転入学生以外の１年次入学生）」に従って履修してください。

（1）　初年次導入科目（選択必修科目）　　6単位以上

初年次導入教育科目については、以下のとおり6単位以上を修得しなければなりません。なお、所定単位以上修得した場合は、選択科目の卒業所要単位に算入されます。

また、総合人文スキル科目「知のナヴィゲーター」については、この6単位に含めることができます。

以下、合計6単位必修

・「学びの扉（各専修）」　　2科目4単位

・「知へのパスポートａ・ｂ」（各専修）」
「知のナヴィゲーター」　　この3科目の中から2科目2単位

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
BAS101	学びの扉（各専修）	1	2	選択必修	1	2
BAS102	知へのパスポートa（各専修）	1	1	選択必修	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
BAS103	知へのパスポートb（各専修）	1	1	選択必修	1	2

（2）総合人文学科目（選択科目）

以下の総合人文学科目を履修し、単位修得した場合は選択科目の卒業所要単位数に算入することができます。

なお、「知のナヴィゲーター」は、１年次で必ず履修しなければなりません。

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
	（総合人文基礎科目）					
GEN101	総合人文基礎講義（各テーマ）	1~4	2	選択	1	2
	（総合人文横断科目）					
GEN102	専修横断講義（各テーマ）	1~4	2	選択	1	2
GEN201	専修横断演習（各テーマ）	2~4	1	選択	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
	（総合人文スキル科目）					
GEN103	知のナヴィゲーター	1	1	必履修	1	2
GEN104	ＩＣＴベーシックス	1	2	選択	1	2
GEN201	情報社会と研究倫理	2	2	選択	1	2

（3）文学部外国語科目（選択科目）

以下の文学部外国語科目を履修し、単位修得した場合は選択科目の卒業所要単位数に算入することができます。

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
FLC101	Intensive English Program Ⅰ	1	1	選択	1	2
FLC102	Intensive English Program Ⅱ	1	1	選択	1	2
FLC103	Intensive English Program Ⅲ	1	1	選択	1	2
FLC104	Intensive English Program Ⅳ	1	1	選択	1	2
FLC105	外国語演習Ⅰ（ドイツ語）	1~4	1	選択	1	2
FLC106	外国語演習Ⅱ（ドイツ語）	1~4	1	選択	1	2
FLC107	外国語演習Ⅲ（ドイツ語）	1~4	1	選択	1	2
FLC108	外国語演習Ⅳ（ドイツ語）	1~4	1	選択	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
FLC109	外国語演習Ⅴ（ドイツ語）	1~4	1	選択	1	2
FLC110	外国語演習Ⅵ（ドイツ語）	1~4	1	選択	1	2
FLC111	外国語演習Ⅰ（フランス語）	1~4	1	選択	1	2
FLC112	外国語演習Ⅱ（フランス語）	1~4	1	選択	1	2
FLC113	外国語演習Ⅲ（フランス語）	1~4	1	選択	1	2
FLC114	外国語演習Ⅳ（フランス語）	1~4	1	選択	1	2
FLC115	外国語演習Ⅴ（フランス語）	1~4	1	選択	1	2
FLC116	外国語演習Ⅵ（フランス語）	1~4	1	選択	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
FLC117	外国語演習Ⅰ（中国語）	1~4	1	選択	1	2
FLC118	外国語演習Ⅱ（中国語）	1~4	1	選択	1	2
FLC119	外国語演習Ⅲ（中国語）	1~4	1	選択	1	2
FLC120	外国語演習Ⅳ（中国語）	1~4	1	選択	1	2
FLC121	外国語演習Ⅴ（中国語）	1~4	1	選択	1	2
FLC122	外国語演習Ⅵ（中国語）	1~4	1	選択	1	2
FLC123	ギリシャ語Ⅰ	1~4	2	選択	1	2
FLC124	ギリシャ語Ⅱ	1~4	2	選択	1	2
FLC125	ラテン語Ⅰ	1~4	2	選択	1	2
FLC126	ラテン語Ⅱ	1~4	2	選択	1	2
FLC127	西アジアの言語１（各テーマ）	1~4	2	選択	1	2
FLC128	西アジアの言語２（各テーマ）	1~4	2	選択	1	2
FLC129	サンスクリット語Ⅰ	1~4	2	選択	1	2
FLC130	サンスクリット語Ⅱ	1~4	2	選択	1	2
FLC131	古代エジプト語Ⅰ	1~4	2	選択	1	2
FLC132	古代エジプト語Ⅱ	1~4	2	選択	1	2
FLC133	古文書を読む	1~4	2	選択	1	2
FLC134	古記録を読む	1~4	2	選択	1	2

（4）専修固有科目（必修科目※）

所属専修の各科目を履修・修得しなければなりません。所属専修以外の各科目を履修することはできません。

※　所属する専修によって、選択必修としている科目や、選択であるけれども資格取得のために修得を必要とする科目がある科目については、専修固有科目に記載しています。所属専修の該当欄を確認してください。

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
	（英米文学英語学専修）					
ELL201	英米文学英語学専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
ELL202	英米文学英語学専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
ELL203	英米文学英語学専修研究Ⅰ	2	2	必修	1	2
ELL204	英米文学英語学専修研究Ⅱ	2	2	必修	1	2
ELL301	英米文学英語学専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
ELL302	英米文学英語学専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
ELL303	英米文学英語学専修研究Ⅲ	3	2	必修	1	2
ELL304	英米文学英語学専修研究Ⅳ	3	2	必修	1	2
ELL401	英米文学英語学専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2
ELL402	英米文学英語学専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2
ELL403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	（英米文化専修）					
ABC201	英米文化専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
ABC202	英米文化専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
ABC203	英米文化専修研究Ⅰ	2	2	必修	1	2
ABC204	英米文化専修研究Ⅱ	2	2	必修	1	2
ABC301	英米文化専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
ABC302	英米文化専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
ABC303	英米文化専修研究Ⅲ	3	2	必修	1	2
ABC304	英米文化専修研究Ⅳ	3	2	必修	1	2
ABC401	英米文化専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2
ABC402	英米文化専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2
ABC403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	（国語国文学専修［国文学コース］）					
JPN201	国語国文学専修ゼミⅠ（国文学）	2	1	必修	1	2
JPN202	国語国文学専修ゼミⅡ（国文学）	2	1	必修	1	2
JPN203	国語国文学専修研究Ⅰ（国文学）	2	2	必修	1	2
JPN204	国語国文学専修研究Ⅱ（国文学）	2	2	必修	1	2
JPN301	国語国文学専修ゼミⅢ（国文学）	3	1	必修	1	2
JPN302	国語国文学専修ゼミⅣ（国文学）	3	1	必修	1	2
JPN303	国語国文学専修研究Ⅲ（国文学）	3	2	必修	1	2
JPN304	国語国文学専修研究Ⅳ（国文学）	3	2	必修	1	2
JPN401	国語国文学専修ゼミⅤ（国文学）	4	1	必修	1	2
JPN402	国語国文学専修ゼミⅥ（国文学）	4	1	必修	1	2
JPN403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	（国語国文学専修［国語学コース］）					
JPN201	国語国文学専修ゼミⅠ（国語学）	2	1	必修	1	2
JPN202	国語国文学専修ゼミⅡ（国語学）	2	1	必修	1	2
JPN203	国語国文学専修研究Ⅰ（国語学）	2	2	必修	1	2
JPN204	国語国文学専修研究Ⅱ（国語学）	2	2	必修	1	2
JPN301	国語国文学専修ゼミⅢ（国語学）	3	1	必修	1	2
JPN302	国語国文学専修ゼミⅣ（国語学）	3	1	必修	1	2
JPN303	国語国文学専修研究Ⅲ（国語学）	3	2	必修	1	2
JPN304	国語国文学専修研究Ⅳ（国語学）	3	2	必修	1	2
JPN401	国語国文学専修ゼミⅤ（国語学）	4	1	必修	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
JPN402	国語国文学専修ゼミⅥ(国語学)	4	1	必修	1	2
JPN403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(哲学倫理学専修)					
PHE201	哲学倫理学専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
PHE202	哲学倫理学専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
PHE203	哲学倫理学専修研究Ⅰ	2	2	必修	1	2
PHE204	哲学倫理学専修研究Ⅱ	2	2	必修	1	2
PHE301	哲学倫理学専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
PHE302	哲学倫理学専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
PHE303	哲学倫理学専修研究Ⅲ	3	2	必修	1	2
PHE304	哲学倫理学専修研究Ⅳ	3	2	必修	1	2
PHE401	哲学倫理学専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2
PHE402	哲学倫理学専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2
PHE403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(比較宗教学専修)					
HOR201	比較宗教学専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
HOR202	比較宗教学専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
HOR203	比較宗教学専修研究Ⅰ	2	2	必修	1	2
HOR204	比較宗教学専修研究Ⅱ	2	2	必修	1	2
HOR301	比較宗教学専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
HOR302	比較宗教学専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
HOR303	比較宗教学専修研究Ⅲ	3	2	必修	1	2
HOR304	比較宗教学専修研究Ⅳ	3	2	必修	1	2
HOR401	比較宗教学専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2
HOR402	比較宗教学専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2
HOR403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(芸術学美術史専修)					
AHT201	芸術学美術史専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
AHT202	芸術学美術史専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
AHT203	芸術学美術史専修研究Ⅰ	2	2	必修	1	2
AHT204	芸術学美術史専修研究Ⅱ	2	2	必修	1	2
AHT301	芸術学美術史専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
AHT302	芸術学美術史専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
AHT303	芸術学美術史専修研究Ⅲ	3	2	必修	1	2
AHT304	芸術学美術史専修研究Ⅳ	3	2	必修	1	2
AHT401	芸術学美術史専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2
AHT402	芸術学美術史専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2
AHT403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(ヨーロッパ文化専修[フランス言語文化コース])					
EUR201	ヨーロッパ文化専修ゼミⅠ(フランス言語文化)	2	1	必修	1	2
EUR202	ヨーロッパ文化専修ゼミⅡ(フランス言語文化)	2	1	必修	1	2
EUR203	ヨーロッパ文化専修研究Ⅰ(フランス言語文化)	2	2	必修	1	2
EUR204	ヨーロッパ文化専修研究Ⅱ(フランス言語文化)	2	2	必修	1	2
EUR301	ヨーロッパ文化専修ゼミⅢ(フランス言語文化)	3	1	必修	1	2
EUR302	ヨーロッパ文化専修ゼミⅣ(フランス言語文化)	3	1	必修	1	2
EUR303	ヨーロッパ文化専修研究Ⅲ(フランス言語文化)	3	2	必修	1	2
EUR304	ヨーロッパ文化専修研究Ⅳ(フランス言語文化)	3	2	必修	1	2
EUR401	ヨーロッパ文化専修ゼミⅤ(フランス言語文化)	4	1	必修	1	2
EUR402	ヨーロッパ文化専修ゼミⅥ(フランス言語文化)	4	1	必修	1	2
EUR403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(ヨーロッパ文化専修[ドイツ言語文化コース])					
EUR201	ヨーロッパ文化専修ゼミⅠ(ドイツ言語文化)	2	1	必修	1	2
EUR202	ヨーロッパ文化専修ゼミⅡ(ドイツ言語文化)	2	1	必修	1	2
EUR203	ヨーロッパ文化専修研究Ⅰ(ドイツ言語文化)	2	2	必修	1	2
EUR204	ヨーロッパ文化専修研究Ⅱ(ドイツ言語文化)	2	2	必修	1	2
EUR301	ヨーロッパ文化専修ゼミⅢ(ドイツ言語文化)	3	1	必修	1	2
EUR302	ヨーロッパ文化専修ゼミⅣ(ドイツ言語文化)	3	1	必修	1	2
EUR303	ヨーロッパ文化専修研究Ⅲ(ドイツ言語文化)	3	2	必修	1	2
EUR304	ヨーロッパ文化専修研究Ⅳ(ドイツ言語文化)	3	2	必修	1	2
EUR401	ヨーロッパ文化専修ゼミⅤ(ドイツ言語文化)	4	1	必修	1	2
EUR402	ヨーロッパ文化専修ゼミⅥ(ドイツ言語文化)	4	1	必修	1	2
EUR403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(日本史・文化遺産学専修)					
JNH201	日本史・文化遺産学専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
JNH202	日本史・文化遺産学専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
JNH203	日本史・文化遺産学専修研究Ⅰ	2	2	必修	1	2
JNH204	日本史・文化遺産学専修研究Ⅱ	2	2	必修	1	2
JNH301	日本史・文化遺産学専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
JNH302	日本史・文化遺産学専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
JNH303	日本史・文化遺産学専修研究Ⅲ	3	2	必修	1	2
JNH304	日本史・文化遺産学専修研究Ⅳ	3	2	必修	1	2
JNH401	日本史・文化遺産学専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2
JNH402	日本史・文化遺産学専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2
JNH403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(世界史専修)					
WRH201	世界史専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
WRH202	世界史専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
WRH203	世界史専修研究Ⅰ	2	2	必修	1	2
WRH204	世界史専修研究Ⅱ	2	2	必修	1	2
WRH301	世界史専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
WRH302	世界史専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
WRH303	世界史専修研究Ⅲ	3	2	必修	1	2
WRH304	世界史専修研究Ⅳ	3	2	必修	1	2
WRH401	世界史専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
WRH402	世界史専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2
WRH403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(地理学・地域環境学専修)					
GEO201	地理学・地域環境学専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
GEO202	地理学・地域環境学専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
GEO203	地理学・地域環境学調査研究法a	2	1	必修	1	2
GEO204	地理学・地域環境学調査研究法b	2	1	必修	1	2
GEO301	地理学・地域環境学専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
GEO302	地理学・地域環境学専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
GEO303	地理学・地域環境学実習a	3	1	必修	1	2
GEO304	地理学・地域環境学実習b	3	1	必修	1	2
GEO401	地理学・地域環境学専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2
GEO402	地理学・地域環境学専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2
GEO403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(教育文化専修)					
EDC201	教育文化専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
EDC202	教育文化専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
EDC203	教育文化専修研究Ⅰ	2	2	必修	1	2
EDC204	教育文化専修研究Ⅱ	2	2	必修	1	2
EDC301	教育文化専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
EDC302	教育文化専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
EDC303	教育文化専修研究Ⅲ	3	2	必修	1	2
EDC304	教育文化専修研究Ⅳ	3	2	必修	1	2
EDC401	教育文化専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2
EDC402	教育文化専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2
EDC403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(初等教育学専修)					
ELE201	初等教育学専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
ELE202	初等教育学専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
ELE301	初等教育学専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
ELE302	初等教育学専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
ELE401	初等教育学専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2
ELE402	初等教育学専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2
ELE403	卒業論文	4	4	必修	—	—
ELE151	教職の実際	1	2	選択	1	2
ELE152	教育原理(初等)	1	2	選択	1	2
ELE153	学習・発達論(初等)	1	2	選択	1	2
ELE154	教育政策論	1	2	選択	1	2
ELE155	教職リサーチⅠ	1	2	選択	1	2
ELE156	教職リサーチⅡ	1	2	選択	1	2
ELE251	特別支援教育論(初等)	2	2	選択	1	2
ELE252	カリキュラム論	2	2	選択	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
ELE253	国語科教育法	2	2	選択	1	2
ELE254	社会科教育法	2	2	選択	1	2
ELE255	算数科教育法	2	2	選択	1	2
ELE256	理科教育法	2	2	選択	1	2
ELE257	生活科教育法	2	2	選択	1	2
ELE258	音楽科教育法	2	2	選択	1	2
ELE259	図画工作科教育法	2	2	選択	1	2
ELE260	家庭科教育法	2	2	選択	1	2
ELE261	体育科教育法	2	2	選択	1	2
ELE262	英語科教育法	2	2	選択	1	2
ELE263	道徳教育の理論と実践	2	2	選択	1	2
ELE264	総合的な学習の時間の指導法(初等)	2	2	選択	1	2
ELE265	特別活動論(初等)	2	2	選択	1	2
ELE266	教育方法学(初等)	2	2	選択	1	2
ELE267	ICTを活用した教育に関する理論及び方法	2	1	選択	1	2
ELE268	国語科教育の内容	2	2	選択	1	2
ELE269	社会科教育の内容	2	2	選択	1	2
ELE270	算数科教育の内容	2	2	選択	1	2
ELE271	理科教育の内容	2	2	選択	1	2
ELE272	生活科教育の内容	2	2	選択	1	2
ELE273	音楽科教育の内容	2	2	選択	1	2
ELE274	図画工作科教育の内容	2	2	選択	1	2
ELE275	家庭科教育の内容	2	2	選択	1	2
ELE276	体育科教育の内容	2	2	選択	1	2
ELE278	英語科教育の内容	2	2	選択	1	2
ELE351	生徒・進路指導論(初等)	3	2	選択	1	2
ELE352	教育相談論(初等)	3	2	選択	1	2
ELE353	小学校教育実習事前指導	3	1	選択	1	2
ELE354	小学校教育実習(一)	3	2	選択	1	2
ELE355	小学校教育実習(二)	3	2	選択	1	2
ELE451	教職実践演習(初等)	4	2	選択	1	2
	(心理学専修)					
PSY201	心理学専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
PSY202	心理学専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
PSY203	心理学専修研究Ⅰ	2	2	必修	1	2
PSY204	心理学専修研究Ⅱ	2	2	必修	1	2
PSY301	心理学専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
PSY302	心理学専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
PSY303	心理学専修研究Ⅲ	3	2	必修	1	2
PSY304	心理学専修研究Ⅳ	3	2	必修	1	2
PSY401	心理学専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2
PSY402	心理学専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
PSY403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(映像文化専修)					
FMS201	映像文化専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
FMS202	映像文化専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
FMS203	映像文化専修研究Ⅰ	2	2	必修	1	2
FMS204	映像文化専修研究Ⅱ	2	2	必修	1	2
FMS301	映像文化専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
FMS302	映像文化専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
FMS303	映像文化専修研究Ⅲ	3	2	必修	1	2
FMS304	映像文化専修研究Ⅳ	3	2	必修	1	2
FMS401	映像文化専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2
FMS402	映像文化専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2
FMS403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(文化共生学専修)					
SYM201	文化共生学専修ゼミⅠ	2	1	必修	1	2
SYM202	文化共生学専修ゼミⅡ	2	1	必修	1	2
SYM203	文化共生学専修研究Ⅰ	2	2	必修	1	2
SYM204	文化共生学専修研究Ⅱ	2	2	必修	1	2
SYM301	文化共生学専修ゼミⅢ	3	1	必修	1	2
SYM302	文化共生学専修ゼミⅣ	3	1	必修	1	2
SYM303	文化共生学専修研究Ⅲ	3	2	必修	1	2
SYM304	文化共生学専修研究Ⅳ	3	2	必修	1	2
SYM401	文化共生学専修ゼミⅤ	4	1	必修	1	2
SYM402	文化共生学専修ゼミⅥ	4	1	必修	1	2
SYM403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(アジア文化専修[コース共通])					
ACS201	アジア文化専修研究Ⅰ	2	2	必修	1	2
ACS202	アジア文化専修研究Ⅱ	2	2	必修	1	2
ACS301	アジア文化専修研究Ⅲ	3	2	必修	1	2
ACS302	アジア文化専修研究Ⅳ	3	2	必修	1	2
	(アジア文化専修[アジア文化コース])					
ACS203	アジア文化専修ゼミⅠ(アジア文化)	2	1	必修	1	2
ACS204	アジア文化専修ゼミⅡ(アジア文化)	2	1	必修	1	2
ACS303	アジア文化専修ゼミⅢ(アジア文化)	3	1	必修	1	2
ACS304	アジア文化専修ゼミⅣ(アジア文化)	3	1	必修	1	2
ACS401	アジア文化専修ゼミⅤ(アジア文化)	4	1	必修	1	2
ACS402	アジア文化専修ゼミⅥ(アジア文化)	4	1	必修	1	2
ACS403	卒業論文	4	4	必修	—	—
	(アジア文化専修[中国言語文化コース])					
ACS203	アジア文化専修ゼミⅠ(中国言語文化)	2	1	必修	1	2
ACS204	アジア文化専修ゼミⅡ(中国言語文化)	2	1	必修	1	2
ACS303	アジア文化専修ゼミⅢ(中国言語文化)	3	1	必修	1	2
ACS304	アジア文化専修ゼミⅣ(中国言語文化)	3	1	必修	1	2
ACS401	アジア文化専修ゼミⅤ(中国言語文化)	4	1	必修	1	2
ACS402	アジア文化専修ゼミⅥ(中国言語文化)	4	1	必修	1	2
ACS403	卒業論文	4	4	必修	—	—

※ 「小学校教育実習㈠・㈡」は履修制限単位に含みません。

(5) 専修関連科目 (選択科目)

専修毎に関係の深い内容の科目を挙げていますが、所属専修以外の科目であっても自由に履修・修得することができます。

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
	(英米文学英語学専修)					
ELL251	英米文学講義Ⅰ	2	2	選択	1	2
ELL252	英米文学講義Ⅱ	2	2	選択	1	2
ELL253	英米文学講義Ⅲ	2	2	選択	1	2
ELL254	英米文学講義Ⅳ	2	2	選択	1	2
ELL255	英米文学英語学講義Ⅰ	2	2	選択	1	2
ELL256	英米文学英語学講義Ⅱ	2	2	選択	1	2
ELL257	英語音声学概論Ⅰ	2	2	選択	1	2
ELL258	英語音声学概論Ⅱ	2	2	選択	1	2
ELL259	英語学概論	2	2	選択	1	2
ELL260	英文法原論	2	2	選択	1	2
ELL261	日英語意味論Ⅰ	2	2	選択	1	2
ELL262	日英語意味論Ⅱ	2	2	選択	1	2
ELL263	日英語比較論Ⅰ	2	2	選択	1	2
ELL264	日英語比較論Ⅱ	2	2	選択	1	2
ELL351	英米文学研究	3	2	選択	1	2
ELL352	英語学研究	3	2	選択	1	2
	(英米文化専修)					
ABC251	カルチュラル・スタディーズa	1~4	2	選択	1	2
ABC252	カルチュラル・スタディーズb	1~4	2	選択	1	2
ABC253	アメリカン・スタディーズa	1~4	2	選択	1	2
ABC254	アメリカン・スタディーズb	1~4	2	選択	1	2
ABC255	英語圏文化論a	2·3	2	選択	1	2
ABC256	英語圏文化論b	2·3	2	選択	1	2
ABC257	比較文化論a	2·3	2	選択	1	2
ABC258	比較文化論b	2·3	2	選択	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
ABC259	英米文化専門英語Ⅰa	2	1	選択	1	2
ABC260	英米文化専門英語Ⅰb	2	1	選択	1	2
ABC261	英米文化専門英語Ⅱa	2	1	選択	1	2
ABC262	英米文化専門英語Ⅱb	2	1	選択	1	2
ABC263	英米文化ワークショップⅠa	2·3	2	選択	1	2
ABC264	英米文化ワークショップⅠb	2·3	2	選択	1	2
ABC265	英米文化ワークショップⅡa	2·3	2	選択	1	2
ABC266	英米文化ワークショップⅡb	2·3	2	選択	1	2
	(国語国文学専修)					
JPN151	国文学史概説a	1·2	2	選択	1	2
JPN152	国文学史概説b	1·2	2	選択	1	2
JPN153	国語学概論a	1·2	2	選択	1	2
JPN154	国語学概論b	1·2	2	選択	1	2
JPN251	国文学作品研究(一)a	2·3	2	選択	1	2
JPN252	国文学作品研究(一)b	2·3	2	選択	1	2
JPN253	国文学作品研究(二)a	2·3	2	選択	1	2
JPN254	国文学作品研究(二)b	2·3	2	選択	1	2
JPN255	国文学作品研究(三)a	2·3	2	選択	1	2
JPN256	国文学作品研究(三)b	2·3	2	選択	1	2
JPN257	国文学作品研究(四)a	2·3	2	選択	1	2
JPN258	国文学作品研究(四)b	2·3	2	選択	1	2
JPN259	国文学作品研究(五)a	2·3	2	選択	1	2
JPN260	国文学作品研究(五)b	2·3	2	選択	1	2
JPN261	国文学特殊講義a	2	2	選択	1	2
JPN262	国文学特殊講義b	2	2	選択	1	2
JPN263	日本語学Ⅰa	2	2	選択	1	2
JPN264	日本語学Ⅰb	2	2	選択	1	2
JPN265	日本語学Ⅱa	2	2	選択	1	2
JPN266	日本語学Ⅱb	2	2	選択	1	2
JPN267	日本語表現論a	2	2	選択	1	2
JPN268	日本語表現論b	2	2	選択	1	2
JPN269	日本語教育概論	2	2	選択	1	2
JPN270	日本語教授法	2	2	選択	1	2
JPN351	日本語教育方法論	3	2	選択	1	2
JPN352	日本語教育授業分析	3	2	選択	1	2
JPN353	日本語教育実習	3	2	選択	1	2
	(哲学倫理学専修)					
PHE151	倫理学概論a	1~4	2	選択	1	2
PHE152	倫理学概論b	1~4	2	選択	1	2
PHE251	哲学概論a	2·3	2	選択	1	2
PHE252	哲学概論b	2·3	2	選択	1	2
PHE253	西洋古代・中世哲学a	2·3	2	選択	1	2
PHE254	西洋古代・中世哲学b	2·3	2	選択	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
PHE255	西洋近代哲学a	2·3	2	選択	1	2
PHE256	西洋近代哲学b	2·3	2	選択	1	2
PHE257	哲学特殊講義a	2·3	2	選択	1	2
PHE258	哲学特殊講義b	2·3	2	選択	1	2
PHE259	倫理学特殊講義a	2·3	2	選択	1	2
PHE260	倫理学特殊講義b	2·3	2	選択	1	2
PHE351	哲学演習a	3	1	選択	1	2
PHE352	哲学演習b	3	1	選択	1	2
PHE353	倫理学演習a	3	1	選択	1	2
PHE354	倫理学演習b	3	1	選択	1	2
	(比較宗教学専修)					
HOR151	宗教学概論a	1	2	選択	1	2
HOR152	宗教学概論b	1	2	選択	1	2
HOR153	仏教学概論a	1	2	選択	1	2
HOR154	仏教学概論b	1	2	選択	1	2
HOR155	イスラーム思想研究a	1~4	2	選択	1	2
HOR156	イスラーム思想研究b	1~4	2	選択	1	2
HOR157	キリスト教思想研究a	1~4	2	選択	1	2
HOR158	キリスト教思想研究b	1~4	2	選択	1	2
HOR251	日本思想論a	2·3	2	選択	1	2
HOR252	日本思想論b	2·3	2	選択	1	2
HOR253	宗教学フィールドワーク入門a	2	2	選択	1	2
HOR254	宗教学フィールドワーク入門b	2	2	選択	1	2
HOR255	宗教学各論	2·3	2	選択	1	2
HOR351	比較思想研究	3	2	選択	1	2
HOR352	宗教学演習a	3	1	選択	1	2
HOR353	宗教学演習b	3	1	選択	1	2
	(芸術学美術史専修)					
AHT251	演劇学・文芸学a	1~4	2	選択	1	2
AHT252	演劇学・文芸学b	1~4	2	選択	1	2
AHT253	音楽論a	1~4	2	選択	1	2
AHT254	音楽論b	1~4	2	選択	1	2
AHT255	美学・芸術学概論a	2·3	2	選択	1	2
AHT256	美学・芸術学概論b	2·3	2	選択	1	2
AHT257	西洋美術史a	2·3	2	選択	1	2
AHT258	西洋美術史b	2·3	2	選択	1	2
AHT259	日本及東洋美術史a	2·3	2	選択	1	2
AHT260	日本及東洋美術史b	2·3	2	選択	1	2
AHT261	二次制作論a	2·3	2	選択	1	2
AHT262	二次制作論b	2·3	2	選択	1	2
AHT363	現代芸術論a	2·3	2	選択	1	2
AHT364	現代芸術論b	2·3	2	選択	1	2
AHT365	芸術学・美術史特殊講義a	3	2	選択	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
AHT366	芸術学・美術史特殊講義 b	3	2	選択	1	2
	(ヨーロッパ文化専修)					
EUR151	ヨーロッパの言語と文化(一)	1･2	2	選択	1	2
EUR152	ヨーロッパ文学入門	1~4	2	選択	1	2
EUR153	フランス文化論 a	1~4	2	選択	1	2
EUR154	フランス文化論 b	1~4	2	選択	1	2
EUR155	ドイツ文化論 a	1~4	2	選択	1	2
EUR156	ドイツ文化論 b	1~4	2	選択	1	2
EUR251	専修フランス語 a	2	1	選択	1	2
EUR252	専修フランス語 b	2	1	選択	1	2
EUR253	フランス語インテンシブ(一) a	2	1	選択	1	2
EUR254	フランス語インテンシブ(一) b	2	1	選択	1	2
EUR255	専修ドイツ語 a	2	1	選択	1	2
EUR256	専修ドイツ語 b	2	1	選択	1	2
EUR257	ドイツ語インテンシブ(一) a	2	1	選択	1	2
EUR258	ドイツ語インテンシブ(一) b	2	1	選択	1	2
EUR259	フランス語学研究 a	2	2	選択	1	2
EUR260	フランス語学研究 b	2	2	選択	1	2
EUR261	フランス文学史 a	2	2	選択	1	2
EUR262	フランス文学史 b	2	2	選択	1	2
EUR263	ドイツ語学研究 a	2	2	選択	1	2
EUR264	ドイツ語学研究 b	2	2	選択	1	2
EUR265	ドイツ文学史 a	2	2	選択	1	2
EUR266	ドイツ文学史 b	2	2	選択	1	2
EUR351	フランス語インテンシブ(二) a	3	1	選択	1	2
EUR352	フランス語インテンシブ(二) b	3	1	選択	1	2
EUR353	ドイツ語インテンシブ(二) a	3	1	選択	1	2
EUR354	ドイツ語インテンシブ(二) b	3	1	選択	1	2
EUR355	フランス言語文化専門研究	3	2	選択	1	2
EUR356	ドイツ言語文化専門研究	3	2	選択	1	2
EUR357	日欧比較文化論	3	2	選択	1	2
EUR358	ヨーロッパの言語と文化(二)	3	2	選択	1	2
	(日本史・文化遺産学専修)					
JNH251	日本史基礎史料講読 a	2	1	選択	1	2
JNH252	日本史基礎史料講読 b	2	1	選択	1	2
JNH253	日本史資料学研究 a	2	1	選択	1	2
JNH254	日本史資料学研究 b	2	1	選択	1	2
JNH351	日本史史料講読 a	3	1	選択	1	2
JNH352	日本史史料講読 b	3	1	選択	1	2
JNH353	日本史特殊講義(一) a	3	2	選択	1	2
JNH354	日本史特殊講義(一) b	3	2	選択	1	2
JNH355	日本史特殊講義(二) a	3	2	選択	1	2
JNH356	日本史特殊講義(二) b	3	2	選択	1	2
JNH357	考古学研究 a	3	2	選択	1	2
JNH358	考古学研究 b	3	2	選択	1	2
JNH359	民俗学研究 a	3	2	選択	1	2
JNH360	民俗学研究 b	3	2	選択	1	2
	(世界史専修)					
WRH251	ユーラシア史 a	2	2	選択	1	2
WRH252	ユーラシア史 b	2	2	選択	1	2
WRH253	世界史研究 a	2	2	選択	1	2
WRH254	世界史研究 b	2	2	選択	1	2
WRH255	世界史史料研究Ⅰ	2	2	選択	1	2
WRH256	世界史史料研究Ⅱ	2	2	選択	1	2
WRH351	アジア史研究 a	3	2	選択	1	2
WRH352	アジア史研究 b	3	2	選択	1	2
WRH353	アジア社会史 a	3	2	選択	1	2
WRH354	アジア社会史 b	3	2	選択	1	2
WRH355	西洋史研究 a	3	2	選択	1	2
WRH356	西洋史研究 b	3	2	選択	1	2
WRH357	西洋社会史 a	3	2	選択	1	2
WRH358	西洋社会史 b	3	2	選択	1	2
WRH359	世界史史料研究Ⅲ	3	2	選択	1	2
WRH360	世界史史料研究Ⅳ	3	2	選択	1	2
	(地理学・地域環境学専修)					
GEO251	食の地域論	2	2	選択	1	2
GEO252	地域学	2	2	選択	1	2
GEO253	地理情報システム a	2	2	選択	1	2
GEO254	地理情報システム b	2	2	選択	1	2
GEO351	地理学・地域環境学文献講読	3	1	選択	1	2
GEO352	応用地理情報システム	3	2	選択	1	2
GEO353	観光地理学	3	2	選択	1	2
GEO354	環境地理学	3	2	選択	1	2
GEO355	地域生態論	3	2	選択	1	2
GEO356	歴史地理学	3	2	選択	1	2
GEO357	地域文化論	3	2	選択	1	2
GEO358	村落地理学	3	2	選択	1	2
GEO359	都市地理学	3	2	選択	1	2
GEO360	地域づくり論	3	2	選択	1	2
GEO361	経済地理学	3	2	選択	1	2
GEO362	地域環境システム論	3	2	選択	1	2
	(教育文化専修)					
EDC251	教育哲学	2	2	選択	1	2
EDC252	学校教育論	2	2	選択	1	2
EDC253	生涯学習論	2	2	選択	1	2
EDC254	教育人類学	2	2	選択	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
EDC255	教育法・行政論	2	2	選択	1	2
EDC256	教育と文化の社会学	2	2	選択	1	2
EDC257	ジェンダーと教育	2	2	選択	1	2
EDC258	教育文化と図書館情報学	2	2	選択	1	2
EDC259	教育政策と図書館	2	2	選択	1	2
EDC260	教育とデジタルアーカイブズ	2	2	選択	1	2
EDC261	情報処理（コンテンツ制作）	2	2	選択	1	2
EDC262	情報処理（データサイエンス）	2	2	選択	1	2
EDC263	教育におけるプログラミングａ	2	2	選択	1	2
EDC264	教育におけるプログラミングｂ	2	2	選択	1	2
EDC451	教育文化演習１	4	1	選択	1	2
EDC452	教育文化演習２	4	1	選択	1	2
	（心理学専修）					
PSY151	心理学の諸理論	1	2	選択	1	2
PSY152	脳と意識の科学	1	2	選択	1	2
PSY251	リアリティの心理学	2	2	選択	1	2
PSY252	フィクションの心理学	2	2	選択	1	2
PSY253	感情と共感の科学	2	2	選択	1	2
PSY254	性格と個人差の心理学	2	2	選択	1	2
PSY351	心理・行動データの収集法	3	2	選択	1	2
PSY352	心理・行動データの分析法	3	2	選択	1	2
PSY353	個性の記述法	3	2	選択	1	2
PSY354	文化と自己の心理学	3	2	選択	1	2
PSY355	芸術と感性の認知神経科学	3	2	選択	1	2
PSY255	子どもの発達多様性	2	2	選択	1	2
PSY256	人間発達と教育の心理学	2	2	選択	1	2
PSY356	心理学英文講読演習	3	1	選択	1	2
PSY357	スピリチュアリティと宗教性の心理学	3	2	選択	1	2
	（映像文化専修）					
FMS151	映像文化論基礎研究ａ	1~4	2	選択	1	2
FMS152	映像文化論基礎研究ｂ	1~4	2	選択	1	2
FMS153	映像メディア研究ａ	1	2	選択	1	2
FMS154	映像メディア研究ｂ	1	2	選択	1	2
FMS251	比較映像文化論ａ	2･3	2	選択	1	2
FMS252	比較映像文化論ｂ	2･3	2	選択	1	2
FMS253	映像文化史ａ	2･3	2	選択	1	2
FMS254	映像文化史ｂ	2･3	2	選択	1	2
FMS255	映像文化論専門研究Ⅰａ	2	2	選択	1	2
FMS256	映像文化論専門研究Ⅰｂ	2	2	選択	1	2
FMS257	映像メディア制作論ａ	2	2	選択	1	2
FMS258	映像メディア制作論ｂ	2	2	選択	1	2
FMS351	映像文化論専門研究Ⅱａ	3	2	選択	1	2
FMS352	映像文化論専門研究Ⅱｂ	3	2	選択	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
FMS353	映像文化論特殊講義ａ	3･4	2	選択	1	2
FMS354	映像文化論特殊講義ｂ	3･4	2	選択	1	2
	（文化共生学専修）					
SYM251	文化共生学基礎研究ａ	2･3	2	選択	1	2
SYM252	文化共生学基礎研究ｂ	2･3	2	選択	1	2
SYM253	異文化接触論ａ	2･3	2	選択	1	2
SYM254	異文化接触論ｂ	2･3	2	選択	1	2
SYM255	風俗文化史ａ	2･3	2	選択	1	2
SYM256	風俗文化史ｂ	2･3	2	選択	1	2
SYM351	文化共生学専門研究ａ	3	2	選択	1	2
SYM352	文化共生学専門研究ｂ	3	2	選択	1	
SYM353	ジェンダー文化論ａ	3	2	選択	1	2
SYM354	ジェンダー文化論ｂ	3	2	選択	1	2
SYM451	文化共生学特殊講義ａ	4	2	選択	1	2
SYM452	文化共生学特殊講義ｂ	4	2	選択	1	2
	（アジア文化専修）					
ACS151	実践中国語（中級）	1~4	1	選択	1	2
ACS152	実践中国語（上級）	1~4	1	選択	1	2
ACS153	中国語会話ａ	1~4	1	選択	1	2
ACS154	中国語会話ｂ	1~4	1	選択	1	2
ACS251	アジアの伝統文化と現代Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
ACS252	アジアの伝統文化と現代Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
ACS253	韓国現代文化論Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
ACS254	韓国現代文化論Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
ACS255	沖縄・琉球文化論Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
ACS256	沖縄・琉球文化論Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
ACS257	中国思想文化論Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
ACS258	中国思想文化論Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
ACS259	東南アジア文化論Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
ACS260	東南アジア文化論Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
ACS261	南アジア・内陸アジア論Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
ACS262	南アジア・内陸アジア論Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
ACS263	漢字・漢文論Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
ACS264	漢字・漢文論Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
ACS265	アジアの現代カルチャーⅠ	2~4	2	選択	1	2
ACS266	アジアの現代カルチャーⅡ	2~4	2	選択	1	2
ACS267	中国文学概論	2~4	2	選択	1	2
ACS268	中国文化論	2~4	2	選択	1	2
ACS269	現代中国論	2~4	2	選択	1	2
ACS270	日中関係論	2~4	2	選択	1	2
ACS271	日中対照言語論	2~4	2	選択	1	2
ACS272	中国言語文化論	2~4	2	選択	1	2
ACS273	中国古典文講読ａ	2~4	1	選択	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
ACS274	中国古典文講読b	2~4	1	選択	1	2
ACS275	中国現代文講読a	2~4	1	選択	1	2
ACS276	中国現代文講読b	2~4	1	選択	1	2
ACS277	アカデミック中国語a	2~4	1	選択	1	2
ACS278	アカデミック中国語b	2~4	1	選択	1	2
	(全専修)					
UNI101	連携講座(各テーマ)	1~4	2	選択	1	2
UNI102	寄附講座(各テーマ)	1~4	2	選択	1	2
UNI103	スペイン文化論a	1~4	2	選択	1	2
UNI104	スペイン文化論b	1~4	2	選択	1	2
UNI105	ロシア文化論a	1~4	2	選択	1	2
UNI106	ロシア文化論b	1~4	2	選択	1	2
UNI110	法思想史1	1~4	2	選択	1	2
UNI111	法思想史2	1~4	2	選択	1	2
UNI210	国際政治学1	2~4	2	選択	1	2
UNI211	国際政治学2	2~4	2	選択	1	2
UNI212	政治哲学1	2~4	2	選択	1	2
UNI213	政治哲学2	2~4	2	選択	1	2
UNI214	西洋法制史1	2~4	2	選択	1	2
UNI215	西洋法制史2	2~4	2	選択	1	2
UNI216	東洋法制史1	2~4	2	選択	1	2
UNI217	東洋法制史2	2~4	2	選択	1	2
UNI218	日本法制史1	2~4	2	選択	1	2
UNI219	日本法制史2	2~4	2	選択	1	2
UNI220	法哲学1	2~4	2	選択	1	2
UNI221	法哲学2	2~4	2	選択	1	2
UNI230	アジア経済史Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
UNI231	アジア経済史Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
UNI232	経済学説史Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
UNI233	経済学説史Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
UNI234	経済統計学Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
UNI235	経済統計学Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
UNI236	西洋経済史Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
UNI237	西洋経済史Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
UNI238	中小企業論Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
UNI239	中小企業論Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
UNI240	日本経済史Ⅰ	2	2	選択	1	2
UNI241	日本経済史Ⅱ	2	2	選択	1	2
UNI242	環境経済学Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
UNI243	環境経済学Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
UNI244	計量経済学Ⅰ	2~4	2	選択	1	2
UNI245	計量経済学Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
UNI246	産業組織論Ⅰ	2~4	2	選択	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
UNI247	産業組織論Ⅱ	2~4	2	選択	1	2
UNI250	アジア経済とビジネス	2	2	選択	1	2
UNI251	アメリカ経済とビジネス	2	2	選択	1	2
UNI252	EU経済とビジネス	2	2	選択	1	2
UNI253	交通論	2	2	選択	1	2
UNI254	国際開発論	2	2	選択	1	2
UNI255	国際投資論	2	2	選択	1	2
UNI256	商業史	2	2	選択	1	2
UNI257	食と農業	2	2	選択	1	2
UNI258	新興市場経済論	2	2	選択	1	2
UNI259	通信論	2	2	選択	1	2
UNI260	農産物流通論	2	2	選択	1	2
UNI261	ラテンアメリカ経済とビジネス	2	2	選択	1	2
UNI262	ロシア経済とビジネス	2	2	選択	1	2
UNI170	社会学概論Ⅰ	1~4	2	選択	1	2
UNI171	社会学概論Ⅱ	1~4	2	選択	1	2
UNI270	技術史Ⅰ	2	2	選択	1	2
UNI271	技術史Ⅱ	2	2	選択	1	2
UNI273	経済システムデザイン論	2	2	選択	1	2
UNI274	公共システムⅠ	2	2	選択	1	2
UNI275	公共システムⅡ	2	2	選択	1	2
UNI276	産業経済論	2	2	選択	1	2
UNI277	失敗とテクノロジー	2	2	選択	1	2
UNI278	ジャーナリズム史	2	2	選択	1	2
UNI279	大衆文化史	2	2	選択	1	2
UNI280	テクノロジーのデザイン	2	2	選択	1	2
UNI281	都市社会学	2	2	選択	1	2
UNI282	メディア史	2	2	選択	1	2
UNI190	ことばの世界(中国語)	2	2	選択	1	2
UNI390	第二言語習得論	1	2	選択	1	2
UNI391	中国語方言	3	2	選択	1	2
UNI392	言語教育学(中国語)	3	2	選択	1	2
UNI393	言語分析研究(中国語)	3	2	選択	1	2
UNI295	近代建築史	3	2	選択	1	2
UNI396	建築スケッチ	3	2	選択	1	4
UNI397	都市と住宅の歴史	3	2	選択	1	2

（6）資格関連科目等（自由科目）

〔履修上の注意事項〕

1　下記自由科目中、＊印の科目はこれを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。
　また、次の科目は履修制限単位に含めません。
　教育実習事前指導、教育実習㈠及び㈡

2　各種資格取得のための履修方法については教職支援センターホームページから自身の入学年度用の『教職課程履修の手引き』を参照してください。

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
LIC101	教職概説	1	2	自由	1	2
LIC102	教育原理	1	2	自由	1	2
LIC201	教育制度論	2	2	自由	1	2
LIC202	人権教育論	2	2	自由	1	2
LIC203	教育心理学	2	2	自由	1	2
LIC301	特別支援教育論	3	1	自由	1	2
LIC302	カリキュラム開発論	3	2	自由	1	2
LIC204	国語科教育法（一）	2	2	自由	1	2
LIC205	国語科教育法（二）	2	2	自由	1	2
LIC303	国語科教育法（三）	3	2	自由	1	2
LIC304	国語科教育法（四）	3	2	自由	1	2
LIC206	社会科教育法（一）	2	2	自由	1	2
LIC207	社会科教育法（二）	2	2	自由	1	2
LIC305	社会科教育法（三）	3	2	自由	1	2
LIC306	社会科教育法（四）	3	2	自由	1	2
LIC208	地理歴史科教育法（一）	2	2	自由	1	2
LIC209	地理歴史科教育法（二）	2	2	自由	1	2
LIC210	公民科教育法（一）	2	2	自由	1	2
LIC211	公民科教育法（二）	2	2	自由	1	2
LIC212	英語科教育法（一）	2	2	自由	1	2
LIC213	英語科教育法（二）	2	2	自由	1	2
LIC307	英語科教育法（三）	3	2	自由	1	2
LIC308	英語科教育法（四）	3	2	自由	1	2
LIC309	ドイツ語科教育法（一）	3	2	自由	1	2
LIC310	ドイツ語科教育法（二）	3	2	自由	1	2
LIC311	ドイツ語科教育法（三）	3	2	自由	1	2
LIC312	ドイツ語科教育法（四）	3	2	自由	1	2
LIC313	フランス語科教育法（一）	3	2	自由	1	2
LIC314	フランス語科教育法（二）	3	2	自由	1	2
LIC315	フランス語科教育法（三）	3	2	自由	1	2
LIC316	フランス語科教育法（四）	3	2	自由	1	2
LIC317	中国語科教育法（一）	3	2	自由	1	2
LIC318	中国語科教育法（二）	3	2	自由	1	2
LIC319	中国語科教育法（三）	3	2	自由	1	2
LIC320	中国語科教育法（四）	3	2	自由	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
LIC214	道徳教育の理論と方法	2	2	自由	1	2
LIC321	総合的な学習の時間の指導法	3	1	自由	1	2
LIC215	特別活動論	2	2	自由	1	2
LIC216	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）	2	2	自由	1	2
LIC217	メディア教育論	2	2	自由	1	2
LIC218	教育相談論	2	2	自由	1	2
LIC322	生徒・進路指導論	3	2	自由	1	2
LIC323	＊教育実習事前指導	3	1	自由	1	2
LIC324	＊教育実習（一）	3･4	2	自由	1	2
LIC401	＊教育実習（二）	4	2	自由	1	2
LIC402	教職実践演習（中等）	4	2	自由	1	2
LIC219	＊書道（一）	2	2	自由	1	2
LIC220	＊書道（二）	2	2	自由	1	2
LIC221	東洋史	2	2	自由	1	2
LIC222	西洋史	2	2	自由	1	2
LIC103	日本史概説a	1･2	2	自由	1	2
LIC104	日本史概説b	1･2	2	自由	1	2
LIC105	東洋史概説a	1･2	2	自由	1	2
LIC106	東洋史概説b	1･2	2	自由	1	2
LIC107	西洋史概説a	1･2	2	自由	1	2
LIC108	西洋史概説b	1･2	2	自由	1	2
LIC223	地理学概説a	2	2	自由	1	2
LIC224	地理学概説b	2	2	自由	1	2
LIC109	人文地理学概説a	1･2	2	選択	1	2
LIC110	人文地理学概説b	1･2	2	選択	1	2
LIC111	自然地理学概説a	1･2	2	選択	1	2
LIC112	自然地理学概説b	1･2	2	選択	1	2
LIC113	地誌学a	1	2	選択	1	2
LIC114	地誌学b	1	2	選択	1	2
LIC225	文化人類学a	2･3	2	選択	1	2
LIC226	文化人類学b	2･3	2	選択	1	2
LIC115	法学入門	1~4	2	自由	1	2
LIC227	政治学原論1	2~4	2	自由	1	2
LIC228	政治学原論2	2~4	2	自由	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
LIC229	経済原論1	2~4	2	自由	1	2
LIC230	経済原論2	2~4	2	自由	1	2
LIC116	部落史研究（前近代）	1~4	2	自由	1	2
LIC117	部落史研究（近現代）	1~4	2	自由	1	2
LIC231	経済政策1	2~4	2	自由	1	2
LIC232	経済政策2	2~4	2	自由	1	2
LIC233	社会政策1	2~4	2	自由	1	2
LIC234	社会政策2	2~4	2	自由	1	2
LIC235	学校経営と学校図書館	2	2	自由	1	2
LIC236	学習指導と学校図書館	2	2	自由	1	2
LIC237	読書と豊かな人間性	2	2	自由	1	2
LIC238	情報メディアの活用	2	2	自由	1	2
LIC118	図書館情報資源概論	1	2	自由	1	2
LIC119	図書館概論	1	2	自由	1	2
LIC239	情報資源組織論	2	2	自由	1	2
LIC120	図書館制度・経営論	1	2	自由	1	2
LIC240	図書館情報技術論	2	2	自由	1	2
LIC121	図書館サービス概論	1	2	自由	1	2
LIC241	情報サービス論	2	2	自由	1	2
LIC242	児童サービス論	2	2	自由	1	2
LIC243	情報サービス演習	2	1	自由	1	2
LIC122	情報検索演習	1	1	自由	1	2
LIC244	情報資源組織演習（一）	2	1	自由	1	2
LIC245	情報資源組織演習（二）	2	1	自由	1	2
LIC246	図書館基礎特論	2	2	自由	1	2
LIC325	図書館サービス特論	3	2	自由	1	2
LIC247	図書館情報資源特論	2	2	自由	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
LIC123	図書・図書館史	1	2	自由	1	2
LIC326	図書館総合演習	3	1	自由	1	2
LIC327	図書館実習	3	1	自由	1	2
LIC248	学校図書館サービス論	2	2	自由	1	2
LIC124	博物館概論	1	2	自由	1	2
LIC249	博物館経営論	2	2	自由	1	2
LIC125	博物館資料論	1	2	自由	1	2
LIC250	博物館資料保存論	2	2	自由	1	2
LIC251	博物館展示論	2	2	自由	1	2
LIC252	博物館教育論	2	2	自由	1	2
LIC253	博物館情報・メディア論	2	2	自由	1	2
LIC328	博物館実習	3	3	自由	2	4.5
LIC254	考古学概説a	2·3	2	自由	1	2
LIC255	考古学概説b	2·3	2	自由	1	2
LIC126	考古学実習a	1~4	1	自由	1	2
LIC127	考古学実習b	1~4	1	自由	1	2
LIC256	生涯学習概論（一）	2	2	自由	1	2
LIC257	生涯学習概論（二）	2	2	自由	1	2
LIC258	生涯学習支援論（一）	2	2	自由	1	2
LIC259	生涯学習支援論（二）	2	2	自由	1	2
LIC260	社会教育経営論（一）	2	2	自由	1	2
LIC261	社会教育経営論（二）	2	2	自由	1	2
LIC262	社会教育課題研究（一）	2	2	自由	1	2
LIC263	社会教育課題研究（二）	2	2	自由	1	2
LIC329	社会教育実習	3	1	自由	1	2
LIC264	社会教育特殊講義	2	2	自由	1	2
LIC128	言語学研究	1	2	自由	1	2

4　外国人留学生科目

〔履修上の注意事項〕

下記＊印の科目はこれを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

科目番号	授業科目	配当年次	単位	履修上の区分	授業期間	毎週授業時間
FOS1001	日本語Ⅰ	1	2	必修	1	4
FOS1002	日本語Ⅱ	1	2	必修	1	4
FOS1003	日本語Ⅲ	1	2	必修	1	4
FOS1004	日本語Ⅳ	1	2	必修	1	4
FOS1005	日本事情Ⅰ	1	2	選択	1	2
FOS1006	日本事情Ⅱ	1	2	選択	1	2
FOS2001	実践ビジネス日本語Ⅰ	2	2	選択	1	2
FOS2002	実践ビジネス日本語Ⅱ	2	2	選択	1	2
FOS2003	キャリアデザインⅠ(日本の社会と企業)	2	2	選択	1	2
FOS2004	キャリアデザインⅡ(日本の就職と働き方)	2	2	選択	1	2
FOS3001	キャリアデザインⅢ(日本の社会で働く)	3	2	選択	1	2
FOS1007	Contemporary Japan (Understanding Japan)	1~4	2	選択	1	2
FOS1008	Contemporary Japan (Researching Japan)	1~4	2	選択	1	2
FOS1009	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 1)	1~4	2	選択	1	2
FOS1010	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 2)	1~4	2	選択	1	2
FOS1011	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 1)	1~4	2	選択	1	2
FOS1012	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 2)	1~4	2	選択	1	2
FOS1013	Communication in Japanese Society (Business Japanese)	1~4	2	選択	1	2
FOS1014	Communication in Japanese Society (JPN Corporate Culture)	1~4	2	選択	1	2
FOS1015	Field-Based Learning (Society and Workplace Culture in Japan)	1~4	2	選択	1	2
FOS1016	＊Japanese (1-a)	1~4	2	自由	1	4
FOS1017	＊Japanese (1-b)	1~4	2	自由	1	4
FOS1018	＊Japanese (2-a)	1~4	2	自由	1	4
FOS1019	＊Japanese (2-b)	1~4	2	自由	1	4
FOS1020	＊Japanese (3-a)	1~4	2	自由	1	4
FOS1021	＊Japanese (3-b)	1~4	2	自由	1	4
FOS1022	＊Japanese (4-a)	1~4	2	自由	1	4
FOS1023	＊Japanese (4-b)	1~4	2	自由	1	4
FOS1024	＊Japanese (5-a)	1~4	2	自由	1	4
FOS1025	＊Japanese (5-b)	1~4	2	自由	1	4
FOS1026	＊Japanese (6-a)	1~4	2	自由	1	4
FOS1027	＊Japanese (6-b)	1~4	2	自由	1	4
FOS1028	＊Japanese (7-a)	1~4	2	自由	1	4
FOS1029	＊Japanese (7-b)	1~4	2	自由	1	4

外国人留学生は、次のとおり外国人留学生科目及び外国語科目を履修しなければなりません。

1　外国人留学生科目

(1)　必修科目　8単位

日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの計8単位を修得しなければなりません。

(2)　外国人留学生科目の選択科目を修得した場合は、共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

(3)　外国人留学生科目の自由科目を履修した場合は、履修制限単位に含めますが、これを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

2　外国語科目

(1)　英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語のうちから1カ国語を選択し、各外国語とも〔Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb〕〔Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb〕〔Va・Vb、Ⅵa・Ⅵb〕のいずれかの組合わせで合計8科目8単位を修得しなければなりません。

(2)　日常使用語を外国語科目として履修することはできません。

(3)　外国語科目を所定単位以上修得した場合は、12単位を限度に卒業所要単位に算入することができます。

(4)　外国語検定科目については前掲「卒業所要単位の内訳（外国語科目）」欄を参照してください。

［科目番号について］

本学では、科目の特性・配当年次を示すため、各科目に科目番号を付与しています。

〈共通教養科目〉

アルファベット３桁で「共通教養科目」と「群」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。また、共通教養科目のうちグローバル科目群の留学準備スキルアップ科目及びグローバル・フロンティア科目は、配当年次に代えて外部テストによる難易度を示しています。

GE　A　1　000

種別　群　配当年次（難易度）　連番

種別　共通教養科目はすべてGE

群

A	関西大学科目群
B	基盤科目群
C	自己形成科目群
D	健康・スポーツ科目群
E	キャリア形成科目群
F	グローバル科目群
G	大学・学部・社会連携科目群

難易度（受講には各レベルの英語運用能力が必要です）

番号	レベル
1	GTECテスト180点未満 TOEFL ITP®Test430点未満 TOEFL iBT®Test40点未満 TOEIC®L&RTest375点未満 英語検定準２級未満
2	GTECテスト180点以上260点未満 TOEFL ITP®Test430点以上505点未満 TOEFL iBT®Test40点以上60点未満 TOEIC®L&RTest375点以上580点未満 英語検定準２級及び２級
3	GTECテスト260点以上 TOEFL ITP®Test505点以上 TOEFL iBT®Test60点以上 TOEIC®L&RTest580点以上 英語検定準１級及び１級

〈外国語科目〉

アルファベット3桁で「外国語科目」と「語種」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

GF（種別）　E（語種）　1（配当年次）　000（連番）

種別　外国語科目はすべてGF

語種

E	英語
G	ドイツ語
F	フランス語
R	ロシア語
S	スペイン語
C	中国語
K	朝鮮語
O	検定認定：Official-Test Accreditation

〈外国人留学生科目〉

アルファベット3桁で「外国人留学生科目」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

FOS（種別）　1（配当年次）　000（連番）

種別　外国人留学生科目はすべてFOS

〈専門教育科目〉

50ページに掲載の「カリキュラムの構成」を参照してください。

経 済 学 部

経済学部経済学科には、次の４つのコースがあります。
○経済政策コース　○歴史・思想コース　○産業・企業経済コース　○国際経済コース

Ⅰ　教育に関する三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学部（以下、「本学部」という）では、４つのコースごとの必修等の条件を充たしたうえで、次の知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を身につけた者に対して学士（経済学）の学位を授与します。

1　（知識・技能）
　国際化と情報化の進展する現代にあって、社会に生じる多様な問題を総合的に理解できる幅広い教養を有し、それらの問題の解決策を経済学の立場から提示できる、あるいはその内容について経済学の基本原理及び専門知識を活用し理解できる。

2　（思考力・判断力・表現力等の能力）
　経済学に関する幅広い知識を活かして溢れる情報の中から真に必要な情報を取得する能力、グローバルな視野を持って時代を切り拓くための国際性を身に付けている。さらに、いかなる状況の変化に対しても深い洞察力を持って問題解決に向け「考動」できる。

3　（主体的な態度）
　自身の役割に責任を持ち、他者と協働しながら経済学を体系的に修得している。そして、経済が直面する課題を自ら発見し、その解決に向けて主体的に取り組み、社会に積極的に貢献しようと努力できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学部（以下、「本学部」という）では、学位授与の方針に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体的な態度を修得できるように、以下の点を踏まえて、共通教養科目、専門教育科目及びその他必要な科目を体系的に教育課程として編成します。

1　教育内容

⑴　教養教育

ア　共通教養科目では、専門学習に不可欠な素養と柔軟な思考方法を身につけられるよう、人文・社会・自然科学に関する幅広い教養を与える。

イ　外国語科目では、外国語による読解力及びコミュニケーション能力を養成し、上位年次の外国書講読や短期留学プログラムなどへの橋渡しをする。

⑵　専門教育

各学生は１、２年次に幅広い教養と経済学の基礎知識を身につけたうえで、３年次春学期より経済学演習を開始し、４つのコースに分属する。このような流れの中で、学生が経済学の基礎から応用までを体系的に学べるよう、以下のように専門科目が配置される。

ア　導入科目は、大学の学習で必要とされるアカデミック・スキル、情報処理スキル、及び数的処理能力を補強するものである。また、学生が他者と綿密に意思疎通をとりながら学習するよう、少人数クラスが用意される。

イ　主に２年次からの科目として、基本科目が配置される。基本科目は、経済学の基礎をなす科目であり、学生のコース選択に際して参考情報となるような各コースにおいて代表的な分野の科目である。

ウ　２年次からは、基本科目と並行して、展開科目も配置される。展開科目は、基礎科目の応用や発展にあたるものであり、学生が各コースの研究を進めるにあたって必要な科目である。

エ　３年次からは、演習形式の授業を希望する学生に可能な限り対応するよう、実践科目が配置される。実践科目では、学生はフィールドワークやプレゼンテーションやディベートなどを主体的に行う。

オ　学生が経済学の研究を進めるにあたって隣接分野の知識も学べるよう、関連科目として、経営・会計関連科目と法律・政治関連科目が２年次から配置される。

2　教育評価

⑴　卒業に際しては必修科目の履修要件があり、それらの単位修得状況によって、経済学の基本知識の定着を確認する。

⑵　最終的な学修成果は卒業論文等の審査で測る。卒業論文等の審査では、演習の指導教員が主査になり、本学部の評価基準を満たしたものを合格とする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経済学部（以下、「本学部」という）は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた人を求めます。

1　（知識・技能）

①日本史、世界史、政治・経済、地理の基本的な知識に通じていること、②論理的な思考を根底から支える基本的な日本語・英語の読解力及び数的処理能力を備えていること、③自分の興味関心を他者に説得的に伝えることができる文章表現力及び口頭発表能力を涵養していること。

2　（思考力・判断力・表現力等の能力）

国内外の経済活動への幅広い興味関心を持っていることはもちろん、その興味関心を自分自身の問題として捉えなおす問題発見力と、論理的な思考にもとづいて自分なりの解答を導出できる問題解決力とを有していること。

3　（主体的な態度）

国内外の経済問題に常に関心を持ち、それらの解決に向けて社会へ積極的に貢献しようという意欲を有していること。

Ⅱ　教育課程について

授業科目の構成

1　経済学部の授業科目は、共通教養科目、外国語科目、及び専門教育科目に大別されます。

⑴　共通教養科目は、「関西大学科目群」「基盤科目群」「自己形成科目群」「健康・スポーツ科目群」「キャリア形成科目群」「グローバル科目群」「大学・学部・社会連携科目群」の科目群により構成されます。

⑵　外国語科目は、次の科目で構成されています。

ア　英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語の各々Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、Ⅳa、Ⅳb、Va、Vb、Ⅵa、Ⅵb

イ　経済学部海外研修（各セミナー）

ウ　外国語検定科目

検定認定１（各検定試験）、検定試験２（各検定試験）、検定認定３（各検定試験）

⑶　専門教育科目は、導入科目、基本科目、展開科目、実践科目、関連科目及び自由科目に分かれます。

導入科目は、経済学を主体的に学習するための能力を涵養します。主に初年次に履修し、経済学の基礎知識や主体的な学習能力、情報処理能力、数的処理能力の習得を目指します。ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ及びマクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱは必修のため、必ず修得しなければなりません。経済学ワークショップⅠ・Ⅱ、経済ツール入門及び現代経済入門は配当年次に必ず履修しなければならない科目です（履修必修科目）。なお、経済学ワークショップⅠ・Ⅱの再履修は認められません。

基本科目は、経済学の基盤となる科目です。３年次より所属するコースの選択に際しての参考情報ともなります。基本科目は「基本科目」といわれる科目の中から、定められた単位数を修得しなければならない科目です。

展開科目は、各コースの研究を進めるにあたって必要な科目を配置します。卒業までに定められた単位数を修得しなければならない科目です。

実践科目は、経済学演習、卒業論文、経済学プロジェクト演習（各テーマ）からなる演習科目群となります。実践科目は全て所属コースの展開科目として算入することができます。

関連科目は、経営・会計関連科目と法律・政治関連科目からなる任意選択の科目です。

自由科目は、履修制限単位にも含みませんし、卒業所要単位にも含みません。主に教職関係で必要な科目です。

前記のほか、外国人留学生のために外国人留学生科目（後掲）があります。
授業科目の詳細は、「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。

Ⅲ　卒業所要単位について

卒業所要単位の内訳

経済学部に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、124単位以上修得した者に卒業を認め、卒業者には学士（経済学）の学位が与えられます。

124単位の内訳は、次のとおりです。

1　共通教養科目（20単位以上）

共通教養科目については、自己形成科目群の「人間を知る」、「社会を知る」、「自然と向き合う」の各領域からそれぞれ２単位以上を含めて、関西大学科目群、基盤科目群、自己形成科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群、グローバル科目群及び大学・学部・社会連携科目群から合計20単位以上を修得しなければなりません。

⑴「外国語運用実習（各セミナー）」の単位を修得した場合は、２セミナー２単位を限度として共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑵ 健康・スポーツ科目群の生涯スポーツ・身体運動文化コースの科目を修得した場合は、共通教養科目が20単位を超える場合は、超過分を専門教育科目の関連科目に算入することができます。ただし、生涯スポーツ・身体運動文化コースの科目を履修できるのは、スポーツ・フロンティア入試による入学者のみです。

2　外国語科目（16単位）

英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び朝鮮語のうち、英語を含む２カ国語を必修とし、ひとつを第１選択外国語、他を第２選択外国語とします。この２つの外国語は、次のいずれかのパターンにより合計16単位以上を修得しなければなりません。

（Aパターン）

第１選択外国語　Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ計８単位

第２選択外国語　Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ又はⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ計８単位

（Bパターン）

第１選択外国語　Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ計12単位

第２選択外国語　Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ又はⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ又はⅤａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ計４単位

⑴ 第１・第２選択外国語の修得単位数が必修単位数（16単位）を超える場合は、その超過単位数を最高８単位まで専門教育科目の卒業所要単位に算入することができます。〔詳細は３の（注１）を参照してください〕

⑵「経済学部海外研修（各セミナー）」の単位を修得した場合は、２セミナー４単位を限度として当該外国語の卒業所要単位に算入することができます。

⑶ 外国語検定科目の単位を修得した場合は、以下の通り外国語の卒業所要単位に算入することができます。

【Aパターン】

英語の単位の取り扱いについて

①英語はⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの８単位を修得しなければなりません。

②上記①の単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂとして単位の認定を行うことができます（詳細は277、278ページを参照）。

③英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの８単位を修得したうえで、さらに検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）、検定認定３（各検定試験）を修得した場合は、合計６単位まで外国語科目の単位に含めることができます。

【Bパターン】

英語の単位の取り扱いについて

①英語はⅠa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb、Va・Vb（各テーマ）、Ⅵa・Ⅵb（各テーマ）の12単位を修得しなければなりません。英語が第２選択外国語の場合は、英語〔Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb〕〔Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb〕〔Va・Vb（各テーマ）、Ⅵa・Ⅵb（各テーマ）〕のいずれかの組合せによる４単位を修得しなければなりません。

②上記①のうちⅠab～Ⅳabの単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbとして単位の認定を行うことができます（詳細は277、278ページを参照）。

③英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbの８単位を修得したうえで、さらに検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）、検定認定３（各検定試験）を修得した場合は、合計６単位まで当該外国語科目の単位に含めることができます。なお、検定試験１・２・３（各検定試験）を修得した場合の単位は、英語Va・Vb（各テーマ）、Ⅵa・Ⅵb（各テーマ）の不足単位として充当することができます。

⑷　英語以外の単位の取り扱いについて

①検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）を修得した場合は、合計４単位まで当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

3　専門教育科目

次の表にしたがって88単位以上修得しなければなりません。

区　分	最低修得単位数	注意事項
導入科目	12単位以上	（必ず修得しなければならない科目） ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ （配当年次に必ず履修しなければならない科目） 経済ツール入門、現代経済入門、経済学ワークショップⅠ・Ⅱ ※経済学ワークショップⅠ・Ⅱは再履修不可
基本科目	12単位以上	
展開科目	28単位以上	所属コースの展開科目と実践科目の合計10単位以上を含めて、28単位以上 ※なお、実践科目は全て所属コースの展開科目として導入することができます。
実践科目		
関連科目	任意選択	
合　計	88単位	

（注１）卒業条件となる外国語科目の修得単位数が必修単位数（16単位）を超える場合は、その超過単位数を最高８単位（外国人留学生については最高４単位）まで関連科目の単位数の中に算入することができます。

⑴　導入科目について

導入科目は、ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ（各２単位）、マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ（各２単位）を含めて12単位以上修得しなければなりません。また、経済ツール入門（２単位）、現代経済入門（２単位）、経済学ワークショップⅠ・Ⅱ（各２単位）は、配当年次に必ず履修しなければなりません。なお、経済学ワークショップⅠ・Ⅱの再履修は認められません。

⑵　基本科目について

基本科目は、12単位以上を修得しなければなりません。

⑶　展開科目・実践科目について

展開科目・実践科目は、所属コースの展開科目と実践科目の合計10単位以上を含めて28単位以上修得しなければなりません。なお、実践科目は全て所属コースの展開科目として算入することができます。また、全コースの展開科目を履修することができます。

⑷　関連科目

関連科目は、任意選択の科目です。修得した科目は卒業所要単位に含めることができます。

⑸　その他

卒業要件となる外国語科目の修得単位数が必修単位数（16単位）を超える場合は、その超過単位数を最高８単位（外国人留学生については最高４単位）まで関連科目の単位数の中に算入することができます。

4　自由科目（卒業所要単位に含めることはできません）

自由科目は主として教育職員免許状及び各種資格取得に必要な授業科目です。

外国人留学生

外国人留学生における外国語科目は、外国人留学生科目の日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの計８単位を修得しなければなりません。また、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び朝鮮語のうちから１カ国語（日常使用語を除く）を選択し、その外国語のⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ又はⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂの計８単位を修得しなければなりません。

1　選択した外国語科目の修得単位数が必修単位数（８単位）を超える場合は、その超過単位数を最高４単位まで専門教育科目の卒業所要単位に算入することができます〔詳細は「Ⅲ 卒業所要単位について」の３の（注１）を参照してください〕。

2　日常使用語以外の言語圏への海外語学セミナーに参加し、「経済学部海外研修（各セミナー）」の単位を修得した場合は、２セミナー４単位を限度として当該外国語の卒業所要単位に算入することができます。

3　日常使用言語以外の外国語検定認定科目の単位を修得した場合は、以下の通り外国語の卒業所要単位に算入することができます。

［英語の単位の取り扱いについて］

①英語はⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ又はⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂ（各テーマ）、Ⅵａ・Ⅵｂ（各テーマ）の８単位を修得しなければなりません。

②上記①のうちⅠab～Ⅳabの単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂとして単位の認定を行うことができます（詳細は277、278ページを参照）。

③英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの８単位を修得したうえで、さらに検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）、検定認定３（各検定試験）を修得した場合は、合計６単位まで外国語科目の単位に含めることができます。

［英語以外の単位の取り扱いについて］

①検定認定１（各検定試験）検定認定２（各検定試験）を修得した場合は、合計４単位まで当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

4　外国人留学生科目の日本語以外の科目を修得した場合は、共通教養科目の卒業所要単位に含めることができます。

編・転入学生

経済学部３年次に編・転入した者は、２年〈４学期〉以上（６年〈12学期〉以内）在学し、一定の基準において編・転入学以前に修得した科目の単位認定をしたうえで、学部長が指示する不足単位を履修・修得し、本学部の卒業要件を満たした場合に、卒業が認められます。卒業者には学士（経済学）の学位が与えられます。

なお、詳細な履修登録については教務センターへ問い合わせてください。

Ⅳ　履修・修得について特に注意すべき事項

コースへの分属

コースへの分属は、２年次の秋学期に選考を行う経済学演習（ゼミ）の決定をもって、決定した先生が所属するコースに分属となります。詳細は経済学演習（ゼミ）募集時にお知らせします。なお、経済学演習（ゼミ）を履修しない場合は、別途手続きを行います。手続きについてはインフォメーションシステムにてお知らせします。

コースの変更

コースの変更は認めません。

履修制限単位

履修制限単位は、次のとおりです。

1　年　次：春・秋学期いずれか23単位を上限に年間44単位まで
2・3年次：春・秋学期いずれか22単位を上限に年間42単位まで
4　年　次：春・秋学期いずれか23単位を上限に年間44単位まで

なお、以下の科目は履修制限単位に含めません。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C
経済学部海外研修（各セミナー）	外国語検定認定１・２・３
経済調査実習（各テーマ）	海外経済研究（各セミナー）

また、4年次の最低履修単位として、各学期（休学期は除く）、2単位以上履修しなければなりません。

科目履修の配当年次

授業科目の履修にあたっては、当該年次又は下位年次配当科目のうちから選択しなければなりません。ただし、外国語科目においては、上位年次配当科目の履修が認められる場合があります。

合格科目は再履修不可

一度合格した科目は再履修できません。ただし、経済学特殊講義・経済学特別演習のテーマが異なる場合のみ履修は可とします。

共通教養科目の履修

共通教養科目の履修については、次の点に注意してください。

1　共通教養科目の概要については、「共通教養科目について」（後掲）を参照してください。ただし、経済学部で履修・修得できる授業科目は「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。

2　同一年度の春学期及び秋学期に同じ授業科目を二度履修することはできません。

3　定員制等のため事前登録が必要な科目、履修者数が一定以上に達した場合に事後抽選を行う科目があります。詳細はインフォメーションシステムで確認してください。

4　次の科目は履修制限単位に含めません。それぞれ該当のプログラムに応募のうえ参加許可を受けることをもって、履修登録に代えます。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C

5　健康・スポーツ科目群の「生涯スポーツ・身体運動文化コース」の科目は、スポーツ・フロンティア入学試験による入学生のみ履修を認めます。

外国語科目の履修

1　外国語科目の履修は、次の点に注意してください。

⑴　卒業所要単位（16単位）に含める外国語科目は、当該科目を履修する初年度において、Ⅰａ とⅠｂ、Ⅱａ とⅡｂ、Ⅲａ とⅢｂ、Ⅳａ とⅣｂ、Ⅴａ とⅤｂ、Ⅵａ とⅥｂのそれぞれをセットで履修登録することを原則とします。ただし、英語Ⅴａ・ｂ（各テーマ）、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、各テーマを複数科目履修することができ、かつ、ａ・ｂセットで履修する必要はありません。

⑵　英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbの履修に際しては、原則として事前にプレースメントテストを受験しなければなりません。

なお、受験に関する詳細については、インフォメーションシステム等により指示します。

⑶　経済学部海外研修（各セミナー）については、セミナーに応募し、参加を許可された者に限り、履修することができます。また、経済学部海外研修（各セミナー）の履修登録は、セミナーの参加をもってこれに代えます。

なお、詳細は、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

2　外国語科目の選択順位（第１選択、第２選択）及び履修パターンの決定は、１年次に行いますが（外国人留学生は除く）、日程については、インフォメーションシステム等により指示します。

なお、決定後の変更はできません。

上位年次配当の外国語科目の履修

外国語科目は、次のとおり上位年次配当の科目を履修することができます。

1　Aパターン（第１選択外国語８単位、第２選択外国語８単位が卒業要件）又は外国人留学生の履修パターンによる履修の場合

第２選択外国語(外国人留学生においては卒業要件として選択した外国語科目)は、原則としてⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂを卒業要件とします。特に希望のあるときは、それに代えてⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂを卒業要件とし、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂを１年次に履修し、Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂを２年次に履修することができます。この場合は、新入生指導行事期間中にあらかじめ申込手続を行い、許可を受けなければなりません。

３年次配当の英語Ⅴａ、英語Ⅴｂ、英語Ⅵａ、英語Ⅵｂについては、一定の条件を付して下位年次生の履修を認めています。履修希望者は所定の受付期間中に必要な手続きを行ってください。

なお、ドイツ語Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、フランス語Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、スペイン語Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、中国語Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、朝鮮語Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂのコミュニケーションクラスは、１年次で履修することはできません。

2　Bパターン（第１選択外国語12単位、第２選択外国語４単位が卒業要件）による履修の場合

⑴　第１選択外国語のⅤａ・Ⅴｂ（英語を除く）は、２年次において履修しなければなりません。（Bパターンの場合は、上記１の注は適用しません。）

⑵　第２選択外国語は原則としてⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂを卒業要件とします。特に希望のあるときは、それに代えてⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ又はⅤａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂを卒業要件とし、１年次より履修することができます。この場合は、新入生指導行事期間中にあらかじめ所定の申込手続を行い、許可を受けなければなりません。

３年次配当の英語Ⅴａ・Ⅴｂ（各テーマ）、英語Ⅵａ・Ⅵｂ（各テーマ）については、一定の条件を付して下位年次生の履修を認めています。履修希望者は所定の受付期間中に必要な手続きを行ってください。

なお、ドイツ語Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、フランス語Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、スペイン語Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、中国語Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、朝鮮語Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂのコミュニケーションクラスは、１年次で履修することはできません。

英語以外の外国語の履修条件

英語以外の外国語は、次のとおり履修条件が設けられています。

1　Aパターン（第１選択外国語８単位、第２選択外国語８単位が卒業要件）又は外国人留学生の履修パターンによる履修の場合

原則として英語以外の外国語のⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂは、その外国語のⅠｂ、Ⅱｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。また、英語以外の外国語のⅤａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂは、そのⅢｂ、Ⅳｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅲa・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

2　Bパターン（第１選択外国語12単位、第２選択外国語４単位が卒業要件）による履修の場合

英語以外の外国語を第１選択外国語とするとき、原則として英語以外の外国語のⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ及びⅤａ・Ⅴｂは、その外国語のⅠｂ、Ⅱｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。また、英語以外の外国語のⅥａ・Ⅵｂは、そのⅢｂ、Ⅳｂ、Ⅴｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅲa・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ・Ⅴａ・Ⅴｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

英語以外の外国語を第２選択外国語とするときは、上記１の履修条件が適用されます。

外国語検定試験の単位認定について

本学が指定する外国語検定試験で所定のスコアを取得した者、又はその試験に合格した者は、単位認定の申請を行うことができます。詳細は「外国語検定試験の単位認定について」の項を参照してください。

卒業要件以外の外国語の履修

英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び朝鮮語のうちから、卒業要件となる外国語以外の１カ国語を２年次より履修することができます。

なお、当該外国語は修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

経済学演習及び卒業論文

1　経済学演習の履修について

⑴　経済学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは実践科目です。

⑵　経済学演習Ⅰ・Ⅱ（３年次配当）、経済学演習Ⅲ・Ⅳ（４年次配当）は、同一担任者により、原則として継続して実施する授業科目です。

⑶　経済学演習Ⅰの申込受付は、２年次秋学期に行います。申込方法等詳細については、『経済学演習履修要項』（２年次秋学期に配付）を参照してください。

⑷　編・転入学した者の演習募集は、３月下旬に行います。

2　卒業論文の履修について

⑴　卒業論文は実践科目です。

⑵　卒業論文（４年次配当）は、原則として４年次秋学期に提出する任意選択の科目です。

⑶　卒業論文は、経済学演習Ⅳを同時に履修もしくは修得済でなければ履修することができません。

⑷　卒業論文は、定められた期日に教務センターを経て経済学部長に提出する必要があります。詳細については、別途指示します。

専門教育科目の履修留意事項

⑴　経済情報処理論Ⅰ・Ⅱは、春・秋学期セットで履修することを原則とします。

⑵　商法（会社法３）は、商法（会社法１）及び商法（会社法２）を履修済であることとします（いずれも同時履修可）。

履修者数が大規模となる専門教育科目の履修制限

経済学部では、教育環境の保持と教育効果の向上を目的として、履修者数が大規模な専門教育科目については履修者数の制限を行います。

詳細についてはインフォメーションシステム等でお知らせします。

自由科目、他学部配当の各種資格取得に関する科目

自由科目及び他学部配当の各種資格取得に関する授業科目の履修について

1　履修制限単位に含めないものとして毎年度30単位まで履修することができます。

ただし、教育実習事前指導１単位、教育実習㈠２単位、教育実習㈡２単位はその30単位内に含めません。

2　他学部配当の各種資格取得に関する授業科目は、審査のうえ履修を許可します。

ただし、当該科目の配当年次又はそれ以上の年次でなければ履修することはできません。

なお、文学部配当の専門教育科目については、当該科目の配当年次にかかわらず３年次以上でなければ履修できない科目があります。

3　各種資格取得のための履修方法については教職支援センターホームページから自身の入学年度用の『教職課程履修の手引き』を参照してください。

早期卒業制度

経済学部では、本学経済学研究科への進学を目指す、学業成績が優秀な学生を対象に３年間の在学期間で卒業を認める制度を設けています。本制度への申請は、３年次春学期（概ね６月頃）を予定しており、手続きの詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。制度の概要は以下のとおりです。

1　申請要件

早期卒業の候補者として認められる者は、以下の条件を全て満たしていること。

⑴　申請時点（３年次春学期、概ね６月頃）で本学部に５学期連続在学していること。

⑵　２年次終了時点でGPAが2.90以上であること。

⑶　２年次終了時点で、共通教養科目、外国語科目の卒業所要単位、ミクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学入門Ⅰ・Ⅱを修得し、かつ卒業所要単位のうち80単位以上を修得していること。

2　卒業要件

早期卒業が認められる者は、以下の条件を全て満たしていること。

⑴　所定の期間に本学部早期卒業に申請し、候補者として認められたこと。

⑵　３年次終了時点に本学部に６学期連続在学したこと。

⑶　３年次終了時点でGPAが2.90以上であること。

⑷　３年次終了時点で卒業所要単位を全て修得したこと。

⑸　本学大学院（経済学研究科）の学内進学入学試験に合格したこと。

3　履修上の措置及びその他の事項

⑴　早期卒業候補者の履修制限単位は、春・秋学期いずれか26単位を上限に年間48単位までとする。

⑵　早期卒業候補者に学期途中で学籍異動があった場合は、早期卒業候補者の資格を取り消す。

⑶　早期卒業候補者から所定の期間に辞退の申し出があった場合は、早期卒業候補者の資格を取り消し、４年間の在学を認める。

⑷　早期卒業を辞退した者又は早期卒業が認められなかった者は、３年次末の修得単位数にかかわらず、４年次の各学期において２単位以上を履修し、２学期在学しなければならない。

授業科目一覧表

1　共通教養科目

《関西大学科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	関西大学を知る				
GEA1001	日本の近現代史と関西大学―知の群像	1	2	1	2
GEA1002	吹田市と関西大学	1	2	1	2
GEA1003	学生生活とリスク	1	2	1	2
	戦略トピックス				
GEA1004	SDGs入門	1	2	1	2
GEA1005	SDGsの実践	1	2	1	2
GEA1006	金融の実務から見るSDGs	1	2	1	2
GEA1007	環境問題と環境政策のルーツ	1	2	1	2
GEA1008	活用法を見聞するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1009	活用法を体験するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1010	起業に学ぶ「考動力」入門（関大出身起業家と考える未来の自分）	1	2	1	2
GEA1011	起業に学ぶ「考動力」実践（企業と考える未来のデザイン）	1	2	1	2
GEA2001	社会のためのデータサイエンス実践基礎	2	2	1	2
GEA2002	AI・データエンジニアリング実践基礎	2	2	1	2

《基盤科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEB1001	スタディスキルゼミ（各テーマ）	1	2	1	2
GEB1002	プロジェクト学習１	1	2	1	2
GEB2001	プロジェクト学習２	2	2	1	2

《自己形成科目群》

領域：人間を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1001	こころとからだを哲学する
	GEC1002	文化・社会と心理学
	GEC1003	身体運動の人間学
	GEC1004	ことばと思考
	GEC1005	地図の知恵、地図の思想
	GEC1006	自己と他者
	GEC1007	自己をみつめる
	GEC1008	日本人の宗教観
	GEC1009	美術からみる表現と理解
	GEC1010	入門・新しい部落問題
	GEC1011	現代社会とジェンダー
	GEC1012	現代社会とセクシュアリティ
	GEC1013	生と死の倫理学
	GEC1014	食を知る
	GEC1015	食のリスクマネジメント
	GEC1016	宗教と現代
	GEC1017	新しい人権論への招待
教養を深める（知の見取り図）	GEC1018	哲学を学ぶ
	GEC1019	論理学を学ぶ
	GEC1020	心理学を学ぶ
	GEC1021	宗教学を学ぶ
	GEC1022	イスラーム世界の歴史を学ぶ
	GEC1023	考古学を学ぶ
	GEC1024	日本語を学ぶ
	GEC1025	日本文学を学ぶ
	GEC1026	人文地理学を学ぶ
	GEC1027	地域社会の生活と資源
	GEC1028	芸術学を学ぶ
	GEC1029	人類学入門
教養を深める（知の探求）	GEC1030	日本の古典文学を読む
	GEC1031	日本の近代文学を読む
	GEC1032	わかる諸子百家
	GEC1033	日本の文化と人間を考える
	GEC1034	子供から大人への過程を考える
	GEC1035	社会と個人の心理学
	GEC1036	世界の文学を味わう
	GEC1037	西洋美術を味わう
	GEC1038	日本・東洋美術を味わう
	GEC1039	文化史に親しもう
	GEC1040	アジアの文化と世界遺産
	GEC1041	大学教育論～大学の主人公はきみたちだ！～
チャレンジ科目	GEC1042	各テーマ

【配当年次：１・２・３・４　　単位：２
授業期間：１　　毎週授業時間：２】

領域：社会を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1043	今日の道徳的ディレンマ
	GEC1044	世界の宗教
	GEC1045	環境の倫理学
	GEC1046	企業と社会
	GEC1047	技術と社会
	GEC1048	生活の中の経済学
	GEC1049	メディア・リテラシー入門
	GEC1050	イスラム社会を考える
	GEC1051	日本の伝統文化
	GEC1052	方言学入門
	GEC1053	共生社会のライフデザイン
	GEC1054	日本の社会と生活の歴史
	GEC1055	優良企業の見分け方
	GEC1056	社会学で学ぶ現代社会
	GEC1057	政治学と21世紀社会
	GEC1058	法実務入門
	GEC1059	地域再発見の旅
	GEC1060	旅から始める知の冒険
	GEC1061	移動する人々
	GEC1062	オリンピックの共生思想
	GEC1063	外来文化と日本の歴史
	GEC1064	アジアの中の日本歴史
	GEC1065	世界の中の日本経済
	GEC1066	日本史の中の平和と戦争
	GEC1067	世界史の中の平和と戦争
	GEC1068	読書への誘い
教養を深める（知の見取り図）	GEC1069	倫理学を学ぶ
	GEC1070	法学を学ぶ
	GEC1071	政治学のすすめ
	GEC1072	民俗学を学ぶ
	GEC1073	基礎からのマクロ経済学
	GEC1074	基礎からのミクロ経済学
	GEC1075	社会学入門
	GEC1076	日本国憲法
	GEC1077	基礎からの情報処理
	GEC1078	ビジネスを学ぶ
	GEC1079	日本の歴史を学ぶ
	GEC1080	アジア史を学ぶ
	GEC1081	西洋の歴史を学ぶ
	GEC1082	社会思想史を学ぶ
教養を深める（知の探求）	GEC1083	名作を読む
	GEC1084	哲学の古典を読み解く
	GEC1085	聖典と宗教思想
	GEC1086	近代市民社会思想を知ろう
	GEC1087	労働と雇用を考える
	GEC1088	日本の地域史を考える
	GEC1089	世界の地域文化を知ろう
	GEC1090	少子高齢化社会を考える
	GEC1091	法の社会学
	GEC1092	日本史の中の女性と社会を知ろう
	GEC1093	日本社会の成熟と変動を知ろう
	GEC1094	強い会社のマネジメントを知る
	GEC1095	西洋世界の社会と歴史を考える
	GEC1096	欧米世界の歴史と文化を知ろう
	GEC1097	中国と日本の文化交流
	GEC1098	異文化への理解を深める
	GEC1099	現代都市の生態とエスニシティ
	GEC1100	社会的養育を考える
チャレンジ科目	GEC1101	各テーマ

領域：自然と向き合う

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1102	身の回りの化学
	GEC1103	確率・統計でものを考える
	GEC1104	自然災害の科学
	GEC1105	科学と文化
	GEC1106	生物と環境
	GEC1107	人類紀の環境変動
	GEC1108	建築と景観
	GEC1109	エネルギーと環境
	GEC1110	科学と技術
	GEC1111	現代科学の展開
	GEC1112	統計学を学ぶ
教養を深める（知の見取り図）	GEC1113	自然地理学を学ぶ
	GEC1114	自然科学史を学ぶ
	GEC1115	バイオサイエンス入門
	GEC1116	数学を学ぶ（各テーマ）
	GEC1117	物理を学ぶ（各テーマ）
教養を深める（知の探求）	GEC1118	仕組みを形にする科学技術
	GEC1119	現代社会を支える電気電子情報技術
	GEC1120	宇宙のすがたと歴史
	GEC1121	近代科学の系譜
	GEC1122	気象と気候を学ぶ
	GEC1123	地震と火山のメカニズムと防災
チャレンジ科目	GEC1124	各テーマ

【配当年次：1・2・3・4　　単位：2　　授業期間：1　　毎週授業時間：2】

《健康・スポーツ科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GED1001	健康・スポーツ科学実習a(各種目)	1	1	1	2
GED1002	健康・スポーツ科学実習b(各種目)	1	1	1	2
GED1003	健康・スポーツ科学実習c(各種目)	1	1	1	2
GED1004	健康・スポーツ科学論	1	2	1	2
	(生涯スポーツ・身体運動文化コース)				
GED1005	関西大学スポーツ文化論	1	2	1	2
GED1006	スポーツ運動学概論	1	2	1	2
GED1007	スポーツ社会学概論	1	2	1	2
GED1008	スポーツ心理学概論	1	2	1	2
GED1009	スポーツ栄養学概論	1	2	1	2
GED1010	コーチングの科学	1	2	1	2
GED1011	トレーニング科学概論	1	2	1	2
GED1012	コンディショニング科学概論	1	2	1	2

《キャリア形成科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEE1001	大学生から始めるキャリア形成	1	2	1	2
GEE1002	キャリア形成入門演習	1	2	1	2
GEE2001	理論と実践から探求するキャリア形成	2	2	1	2
GEE2002	現代社会を生き抜くためのキャリア形成	2	2	1	2
GEE2003	キャリア形成実践演習	2	2	1	2
GEE1003	インターンシップ(ビジネス)	1~3	2	1	4
GEE1004	インターンシップ（学校１）	1~4	2	1	4
GEE1005	インターンシップ（学校２）	1~4	2	1	4
GEE1006	インターンシップ（学校３）	1~4	2	1	4

《グローバル科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学準備スキルアップ科目】				
GEF2001	Foundation for Academic English	1~4	2	1	2
GEF1001	Academic Writing Practice	1~4	2	1	2
GEF2002	Academic Discussions & Debates	1~4	2	1	2
GEF2003	Presentation Skills	1~4	2	1	2
GEF2004	留学のための英語スキルアップ	1~4	2	1	2
GEF2005	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2006	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2007	ASEAN Studies	1~4	2	1	2
GEF1002	Understanding Cross-Cultural Communication	1~4	2	1	2
GEF1003	KUGF Independent Study (English Skills Development)	1~4	2	1	2
GEF2008	KUGF Independent Study (Doing a Research in English)	1~4	2	1	2
GEF2009	Global Awareness Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2010	Global Awareness Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2011	English Communication Skills for Business Contexts	1~4	2	1	2
	【グローバル・フロンティア科目】				
	Module 1 . Engineering Approach to Urban Issues				
GEF3001	Disaster Transport Planning	1~4	2	1	2
	Module 2. Food Science & Biotechnology				
GEF3002	Biotechnology and Bioethics	1~4	2	1	2
GEF3003	Marketing of Food, Alcohol and Cosmetics	1~4	2	1	2
GEF3004	Science of Washoku (Japanese Cuisine)	1~4	2	1	2
GEF3005	Food Safety	1~4	2	1	2
GEF3006	Polysaccharide Science	1~4	2	1	2
	Module 3 .International Business & Entrepreneurship				
GEF3007	International Business for Entrepreneurs	1~4	2	1	2
GEF3008	Japanese Industries and Companies (The Global Competition)	1~4	2	1	2
GEF3009	Business & Japanese People	1~4	2	1	2
GEF3010	Marketing in Japan	1~4	2	1	2
GEF3011	Business for SDGs (Sustainable Development Goals)	1~4	2	1	2
	Module 4 . Japan Studies				
GEF3012	Japanese Philosophy and Thoughts	1~4	2	1	2
GEF3013	Japanese Religion	1~4	2	1	2
GEF3014	Japanese Arts	1~4	2	1	2
GEF3015	Japanese History (The History and Culture of Medieval Japan)	1~4	2	1	2
GEF3016	Japanese History (Bushido: The Way of the Warrior)	1~4	2	1	2
GEF3017	Japanese Literature (Survey of Post-1945)	1~4	2	1	2
GEF3018	Japanese Literature (Intro. to Classical JPN Literature)	1~4	2	1	2
GEF3019	Japanese Culture (Modern Culture and Post-war History)	1~4	2	1	2
GEF3020	Japanese Culture (JPN Culture and Contemporary Literature)	1~4	2	1	2
GEF3021	Comparative Asian Cultures Studies	1~4	2	1	2
GEF3022	Japanese Law and Politics	1~4	2	1	2
GEF3023	Japanese Economy (Topics in Japanese Economy and Discussion)	1~4	2	1	2
GEF3024	Japanese Society	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEF3025	Japanese Popular Culture (Postwar Japanese Culture)	1~4	2	1	2
GEF3026	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. to Kendo)	1~4	2	1	2
GEF3027	Seminar in Japanology (The Japanese Language and Society)	1~4	2	1	2
GEF3028	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. To Naginata)	1~4	2	1	2
GEF3029	Seminar in Japanology (War and Conflict through JPN Film)	1~4	2	1	2
	Module 5 . Language Teaching & Communication				
GEF3030	Second Language Acquisition	3	2	1	2
GEF3031	Individual Differences in Language Learning	3	2	1	2
GEF3032	Ed. Tech. & Materials Development in FLT	3	2	1	2
GEF3033	Early Foreign Language Education	3	2	1	2
GEF3034	Structure of Language (discourse and meaning)	3	2	1	2
GEF3035	Linguistic Analysis (English)	3	2	1	2
GEF3036	International Business Communication	3	2	1	2
	Module 6 . Studies on Foreign Affairs				
GEF3037	International Development	1~4	2	1	2
GEF3038	Area Studies (Europe I)	1~4	2	1	2
GEF3039	Area Studies (Europe II)	1~4	2	1	2
GEF3040	Area Studies (India)	1~4	2	1	2
GEF3041	Japan in International Affairs	1~4	2	1	2
	Module 7 . Fundamentals for Social Science Studies				
GEF3042	Critical Thinking for Social and Global Issues	1~4	2	1	2
GEF3043	Research Methods for Social Science	1~4	2	1	2
GEF3044	Global Sociology	1~4	2	1	2
GEF3045	Japanese Computerization and Society	1~4	2	1	2
GEF3046	Methods of Comparative Analysis (ENG and JPN Communication)	1~4	2	1	2
GEF3047	Contemporary Gender Studies	1~4	2	1	2
	Module 8 . Applied Science and Engineering				
GEF3048	Japanese Science and Technology	1~4	2	1	2
GEF3049	Environmental Biology	1~4	2	1	2
GEF3050	Information and Communication Technologies	1~4	2	1	2
GEF3051	Introduction to Applied Science	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学実践科目】				
GEF1004	KUGF Field Study（各プログラム）	1~4	2	1	4
GEF1005	海外研修（各セミナー）	1~4	1~2	1	4
GEF1006	外国語運用実習(各セミナー)	1~4	1	1	2

《大学・学部・社会連携科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【大学連携科目】				
	〔大学コンソーシアム大阪プログラム〕				
GEG1001	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【学部連携科目】				
	〔学部オープン科目〕				
GEG1002	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【社会連携科目】				
	(講義科目)				
GEG1003	国際協力の基礎を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1004	国際協力ボランティアの理論を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1005	国際協力レディネス	1~4	2	1	2
GEG1006	国際協力フォローアップ	1~4	2	1	2
	(実習科目)				
GEG1007	国際協力ボランティア実習A	1~4	4	1	8
GEG1008	国際協力ボランティア実習B	1~4	2	1	4
GEG1009	国際協力ボランティア実習C	1~4	1	1	2
GEG3001	サービスラーニング(各テーマ)	3	2	1	2

※共通教養科目の開講科目等詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

2　外国語科目

1年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
GFE1001	英語Ⅰa	1	1	2
GFE1002	英語Ⅰb	1	1	2
GFE1003	英語Ⅱa	1	1	2
GFE1004	英語Ⅱb	1	1	2
GFG1001	ドイツ語Ⅰa	1	1	2
GFG1002	ドイツ語Ⅰb	1	1	2
GFG1003	ドイツ語Ⅱa	1	1	2
GFG1004	ドイツ語Ⅱb	1	1	2
GFF1001	フランス語Ⅰa	1	1	2
GFF1002	フランス語Ⅰb	1	1	2
GFF1003	フランス語Ⅱa	1	1	2
GFF1004	フランス語Ⅱb	1	1	2
GFR1001	ロシア語Ⅰa	1	1	2
GFR1002	ロシア語Ⅰb	1	1	2
GFR1003	ロシア語Ⅱa	1	1	2
GFR1004	ロシア語Ⅱb	1	1	2
GFS1001	スペイン語Ⅰa	1	1	2
GFS1002	スペイン語Ⅰb	1	1	2
GFS1003	スペイン語Ⅱa	1	1	2
GFS1004	スペイン語Ⅱb	1	1	2
GFC1001	中国語Ⅰa	1	1	2
GFC1002	中国語Ⅰb	1	1	2
GFC1003	中国語Ⅱa	1	1	2
GFC1004	中国語Ⅱb	1	1	2
GFK1001	朝鮮語Ⅰa	1	1	2
GFK1002	朝鮮語Ⅰb	1	1	2
GFK1003	朝鮮語Ⅱa	1	1	2
GFK1004	朝鮮語Ⅱb	1	1	2
ECO1041	経済学部海外研修(各セミナー)	2	1	4
GFO1001	検定認定1(各検定試験)	2	—	—
GFO1002	検定認定2(各検定試験)	2	—	—
GFO1003	検定認定3(各検定試験)	2	—	—

2年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
GFE2001	英語Ⅲa	1	1	2
GFE2002	英語Ⅲb	1	1	2
GFE2003	英語Ⅳa	1	1	2
GFE2004	英語Ⅳb	1	1	2
GFG2001	ドイツ語Ⅲa	1	1	2
GFG2002	ドイツ語Ⅲb	1	1	2
GFG2003	ドイツ語Ⅳa	1	1	2
GFG2004	ドイツ語Ⅳb	1	1	2
GFF2001	フランス語Ⅲa	1	1	2
GFF2002	フランス語Ⅲb	1	1	2
GFF2003	フランス語Ⅳa	1	1	2
GFF2004	フランス語Ⅳb	1	1	2
GFR2001	ロシア語Ⅲa	1	1	2
GFR2002	ロシア語Ⅲb	1	1	2
GFR2003	ロシア語Ⅳa	1	1	2
GFR2004	ロシア語Ⅳb	1	1	2
GFS2001	スペイン語Ⅲa	1	1	2

2年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
GFS2002	スペイン語Ⅲb	1	1	2
GFS2003	スペイン語Ⅳa	1	1	2
GFS2004	スペイン語Ⅳb	1	1	2
GFC2001	中国語Ⅲa	1	1	2
GFC2002	中国語Ⅲb	1	1	2
GFC2003	中国語Ⅳa	1	1	2
GFC2004	中国語Ⅳb	1	1	2
GFK2001	朝鮮語Ⅲa	1	1	2
GFK2002	朝鮮語Ⅲb	1	1	2
GFK2003	朝鮮語Ⅳa	1	1	2
GFK2004	朝鮮語Ⅳb	1	1	2

3・4年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
GFE3001	英語Ⅴa（各テーマ）	1	1	2
GFE3002	英語Ⅴb（各テーマ）	1	1	2
GFE3003	英語Ⅵa（各テーマ）	1	1	2
GFE3004	英語Ⅵb（各テーマ）	1	1	2
GFG3001	ドイツ語Ⅴa	1	1	2
GFG3002	ドイツ語Ⅴb	1	1	2
GFG3003	ドイツ語Ⅵa	1	1	2
GFG3004	ドイツ語Ⅵb	1	1	2
GFF3001	フランス語Ⅴa	1	1	2
GFF3002	フランス語Ⅴb	1	1	2
GFF3003	フランス語Ⅵa	1	1	2
GFF3004	フランス語Ⅵb	1	1	2
GFR3001	ロシア語Ⅴa	1	1	2
GFR3002	ロシア語Ⅴb	1	1	2
GFR3003	ロシア語Ⅵa	1	1	2
GFR3004	ロシア語Ⅵb	1	1	2
GFS3001	スペイン語Ⅴa	1	1	2
GFS3002	スペイン語Ⅴb	1	1	2
GFS3003	スペイン語Ⅵa	1	1	2
GFS3004	スペイン語Ⅵb	1	1	2
GFC3001	中国語Ⅴa	1	1	2
GFC3002	中国語Ⅴb	1	1	2
GFC3003	中国語Ⅵa	1	1	2
GFC3004	中国語Ⅵb	1	1	2
GFK3001	朝鮮語Ⅴa	1	1	2
GFK3002	朝鮮語Ⅴb	1	1	2
GFK3003	朝鮮語Ⅵa	1	1	2
GFK3004	朝鮮語Ⅵb	1	1	2

3　外国人留学生科目

1年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
FOS1001	日本語Ⅰ	2	1	4
FOS1002	日本語Ⅱ	2	1	4
FOS1003	日本語Ⅲ	2	1	4
FOS1004	日本語Ⅳ	2	1	4
FOS1005	日本事情Ⅰ	2	1	2
FOS1006	日本事情Ⅱ	2	1	2
FOS1007	Contemporary Japan (Understanding Japan)	2	1	2
FOS1008	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 1)	2	1	2
FOS1009	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 2)	2	1	2
FOS1010	Contemporary Japan (Researching Japan)	2	1	2
FOS1011	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 1)	2	1	2
FOS1012	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 2)	2	1	2
FOS1013	Communication in Japanese Society (Business Japanese)	2	1	2
FOS1014	Communication in Japanese Society (JPN Corporate Culture)	2	1	2
FOS1015	Field-Based Learning (Society and Workplace Culture in Japan)	2	1	2
FOS1016	Japanese (1-a)	2	1	4
FOS1017	Japanese (1-b)	2	1	4
FOS1018	Japanese (2-a)	2	1	4
FOS1019	Japanese (2-b)	2	1	4
FOS1020	Japanese (3-a)	2	1	4
FOS1021	Japanese (3-b)	2	1	4
FOS1022	Japanese (4-a)	2	1	4
FOS1023	Japanese (4-b)	2	1	4
FOS1024	Japanese (5-a)	2	1	4
FOS1025	Japanese (5-b)	2	1	4
FOS1026	Japanese (6-a)	2	1	4
FOS1027	Japanese (6-b)	2	1	4
FOS1028	Japanese (7-a)	2	1	4
FOS1029	Japanese (7-b)	2	1	4

2年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
FOS2001	キャリアデザインⅠ(日本の社会と企業)	2	1	2
FOS2002	キャリアデザインⅡ(日本の就職と働き方)	2	1	2
FOS2003	実践ビジネス日本語Ⅰ	2	1	2
FOS2004	実践ビジネス日本語Ⅱ	2	1	2

3年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
FOS3001	キャリアデザインⅢ(日本の社会で働く)	2	1	2

4　専門教育科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
	（導入科目）				
ECO1001	ミクロ経済学入門Ⅰ	2	1	2	1
ECO1002	ミクロ経済学入門Ⅱ	2	1	2	1
ECO1003	マクロ経済学入門Ⅰ	2	1	2	1
ECO1004	マクロ経済学入門Ⅱ	2	1	2	1
ECO1005	経済ツール入門	2	1	2	1
ECO1006	現代経済入門	2	1	2	1
ECO1007	経済学ワークショップⅠ	2	1	2	1
ECO2001	経済学ワークショップⅡ	2	1	2	2
ECO1008	統計学Ⅰ	2	1	2	1
ECO1009	統計学Ⅱ	2	1	2	1
ECO1010	経済史Ⅰ	2	1	2	1
ECO1011	経済史Ⅱ	2	1	2	1
	（基本科目）				
ECO2002	ミクロ経済学Ⅰ	2	1	2	2
ECO2003	ミクロ経済学Ⅱ	2	1	2	2
ECO2004	マクロ経済学Ⅰ	2	1	2	2
ECO2005	マクロ経済学Ⅱ	2	1	2	2
ECO1012	経済数学Ⅰ	2	1	2	1
ECO1013	経済数学Ⅱ	2	1	2	1
ECO2006	経済統計学Ⅰ	2	1	2	2
ECO2007	経済統計学Ⅱ	2	1	2	2
ECO2008	経済情報処理論Ⅰ	2	1	2	2
ECO2009	経済情報処理論Ⅱ	2	1	2	2
ECO2010	計量経済学入門Ⅰ	2	1	2	2
ECO2011	計量経済学入門Ⅱ	2	1	2	2
ECO2012	ゲーム理論Ⅰ	2	1	2	2
ECO2013	ゲーム理論Ⅱ	2	1	2	2
ECO2014	行動経済学Ⅰ	2	1	2	2
ECO2015	行動経済学Ⅱ	2	1	2	2
ECO2016	金融経済論Ⅰ	2	1	2	2
ECO2017	金融経済論Ⅱ	2	1	2	2
ECO2018	財政学Ⅰ	2	1	2	2
ECO2019	財政学Ⅱ	2	1	2	2
ECO2020	公共経済学Ⅰ	2	1	2	2
ECO2021	公共経済学Ⅱ	2	1	2	2
ECO2022	労働経済学Ⅰ	2	1	2	2
ECO2023	労働経済学Ⅱ	2	1	2	2
ECO2024	経済政策Ⅰ	2	1	2	2
ECO2025	経済政策Ⅱ	2	1	2	2
ECO2026	日本経済論Ⅰ	2	1	2	2
ECO2027	日本経済論Ⅱ	2	1	2	2
ECO2028	国際経済学Ⅰ	2	1	2	2
ECO2029	国際経済学Ⅱ	2	1	2	2
ECO2030	日本経済史Ⅰ	2	1	2	2
ECO2031	日本経済史Ⅱ	2	1	2	2
ECO2032	社会思想史Ⅰ	2	1	2	2
ECO2033	社会思想史Ⅱ	2	1	2	2
ECO2034	政治経済学Ⅰ	2	1	2	2
ECO2035	政治経済学Ⅱ	2	1	2	2
ECO1014	簿記演習	2	1	2	1
ECO1015	商業簿記	2	1	2	1
ECO1016	工業簿記	2	1	2	1

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
	（展開科目）				
	〔経済政策コース科目〕				
ECO2036	データ分析入門(原因と結果の経済学)Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2037	データ分析入門(原因と結果の経済学)Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2038	上級ミクロ経済学Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2039	上級ミクロ経済学Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2040	金融政策Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2041	金融政策Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2042	地方財政論	2	1	2	2~4
ECO2043	社会保障論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2044	社会保障論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2045	環境経済学Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2046	環境経済学Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2047	公共選択論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2048	公共選択論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2049	人口学Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2050	人口学Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2051	法と経済学Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2052	法と経済学Ⅱ	2	1	2	2~4
	〔歴史・思想コース科目〕				
ECO2053	アジア経済史Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2054	アジア経済史Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2055	西洋経済史Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2056	西洋経済史Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2057	近代経済学史Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2058	近代経済学史Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2059	経済学説史Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2060	経済学説史Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2061	社会経済システム論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2062	社会経済システム論Ⅱ	2	1	2	2~4
	〔産業・企業経済コース科目〕				
ECO2063	計量経済学Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2064	計量経済学Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2065	組織の経済学Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2066	組織の経済学Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2067	産業組織論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2068	産業組織論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2069	中小企業論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2070	中小企業論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2071	流通経済論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2072	流通経済論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2073	地域経済論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2074	地域経済論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2075	ビジネス・エコノミクスⅠ	2	1	2	2~4
ECO2076	ビジネス・エコノミクスⅡ	2	1	2	2~4
ECO2077	人事経済学Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2078	人事経済学Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2079	コーポレート・ファイナンスⅠ	2	1	2	2~4
ECO2080	コーポレート・ファイナンスⅡ	2	1	2	2~4
ECO2081	会計学原理	2	1	2	2~4
ECO2082	財務諸表論	2	1	2	2~4
	〔国際経済コース科目〕				
ECO2083	上級マクロ経済学Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2084	上級マクロ経済学Ⅱ	2	1	2	2~4

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
ECO2085	経済成長論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2086	経済成長論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2087	実証国際経済学Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2088	実証国際経済学Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2089	国際金融論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2090	国際金融論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2091	経済発展論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2092	経済発展論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2093	中国経済論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2094	中国経済論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2095	アジア・太平洋経済論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2096	アジア・太平洋経済論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2097	アメリカ経済論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2098	アメリカ経済論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2099	ＥＵ経済論Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2100	ＥＵ経済論Ⅱ	2	1	2	2~4
ECO2101	国際政治経済学Ⅰ	2	1	2	2~4
ECO2102	国際政治経済学Ⅱ	2	1	2	2~4
	〔コース共通科目〕				
ECO2103	外国書研究	2	1	2	2~4
ECO1017	時事英語Ⅰ	2	1	4	1
ECO2104	時事英語Ⅱ	2	1	4	2~4
ECO2105	実用英語研究(国際ビジネス英語)	2	1	2	2~4
ECO2106	経済学特殊講義Ⅰ(各テーマ)	2	1	2	2~4
ECO2107	経済学特殊講義Ⅱ(各テーマ)	2	1	2	2~4
ECO2108	経済学特殊講義Ⅲ(各テーマ)	2	1	2	2~4
ECO2109	経済学特殊講義Ⅳ(各テーマ)	2	1	2	2~4
ECO2110	経済学特殊講義Ⅴ(各テーマ)	2	1	2	2~4
ECO2111	経済学特殊講義Ⅵ(各テーマ)	2	1	2	2~4
ECO2112	寄附講座（各テーマ）	2	1	2	2~4
ECO1018	経済調査実習(各テーマ)	2	1	4	1
ECO1019	海外経済研究(各セミナー)	2	1	2	1
ECO2113	経済学特別演習(各テーマ)	2	1	2	2~4
	(実践科目)				
ECO3001	経済学演習Ⅰ	2	1	2	3
ECO3002	経済学演習Ⅱ	2	1	2	3
ECO4001	経済学演習Ⅲ	2	1	2	4
ECO4002	経済学演習Ⅳ	2	1	2	4
ECO4003	卒業論文	4	—	—	4
ECO3003	経済学プロジェクト演習Ⅰ(各テーマ)	2	1	2	3
ECO3004	経済学プロジェクト演習Ⅱ(各テーマ)	2	1	2	3

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
	(関連科目)				
	〔経営・会計関連科目〕				
ECO2114	現代の企業と社会	2	1	2	2
ECO2115	企業経営の組織と戦略	2	1	2	2
ECO3005	ビジネス・マネジメント	2	1	2	3·4
ECO3006	企業と経営	2	1	2	3·4
ECO3007	公益事業論	2	1	2	3·4
ECO3008	非営利事業論	2	1	2	3·4
ECO3009	ヒューマン・リソース・マネジメント	2	1	2	3·4
ECO3010	現代の労務管理	2	1	2	3·4
ECO3011	交通・通信基礎論	2	1	2	3·4
ECO3012	交通・通信論	2	1	2	3·4
ECO3013	保険経済論	2	1	2	3·4
ECO3014	保険経営論	2	1	2	3·4
ECO3015	経営情報論	2	1	2	3·4
ECO3016	データ・マイニング論	2	1	2	3·4
ECO2116	原価計算論	2	1	2	2
ECO2117	監査論	2	1	2	2
ECO2118	市場と会計	2	1	2	2
ECO3017	財務会計論演習	2	1	2	3·4
ECO3018	管理会計論演習	2	1	2	3·4
ECO3019	会計監査論演習	2	1	2	3·4
ECO3020	会計学演習	2	1	2	3·4
	〔法律・政治関連科目〕				
ECO2119	民法（総則）	2	1	2	2
ECO2120	民法（物権）	2	1	2	2
ECO3021	民法（債権総論）	2	1	2	3·4
ECO3022	民法（債権各論）	2	1	2	3·4
ECO3023	商法(商法総則・商行為法)	2	1	2	3·4
ECO3024	商法（会社法1）	2	1	2	3·4
ECO3025	商法（会社法2）	2	1	2	3·4
ECO3026	商法（会社法3）	2	1	2	3·4
ECO3027	商法（有価証券法）	2	1	2	3·4
ECO3028	商法（展開講義）	2	1	2	3·4
ECO3029	経済法a	2	1	2	3·4
ECO3030	経済法b	2	1	2	3·4
ECO3031	労働法a	2	1	2	3·4
ECO3032	労働法b	2	1	2	3·4
ECO2121	公共政策学Ⅰ	2	1	2	2
ECO2122	公共政策学Ⅱ	2	1	2	2

5　自由科目（卒業単位に含まない科目）

1年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
ECO1020	地誌学a	2	1	2
ECO1021	地誌学b	2	1	2
ECO1022	宗教学概論a	2	1	2
ECO1023	宗教学概論b	2	1	2
ECO1024	法学入門	2	1	2
ECO1025	心理学の諸理論	2	1	2
ECO1026	教職概説	2	1	2
ECO1027	教育原理	2	1	2
ECO1028	図書館情報資源概論	2	1	2

1・2年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
ECO1029	日本史概説 a	2	1	2
ECO1030	日本史概説 b	2	1	2
ECO1031	東洋史概説 a	2	1	2
ECO1032	東洋史概説 b	2	1	2
ECO1033	西洋史概説 a	2	1	2
ECO1034	西洋史概説 b	2	1	2
ECO1035	人文地理学概説 a	2	1	2
ECO1036	人文地理学概説 b	2	1	2
ECO1037	自然地理学概説 a	2	1	2
ECO1038	自然地理学概説 b	2	1	2

1・2・3・4年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
ECO1039	倫理学概論 a	2	1	2
ECO1040	倫理学概論 b	2	1	2

2年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
ECO2123	東洋史	2	1	2
ECO2124	西洋史	2	1	2
ECO2125	地理学概説 a	2	1	2
ECO2126	地理学概説 b	2	1	2
ECO2127	政治学原論 1	2	1	2
ECO2128	政治学原論 2	2	1	2
ECO2129	ジェンダーと教育	2	1	2
ECO2130	教育と文化の社会学	2	1	2
ECO2131	教育制度論	2	1	2
ECO2132	教育心理学	2	1	2
ECO2133	教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用を含む)	2	1	2
ECO2134	メディア教育論	2	1	2
ECO2135	社会科教育法㈠	2	1	2

2年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
ECO2136	社会科教育法㈡	2	1	2
ECO2137	地理歴史科教育法㈠	2	1	2
ECO2138	地理歴史科教育法㈡	2	1	2
ECO2139	公民科教育法㈠	2	1	2
ECO2140	公民科教育法㈡	2	1	2
ECO2141	道徳教育の理論と方法	2	1	2
ECO2142	特別活動論	2	1	2
ECO2143	教育相談論	2	1	2
ECO2144	人権教育論	2	1	2
ECO2145	情報資源組織論	2	1	2
ECO2146	学校経営と学校図書館	2	1	2
ECO2147	学習指導と学校図書館	2	1	2
ECO2148	読書と豊かな人間性	2	1	2
ECO2149	情報メディアの活用	2	1	2

2・3年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
ECO2150	考古学概説 a	2	1	2
ECO2151	考古学概説 b	2	1	2
ECO2152	文化人類学Ⅰ	2	1	2
ECO2153	文化人類学Ⅱ	2	1	2
ECO2154	哲学概論 a	2	1	2
ECO2155	哲学概論 b	2	1	2

3年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
ECO3033	特別支援教育論	1	1	2
ECO3034	社会科教育法㈢	2	1	2
ECO3035	社会科教育法㈣	2	1	2
ECO3036	総合的な学習の時間の指導法	1	1	2
ECO3037	カリキュラム開発論	2	1	2
ECO3038	生徒・進路指導論	2	1	2

3・4年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
ECO3039	教育実習事前指導	1	1	2
ECO3040	教育実習㈠	2	1	4

4年次配当				
科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間
ECO4004	教育実習㈡	2	1	4
ECO4005	教職実践演習（中等）	2	1	2

［科目番号について］

本学では、科目の特性・配当年次を示すため、各科目に科目番号を付与しています。

〈共通教養科目〉

アルファベット３桁で「共通教養科目」と「群」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。また、共通教養科目のうちグローバル科目群の留学準備スキルアップ科目及びグローバル・フロンティア科目は、配当年次に代えて外部テストによる難易度を示しています。

GE　A　1　000
種別　群　配当年次（難易度）　連番

種別　共通教養科目はすべてGE

群

A	関西大学科目群
B	基盤科目群
C	自己形成科目群
D	健康・スポーツ科目群
E	キャリア形成科目群
F	グローバル科目群
G	大学・学部・社会連携科目群

難易度（受講には各レベルの英語運用能力が必要です）

番号	レベル
1	GTECテスト180点未満 TOEFL ITP®Test430点未満 TOEFL iBT®Test40点未満 TOEIC®L&RTest375点未満 英語検定準２級未満
2	GTECテスト180点以上260点未満 TOEFL ITP®Test430点以上505点未満 TOEFL iBT®Test40点以上60点未満 TOEIC®L&RTest375点以上580点未満 英語検定準２級及び２級
3	GTECテスト260点以上 TOEFL ITP®Test505点以上 TOEFL iBT®Test60点以上 TOEIC®L&RTest580点以上 英語検定準１級及び１級

〈外国語科目〉

アルファベット３桁で「外国語科目」と「語種」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。

GF　E　1　000
種別　語種　配当年次　連番

種別　外国語科目はすべてGF

語種

E	英語
G	ドイツ語
F	フランス語
R	ロシア語
S	スペイン語
C	中国語
K	朝鮮語
O	検定認定：Official-Test Accreditation

〈外国人留学生科目〉

アルファベット３桁で「外国語留学生科目」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。

FOS　1　000
種別　配当年次　連番

種別　外国人留学生科目はすべてFOS

〈専門教育科目〉

経済学部を示すアルファベット３桁（FCO）、配当年次を示す１桁、連番の数字３桁で構成されています。

ECO　1　001
学部　配当年次　連番

商　学　部

Ⅰ　教育に関する三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

商学部（以下、「本学部」という）では、複雑・多様化するビジネス・経済・社会の諸問題を専門知識と実務能力をもって解決することができる「品格ある柔軟なビジネスリーダー」を育成することをめざします。本学部は、次の知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を身につけた者に対して学士（商学）の学位を授与します。

1　（知識・技能）

教養科目、ビジネス英語や会計の基礎の他、経営学・商学のあらゆる分野の基礎知識を学ぶ必修科目をすべて修得するとともに、それぞれの興味・関心に応じて「流通」「ファイナンス」「国際ビジネス」「マネジメント」「会計」の５つのなかから選択したひとつの専修について、関連する専門科目を学ぶことによって専門知識を深めており、問題を解決することができる。

2　（思考力・判断力・表現力等の能力）

ビジネス・経済・社会に対する広い視野と鋭い洞察力をもち、単なる利益の追求にとどまらず、企業倫理と社会的責任を深く認識し、品格をそなえたリーダーシップと「考動力」を発揮して社会に貢献することができる。

3　（主体的な態度）

自らの学びに責任を持ち、ビジネス・経済・社会の諸問題を自ら発見し、主体的かつ柔軟に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

商学部（以下、「本学部」という）では、学位授与の方針に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体的な態度を習得できるように、下記の点を踏まえて、教養科目、専門教育科目及びその他の必要な科目を系統立てて学べるカリキュラムを整備します。

1　教育内容

⑴　教養教育

ア　ビジネス・経済・社会の知識と問題解決能力の涵養に不可欠な幅広い教養を身につけるため、基盤科目群、自己形成科目群、グローバル科目群等の科目を配置する。

イ　外国語にもとづくコミュニケーション・スキルを身につけるため、外国語科目（英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語）を配置する。

⑵　専門教育

ア　１・２年次では、国際社会の共通言語である「ビジネス英語」と、ビジネスの世界の共通言語といえる「会計」を自在に使える能力を身につけることを重視し、さらに５つの専門分野を横断した商学の基礎を満遍なく学ぶことができる科目編成を行う。そのために低年次のカリキュラムでは、必修科目を含む入門・基礎科目を多数配置する。

イ　３・４年次では、「流通」「ファイナンス」「国際ビジネス」「マネジメント」「会計」の５つの専修のいずれかを選択し専門的な学習が行えるよう、専門教育科目を配置する。その中心には、教員１名あたり定員15名で実施される少人数教育の専門演習、卒業研究、プロジェクト研究、ワークショップを配置する。

ウ　ビジネス英語、ビジネス・リーダーシップ、会計、データ・サイエンスに関連する特別プログラムを設置し、ビジネスのあらゆる領域で活躍しようという学生の期待に応える。

2　教育評価

⑴　２年次終了時において、専門科目のうち必修科目、教養科目・外国語科目を含め一定単位を修得していることを確認し、専門演習を履修するに値する基礎を身につけているかを確認する。

⑵　4年間の学修成果は、研究論文、プロジェクト・ペーパーを含め、所定の単位を修得し、本学部の評価基準を満たした者を合格とする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

商学部（以下、「本学部」という）では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた人を求めます。

1　本学部でより充実した学びを実現するためには、国内外の歴史的及び現代的な政治経済・社会・地域事項について、基礎的な知識を備えていることが重要である。また、自己の主張を明確に伝える国語能力、英語によるコミュニケーション・スキルを習得していることは不可欠である。さらに、データに基づいて分析するために数学の基礎的能力を身につけておくことが望ましい。

2　本学部が求めるのは、大学における学びによって、これらビジネスの諸領域における問題解決能力・リーダーシップ能力を大いに発展させることができる可能性を有している人材である。

3　何よりも、本学部の教育方針をよく理解し、ビジネス・経済・社会を学ぶことに対して意欲を有している。

Ⅱ　教育課程について

授業科目の構成

商学部の授業科目は、共通教養科目、外国語科目及び専門教育科目の3部門に大別されます。

1　共通教養科目は、関西大学科目群、基盤科目群、自己形成科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群、グローバル科目群、大学・学部・社会連携科目群の7つの科目群により構成されます。

2　外国語科目には次の科目があります。

⑴　英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語の各々Ⅰａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂ、Ⅲａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂ、Ⅴａ、Ⅴｂ、Ⅵａ、Ⅵｂ

⑵　外国語検定試験により単位認定を行う科目

「検定認定1（各検定試験）」、「検定認定2（各検定試験）」「検定認定3（各検定試験）」

3　専門教育科目は、第1類の必修科目、第2類から第8類の選択科目及び自由科目に分かれます。

上記のほか、外国人留学生のために外国人留学生科目があります。

上記科目の詳細は、「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。

Ⅲ　卒業所要単位について

卒業所要単位の内訳

商学部に4年〈8学期〉以上（8年〈16学期〉以内）在学し、128単位以上を修得した者に卒業を認め、卒業者には学士（商学）の学位が与えられます。128単位の内容は、次のとおりです。

1　共通教養科目（20単位）

自己形成科目群の「人間を知る」、「社会を知る」及び「自然と向き合う」の各領域からそれぞれ2単位以上を含めて、関西大学科目群、基盤科目群、自己形成科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群、グローバル科目群及び大学・学部・社会連携科目群から合計20単位以上を修得しなければなりません。(20単位を超えて卒業所要単位に含めることはできません。)ただし、グローバル科目群の各科目を修得した場合、2単位を超えて共通教養科目の卒業所要単位に含めることができません。

2　外国語科目（16単位）

英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び朝鮮語のうち、英語を含む2カ国語を必修とし、ひとつを第1選択外国語、他を第2選択外国語とします。

なお、履修方法によっては第3選択外国語も修得できます。

第1選択外国語は選択した外国語のⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの計8単位、第2

選択外国語は選択した外国語の〔Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ〕〔Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ〕〔Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ〕のいずれかの組合せによる４単位を含めて、次の３とおりの方法のいずれかにより合計16単位を修得しなければなりません。(16単位を超えて卒業所要単位に含めることはできません。)

区　分	第１選択外国語	第２選択外国語	第３選択外国語	計
修得方法１	８単位	８単位		16単位
修得方法２	12単位	４単位		16単位
修得方法３	８単位	４単位	４単位	16単位

ただし、第１選択外国語を英語以外の外国語とする場合は、第２選択外国語は英語とします。

修得方法３の場合、第３選択外国語は２年次に修得し、〔Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ〕〔Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ〕〔Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ〕のいずれかの組合せで４単位を修得しなければなりません。

また、本学が指定する外国語検定試験で所定のスコアを取得した場合、又はその試験に合格した場合は、以下の取り扱いに基づき、単位認定します。

〈英語の単位の取り扱いについて〉

【修得方法１の場合】

①英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの８単位を修得しなければなりません。

②上記①の単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂとして単位の認定を行うことができます（詳細については、「外国語検定試験の単位認定について」（後掲）を参照してください)。

③英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの８単位を修得したうえで、さらに「検定認定１・２・３（各検定試験)」を修得した場合、「検定認定１・２・３（各検定試験)」は、６単位まで当該外国語の修得単位になりますが、卒業所要単位には算入できません。

【修得方法２（英語が第１選択外国語）の場合】

①英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂの12単位を修得しなければなりません。

②上記①のうち、英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂとして単位の認定を行うことができます（詳細については、「外国語検定試験の単位認定について」（後掲）を参照してください)。

③英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの８単位を修得したうえで、さらに「検定認定１・２・３（各検定試験)」を修得した場合、「検定認定１・２・３（各検定試験)」は、６単位まで当該外国語の修得単位になり、そのうち４単位まで当該外国語の卒業所要単位に算入できます。

【修得方法２（英語が第２選択外国語）の場合】

①英語〔Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ〕〔Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ〕〔Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ〕のいずれかの組合せによる４単位を修得しなければなりません。

②上記①の単位を修得していない場合、英語〔Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ〕〔Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ〕のいずれかの組合せについては、外国語検定認定制度により、英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂとして単位の認定を行うことができます（詳細については、「外国語検定試験の単位認定について」（後掲）を参照してください)。

③英語〔Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ〕〔Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ〕〔Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ〕のいずれかの組合せによる４単位を修得したうえで、さらに「検定認定１・２・３（各検定試験)」を修得した場合、「検定認定１・２・３（各検定試験)」は、６単位まで当該外国語の修得単位になりますが、卒業所要単位には算入できません。

【修得方法３（英語が第１選択外国語）の場合】

①英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの８単位を修得しなければなりません。

②上記①の単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂとして単位の認定を行うことができます（詳細については、「外国語検定試験の単位認定について」（後掲）を参照してください)。

③英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbの８単位を修得したうえで、さらに「検定認定１・２・３（各検定試験)」を修得した場合、「検定認定１・２・３（各検定試験)」は、６単位まで当該外国語の修得単位になりますが、卒業所要単位には算入できません。

【修得方法３（英語が第２選択外国語）の場合】

①英語〔Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb〕〔Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb〕〔Ⅴa・Ⅴb、Ⅵa・Ⅵb〕のいずれかの組合せによる４単位を修得しなければなりません。

②上記①の単位を修得していない場合、英語〔Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb〕〔Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb〕のいずれかの組合せについては、外国語検定認定制度により、英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbとして単位の認定を行うことができます（詳細については、「外国語検定試験の単位認定について」(後掲)を参照してください)。

③英語〔Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb〕〔Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb〕〔Ⅴa・Ⅴb、Ⅵa・Ⅵb〕のいずれかの組合せによる４単位を修得したうえで、さらに「検定認定１・２・３（各検定試験)」を修得した場合、「検定認定１・２・３（各検定試験)」は、６単位まで当該外国語の修得単位になりますが、卒業所要単位には算入できません。

〈英語以外の外国語の単位の取り扱いについて〉

「検定認定１・２（各検定試験)」を修得した場合は、４単位まで当該外国語の卒業所要単位に算入できます。

3　専門教育科目（92単位）

次の要件にしたがって92単位以上を修得しなければなりません。

⑴　第１類　入門科目（必修科目）…12単位
⑵　第２類　共通科目（選択科目）…26単位以上
⑶　第３類　応用科目（選択科目）…30単位以上
⑷　第４類　演習科目（選択科目）…14単位まで卒業所要単位への算入可
⑸　第５類　実践科目（選択科目）…14単位まで卒業所要単位への算入可
⑹　第６類　産学連携科目（選択科目）……６単位まで卒業所要単位への算入可
⑺　第７類　ビジネスリーダー特別プログラム科目（選択科目）……24単位まで卒業所要単位への算入可
⑻　第８類　会計連携特別プログラム科目（選択科目）……14単位まで卒業所要単位への算入可
⑼　自由科目……卒業所要単位に含めません

分　類		内　　容
必修科目	第１類	「基礎演習」「流通入門」「経済入門」「ビジネス英語入門」「経営入門」「簿記入門演習」 合計12単位
選択科目	第２類	商学基礎分野から10単位以上、その他の分野から各４単位以上を含めて、合計26単位以上を修得しなければなりません。
	第３類	所属する専修から20単位以上を含めて、合計30単位以上を修得しなければなりません。
	第４類	14単位まで卒業所要単位として算入できます。
	第５類	14単位まで卒業所要単位として算入できます。
	第６類	６単位まで卒業所要単位として算入できます。
	第７類	24単位まで卒業所要単位として算入できます。
	第８類	14単位まで卒業所要単位として算入できます。
合　計		92単位

専修の選択方法（３年次・４年次）

①「専門演習」を履修する場合
　専門演習の担当者が担当する第３類科目が属する専修をもって、自己の専修とします。

②「専門演習」を履修しない場合
　３年次履修登録時に一つの専修を選択してください。翌年に所属専修を変更することも可能ですが、卒業要件を満たし得るかどうかに注意してください。

外国人留学生

外国人留学生における外国語科目は、日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの計８単位を修得しなければなりません。また、日本語以外に「**外国人留学生の外国語科目履修**」のとおり外国語を選択し、その外国語のⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの計８単位を修得しなければなりません。

⑴　本学が指定する外国語検定試験で所定のスコアを取得した場合、又はその試験に合格した場合は、以下の取り扱いに基づき、単位認定します。

〈英語の単位の取り扱いについて〉

①英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbの８単位を修得しなければなりません。

②上記①の単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbとして単位の認定を行うことができます（詳細については、「外国語検定試験の単位認定について」（後掲）を参照してください)。

③英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbの８単位を修得したうえで、さらに「検定認定１・２・３（各検定試験)」を修得した場合、「検定認定１・２・３（各検定試験)」は、６単位まで当該外国語の修得単位になりますが、卒業所要単位には算入できません。

〈英語以外の外国語の単位の取り扱いについて〉

「検定認定１・２（各検定試験)」を修得した場合は、４単位まで当該外国語の卒業所要単位に算入できます。

⑵　選択した外国語の修得単位が必修単位（８単位）を超えても卒業所要単位に算入できません。

⑶　外国人留学生科目の日本語以外の科目を修得した場合は、共通教養科目の卒業所要単位に算入できます。

編・転入学生

商学部３年次に編・転入学した者の取扱いについては、次のとおりです。

商学部に２年〈４学期〉以上（６年〈12学期〉以内）在学し、専門教育科目92単位以上を修得することにより学士（商学）の学位が与えられます。

編・転入学以前に修得した単位については、商学部配当の科目の単位として認定する場合があります。

なお、外国語科目については、学部が定めた単位に満たない場合、不足単位を修得しなければなりません。

Ⅳ　履修・修得について特に注意すべき事項

履修制限単位

各年次での履修制限単位は、次のとおりです。

年　次	単　　位
１年次	各学期とも23単位以内、年間42単位以内
２年次	各学期とも23単位以内、年間42単位以内
３年次	各学期とも23単位以内、年間42単位以内
４年次	各学期とも26単位以内、年間49単位以内（在学年数不足者は、各学期とも23単位以内、年間42単位以内）

なお、以下の科目は、履修制限単位に含めません。

海外ビジネス英語（各テーマ）	専門教育科目第５類「認定科目」
海外現地研修（各テーマ）	国際ビジネス研修（各テーマ）
インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習Ａ・Ｂ・Ｃ
外国語検定認定１・２・３	教育実習事前指導
教育実習（一)・(二)	

※「海外現地研修(各テーマ)」のうち、「海外現地研修(グローバル・リテイリング)」は履修制限単位に含めます。

通年科目を履修した場合は、当該科目の単位数の２分の１の単位数が春学期と秋学期それぞれの履修単位に算入されます。

４年次においては、原則として各学期に最低２単位履修しなければなりません。

３年次編・転入学の場合は、次のとおりです。

３年次	各学期とも26単位以内、年間49単位以内
４年次	各学期とも26単位以内、年間49単位以内

なお、学部が定めた単位に満たない者は、学部長が指示する不足単位を修得しなければなりません。この場合の履修単位数は、履修制限単位外とします。

科目履修の配当年次

履修科目は、当該年次配当科目及び下位年次配当科目のうちから選択し、原則として上位年次配当科目は履修することができません。

1　外国語科目の修得方法１又は修得方法３による英語以外の外国語のＶａ・Ｖｂの履修は３年次とします。

2　第２選択外国語及び第３選択外国語について、上位年次配当の科目の受講を希望する者は、所定の受講願を提出し許可された場合、履修することができます。

3　学外資格等単位認定制度（後掲）により、特別に許可された場合は上位年次配当科目を履修することができます。

4　専門教育科目第２類「共通科目」の「ビジネス英語分野」について、新１年次生で『外国語検定試験の単位認定について』（後掲）が定める「英語」の各資格を取得又は合格している場合は、上位年次配当科目である「中級ビジネス英語」（２年次配当）、「上級ビジネス英語」（３年次配当）の履修を認めます。また、英語を母語とする者又は第２言語として学んだ者についても、別途面談等を行い、商学部長が許可した者に限り、上記科目の履修を認めます。

なお、履修申込方法等の詳細については、別途入学時にお知らせします。

共通教養科目の履修

共通教養科目の履修については、次の点に注意してください。

1　共通教養科目の概要については、「共通教養科目について」（後掲）を参照してください。ただし、商学部で履修・修得できる授業科目は「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。

2　同一年度の春学期及び秋学期に同じ授業科目を二度履修することはできません。

3　定員制等のため事前登録が必要な科目、履修者数が一定以上に達した場合に事後抽選を行う科目があります。詳細はインフォメーションシステムで確認してください。

4　次の科目は履修制限単位に含めません。それぞれ該当のプログラムに応募のうえ参加許可を受けることをもって、履修登録に代えます。

KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習Ａ・Ｂ・Ｃ

5　健康・スポーツ科目群の「生涯スポーツ・身体運動文化コース」の科目は、スポーツ・フロンティア入学試験による入学生のみ履修を認めます。

外国語科目の履修

外国語科目の履修については次のとおりです。

1　履修する外国語は、入学手続時に届け出た外国語で、変更することはできません。

2　卒業所要単位に含める外国語科目は、当該科目を履修する初年度において、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵのそれぞれａ・ｂをセットで履修することを原則とします。ただし、英語Ⅴａ・ｂ(各テーマ)、英語Ⅵａ・ｂ(各テーマ)については、各テーマを複数科目履修することができ、かつ、ａ・ｂセット履修の必要はありません。

3　外国語科目は、１年次においては、第１及び第２選択外国語のⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂのみを履修することができます。ただし、第２選択外国語については、特に希望のあるときは、新入生指導行事期間中に所定の申込手続を行い許可された場合、上位年次配当科目（Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ又はⅤａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ）を履修することができます。

4　第１選択外国語、第２選択外国語又は第３選択外国語の修得方法の決定は１年次の所定の期間に行いますが、日程等の詳細については、インフォメーションシステム等により指示します。

　なお、決定後の変更はできません。

5　３年次配当の英語Ⅴａ・ｂ（各テーマ)、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、一定の条件を付して下位年次生の履修を認めています。履修希望者は所定の受付期間中に必要な手続きを行ってください。

6　本学が指定する外国語検定試験で所定のスコアを取得した者、又はその試験に合格した者は、単位認定の申請を行うことができます。

　詳細については、「外国語検定試験の単位認定について」（後掲）を参照してください。

7　英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbの履修に際しては、原則として事前にプレースメントテストを受験しなければなりません。なお、受験に関する詳細については、インフォメーションシステム等により指示します。

外国人留学生の外国語科目履修

日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳは外国人留学生を対象とした年次配当の必修科目です。外国人留学生は日本語を必修とし、英語を選択必修とします。

なお、日常使用語が英語の留学生はドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語のうち１カ国語を選択必修とします。

英語以外の外国語の履修

英語以外の外国語の履修条件は次のとおりです。

1　原則として、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂは、その外国語のⅠｂ、Ⅱｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

　なお、「検定認定１・２・３（各検定試験)」の単位認定をされた後の履修については、この限りではありません。

2　原則として、Ⅵａ・Ⅵｂは、その外国語のⅢｂ、Ⅳｂ、Ⅴｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

　なお、「検定認定１・２・３（各検定試験)」の単位認定をされた後の履修については、この限りではありません。

専門教育科目の履修留意事項

専門教育科目のうち、「テーマ」を付した科目は、１授業科目について２テーマ４単位までを卒業所要単位に含めることができます。

演習科目の履修

演習科目の履修については、次の事項に注意してください。

1 「演習」（２年次配当）は、「専門演習」（３年次配当）を履修希望する場合、修得することが望ましい科目で先修条件はありません。履修申込にて希望する担任者を届け出て、受講を許可された者に限り履修することができます。

2 「専門演習」（３年次配当）及び「卒業研究」（４年次配当）は、原則として同一担任者により２年継続して実施する授業科目です。（やむを得ない理由（休職・退職等）により担任者を変更することもあります。）

3 「専門演習」は２年次終了時点で第１類入門科目（必修科目）12単位を含めて卒業所要単位のうち合計60単位を修得済でなければ履修できません。

4 「専門演習」は履修申込にて希望する担任者を届け出て、受講を許可された者に限り履修できます。

5 「卒業研究」及び「研究論文」は「専門演習」を修得しなければ履修できません。

6 「卒業研究」４単位は、「研究論文」の審査に合格した者に与えられます。

7 「研究論文」の詳細については、「卒業研究」の授業時に配布する「研究論文作成要項」にて指示します。

8 いずれの科目についても、修得した場合、第４類演習科目として14単位まで卒業所要単位に含めることができます。

第５類プログラム科目について

第５類プログラム科目には、次の２プログラムが開設されています。

いずれの科目についても、修得した場合、第５類実践科目として14単位まで卒業所要単位に含めることができます。

1 会計連携特別プログラム（ALSP）関連科目

少人数の演習形式で、公認会計士になるために必要な実務知識や理論、高度な専門知識に加えて、公認会計士試験受験にむけての具体的対策を短期間で体系的・効率的に身につけることを目的としています。

なお、このプログラム科目は、所属専修等に関係なく自由に履修することができます。第８類会計連携特別プログラム（ALSP）に参加する場合は、履修することを推奨します。

履修に関する留意事項は次のとおりです。

⑴ 科目によっては、簿記などの基礎的な知識を前提とすることがあるため、履修条件として一定の資格が必要な場合があります。

⑵ いずれの科目についても一定の定員を設けています。履修にあたっては、履修を希望する前学期の所定の期間に申し込む必要があります。

2 サービス・イノベーション特別プログラム（DSI）

膨大なデータからビジネスのダイナミクスを科学的に理解し、新しい知見を基礎に新しい社会的価値、ビジネスを創造しうる人材を育成することを目的としています。複雑な事象を科学的に捉える分析力、新しい知見を駆使した企画力、実践力を養います。産学連携プロジェクトの中で実践を伴った企画開発・立案の教育を行います。

履修に関する留意事項は次のとおりです。

⑴ ３年次配当科目の一部は原則として継続履修することが必要です。その際、選抜等を行う場合があります。

⑵ ２年次秋学期に開催される説明会に参加し、詳細を把握してください。

⑶ サービス・イノベーション特別プログラムに関連する以下17科目34単位の中から、必修科目である第５類実践科目「産学連携プログラム基礎」「産学連携プログラム応用」「サービスサイエンス基礎」「サービスサイエンス応用」の４科目８単位を含み、計10科目20単位を修得した場合にサービス・イノベーション

特別プログラム（DSI）を修了したものと認定し、「サービス・イノベーション特別プログラム（DSI）修了証」を授与します。

〈サービス・イノベーション特別プログラム関連科目〉

第２類　共通科目	情報処理応用演習、経営情報論、経営統計、データ分析論
第３類　応用科目	経営システム論、消費者行動論、データ・マイニング論、マーケティング・サイエンス、デジタル・マーケティング・マネジメント、マーケティング・リサーチ、データサイエンス
第５類　実践科目	データハンドリングの基礎、統計解析演習、産学連携プログラム基礎、産学連携プログラム応用、サービスサイエンス基礎、サービスサイエンス応用

第６類産学連携科目について

第６類産学連携科目を修得した場合は、６単位まで卒業所要単位に含めることができます。

「ビジネス研究（各テーマ）」のうち、「ビジネス研究（ファイナンス・インターンシップ）」は次のプログラムに関連する科目です。

・ファイナンス特別プログラム（FSP）

金融に関する基礎的・応用的・発展的内容を体系的に理解し、金融業界での実践的な学びを通じて高度な金融知識を有する人材の育成を目的としています。

履修に関する留意事項は次の通りです。

1　２年・３年次夏季休業期間に開講する「ビジネス研究（ファイナンス・インターンシップ）」については、履修希望者の中から選抜することがあります。なお、先修条件として、第1類入門科目「経済入門」および第２類共通科目「現代経済」の２科目４単位を修得しておくことが必要です。

2　１年次秋学期に説明会を開催します。このプログラムの履修を希望する場合は必ず参加してください。

3　ファイナンス特別プログラムに関連する以下の科目の中から、必修科目である第２類共通科目「金融論」および第６類産学連携科目「ビジネス研究（ファイナンス・インターンシップ）」の２科目４単位、選択必修科目である第２類共通科目「保険経済論」「金融情報論」および第３類応用科目「金融システム論」「証券市場論」「国際金融論」のうち２科目４単位を含み、計18単位を修得した場合にファイナンス特別プログラム（FSP）を修了したものと認定し、「ファイナンス特別プログラム（FSP）修了証」を授与します。なお、ファイナンス特別プログラム修了要件となる選択必修科目の修得単位数が必要単位数（４単位）を超える場合は、その超過単位数を選択科目の単位数の中に算入することができます。

〈ファイナンス特別プログラムに関連する科目〉

必修科目	
第２類　共通科目	金融論
第６類　産学連携科目	ビジネス研究（ファイナンス・インターンシップ）
選択必修科目	
第２類　共通科目	保険経済論、金融情報論
第３類　応用科目	金融システム論、証券市場論、国際金融論
選択科目	
第３類　応用科目	ファイナンス特殊講義、ファイナンス論、ミクロ金融分析、金融政策論、企業金融論、国際通貨システム論、実証ファイナンス、保険経営論、証券分析論
第４類　演習科目*	専門演習、卒業研究、研究論文

＊ファイナンス専修の教員が担当するクラスのみ対象

第７類ビジネスリーダー特別プログラム（BLSP）科目について

商学部の教育理念である「品格ある柔軟なビジネスリーダーの育成」を目指し、「グローバルに活躍するプロアクティブ・リーダーの育成」をそのコンセプトとして、少人数クラスによるビジネス英語教育と産学連携によるプロジェクト型の実践学習を軸に、国際的に活躍できるビジネスリーダーを育成することを目的として設置しています。

第７類ビジネスリーダー特別プログラム科目を修得した場合、24単位まで卒業所要単位に含めることができます。

履修に関する留意事項は次のとおりです。

1　２年次秋学期に開講する「ビジネスモデル論」については、履修希望者の中から選抜することがあります。なお、先修条件はありません。

2　３年次に開講する「プロジェクト研究１・２」については、履修希望者の中から選抜し、「英語コミュニケーション１・２」とのセット履修とします。

なお、「プロジェクト研究１・２」「英語コミュニケーション１・２」は、２年次終了時点で第１類入門科目（必修科目）12単位を含めて卒業所要単位のうち合計60単位を修得済でなければ履修できません。

3　３年次に開講する「海外ワークショップ」では、外国の大学との提携により、約１週間の短期集中講義を現地で実施する予定です。

4　「プロジェクト研究１・２」（各３年次配当）及び「プロジェクト研究３・４」（各４年次配当）は、原則として２年継続して実施する授業科目です。

5　「プロジェクト研究１・２」の履修を許可された者は、３年次で「専門演習」、４年次で「卒業研究」「研究論文」を履修することはできません。

6　プログラムや手続き等の詳細については、２年次秋学期に説明会を実施します。日程については、追ってインフォメーションシステム等でお知らせします。

7　第７類「BLSP科目」14科目28単位及び第２類の「データ分析論」の合計15科目30単位の中から、必修科目である「データ分析論」「プレゼンテーション」「プロジェクト研究１～４」「プロジェクト・ペーパー」「英語コミュニケーション１～２」の９科目18単位を含み、計12科目24単位を修得した場合にBLSPを修了したものとし、「ビジネスリーダー特別プログラム（BLSP）修了証」を授与します。なお、必修科目が不合格となった場合、次学期以降の必修科目及びBLSP選択科目は履修できません。

第８類会計連携特別プログラム（ALSP）科目について

日商簿記１級、公認会計士といった会計プロフェッションをより効果的に輩出することを目的として設置しています。各科目は、会計専門職大学院と連携して行われます。また、きわめて優秀な学生を対象に早期卒業制度を設けていますが、この制度を利用する場合もこのプログラムへの参加が必要となります。早期卒業制度については、後掲「Ⅳ　早期卒業制度について」で説明しています。

なお、本プログラムへの参加を希望する場合は、第５類ALSP関連科目を履修することを強く勧めます。

履修に関する留意事項は次のとおりです。

1　２年次秋学期に開講する「ワークショップⅠ」については、履修希望者の中から選抜します。なお、先修条件はありません。

2　３年次に開講する「ワークショップⅡ・Ⅲ」については、両科目ともに履修する必要があり、履修希望者の中から選抜します。

なお、「ワークショップⅡ・Ⅲ」は２年次終了時点で、第１類入門科目（必修科目）12単位を含めて卒業所要単位のうち合計60単位を修得済でなければ履修できません。

3　「ワークショップⅡ・Ⅲ」の履修を許可された者は、３年次で「専門演習」、４年次で「卒業研究」「研究論文」を履修することはできません。

4　「ワークショップⅣ・Ⅴ」は「ワークショップⅡ・Ⅲ」を修得しなければ履修できません。

5　「ワークショップⅣ・Ⅴ」は、日商簿記１級又は公認会計士試験の受験経験があることを履修要件とします。

6　プログラムの修了要件は第５類ALSP関連科目（16科目32単位）及び第８類ALSP科目（10科目20単位）を合わせた26科目52単位の中から、以下の６科目12単位を含み、計12科目24単位を取得した場合に、「会計連携特別プログラム（ALSP）修了証」を授与します。

【修了のための必修科目】

第５類ALSP関連科目	上級簿記演習Ⅰ、上級簿記演習Ⅱ、上級簿記演習Ⅲ、上級簿記演習Ⅳ
第８類ALSP科目	ワークショップⅡ、ワークショップⅢ

7　プログラムや手続等の詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

自由科目・他学部配当科目の履修

自由科目及び各種資格取得に必要な他学部配当科目を履修する場合は、履修制限単位外で毎年度30単位（教育実習事前指導、教育実習（一）、教育実習（二）は含まない）まで履修することができます。

また、各種資格取得に必要な他学部配当科目を履修する場合は、当該科目の配当年次又はそれ以上の年次でなければ履修することができません。

インターンシップの登録

インターンシップの履修登録は、次のとおりです。

1 「インターンシップ（ビジネス）」の履修登録は、キャリアセンターにおける「ビジネスインターンシップ」許可をもってこれに代えます。（上記「自由科目・他学部配当科目の履修」の履修制限単位30単位には含めません）

2 「インターンシップ（学校１）」「インターンシップ（学校２）」「インターンシップ（学校３）」の履修登録は、所定の期間に受付する学校インターンシップ許可をもってこれに代えます。（上記「自由科目・他学部配当科目の履修」の履修制限単位30単位には含めません）

学外資格単位認定制度

商学部では、検定試験や資格の取得に対するモチベーションを高め、学部教育の選択肢を拡大するために各種資格を得ることによる単位認定を実施しています。

1　対象とする検定試験・資格と単位認定する科目は次のとおりです。

認定資格	認定を行う専門教育科目
【日本商工会議所主催】	
簿記検定３級	簿記入門演習(2)
簿記検定２級	簿記入門演習(2)、商業簿記(2)、工業簿記(2)〔ただし４単位まで〕
簿記検定１級	簿記入門演習(2)、商業簿記(2)、工業簿記(2)、現代会計(2)、原価計算論(2)、コスト・マネジメント(2)、株式会社簿記(2)、会計制度論(2)、財務諸表論(2)、上級財務諸表論(2)、連結会計論(2)〔ただし８単位まで〕
【税理士試験科目合格】	
簿　記　論	簿記入門演習(2)、商業簿記(2)、工業簿記(2)、株式会社簿記(2)〔６単位まで〕
財務諸表論	現代会計(2)、会計制度論(2)、財務諸表論(2)、上級財務諸表論(2)〔６単位まで〕
法人税法	税務会計概論(2)、税務会計実践(2)〔４単位まで〕
【公認会計士試験（短答式・論文式）合格】	
	簿記入門演習(2)、商業簿記(2)、工業簿記(2)、現代会計(2)、株式会社簿記(2)、会計制度論(2)、財務諸表論(2)、上級財務諸表論(2)、連結会計論(2)、原価計算論(2)、コスト・マネジメント(2)、管理会計論(2)、監査論(2)、内部統制論(2)、情報会計論(2)、外貨換算会計論(2)、証券市場会計論(2)、商法Ⅰ（総則）(2)、商法Ⅱ（会社法）(2)〔ただし、短答式合格は10単位まで、論文式合格は14単位（短答式合格で認定可能な10単位に４単位を加える）まで〕

※　科目名の後ろの（　）は科目の単位を表す。

2　申請期間と認定時期について

対　象　者		申請期間	認定時期
新入生【入学前資格取得者】		入学年度の４月１日～４月11日	春学期の成績発表時
在　学　生	春学期	７月12日～８月22日	春学期の成績発表時
	秋学期	12月20日～１月30日	秋学期の成績発表時

⑴　新入生で入学以前に取得した資格については、入学時のみに申請を許可します。この際、入学時に一番近い時点で取得した資格について認定します。

⑵　在学生の申請については、合格した学期又は次学期に受付けます。（２月の合格者は当該学期の申請ができないため、次々学期まで申請可。）

⑶　休学期間中に取得した資格については、復学した学期又は次学期に受付けます。
⑷　所定の期間内に、『学外資格単位認定申請書』（教務センター備付）及び商学部の定める検定試験・資格取得に係わる『合格証書』の原本・写しを教務センターに提出して下さい。手続き等の詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

3　単位認定の方法及び成績の評価
⑴　申請者の単位修得・履修状況に基づいて審査を行い、単位認定を行います。
　なお、単位認定を行う科目については、申請時に履修登録していなくてもかまいません。
⑵　単位修得済みの科目については、認定を行いません。
⑶　成績評価は「秀」とします。

4　単位認定の総枠
　学外資格単位認定において認定する総単位数は、在学中20単位までとします。

5　上位年次配当科目の履修について
　学外資格単位認定を申請した場合には、次に定めるところにより、上位年次配当科目を履修することができます。
⑴　履修可能単位数
　学外資格単位認定制度において認定される単位数を上限とします。
⑵　履修可能科目
　「財務諸表論」「現代会計」「株式会社簿記」「会計制度論」

Ⅴ　早期卒業制度について

商学研究科（高度専門職養成コース）への早期卒業制度（商学部・商学研究科５年一貫教育プログラム）

商学部では、本学商学研究科（高度専門職養成コース）への進学を目指す、きわめて優秀な学生を対象に早期卒業（在学３年間で卒業）を認める制度を設けています。本制度への申請は、３年次春学期（６月）を予定しており、手続き等の詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。制度の概要は以下のとおりです。

〈早期卒業制度の概要〉

1　早期卒業の候補者として認められる者は、以下の条件を全て満たしていること
⑴　２年次終了の時点で、GPAが3.00以上の者
⑵　２年次終了の時点で、共通教養科目、外国語科目の卒業所要単位を修得し、かつ卒業所要単位（128単位）のうち84単位以上を修得している者
⑶　３年次に開講される専門演習・BLSPを履修している者
⑷　申請時点で５学期連続して在学している者

2　早期卒業が認められる者は、以下の条件をすべて満たしていること
⑴　３年次６月（予定）において、本早期卒業を申請し候補者として認められた者
⑵「研究計画書に基づく口頭試験」（３年次10月（予定））に合格した者
⑶　３年次（３月末）の時点で、GPAが3.00以上の者
⑷　３年次（３月末）において、卒業所要単位（128単位）を全て修得している者
⑸　３年次（３月末）において、６学期連続して在学している者

3　履修上の措置及びその他の事項
⑴　早期卒業候補者に学期途中で学籍異動があった場合は、早期卒業制度の候補者資格を取り消す。
⑵　早期卒業候補者から、所定の期限（卒業査定教授会の前日）までに辞退の申し出があった場合は、早期卒業候補者の資格を取り消し、４年間の在学を認める。なお、４年次の卒業研究・研究論文の履修は認めるものとする。
⑶　早期卒業候補者を辞退した者又は早期卒業が認められなかった者が３年次末に卒業所要単位を満たした場合でも、４年次の各学期において２単位以上履修し、１年間在学しなければならない。

会計専門職大学院への早期卒業制度

商学部では、本学会計専門職大学院への進学を目指す、きわめて優秀な学生を対象に早期卒業（在学 3 年間で卒業）を認める制度を設けています。本制度への応募を考えている方は、教務センターまで詳細を問い合わせてください。

授業科目一覧表

1　共通教養科目

《関西大学科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	関西大学を知る				
GEA1001	日本の近現代史と関西大学―知の群像	1	2	1	2
GEA1002	吹田市と関西大学	1	2	1	2
GEA1003	学生生活とリスク	1	2	1	2
	戦略トピックス				
GEA1004	SDGs入門	1	2	1	2
GEA1005	SDGsの実践	1	2	1	2
GEA1006	金融の実務から見るSDGs	1	2	1	2
GEA1007	環境問題と環境政策のルーツ	1	2	1	2
GEA1008	活用法を見聞するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1009	活用法を体験するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1010	起業に学ぶ「考動力」入門（関大出身起業家と考える未来の自分）	1	2	1	2
GEA1011	起業に学ぶ「考動力」実践（企業と考える未来のデザイン）	1	2	1	2
GEA2001	社会のためのデータサイエンス実践基礎	2	2	1	2
GEA2002	AI・データエンジニアリング実践基礎	2	2	1	2

《基盤科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEB1001	スタディスキルゼミ（各テーマ）	1	2	1	2
GEB1002	プロジェクト学習１	1	2	1	2
GEB2001	プロジェクト学習２	2	2	1	2

《自己形成科目群》

領域：人間を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1001	こころとからだを哲学する
	GEC1002	文化・社会と心理学
	GEC1003	身体運動の人間学
	GEC1004	ことばと思考
	GEC1005	地図の知恵、地図の思想
	GEC1006	自己と他者
	GEC1007	自己をみつめる
	GEC1008	日本人の宗教観
	GEC1009	美術からみる表現と理解
	GEC1010	入門・新しい部落問題
	GEC1011	現代社会とジェンダー
	GEC1012	現代社会とセクシュアリティ
	GEC1013	生と死の倫理学
	GEC1014	食を知る
	GEC1015	食のリスクマネジメント
	GEC1016	宗教と現代
	GEC1017	新しい人権論への招待
教養を深める（知の見取り図）	GEC1018	哲学を学ぶ
	GEC1019	論理学を学ぶ
	GEC1020	心理学を学ぶ
	GEC1021	宗教学を学ぶ
	GEC1022	イスラーム世界の歴史を学ぶ
	GEC1023	考古学を学ぶ
	GEC1024	日本語を学ぶ
	GEC1025	日本文学を学ぶ
	GEC1026	人文地理学を学ぶ
	GEC1027	地域社会の生活と資源
	GEC1028	芸術学を学ぶ
	GEC1029	人類学入門
教養を深める（知の探求）	GEC1030	日本の古典文学を読む
	GEC1031	日本の近代文学を読む
	GEC1032	わかる諸子百家
	GEC1033	日本の文化と人間を考える
	GEC1034	子供から大人への過程を考える
	GEC1035	社会と個人の心理学
	GEC1036	世界の文学を味わう
	GEC1037	西洋美術を味わう
	GEC1038	日本・東洋美術を味わう
	GEC1039	文化史に親しもう
	GEC1040	アジアの文化と世界遺産
	GEC1041	大学教育論～大学の主人公はきみたちだ！～
チャレンジ科目	GEC1042	各テーマ

【配当年次：１・２・３・４　　単位：２
授業期間：１　　毎週授業時間：２】

領域：社会を知る

	科目番号	授　業　科　目
日常への洞察	GEC1043	今日の道徳的ディレンマ
	GEC1044	世界の宗教
	GEC1045	環境の倫理学
	GEC1046	技術と社会
	GEC1047	生活の中の経済学
	GEC1048	メディア・リテラシー入門
	GEC1049	イスラム社会を考える
	GEC1050	日本の伝統文化
	GEC1051	方言学入門
	GEC1052	共生社会のライフデザイン
	GEC1053	日本の社会と生活の歴史
	GEC1054	社会学で学ぶ現代社会
	GEC1055	政治学と21世紀社会
	GEC1056	法実務入門
	GEC1057	地域再発見の旅
	GEC1058	旅から始める知の冒険
	GEC1059	移動する人々
	GEC1060	オリンピックの共生思想
	GEC1061	外来文化と日本の歴史
	GEC1062	アジアの中の日本歴史
	GEC1063	世界の中の日本経済
	GEC1064	日本史の中の平和と戦争
	GEC1065	世界史の中の平和と戦争
	GEC1066	読書への誘い
教養を深める（知の見取り図）	GEC1067	倫理学を学ぶ
	GEC1068	法学を学ぶ
	GEC1069	政治学のすすめ
	GEC1070	民俗学を学ぶ
	GEC1071	基礎からのマクロ経済学
	GEC1072	基礎からのミクロ経済学
	GEC1073	社会学入門
	GEC1074	日本国憲法
	GEC1075	基礎からの情報処理
	GEC1076	日本の歴史を学ぶ
	GEC1077	アジア史を学ぶ
	GEC1078	西洋の歴史を学ぶ
	GEC1079	社会思想史を学ぶ
教養を深める（知の探求）	GEC1080	名作を読む
	GEC1081	哲学の古典を読み解く
	GEC1082	聖典と宗教思想
	GEC1083	近代市民社会思想を知ろう
	GEC1084	労働と雇用を考える
	GEC1085	日本の地域史を考える
	GEC1086	世界の地域文化を知ろう
	GEC1087	少子高齢化社会を考える
	GEC1088	法の社会学
	GEC1089	日本史の中の女性と社会を知ろう
	GEC1090	日本社会の成熟と変動を知ろう
	GEC1091	西洋世界の社会と歴史を考える
	GEC1092	欧米世界の歴史と文化を知ろう
	GEC1093	中国と日本の文化交流
	GEC1094	異文化への理解を深める
	GEC1095	現代都市の生態とエスニシティ
	GEC1096	社会的養育を考える
チャレンジ科目	GEC1097	各テーマ

領域：自然と向き合う

	科目番号	授　業　科　目
日常への洞察	GEC1098	身の回りの化学
	GEC1099	確率・統計でものを考える
	GEC1100	自然災害の科学
	GEC1101	科学と文化
	GEC1102	生物と環境
	GEC1103	人類紀の環境変動
	GEC1104	建築と景観
	GEC1105	エネルギーと環境
	GEC1106	科学と技術
	GEC1107	現代科学の展開
	GEC1108	統計学を学ぶ
教養を深める（知の見取り図）	GEC1109	自然地理学を学ぶ
	GEC1110	自然科学史を学ぶ
	GEC1111	バイオサイエンス入門
	GEC1112	数学を学ぶ（各テーマ）
	GEC1113	物理を学ぶ（各テーマ）
教養を深める（知の探求）	GEC1114	仕組みを形にする科学技術
	GEC1115	現代社会を支える電気電子情報技術
	GEC1116	宇宙のすがたと歴史
	GEC1117	近代科学の系譜
	GEC1118	気象と気候を学ぶ
	GEC1119	地震と火山のメカニズムと防災
チャレンジ科目	GEC1120	各テーマ

【配当年次：1・2・3・4　　単位：2　　授業期間：1　　毎週授業時間：2】

《健康・スポーツ科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GED1001	健康・スポーツ科学実習a(各種目)	1	1	1	2
GED1002	健康・スポーツ科学実習b(各種目)	1	1	1	2
GED1003	健康・スポーツ科学実習c(各種目)	1	1	1	2
GED1004	健康・スポーツ科学論	1	2	1	2
	(生涯スポーツ・身体運動文化コース)				
GED1005	関西大学スポーツ文化論	1	2	1	2
GED1006	スポーツ運動学概論	1	2	1	2
GED1007	スポーツ社会学概論	1	2	1	2
GED1008	スポーツ心理学概論	1	2	1	2
GED1009	スポーツ栄養学概論	1	2	1	2
GED1010	コーチングの科学	1	2	1	2
GED1011	トレーニング科学概論	1	2	1	2
GED1012	コンディショニング科学概論	1	2	1	2

《グローバル科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学準備スキルアップ科目】				
GEF2001	Foundation for Academic English	1~4	2	1	2
GEF1001	Academic Writing Practice	1~4	2	1	2
GEF2002	Academic Discussions & Debates	1~4	2	1	2
GEF2003	Presentation Skills	1~4	2	1	2
GEF2004	留学のための英語スキルアップ	1~4	2	1	2
GEF2005	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2006	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2007	ASEAN Studies	1~4	2	1	2
GEF1002	Understanding Cross-Cultural Communication	1~4	2	1	2
GEF1003	KUGF Independent Study (English Skills Development)	1~4	2	1	2
GEF2008	KUGF Independent Study (Doing a Research in English)	1~4	2	1	2
GEF2009	Global Awareness Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2010	Global Awareness Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2011	English Communication Skills for Business Contexts	1~4	2	1	2
	【グローバル・フロンティア科目】				
	Module 1 . Engineering Approach to Urban Issues				
GEF3001	Disaster Transport Planning	1~4	2	1	2
	Module 2. Food Science & Biotechnology				
GEF3002	Biotechnology and Bioethics	1~4	2	1	2
GEF3003	Marketing of Food, Alcohol and Cosmetics	1~4	2	1	2
GEF3004	Science of Washoku (Japanese Cuisine)	1~4	2	1	2
GEF3005	Food Safety	1~4	2	1	2
GEF3006	Polysaccharide Science	1~4	2	1	2
	Module 3 .International Business & Entrepreneurship				
GEF3007	International Business for Entrepreneurs	1~4	2	1	2
GEF3008	Japanese Industries and Companies (The Global Competition)	1~4	2	1	2
GEF3009	Business & Japanese People	1~4	2	1	2
GEF3010	Marketing in Japan	1~4	2	1	2
GEF3011	Business for SDGs (Sustainable Development Goals)	1~4	2	1	2
	Module 4 . Japan Studies				
GEF3012	Japanese Philosophy and Thoughts	1~4	2	1	2
GEF3013	Japanese Religion	1~4	2	1	2
GEF3014	Japanese Arts	1~4	2	1	2
GEF3015	Japanese History (The History and Culture of Medieval Japan)	1~4	2	1	2
GEF3016	Japanese History (Bushido: The Way of the Warrior)	1~4	2	1	2
GEF3017	Japanese Literature (Survey of Post-1945)	1~4	2	1	2
GEF3018	Japanese Literature (Intro. to Classical JPN Literature)	1~4	2	1	2
GEF3019	Japanese Culture (Modern Culture and Post-war History)	1~4	2	1	2
GEF3020	Japanese Culture (JPN Culture and Contemporary Literature)	1~4	2	1	2
GEF3021	Comparative Asian Cultures Studies	1~4	2	1	2
GEF3022	Japanese Law and Politics	1~4	2	1	2
GEF3023	Japanese Economy (Topics in Japanese Economy and Discussion)	1~4	2	1	2
GEF3024	Japanese Society	1~4	2	1	2
GEF3025	Japanese Popular Culture (Postwar Japanese Culture)	1~4	2	1	2
GEF3026	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. to Kendo)	1~4	2	1	2
GEF3027	Seminar in Japanology (The Japanese Language and Society)	1~4	2	1	2
GEF3028	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. To Naginata)	1~4	2	1	2
GEF3029	Seminar in Japanology (War and Conflict through JPN Film)	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	Module 5 . Language Teaching & Communication				
GEF3030	Second Language Acquisition	3	2	1	2
GEF3031	Individual Differences in Language Learning	3	2	1	2
GEF3032	Ed. Tech. & Materials Development in FLT	3	2	1	2
GEF3033	Early Foreign Language Education	3	2	1	2
GEF3034	Structure of Language (discourse and meaning)	3	2	1	2
GEF3035	Linguistic Analysis (English)	3	2	1	2
GEF3036	International Business Communication	3	2	1	2
	Module 6 . Studies on Foreign Affairs				
GEF3037	International Development	1~4	2	1	2
GEF3038	Area Studies (Europe I)	1~4	2	1	2
GEF3039	Area Studies (Europe II)	1~4	2	1	2
GEF3040	Area Studies (India)	1~4	2	1	2
GEF3041	Japan in International Affairs	1~4	2	1	2
	Module 7 . Fundamentals for Social Science Studies				
GEF3042	Critical Thinking for Social and Global Issues	1~4	2	1	2
GEF3043	Research Methods for Social Science	1~4	2	1	2
GEF3044	Global Sociology	1~4	2	1	2
GEF3045	Japanese Computerization and Society	1~4	2	1	2
GEF3046	Methods of Comparative Analysis (ENG and JPN Communication)	1~4	2	1	2
GEF3047	Contemporary Gender Studies	1~4	2	1	2
	Module 8 . Applied Science and Engineering				
GEF3048	Japanese Science and Technology	1~4	2	1	2
GEF3049	Environmental Biology	1~4	2	1	2
GEF3050	Information and Communication Technologies	1~4	2	1	2
GEF3051	Introduction to Applied Science	1~4	2	1	2
	【留学実践科目】				
GEF1004	KUGF Field Study（各プログラム）	1~4	2	1	4
GEF1005	海外研修（各セミナー）	1~4	1~2	1	4
GEF1006	外国語運用実習(各セミナー)	1~4	1	1	2

《大学・学部・社会連携科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【大学連携科目】				
	〔大学コンソーシアム大阪プログラム〕				
GEG1001	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【学部連携科目】				
	〔学部オープン科目〕				
GEG1002	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【社会連携科目】				
	(講義科目)				
GEG1003	国際協力の基礎を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1004	国際協力ボランティアの理論を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1005	国際協力レディネス	1~4	2	1	2
GEG1006	国際協力フォローアップ	1~4	2	1	2
	(実習科目)				
GEG1007	国際協力ボランティア実習A	1~4	4	1	8
GEG1008	国際協力ボランティア実習B	1~4	2	1	4
GEG1009	国際協力ボランティア実習C	1~4	1	1	2
GEG3001	サービスラーニング(各テーマ)	3	2	1	2

※共通教養科目の開講科目等詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

外国語科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GFE1001	英語Ⅰa	1	1	2	1
GFE1002	英語Ⅰb	1	1	2	1
GFE1003	英語Ⅱa	1	1	2	1
GFE1004	英語Ⅱb	1	1	2	1
GFE2001	英語Ⅲa	1	1	2	2
GFE2002	英語Ⅲb	1	1	2	2
GFE2003	英語Ⅳa	1	1	2	2
GFE2004	英語Ⅳb	1	1	2	2
GFE3001	英語Va(各テーマ)	1	1	2	3
GFE3002	英語Vb(各テーマ)	1	1	2	3
GFE3003	英語Ⅵa(各テーマ)	1	1	2	3
GFE3004	英語Ⅵb(各テーマ)	1	1	2	3
GFG1001	ドイツ語Ⅰa	1	1	2	1
GFG1002	ドイツ語Ⅰb	1	1	2	1
GFG1003	ドイツ語Ⅱa	1	1	2	1
GFG1004	ドイツ語Ⅱb	1	1	2	1
GFG2001	ドイツ語Ⅲa	1	1	2	2
GFG2002	ドイツ語Ⅲb	1	1	2	2
GFG2003	ドイツ語Ⅳa	1	1	2	2
GFG2004	ドイツ語Ⅳb	1	1	2	2
GFG2005	ドイツ語Va	1	1	2	2
GFG2006	ドイツ語Vb	1	1	2	2
GFG3001	ドイツ語Ⅵa	1	1	2	3
GFG3002	ドイツ語Ⅵb	1	1	2	3
GFF1001	フランス語Ⅰa	1	1	2	1
GFF1002	フランス語Ⅰb	1	1	2	1
GFF1003	フランス語Ⅱa	1	1	2	1
GFF1004	フランス語Ⅱb	1	1	2	1
GFF2001	フランス語Ⅲa	1	1	2	2
GFF2002	フランス語Ⅲb	1	1	2	2
GFF2003	フランス語Ⅳa	1	1	2	2
GFF2004	フランス語Ⅳb	1	1	2	2
GFF2005	フランス語Va	1	1	2	2
GFF2006	フランス語Vb	1	1	2	2
GFF3001	フランス語Ⅵa	1	1	2	3
GFF3002	フランス語Ⅵb	1	1	2	3
GFR1001	ロシア語Ⅰa	1	1	2	1
GFR1002	ロシア語Ⅰb	1	1	2	1
GFR1003	ロシア語Ⅱa	1	1	2	1
GFR1004	ロシア語Ⅱb	1	1	2	1
GFR2001	ロシア語Ⅲa	1	1	2	2
GFR2002	ロシア語Ⅲb	1	1	2	2
GFR2003	ロシア語Ⅳa	1	1	2	2
GFR2004	ロシア語Ⅳb	1	1	2	2
GFR2005	ロシア語Va	1	1	2	2
GFR2006	ロシア語Vb	1	1	2	2
GFR3001	ロシア語Ⅵa	1	1	2	3
GFR3002	ロシア語Ⅵb	1	1	2	3
GFS1001	スペイン語Ⅰa	1	1	2	1
GFS1002	スペイン語Ⅰb	1	1	2	1
GFS1003	スペイン語Ⅱa	1	1	2	1
GFS1004	スペイン語Ⅱb	1	1	2	1
GFS2001	スペイン語Ⅲa	1	1	2	2
GFS2002	スペイン語Ⅲb	1	1	2	2
GFS2003	スペイン語Ⅳa	1	1	2	2
GFS2004	スペイン語Ⅳb	1	1	2	2
GFS2005	スペイン語Va	1	1	2	2
GFS2006	スペイン語Vb	1	1	2	2
GFS3001	スペイン語Ⅵa	1	1	2	3
GFS3002	スペイン語Ⅵb	1	1	2	3
GFC1001	中国語Ⅰa	1	1	2	1
GFC1002	中国語Ⅰb	1	1	2	1
GFC1003	中国語Ⅱa	1	1	2	1
GFC1004	中国語Ⅱb	1	1	2	1
GFC2001	中国語Ⅲa	1	1	2	2
GFC2002	中国語Ⅲb	1	1	2	2
GFC2003	中国語Ⅳa	1	1	2	2
GFC2004	中国語Ⅳb	1	1	2	2
GFC2005	中国語Va	1	1	2	2
GFC2006	中国語Vb	1	1	2	2
GFC3001	中国語Ⅵa	1	1	2	3
GFC3002	中国語Ⅵb	1	1	2	3
GFK1001	朝鮮語Ⅰa	1	1	2	1
GFK1002	朝鮮語Ⅰb	1	1	2	1
GFK1003	朝鮮語Ⅱa	1	1	2	1
GFK1004	朝鮮語Ⅱb	1	1	2	1
GFK2001	朝鮮語Ⅲa	1	1	2	2
GFK2002	朝鮮語Ⅲb	1	1	2	2
GFK2003	朝鮮語Ⅳa	1	1	2	2
GFK2004	朝鮮語Ⅳb	1	1	2	2
GFK2005	朝鮮語Va	1	1	2	2
GFK2006	朝鮮語Vb	1	1	2	2
GFK3001	朝鮮語Ⅵa	1	1	2	3
GFK3002	朝鮮語Ⅵb	1	1	2	3
GFO1001	検定認定1（各認定試験）	2	—	—	1
GFO1002	検定認定2（各認定試験）	2	—	—	1
GFO1003	検定認定3（各認定試験）	2	—	—	1

※配当年次は、当該年次以上において履修できることを示す。

専門教育科目【第１類】「入門科目」（必修科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
BC1-1-001	基礎演習	2	1	2	1
BC1-1-002	流通入門	2	1	2	1
BC1-1-003	経済入門	2	1	2	1
BC1-1-004	ビジネス英語入門	2	1	2	1
BC1-1-005	経営入門	2	1	2	1
BC1-1-006	簿記入門演習	2	1	4	1

専門教育科目【第２類】「共通科目」（選択科目）

分野	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
商学基礎分野	BC2-2-B01	商業史	2	1	2	2
	BC2-2-B02	マーケティング論	2	1	2	2
	BC2-2-B03	流通論	2	1	2	2
	BC2-2-B04	環境と経済	2	1	2	2
	BC2-1-B01	現代経済	2	1	2	1
	BC2-2-B05	財政学	2	1	2	2
	BC2-2-B06	金融論	2	1	2	2
	BC2-2-B07	保険経済論	2	1	2	2
	BC2-2-B08	国際経済関係論	2	1	2	2
	BC2-2-B09	国際貿易論	2	1	2	2
	BC2-2-B10	外国為替論	2	1	2	2
	BC2-2-B11	国際協力論	2	1	2	2
	BC2-2-B12	現代社会と企業	2	1	2	2
	BC2-2-B13	ビジネス・マネジメント	2	1	2	2
	BC2-2-B14	経営史	2	1	2	2
	BC2-1-B02	会計学概論	2	1	2	1
	BC2-2-B15	企業財務論	2	1	2	2
	BC2-2-B16	ビジネス・エシックス	2	1	2	2
	BC2-2-B17	競争戦略論	2	1	2	2
会計・情報・統計分野	BC2-1-A01	商業簿記	2	1	2	1
	BC2-1-A02	工業簿記	2	1	2	1
	BC2-2-A01	現代会計	2	1	2	2
	BC2-1-A03	情報処理基礎演習	2	1	2	1
	BC2-1-A04	情報処理応用演習	2	1	2	1
	BC2-2-A02	eリテイリング	2	1	2	2
	BC2-2-A03	金融情報論	2	1	2	2
	BC2-2-A04	経営情報論	2	1	2	2
	BC2-2-A05	経営統計	2	1	2	2
	BC2-2-A06	データ分析論	2	1	2	2
ビジネス英語分野	BC2-1-E01	初級ビジネス英語 A	2	1	2	1
	BC2-1-E02	初級ビジネス英語 B	2	1	2	1
	BC2-2-E01	中級ビジネス英語 A	2	1	2	2
	BC2-2-E02	中級ビジネス英語 B	2	1	2	2
	BC2-3-E01	上級ビジネス英語 I	2	1	2	3
	BC2-3-E02	上級ビジネス英語 II	2	1	2	3
	BC2-1-E03	Discussing Intercultural Issues in Business	2	1	2	1
	BC2-1-E04	海外ビジネス英語(各テーマ)	4	1	2	1
	BC2-2-E03	英語で学ぶ現代ビジネス(各テーマ)	2	1	2	2
法律分野	BC2-2-L01	民法 I（総則）	2	1	2	2
	BC2-2-L02	民法 II（債権）	2	1	2	2
	BC2-2-L03	商法 I（総則）	2	1	2	2
	BC2-2-L04	商法 II（会社法）	2	1	2	2
	BC2-3-L01	経済法 I	2	1	2	3
	BC2-3-L02	経済法 II	2	1	2	3
	BC2-3-L03	労働法 I	2	1	2	3
	BC2-3-L04	労働法 II	2	1	2	3
	BC2-3-L05	国際取引法 I	2	1	2	3
	BC2-3-L06	国際取引法 II	2	1	2	3

※配当年次は、当該年次以上において履修できることを示す。

専門教育科目【第３類】「応用科目」（選択科目）

分野	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
流通専修	BC3-2-D01	消費論	2	1	2	2
	BC3-2-D02	消費者行動論	2	1	2	2
	BC3-2-D03	流通システム論	2	1	2	2
	BC3-2-D04	流通政策論	2	1	2	2
	BC3-2-D05	マーケティング政策論	2	1	2	2
	BC3-2-D06	国際マーケティング論	2	1	2	2
	BC3-2-D07	国際流通論	2	1	2	2
	BC3-2-D08	ロジスティクス論	2	1	2	2
	BC3-2-D09	サプライチェーン・マネジメント	2	1	2	2
	BC3-2-D10	広告政策論	2	1	2	2
	BC3-2-D11	都市と商業	2	1	2	2
	BC3-2-D12	食と農業	2	1	2	2
	BC3-2-D13	農産物流通論	2	1	2	2
	BC3-2-D14	現代産業論	2	1	2	2
	BC3-2-D15	協同組合論	2	1	2	2
	BC3-2-D16	生活協同組合論	2	1	2	2
	BC3-2-D17	交通論	2	1	2	2
	BC3-2-D18	通信論	2	1	2	2
	BC3-2-D19	サービス産業論	2	1	2	2
	BC3-2-D20	観光産業論	2	1	2	2
	BC3-2-D21	流通問題特殊講義(各テーマ)	2	1	2	2
ファイナンス専修	BC3-2-F01	租税論	2	1	2	2
	BC3-2-F02	租税政策論	2	1	2	2
	BC3-2-F03	国際課税論	2	1	2	2
	BC3-2-F04	財政政策	2	1	2	2
	BC3-2-F05	ミクロ金融分析	2	1	2	2
	BC3-2-F06	金融システム論	2	1	2	2
	BC3-2-F07	国際金融論	2	1	2	2
	BC3-2-F08	国際通貨システム論	2	1	2	2
	BC3-2-F09	証券市場論	2	1	2	2
	BC3-2-F10	証券分析論	2	1	2	2
	BC3-2-F11	企業金融論	2	1	2	2
	BC3-2-F12	金融政策論	2	1	2	2
	BC3-2-F13	保険経営論	2	1	2	2
	BC3-2-F14	損害保険論	2	1	2	2
	BC3-2-F15	生命保険論	2	1	2	2
	BC3-2-F16	リスクマネジメント論	2	1	2	2
	BC3-2-F17	実証ファイナンス	2	1	2	2
	BC3-2-F18	ファイナンス論	2	1	2	2
	BC3-2-F19	社会保障論	2	1	2	2
	BC3-2-F20	社会保険論	2	1	2	2
	BC3-2-F21	ファイナンス特殊講義(各テーマ)	2	1	2	2
国際ビジネス専修	BC3-2-G01	現代世界経済論	2	1	2	2
	BC3-2-G02	国際ビジネス・コミュニケーション論	2	1	2	2
	BC3-2-G03	国際貿易制度論	2	1	2	2
	BC3-2-G04	貿易政策論	2	1	2	2
	BC3-2-G05	国際商務論	2	1	2	2
	BC3-2-G06	国際商慣習論	2	1	2	2
	BC3-2-G07	国際取引契約論	2	1	2	2
	BC3-2-G08	国際取引紛争解決論	2	1	2	2
	BC3-2-G09	貿易金融論	2	1	2	2
	BC3-2-G10	国際交通論	2	1	2	2
	BC3-2-G11	国際空運論	2	1	2	2
	BC3-2-G12	国際開発論	2	1	2	2
	BC3-2-G13	国際投資論	2	1	2	2
国際ビジネス専修	BC3-2-G14	EU経済とビジネス	2	1	2	2
	BC3-2-G15	アメリカ経済とビジネス	2	1	2	2
	BC3-2-G16	ラテンアメリカ経済とビジネス	2	1	2	2
	BC3-2-G17	アジア経済とビジネス	2	1	2	2
	BC3-2-G18	ロシア経済とビジネス	2	1	2	2
	BC3-2-G19	新興市場経済論	2	1	2	2
	BC3-2-G20	国際ビジネス特殊講義(各テーマ)	2	1	2	2
マネジメント専修	BC3-2-M01	企業と経営	2	1	2	2
	BC3-2-M02	経営組織論	2	1	2	2
	BC3-2-M03	組織イノベーション論	2	1	2	2
	BC3-2-M04	データサイエンス	2	1	2	2
	BC3-2-M05	デジタル・マーケティング・マネジメント	2	1	2	2
	BC3-2-M06	マーケティング・リサーチ	2	1	2	2
	BC3-2-M07	マーケティング・サイエンス	2	1	2	2
	BC3-2-M08	ヒューマン・リソース・マネジメント	2	1	2	2
	BC3-2-M09	現代の労務管理	2	1	2	2
	BC3-2-M10	生産管理論	2	1	2	2
	BC3-2-M11	イノベーション・マネジメント	2	1	2	2
	BC3-2-M12	データ・マイニング論	2	1	2	2
	BC3-2-M13	経営システム論	2	1	2	2
	BC3-2-M14	サービス・マネジメント	2	1	2	2
	BC3-2-M15	コーポレート・ガバナンス	2	1	2	2
	BC3-2-M16	経営科学	2	1	2	2
	BC3-2-M17	ビッグ・ビジネス	2	1	2	2
	BC3-2-M18	非営利事業論	2	1	2	2
	BC3-2-M19	中小企業論	2	1	2	2
	BC3-2-M20	ベンチャー論	2	1	2	2
	BC3-2-M21	ニュービジネス	2	1	2	2
	BC3-2-M22	ケーススタディ	2	1	2	2
	BC3-2-M23	経営学特殊講義(各テーマ)	2	1	2	2
会計専修	BC3-2-A01	株式会社簿記	2	1	2	2
	BC3-2-A02	会計史	2	1	2	2
	BC3-2-A03	会計制度論	2	1	2	2
	BC3-2-A04	財務諸表論	2	1	2	2
	BC3-2-A05	上級財務諸表論	2	1	2	2
	BC3-2-A06	連結会計論	2	1	2	2
	BC3-2-A07	環境会計論	2	1	2	2
	BC3-2-A08	原価計算論	2	1	2	2
	BC3-2-A09	コスト・マネジメント	2	1	2	2
	BC3-2-A10	管理会計論	2	1	2	2
	BC3-2-A11	付加価値会計論	2	1	2	2
	BC3-2-A12	税務会計概論	2	1	2	2
	BC3-2-A13	税務会計実践	2	1	2	2
	BC3-2-A14	監査論	2	1	2	2
	BC3-2-A15	内部統制論	2	1	2	2
	BC3-2-A16	経営分析論	2	1	2	2
	BC3-2-A17	情報会計論	2	1	2	2
	BC3-2-A18	公会計論	2	1	2	2
	BC3-2-A19	外貨換算会計論	2	1	2	2
	BC3-2-A20	国際会計論	2	1	2	2
	BC3-2-A21	証券市場会計論	2	1	2	2
	BC3-2-A22	実証会計学	2	1	2	2
	BC3-2-A23	会計学特殊講義(各テーマ)	2	1	2	2

※配当年次は、当該年次以上において履修できることを示す。

専門教育科目【第４類】「演習科目」（許可制科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
BC4-2-001	演習	2	1	2	2
BC4-3-001	専門演習	4	2	2	3
BC4-4-001	卒業研究	4	2	2	4
BC4-4-002	研究論文	4	—	—	4

専門教育科目【第５類】「実践科目」（許可制科目）

科目番号		授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
プログラム科目		**会計連携特別プログラム（ALSP）関連科目**				
	BC5-1-A01	上級簿記演習Ⅰ	2	1	2	1
	BC5-2-A01	上級簿記演習Ⅱ	2	1	2	2
	BC5-1-A02	財務諸表論演習Ⅰ	2	1	2	1
	BC5-2-A02	財務諸表論演習Ⅱ	2	1	2	2
	BC5-2-A03	原価計算論演習Ⅰ	2	1	2	2
	BC5-2-A04	原価計算論演習Ⅱ	2	1	2	2
	BC5-2-A05	企業法演習Ⅰ	2	1	2	2
	BC5-2-A06	企業法演習Ⅱ	2	1	2	2
	BC5-2-A07	上級簿記演習Ⅲ	2	1	2	2
	BC5-3-A01	上級簿記演習Ⅳ	2	1	2	3
	BC5-3-A02	監査論演習Ⅰ	2	1	2	3
	BC5-3-A03	監査論演習Ⅱ	2	1	2	3
	BC5-3-A04	企業法演習Ⅲ	2	1	2	3
	BC5-3-A05	企業法演習Ⅳ	2	1	2	3
	BC5-3-A06	原価計算論演習Ⅲ	2	1	2	3
	BC5-3-A07	原価計算論演習Ⅳ	2	1	2	3
		サービス・イノベーション特別プログラム（DSI）				
	BC5-3-S01	データハンドリングの基礎	2	1	2	3
	BC5-3-S02	統計解析演習	2	1	2	3
	BC5-3-S03	産学連携プログラム基礎	2	1	2	3
	BC5-3-S04	産学連携プログラム応用	2	1	2	3
	BC5-3-S05	サービスサイエンス基礎	2	1	2	3
	BC5-3-S06	サービスサイエンス応用	2	1	2	3
認定科目	BC5-1-N01	「認定留学」等の教授会が認めた科目	2	—	—	※科目により異なる

専門教育科目【第６類】「産学連携科目」（選択科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
BC6-2-001	ビジネス研究（各テーマ）	2	1	2	2
BC6-2-002	寄附講座（各テーマ）	2	1	2	2
BC6-1-001	海外現地研修（各テーマ）	2	1	2	1
BC6-1-002	国際ビジネス研修（各テーマ）	2	1	2	1

専門教育科目【第７類】「ビジネスリーダー特別プログラム（BLSP）科目」（許可制科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
	必修科目群				
BC7-3-001	プレゼンテーション	2	1	2	3
BC7-3-002	プロジェクト研究１	2	1	2	3
BC7-3-003	プロジェクト研究２	2	1	2	3
BC7-4-001	プロジェクト研究３	2	1	2	4
BC7-4-002	プロジェクト研究４	2	1	2	4
BC7-4-003	プロジェクト・ペーパー	2	—	—	4
BC7-3-004	英語コミュニケーション１	2	1	2	3
BC7-3-005	英語コミュニケーション２	2	1	2	3
	選択科目群				
BC7-2-001	経営戦略論	2	1	2	2
BC7-2-002	ビジネスモデル論	2	1	2	2
BC7-3-006	サービス・イノベーション	2	1	2	3
BC7-3-007	海外ワークショップ	2	1	2	3
BC7-3-008	アントレプレナーシップ	2	1	2	3
BC7-3-009	ビジネスリサーチ	2	1	2	3

専門教育科目【第８類】「会計連携特別プログラム（ALSP）科目」（許可制科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
BC8-1-001	市場と会計	2	1	2	1
BC8-1-002	会計学演習	2	1	2	1
BC8-3-001	財務会計論演習	2	1	2	3
BC8-3-002	管理会計論演習	2	1	2	3
BC8-3-003	会計監査論演習	2	1	2	3
BC8-2-001	ワークショップⅠ	2	1	2	2
BC8-3-004	ワークショップⅡ	2	1	2	3
BC8-3-005	ワークショップⅢ	2	1	2	3
BC8-4-001	ワークショップⅣ	2	1	2	4
BC8-4-002	ワークショップⅤ	2	1	2	4

専門教育科目　自由科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
BCF-1-001	教職概説	2	1	2	1
BCF-1-002	教育原理	2	1	2	1
BCF-2-001	教育制度論	2	1	2	2
BCF-2-002	教育心理学	2	1	2	2
BCF-3-001	特別支援教育論	1	1	2	3
BCF-3-002	カリキュラム開発論	2	1	2	3
BCF-2-003	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）	2	1	2	2
BCF-2-004	メディア教育論	2	1	2	2
BCF-2-005	社会科教育法㈠	2	1	2	2
BCF-2-006	社会科教育法㈡	2	1	2	2
BCF-3-003	社会科教育法㈢	2	1	2	3
BCF-3-004	社会科教育法㈣	2	1	2	3
BCF-2-007	地理歴史科教育法㈠	2	1	2	2
BCF-2-008	地理歴史科教育法㈡	2	1	2	2
BCF-2-009	公民科教育法㈠	2	1	2	2
BCF-2-010	公民科教育法㈡	2	1	2	2
BCF-2-011	商業科教育法㈠	2	1	2	2
BCF-2-012	商業科教育法㈡	2	1	2	2
BCF-2-013	道徳教育の理論と方法	2	1	2	2
BCF-3-005	総合的な学習の時間の指導法	1	1	2	3
BCF-2-014	特別活動論	2	1	2	2
BCF-2-015	教育相談論	2	1	2	2
BCF-3-006	生徒・進路指導論	2	1	2	3
BCF-4-001	教育実践演習（中等）	2	1	2	4
BCF-2-016	人権教育論	2	1	2	2
BCF-2-017	ジェンダーと教育	2	1	2	2
BCF-2-018	教育と文化の社会学	2	1	2	2
BCF-2-019	職業指導㈠	2	1	2	2
BCF-2-020	職業指導㈡	2	1	2	2
BCF-1-003	日本史概説ａ	2	1	2	1
BCF-1-004	日本史概説ｂ	2	1	2	1
BCF-2-021	日本法制史１	2	1	2	2

※配当年次は、当該年次以上において履修できることを示す。

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
BCF-2-022	日本法制史2	2	1	2	2
BCF-2-023	考古学概説a	2	1	2	2
BCF-2-024	考古学概説b	2	1	2	2
BCF-2-025	東洋史	2	1	2	2
BCF-2-026	西洋史	2	1	2	2
BCF-3-007	東洋法制史1	2	1	2	3
BCF-3-008	東洋法制史2	2	1	2	3
BCF-3-009	西洋法制史1	2	1	2	3
BCF-3-010	西洋法制史2	2	1	2	3
BCF-1-005	東洋史概説a	2	1	2	1
BCF-1-006	東洋史概説b	2	1	2	1
BCF-1-007	西洋史概説a	2	1	2	1
BCF-1-008	西洋史概説b	2	1	2	1
BCF-1-009	地誌学a	2	1	2	1
BCF-1-010	地誌学b	2	1	2	1
BCF-2-027	地理学概説a	2	1	2	2
BCF-2-028	地理学概説b	2	1	2	2
BCF-1-011	人文地理学概説a	2	1	2	1
BCF-1-012	人文地理学概説b	2	1	2	1
BCF-1-013	自然地理学概説a	2	1	2	1
BCF-1-014	自然地理学概説b	2	1	2	1
BCF-2-029	文化人類学Ⅰ	2	1	2	2
BCF-2-030	文化人類学Ⅱ	2	1	2	2
BCF-1-015	法学入門	2	1	2	1
BCF-2-031	政治学原論1	2	1	2	2
BCF-2-032	政治学原論2	2	1	2	2
BCF-2-033	哲学概論a	2	1	2	2
BCF-2-034	哲学概論b	2	1	2	2
BCF-1-016	倫理学概論a	2	1	2	1
BCF-1-017	倫理学概論b	2	1	2	1
BCF-1-018	宗教学概論a	2	1	2	1
BCF-1-019	宗教学概論b	2	1	2	1
BCF-1-020	心理学の諸理論	2	1	2	1
BCF-1-021	図書館情報資源概論	2	1	2	1
BCF-2-035	情報資源組織論	2	1	2	2
BCF-2-036	学校経営と学校図書館	2	1	2	2
BCF-2-037	学習指導と学校図書館	2	1	2	2
BCF-2-038	読書と豊かな人間性	2	1	2	2
BCF-2-039	情報メディアの活用	2	1	2	2
BCF-3-011	教育実習事前指導	1	1	2	3
BCF-3-012	教育実習(一)	2	1	4	3
BCF-4-002	教育実習(二)	2	1	4	4
	[キャリア形成科目群科目]				
BCF-1-022	大学生から始めるキャリア形成	2	1	2	1
BCF-1-023	キャリア形成入門演習	2	1	2	1
BCF-2-040	理論と実践から探求するキャリア形成	2	1	2	2
BCF-2-041	現代社会を生き抜くためのキャリア形成	2	1	2	2
BCF-2-042	キャリア形成実践演習	2	1	2	2
BCF-1-024	インターンシップ(ビジネス)	2	1	4	1
BCF-1-025	インターンシップ(学校1)	2	1	4	1
BCF-1-026	インターンシップ(学校2)	2	1	4	1
BCF-1-027	インターンシップ(学校3)	2	1	4	1

※キャリア形成科目群科目は、他学部では共通教養科目として開講しているが、商学部では修得した場合、専門教育科目自由科目の単位に算入される。

外国人留学生科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
FOS1001	日本語Ⅰ	2	1	4	1
FOS1002	日本語Ⅱ	2	1	4	1
FOS1003	日本語Ⅲ	2	1	4	1
FOS1004	日本語Ⅳ	2	1	4	1
FOS1005	日本事情Ⅰ	2	1	2	1
FOS1006	日本事情Ⅱ	2	1	2	1
FOS2001	実践ビジネス日本語Ⅰ	2	1	2	2
FOS2002	実践ビジネス日本語Ⅱ	2	1	2	2
FOS2003	キャリアデザインⅠ(日本の社会と企業)	2	1	2	2
FOS2004	キャリアデザインⅡ(日本の就職と働き方)	2	1	2	2
FOS3001	キャリアデザインⅢ(日本の社会で働く)	2	1	2	3
FOS1007	Contemporary Japan (Understanding Japan)	2	1	2	1~4
FOS1008	Contemporary Japan (Researching Japan)	2	1	2	1~4
FOS1009	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 1)	2	1	2	1~4
FOS1010	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 2)	2	1	2	1~4
FOS1011	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 1)	2	1	2	1~4
FOS1012	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 2)	2	1	2	1~4
FOS1013	Communication in Japanese Society (Business Japanese)	2	1	2	1~4
FOS1014	Communication in Japanese Society (JPN Corporate Culture)	2	1	2	1~4
FOS1015	Field-Based Learning (Society and Workplace Culture in Japan)	2	1	2	1~4
FOS1016	Japanese (1-a)	2	1	4	1~4
FOS1017	Japanese (1-b)	2	1	4	1~4
FOS1018	Japanese (2-a)	2	1	4	1~4
FOS1019	Japanese (2-b)	2	1	4	1~4
FOS1020	Japanese (3-a)	2	1	4	1~4
FOS1021	Japanese (3-b)	2	1	4	1~4
FOS1022	Japanese (4-a)	2	1	4	1~4
FOS1023	Japanese (4-b)	2	1	4	1~4
FOS1024	Japanese (5-a)	2	1	4	1~4
FOS1025	Japanese (5-b)	2	1	4	1~4
FOS1026	Japanese (6-a)	2	1	4	1~4
FOS1027	Japanese (6-b)	2	1	4	1~4
FOS1028	Japanese (7-a)	2	1	4	1~4
FOS1029	Japanese (7-b)	2	1	4	1~4

※配当年次は、当該年次以上において履修できることを示す。

［科目番号について］

本学では、科目の特性・配当年次を示すため、各科目に科目番号を付与しています。

〈共通教養科目〉

アルファベット３桁で「共通教養科目」と「群」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。また、共通教養科目のうちグローバル科目群の留学準備スキルアップ科目及びグローバル・フロンティア科目は、配当年次に代えて外部テストによる難易度を示しています。

GE　A　1　000
種別　群　配当年次（難易度）　連番

種別　共通教養科目はすべてGE

群

A	関西大学科目群
B	基盤科目群
C	自己形成科目群
D	健康・スポーツ科目群
E	キャリア形成科目群
F	グローバル科目群
G	大学・学部・社会連携科目群

難易度（受講には各レベルの英語運用能力が必要です）

番号	レベル
1	GTECテスト180点未満 TOEFL ITP®Test430点未満 TOEFL iBT®Test40点未満 TOEIC®L&RTest375点未満 英語検定準２級未満
2	GTECテスト180点以上260点未満 TOEFL ITP®Test430点以上505点未満 TOEFL iBT®Test40点以上60点未満 TOEIC®L&RTest375点以上580点未満 英語検定準２級及び２級
3	GTECテスト260点以上 TOEFL ITP®Test505点以上 TOEFL iBT®Test60点以上 TOEIC®L&RTest580点以上 英語検定準１級及び１級

〈外国語科目〉

アルファベット3桁で「外国語科目」と「語種」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

GF（種別）　E（語種）　1（配当年次）　000（連番）

種別　外国語科目はすべてGF

語種

E	英語
G	ドイツ語
F	フランス語
R	ロシア語
S	スペイン語
C	中国語
K	朝鮮語
O	検定認定：Official-Test Accreditation

〈外国人留学生科目〉

アルファベット3桁で「外国人留学生科目」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

FOS（種別）　1（配当年次）　000（連番）

種別　外国人留学生科目はすべてFOS

〈専門教育科目〉

商学部を示すアルファベット2桁（BC）、類を示す1桁、配当年次を示す1桁、専修又は分野等を示す1桁、連番の数字2桁で構成されています。

BC（学部）　2（類）　－　2（配当年次）　－　B（専修・分野等）　01（連番）

社会学部

社会学部社会学科は、社会学専攻、心理学専攻、メディア専攻、社会システムデザイン専攻の４専攻があります。

Ⅰ　教育に関する三つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

社会学部は、教育理念である「伝統と革新の調和」「専門性と学際性の調和」、そして教育目標である「理論研究と実証分析の調和」のもとに、以下の求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を身につけ、所定の課程を修了した者に学位（社会学）を授与します。

1　（知識・技能）

⑴　教養教育を基礎に専門教育を修めることを通して、理論と実際を学び、専門性と総合力をバランスよく身につけ、その学びのなかで得た「考える力」と現実の社会のなかで「生きていく力」を発揮できる。

⑵　各専攻の学問領域における概念や理論を用いて社会の課題を解決するために求められる知識や技能を活用できる。

2　（思考力・判断力・表現力等の能力）

⑴　グローバル社会における多様な価値観やものの見方に柔軟に対応する中で、他者の意見を傾聴し、自らの考えを発信することができる。

⑵　社会的現実への的確な観察と専門的知識にもとづき、「考動力」を基盤として問題を解決し、新たな価値を創出することができる。

3　（主体的な態度）

⑴　周囲の人間や社会情勢を理解及び把握する意義を見いだし、的確に評価することができる。

⑵　社会的伝統の尊重から一歩先に進む創造力、伝統への深い理解と洞察にもとづきながら果敢に新しい社会領域に主体的に挑むことができる。

⑶　個人をこえ、集団や、より大きな社会、世界を視野にふくめてものごとを考えることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

社会学部は、専攻制（社会学専攻、心理学専攻、メディア専攻、及び社会システムデザイン専攻）を基盤に、１年次に「基礎研究」、２年次に「基礎演習」、３年次に「専門演習」、４年次に「卒業研究」という少人数クラスを配置します。これを各専攻の基本的研究主題の理解からはじまり、卒業研究の完成までの学問技法を習得するという学部教育の柱とします。この柱に対し、講義科目や実習科目を有機的に体系化して構成し、専門性にもとづく真の学際性の実現、ならびに理論と実証の調和を達成できるよう教育課程を編成します。

1　教育内容

⑴　教養教育

ア　専門教育と有機的な結合をはかるために必要とされる基礎的知識を習得し、広範な視野と柔軟な思考力を獲得できるように、「基盤科目群」「自己形成科目群」等を配置し、学問的基礎を育成する。

イ　「外国語科目」を配置し、外国語の読解力向上にとどまらず、コミュニケーションや異文化理解に必要となる力を高める。

⑵　専門教育

ア　すべての学年に少人数制の演習科目を必修科目として配置し、学問的な表現とコミュニケーションに必要となる能力を育成し、学生ひとりひとりの独創的かつ革新的な学問研究を促進する。

イ　学生の幅広い興味に対応すべく、それぞれの専攻においてすべての学年を通じて学問的伝統と革新の調和を発展させた多彩な内容の科目を配置し、学生の専門的知識の向上を図る。

ウ　学生の主体的な学習意欲に応じて他専攻の科目の履修も認め、学生の視野の広がりを促す。

エ　実習科目では、調査、実験、及びフィールドワーク等の実践的な学習のために実習科目を配置し、学

生の社会的現実の分析能力の育成と専門的知識との有機的な統合を図る。

2　教育評価

⑴　学期末試験またはそれに準ずる方法を通じて、学位取得に必要な知識・技能等の習得状況を評価する。GPAなどの指標をもとにして、単位の修得状況が不十分な学生に対しては個別面談を行い、学習指導を行う。

⑵　３年次での「専門演習」履修に際して、履修に値する基礎が習得できているかをみるために、単位修得状況を確認する。

⑶　卒業レポートを課した「卒業研究」を必修とすることで、４年間の学習成果を確認する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

社会学部は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた人を求めます。

1　人間と社会に関する現象を科学的に分析し、理論的・実践的に学んでいくために、高等学校の課程での学習等を通じて以下の能力を有している。

⑴　国語や外国語の学習により、的確な読解力と自らの考えを表現する能力を有している。

⑵　地理歴史及び公民の学習を通じて、わが国を含む世界各国・各地域の歴史的発展過程や生活・文化の地域的特色、並びに現代の社会における政治・経済の仕組みを理解している。

⑶　数学や理科などの学習によって、論理的思考に十分親しむとともに、日進月歩する科学技術に関する基本的知識を身につけている。

2　人間と社会に関する問題に目を向け、その解決に挑み、新たな価値を創出することで社会への貢献を志している。

3　人間と社会に対する知的好奇心とともに、社会現象に対する多様な評価や視点を許容する柔軟性を持って主体的に学んでいく意欲を持っている。

Ⅱ　教育課程について

授業科目の構成

社会学部の授業科目は、共通教養科目、外国語科目及び専門教育科目に大別されます。

1　共通教養科目は、関西大学科目群、基盤科目群、自己形成科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群、グローバル科目群、大学・学部・社会連携科目群の７つの科目群により構成されます。

2　外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語の各々Ⅰａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂ、Ⅲａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂ、Ⅴａ、Ⅴｂ、Ⅵａ、Ⅵｂ及び検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）、検定認定３（各検定試験）があります。

3　専門教育科目は、必修科目、選択科目及び自由科目に分かれます。
上記のほか、外国人留学生のために外国人留学生科目があります。
授業科目の詳細は、「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。

Ⅲ　卒業所要単位について

卒業所要単位の内訳

社会学部に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、下記卒業所要単位を修得した者に卒業を認め、卒業者には学士（社会学）の学位が与えられます。

卒業所要単位については、下記１、２の要件を満たして116単位を修得したうえで、さらに共通教養科目、外国語科目及び専門教育科目のうちから合計８単位以上を修得し、あわせて124単位以上を修得しなければなりません。

１　共通教養科目及び外国語科目については、下記⑴、⑵の要件を満たしたうえで、32単位以上を修得しなければなりません。

⑴　共通教養科目（16単位以上）

自己形成科目群の三つの領域（人間を知る、社会を知る、自然と向き合う）からそれぞれ２単位以上を含めて、共通教養科目全体で16単位以上を修得しなければなりません。

なお、キャリア形成科目群のうち、「インターンシップ(ビジネス)」、「インターンシップ(学校１・２・３)」及び大学・学部・社会連携科目群〔学部連携科目〕の「学部オープン科目」については、卒業所要単位に含めることはできません。

また、グローバル科目群の「海外研修（各セミナー)」を修得した場合は、２セミナー４単位まで卒業所要単位に含めることができます。

⑵　外国語科目（12単位以上）

英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び朝鮮語のうち、英語を含む２カ国語を選択し、下記の要領で第１選択外国語及び第２選択外国語として、合計12単位以上を修得しなければなりません。

第１選択外国語は選択した外国語のⅠa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbを含めて８単位以上を修得しなければなりません。

第２選択外国語は選択した外国語の「Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb」、「Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb」又は「Ⅴa・Ⅴb、Ⅵa・Ⅵb」のいずれかの組み合わせで計４単位以上を修得しなければなりません。

また、第１選択外国語（８単位）と第２選択外国語（４単位）を合計した12単位を超えて修得した外国語科目の単位（第３選択外国語を修得した場合も含む）は、共通教養科目及び外国語科目の卒業所要単位(32単位）に含めることができます。

⑶　英語の単位の取り扱いについて

①英語はⅠa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbの８単位（第２選択外国語とする場合は、「Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb」、「Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb」「Ⅴa・Ⅴb、Ⅵa・Ⅵb」のいずれかの組合せによる４単位）を修得しなければなりません。

②上記①の単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbとして単位の認定を行うことができます。詳細は277ページの「外国語検定試験の単位認定について」（後掲）のとおりです。

③英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbの８単位（第２選択外国語とする場合は、「Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb」、「Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb」「Ⅴa・Ⅴb、Ⅵa・Ⅵb」のいずれかの組合せによる４単位）を修得したうえで、さらに検定認定１（各検定試験)、検定認定２（各検定試験)、検定認定３（各検定試験）を修得した場合は、合計６単位まで共通教養科目及び外国語科目の卒業所要単位（32単位）に含めることができます。

⑷　英語以外の単位の取り扱いについて

検定認定１（各検定試験)、検定認定２（各検定試験）を修得した場合は、各４単位まで当該選択外国語の卒業所要単位に含めることができます。

2　専門教育科目については、次の表に従って、各専攻が定める84単位以上を修得しなければなりません。ただし、自由科目については、修得しても卒業所要単位に含めることができません。

科目の詳細については『授業科目一覧表』の「各専攻専門教育科目」（後掲）を参照してください。

（専門教育科目の卒業所要単位）

専攻＼区分	必修科目			選択科目	合計
社会学	1年次配当	基礎研究Ⅰ	2単位	所属専攻の選択科目を42単位以上修得した上で60単位以上修得すること	84単位以上
		基礎研究Ⅱ	2単位		
		社会学総論Ⅰ	2単位		
		社会学総論Ⅱ	2単位		
		基礎社会学Ⅰ	2単位		
		基礎社会学Ⅱ	2単位		
		社会調査入門	2単位		
	2年次配当	基礎演習	2単位		
	3年次配当	専門演習Ⅰ	2単位		
		専門演習Ⅱ	2単位		
	4年次配当	卒業研究Ⅰ	2単位		
		卒業研究Ⅱ	2単位		
		合計	24単位		
心理学	1年次配当	基礎研究Ⅰ	2単位	所属専攻の選択科目を42単位以上修得した上で56単位以上修得すること	84単位以上
		基礎研究Ⅱ	2単位		
		心理学総合研究Ⅰ	2単位		
		心理学総合研究Ⅱ	2単位		
		入門心理学Ⅰ	2単位		
		入門心理学Ⅱ	2単位		
	2年次配当	基礎演習Ⅰ	2単位		
		基礎演習Ⅱ	2単位		
		初級心理学実験実習	2単位		
		中級心理学実験実習	2単位		
	3年次配当	専門演習Ⅰ	2単位		
		専門演習Ⅱ	2単位		
	4年次配当	卒業研究Ⅰ	2単位		
		卒業研究Ⅱ	2単位		
		合計	28単位		
メディア	1年次配当	基礎研究Ⅰ	2単位	所属専攻の選択科目を42単位以上修得した上で66単位以上修得すること	84単位以上
		基礎研究Ⅱ	2単位		
		メディア総論	2単位		
	2年次配当	基礎演習	2単位		
		文章演習	2単位		
	3年次配当	専門演習Ⅰ	2単位		
		専門演習Ⅱ	2単位		
	4年次配当	卒業研究Ⅰ	2単位		
		卒業研究Ⅱ	2単位		
		合計	18単位		
社会システムデザイン	1年次配当	基礎研究Ⅰ	2単位	所属専攻の選択科目を42単位以上修得した上で66単位以上修得すること	84単位以上
		基礎研究Ⅱ	2単位		
		社会システムデザイン総論Ⅰ	2単位		
		社会システムデザイン総論Ⅱ	2単位		
	2年次配当	基礎演習	2単位		
	3年次配当	専門演習Ⅰ	2単位		
		専門演習Ⅱ	2単位		
	4年次配当	卒業研究Ⅰ	2単位		
		卒業研究Ⅱ	2単位		
		合計	18単位		

卒業所要単位一覧

卒業に必要な単位数（卒業所要単位）一覧

<table>
<tr><th rowspan="3">種別
専攻</th><th colspan="10">共通教養科目</th><th colspan="3">外国語科目</th><th colspan="3">専門教育科目</th></tr>
<tr><th colspan="3">自己形成科目群</th><th rowspan="2">関西大学科目群</th><th rowspan="2">基盤科目群</th><th rowspan="2">健康・スポーツ科目群</th><th rowspan="2">キャリア形成科目群</th><th rowspan="2">グローバル科目群</th><th rowspan="2">大学・学部・社会連携科目群</th><th rowspan="2">第１選択</th><th rowspan="2">第２選択</th><th rowspan="2">第３選択</th><th rowspan="2">必修科目</th><th colspan="2">選択科目</th></tr>
<tr><th>人間を知る</th><th>社会を知る</th><th>自然と向き合う</th><th>自専攻</th><th>他専攻</th></tr>
<tr><td rowspan="4">社会学</td><td>２単位以上</td><td>２単位以上</td><td>２単位以上</td><td colspan="7">任意選択</td><td>８単位以上</td><td>４単位以上</td><td>任意選択</td><td rowspan="2">24単位</td><td>42単位以上</td><td>任意選択</td></tr>
<tr><td colspan="10">16単位以上</td><td colspan="3">12単位以上</td><td>60単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="13">32単位以上</td><td colspan="2">84単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="15">124単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">心理学</td><td>２単位以上</td><td>２単位以上</td><td>２単位以上</td><td colspan="7">任意選択</td><td>８単位以上</td><td>４単位以上</td><td>任意選択</td><td rowspan="2">28単位</td><td>42単位以上</td><td>任意選択</td></tr>
<tr><td colspan="10">16単位以上</td><td colspan="3">12単位以上</td><td>56単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="13">32単位以上</td><td colspan="2">84単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="15">124単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">メディア</td><td>２単位以上</td><td>２単位以上</td><td>２単位以上</td><td colspan="7">任意選択</td><td>８単位以上</td><td>４単位以上</td><td>任意選択</td><td rowspan="2">18単位</td><td>42単位以上</td><td>任意選択</td></tr>
<tr><td colspan="10">16単位以上</td><td colspan="3">12単位以上</td><td>66単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="13">32単位以上</td><td colspan="2">84単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="15">124単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">社会システムデザイン</td><td>２単位以上</td><td>２単位以上</td><td>２単位以上</td><td colspan="7">任意選択</td><td>８単位以上</td><td>４単位以上</td><td>任意選択</td><td rowspan="2">18単位</td><td>42単位以上</td><td>任意選択</td></tr>
<tr><td colspan="10">16単位以上</td><td colspan="3">12単位以上</td><td>66単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="13">32単位以上</td><td colspan="2">84単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="15">124単位以上</td></tr>
</table>

外国人留学生

外国人留学生における卒業所要単位については、下記１、２の要件を満たしたうえで、さらに共通教養科目、外国語科目及び専門教育科目から８単位以上を修得し、あわせて124単位以上を修得しなければなりません。

１　共通教養科目及び外国語科目については、下記⑴、⑵及び⑶の要件を満たしたうえで、32単位以上を修得しなければなりません。

⑴　共通教養科目（16単位以上）

共通教養科目の単位については、129ページ「卒業所要単位の内訳について１⑴」の取扱いに準じます。なお、外国人留学生科目の日本事情Ⅰ、Ⅱを修得した場合は、共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑵　日本語（８単位）

日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの計８単位を修得しなければなりません。

⑶　外国語科目（４単位以上）

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び朝鮮語のうちから１カ国語（日常使用語を除く）を選択し、選択した外国語の「Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb」、「Ⅲa・Ⅲb・Ⅳa・Ⅳb」又は「Va・Vb・Ⅵa・Ⅵb」のいずれかの組み合わせで計４単位以上を修得しなければなりません。

また、上記で選択した語種のほかに他の語種（日常使用語を除く）の外国語科目を修得した場合は、共通教養科目及び外国語科目の卒業所要単位（32単位）に含めることができます。

ただし、英語及び英語以外の単位の取り扱いについては、前述「129ページ「卒業所要単位の内訳についての１⑶～⑷」の通りとします。

２　専門教育科目については、前掲２の「専門教育科目の卒業所要単位一覧」に従って、各専攻が定める84単位以上を修得しなければなりません。ただし、自由科目および外国人留学生科目（日本語、日本事情を除く）については、修得しても卒業所要単位に含めることができません。

科目の詳細については後掲の『授業科目一覧表』の「各専攻専門教育科目」を参照してください。

編・転入学、転コース学生

編・転入学した者が、編・転入学以前に修得した科目については、一定の基準において単位の読み替えをおこないます。

編・転入学及び転専攻した者で、学部規定の単位に満たない場合、学部長が指示する不足単位を修得しなければなりません。この場合、履修制限単位数を超えて履修を認める場合があります。

Ⅳ　履修・修得について特に注意すべき事項

履修制限単位

履修制限単位は、次のとおりです。

年次	履修制限単位
1・2年次	各学期とも23単位以内、年間44単位以内
3・4年次	各学期とも22単位以内、年間44単位以内

通年科目を履修した場合は、当該科目の単位数の2分の1の単位数を、春学期と秋学期のそれぞれの履修単位に算入するものとします。

なお、次の科目は履修制限単位に含めません。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校1・2・3）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C
外国語検定認定1・2・3	

科目履修の配当年次

履修科目は、当該年次及び下位年次の配当科目のうちから選択しなければなりません。ただし、特に許可された場合についてはこの限りではありません。

共通教養科目の履修

共通教養科目の履修については、次の点に注意してください。

1　共通教養科目の概要については、「共通教養科目について」（後掲）を参照してください。ただし、社会学部で履修・修得できる授業科目は「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。卒業所要単位に含めない科目もありますので、「授業科目一覧表」で確認してください。

2　同一年度の春学期及び秋学期に同じ授業科目を二度履修することはできません。

3　定員制等のため事前登録が必要な科目、履修者数が一定以上に達した場合に事後抽選を行う科目があります。詳細はインフォメーションシステムで確認してください。

4　大学・学部・社会連携科目群〔学部連携科目〕のうち、「学部オープン科目」を履修する場合は、自由科目及び配当外科目の履修制限単位（春学期16単位・秋学期16単位）に含みます。

5　次の科目は履修制限単位に含めません。それぞれ該当のプログラムに応募のうえ参加許可を受けることをもって、履修登録に代えます。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校1・2・3）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C

6　健康・スポーツ科目群の「生涯スポーツ・身体運動文化コース」の科目は、スポーツ・フロンティア入学試験による入学生のみ履修を認めます。

外国語科目の履修

外国語の履修については、次の点に注意してください。

1　卒業所要単位に含める外国語科目は、当該科目を履修する初年度において、原則としてⅠａとⅠｂ、Ⅱａ とⅡｂ、ⅢａとⅢｂ、ⅣａとⅣｂ、ⅤａとⅤｂ、ⅥａとⅥｂのそれぞれをセットで履修しなければなりません。ただし、英語Ⅴａ・ｂ（各テーマ)、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、各テーマを複数科目履修することができ、かつ、ａ・ｂセット履修の必要はありません。

2　１年次においては、第１及び第２選択外国語のⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂのみ履修することができます。

ただし、第２選択外国語については、特に希望のあるときは、上位年次配当科目（Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ又はⅤａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ）を履修することができます。履修を希望する者は、所定の申込手続を行い、許可を得なければなりません。

3　第３選択外国語の履修を希望する者は、所定の期間に申込手続を行い、許可を得なければなりません。手続き等の詳細はインフォメーションシステム等でお知らせします。

なお、第３選択外国語の履修は２年次以上となります。

4　英語Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳbの履修に際しては、原則として事前にプレースメントテストを受験しなければなりません。

なお、受験に関する詳細については、インフォメーションシステム等により指示します。

5　原則として英語以外の外国語のⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂは、当該外国語のⅠｂ、Ⅱｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

また、英語以外の外国語のⅤａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂは、当該外国語のⅢｂ、Ⅳｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

なお、外国人留学生に配当の英語以外の外国語科目についても同様です。

6　３年次配当の英語Ⅴａ・英語Ⅴｂ（各テーマ)、英語Ⅵａ・英語Ⅵｂ（各テーマ）については、一定の条件を付して下位年次生の履修を認めています。履修希望者は所定の受付期間中に必要な手続きを行ってください。

外国語科目の選択パターンの変更

１年次の所定の期間に手続きを行えば、入学時に届け出た外国語科目の第１選択外国語と第２選択外国語を入れ替えることができます(語種の変更はできません)。なお、日程等手続きの詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

外国語検定試験の単位認定

本学が指定する外国語検定試験で所定のスコアを取得した者、又はその試験に合格した者は、単位認定の申請を行うことができます。詳細は277ページの「外国語検定試験の単位認定について」（後掲）のとおりです。なお、申請手続きの詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

専門教育科目の履修

専門教育科目の履修に際しては、『授業科目一覧表』の「各専攻専門教育科目」（後掲）を参照のうえ、履修してください。また、原則として同一年度内に同一科目を履修することはできません。なお、履修の詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

各専攻のプログラムについて

各専攻で用意されているプログラムには、1 事前申請（履修登録前にプログラムに応募し、プログラムの受講許可を得る必要があるもの）と、2 事後申請（あらかじめプログラム修了に必要科目を修得し、所定の時期に修了認定を申請するもの）があります。プログラム修了要件等の詳細は、各専攻の専門教育科目についての説明（142ページ～150ページ）を参照してください。

1　事前申請

メディア専攻

ジャーナリズム専門プログラム（JP）、広告専門プログラム、音楽メディア研究プログラム

2　事後申請

⑴ 社会学専攻

社会調査実践学習プログラム、社会福祉実践学習プログラム

⑵ 心理学専攻

心理テスト実践学習プログラム、心理学データ解析実践学習プログラム、産業心理カウンセリングプログラム、キャリア教育実践学習プログラム

⑶ 社会システムデザイン専攻

経済アナリストプログラム、マネジメント基礎プログラム、社会ネットワークデザインプログラム

上位年次に留学する場合のゼミ履修に関する注意事項

専門演習Ⅰ・Ⅱ及び卒業研究Ⅰ・Ⅱの履修期間に、1年（2学期）の認定留学に行く場合、又は、4年次秋学期に認定留学に行く場合は在学4年間での卒業はできません。ただし、認定留学が4年次秋学期を除く半年（1学期）の場合は上記科目担任者との相談の上で、在学4年間で卒業できる場合があります。交換派遣留学の場合も、原則として認定留学と同様の取扱いとなりますが、留学先で修得した科目がゼミ科目として単位認定された場合には、4年間で卒業できる場合があります。留学を検討する場合は、事前に担任者及び教務センターに必ず相談してください。

自由科目及び配当外科目等の履修

自由科目及び各種資格取得に必要な配当外科目の履修については、次の点に注意してください。

1　自由科目及び各種資格取得に必要な配当外科目を履修する場合、履修制限単位には含めないものとし、春学期16単位、秋学期16単位まで履修することができます。

なお、通年科目を履修した場合は、当該科目の単位数の2分の1の単位数を春学期と秋学期それぞれの履修単位に算入するものとします。

また、共通教養科目の大学・学部・社会連携科目群の〔学部連携科目〕の学部オープン科目を履修する場合もこの16単位に含みます。

2　教育実習事前指導、教育実習㈠、教育実習㈡については、自由科目及び配当外科目等の履修制限単位に含めません。

3　配当外科目の履修は、資格取得などの必要がある場合に限り、審査の上履修を許可します。ただし当該科目の配当年次又はそれ以上の年次でなければ履修することができません。

4　自由科目及び配当外科目は、修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

関西大学大学院社会学研究科前期課程の授業科目の履修について

関西大学大学院社会学研究科（社会学専攻、社会システムデザイン専攻及びマス・コミュニケーション学専攻）への進学を希望する社会学部4年次生が所定の基準を満たした場合、次のとおり大学院科目の履修を許可します。

履修許可科目、履修許可基準及び履修申込手続き等の詳細は、インフォメーションシステム等でお知らせします。

1　所定の大学院授業科目を年間12単位まで履修することができます。

2　履修が許可された科目を修得した場合は、配当外科目として単位認定されます。

3　履修単位については、自由科目及び各種資格取得に必要な配当外科目の履修制限単位（春学期16単位、秋学期16単位）に含まれます。

4　履修を許可された者が社会学研究科博士課程前期課程(社会学専攻､社会システムデザイン専攻及びマス・コミュニケーション学専攻）に進学した場合、学部４年次生の時に修得した大学院科目のうち10単位を限度に単位を認定します。

　また、大学院科目を修得した者で、特に優秀な成績を修めた者が社会学研究科博士課程前期課程（社会学専攻、社会システムデザイン専攻及びマス・コミュニケーション学専攻）に進学した場合は、「演習」及び「論文指導」の並行履修を認め、博士課程前期課程を１年で修了することが可能となります。

授業科目一覧表

1　共通教養科目

《関西大学科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	関西大学を知る				
GEA1001	日本の近現代史と関西大学―知の群像	1	2	1	2
GEA1002	吹田市と関西大学	1	2	1	2
GEA1003	学生生活とリスク	1	2	1	2
	戦略トピックス				
GEA1004	SDGs入門	1	2	1	2
GEA1005	SDGsの実践	1	2	1	2
GEA1006	金融の実務から見るSDGs	1	2	1	2
GEA1007	環境問題と環境政策のルーツ	1	2	1	2
GEA1008	活用法を見聞するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1009	活用法を体験するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1010	起業に学ぶ「考動力」入門（関大出身起業家と考える未来の自分）	1	2	1	2
GEA1011	起業に学ぶ「考動力」実践（企業と考える未来のデザイン）	1	2	1	2
GEA2001	社会のためのデータサイエンス実践基礎	2	2	1	2
GEA2002	AI・データエンジニアリング実践基礎	2	2	1	2

《基盤科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEB1001	スタディスキルゼミ（各テーマ）	1	2	1	2
GEB1002	プロジェクト学習１	1	2	1	2
GEB2001	プロジェクト学習２	2	2	1	2

《自己形成科目群》

領域：人間を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1001	こころとからだを哲学する
	GEC1002	文化・社会と心理学
	GEC1003	身体運動の人間学
	GEC1004	ことばと思考
	GEC1005	地図の知恵、地図の思想
	GEC1006	自己と他者
	GEC1007	自己をみつめる
	GEC1008	日本人の宗教観
	GEC1009	美術からみる表現と理解
	GEC1010	入門・新しい部落問題
	GEC1011	現代社会とジェンダー
	GEC1012	現代社会とセクシュアリティ
	GEC1013	生と死の倫理学
	GEC1014	食を知る
	GEC1015	食のリスクマネジメント
	GEC1016	宗教と現代
	GEC1017	新しい人権論への招待
教養を深める（知の見取り図）	GEC1018	哲学を学ぶ
	GEC1019	論理学を学ぶ
	GEC1020	心理学を学ぶ
	GEC1021	宗教学を学ぶ
	GEC1022	イスラーム世界の歴史を学ぶ
	GEC1023	考古学を学ぶ
	GEC1024	日本語を学ぶ
	GEC1025	日本文学を学ぶ
	GEC1026	人文地理学を学ぶ
	GEC1027	地域社会の生活と資源
	GEC1028	芸術学を学ぶ
	GEC1029	人類学入門
教養を深める（知の探求）	GEC1030	日本の古典文学を読む
	GEC1031	日本の近代文学を読む
	GEC1032	わかる諸子百家
	GEC1033	日本の文化と人間を考える
	GEC1034	子供から大人への過程を考える
	GEC1035	社会と個人の心理学
	GEC1036	世界の文学を味わう
	GEC1037	西洋美術を味わう
	GEC1038	日本・東洋美術を味わう
	GEC1039	文化史に親しもう
	GEC1040	アジアの文化と世界遺産
	GEC1041	大学教育論～大学の主人公はきみたちだ！～
チャレンジ科目	GEC1042	各テーマ

【配当年次：１・２・３・４　　単位：２
授業期間：１　　毎週授業時間：２】

領域：社会を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1043	今日の道徳的ディレンマ
	GEC1044	世界の宗教
	GEC1045	環境の倫理学
	GEC1046	企業と社会
	GEC1047	技術と社会
	GEC1048	生活の中の経済学
	GEC1049	メディア・リテラシー入門
	GEC1050	イスラム社会を考える
	GEC1051	日本の伝統文化
	GEC1052	方言学入門
	GEC1053	共生社会のライフデザイン
	GEC1054	日本の社会と生活の歴史
	GEC1055	優良企業の見分け方
	GEC1056	社会学で学ぶ現代社会
	GEC1057	政治学と21世紀社会
	GEC1058	法実務入門
	GEC1059	地域再発見の旅
	GEC1060	旅から始める知の冒険
	GEC1061	移動する人々
	GEC1062	オリンピックの共生思想
	GEC1063	外来文化と日本の歴史
	GEC1064	アジアの中の日本歴史
	GEC1065	世界の中の日本経済
	GEC1066	日本史の中の平和と戦争
	GEC1067	世界史の中の平和と戦争
	GEC1068	読書への誘い
教養を深める（知の見取り図）	GEC1069	倫理学を学ぶ
	GEC1070	法学を学ぶ
	GEC1071	政治学のすすめ
	GEC1072	民俗学を学ぶ
	GEC1073	基礎からのマクロ経済学
	GEC1074	基礎からのミクロ経済学
	GEC1075	社会学入門
	GEC1076	日本国憲法
	GEC1077	基礎からの情報処理
	GEC1078	ビジネスを学ぶ
	GEC1079	日本の歴史を学ぶ
	GEC1080	アジア史を学ぶ
	GEC1081	西洋の歴史を学ぶ
	GEC1082	社会思想史を学ぶ
教養を深める（知の探求）	GEC1083	名作を読む
	GEC1084	哲学の古典を読み解く
	GEC1085	聖典と宗教思想
	GEC1086	近代市民社会思想を知ろう
	GEC1087	労働と雇用を考える
	GEC1088	日本の地域史を考える
	GEC1089	世界の地域文化を知ろう
	GEC1090	少子高齢化社会を考える
	GEC1091	法の社会学
	GEC1092	日本史の中の女性と社会を知ろう
	GEC1093	日本社会の成熟と変動を知ろう
	GEC1094	強い会社のマネジメントを知る
	GEC1095	西洋世界の社会と歴史を考える
	GEC1096	欧米世界の歴史と文化を知ろう
	GEC1097	中国と日本の文化交流
	GEC1098	異文化への理解を深める
	GEC1099	現代都市の生態とエスニシティ
	GEC1100	社会的養育を考える
チャレンジ科目	GEC1101	各テーマ

領域：自然と向き合う

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1102	身の回りの化学
	GEC1103	確率・統計でものを考える
	GEC1104	自然災害の科学
	GEC1105	科学と文化
	GEC1106	生物と環境
	GEC1107	人類紀の環境変動
	GEC1108	建築と景観
	GEC1109	エネルギーと環境
	GEC1110	科学と技術
	GEC1111	現代科学の展開
	GEC1112	統計学を学ぶ
教養を深める（知の見取り図）	GEC1113	自然地理学を学ぶ
	GEC1114	自然科学史を学ぶ
	GEC1115	バイオサイエンス入門
	GEC1116	数学を学ぶ（各テーマ）
	GEC1117	物理を学ぶ（各テーマ）
教養を深める（知の探求）	GEC1118	仕組みを形にする科学技術
	GEC1119	現代社会を支える電気電子情報技術
	GEC1120	宇宙のすがたと歴史
	GEC1121	近代科学の系譜
	GEC1122	気象と気候を学ぶ
	GEC1123	地震と火山のメカニズムと防災
チャレンジ科目	GEC1124	各テーマ

【配当年次：1・2・3・4　　単位：2　　授業期間：1　　毎週授業時間：2】

《健康・スポーツ科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GED1001	健康・スポーツ科学実習a(各種目)	1	1	1	2
GED1002	健康・スポーツ科学実習b(各種目)	1	1	1	2
GED1003	健康・スポーツ科学実習c(各種目)	1	1	1	2
GED1004	健康・スポーツ科学論	1	2	1	2
	(生涯スポーツ・身体運動文化コース)				
GED1005	関西大学スポーツ文化論	1	2	1	2
GED1006	スポーツ運動学概論	1	2	1	2
GED1007	スポーツ社会学概論	1	2	1	2
GED1008	スポーツ心理学概論	1	2	1	2
GED1009	スポーツ栄養学概論	1	2	1	2
GED1010	コーチングの科学	1	2	1	2
GED1011	トレーニング科学概論	1	2	1	2
GED1012	コンディショニング科学概論	1	2	1	2

《キャリア形成科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEE1001	大学生から始めるキャリア形成	1	2	1	2
GEE1002	キャリア形成入門演習	1	2	1	2
GEE2001	理論と実践から探求するキャリア形成	2	2	1	2
GEE2002	現代社会を生き抜くためのキャリア形成	2	2	1	2
GEE2003	キャリア形成実践演習	2	2	1	2
GEE1003	インターンシップ(ビジネス)	1~3	2	1	4
GEE1004	インターンシップ（学校１）	1~4	2	1	4
GEE1005	インターンシップ（学校２）	1~4	2	1	4
GEE1006	インターンシップ（学校３）	1~4	2	1	4

《グローバル科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学準備スキルアップ科目】				
GEF2001	Foundation for Academic English	1~4	2	1	2
GEF1001	Academic Writing Practice	1~4	2	1	2
GEF2002	Academic Discussions & Debates	1~4	2	1	2
GEF2003	Presentation Skills	1~4	2	1	2
GEF2004	留学のための英語スキルアップ	1~4	2	1	2
GEF2005	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2006	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2007	ASEAN Studies	1~4	2	1	2
GEF1002	Understanding Cross-Cultural Communication	1~4	2	1	2
GEF1003	KUGF Independent Study (English Skills Development)	1~4	2	1	2
GEF2008	KUGF Independent Study (Doing a Research in English)	1~4	2	1	2
GEF2009	Global Awareness Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2010	Global Awareness Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2011	English Communication Skills for Business Contexts	1~4	2	1	2
	【グローバル・フロンティア科目】				
	Module 1 . Engineering Approach to Urban Issues				
GEF3001	Disaster Transport Planning	1~4	2	1	2
	Module 2. Food Science & Biotechnology				
GEF3002	Biotechnology and Bioethics	1~4	2	1	2
GEF3003	Marketing of Food, Alcohol and Cosmetics	1~4	2	1	2
GEF3004	Science of Washoku (Japanese Cuisine)	1~4	2	1	2
GEF3005	Food Safety	1~4	2	1	2
GEF3006	Polysaccharide Science	1~4	2	1	2
	Module 3 .International Business & Entrepreneurship				
GEF3007	International Business for Entrepreneurs	1~4	2	1	2
GEF3008	Japanese Industries and Companies (The Global Competition)	1~4	2	1	2
GEF3009	Business & Japanese People	1~4	2	1	2
GEF3010	Marketing in Japan	1~4	2	1	2
GEF3011	Business for SDGs (Sustainable Development Goals)	1~4	2	1	2
	Module 4 . Japan Studies				
GEF3012	Japanese Philosophy and Thoughts	1~4	2	1	2
GEF3013	Japanese Religion	1~4	2	1	2
GEF3014	Japanese Arts	1~4	2	1	2
GEF3015	Japanese History (The History and Culture of Medieval Japan)	1~4	2	1	2
GEF3016	Japanese History (Bushido: The Way of the Warrior)	1~4	2	1	2
GEF3017	Japanese Literature (Survey of Post-1945)	1~4	2	1	2
GEF3018	Japanese Literature (Intro. to Classical JPN Literature)	1~4	2	1	2
GEF3019	Japanese Culture (Modern Culture and Post-war History)	1~4	2	1	2
GEF3020	Japanese Culture (JPN Culture and Contemporary Literature)	1~4	2	1	2
GEF3021	Comparative Asian Cultures Studies	1~4	2	1	2
GEF3022	Japanese Law and Politics	1~4	2	1	2
GEF3023	Japanese Economy (Topics in Japanese Economy and Discussion)	1~4	2	1	2
GEF3024	Japanese Society	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEF3025	Japanese Popular Culture (Postwar Japanese Culture)	1~4	2	1	2
GEF3026	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. to Kendo)	1~4	2	1	2
GEF3027	Seminar in Japanology (The Japanese Language and Society)	1~4	2	1	2
GEF3028	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. To Naginata)	1~4	2	1	2
GEF3029	Seminar in Japanology (War and Conflict through JPN Film)	1~4	2	1	2
	Module 5 . Language Teaching & Communication				
GEF3030	Second Language Acquisition	3	2	1	2
GEF3031	Individual Differences in Language Learning	3	2	1	2
GEF3032	Ed. Tech. & Materials Development in FLT	3	2	1	2
GEF3033	Early Foreign Language Education	3	2	1	2
GEF3034	Structure of Language (discourse and meaning)	3	2	1	2
GEF3035	Linguistic Analysis (English)	3	2	1	2
GEF3036	International Business Communication	3	2	1	2
	Module 6 . Studies on Foreign Affairs				
GEF3037	International Development	1~4	2	1	2
GEF3038	Area Studies (Europe I)	1~4	2	1	2
GEF3039	Area Studies (Europe II)	1~4	2	1	2
GEF3040	Area Studies (India)	1~4	2	1	2
GEF3041	Japan in International Affairs	1~4	2	1	2
	Module 7 . Fundamentals for Social Science Studies				
GEF3042	Critical Thinking for Social and Global Issues	1~4	2	1	2
GEF3043	Research Methods for Social Science	1~4	2	1	2
GEF3044	Global Sociology	1~4	2	1	2
GEF3045	Japanese Computerization and Society	1~4	2	1	2
GEF3046	Methods of Comparative Analysis (ENG and JPN Communication)	1~4	2	1	2
GEF3047	Contemporary Gender Studies	1~4	2	1	2
	Module 8 . Applied Science and Engineering				
GEF3048	Japanese Science and Technology	1~4	2	1	2
GEF3049	Environmental Biology	1~4	2	1	2
GEF3050	Information and Communication Technologies	1~4	2	1	2
GEF3051	Introduction to Applied Science	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学実践科目】				
GEF1004	KUGF Field Study（各プログラム）	1~4	2	1	4
GEF1005	海外研修（各セミナー）	1~4	1~2	1	4
GEF1006	外国語運用実習(各セミナー)	1~4	1	1	2

《大学・学部・社会連携科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【大学連携科目】				
	〔大学コンソーシアム大阪プログラム〕				
GEG1001	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【学部連携科目】				
	〔学部オープン科目〕				
GEG1002	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【社会連携科目】				
	(講義科目)				
GEG1003	国際協力の基礎を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1004	国際協力ボランティアの理論を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1005	国際協力レディネス	1~4	2	1	2
GEG1006	国際協力フォローアップ	1~4	2	1	2
	(実習科目)				
GEG1007	国際協力ボランティア実習A	1~4	4	1	8
GEG1008	国際協力ボランティア実習B	1~4	2	1	4
GEG1009	国際協力ボランティア実習C	1~4	1	1	2
GEG3001	サービスラーニング(各テーマ)	3	2	1	2

※共通教養科目の開講科目等詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

外国語科目
〔全専攻共通〕

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GFE1001	英語Ⅰa	1	1	2	1
GFE1002	英語Ⅰb	1	1	2	
GFE1003	英語Ⅱa	1	1	2	
GFE1004	英語Ⅱb	1	1	2	
GFG1001	ドイツ語Ⅰa	1	1	2	
GFG1002	ドイツ語Ⅰb	1	1	2	
GFG1003	ドイツ語Ⅱa	1	1	2	
GFG1004	ドイツ語Ⅱb	1	1	2	
GFF1001	フランス語Ⅰa	1	1	2	
GFF1002	フランス語Ⅰb	1	1	2	
GFF1003	フランス語Ⅱa	1	1	2	
GFF1004	フランス語Ⅱb	1	1	2	
GFR1001	ロシア語Ⅰa	1	1	2	
GFR1002	ロシア語Ⅰb	1	1	2	
GFR1003	ロシア語Ⅱa	1	1	2	
GFR1004	ロシア語Ⅱb	1	1	2	
GFS1001	スペイン語Ⅰa	1	1	2	
GFS1002	スペイン語Ⅰb	1	1	2	
GFS1003	スペイン語Ⅱa	1	1	2	
GFS1004	スペイン語Ⅱb	1	1	2	
GFC1001	中国語Ⅰa	1	1	2	
GFC1002	中国語Ⅰb	1	1	2	
GFC1003	中国語Ⅱa	1	1	2	
GFC1004	中国語Ⅱb	1	1	2	
GFK1001	朝鮮語Ⅰa	1	1	2	
GFK1002	朝鮮語Ⅰb	1	1	2	
GFK1003	朝鮮語Ⅱa	1	1	2	
GFK1004	朝鮮語Ⅱb	1	1	2	
GFE2001	英語Ⅲa	1	1	2	2
GFE2002	英語Ⅲb	1	1	2	
GFE2003	英語Ⅳa	1	1	2	
GFE2004	英語Ⅳb	1	1	2	
GFG2001	ドイツ語Ⅲa	1	1	2	
GFG2002	ドイツ語Ⅲb	1	1	2	
GFG2003	ドイツ語Ⅳa	1	1	2	
GFG2004	ドイツ語Ⅳb	1	1	2	
GFF2001	フランス語Ⅲa	1	1	2	
GFF2002	フランス語Ⅲb	1	1	2	
GFF2003	フランス語Ⅳa	1	1	2	
GFF2004	フランス語Ⅳb	1	1	2	
GFR2001	ロシア語Ⅲa	1	1	2	
GFR2002	ロシア語Ⅲb	1	1	2	
GFR2003	ロシア語Ⅳa	1	1	2	
GFR2004	ロシア語Ⅳb	1	1	2	
GFS2001	スペイン語Ⅲa	1	1	2	
GFS2002	スペイン語Ⅲb	1	1	2	
GFS2003	スペイン語Ⅳa	1	1	2	
GFS2004	スペイン語Ⅳb	1	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GFC2001	中国語Ⅲa	1	1	2	2
GFC2002	中国語Ⅲb	1	1	2	
GFC2003	中国語Ⅳa	1	1	2	
GFC2004	中国語Ⅳb	1	1	2	
GFK2001	朝鮮語Ⅲa	1	1	2	
GFK2002	朝鮮語Ⅲb	1	1	2	
GFK2003	朝鮮語Ⅳa	1	1	2	
GFK2004	朝鮮語Ⅳb	1	1	2	
GFE3001	英語Ⅴa(各テーマ)	1	1	2	3
GFE3002	英語Ⅴb(各テーマ)	1	1	2	
GFE3003	英語Ⅵa(各テーマ)	1	1	2	
GFE3004	英語Ⅵb(各テーマ)	1	1	2	
GFG3001	ドイツ語Ⅴa	1	1	2	
GFG3002	ドイツ語Ⅴb	1	1	2	
GFG3003	ドイツ語Ⅵa	1	1	2	
GFG3004	ドイツ語Ⅵb	1	1	2	
GFF3001	フランス語Ⅴa	1	1	2	
GFF3002	フランス語Ⅴb	1	1	2	
GFF3003	フランス語Ⅵa	1	1	2	
GFF3004	フランス語Ⅵb	1	1	2	
GFR3001	ロシア語Ⅴa	1	1	2	
GFR3002	ロシア語Ⅴb	1	1	2	
GFR3003	ロシア語Ⅵa	1	1	2	
GFR3004	ロシア語Ⅵb	1	1	2	
GFS3001	スペイン語Ⅴa	1	1	2	
GFS3002	スペイン語Ⅴb	1	1	2	
GFS3003	スペイン語Ⅵa	1	1	2	
GFS3004	スペイン語Ⅵb	1	1	2	
GFC3001	中国語Ⅴa	1	1	2	
GFC3002	中国語Ⅴb	1	1	2	
GFC3003	中国語Ⅵa	1	1	2	
GFC3004	中国語Ⅵb	1	1	2	
GFK3001	朝鮮語Ⅴa	1	1	2	
GFK3002	朝鮮語Ⅴb	1	1	2	
GFK3003	朝鮮語Ⅵa	1	1	2	
GFK3004	朝鮮語Ⅵb	1	1	2	
GFO1001	検定認定1(各検定試験)	2	—	—	1～4
GFO1002	検定認定2(各検定試験)	2	—	—	
GFO1003	検定認定3(各検定試験)	2	—	—	

社会学専攻専門教育科目

1　卒業に必要な専門教育科目

必修科目24単位、選択科目60単位（所属専攻からの42単位以上を含める）以上、合計84単位以上を修得しなければなりません。

2　「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の履修について

卒業所要単位のうち36単位（基礎研究Ⅰ、Ⅱの計４単位を含む）以上を修得していなければ、「専門演習Ⅰ」を履修することはできません。また、「専門演習Ⅰ」を修得していなければ「専門演習Ⅱ」を履修することはできません。これらの科目については、履修する前年度（２年次）に申込受付を行います。

3　「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の履修について

「専門演習Ⅱ」を修得していなければ、「卒業研究Ⅰ」を履修することはできません。また、「卒業研究Ⅰ」を修得していなければ「卒業研究Ⅱ」を履修することはできません。

4　「社会調査演習」と「社会調査実習」の履修について

この２科目はセットで履修しなければなりません。また「社会調査入門」を修得済であり、かつ、「社会調査論」ならびに「計量社会学」のうち１科目以上を修得していなければ履修することはできません。

5　「社会学テーマ演習」の履修について

社会学専攻２年次生のみが対象の科目で、許可された者しか履修できません。また、２年次春学期終了までに、「基礎研究Ⅰ」、「基礎研究Ⅱ」、「基礎演習」を修得しなければ「社会学テーマ演習」を履修することはできません。募集の詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

6　社会調査実践学習プログラムについて

社会学専攻の学生を対象に設置しています。社会調査実践学習プログラムを修了するには以下の⑴、⑵の条件を満たした上で、⑶のように申請し、認定されなければなりません。

⑴　以下の科目（５科目10単位）をすべて修得していること。
「社会調査入門」、「社会調査論」、「計量社会学」、「社会学研究法ａ」、「社会学研究法ｂ」

⑵　自ら社会調査を行って卒業研究レポート（卒業論文）を執筆すること。

⑶　指導教員の推薦を得て、審査委員会に申請し、社会調査を実践的に行うことができる能力の持ち主であると認定されること。

7　社会福祉実践学習プログラムについて

社会学専攻の学生を対象に設置しています。社会福祉実践学習プログラムを修了するには以下の⑴、⑵の条件を満たした上で、⑶のように申請し、認定されなければなりません。

⑴　以下の科目（６科目12単位）をすべて修得していること。
「社会福祉概論」、「地域福祉論」、「社会福祉政策論」、「ソーシャルサポート論」、「福祉社会論」、「社会保障論」

⑵　社会福祉に関するテーマで卒業研究レポート（卒業論文）を執筆すること。

⑶　指導教員の推薦を得て、審査委員会に申請し、社会福祉を実践的に行うことができる能力の持ち主であると認定されること。

（必修科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO1101	基礎研究Ⅰ	2	1	2	
DSO1102	基礎研究Ⅱ	2	1	2	
DSO1103	社会学総論Ⅰ	2	1	2	
DSO1104	社会学総論Ⅱ	2	1	2	1
DSO1105	基礎社会学Ⅰ	2	1	2	
DSO1106	基礎社会学Ⅱ	2	1	2	
DSO1107	社会調査入門	2	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO2101	基礎演習	2	1	2	2
DSO3101	専門演習Ⅰ	2	1	2	3
DSO3102	専門演習Ⅱ	2	1	2	
DSO4101	卒業研究Ⅰ	2	1	2	4
DSO4102	卒業研究Ⅱ	2	1	2	

（選択科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO1108	現代社会論Ⅰ	2	1	2	
DSO1109	現代社会論Ⅱ	2	1	2	
DSO1110	産業社会学	2	1	2	
DSO1111	社会システム論	2	1	2	
DSO1112	社会調査論	2	1	2	1
DSO1113	計量社会学	2	1	2	
DSO1114	情報処理基礎演習	2	1	2	
DSO1115	情報処理演習Ⅰ	2	1	2	
DSO2102	理論社会学Ⅰ	2	1	2	
DSO2103	理論社会学Ⅱ	2	1	2	
DSO2104	家族社会学Ⅰ	2	1	2	
DSO2105	家族社会学Ⅱ	2	1	2	
DSO2106	都市社会学	2	1	2	
DSO2107	大衆文化史	2	1	2	
DSO2108	教育社会学Ⅰ	2	1	2	
DSO2109	教育社会学Ⅱ	2	1	2	
DSO2110	文化社会学Ⅰ	2	1	2	
DSO2111	文化社会学Ⅱ	2	1	2	
DSO2112	社会病理学Ⅰ	2	1	2	
DSO2113	社会病理学Ⅱ	2	1	2	
DSO2114	社会福祉概論	2	1	2	2
DSO2115	地域福祉論	2	1	2	
DSO2116	社会福祉政策論	2	1	2	
DSO2117	ソーシャルサポート論	2	1	2	
DSO2118	文化人類学Ⅰ	2	1	2	
DSO2119	文化人類学Ⅱ	2	1	2	
DSO2120	国際社会学Ⅰ	2	1	2	
DSO2121	国際社会学Ⅱ	2	1	2	
DSO2122	環境社会学Ⅰ	2	1	2	
DSO2123	環境社会学Ⅱ	2	1	2	
DSO2124	社会心理学Ⅰ	2	1	2	
DSO2125	社会心理学Ⅱ	2	1	2	
DSO2126	社会階層論	2	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO2127	社会変動論	2	1	2	
DSO2128	社会学研究法a	2	1	2	
DSO2129	社会学研究法b	2	1	2	
DSO2130	社会調査実習	2	2	2	
DSO2131	社会調査演習	4	2	2	
DSO2132	差別と社会Ⅰ	2	1	2	
DSO2133	差別と社会Ⅱ	2	1	2	
DSO2134	社会学概論Ⅰ	2	1	2	
DSO2135	社会学概論Ⅱ	2	1	2	
DSO2136	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論	2	1	2	
DSO2137	情報メディア論	2	1	2	
DSO2138	情報社会論	2	1	2	2
DSO2139	メディア文化論	2	1	2	
DSO2140	メディア史	2	1	2	
DSO2141	ジャーナリズム史	2	1	2	
DSO2142	コミュニティの比較社会学	2	1	2	
DSO2143	社会的ネットワークと社会システム	2	1	2	
DSO2144	組織と社会的ネットワーク	2	1	2	
DSO2145	社会学テーマ演習	2	1	2	
DSO2146	専攻横断型講義（各テーマ）	2	1	2	
DSO2147	情報処理演習Ⅱ	2	1	2	
DSO2148	情報処理演習Ⅲ	2	1	2	
DSO3103	福祉社会論	2	1	2	
DSO3104	社会保障論	2	1	2	
DSO3105	社会学特殊講義Ⅰ	2	1	2	
DSO3106	社会学特殊講義Ⅱ	2	1	2	
DSO3107	社会学特殊講義Ⅲ	2	1	2	
DSO3108	社会学特殊講義Ⅳ	2	1	2	3・4
DSO3109	社会学特殊講義Ⅴ	2	1	2	
DSO3110	社会学特殊講義Ⅵ	2	1	2	
DSO3111	社会学特殊講義Ⅶ	2	1	2	
DSO3112	社会学特殊講義Ⅷ	2	1	2	
DSO3113	社会学外国文献講読	2	1	2	

心理学専攻専門教育科目

1　卒業に必要な専門教育科目

必修科目28単位、選択科目56単位（所属専攻からの42単位以上を含む）以上、合計84単位以上を修得しなければなりません。

2　「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の履修について

卒業所要単位のうち36単位（基礎研究Ⅰ、Ⅱの計４単位を含む）以上を修得していなければ、「専門演習Ⅰ」を履修することはできません。また、「専門演習Ⅰ」を修得していなければ「専門演習Ⅱ」を履修することはできません。これらの科目については、履修する前年度（２年次）に申込受付を行います。

3　「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の履修について

「専門演習Ⅱ」を修得していなければ、「卒業研究Ⅰ」を履修することはできません。また、「卒業研究Ⅰ」を修得していなければ「卒業研究Ⅱ」を履修することはできません。

4　履修条件について

⑴「初級心理学実験実習」及び「中級心理学実験実習」を修得していなければ、「上級心理学実験実習」を履修することはできません。

⑵「初級心理学実験実習」及び「中級心理学実験実習」を修得していなければ、「臨床心理学基礎実習」を履修することはできません。

5　心理テスト実践学習プログラムについて

心理学専攻の学生を対象に設置しています。心理テスト実践学習プログラムを修了するには以下の⑴、⑵の条件を満たした上で、⑶のように申請し、認定されなければなりません。

⑴　以下の科目のうち、プログラム必修科目をすべて修得したうえで、プログラム選択科目から10単位以上を修得していること。

・プログラム必修科目：４科目８単位

「心理測定論」、「心理的アセスメント」、「心理調査法」、「応用心理測定論」

・プログラム選択科目：10単位以上

「感情・人格心理学」、「異常心理学」、「キャリア心理学Ⅰ」、「キャリア心理学Ⅱ」、「健康・医療心理学」、「健康心理学」、「臨床心理学概論」、「教育相談（カウンセリング）」、「教育心理学」、「教育・学校心理学」、「福祉心理学」、「臨床心理学基礎実習」

⑵　３年次終了時に、心理テストあるいは心理尺度に関連したテーマでレポートを執筆すること。

※ただし、４年次での提出も可とする。

⑶　指導教員の推薦を得て、審査委員会に申請し、心理テストの作成や応用・利用に関して実践的な能力の持ち主であると認定されること。

6　心理学データ解析実践学習プログラムについて

心理学専攻の学生を対象に設置しています。心理学データ解析実践学習プログラムを修了するには以下の⑴、⑵の条件を満たした上で、⑶のように申請し、認定されなければなりません。

⑴　以下の科目（９科目20単位）をすべて修得していること。

「心理学統計法」、「心理学研究法」、「心理測定論」、「心理調査法」、「応用心理測定論」、「初級心理学実験実習」、「中級心理学実験実習」、「心理学データ解析演習Ⅰ」、「心理学データ解析演習Ⅱ」

⑵　３年次終了時に、心理学データ解析に関連したテーマでレポートを執筆すること。

※ただし、４年次での提出も可とする。

⑶　指導教員の推薦を得て、審査委員会に申請し、心理学データの解析に関して実践的な能力の持ち主であると認定されること。

7　産業心理カウンセリングプログラムについて

心理学専攻の学生を対象に設置しています。産業心理カウンセリングプログラムを修了するには以下のプログラム必修科目をすべて修得し、かつプログラム選択科目から８単位以上を修得しなければなりません。

・プログラム必修科目：７科目14単位

「臨床心理学概論」、「教育相談（カウンセリング）」、「心理的アセスメント」、「心理学的支援法」、「臨床

心理学基礎実習」、「感情・人格心理学」、「異常心理学」

・プログラム選択科目：８単位以上

「産業・組織心理学」、「ビジネス心理学」、「健康・医療心理学」、「健康心理学」、「キャリア心理学Ⅰ」、「キャリア心理学Ⅱ」、「消費心理学」、「広告心理学」、「心理測定論」、「心理調査法」、「応用心理測定論」、「社会心理学Ⅰ」、「社会心理学Ⅱ」、「グループ・ダイナミックス」、「意思決定の心理学」、「対人心理学」、「コミュニケーション心理学」、「上級心理学実験実習」、「人的資源論※1」、「人的資源管理論Ⅰ※1」、「人的資源管理論Ⅱ※1」

※1…社会システムデザイン専攻選択科目

8　キャリア教育実践学習プログラムについて

心理学専攻の学生を対象に設置しています。キャリア教育実践学習プログラムを修了するには以下の(1)、(2)の条件を満たした上で、(3)のように申請し、認定されなければなりません。

(1)　以下の科目のうち、プログラム必修科目をすべて修得したうえで、プログラム選択科目から10単位以上を修得していること。

・プログラム必修科目：４科目８単位

「キャリア心理学Ⅰ」、「キャリア心理学Ⅱ」、「教育相談（カウンセリング）」、「教育心理学」又は「発達心理学」※3

・プログラム選択科目：10単位以上

「生徒・進路指導論※2」、「健康・医療心理学」、「健康心理学」、「心理測定論」、「教育心理学」又は「発達心理学」※3、「教育・学校心理学」、「グループ・ダイナミックス」、「心理的アセスメント」、「人的資源管理論Ⅰ※1」、「人的資源管理論Ⅱ※1」、「人と仕事の経済学※1」、「キャリア形成入門演習」

※1…社会システムデザイン専攻選択科目
※2…自由科目（修得しても卒業所要単位に含めることはできません。）
※3…「教育心理学」と「発達心理学」の２科目のうち１科目を修得した場合は、それを必修科目として扱い、２科目目を修得した場合「教育心理学」を必修科目、「発達心理学」を選択科目として扱います。

(2)　３年次終了時に、キャリア教育やキャリア形成支援、キャリア発達に関連したテーマでレポートを執筆すること。

※ただし、４年次での提出も可とする。

(3)　指導教員の推薦を得て、審査委員会に申請し、キャリア教育・キャリア形成支援に関して実践的な知識・能力の持ち主であると認定されること。

（必修科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO1201	基礎研究Ⅰ	2	1	2	1
DSO1202	基礎研究Ⅱ	2	1	2	
DSO1203	心理学総合研究Ⅰ	2	1	2	
DSO1204	心理学総合研究Ⅱ	2	1	2	
DSO1205	入門心理学Ⅰ	2	1	2	
DSO1206	入門心理学Ⅱ	2	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO2201	基礎演習Ⅰ	2	1	2	2
DSO2202	基礎演習Ⅱ	2	1	2	
DSO2203	初級心理学実験実習	2	1	4	
DSO2204	中級心理学実験実習	2	1	4	
DSO3201	専門演習Ⅰ	2	1	2	3
DSO3202	専門演習Ⅱ	2	1	2	
DSO4201	卒業研究Ⅰ	2	1	2	4
DSO4202	卒業研究Ⅱ	2	1	2	

（選択科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO1207	基礎社会学Ⅰ	2	1	2	1
DSO1208	基礎社会学Ⅱ	2	1	2	
DSO1209	心理学統計法	4	1	4	
DSO1210	情報処理基礎演習	2	1	2	
DSO1211	情報処理演習Ⅰ	2	1	2	
DSO2205	心理学実験	2	1	2	2
DSO2206	実験心理学	2	1	2	
DSO2207	心理学概論	2	1	2	
DSO2208	知覚・認知心理学	2	1	2	
DSO2209	社会的認知	2	1	2	
DSO2210	感情・人格心理学	2	1	2	
DSO2211	異常心理学	2	1	2	
DSO2212	社会心理学Ⅰ	2	1	2	
DSO2213	社会心理学Ⅱ	2	1	2	
DSO2214	対人心理学	2	1	2	
DSO2215	コミュニケーション心理学	2	1	2	
DSO2216	グループ・ダイナミックス	2	1	2	
DSO2217	意思決定の心理学	2	1	2	
DSO2218	心理調査法	2	1	2	
DSO2219	産業・組織心理学	2	1	2	
DSO2220	ビジネス心理学	2	1	2	
DSO2221	キャリア心理学Ⅰ	2	1	2	
DSO2222	キャリア心理学Ⅱ	2	1	2	
DSO2223	教育心理学	2	1	2	
DSO2224	発達心理学	2	1	2	
DSO2225	臨床心理学概論	2	1	2	
DSO2226	心理学研究法	2	1	2	
DSO2227	学習・言語心理学	2	1	2	
DSO2228	司法・犯罪心理学	2	1	2	
DSO2229	人体の構造と機能及び疾病	2	1	2	
DSO2230	公認心理師の職責	2	1	2	
DSO2231	教育相談(カウンセリング)	2	1	2	
DSO2232	心理測定論	2	1	2	
DSO2233	専攻横断型講義(各テーマ)	2	1	2	
DSO2234	情報処理演習Ⅱ	2	1	2	
DSO2235	情報処理演習Ⅲ	2	1	2	
DSO2236	差別と社会Ⅰ	2	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO2237	差別と社会Ⅱ	2	1	2	2
DSO2238	社会学概論Ⅰ	2	1	2	
DSO2239	社会学概論Ⅱ	2	1	2	
DSO2240	経済原論Ⅰ	2	1	2	
DSO2241	経済原論Ⅱ	2	1	2	
DSO3203	健康・医療心理学	2	1	2	3・4
DSO3204	健康心理学	2	1	2	
DSO3205	認知神経科学	2	1	2	
DSO3206	神経・生理心理学	2	1	2	
DSO3207	文化心理学	2	1	2	
DSO3208	環境心理学	2	1	2	
DSO3209	広告心理学	2	1	2	
DSO3210	消費心理学	2	1	2	
DSO3211	心理的アセスメント	2	1	2	
DSO3212	心理学的支援法	2	1	2	
DSO3213	精神疾患とその治療	2	1	2	
DSO3214	社会・集団・家族心理学	2	1	2	
DSO3215	障害者・障害児心理学	2	1	2	
DSO3216	福祉心理学	2	1	2	
DSO3217	教育・学校心理学	2	1	2	
DSO3218	関係行政論	2	1	2	
DSO3219	応用心理測定論	2	1	2	
DSO3220	法と心理学	2	1	2	
DSO3221	心理学特殊講義Ⅰ	2	1	2	
DSO3222	心理学特殊講義Ⅱ	2	1	2	
DSO3223	心理学特殊講義Ⅲ	2	1	2	
DSO3224	心理学特殊講義Ⅳ	2	1	2	
DSO3225	心理学特殊講義Ⅴ	2	1	2	
DSO3226	外国文献研究Ⅰ	2	1	2	
DSO3227	外国文献研究Ⅱ	2	1	2	
DSO3228	上級心理学実験実習	2	1	4	
DSO3229	臨床心理学基礎実習	2	1	4	
DSO3230	心理学データ解析演習Ⅰ	2	1	2	
DSO3231	心理学データ解析演習Ⅱ	2	1	2	
DSO3232	心理演習	4	1	4	
DSO4203	心理実習	4	4	4	4

メディア専攻専門教育科目

1　卒業に必要な専門教育科目

必修科目18単位、選択科目66単位（所属専攻からの42単位以上を含める）以上、合計84単位以上を修得しなければなりません。

2 「マスコミ・セミナー」及び「メディア・セミナーA、B」の履修について

⑴ 「メディア研究方法論」、「メディアと社会」、「メディア・リテラシー論」、「マス・コミュニケーションの効果」、「メディア史」の５科目のうち２科目を修得していなければ、「マスコミ・セミナー」を履修することはできません。

⑵ 「メディア研究方法論」、「メディアと社会」、「メディア・リテラシー論」、「広告コミュニケーション論」、「広告クリエイティブ論」の５科目のうち２科目を修得していなければ、「メディア・セミナーA」を履修することはできません。

⑶ 「メディア研究方法論」、「メディアと社会」、「メディア・リテラシー論」、「メディアと音楽」、「メディア産業論」の５科目のうち２科目を修得していなければ、「メディア・セミナーB」を履修することはできません。

3 「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の履修について

卒業所要単位のうち36単位（基礎研究Ⅰ、Ⅱの計４単位を含む）以上を修得していなければ、「専門演習Ⅰ」を履修することはできません。また、「専門演習Ⅰ」を修得していなければ「専門演習Ⅱ」を履修することはできません。これらの科目については、履修する前年度（２年次）に申込受付を行います。

4 「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の履修について

「専門演習Ⅱ」を修得していなければ、「卒業研究Ⅰ」を履修することはできません。また、「卒業研究Ⅰ」を修得していなければ「卒業研究Ⅱ」を履修することはできません。

5　ジャーナリズム専門プログラムについて

⑴　ジャーナリズム専門プログラム（以下JP）は、全専攻の学生を対象として設置しています。プログラム必修科目である「映像応用実習」と「文章応用実習」を履修するためには、あらかじめ申請を行い、履修を許可される必要があります。募集については２年次の秋学期に行います。詳細についてはインフォメーションシステム等でお知らせします。

⑵　JPを修了するには、「映像応用実習」、「文章応用実習」のうち１科目４単位、「ジャーナリズム論」、「メディアの法と倫理」の２科目４単位、「ジャーナリズム史」、「地域社会とジャーナリズム」、「映像コミュニケーション」、「国際コミュニケーション論」、「時事問題研究I」、「時事問題研究Ⅱ」、「マスコミ・セミナー」、「メディア調査実習Ⅰ」、「メディア調査実習Ⅱ」のうち４科目８単位以上、合計７科目16単位以上を修得しなければなりません。

6　広告専門プログラムについて

⑴　広告専門プログラムは、メディア専攻の学生を対象として設置しています。プログラム必修科目である「メディア企画演習（広告）」を履修するためには、あらかじめ申請を行い、履修を許可される必要があります。募集については２年次の秋学期に行います。詳細についてはインフォメーションシステム等でお知らせします。

⑵　広告専門プログラムを修了するには、「メディア企画演習（広告）」４単位に加えて、「広告コミュニケーション論」、「広告クリエイティブ論」、「広告と社会」、「広報論」、「メディア産業論」、「メディア・セミナーA」、「広告心理学※1」、「消費心理学※1」、「経営学Ⅰ※2」、「経営学Ⅱ※2」から「広告コミュニケーション論」、「広告クリエイティブ論」、「広告と社会」を含めて７科目14単位以上、合計８科目18単位以上を修得しなければなりません。

※１…心理学専攻選択科目　※２…社会システムデザイン専攻選択科目

7　音楽メディア研究プログラムについて

⑴　音楽メディア研究プログラムは、全専攻の学生を対象として設置しています。プログラム必修科目である「メディア企画演習（音楽）」を履修するためには、あらかじめ申請を行い、履修を許可される必要があります。募集については２年次の秋学期に行います。詳細についてはインフォメーションシステム等でお知らせします。

⑵　音楽メディア研究プログラムを修了するには、「メディア企画演習（音楽）」４単位に加えて、「メディアと音楽」、「メディア産業論」、「メディア・セミナーB」、「メディア文化論」、「メディア表現論」、「メディアとジェンダー」、「メディアの法と倫理」、「大衆文化史※3」、「メディア制作実習A」のうち、「メディアと音楽」、「メディア産業論」、「メディア・セミナーB」を含めて、５科目10単位（「メディア制作実習A」を含める場合は４科目10単位）以上、合計６科目14単位（「メディア制作実習A」を含める場合は５科目14単位）以上を修得しなければなりません。

※３…社会学専攻選択科目

（必修科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO1301	基礎研究Ⅰ	2	1	2	1
DSO1302	基礎研究Ⅱ	2	1	2	
DSO1303	メディア総論	2	1	2	
DSO2301	基礎演習	2	1	2	2
DSO2302	文章演習	2	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO3301	専門演習Ⅰ	2	1	2	3
DSO3302	専門演習Ⅱ	2	1	2	
DSO4301	卒業研究Ⅰ	2	1	2	4
DSO4302	卒業研究Ⅱ	2	1	2	

（選択科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO1304	メディアと社会	2	1	2	1
DSO1305	メディア研究方法論	2	1	2	
DSO1306	メディア・リテラシー論	2	1	2	
DSO1307	基礎社会学Ⅰ	2	1	2	
DSO1308	基礎社会学Ⅱ	2	1	2	
DSO1309	入門心理学Ⅰ	2	1	2	
DSO1310	入門心理学Ⅱ	2	1	2	
DSO1311	＊映像基礎実習	1	1	2	
DSO1312	情報処理基礎演習	2	1	2	
DSO1313	情報処理演習Ⅰ	2	1	2	
DSO1314	寄附・連携講座(各テーマ)	2	1	2	
DSO2303	マス・コミュニケーションの効果	2	1	2	2
DSO2304	メディア史	2	1	2	
DSO2305	世論とマス・コミュニケーション	2	1	2	
DSO2306	コミュニケーション論	2	1	2	
DSO2307	インターネット・コミュニケーション論	2	1	2	
DSO2308	ジャーナリズム論	2	1	2	
DSO2309	ジャーナリズム史	2	1	2	
DSO2310	地域社会とジャーナリズム	2	1	2	
DSO2311	メディアの法と倫理	2	1	2	
DSO2312	情報の法と倫理	2	1	2	
DSO2313	情報メディア論	2	1	2	
DSO2314	情報社会論	2	1	2	
DSO2315	メディア産業論	2	1	2	
DSO2316	放送論	2	1	2	
DSO2317	広告コミュニケーション論	2	1	2	
DSO2318	広告クリエイティブ論	2	1	2	
DSO2319	国際コミュニケーション論	2	1	2	
DSO2320	メディア文化論	2	1	2	
DSO2321	メディアと音楽	2	1	2	
DSO2322	メディアとスポーツ	2	1	2	
DSO2323	メディアとジェンダー	2	1	2	
DSO2324	メディア表現論	2	1	2	
DSO2325	映像コミュニケーション	2	1	2	
DSO2326	メディアと技術	2	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO2327	フォトグラフィ・スタディーズ	2	1	2	2
DSO2328	ニュース英語	2	1	2	
DSO2329	時事問題研究Ⅰ	2	1	2	
DSO2330	時事問題研究Ⅱ	2	1	2	
DSO2331	マスコミ・セミナー	2	1	2	
DSO2332	＊メディア調査実習Ⅰ	2	1	4	
DSO2333	＊メディア調査実習Ⅱ	2	1	4	
DSO2334	＊メディア制作実習A	4	2	4	
DSO2335	＊メディア制作実習B	2	1	4	
DSO2336	専攻横断型講義(各テーマ)	2	1	2	
DSO2337	情報処理演習Ⅱ	2	1	2	
DSO2338	情報処理演習Ⅲ	2	1	2	
DSO2339	差別と社会Ⅰ	2	1	2	
DSO2340	差別と社会Ⅱ	2	1	2	
DSO2341	社会学概論Ⅰ	2	1	2	
DSO2342	社会学概論Ⅱ	2	1	2	
DSO2343	経済原論Ⅰ	2	1	2	
DSO2344	経済原論Ⅱ	2	1	2	
DSO3303	広報論	2	1	2	3・4
DSO3304	広告と社会	2	1	2	
DSO3305	コミュニケーションと言語	2	1	2	
DSO3306	メディア外国文献講読	2	1	2	
DSO3307	マス・コミュニケーション特論A	2	1	2	
DSO3308	マス・コミュニケーション特論B	2	1	2	
DSO3309	メディア特論A	2	1	2	
DSO3310	メディア特論B	2	1	2	
DSO3311	コミュニケーション特論	2	1	2	
DSO3312	メディア・セミナーA	2	1	2	
DSO3313	メディア・セミナーB	2	1	2	
DSO3314	＊文章応用実習	4	2	4	
DSO3315	＊映像応用実習	4	2	4	
DSO3316	＊メディア制作実習C	4	2	4	
DSO3317	＊メディア企画演習(広告)	4	2	2	
DSO3318	＊メディア企画演習(音楽)	4	2	2	

＊印がついている科目については、事前に受講を許可された者しか履修することはできません。

社会システムデザイン専攻専門教育科目

1　卒業に必要な専門教育科目

必修科目18単位、選択科目66単位（所属専攻からの42単位以上を含める）以上、合計84単位以上を修得しなければなりません。

2　「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の履修について

卒業所要単位のうち36単位（基礎研究Ⅰ、Ⅱの計４単位を含む）以上を修得していなければ、「専門演習Ⅰ」を履修することはできません。また、「専門演習Ⅰ」を修得していなければ「専門演習Ⅱ」を履修することはできません。これらの科目については、履修する前年度（２年次）に申込受付を行います。

3　「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の履修について

「専門演習Ⅱ」を修得していなければ、「卒業研究Ⅰ」を履修することはできません。また、「卒業研究Ⅰ」を修得していなければ「卒業研究Ⅱ」を履修することはできません。

4　経済アナリストプログラムについて

経済アナリストプログラムは、全専攻の学生を対象として設置しています。プログラムを修了するには、以下の⑴、⑵の条件を満たし、修了が認定されなければなりません。

⑴　以下の科目のうち、プログラム必修科目をすべて修得したうえで、プログラム選択科目から４科目８単位以上を修得していること。

・プログラム必修科目：４科目８単位

「ソシオエコノミクス」、「経済原論Ⅰ」、「経済原論Ⅱ」、「国際経済システム」

・プログラム選択科目：４科目８単位以上

「公共システムⅠ」、「公共システムⅡ」、「経済政策Ⅰ」、「経済政策Ⅱ」、「人的資源論」、「経済システムデザイン論」、「地域経済システム」

⑵　３年次終了時に、経済の現状を分析するレポートを作成のうえ審査委員会に提出し、認定されること。

※ただし、４年次での提出も可とする。

5　マネジメント基礎プログラムについて

マネジメント基礎プログラムは、全専攻の学生を対象として設置しています。プログラムを修了するには、以下の⑴、⑵の条件を満たし、修了が認定されなければなりません。

⑴　以下の科目のうち、プログラム必修科目をすべて修得したうえで、プログラム選択科目から３科目６単位以上を修得していること。

・プログラム必修科目：６科目12単位

「経営学Ⅰ」、「経営学Ⅱ」、「経営管理論Ⅰ」、「人的資源管理論Ⅰ」、「産業システム創成論」、「インターンシップ（ビジネス）＊」

・プログラム選択科目：３科目６単位以上

「産業社会学」、「経営管理論Ⅱ」、「人的資源管理論Ⅱ」、「産業社会の歴史と経営」、「組織と社会的ネットワーク」、「人と仕事の経済学」、「テクノロジーのデザイン」

＊インターンシップ（ビジネス）は共通教養科目キャリア形成科目群です。修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

⑵　３年次終了時に、マネジメントに関するレポートを作成のうえ審査委員会に提出し、認定されること。

※ただし、４年次での提出も可とする。

6　社会ネットワークデザインプログラムについて

社会ネットワークデザインプログラムは、全専攻の学生を対象として設置しています。プログラムを修了するには、以下の⑴、⑵の条件を満たし、修了が認定されなければなりません。

⑴　以下の科目のうち、プログラム必修科目をすべて修得したうえで、プログラム選択科目から３科目６単位以上を修得していること。

・プログラム必修科目：６科目12単位

「社会システム論」、「社会的ネットワークと社会システム」、「社会階層論」、「地域再生論」、「人と仕事の経済学」、「社会システムデザイン実習Ⅰ」

・プログラム選択科目：３科目６単位以上

「組織と社会的ネットワーク」、「社会変動論」、「国際開発システム論」、「人間開発論」、「コミュニティの比較社会学」、「社会システムデザイン実習Ⅱ」

⑵　３年次終了時に、社会ネットワークのデザインに関するレポートを作成のうえ審査委員会に提出し、認定されること。

※ただし、４年次での提出も可とする。

（必修科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO1401	基礎研究Ⅰ	2	1	2	1
DSO1402	基礎研究Ⅱ	2	1	2	
DSO1403	社会システムデザイン総論Ⅰ	2	1	2	
DSO1404	社会システムデザイン総論Ⅱ	2	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO2401	基礎演習	2	1	2	2
DSO3401	専門演習Ⅰ	2	1	2	3
DSO3402	専門演習Ⅱ	2	1	2	
DSO4401	卒業研究Ⅰ	2	1	2	4
DSO4402	卒業研究Ⅱ	2	1	2	

（選択科目）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO1405	経営学Ⅰ	2	1	2	1
DSO1406	経営学Ⅱ	2	1	2	
DSO1407	産業社会学	2	1	2	
DSO1408	社会システム論	2	1	2	
DSO1409	技術史Ⅰ	2	1	2	
DSO1410	技術史Ⅱ	2	1	2	
DSO1411	ソシオ・エコノミクス	2	1	2	
DSO1412	社会調査入門	2	1	2	
DSO1413	計量社会学	2	1	2	
DSO1414	情報処理基礎演習	2	1	2	
DSO1415	情報処理演習Ⅰ	2	1	2	
DSO1416	寄附・連携講座(各テーマ)	2	1	2	
DSO2402	経済原論Ⅰ	2	1	2	2
DSO2403	経済原論Ⅱ	2	1	2	
DSO2404	公共システムⅠ	2	1	2	
DSO2405	公共システムⅡ	2	1	2	
DSO2406	経済政策Ⅰ	2	1	2	
DSO2407	経済政策Ⅱ	2	1	2	
DSO2408	産業経済論	2	1	2	
DSO2409	経済システムデザイン論	2	1	2	
DSO2410	失敗とテクノロジー	2	1	2	
DSO2411	テクノロジーのデザイン	2	1	2	
DSO2412	産業情報システム論	2	1	2	
DSO2413	情報ネットワーク経営論	2	1	2	
DSO2414	人と仕事の経済学	2	1	2	
DSO2415	人的資源論	2	1	2	
DSO2416	産業システム創成論	2	1	2	
DSO2417	産業社会の歴史と経営	2	1	2	
DSO2418	労使関係論	2	1	2	
DSO2419	経営管理論Ⅰ	2	1	2	
DSO2420	経営管理論Ⅱ	2	1	2	
DSO2421	人的資源管理論Ⅰ	2	1	2	
DSO2422	人的資源管理論Ⅱ	2	1	2	
DSO2423	科学社会論Ⅰ	2	1	2	
DSO2424	科学社会論Ⅱ	2	1	2	
DSO2425	社会階層論	2	1	2	
DSO2426	社会変動論	2	1	2	
DSO2427	社会的ネットワークと社会システム	2	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
DSO2428	組織と社会的ネットワーク	2	1	2	2
DSO2429	国際開発システム論	2	1	2	
DSO2430	人間開発論	2	1	2	
DSO2431	地域再生論	2	1	2	
DSO2432	コミュニティの比較社会学	2	1	2	
DSO2433	国際社会とシステムデザイン	2	1	2	
DSO2434	グローバル化のなかの文化と社会	2	1	2	
DSO2435	システムデザインリテラシーⅠ	2	1	2	
DSO2436	システムデザインリテラシーⅡ	2	1	2	
DSO2437	システムデザインリテラシーⅢ	2	1	2	
DSO2438	クリティカルシンキングⅠ	2	1	2	
DSO2439	クリティカルシンキングⅡ	2	1	2	
DSO2440	差別と社会Ⅰ	2	1	2	
DSO2441	差別と社会Ⅱ	2	1	2	
DSO2442	キャリア心理学Ⅰ	2	1	2	
DSO2443	キャリア心理学Ⅱ	2	1	2	
DSO2444	メディア史	2	1	2	
DSO2445	ジャーナリズム史	2	1	2	
DSO2446	コンピュータ・コンテンツ制作演習	2	1	2	
DSO2447	コンピュータ・プログラミング演習	2	1	2	
DSO2448	専攻横断型講義(各テーマ)	2	1	2	
DSO2449	情報処理演習Ⅱ	2	1	2	
DSO2450	情報処理演習Ⅲ	2	1	2	
DSO3403	国際経済システム	2	1	2	3・4
DSO3404	地域経済システム	2	1	2	
DSO3405	環境とビジネス	2	1	2	
DSO3406	法とビジネス	2	1	2	
DSO3407	環境社会デザインⅠ	2	1	2	
DSO3408	環境社会デザインⅡ	2	1	2	
DSO3409	社会保障論	2	1	2	
DSO3410	社会システムデザイン特論Ⅰ	2	1	2	
DSO3411	社会システムデザイン特論Ⅱ	2	1	2	
DSO3412	社会システムデザイン特論Ⅲ	2	1	2	
DSO3413	社会システムデザイン特論Ⅳ	2	1	2	
DSO3414	外国文献講読(社会システムデザイン)Ⅰ	2	1	2	
DSO3415	外国文献講読(社会システムデザイン)Ⅱ	2	1	2	
DSO3416	社会システムデザイン実習Ⅰ	2	1	4	
DSO3417	社会システムデザイン実習Ⅱ	2	1	4	

自 由 科 目
〔全専攻共通〕

種別	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
専門教育科目	DSO1001	教職概説	2	1	2	1
	DSO1002	教育原理	2	1	2	
	DSO1003	法学入門	2	1	2	
	DSO1004	倫理学概論a	2	1	2	
	DSO1005	倫理学概論b	2	1	2	
	DSO1006	宗教学概論a	2	1	2	
	DSO1007	宗教学概論b	2	1	2	
	DSO1008	日本史概説a	2	1	2	
	DSO1009	日本史概説b	2	1	2	
	DSO1010	東洋史概説a	2	1	2	
	DSO1011	東洋史概説b	2	1	2	
	DSO1012	西洋史概説a	2	1	2	
	DSO1013	西洋史概説b	2	1	2	
	DSO1014	人文地理学概説a	2	1	2	
	DSO1015	人文地理学概説b	2	1	2	
	DSO1016	自然地理学概説a	2	1	2	
	DSO1017	自然地理学概説b	2	1	2	
	DSO1018	地誌学a	2	1	2	
	DSO1019	地誌学b	2	1	2	
	DSO1020	図書館情報資源概論	2	1	2	
	DSO2001	教育制度論	2	1	2	2
	DSO2002	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用を含む)	2	1	2	
	DSO2003	社会科教育法㈠	2	1	2	
	DSO2004	社会科教育法㈡	2	1	2	
	DSO2005	地理歴史科教育法㈠	2	1	2	
	DSO2006	地理歴史科教育法㈡	2	1	2	
	DSO2007	公民科教育法㈠	2	1	2	
	DSO2008	公民科教育法㈡	2	1	2	
	DSO2009	道徳教育の理論と方法	2	1	2	
	DSO2010	人権教育論	2	1	2	
	DSO2011	政治学原論1	2	1	2	
	DSO2012	政治学原論2	2	1	2	

種別	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
専門教育科目	DSO2013	哲学概論a	2	1	2	2
	DSO2014	哲学概論b	2	1	2	
	DSO2015	考古学概説a	2	1	2	
	DSO2016	考古学概説b	2	1	2	
	DSO2017	地理学概説a	2	1	2	
	DSO2018	地理学概説b	2	1	2	
	DSO2019	学校経営と学校図書館	2	1	2	
	DSO2020	情報資源組織論	2	1	2	
	DSO2021	学習指導と学校図書館	2	1	2	
	DSO2022	読書と豊かな人間性	2	1	2	
	DSO2023	情報メディアの活用	2	1	2	
	DSO2024	メディア教育論	2	1	2	
	DSO2025	特別活動論	2	1	2	
	DSO2026	教育相談論	2	1	2	
	DSO2027	東洋史	2	1	2	
	DSO2028	西洋史	2	1	2	
	DSO3001	日本経済史Ⅰ	2	1	2	3
	DSO3002	日本経済史Ⅱ	2	1	2	
	DSO3003	西洋経済史Ⅰ	2	1	2	
	DSO3004	西洋経済史Ⅱ	2	1	2	
	DSO3005	人口学Ⅰ	2	1	2	
	DSO3006	人口学Ⅱ	2	1	2	
	DSO3007	商業史	2	1	2	
	DSO3008	社会科教育法㈢	2	1	2	
	DSO3009	社会科教育法㈣	2	1	2	
	DSO3010	特別支援教育論	1	1	2	
	DSO3011	総合的な学習の時間の指導法	1	1	2	
	DSO3012	カリキュラム開発論	2	1	2	
	DSO3013	生徒・進路指導論	2	1	2	
	DSO3014	教育実習事前指導	1	1	2	
	DSO3015	教育実習㈠	2	1	4	3・4
	DSO4001	教育実習㈡	2	1	4	4
	DSO4002	教職実践演習（中等）	2	1	2	

外国人留学生科目
〔全専攻共通〕

外国人留学生科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
FOS1001	日本語Ⅰ	2	1	4	1
FOS1002	日本語Ⅱ	2	1	4	
FOS1003	日本語Ⅲ	2	1	4	
FOS1004	日本語Ⅳ	2	1	4	
FOS1005	日本事情Ⅰ	2	1	2	1
FOS1006	日本事情Ⅱ	2	1	2	
FOS1007	Contemporary Japan (Understanding Japan)	2	1	2	1~4
FOS1008	Contemporary Japan (Researching Japan)	2	1	2	1~4
FOS1009	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 1)	2	1	2	1~4
FOS1010	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 2)	2	1	2	1~4
FOS1011	Communication in Japanese Society (Leaning Kansai 1)	2	1	2	1~4
FOS1012	Communication in Japanese Society (Leaning Kansai 2)	2	1	2	1~4
FOS1013	Communication in Japanese Society (Business Japanese)	2	1	2	1~4
FOS1014	Communication in Japanese Society (JPN Corporate Culture)	2	1	2	1~4
FOS1015	Field-Based Learning (Society and Workplace Culture in Japan)	2	1	2	1~4
FOS1016	Japanese (1-a)	2	1	4	1~4
FOS1017	Japanese (1-b)	2	1	4	1~4
FOS1018	Japanese (2-a)	2	1	4	1~4
FOS1019	Japanese (2-b)	2	1	4	1~4
FOS1020	Japanese (3-a)	2	1	4	1~4
FOS1021	Japanese (3-b)	2	1	4	1~4
FOS1022	Japanese (4-a)	2	1	4	1~4
FOS1023	Japanese (4-b)	2	1	4	1~4
FOS1024	Japanese (5-a)	2	1	4	1~4
FOS1025	Japanese (5-b)	2	1	4	1~4
FOS1026	Japanese (6-a)	2	1	4	1~4
FOS1027	Japanese (6-b)	2	1	4	1~4
FOS1028	Japanese (7-a)	2	1	4	1~4
FOS1029	Japanese (7-b)	2	1	4	1~4
FOS2001	実践ビジネス日本語Ⅰ	2	1	2	2
FOS2002	実践ビジネス日本語Ⅱ	2	1	2	
FOS2003	キャリアデザインⅠ(日本の社会と企業)	2	1	2	
FOS2004	キャリアデザインⅡ(日本の就職と働き方)	2	1	2	
FOS3001	キャリアデザインⅢ(日本の社会で働く)	2	1	2	3

［科目番号について］

本学では、科目の特性・配当年次を示すため、各科目に科目番号を付与しています。

〈共通教養科目〉

アルファベット３桁で「共通教養科目」と「群」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。また、共通教養科目のうちグローバル科目群の留学準備スキルアップ科目及びグローバル・フロンティア科目は、配当年次に代えて外部テストによる難易度を示しています。

GE　A　1　000
種別　群　配当年次（難易度）　連番

種別　共通教養科目はすべてGE

群

A	関西大学科目群
B	基盤科目群
C	自己形成科目群
D	健康・スポーツ科目群
E	キャリア形成科目群
F	グローバル科目群
G	大学・学部・社会連携科目群

難易度（受講には各レベルの英語運用能力が必要です）

番号	レベル
1	GTECテスト180点未満 TOEFL ITP®Test430点未満 TOEFL iBT®Test40点未満 TOEIC®L&RTest375点未満 英語検定準２級未満
2	GTECテスト180点以上260点未満 TOEFL ITP®Test430点以上505点未満 TOEFL iBT®Test40点以上60点未満 TOEIC®L&RTest375点以上580点未満 英語検定準２級及び２級
3	GTECテスト260点以上 TOEFL ITP®Test505点以上 TOEFL iBT®Test60点以上 TOEIC®L&RTest580点以上 英語検定準１級及び１級

〈外国語科目〉

アルファベット3桁で「外国語科目」と「語種」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

GF	E	1	000
種別	語種	配当年次	連番

種別　外国語科目はすべてGF

語種

E	英語
G	ドイツ語
F	フランス語
R	ロシア語
S	スペイン語
C	中国語
K	朝鮮語
O	検定認定：Official-Test Accreditation

〈外国人留学生科目〉

アルファベット3桁で「外国人留学生科目」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の 桁は連番としています。

FOS	1	000
種別	配当年次	連番

種別　外国人留学生科目はすべてFOS

〈専門教育科目〉

社会学部を示すアルファベット3桁（DSO)、配当年次を示す1桁、連番の数字3桁で構成されています。

DSO	1	0	01
学部	配当年次	専攻	連番

専攻　1：社会学
2：心理学
3：メディア
4：社会システムデザイン
0：共通

政策創造学部

政策創造学部には、政策学科（政治経済専修、地域経営専修）、国際アジア学科があります。

Ⅰ　教育に関する三つの方針

［政策学科］

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

政策創造学部は、豊かな地球市民社会の創造を重要な教育理念としています。地球市民社会とは、各人が国境を越えた地球規模の共同体に属するという感覚を有し、それに基づく社会的責任を意識した行動をとることで実現可能な社会を意味します。

とりわけ政策学科では、新たな時代的変化を見据え、社会科学全域を総合する多様な視点から、現代の国内外の社会問題に挑む思考力、行動力、さらに既存のパラダイムを批判的に分析する能力を有し、本質的に持続可能な市民社会の創造に貢献できる人材の育成を推進しています。すなわち、現代社会における多様な問題を総合的、学術的に把握、考察し、課題と解決策を見いだす能力、それを実行・実現する力を有する人材として、下記の力を身につけた人物に対して学位（政策学）を授与します。

1　（知識・技能）

幅広い豊かな人間性を基盤として、現代社会が抱える諸問題に挑む政策学に関する知識・技能を修得し、それを実践することができる。

2　（思考力・判断力・表現力等の能力）

現代の地域社会等で活かせる実践的なコミュニケーション能力を持ち、「考動力」全般を身につけ、実際のフィールドワークなどを通じて、地域社会や諸組織の問題を考える高い思考力を育み、そこに留まらず、実際に立案、行動することができる。

3　（主体的な態度）

密なコミュニケーションを基盤とする他者との協働の中で、解のない現代社会の諸問題に意欲的に取り組み、新しい価値を主体的に生み出すことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

政策創造学部（政策学科）では、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、以下の点を踏まえて、共通教養科目、専門教育科目及びその他必要な科目を体系的に教育課程として編成します。

1　教育内容

⑴　教養教育

ア　社会における活躍に必要な広い知識・視野と柔軟な思考を育成するために、共通教養教育として自己形成科目群等を配置し、総合的な人間力を養う。

イ　外国語文献の読解やコミュニケーションスキルを身につけるための「外国語科目」を配置し、4年間を通じた実践的な英語力育成を図る。

⑵　専門教育

国際関係論、政治学、経済学、経営学、法律学等の社会科学諸分野を基礎とし、それらを総合した実践的な問題解決の学問である政策学を学ぶことができるようカリキュラムを提供している。それによって、社会における公的な問題を発見し、地球的な視野からその解決策について考え、それを何らかの形で実行できるような能力を持った人材を育成することを目的とする。

ア　初年次に、政治、経済、経営、法律、国際社会等の学生が身につけるべき専門の基礎として導入科目を配置し、導入ゼミⅠと導入ゼミⅡでは特に少人数によるゼミ形式にて専門的な学びへの転換を図る。

イ　データを通じて社会的な課題を読む解く力を育成するため、「データ分析科目」を設置している。

ウ　政策立案に必要な国際関係論、政治学、経済学、経営学、法律学等と、それらの総合的かつ実践的学問である政策学の中級的内容に関わる基幹科目を配置し、さらに展開科目として、学生がこれから学んで行く研究分野や進路に深く関連した応用・実践科目を有している。

エ　高次の英語教育として海外留学やビジネス等に関する英語能力を向上させるため、プロフェッショナル英語（各テーマ）を設けるとともに、多様な国・地域の政治、経済、社会に対する理解を促進することを目的として、当該国での通用する言語を通じて学ぶ、「グローバル・スタディーズ・セミナー」を配置している。

オ　政治経済専修、地域経営専修の２つの専修内容に対応して、より専門的な視野を含めるための展開科目を設置する。

２　教育評価

⑴　専門演習及び卒業演習への円滑な移行を図ることを目的とし、各セメスター終了時には必修科目及び語学教育の科目を中心に単位修得状況を確認する。

⑵　４年間の学修成果は、卒業研究や最終報告を含めて、本学の評価基準を満たしたものを合格とする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

政策創造学部（政策学科）では、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできる者として、様々な入試制度を通じて、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた入学者を広く受け入れます。

１　高等学校等における全般的な基礎学力を有している。具体的には次の能力を身につけておくことを推奨する。①国語：国語を適切に表現し、古典・近代以降の文章を的確に理解することができる、②地理歴史：我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色について理解できる、③公民：現代の社会について主体的に考察し、民主主義のもとでの政治・経済・国際関連事項を理解できる、④数学：方程式・関数・図形・微積分・集合・確率・数列・ベクトルなどの数学的見方及び考え方を認識し、事象を数学的に考察し処理することができる、⑤外国語：外国語を通じて言語・文化に対する理解を深め、読み書きはもとより積極的にコミュニケーションを図ることができる。

２　自分の将来の課題を探し求め、その課題に対して幅広い視野から柔軟で総合的な判断を下す「真の実践的能力」を育む「考動力」の基盤を有している。

３　地域社会の諸問題に対して取り組んだ経験を有している。

[国際アジア学科]

卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

政策創造学部は、豊かな地球市民社会の創造を重要な教育理念としています。地球市民社会とは、各人が国境を越えた地球規模の共同体に属するという感覚を有し、それに基づく社会的責任を意識した行動をとることで実現可能な社会を意味します。

とりわけ国際アジア学科では、新たな時代的変化を見据え、特に欧米とアジアの政治、経済、法律を学ぶことを通じて、国際社会が直面する多様な課題を発見、考察し、政策的解決方法を見出す能力と行動力を有する人材の育成を推進しています。すなわち、現代における多様な問題を総合的、学術的に把握、考察し、課題と解決策を見いだす能力、それを実行・実現する力を有する人材として、下記の力を身につけた人物に対して学位（政策学）を授与します。

１　（知識・技能）

幅広い豊かな人間性を基盤として、多様な国際社会を総体的に理解し、国際化時代に通用する政策立案力を養う政策学に関する知識・技能を修得し、それを実践することができる。

２　（思考力・判断力・表現力等の能力）

国際社会で活かせる実践的なコミュニケーション能力を持ち、「考動力」全般を身につけ、実際のフィールドワークなどを通じて、実社会の問題を考える高い思考力を育み、そこに留まらず、実際に立案、行動することができる。

3　（主体的な態度）

密なコミュニケーションを基盤とする他者との協働の中で、欧米とアジア等の国際的な課題に主体的に取り組み、新しい価値を主体的に生み出すことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

政策創造学部（国際アジア学科）では、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、以下の点を踏まえて、共通教養科目、専門教育科目及びその他必要な科目を体系的に教育課程として編成します。

1　教育内容

⑴　教養教育

ア　社会における活躍に必要な広い知識・視野と柔軟な思考を育成するために、共通教養教育として自己形成科目群等を配置し、総合的な人間力を養う。

イ　外国語文献の読解やコミュニケーションスキルを身につけるための「外国語科目」を配置し、４年間を通じた実践的な英語力育成を図る。

⑵　専門教育

国際関係論、政治学、経済学、経営学、法律学等の社会科学諸分野を基礎とし、それらを総合した実践的な問題解決の学問である政策学を学ぶことができるようカリキュラムを提供している。それによって、社会における公的な問題を発見し、地球的な視野からその解決策について考え、それを何らかの形で実行できるような能力を持った人材を育成することを目的とする。

ア　初年次に、政治、経済、経営、法律、国際社会等の学生が身につけるべき専門の基礎として「導入科目」を配置し、導入ゼミⅠと導入ゼミⅡでは特に少人数によるゼミ形式にて専門的な学びへの転換を図る。

イ　データを通じて社会的な課題を読む解く力を育成するため、「データ分析科目」を設置している。

ウ　政策立案に必要な国際関係論、政治学、経済学、経営学、法律学等と、それらの総合的かつ実践的学問である政策学の中級的内容に関わる基幹科目を配置し、さらに展開科目として、学生がこれから学んで行く研究分野や進路に深く関連した応用・実践科目を有している。

エ　高次の英語教育として海外留学やビジネス等に関する英語能力を向上させるため、プロフェッショナル英語（各テーマ）を設けるとともに、多様な国・地域の法と社会に対する理解を促進することを目的として、当該国での通用する言語を通じて学ぶ、「グローバル・スタディーズ・セミナー」を配置している。

オ　展開科目として、欧米のみならず、アジア各国・地域の政策と社会を学び、比較研究するための科目を中心に配置している。

2　教育評価

⑴　専門演習及び卒業演習への円滑な移行を図ることを目的とし、各セメスター終了時には必修科目及び語学教育の科目を中心に単位修得状況を確認する。

⑵　４年間の学修成果は、卒業研究や最終報告を含めて、本学の評価基準を満たしたものを合格とする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

政策創造学部（国際アジア学科）では、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできる者として、様々な入試制度を通じて、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた入学者を広く受け入れます。

1　高等学校等における全般的な基礎学力を有している。具体的には次の能力を身につけておくことを推奨する。①国語：国語を適切に表現し、古典・近代以降の文章を的確に理解することができる、②地理歴史：我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色について理解できる、③公民：現代の社会について主体的に考察し、民主主義のもとでの政治・経済・国際関連事項を理解できる、④数学：方程式・関数・図形・微積分・集合・確率・数列・ベクトルなどの数学的見方及び考え方を認識し、事象を数学的に考察し処理することができる、⑤外国語：外国語を通じて言語・文化に対する理解を深め、読み書きはもとより積極的にコミュニケーションを図ることができる。

2　自分の将来の課題を探し求め、その課題に対して幅広い視野から柔軟で総合的な判断を下す「真の実践的能

力」を育む「考動力」の基盤を有している。

3　国際的視野に立って政策学を学ぶ事を目的としていることから、多様な形で国際的経験を有している。

Ⅱ　教育課程について

授業科目の構成

政策創造学部の授業科目は、次のとおりに大別されます。授業科目の詳細は、「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。

1　政策学科

科目区分		
共通教養科目	関西大学科目群	
	基盤科目群	
	自己形成科目群	人間を知る
		社会を知る
		自然と向き合う
	健康・スポーツ科目群	
	キャリア形成科目群	
	グローバル科目群	
	大学・学部・社会連携科目群	
外国語科目※		
専門教育科目	データ分析科目	
	導入科目	
	基幹科目	
	展開科目	政治経済専修
		地域経営専修
	自由科目	

2　国際アジア学科

科目区分		
共通教養科目	関西大学科目群	
	基盤科目群	
	自己形成科目群	人間を知る
		社会を知る
		自然と向き合う
	健康・スポーツ科目群	
	キャリア形成科目群	
	グローバル科目群	
	大学・学部・社会連携科目群	
外国語科目※		
専門教育科目	データ分析科目	
	導入科目	
	基幹科目	
	展開科目	
	自由科目	

※外国語科目は、次の科目で構成されています。

（政策学科、国際アジア学科共通）

英語	Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb、Ⅴa・Ⅴb(各テーマ)、Ⅵa・Ⅵb（各テーマ）
ドイツ語	Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb、Ⅴa・Ⅴb、Ⅵa・Ⅵb
フランス語	
ロシア語	
スペイン語	
中国語	
朝鮮語	
プロフェッショナル英語	Ⅰa・Ⅰb、Ⅱa・Ⅱb、Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb、（各テーマ）
政策創造学部海外研修（各セミナー） 検定認定１（各検定試験） 検定認定２（各検定試験） 検定認定３（各検定試験）	

上記のほか、外国人留学生のために外国人留学生科目（後掲）があります。

Ⅲ　卒業所要単位について

卒業所要単位の内訳

1　政策創造学部に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、124単位以上を修得した者に卒業を認め、卒業者には学士（政策学）の学位が与えられます。

卒業所要単位（124単位）の内訳は、次のとおりです。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">科目区分</th><th colspan="2">卒業所要単位</th></tr>
<tr><th colspan="2">最低修得単位数</th><th>専修（専門）関連科目となり得る科目</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教養科目</td><td>関西大学科目群</td><td rowspan="3" colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td>基盤科目群</td><td></td></tr>
<tr><td>自己形成科目群</td><td rowspan="3">8
（※注１）</td><td rowspan="4">10</td><td></td></tr>
<tr><td>キャリア形成科目群</td><td rowspan="2">○（※注３）</td></tr>
<tr><td>グローバル科目群</td></tr>
<tr><td>健康・スポーツ科目群</td><td colspan="2" rowspan="2"></td><td>○（※注４）</td></tr>
<tr><td>大学・学部・社会連携科目群</td><td></td></tr>
<tr><td>外国語科目</td><td></td><td colspan="2">16</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td>データ分析科目</td><td colspan="2">―</td><td>○</td></tr>
<tr><td>導入科目</td><td>16</td><td rowspan="2">48</td><td>○</td></tr>
<tr><td>基幹科目</td><td colspan="2"></td><td>○</td></tr>
<tr><td>展開科目</td><td colspan="2">24
（※注２）</td><td>○（※注２）</td></tr>
<tr><td colspan="2">自由科目</td><td colspan="3">卒業所要単位に算入しません。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">合計</td><td colspan="2">98</td><td>26（※注５）</td></tr>
<tr><td colspan="3">124</td></tr>
</table>

※注１～注５の詳細は、次項の「２　単位修得について注意すべき事項」の対応項目で確認してください。

※注１	２－(1)	※注４	２－(3)－オ－①
※注２	２－(3)－エ	※注５	２－(3)－オ
※注３	２－(3)－オ－②～④		

2　単位修得について注意すべき事項

⑴　共通教養科目

共通教養科目は、自己形成科目群、キャリア形成科目群（インターンシップ科目を除く）及びグローバル科目群（グローバル・フロンティア科目（Module 1. 2. 3. 6. 7に限る））から８単位以上を含めて、合計10単位以上修得しなければなりません。なお、健康・スポーツ科目群（生涯スポーツ・身体運動文化コース）の科目は、スポーツ入試（北陽スポーツ入試含む）による入学生に限り履修を認めます。

また、キャリア形成科目群のうち、インターンシップ科目は修得しても自由科目の単位に算入され、卒業所要単位に含めることはできません。

⑵　外国語科目（16単位）

外国語科目は、次表のいずれかのパターンにより合計16単位を修得しなければなりません。

パターン	選択外国語	
	第１選択外国語 第２選択外国語	外国語科目（16単位）の内訳
A	英語 プロフェッショナル英語	Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂのそれぞれ計８単位
B （※１）	英語	Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの計８単位
	ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語	Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂから計８単位
C （※１）	ドイツ語、フランス語、中国語	Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂの計12単位
	英語	Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ又はⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ又はⅤａ・Ⅴｂ（各テーマ）、Ⅵａ・Ⅵｂ（各テーマ）のいずれかの組み合わせで計４単位

（※１）　第１選択外国語は英語とします。ただし、Ｃパターンの場合は英語以外の外国語を第１選択外国語とし、第２選択外国語を英語とします。

①英語について（全パターン）　※プロフェッショナル英語ではありません。

上表の定められた英語の単位を修得しなければなりません。

修得していない場合は、外国語検定認定制度により単位認定を行うことができます（詳細は後掲の「外国語検定試験の単位認定について」を参照してください）。

上表の定められた英語の単位を修得したうえで、さらに検定認定１～３（各検定試験）を修得した場合は、合計６単位まで外国語科目の単位に算入することができます。

政策創造学部海外研修（各セミナー）を修得した場合は、２セミナー４単位まで英語の卒業所要単位に算入することができます。

②プロフェッショナル英語について（Ａパターン）

上表の定められたプロフェッショナル英語の単位を修得しなければなりません。外国語検定認定制度により単位認定した単位は、プロフェッショナル英語の単位に算入できません。

③英語、プロフェッショナル英語以外の外国語について（Ｂ、Ｃパターン）

上表の定められた外国語の単位を修得しなければなりません。検定認定１～２（各検定試験）を修得した場合は、各４単位まで当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

検定認定については、「外国語検定試験の単位認定について」（後掲）を参照してください。

上記の要件を満たしたうえで、16単位を超えて修得した次の①～③の単位は、専修関連科目もしくは、専門関連科目として卒業所要単位に算入することができます。

①第１選択外国語について　８単位（Ｃパターンは12単位）を超えて修得した単位

②第２選択外国語について　８単位（Ｃパターンは４単位）を超えて修得した単位

③第３選択外国語として修得した単位

⑶　専門教育科目

ア　データ分析科目を修得した場合、専修関連科目もしくは専門関連科目として卒業所要単位に算入することができます。

イ　導入科目は、卒業所要単位（16単位）を超えて修得した場合、基幹科目の単位に算入することができます。

ウ　基幹科目は、卒業所要単位（32単位）を超えて修得した場合、専修関連科目もしくは専門関連科目として卒業所要単位に算入することができます。

エ　展開科目の卒業所要単位は24単位です。展開科目として算入される単位は、政策学科の場合は選択した専修、国際アジア学科の場合は所属する学科の展開科目です。卒業所要単位（24単位）を超えて修得した場合や、他学科又は他専修の展開科目を修得した場合、専修関連科目もしくは専門関連科目として卒業所要単位に算入することができます。

オ　専修関連科目もしくは専門関連科目は、次の①～⑦から26単位以上を修得しなければなりません。

①共通教養科目健康・スポーツ科目群（生涯スポーツ･身体運動文化コース）

②共通教養科目キャリア形成科目群（インターンシップ科目を除く）

③共通教養科目グローバル科目群　グローバル・フロンティア科目（Module 1.2.3.6.7 に限る）

④共通教養科目グローバル科目群　留学実践科目

⑤外国語科目

⑥学部配当専門教育科目

⑦他学部配当専門教育科目

※①はスポーツ入試（北陽スポーツ入試含む）による入学生に限り履修を認めます。

3　自由科目及び各種資格取得に必要な他学部配当科目

自由科目及び各種資格取得に必要な他学部配当科目は、これを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

外国人留学生

外国人留学生の外国語科目の履修方法は、Bパターンによるものとします。ただし、日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの計８単位ならびに英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語及び朝鮮語のうちから１カ国語（日常使用語を除く）を選択し、その外国語のⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの計８単位を修得しなければなりません。

なお、日常使用語を卒業所要単位に含めることはできません。

また、日本語以外の外国人留学生科目を修得した場合は、共通教養科目の卒業所要単位に含めることができます。

編・転入学生

政策創造学部３年次へ編・転入学した者の取り扱いについては、次のとおりです。

政策創造学部に２年〈４学期〉以上（６年〈12学期〉以内）在学し、編・転入学以前に修得した科目の単位認定をしたうえで、学部長が指示する不足単位を履修・修得し、本学部の卒業要件を満たさなければなりません。なお、詳細な履修登録については、教務センターへ問い合わせてください。

Ⅳ　履修について特に注意すべき事項

履修制限単位

履修制限単位は各学期25単位以内、年間48単位以内です。

通年科目を履修した場合は、当該科目の単位数の２分の１の単位数を春学期と秋学期それぞれの履修単位数に算入するものとします。

なお、次の科目は履修制限単位に含めません。

在外社会科学研究（各テーマ）	政策創造学部海外研修（各セミナー）
インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習Ａ・Ｂ・Ｃ
外国語検定認定１・２・３	

自由科目及び各種資格取得に必要な他学部配当科目を履修する場合は、上記の履修制限単位外で毎年度30単位（各学期16単位）まで履修することができます。ただし、教育実習事前指導、教育実習(一)、教育実習(二)はこの30単位には含めません。

科目履修の配当年次

履修する科目は、当該年次又は下位年次配当科目のうちから選択しなければなりません。ただし、外国語科目において特に許可された履修については、この限りではありません。

なお、導入ゼミⅠ（社会科学入門）は配当年次でしか履修することができません。

４年次生の履修単位

４年次生においては、春学期、秋学期とも４単位以上を履修しなければなりません。

共通教養科目の履修

共通教養科目の履修については、次の点に注意してください。

1　共通教養科目の概要については、「共通教養科目について」（後掲）を参照してください。ただし、政策創造学部で履修・修得できる授業科目は「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。

2　同一年度の春学期及び秋学期に同じ授業科目を二度履修することはできません。

3　定員制等のため事前登録が必要な科目、履修者数が一定以上に達した場合に事後抽選を行う科目があります。詳細はインフォメーションシステムで確認してください。

4　次の科目は履修制限単位に含めません。それぞれ該当のプログラムに応募のうえ参加許可を受けることをもって、履修登録に代えます。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習Ａ・Ｂ・Ｃ

5　健康・スポーツ科目群の「生涯スポーツ・身体運動文化コース」の科目は、スポーツ入試（北陽スポーツ入試含む）による入学生に限り履修を認めます。

外国語科目の履修

外国語科目の履修については、次の点に注意してください。

1　外国語履修パターンの決定及びＢパターン、Ｃパターンにおける外国語は、入学手続時に届出、許可を受けた外国語となります。

なお、１年次の所定の期間にＢパターンからＣパターン、ＣパターンからＢパターンへの変更を認めます。詳細はインフォメーションシステム等によりお知らせします。

2　卒業所要単位（16単位）に含める外国語科目は、当該科目を履修する初年度において、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵのそれぞれａ・ｂをセットで履修登録することを原則とします。ただし、英語Ⅴａ・Ⅴｂ（各テーマ）、英語Ⅵａ・Ⅵｂ（各テーマ）については、各テーマを複数科目履修することができ、かつ、ａ・ｂをセットで履修登録する必要はありません。

3　１年次においては、外国語のⅠａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂのみを履修することができます。ただし、Ｂパターンにおける第２選択外国語については、特に希望のあるときは、新入生指導行事期間中に所定の申込手続を行い許可された場合、上位年次配当科目（Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ又はⅤａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ）を履修することができます。

また、３年次配当の英語Ⅴａ・Ⅴｂ（各テーマ）、英語Ⅵａ・Ⅵｂ（各テーマ）については、一定の条件を付して下位年次生の履修を認めています。履修希望者は所定の受付期間中に必要な手続きを行ってください。

4　Ａパターンを履修している場合、１年次終了時に所定の条件を満たさなければＢパターンに変更しなければなりません。

5　Ｂパターンを履修している場合、原則として、英語以外の外国語のⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂは、その外国語のⅠｂ、Ⅱｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。また、英語以外の外国語のⅤａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂは、そのⅢｂ、Ⅳｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

6　Ｃパターンを履修している場合、原則として、英語以外の外国語のⅢａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂは、その外国語のⅠｂ、Ⅱｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

7　Ｃパターンを履修している場合、原則として、第１選択外国語のⅤａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂは、３年次において履修しなければなりません。ただし、所定の申込手続を行い許可された場合、２年次に履修することができます。

8　英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの履修に際しては、原則として事前にプレースメントテストを受験しなければなりません。

なお、受験に関する詳細は、インフォメーションシステム等により指示します。

9　プロフェッショナル英語（各テーマ）の履修については、あらかじめ申込手続を行い、受講の許可を得なければなりません。

なお、申込手続等の詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

10　政策創造学部海外研修（各セミナー）の履修については、セミナーに応募し、参加を許可された者に限り履修することができます。

11　本学が指定する外国語検定試験で所定のスコアを取得した者、又はその試験に合格した者は、単位認定の申請ができます。

詳細については、「外国語検定試験の単位認定について」（後掲）を参照してください。

なお、申請手続等の詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

政策創造学部主催海外英語研修の履修

夏季・冬季休業期間中に海外の大学において英語研修を実施しています。修了すれば前述の政策創造学部海外研修（各セミナー）として、卒業所要単位に算入されます。

募集に関する詳細や参加費については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

専門教育科目の履修

専門教育科目の履修については、次の点に注意してください。

1　次の授業科目については、配当年次には必ず履修しなければなりません。

　１年次：データ分析、導入ゼミⅠ（社会科学入門）

2　データ分析を修得しなければ、専門導入ゼミⅢ（IT・データ分析）、特殊講義（統計の基礎）を履修できません。

3　特殊講義（統計の基礎）を修得しなければ、計量分析を履修できません。

4　クラス指定のある科目については、指定されたクラスで受講してください。また、あらかじめ申込手続を行い、許可された者に限り履修することができる科目がありますので、注意してください。

　なお、詳細については、インフォメーションシステム等により指示します。

5　在外社会科学研究（各テーマ）の履修については、プログラムに応募し、参加を許可された者に限ります。

6　他学科・他専修の科目を修得した場合は、専修関連科目もしくは、専門関連科目として卒業単位に算入することができます。ただし、政策学科の学生は法人・団体法論、商事法学Ⅰ、環境法政策、比較法制史、国際アジア学科の学生は組織と法、企業と組織Ⅱ、環境政策、法の歴史と思想を履修することはできません。

7　グローバル・スタディーズ・セミナー（各テーマ）は、国際アジア学科の学生が修得した場合、４テーマ８単位までの展開科目の卒業所要単位に含めることができます。４テーマ８単位を超えて修得した場合又は政策学科の学生が修得した場合は、専門関連科目もしくは専修関連科目として卒業所要単位に含めることができます。

※科目によっては、不開講となる場合があります。

8　プロジェクト型演習Ⅰ・Ⅱについては、専門演習Ⅰまたは専門演習Ⅱを履修していない学生に限り履修を認めます。なお、詳細については、インフォメーションシステム等により指示します。

専修の選択（政策学科のみ）

各専修へは２年次から分属されます。

専修の選択は、２年次の履修登録時に行い、希望の専修に分属されます。また原則、３年次春学期の履修登録時のみ専修の変更が可能です。

なお、詳細についてはインフォメーションシステム等によりお知らせします。

専門演習の履修

専門教育の履修については、次の点に注意してください。

1　専門演習Ⅰは２年次終了時点で卒業所要単位のうち合計60単位以上を修得しなければ履修できません。ただし、認定留学、交換派遣留学、又は学生交流プログラムに参加している場合はこの限りではありません。詳細は教務センターへ問い合わせてください。

2　専門演習Ⅰを修得しなければ専門演習Ⅱを履修できません。専門演習Ⅱを履修しなければ卒業論文研究は履修できません。

3　専門演習Ⅰは、２年次の秋学期に募集を行います。

4　卒業論文研究は、卒業論文研究の審査に合格することで単位が認定されます。

　なお、募集手続等の詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

専門演習Ⅱ（プロジェクトゼミ）

専門演習Ⅱでは、プロジェクトゼミを実施するクラスがあります。プロジェクトゼミとは、特別の企画・プロジェクトを特に実施するものです。例えば、専門の異なる複数の教員が担当するもの、他大学とのゼミ対抗討論会、企業・自治体でのインターンシップ、フィールドワークなどの実施があげられます。

他学部配当専門教育科目の履修

他学部配当の専門教育科目の履修については、次のとおりとします。

1　審査の上、履修を許可します。
　なお、履修できる他学部配当の授業科目はインフォメーションシステムにてお知らせします。
2　当該学部の配当年次にかかわらず、3年次以上でなければ履修することができません。

自由科目・他学部配当科目等の履修

各種資格取得に必要な他学部配当科目の履修については、次のとおりとします。

1　審査の上、履修を許可します。
2　当該科目の配当年次又はそれ以上の年次でなければ履修することができません。

関西大学大学院ガバナンス研究科博士課程前期課程の授業科目の履修について

関西大学大学院ガバナンス研究科への進学を希望する政策創造学部生が3年次秋学期、4年次に所定の基準を満たした場合、次のとおり大学院科目の履修を許可します。

履修許可科目、履修許可基準及び履修申込手続き等の詳細は、インフォメーションシステム等でお知らせします。

1　所定の大学院授業科目を年間10科目20単位まで履修することができます。
2　政策創造学部及びガバナンス研究科で履修する科目の総単位数は、学部の履修制限単位（各学期25単位以内、年間48単位以内）とします。
3　この制度を利用して修得した単位については、卒業所要単位に含めることはできません。ただし、ガバナンス研究科に進学した場合は、所定の手続きを経て許可された者に限り、修士課程の修了単位として10単位を限度に単位を認定します。
4　この制度によりガバナンス研究科の授業科目を10単位以上修得し、ガバナンス研究科進学後、修了単位として認定された者については、所定の手続きを経て許可された者に限り、修士課程2年次配当の科目を1年次で履修することが認められ、修士課程を1年で修了することが可能となります。

早期卒業制度について

政策創造学部では、本学ガバナンス研究科への進学を強く希望する学生を対象に、卒業所要単位を優秀な成績で修得した場合には3年の修学期間でも卒業を認める「早期卒業制度」を設けております。なお、詳細につきましては別途お知らせいたします。

試験等における不正行為について

原則として、試験（平常試験・到達度の確認・定期試験）において、不正行為を行った場合は当該学期全科目を無効とします。

授業科目一覧表

1　共通教養科目

《関西大学科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	関西大学を知る				
GEA1001	日本の近現代史と関西大学―知の群像	1	2	1	2
GEA1002	吹田市と関西大学	1	2	1	2
GEA1003	学生生活とリスク	1	2	1	2
	戦略トピックス				
GEA1004	SDGs入門	1	2	1	2
GEA1005	SDGsの実践	1	2	1	2
GEA1006	金融の実務から見るSDGs	1	2	1	2
GEA1007	環境問題と環境政策のルーツ	1	2	1	2
GEA1008	活用法を見聞するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1009	活用法を体験するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1010	起業に学ぶ「考動力」入門（関大出身起業家と考える未来の自分）	1	2	1	2
GEA1011	起業に学ぶ「考動力」実践（企業と考える未来のデザイン）	1	2	1	2
GEA2001	社会のためのデータサイエンス実践基礎	2	2	1	2
GEA2002	AI・データエンジニアリング実践基礎	2	2	1	2

《基盤科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEB1001	スタディスキルゼミ（各テーマ）	1	2	1	2
GEB1002	プロジェクト学習１	1	2	1	2
GEB2001	プロジェクト学習２	2	2	1	2

《自己形成科目群》

領域：人間を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1001	こころとからだを哲学する
	GEC1002	文化・社会と心理学
	GEC1003	身体運動の人間学
	GEC1004	ことばと思考
	GEC1005	地図の知恵、地図の思想
	GEC1006	自己と他者
	GEC1007	自己をみつめる
	GEC1008	日本人の宗教観
	GEC1009	美術からみる表現と理解
	GEC1010	入門・新しい部落問題
	GEC1011	現代社会とジェンダー
	GEC1012	現代社会とセクシュアリティ
	GEC1013	生と死の倫理学
	GEC1014	食を知る
	GEC1015	食のリスクマネジメント
	GEC1016	宗教と現代
	GEC1017	新しい人権論への招待
教養を深める（知の見取り図）	GEC1018	哲学を学ぶ
	GEC1019	論理学を学ぶ
	GEC1020	心理学を学ぶ
	GEC1021	宗教学を学ぶ
	GEC1022	イスラーム世界の歴史を学ぶ
	GEC1023	考古学を学ぶ
	GEC1024	日本語を学ぶ
	GEC1025	日本文学を学ぶ
	GEC1026	人文地理学を学ぶ
	GEC1027	地域社会の生活と資源
	GEC1028	芸術学を学ぶ
	GEC1029	人類学入門
教養を深める（知の探求）	GEC1030	日本の古典文学を読む
	GEC1031	日本の近代文学を読む
	GEC1032	わかる諸子百家
	GEC1033	日本の文化と人間を考える
	GEC1034	子供から大人への過程を考える
	GEC1035	社会と個人の心理学
	GEC1036	世界の文学を味わう
	GEC1037	西洋美術を味わう
	GEC1038	日本・東洋美術を味わう
	GEC1039	文化史に親しもう
	GEC1040	アジアの文化と世界遺産
	GEC1041	大学教育論～大学の主人公はきみたちだ！～
チャレンジ科目	GEC1042	各テーマ

【配当年次：１・２・３・４　　単位：２
授業期間：１　　毎週授業時間：２】

領域：社会を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1043	今日の道徳的ディレンマ
	GEC1044	世界の宗教
	GEC1045	環境の倫理学
	GEC1046	企業と社会
	GEC1047	技術と社会
	GEC1048	生活の中の経済学
	GEC1049	メディア・リテラシー入門
	GEC1050	イスラム社会を考える
	GEC1051	日本の伝統文化
	GEC1052	方言学入門
	GEC1053	共生社会のライフデザイン
	GEC1054	日本の社会と生活の歴史
	GEC1055	優良企業の見分け方
	GEC1056	社会学で学ぶ現代社会
	GEC1057	政治学と21世紀社会
	GEC1058	法実務入門
	GEC1059	地域再発見の旅
	GEC1060	旅から始める知の冒険
	GEC1061	移動する人々
	GEC1062	オリンピックの共生思想
	GEC1063	外来文化と日本の歴史
	GEC1064	アジアの中の日本歴史
	GEC1065	世界の中の日本経済
	GEC1066	日本史の中の平和と戦争
	GEC1067	世界史の中の平和と戦争
	GEC1068	読書への誘い
教養を深める（知の見取り図）	GEC1069	倫理学を学ぶ
	GEC1070	法学を学ぶ
	GEC1071	政治学のすすめ
	GEC1072	民俗学を学ぶ
	GEC1073	基礎からのマクロ経済学
	GEC1074	基礎からのミクロ経済学
	GEC1075	社会学入門
	GEC1076	日本国憲法
	GEC1077	基礎からの情報処理
	GEC1078	ビジネスを学ぶ
	GEC1079	日本の歴史を学ぶ
	GEC1080	アジア史を学ぶ
	GEC1081	西洋の歴史を学ぶ
	GEC1082	社会思想史を学ぶ
教養を深める（知の探求）	GEC1083	名作を読む
	GEC1084	哲学の古典を読み解く
	GEC1085	聖典と宗教思想
	GEC1086	近代市民社会思想を知ろう
	GEC1087	労働と雇用を考える
	GEC1088	日本の地域史を考える
	GEC1089	世界の地域文化を知ろう
	GEC1090	少子高齢化社会を考える
	GEC1091	法の社会学
	GEC1092	日本史の中の女性と社会を知ろう
	GEC1093	日本社会の成熟と変動を知ろう
	GEC1094	強い会社のマネジメントを知る
	GEC1095	西洋世界の社会と歴史を考える
	GEC1096	欧米世界の歴史と文化を知ろう
	GEC1097	中国と日本の文化交流
	GEC1098	異文化への理解を深める
	GEC1099	現代都市の生態とエスニシティ
	GEC1100	社会的養育を考える
チャレンジ科目	GEC1101	各テーマ

領域：自然と向き合う

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1102	身の回りの化学
	GEC1103	確率・統計でものを考える
	GEC1104	自然災害の科学
	GEC1105	科学と文化
	GEC1106	生物と環境
	GEC1107	人類紀の環境変動
	GEC1108	建築と景観
	GEC1109	エネルギーと環境
	GEC1110	科学と技術
	GEC1111	現代科学の展開
	GEC1112	統計学を学ぶ
教養を深める（知の見取り図）	GEC1113	自然地理学を学ぶ
	GEC1114	自然科学史を学ぶ
	GEC1115	バイオサイエンス入門
	GEC1116	数学を学ぶ（各テーマ）
	GEC1117	物理を学ぶ（各テーマ）
教養を深める（知の探求）	GEC1118	仕組みを形にする科学技術
	GEC1119	現代社会を支える電気電子情報技術
	GEC1120	宇宙のすがたと歴史
	GEC1121	近代科学の系譜
	GEC1122	気象と気候を学ぶ
	GEC1123	地震と火山のメカニズムと防災
チャレンジ科目	GEC1124	各テーマ

【配当年次：1・2・3・4　　単位：2　　授業期間：1　　毎週授業時間：2】

《健康・スポーツ科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GED1001	健康・スポーツ科学実習a(各種目)	1	1	1	2
GED1002	健康・スポーツ科学実習b(各種目)	1	1	1	2
GED1003	健康・スポーツ科学実習c(各種目)	1	1	1	2
GED1004	健康・スポーツ科学論	1	2	1	2
	(生涯スポーツ・身体運動文化コース)				
GED1005	関西大学スポーツ文化論	1	2	1	2
GED1006	スポーツ運動学概論	1	2	1	2
GED1007	スポーツ社会学概論	1	2	1	2
GED1008	スポーツ心理学概論	1	2	1	2
GED1009	スポーツ栄養学概論	1	2	1	2
GED1010	コーチングの科学	1	2	1	2
GED1011	トレーニング科学概論	1	2	1	2
GED1012	コンディショニング科学概論	1	2	1	2

《キャリア形成科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEE1001	大学生から始めるキャリア形成	1	2	1	2
GEE1002	キャリア形成入門演習	1	2	1	2
GEE2001	理論と実践から探求するキャリア形成	2	2	1	2
GEE2002	現代社会を生き抜くためのキャリア形成	2	2	1	2
GEE2003	キャリア形成実践演習	2	2	1	2
GEE1003	インターンシップ(ビジネス)	1~3	2	1	4
GEE1004	インターンシップ（学校１）	3･4	2	1	4
GEE1005	インターンシップ（学校２）	3･4	2	1	4
GEE1006	インターンシップ（学校３）	3･4	2	1	4

《グローバル科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学準備スキルアップ科目】				
GEF2001	Foundation for Academic English	1~4	2	1	2
GEF1001	Academic Writing Practice	1~4	2	1	2
GEF2002	Academic Discussions & Debates	1~4	2	1	2
GEF2003	Presentation Skills	1~4	2	1	2
GEF2004	留学のための英語スキルアップ	1~4	2	1	2
GEF2005	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2006	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2007	ASEAN Studies	1~4	2	1	2
GEF1002	Understanding Cross-Cultural Communication	1~4	2	1	2
GEF1003	KUGF Independent Study (English Skills Development)	1~4	2	1	2
GEF2008	KUGF Independent Study (Doing a Research in English)	1~4	2	1	2
GEF2009	Global Awareness Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2010	Global Awareness Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2011	English Communication Skills for Business Contexts	1~4	2	1	2
	【グローバル・フロンティア科目】				
	Module 1 . Engineering Approach to Urban Issues				
GEF3001	Disaster Transport Planning	1~4	2	1	2
	Module 2. Food Science & Biotechnology				
GEF3002	Biotechnology and Bioethics	1~4	2	1	2
GEF3003	Marketing of Food, Alcohol and Cosmetics	1~4	2	1	2
GEF3004	Science of Washoku (Japanese Cuisine)	1~4	2	1	2
GEF3005	Food Safety	1~4	2	1	2
GEF3006	Polysaccharide Science	1~4	2	1	2
	Module 3 .International Business & Entrepreneurship				
GEF3007	International Business for Entrepreneurs	1~4	2	1	2
GEF3008	Japanese Industries and Companies (The Global Competition)	1~4	2	1	2
GEF3009	Business & Japanese People	1~4	2	1	2
GEF3010	Marketing in Japan	1~4	2	1	2
GEF3011	Business for SDGs (Sustainable Development Goals)	1~4	2	1	2
	Module 4 . Japan Studies				
GEF3012	Japanese Philosophy and Thoughts	1~4	2	1	2
GEF3013	Japanese Religion	1~4	2	1	2
GEF3014	Japanese Arts	1~4	2	1	2
GEF3015	Japanese History (The History and Culture of Medieval Japan)	1~4	2	1	2
GEF3016	Japanese History (Bushido: The Way of the Warrior)	1~4	2	1	2
GEF3017	Japanese Literature (Survey of Post-1945)	1~4	2	1	2
GEF3018	Japanese Literature (Intro. to Classical JPN Literature)	1~4	2	1	2
GEF3019	Japanese Culture (Modern Culture and Post-war History)	1~4	2	1	2
GEF3020	Japanese Culture (JPN Culture and Contemporary Literature)	1~4	2	1	2
GEF3021	Comparative Asian Cultures Studies	1~4	2	1	2
GEF3022	Japanese Law and Politics	1~4	2	1	2
GEF3023	Japanese Economy (Topics in Japanese Economy and Discussion)	1~4	2	1	2
GEF3024	Japanese Society	1~4	2	1	2

(注)「インターンシップ（ビジネス、学校１～３)」は、修得しても、卒業所要単位に含めることはできません。

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEF3025	Japanese Popular Culture (Postwar Japanese Culture)	1~4	2	1	2
GEF3026	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. to Kendo)	1~4	2	1	2
GEF3027	Seminar in Japanology (The Japanese Language and Society)	1~4	2	1	2
GEF3028	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. To Naginata)	1~4	2	1	2
GEF3029	Seminar in Japanology (War and Conflict through JPN Film)	1~4	2	1	2
	Module 5 . Language Teaching & Communication				
GEF3030	Second Language Acquisition	3	2	1	2
GEF3031	Individual Differences in Language Learning	3	2	1	2
GEF3032	Ed. Tech. & Materials Development in FLT	3	2	1	2
GEF3033	Early Foreign Language Education	3	2	1	2
GEF3034	Structure of Language (discourse and meaning)	3	2	1	2
GEF3035	Linguistic Analysis (English)	3	2	1	2
GEF3036	International Business Communication	3	2	1	2
	Module 6 . Studies on Foreign Affairs				
GEF3037	International Development	1~4	2	1	2
GEF3038	Area Studies (Europe I)	1~4	2	1	2
GEF3039	Area Studies (Europe II)	1~4	2	1	2
GEF3040	Area Studies (India)	1~4	2	1	2
GEF3041	Japan in International Affairs	1~4	2	1	2
	Module 7 . Fundamentals for Social Science Studies				
GEF3042	Critical Thinking for Social and Global Issues	1~4	2	1	2
GEF3043	Research Methods for Social Science	1~4	2	1	2
GEF3044	Global Sociology	1~4	2	1	2
GEF3045	Japanese Computerization and Society	1~4	2	1	2
GEF3046	Methods of Comparative Analysis (ENG and JPN Communication)	1~4	2	1	2
GEF3047	Contemporary Gender Studies	1~4	2	1	2
	Module 8 . Applied Science and Engineering				
GEF3048	Japanese Science and Technology	1~4	2	1	2
GEF3049	Environmental Biology	1~4	2	1	2
GEF3050	Information and Communication Technologies	1~4	2	1	2
GEF3051	Introduction to Applied Science	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学実践科目】				
GEF1004	KUGF Field Study（各プログラム）	1~4	2	1	4
GEF1005	海外研修（各セミナー）	1~4	1~2	1	4
GEF1006	外国語運用実習(各セミナー)	1~4	1	1	2

《大学・学部・社会連携科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【大学連携科目】				
	〔大学コンソーシアム大阪プログラム〕				
GEG1001	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【学部連携科目】				
	〔学部オープン科目〕				
GEG1002	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【社会連携科目】				
	(講義科目)				
GEG1003	国際協力の基礎を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1004	国際協力ボランティアの理論を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1005	国際協力レディネス	1~4	2	1	2
GEG1006	国際協力フォローアップ	1~4	2	1	2
	(実習科目)				
GEG1007	国際協力ボランティア実習A	1~4	4	1	8
GEG1008	国際協力ボランティア実習B	1~4	2	1	4
GEG1009	国際協力ボランティア実習C	1~4	1	1	2
GEG3001	サービスラーニング(各テーマ)	3	2	1	2

※共通教養科目の開講科目等詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

外国語科目

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GFE1001	英語 Ⅰa	1	1	1	2
GFE1002	英語 Ⅰb	1	1	1	2
GFE1003	英語 Ⅱa	1	1	1	2
GFE1004	英語 Ⅱb	1	1	1	2
GFE2001	英語 Ⅲa	2	1	1	2
GFE2002	英語 Ⅲb	2	1	1	2
GFE2003	英語 Ⅳa	2	1	1	2
GFE2004	英語 Ⅳb	2	1	1	2
GFE3001	英語 Va(各テーマ)	3	1	1	2
GFE3002	英語 Vb(各テーマ)	3	1	1	2
GFE3003	英語 Ⅵa(各テーマ)	3	1	1	2
GFE3004	英語 Ⅵb(各テーマ)	3	1	1	2
GFE1005	プロフェッショナル英語 Ⅰa	1	1	1	2
GFE1006	プロフェッショナル英語 Ⅰb	1	1	1	2
GFE1007	プロフェッショナル英語 Ⅱa	1	1	1	2
GFE1008	プロフッェショナル英語 Ⅱb	1	1	1	2
GFE2005	プロフェッショナル英語 Ⅲa	2	1	1	2
GFE2006	プロフェッショナル英語 Ⅲb	2	1	1	2
GFE2007	プロフェッショナル英語 Ⅳa	2	1	1	2
GFE2008	プロフェッショナル英語 Ⅳb	2	1	1	2
GFE3005	プロフェッショナル英語(各テーマ)	3	1	1	2
GFG1001	ドイツ語 Ⅰa	1	1	1	2
GFG1002	ドイツ語 Ⅰb	1	1	1	2
GFG1003	ドイツ語 Ⅱa	1	1	1	2
GFG1004	ドイツ語 Ⅱb	1	1	1	2
GFG2001	ドイツ語 Ⅲa	2	1	1	2
GFG2002	ドイツ語 Ⅲb	2	1	1	2
GFG2003	ドイツ語 Ⅳa	2	1	1	2
GFG2004	ドイツ語 Ⅳb	2	1	1	2
GFG3001	ドイツ語 Va	3	1	1	2
GFG3002	ドイツ語 Vb	3	1	1	2
GFG3003	ドイツ語 Ⅵa	3	1	1	2
GFG3004	ドイツ語 Ⅵb	3	1	1	2
GFF1001	フランス語 Ⅰa	1	1	1	2
GFF1002	フランス語 Ⅰb	1	1	1	2
GFF1003	フランス語 Ⅱa	1	1	1	2
GFF1004	フランス語 Ⅱb	1	1	1	2
GFF2001	フランス語 Ⅲa	2	1	1	2
GFF2002	フランス語 Ⅲb	2	1	1	2
GFF2003	フランス語 Ⅳa	2	1	1	2
GFF2004	フランス語 Ⅳb	2	1	1	2
GFF3001	フランス語 Va	3	1	1	2
GFF3002	フランス語 Vb	3	1	1	2
GFF3003	フランス語 Ⅵa	3	1	1	2
GFF3004	フランス語 Ⅵb	3	1	1	2
GFR1001	ロシア語 Ⅰa	1	1	1	2
GFR1002	ロシア語 Ⅰb	1	1	1	2
GFR1003	ロシア語 Ⅱa	1	1	1	2
GFR1004	ロシア語 Ⅱb	1	1	1	2
GFR2001	ロシア語 Ⅲa	2	1	1	2
GFR2002	ロシア語 Ⅲb	2	1	1	2
GFR2003	ロシア語 Ⅳa	2	1	1	2
GFR2004	ロシア語 Ⅳb	2	1	1	2
GFR3001	ロシア語 Va	3	1	1	2
GFR3002	ロシア語 Vb	3	1	1	2
GFR3003	ロシア語 Ⅵa	3	1	1	2
GFR3004	ロシア語 Ⅵb	3	1	1	2
GFS1001	スペイン語 Ⅰa	1	1	1	2
GFS1002	スペイン語 Ⅰb	1	1	1	2
GFS1003	スペイン語 Ⅱa	1	1	1	2
GFS1004	スペイン語 Ⅱb	1	1	1	2
GFS2001	スペイン語 Ⅲa	2	1	1	2
GFS2002	スペイン語 Ⅲb	2	1	1	2
GFS2003	スペイン語 Ⅳa	2	1	1	2
GFS2004	スペイン語 Ⅳb	2	1	1	2
GFS3001	スペイン語 Va	3	1	1	2
GFS3002	スペイン語 Vb	3	1	1	2
GFS3003	スペイン語 Ⅵa	3	1	1	2
GFS3004	スペイン語 Ⅵb	3	1	1	2
GFC1001	中国語 Ⅰa	1	1	1	2
GFC1002	中国語 Ⅰb	1	1	1	2
GFC1003	中国語 Ⅱa	1	1	1	2
GFC1004	中国語 Ⅱb	1	1	1	2
GFC2001	中国語 Ⅲa	2	1	1	2
GFC2002	中国語 Ⅲb	2	1	1	2
GFC2003	中国語 Ⅳa	2	1	1	2
GFC2004	中国語 Ⅳb	2	1	1	2
GFC3001	中国語 Va	3	1	1	2
GFC3002	中国語 Vb	3	1	1	2
GFC3003	中国語 Ⅵa	3	1	1	2
GFC3004	中国語 Ⅵb	3	1	1	2
GFK1001	朝鮮語 Ⅰa	1	1	1	2
GFK1002	朝鮮語 Ⅰb	1	1	1	2
GFK1003	朝鮮語 Ⅱa	1	1	1	2
GFK1004	朝鮮語 Ⅱb	1	1	1	2
GFK2001	朝鮮語 Ⅲa	2	1	1	2
GFK2002	朝鮮語 Ⅲb	2	1	1	2
GFK2003	朝鮮語 Ⅳa	2	1	1	2
GFK2004	朝鮮語 Ⅳb	2	1	1	2
GFK3001	朝鮮語 Va	3	1	1	2
GFK3002	朝鮮語 Vb	3	1	1	2
GFK3003	朝鮮語 Ⅵa	3	1	1	2
GFK3004	朝鮮語 Ⅵb	3	1	1	2
GFP1001	政策創造学部海外研修(各セミナー)	1~4	2	1	4
GFO1001	検定認定1(各検定試験)	1~4	2	—	—
GFO1002	検定認定2(各検定試験)	1~4	2	—	—
GFO1003	検定認定3(各検定試験)	1~4	2	—	—

専門教育科目（学科共通）

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	（データ分析科目）				
FPS1001	データ分析	1	2	1	2
	（導入科目）				
FPS1002	導入ゼミⅠ（社会科学入門）	1	2	1	2
FPS1003	導入ゼミⅡ	1	2	1	2
FPS1004	政策学の基礎	1	2	1	2
FPS1005	国際アジア研究の基礎	1	2	1	2
FPS1006	国際関係論入門	1	2	1	2
FPS1007	政治学入門Ⅰ	1	2	1	2
FPS1008	政治学入門Ⅱ	1	2	1	2
FPS1009	法律学入門Ⅰ	1	2	1	2
FPS1010	法律学入門Ⅱ（各テーマ）	1	2	1	2
FPS1011	経済学入門	1	2	1	2
FPS1012	ミクロ経済学の基礎	1	2	1	2
FPS1013	マクロ経済学の基礎	1	2	1	2
FPS1014	経営学入門	1	2	1	2
	（基幹科目）				
FPS2001	専門導入ゼミⅠ	2	2	1	2
FPS2002	専門導入ゼミⅡ	2	2	1	2
FPS2003	専門導入ゼミⅢ（各テーマ）	2	2	1	2
FPS3001	専門演習Ⅰ	3	4	2	2
FPS4001	専門演習Ⅱ	4	4	2	2
FPS4002	卒業論文研究	4	2	—	—
FPS2004	公共政策論	2	2	1	2
FPS2005	国際法	2	2	1	2
FPS2006	政治学史	2	2	1	2
FPS2007	政治過程論	2	2	1	2
FPS2008	現代日本政治論	2	2	1	2
FPS2009	安全保障論	2	2	1	2
FPS2010	行政学	2	2	1	2
FPS2011	自治体経営論	2	2	1	2
FPS2012	国法学Ⅰ	2	2	1	2
FPS2013	国法学Ⅱ	2	2	1	2
FPS2014	民事法学Ⅰ	2	2	1	2
FPS2015	刑事法学Ⅰ	2	2	1	2
FPS2016	社会人類学	2	2	1	2
FPS2017	経済政策論	2	2	1	2
FPS2018	財政学	2	2	1	2
FPS2019	金融政策	2	2	1	2
FPS2020	国際経済論	2	2	1	2
FPS2021	国際経済政策	2	2	1	2
FPS2022	地域経済論	2	2	1	2
FPS2023	企業と組織Ⅰ	2	2	1	2
FPS2024	ロジスティクス論	2	2	1	2
FPS2025	社会保障論	2	2	1	2
FPS2026	社会政策論	2	2	1	2
FPS2027	リスクマネジメント論	2	2	1	2

専門教育科目（政策学科）

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	（展開科目）				
	〔政治経済専修〕				
POS2001	多文化共生論	2	2	1	2
POS2002	開発法学	2	2	1	2
POS2003	国際社会と経済	2	2	1	2
POS2004	日本経済論	2	2	1	2
POS2005	政策規範論	2	2	1	2
POS2006	政策過程論	2	2	1	2
POS2007	民事法学Ⅱ	2	2	1	2
POS2008	公共選択論	2	2	1	2
POS2009	福祉政策論	2	2	1	2
POS2010	特殊講義（各テーマ）	1	2	1	2
POS3001	プロジェクト型演習Ⅰ	3	2	1	2
POS3002	プロジェクト型演習Ⅱ	3	2	1	2
POS3003	環境政策	3	2	1	2
POS3004	国際公共政策	3	2	1	2
POS3005	ヨーロッパ統合論	3	2	1	2
POS3006	国際協力論	3	2	1	2
POS3007	国際社会論	3	2	1	2
POS3008	外交政策	3	2	1	2
POS3009	政治学史と政策	3	2	1	2
POS3010	ゲーム理論	3	2	1	2
POS3011	比較政治学	3	2	1	2
POS3012	政治参加論	3	2	1	2
POS3013	法の歴史と思想	3	2	1	2
POS3014	国際金融論	3	2	1	2
POS3015	国際環境法	3	2	1	2
POS3016	国法学Ⅲ	3	2	1	2
POS3017	計量分析	3	2	1	2
POS3018	民事法学Ⅲ	3	2	1	2
POS3019	刑事法学Ⅱ	3	2	1	2
POS3020	社会と政策Ⅰ（各テーマ）	3	2	1	2
POS3021	社会と政策Ⅱ（各テーマ）	3	2	1	2
POS2011	在外社会科学研究（各テーマ）	2	2	1	2
	〔地域経営専修〕				
POS2012	国際社会と経済	2	2	1	2
POS2013	アジア経済論	2	2	1	2
POS2014	日本経済論	2	2	1	2
POS2015	民事法学Ⅱ	2	2	1	2
POS2016	公共選択論	2	2	1	2
POS2017	福祉政策論	2	2	1	2
POS2018	地域社会論	2	2	1	2
POS2019	会計学	2	2	1	2
POS2020	企業と組織Ⅱ	2	2	1	2
POS2021	特殊講義（各テーマ）	1	2	1	2
POS3022	プロジェクト型演習Ⅰ	3	2	1	2
POS3023	プロジェクト型演習Ⅱ	3	2	1	2
POS3024	開発経済学	3	2	1	2
POS3025	交通論	3	2	1	2
POS3026	政治社会学	3	2	1	2
POS3027	政治参加論	3	2	1	2
POS3028	ゲーム理論	3	2	1	2
POS3029	計量分析	3	2	1	2
POS3030	金融工学	3	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
POS3031	コーポレートファイナンス	3	2	1	2
POS3032	損害保険論	3	2	1	2
POS3033	財務戦略論	3	2	1	2
POS3034	環境政策	3	2	1	2
POS3035	組織と法	3	2	1	2
POS3036	都市計画	3	2	1	2
POS3037	地域産業戦略論	3	2	1	2
POS3038	まちづくり論	3	2	1	2
POS3039	自治体政策論	3	2	1	2
POS3040	地域システム論	3	2	1	2
POS3041	社会と政策Ⅰ(各テーマ)	3	2	1	2
POS3042	社会と政策Ⅱ(各テーマ)	3	2	1	2
POS2024	在外社会科学研究(各テーマ)	2	2	1	2
	(自由科目)				
POS1001	法学入門	1	2	1	2
POS1002	教職概説	1	2	1	2
POS1003	教育原理	1	2	1	2
POS1004	図書館情報資源概論	1	2	1	2
POS1005	心理学の諸理論	1	2	1	2
POS1007	地誌学a	1	2	1	2
POS1008	地誌学b	1	2	1	2
POS1009	宗教学概論a	1	2	1	2
POS1010	宗教学概論b	1	2	1	2
POS1011	日本史概説a	1･2	2	1	2
POS1012	日本史概説b	1･2	2	1	2
POS1013	東洋史概説a	1･2	2	1	2
POS1014	東洋史概説b	1･2	2	1	2
POS1015	西洋史概説a	1･2	2	1	2
POS1016	西洋史概説b	1･2	2	1	2
POS1017	人文地理学概説a	1･2	2	1	2
POS1018	人文地理学概説b	1･2	2	1	2
POS1019	自然地理学概説a	1･2	2	1	2
POS1020	自然地理学概説b	1･2	2	1	2
POS1021	倫理学概論a	1~4	2	1	2
POS1022	倫理学概論b	1~4	2	1	2
POS2025	教育制度論	2	2	1	2
POS2026	教育心理学	2	2	1	2
POS3043	特別支援教育論	3	1	1	2
POS2027	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用を含む)	2	2	1	2
POS2028	社会科教育法㈠	2	2	1	2
POS2029	社会科教育法㈡	2	2	1	2
POS2030	地理歴史科教育法㈠	2	2	1	2
POS2031	地理歴史科教育法㈡	2	2	1	2
POS2032	公民科教育法㈠	2	2	1	2
POS2033	公民科教育法㈡	2	2	1	2
POS2034	道徳教育の理論と方法	2	2	1	2
POS3044	総合的な学習の時間の指導法	3	1	1	2
POS2035	人権教育論	2	2	1	2
POS2036	東洋史	2	2	1	2
POS2037	西洋史	2	2	1	2
POS2038	地理学概説a	2	2	1	2
POS2039	地理学概説b	2	2	1	2
POS2040	政治学原論1	2	2	1	2
POS2041	政治学原論2	2	2	1	2
POS2042	メディア教育論	2	2	1	2
POS2043	特別活動論	2	2	1	2
POS2044	教育相談論	2	2	1	2
POS2045	ジェンダーと教育	2	2	1	2
POS2046	教育と文化の社会学	2	2	1	2
POS2047	情報資源組織論	2	2	1	2
POS2048	学校経営と学校図書館	2	2	1	2
POS2049	学習指導と学校図書館	2	2	1	2
POS2050	読書と豊かな人間性	2	2	1	2
POS2051	情報メディアの活用	2	2	1	2
POS2052	哲学概論a	2･3	2	1	2
POS2053	哲学概論b	2･3	2	1	2
POS3045	カリキュラム開発論	3	2	1	2
POS3046	生徒・進路指導論	3	2	1	2
POS3047	社会科教育法㈢	3	2	1	2
POS3048	社会科教育法㈣	3	2	1	2
POS3049	教育実習事前指導	3	1	1	2
POS3050	教育実習㈠	3･4	2	1	4
POS4001	教育実習㈡	4	2	1	4
POS4002	教職実践演習(中等)	4	2	1	2

専門教育科目(国際アジア学科)

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	(展開科目)				
GLA2001	多文化共生論	2	2	1	2
GLA2002	開発法学	2	2	1	2
GLA2003	民事法学Ⅱ	2	2	1	2
GLA2004	コモン・ロー地域と法	2	2	1	2
GLA2005	アジアの法と社会Ⅰ(各テーマ)	2	2	1	2
GLA2006	アジアの法と社会Ⅱ(各テーマ)	2	2	1	2
GLA2007	国際社会と経済	2	2	1	2
GLA2008	アジア経済論	2	2	1	2
GLA2009	地域社会論	2	2	1	2
GLA2010	特殊講義(各テーマ)	1	2	1	2
GLA3001	プロジェクト型演習Ⅰ	3	2	1	2
GLA3002	プロジェクト型演習Ⅱ	3	2	1	2
GLA3003	国際公共政策	3	2	1	2
GLA3004	ヨーロッパ統合論	3	2	1	2
GLA3005	国際協力論	3	2	1	2
GLA3006	国際社会論	3	2	1	2
GLA3007	外交政策	3	2	1	2
GLA3008	政治学史と政策	3	2	1	2
GLA3009	比較法制史	3	2	1	2
GLA3010	開発経済学	3	2	1	2
GLA3011	環境法政策	3	2	1	2
GLA3012	国際金融論	3	2	1	2
GLA3013	国際環境法	3	2	1	2
GLA3014	比較政治学	3	2	1	2
GLA3015	国法学Ⅲ	3	2	1	2
GLA3016	民事法学Ⅲ	3	2	1	2
GLA3017	刑事法学Ⅱ	3	2	1	2
GLA3018	法人・団体法論	3	2	1	2
GLA3019	ドイツの法と社会(各テーマ)	3	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GLA3020	フランスの法と社会(各テーマ)	3	2	1	2
GLA3021	アジアの法と社会Ⅲ(各テーマ)	3	2	1	2
GLA3022	アジアの法と社会Ⅳ(各テーマ)	3	2	1	2
GLA3023	アジアの法と社会Ⅴ(各テーマ)	3	2	1	2
GLA3024	アジアの法と社会Ⅵ(各テーマ)	3	2	1	2
GLA3025	在外社会科学研究(各テーマ)	2	2	1	2
GLA3026	各国の政治・経済(各テーマ)	3	2	1	2
GLA3027	グローバル・スタディーズ・セミナー(各テーマ)	3	2	1	2
	(自由科目)				
GLA1001	教職概説	1	2	1	2
GLA1002	教育原理	1	2	1	2
GLA1003	図書館情報資源概論	1	2	1	2
GLA1004	心理学の諸理論	1	2	1	2
GLA1006	宗教学概論 a	1	2	1	2
GLA1007	宗教学概論 b	1	2	1	2
GLA1008	倫理学概論 a	1~4	2	1	2
GLA1009	倫理学概論 b	1~4	2	1	2
GLA2011	教育制度論	2	2	1	2
GLA2012	教育心理学	2	2	1	2
GLA2013	特別支援教育論	3	1	1	2
GLA2014	総合的な学習の時間の指導法	3	1	1	2
GLA2015	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用を含む)	2	2	1	2
GLA2016	公民科教育法 (一)	2	2	1	2
GLA2017	公民科教育法 (二)	2	2	1	2
GLA2018	道徳教育の理論と方法	2	2	1	2
GLA2019	人権教育論	2	2	1	2
GLA2020	メディア教育論	2	2	1	2
GLA2021	特別活動論	2	2	1	2
GLA2022	教育相談論	2	2	1	2
GLA2023	ジェンダーと教育	2	2	1	2
GLA2024	教育と文化の社会学	2	2	1	2
GLA2025	情報資源組織論	2	2	1	2
GLA2026	学校経営と学校図書館	2	2	1	2
GLA2027	学習指導と学校図書館	2	2	1	2
GLA2028	読書と豊かな人間性	2	2	1	2
GLA2029	情報メディアの活用	2	2	1	2
GLA2030	哲学概論 a	2·3	2	1	2
GLA2031	哲学概論 b	2·3	2	1	2
GLA3028	カリキュラム開発論	3	2	1	2
GLA3029	生徒・進路指導論	3	2	1	2
GLA3030	教育実習事前指導	3	1	1	2
GLA3031	教育実習 (一)	3·4	2	1	4
GLA4001	教育実習 (二)	4	2	1	4
GLA4002	教職実践演習(中等)	4	2	1	2

外国人留学生科目

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	〈必　修〉				
FOS1001	日本語 Ⅰ	1	2	1	4
FOS1002	日本語 Ⅱ	1	2	1	4
FOS1003	日本語 Ⅲ	1	2	1	4
FOS1004	日本語 Ⅳ	1	2	1	4
	〈選　択〉				
FOS1005	日本事情 Ⅰ	1	2	1	2
FOS1006	日本事情 Ⅱ	1	2	1	2
FOS2001	実践ビジネス日本語 Ⅰ	2	2	1	2
FOS2002	実践ビジネス日本語 Ⅱ	2	2	1	2
FOS2003	キャリアデザインⅠ(日本の社会と企業)	2	2	1	2
FOS2004	キャリアデザインⅡ(日本の就職と働き方)	2	2	1	2
FOS3001	キャリアデザインⅢ(日本の社会で働く)	3	2	1	2
FOS1007	Contemporary Japan (Understanding Japan)	1~4	2	1	2
FOS1008	Contemporary Japan (Researching Japan)	1~4	2	1	2
FOS1009	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 1)	1~4	2	1	2
FOS1010	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 2)	1~4	2	1	2
FOS1011	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 1)	1~4	2	1	2
FOS1012	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 2)	1~4	2	1	2
FOS1013	Communication in Japanese Society (Business Japanese)	1~4	2	1	2
FOS1014	Communication in Japanese Society (JPN Corporate Culture)	1~4	2	1	2
FOS1015	Field-Based Learning (Society and Workplace Culture in Japan)	1~4	2	1	2
FOS1016	Japanese (1-a)	1~4	2	1	4
FOS1017	Japanese (1-b)	1~4	2	1	4
FOS1018	Japanese (2-a)	1~4	2	1	4
FOS1019	Japanese (2-b)	1~4	2	1	4
FOS1020	Japanese (3-a)	1~4	2	1	4
FOS1021	Japanese (3-b)	1~4	2	1	4
FOS1022	Japanese (4-a)	1~4	2	1	4
FOS1023	Japanese (4-b)	1~4	2	1	4
FOS1024	Japanese (5-a)	1~4	2	1	4
FOS1025	Japanese (5-b)	1~4	2	1	4
FOS1026	Japanese (6-a)	1~4	2	1	4
FOS1027	Japanese (6-b)	1~4	2	1	4
FOS1028	Japanese (7-a)	1~4	2	1	4
FOS1029	Japanese (7-b)	1~4	2	1	4

［科目番号について］

本学では、科目の特性・配当年次を示すため、各科目に科目番号を付与しています。

〈共通教養科目〉

アルファベット３桁で「共通教養科目」と「群」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。また、共通教養科目のうちグローバル科目群の留学準備スキルアップ科目及びグローバル・フロンティア科目は、配当年次に代えて外部テストによる難易度を示しています。

GE　A　1　000

GE：種別　A：群　1：配当年次（難易度）　000：連番

種別　共通教養科目はすべてGE

群

A	関西大学科目群
B	基盤科目群
C	自己形成科目群
D	健康・スポーツ科目群
E	キャリア形成科目群
F	グローバル科目群
G	大学・学部・社会連携科目群

難易度（受講には各レベルの英語運用能力が必要です）

番号	レベル
1	GTECテスト180点未満 TOEFL ITP®Test430点未満 TOEFL iBT®Test40点未満 TOEIC®L&RTest375点未満 英語検定準２級未満
2	GTECテスト180点以上260点未満 TOEFL ITP®Test430点以上505点未満 TOEFL iBT®Test40点以上60点未満 TOEIC®L&RTest375点以上580点未満 英語検定準２級及び２級
3	GTECテスト260点以上 TOEFL ITP®Test505点以上 TOEFL iBT®Test60点以上 TOEIC®L&RTest580点以上 英語検定準１級及び１級

〈外国語科目〉

アルファベット3桁で「外国語科目」と「語種」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

GF（種別）　E（語種）　1（配当年次）　000（連番）

種別　外国語科目はすべてGF

語種

E	英語
G	ドイツ語
F	フランス語
R	ロシア語
S	スペイン語
C	中国語
K	朝鮮語
O	検定認定：Official-Test Accreditation

〈外国人留学生科目〉

アルファベット3桁で「外国人留学生科目」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

FOS（種別）　1（配当年次）　000（連番）

種別　外国人留学生科目はすべてFOS

〈専門教育科目〉

学科を示すアルファベット3桁、配当年次を示す1桁、連番の数字3桁で構成されています。

POS（学科）　1（配当年次）　001（連番）

学科コード　ＰＯＳ：政策学科
　　ＧＬＡ：国際アジア学科
　　ＦＰＳ：（学科共通科目）

外国語学部

Ⅰ　教育に関する三つの方針

卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学部では、各学位プログラムにおける所定の教育課程を修めたうえで、次の知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を身につけた者に対して学士（外国語学）の学位を授与します。

1　（知識・技能）

幅広い教養に裏打ちされた専門的知識・技能を修得するとともに、主専攻言語である英語・中国語、さらにはプラスワン・副専攻言語の卓越した運用能力を身につけ、それらを総合的に活用することができる。

2　（思考力・判断力・表現力等の能力）

外国語教育、エリア・スタディーズ、異文化コミュニケーション、通訳翻訳、国際協力・地域協力の５つの専門領域についての知識と技能を活用し、グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、「考動力」を発揮して社会に貢献することができる。

3　（主体的な態度）

自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組み、「外国語のプロフェッショナル」として、世界の状況を適切に把握し、日本の立場を世界に向けて発信することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

外国語学部では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技能・思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を修得できるように、以下の点を踏まえて、共通教養科目、専門教育科目及びその他必要な科目を教育課程として体系的に編成します。

1　教育内容

⑴　教養教育

ア　知への興味を醸成しながら、学問の進め方を体得することに重点を置いた導入科目を配置し、知の技法の修得とコミュニケーション及びメディアリテラシーの向上を目指す。

イ　社会で活躍するために必要な知識・視野と柔軟な思考力を育成するために、共通教養教育として自己形成科目群等を配置し、総合的な人間力の養成を図る。

ウ　異文化を理解し､異なる意見を持つ人々の立場に立って考えることができる能力､及び異文化間のコミュニケーションを促進する能力を育成するため、グローバル科目群を配置し、国際的な視野を持った人材の育成に務める。

⑵　専門教育

ア　講義、演習、実習等を体系的に組み合わせて、外国語の高度な運用能力、専門的知識・技能を効率的に修得させることを目指す。

イ　初年次においては、様々な学習履歴を持った学生に学びの転換を促す導入科目を準備し、学問分野に応じた「考動力」の基礎を育成する。また、初年次から主専攻言語として英語及び中国語の科目を集中的に配置し、少人数クラス編成で外国語言語運用能力の徹底的な伸長を図るとともに、「プラスワン外国語」として、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語及び英語を開講し、主専攻言語＋１言語の習得を目指す。

ウ　初年次に、スタディ・アブロード・プレパレーションを開講し事前準備を周到に行い、２年次には「スタディ・アブロード」を必修として設置して、一年間の海外留学を通して「生きる力」の涵養を目指す。外国語運用能力の飛躍的な習熟を目指すと同時に、３年次以降の履修プログラムにつながる専門科目を学習する。また、自文化と異文化理解を通した多面的思考力と問題解決能力の育成を図る。

エ　３、４年次においては、履修プログラム　①外国語教育、②エリア・スタディーズ、③異文化コミュニケーション、④通訳翻訳、⑤国際協力・地域協力に関する科目を幅広く設置する。さらに、各領域の学問

研究を促進するために専門演習、卒業演習によって少人数教育を中心とした学問の本質に接する場を提供し、「考動力」の獲得に重点を置いた教育を実践する。

2　教育評価

⑴　知識・技能の修得に関しては、総合GPAの分析及び各種の学修行動調査と外部外国語運用能力検定試験等の到達度調査の結果を組み合わせて把握する。

ア　「考動力」に集約される思考力・判断力・表現力等の能力の評価に関しては、関西大学コンピテンシー調査の集計、学部卒業時に提出する卒業プロダクト等によって行う。

イ　主体的に学びに取り組む態度に関しては、各種学生調査の集計によって把握する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

外国語学部（以下、「本学部」という）では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づく教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた人を求めます。

1　高等学校の教育課程を通じて学ぶ知識、技能を十分に習得している。特に外国語、国語、地理歴史、公民などの学習を通して、外国語及び日本語の高度な運用能力を身につけ、多文化の理解を深めるうえでの基礎的知識を有している。

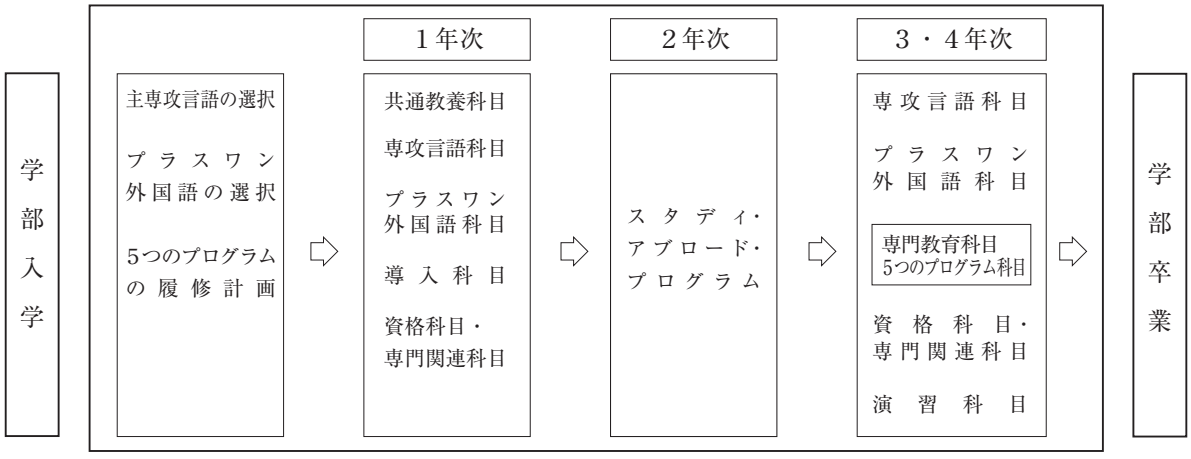
2　外国語を通して新たな知識を吸収し、国際的な諸問題についての理解を深めようとする「考動力」の基盤を持っている。さらに本学部ではスタディ・アブロードを必修としていることから、様々な文化的背景を持った人々と直接接触する体験に強い意欲を持つとともに、環境の変化に対応できる柔軟性や、コミュニケーションに対する積極性など、「生きる力」につながる資質や態度を有している。

3　「外国語」を切り口に時代と社会に向き合い、グローバル社会のフロントランナーとなるために必要な学問領域を主体的に学んでいく強い意欲を持っている。

Ⅱ　教育課程について

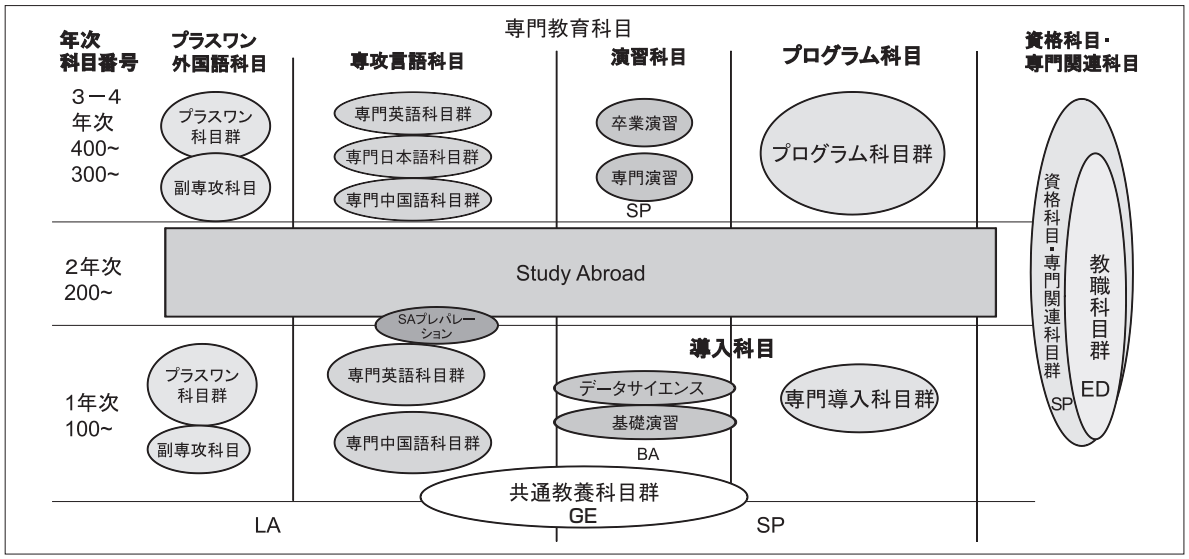
学部の構成

外国語学部の入学から卒業までの流れは次のようになっています。



教育課程

外国語学部の教育課程を図示すると次のようになります。



表中に示しているBA、LA、SP、EDは「科目番号」です。「科目番号」の説明は後掲の［科目番号について］を参照してください。

授業科目の構成

外国語学部の授業科目は、次のとおりに大別されます。
なお、各授業科目の詳細は、「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。

共通教養科目	外国語科目	専門教育科目

1　共通教養科目は、次の科目群で構成されています。

関西大学科目群	基盤科目群	自己形成科目群			健康・スポーツ科目群	キャリア形成科目群	グローバル科目群	大学・学部・社会連携科目群
		人間を知る	社会を知る	自然と向き合う				

2　外国語科目は、次の科目で構成されています。

英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語	Ⅲa・Ⅲb、Ⅳa・Ⅳb、Ⅴa・Ⅴb、Ⅵa・Ⅵb（英語はⅤ・Ⅵのみ）
外国語検定科目	検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）、検定認定３（各検定試験）

3　専門教育科目は、次の科目で構成されています。

導入科目	専攻言語科目	プラスワン外国語科目	演習科目	プログラム科目	資格科目・専門関連科目

また、科目区分毎に必修科目、選択必修科目、選択科目及び自由科目に分かれます。

必修科目	必ず履修・修得しなければならない科目であり、修得できなければ卒業できません。
選択必修科目	定められた科目の中から、一定の単位を修得しなければならない科目です。
選択科目	任意に選択し、履修できる科目です。修得した単位は卒業所要単位に含めます。
自由科目	主に資格取得に関連した科目で、修得した単位は卒業所要単位には含めません。

Ⅲ　卒業所要単位について

卒業所要単位の内訳

1　外国語学部に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、124単位以上を修得した者に卒業を認め、卒業者には学士（外国語学）の学位が与えられます。124単位の内訳は、**後掲の一覧表、及び、注意事項に従って単位を修得しなければなりません**ので、間違いのないように十分注意してください。

また、ここに示す単位数は科目区分ごとに必要な最低の単位数を示すもので、これが１単位でも不足すると卒業は認められません。

<table>
<tr><th colspan="4">科目区分</th><th colspan="3">最低修得単位数</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="8">共通教養科目</td><td colspan="2">基盤科目群</td><td rowspan="8">12単位以上
（20単位まで）</td><td rowspan="17">各科目区分を合計して64単位以上</td><td rowspan="17">合計124単位以上</td></tr>
<tr><td>自己形成科目群</td><td rowspan="2">6単位以上</td></tr>
<tr><td>グローバル科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">関西大学科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">健康・スポーツ科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">キャリア形成科目群</td></tr>
<tr><td colspan="2">大学・学部・社会連携科目群</td></tr>
<tr><td colspan="4">外国語科目</td><td>任　意（６単位まで）</td></tr>
<tr><td rowspan="12">専門教育科目</td><td rowspan="2">導入科目</td><td colspan="2">必修科目</td><td>４単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">選択必修科目</td><td>８単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専攻言語科目</td><td>必修科目</td><td rowspan="2">〔主専攻言語〕
英語又は中国語</td><td>10単位以上</td></tr>
<tr><td>選択必修科目</td><td>８単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">プラスワン外国語科目</td><td colspan="2">選択必修科目</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">選択科目</td><td>任　意</td></tr>
<tr><td>演習科目</td><td colspan="2">選択科目</td><td>任　意</td></tr>
<tr><td rowspan="2">プログラム科目</td><td rowspan="2">選択必修科目</td><td>共通科目</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>基幹科目及び発展科目</td><td>14単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">資格科目・専門関連科目</td><td colspan="2">選択科目</td><td>任　意</td></tr>
<tr><td colspan="2">自由科目</td><td colspan="3">卒業所要単位に含めません</td></tr>
</table>

（※）　プラスワン外国語科目の一部の科目は、一定単位を超えて修得しても、卒業所要単位に含めない場合があります。

（※）　プログラム科目は必ず５つの履修プログラムの中から１つ以上修了しなければなりません。次項目（２　各授業科目の注意事項について）を参照してください。

2　各授業科目の注意事項について

⑴　共通教養科目（12単位以上20単位まで）

共通教養科目の自己形成科目群・グローバル科目群から６単位以上を含めて、合計12単位以上を修得しなければなりません。海外研修（各セミナー）については、２セミナー４単位（全セミナー対象）まで共通教養科目の卒業所要単位に算入します。なお、インターンシップ(ビジネス)、インターンシップ(学校１)、インターンシップ（学校２)、インターンシップ（学校３）を修得した場合、８単位まで専門教育科目：資格科目・専門関連科目選択科目の卒業所要単位に算入します。

⑵ 外国語科目（任意：６単位まで）

外国語科目を修得した場合、合計６単位を限度に卒業所要単位に含めることができます。外国語科目には次の科目があります。なお、外国語学部専門教育科目とは異なりますので注意してください。

英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語	Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂ、Ⅴａ・Ⅴｂ、Ⅵａ・Ⅵｂ（英語はⅤ・Ⅵのみ）
検定認定１・２・３（各検定試験）	詳細は「外国語検定試験の単位認定について」を参照してください。 英語の認定：「②「検定認定科目」（各２単位）としての認定」にて、「検定認定２（各検定試験）」・「検定認定３（各検定試験）」のみ申請可能。 中国語の認定：「検定認定２（各検定試験）」のみを、主専攻言語中国語選択者は申請可能。

⑶ 専門教育科目

専門教育科目は、次のとおり修得しなければなりません。

なお、スタディ・アブロード・プログラムは、原則40単位まで卒業所要単位に含めます。ただし、プログラム内容により認定単位数は異なり、全員が40単位認定されるわけではありません。

ア　導入科目

（ア）必修科目　　４単位

（イ）選択必修科目　　８単位以上　※「基礎演習２」は、１年次に必ず履修しなければなりません。

イ　専攻言語科目

（ア）必修科目　　主専攻言語（英語又は中国語）　10単位以上

（イ）選択必修科目　　主専攻言語（英語又は中国語）　８単位以上

ウ　プラスワン外国語科目

（ア）選択必修科目　　４単位以上

（イ）選択科目　　任意選択（修得した単位は卒業所要単位に含めます。ただし、科目一覧表に記載の＊印科目は８単位まで卒業所要単位に含めます。また、クロス留学者は、副専攻言語科目も卒業所要単位に含めます。）

エ　演習科目

選択科目　　任意

オ　プログラム科目

選択必修科目　　18単位以上（プログラム共通科目から２科目４単位以上を履修・修得してください。また、外国語教育、エリア・スタディーズ、異文化コミュニケーション、通訳翻訳、国際協力・地域協力の各プログラムの科目から、基幹科目２科目４単位以上を含め、発展科目と併せて14単位以上を修得し、必ず１つ以上のプログラムを修了してください。）

なお、修了したプログラムは卒業時にオープンバッジを発行するとともに成績証明書にも記載します。

カ　資格科目・専門関連科目

（ア）選択科目　　任意選択（修得した単位は卒業所要単位に含めます。）

（イ）自由科目　　修得しても卒業所要単位には含めません。

編・転入学生（留学生）

外国語学部３年次に編・転入学した留学生は、２年〈４学期〉以上（６年〈12学期〉以内）在学し、124単位以上を修得した者に卒業を認め、卒業者には学士（外国語学）の学位が与えられます。なお、編・転入学以前に修得した単位については、一定の基準において56単位を限度に認定します。また、編・転入留学生にはスタディ・アブロード・プログラム（提携大学への１年間の留学）は免除します。

Ⅳ　履修・修得について特に注意すべき事項

履修制限単位

各年次での履修制限単位は、次のとおりです。

１・３・４年次	各学期とも25単位以内、年間49単位以内

また、次の科目は、履修制限単位に含めません。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C
外国語検定認定１・２・３	教育実習事前指導
教育実習（一）・（二）	

共通教養科目の履修

共通教養科目の履修については、次の点に注意してください。

1　共通教養科目の概要については、「共通教養科目について」（後掲）を参照してください。ただし、外国語学部で履修・修得できる授業科目は「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。

2　同一年度の春学期及び秋学期に同じ授業科目を二度履修することはできません。

3　定員制等のため事前登録が必要な科目、履修者数が一定以上に達した場合に事後抽選を行う科目があります。詳細はインフォメーションシステムで確認してください。

4　次の科目は履修制限単位に含めません。それぞれ該当のプログラムに応募のうえ参加許可を受けることをもって、履修登録に代えます。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C

外国語科目の履修条件

外国語科目の履修条件は、次のとおりです。

授業科目	左記の授業科目の履修条件
外国語科目 Ⅲａ・ｂ、Ⅳａ・ｂ	○希望語種のプラスワン外国語Ⅰｂもしくは Ⅱb修得済み ○a・bセット履修
外国語科目 Ⅴａ・ｂ、Ⅵａ・ｂ	○希望語種の外国語科目Ⅲｂもしくは Ⅳb修得済み ○希望語種の外国語科目ⅢⅣａｂから２科目修得済み ○ａ・ｂセット履修 ※英語は上記履修条件なし

外国語検定科目

外国語検定の詳細については、「外国語検定認定試験の単位認定について」（後掲）を参照してください。

スタディ・アブロード・プログラム

2年次にスタディ・アブロード・プログラムとして、海外の提携大学へ約1年間の留学を行います。本プログラムでは、言語や専門知識の習得だけでなく、寮生活やホームステイを通じて、その国の文化や歴史、考え方や生活習慣を体験します。

ただし、1年次における関西大学での単位修得状況によっては、所定年次に留学を許可しない場合があります（留学準備関連科目として、留学までに必ず、スタディ・アブロード・プレパレーションを履修し、合格しなければなりません）。

なお、概要は以下のとおりで、詳細は、入学時のガイダンス等で説明します。

1　留学日程　　2年次（春学期及び秋学期の9～10カ月間）

2　留学先

派遣国	派遣先大学	専攻言語
アメリカ	オレゴン大学	英語
	カンザス大学	英語
	ユタ大学	英語
	カリフォルニア州立大学モントレーベイ校	英語
カナダ	アルバータ大学	英語
イギリス	アストン大学	英語
	ウォーリック大学	英語
	カンタベリークライストチャーチ大学	英語
ニュージーランド	オークランド大学	英語
	オタゴ大学	英語
オーストラリア	クイーンズランド大学	英語
	サザンクロス大学	英語
中国	北京外国語大学	中国語
	華東師範大学	中国語

＊留学先については、入学後、変更になる場合もあります。

3　クロス留学

クロス留学とは、主専攻言語とクロス留学先の言語及び専門科目を履修するものです（例：韓国の大学で英語と朝鮮語を学ぶ）。クロス留学を希望する場合は派遣先大学指定の言語をプラスワン外国語とする必要があります。また、1年次の秋学期に、「副専攻言語（各言語）クロス留学」を1科目履修しなければなりません。帰国後は3、4年次に副専攻言語科目の履修を持続できるように科目を配置しています。また、すべての副専攻言語科目の単位を修得した場合は、成績証明書にその旨記載します。

派遣国	派遣先大学	主専攻言語	プラスワン外国語
韓　　国	韓国外国語大学	英語	朝鮮語
台　　湾	成功大学	英語	中国語
キルギス	中央アジア・アメリカ大学	英語	ロシア語
ドイツ	ヨハネス・グーテンベルク大学マインツ	英語	ドイツ語
フランス	リール・カトリック大学	英語	フランス語

＊留学先については、入学後、変更になる場合もあります。

4　単位認定

スタディ・アブロード・プログラムで修得した単位は、専攻言語科目の「スタディ・アブロード（各大学）各授業科目」として原則40単位を上限として認定し、卒業所要単位に算入します。ただし、プログラム内容・科目の修得状況により、認定単位数は異なります。

5　留学前の授業

授業出席調査等により、出席不良と判断される場合には注意を促し、改善が見られなければ留学できない場合があります。

6　留学先の決定

1年次の9月頃に希望調査を行い、留学先を決定します。

大学ごとに受け入れ人数が定められており、これを超える希望者の応募があった場合は、TOEFLの成績等において選考します。

7　サポート体制

留学中の学習相談に対応するために外国語学部専任教員と留学先の専従スタッフを配置しています。留学全体をサポートするSAセンターも設置しています。

8　学費

留学中の学費は当該年度の関西大学の学費を充当します。不足分は本学が徴収し、各大学へ支払います。また、学費の他に住居費・食費・テキスト代・健康保険代（国により異なる）・雑費・日本からの往復旅費・休暇中の滞在費・小旅行等の実費が必要となります。

9　留学先での授業

授業出席調査等により、出席不良と判断される場合には注意を促し、改善が見られない場合には帰国させることがあります。

10　緊急対応

避けがたい事象により、スタディ・アブロード・プログラムの実施が困難又は不可能になった場合は、外国語学部の科目で代替します。

プログラム科目の履修

3年次より、外国語学部の専門的学問領域である5つの履修プログラムの中から、自らの興味・関心に応じた授業科目を選択します。卒業所要単位として、プログラム共通科目2科目4単位以上に加え、基幹科目2科目4単位以上を含め、発展科目と合わせて7科目14単位以上を修得し、必ず1つ以上ののプログラムを修了しなければなりません。修了したプログラムは卒業時にオープンバッジを発行するとともに成績証明書にも記載します。また、複数のプログラムを修了することもできます。

各プログラムの概要と授業科目は次のとおりです。

《5つのプログラム》

プログラム名	概　　要	授業科目
プログラム共通科目	すべてのプログラムの基盤となる言語の仕組みや意味、機能を系統的に学ぶ	言語の構造（音声・音韻） 言語の構造（意味・談話） 言語と社会（欧米） 言語と社会（アジア） 言語分析研究（英語） 言語分析研究（日本語） 言語分析研究（中国語）

プログラム名	概　　要	授業科目
外国語教育	言語習得やコミュニケーションの基礎理論と外国語（日・英・中）の学び方、教え方を実践的かつ科学的に学ぶ	（基幹科目） 言語教育学（英語） 言語教育学（中国語） 言語教育学（日本語） 第二言語習得論 心理言語学研究 （発展科目） 外国語学習者論 外国語テスト・評価論 外国語教育メディア・教材論 外国語早期教育論 日本語教育演習 文化とコミュニケーション エリア・スタディーズ（英語圏） カルチュラル・インタラクション1 地域言語文化論（各地域）
エリア・スタディーズ	地域固有の言語文化の理解を深めるとともにグローバル社会に求められる視点を得る	（基幹科目） エリア・スタディーズ（各地域） （発展科目） カルチュラル・インタラクション1 カルチュラル・インタラクション2 現代日本文化論 アメリカ文化論 地域言語文化論（各地域） 比較文化論 文化翻訳論

プログラム名	概　　要	授業科目
異文化コミュニケーション	人間の文化と心理、異文化接触・交渉について学際的に学ぶ	（基幹科目） 文化とコミュニケーション コミュニケーション論 非言語コミュニケーション論 （発展科目） 比較文化論 コミュニケーション研究 国際ビジネスコミュニケーション論 メディアコミュニケーション論 観光コミュニケーション論 国際協力・ボランティア論 ジャーナリズム・メディア論 カルチュラル・インタラクション１ カルチュラル・インタラクション2
通訳翻訳	通訳翻訳の理論や方法を系統的かつ体験的に学ぶ	（基幹科目） 通訳翻訳の理論と実技1 通訳翻訳の理論と実技2 通訳演習1（各テーマ） 翻訳演習1（各テーマ） （発展科目） 文化翻訳論 通訳演習2（各テーマ） 翻訳演習2（各テーマ） 心理言語学研究 第二言語習得論
国際協力・地域協力	社会における共生や協働について、グローバル、ローカル両面から系統的かつ体験的に学ぶ	（基幹科目） 国際協力論（各テーマ） 地域協力論（各テーマ） 国際協力・ボランティア論 （発展科目） 国際協力・地域協力演習（各テーマ） 比較文化論 国際ビジネスコミュニケーション論 メディアコミュニケーション論 観光コミュニケーション論 ジャーナリズム・メディア論 現代日本文化論 アメリカ文化論

※プログラム修了要件：７科目14単位以上（基幹科目２科目４単位を含む）
※外国語教育プログラムの修了認定科目（発展科目）には、英語科教育法（一）（二）（三）（四）、中国語科教育法（一）（二）（三）（四）、ドイツ語教育法（1）（2）、フランス語教育法（1）（2）も含みます。
※上記科目には、複数プログラムに共通する科目があります。

主専攻言語の履修

入学時に主専攻言語として、英語又は中国語を選択します。１年次には、必修科目として10科目10単位を、３年次には選択必修科目として４科目８単位以上を修得しなければなりません。また、２年次のスタディ・アブロード・プログラムについては、主専攻言語に基づき海外の提携大学に留学することとなります。すなわち、専攻言語が英語の場合は、英語圏の英語で教育が行われる大学に留学、もしくはクロス留学します。また、専攻言語が中国語の場合は、中国に留学することになります。

プラスワン外国語の履修

入学時にプラスワン外国語として、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語のうち、主専攻言語以外の言語を選択します。クロス留学を希望するものは、希望する派遣大学先指定の言語をプラスワン外国語とする必要があります。原則として、選択した言語を変更することはできません。

プラスワン外国語は１年次に必修科目として４科目４単位を履修・修得しなければなりません。３・４年次には選択科目を配置しています。各科目の履修条件は次のとおりです。

授業科目	左記の授業科目の履修条件	
プラスワン外国語Ⅲab・Ⅳab（英語以外）	第１条件	Ⅲab・Ⅳabは別々に履修可能。ただし、ａ・ｂは原則、セットで履修すること。
	第２条件	原則としてⅠab・Ⅱabを修得済であること。ただし、担当者によって当該言語の十分な能力が認められると認定される場合には、レベル測定や面接等を踏まえ、Ⅰab・Ⅱabのいずれかを未修得でも履修を許可する。
	上記第１条件、第２条件をいずれも満たしていること。	
プラスワン外国語Ⅲab・Ⅳab（英語）	履修条件なし。ただし、ａ・ｂは原則、セットで履修すること。	

副専攻言語の履修

クロス留学を選択した場合は、主専攻言語及びプラスワン外国語の必修科目に加え、１年次秋学期に「副専攻言語（各言語）クロス留学」を履修しなければなりません。また、クロス留学帰国後はこれを副専攻言語とし、「副専攻言語（各言語）Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ各ａ・ｂ」を選択科目として履修できます。これらの科目は卒業所要単位として算入されます。すべての副専攻言語科目を修得した場合は、卒業時にオープンバッジを発行するとともに、成績証明書に「副専攻言語（○○語）修了」と記載します。

クロス留学後の主専攻言語の変更について

クロス留学帰国者のうち、主専攻言語の変更を希望する場合は、所定の手続き（面接もしくは能力判定試験等）を経て許可される場合があります。留学帰国後速やかに、教務センターへ申し出て相談してください。

専門演習・卒業演習の履修

「専門演習」「卒業演習１」「卒業演習２」は、３・４年次に同一担任者により継続して実施する授業科目です。専門演習は、３年次の春学期に募集を行います。

（ア）「専門演習」は「スタディ・アブロード・プログラム」を修了しなければ履修できません。

（イ）「卒業演習１」は「専門演習」を修得しなければ履修できません。

（ウ）「卒業演習２」は「卒業演習１」を修得しなければ履修できません。

ただし、教授会が認めた場合はこの限りではありません。

自由科目・配当外科目の履修

専門教育科目の自由科目・配当外科目（外国語学部に配当されていない科目）の履修について

1　自由科目・配当外科目は、これを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。履修制限単位に含めないものとして、毎年度30単位まで履修することができます。

2　他学部開設科目については、一部科目について、申込手続を行い、許可された者に限り履修することができます。詳細は、各年度の学期始めにインフォメーションシステムでお知らせします。

科目履修の配当年次

履修する科目は、当該年次の配当科目又は下位年次科目から選択してください。上位年次配当科目は履修することができません。ただし、外国語科目において、特に許可された履修については、この限りではありません。

【例】「１年次配当」は１～４年次で受講可能です。「３年次配当」は３～４年次で受講可能です。

各種資格取得に関する科目の履修

各種資格取得に必要な科目は、主として「資格科目・専門関連科目群」に配置されています。また、各種資格取得のための履修方法については、教職支援センターホームページ（URL：www.kansai-u.ac.jp/kyoshoku/index.html）の『教職課程履修の手引き』を参照の上、計画的に履修してください。

オフィスアワー

外国語学部では、学生のみなさんに対する学習上の指導や助言のために、正課の授業のほかに、学習上の相談時間として、外国語学部所属専任教員による「オフィスアワー」を設けています。この制度の実施方法・内容等詳細については、毎学年度始めにインフォメーションシステム等でお知らせします。この制度を積極的に活用して、学習上大きな成果をあげられることを期待します。

学力確認について

外国語学部では、SA留学に際しての学力確認や、4年間での外国語能力の推移の測定を目的とし、入学時、スタディ・アブロード・プログラム帰国時、4年次の卒業前にTOEFL-ITP・中国語検定試験を実施します。また、英語主専攻の学生は、これに加えてスピーキングテストも実施します。

これらは必ず受検する必要がありますので、インフォメーションシステムで公表されるスケジュール等に十分留意してください。

なお、英語主専攻の学生はTOEFL-ITP500以上（あるいはそれに相当するTOEFL-iBT、TOEIC、IELTS、英検等のスコア）を、中国語主専攻の学生は中国語検定2級合格（あるいはそれに相当するHSKの級合格）以上を、卒業までに達成することが求められます。詳細は、入学後に説明します。

大学院外国語教育学研究科の授業科目の履修

外国語学部では、関西大学大学院外国語教育学研究科への強い進学意欲をもつ成績優秀な学生に対して、より高度な勉学の機会を与えるとともに、大学院進学後の研究活動により多くの時間を充てることを目的に、一定の条件のもとで、大学院外国語教育学研究科の授業科目の履修を認め、本制度により修得した単位を博士課程前期課程の修了所要単位に算入します。

1　履修資格

3年次春学期終了時点で、学部が定めた所定の成績を修め、スタディ・アブロード・プログラムを修了し、かつ研究対象となる言語の運用能力にも問題のない学生が、所定の手続きを経て許可された場合に限り、大学院外国語教育学研究科の授業科目を履修することができます（詳細はインフォメーションシステムでお知らせします)。

2　履修制限単位

大学院外国語教育学研究科の授業科目は、2科目4単位まで履修することができます。この制度を利用して修得した単位数は、自由科目及び配当外科目の履修制限単位（毎年度30単位以内）に含まれます。

3　修得単位の取扱い

この制度を利用して修得した単位については、卒業所要単位に含めることはできません。ただし、関西大学大学院外国語教育学研究科に進学した場合は、所定の手続きを経て許可された者に限り、博士課程前期課程の修了所要単位（32単位）に含めることができます。

日本語教師をめざす

外国語学部では、卒業後に日本語の教師になりたい人のために「日本語教師養成講座」を開設しています。日本語教師については、正式な免許制度は設けられていませんが、「大学で主専攻あるいは副専攻の日本語教育科目を履修し、卒業していること」がひとつの基準となっています。次のとおり、専門教育科目の中から指定された科目28単位を修得した者に対して、卒業時にオープンバッジを発行します。

種　別	履修条件	必修	科　目　名	単位
1）言語と教育	必修6単位を含む12単位以上	☆	日本語教育実習	2
			言語教育学（英語）	2
			言語教育学（中国語）	2
		☆	言語教育学（日本語）	2
			外国語テスト・評価論	2
			外国語教育メディア・教材論	2
		☆	日本語教育演習	2
			外国語早期教育論	2
			英語科教育法（一）	2
			英語科教育法（二）	2
			中国語科教育法（一）	2
			中国語科教育法（二）	2
2）言語	必修2単位を含む8単位以上		ことばの世界（英語）	2
			ことばの世界（中国語）	2
			言語の構造（音声・音韻）	2
			言語の構造（意味・談話）	2
			言語分析研究（英語）	2
		☆	言語分析研究（日本語）	2
			言語分析研究（中国語）	2
			国語学概論a	2
			国語学概論b	2
			日本語表現論a	2
			日本語表現論b	2
			日本語学Ⅰa	2
			日本語学Ⅰb	2
			日本語学Ⅱa	2
			日本語学Ⅱb	2
3）社会・文化・地域	必修2単位を含む2単位以上	☆	日本文化論	2
			メディアコミュニケーション論	2
			国際協力・ボランティア論	2
			日本語プロジェクトワーク	2
			現代日本文化論	2
4）言語と社会	4単位以上		言語と社会（欧米）	2
			言語と社会（アジア）	2
			文化とコミュニケーション	2
			比較文化論	2
5）言語と心理	2単位以上		第二言語習得論	2
			外国語学習者論	2
			心理言語学研究	2
合　計	28単位			

授業科目一覧表

1　共通教養科目

《関西大学科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	関西大学を知る				
GEA1001	日本の近現代史と関西大学―知の群像	1	2	1	2
GEA1002	吹田市と関西大学	1	2	1	2
GEA1003	学生生活とリスク	1	2	1	2
	戦略トピックス				
GEA1004	SDGs入門	1	2	1	2
GEA1005	SDGsの実践	1	2	1	2
GEA1006	金融の実務から見るSDGs	1	2	1	2
GEA1007	環境問題と環境政策のルーツ	1	2	1	2
GEA1008	活用法を見聞するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1009	活用法を体験するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1010	起業に学ぶ「考動力」入門（関大出身起業家と考える未来の自分）	1	2	1	2
GEA1011	起業に学ぶ「考動力」実践（企業と考える未来のデザイン）	1	2	1	2
GEA2001	社会のためのデータサイエンス実践基礎	2	2	1	2
GEA2002	AI・データエンジニアリング実践基礎	2	2	1	2

《基盤科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEB1001	スタディスキルゼミ（各テーマ）	1	2	1	2
GEB1002	プロジェクト学習１	1	2	1	2
GEB2001	プロジェクト学習２	2	2	1	2

《自己形成科目群》

領域：人間を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1001	こころとからだを哲学する
	GEC1002	文化・社会と心理学
	GEC1003	身体運動の人間学
	GEC1004	ことばと思考
	GEC1005	地図の知恵、地図の思想
	GEC1006	自己と他者
	GEC1007	自己をみつめる
	GEC1008	日本人の宗教観
	GEC1009	美術からみる表現と理解
	GEC1010	入門・新しい部落問題
	GEC1011	現代社会とジェンダー
	GEC1012	現代社会とセクシュアリティ
	GEC1013	生と死の倫理学
	GEC1014	食を知る
	GEC1015	食のリスクマネジメント
	GEC1016	宗教と現代
	GEC1017	新しい人権論への招待
教養を深める（知の見取り図）	GEC1018	哲学を学ぶ
	GEC1019	論理学を学ぶ
	GEC1020	心理学を学ぶ
	GEC1021	宗教学を学ぶ
	GEC1022	イスラーム世界の歴史を学ぶ
	GEC1023	考古学を学ぶ
	GEC1024	日本語を学ぶ
	GEC1025	日本文学を学ぶ
	GEC1026	人文地理学を学ぶ
	GEC1027	地域社会の生活と資源
	GEC1028	芸術学を学ぶ
	GEC1029	人類学入門
教養を深める（知の探求）	GEC1030	日本の古典文学を読む
	GEC1031	日本の近代文学を読む
	GEC1032	わかる諸子百家
	GEC1033	日本の文化と人間を考える
	GEC1034	子供から大人への過程を考える
	GEC1035	社会と個人の心理学
	GEC1036	世界の文学を味わう
	GEC1037	西洋美術を味わう
	GEC1038	日本・東洋美術を味わう
	GEC1039	文化史に親しもう
	GEC1040	アジアの文化と世界遺産
	GEC1041	大学教育論～大学の主人公はきみたちだ！～
チャレンジ科目	GEC1042	各テーマ

【配当年次：１・２・３・４　　単位：２
授業期間：１　　毎週授業時間：２】

領域：社会を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1043	今日の道徳的ディレンマ
	GEC1044	世界の宗教
	GEC1045	環境の倫理学
	GEC1046	企業と社会
	GEC1047	技術と社会
	GEC1048	生活の中の経済学
	GEC1049	メディア・リテラシー入門
	GEC1050	イスラム社会を考える
	GEC1051	日本の伝統文化
	GEC1052	方言学入門
	GEC1053	共生社会のライフデザイン
	GEC1054	日本の社会と生活の歴史
	GEC1055	優良企業の見分け方
	GEC1056	社会学で学ぶ現代社会
	GEC1057	政治学と21世紀社会
	GEC1058	法実務入門
	GEC1059	地域再発見の旅
	GEC1060	旅から始める知の冒険
	GEC1061	移動する人々
	GEC1062	オリンピックの共生思想
	GEC1063	外来文化と日本の歴史
	GEC1064	アジアの中の日本歴史
	GEC1065	世界の中の日本経済
	GEC1066	日本史の中の平和と戦争
	GEC1067	世界史の中の平和と戦争
	GEC1068	読書への誘い
教養を深める（知の見取り図）	GEC1069	倫理学を学ぶ
	GEC1070	法学を学ぶ
	GEC1071	政治学のすすめ
	GEC1072	民俗学を学ぶ
	GEC1073	基礎からのマクロ経済学
	GEC1074	基礎からのミクロ経済学
	GEC1075	社会学入門
	GEC1076	日本国憲法
	GEC1077	基礎からの情報処理
	GEC1078	ビジネスを学ぶ
	GEC1079	日本の歴史を学ぶ
	GEC1080	アジア史を学ぶ
	GEC1081	西洋の歴史を学ぶ
	GEC1082	社会思想史を学ぶ
教養を深める（知の探求）	GEC1083	名作を読む
	GEC1084	哲学の古典を読み解く
	GEC1085	聖典と宗教思想
	GEC1086	近代市民社会思想を知ろう
	GEC1087	労働と雇用を考える
	GEC1088	日本の地域史を考える
	GEC1089	世界の地域文化を知ろう
	GEC1090	少子高齢化社会を考える
	GEC1091	法の社会学
	GEC1092	日本史の中の女性と社会を知ろう
	GEC1093	日本社会の成熟と変動を知ろう
	GEC1094	強い会社のマネジメントを知る
	GEC1095	西洋世界の社会と歴史を考える
	GEC1096	欧米世界の歴史と文化を知ろう
	GEC1097	中国と日本の文化交流
	GEC1098	異文化への理解を深める
	GEC1099	現代都市の生態とエスニシティ
	GEC1100	社会的養育を考える
チャレンジ科目	GEC1101	各テーマ

領域：自然と向き合う

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1102	身の回りの化学
	GEC1103	確率・統計でものを考える
	GEC1104	自然災害の科学
	GEC1105	科学と文化
	GEC1106	生物と環境
	GEC1107	人類紀の環境変動
	GEC1108	建築と景観
	GEC1109	エネルギーと環境
	GEC1110	科学と技術
	GEC1111	現代科学の展開
	GEC1112	統計学を学ぶ
教養を深める（知の見取り図）	GEC1113	自然地理学を学ぶ
	GEC1114	自然科学史を学ぶ
	GEC1115	バイオサイエンス入門
	GEC1116	数学を学ぶ（各テーマ）
	GEC1117	物理を学ぶ（各テーマ）
教養を深める（知の探求）	GEC1118	仕組みを形にする科学技術
	GEC1119	現代社会を支える電気電子情報技術
	GEC1120	宇宙のすがたと歴史
	GEC1121	近代科学の系譜
	GEC1122	気象と気候を学ぶ
	GEC1123	地震と火山のメカニズムと防災
チャレンジ科目	GEC1124	各テーマ

【配当年次：1・2・3・4　　単位：2　　授業期間：1　　毎週授業時間：2】

《健康・スポーツ科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GED1001	健康・スポーツ科学実習a(各種目)	1	1	1	2
GED1002	健康・スポーツ科学実習b(各種目)	1	1	1	2
GED1003	健康・スポーツ科学実習c(各種目)	1	1	1	2
GED1004	健康・スポーツ科学論	1	2	1	2

《キャリア形成科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEE1001	大学生から始めるキャリア形成	1	2	1	2
GEE1002	キャリア形成入門演習	1	2	1	2
GEE2001	理論と実践から探求するキャリア形成	2	2	1	2
GEE2002	現代社会を生き抜くためのキャリア形成	2	2	1	2
GEE2003	キャリア形成実践演習	2	2	1	2
GEE1003	インターンシップ(ビジネス)	1~3	2	1	4
GEE1004	インターンシップ（学校１）	1~4	2	1	4
GEE1005	インターンシップ（学校２）	1~4	2	1	4
GEE1006	インターンシップ（学校３）	1~4	2	1	4

（注）「インターンシップ（ビジネス)」、「インターンシップ（学校１～３)」を修得した場合、専門教育科目選択科目の卒業所要単位に算入します。

《グローバル科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学準備スキルアップ科目】				
GEF2001	Foundation for Academic English	1~4	2	1	2
GEF1001	Academic Writing Practice	1~4	2	1	2
GEF2002	Academic Discussions & Debates	1~4	2	1	2
GEF2003	Presentation Skills	1~4	2	1	2
GEF2004	留学のための英語スキルアップ	1~4	2	1	2
GEF2005	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2006	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2007	ASEAN Studies	1~4	2	1	2
GEF1002	Understanding Cross-Cultural Communication	1~4	2	1	2
GEF1003	KUGF Independent Study (English Skills Development)	1~4	2	1	2
GEF2008	KUGF Independent Study (Doing a Research in English)	1~4	2	1	2
GEF2009	Global Awareness Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2010	Global Awareness Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2011	English Communication Skills for Business Contexts	1~4	2	1	2
	【グローバル・フロンティア科目】				
	Module 1 . Engineering Approach to Urban Issues				
GEF3001	Disaster Transport Planning	1~4	2	1	2
	Module 2. Food Science & Biotechnology				
GEF3002	Biotechnology and Bioethics	1~4	2	1	2
GEF3003	Marketing of Food, Alcohol and Cosmetics	1~4	2	1	2
GEF3004	Science of Washoku (Japanese Cuisine)	1~4	2	1	2
GEF3005	Food Safety	1~4	2	1	2
GEF3006	Polysaccharide Science	1~4	2	1	2
	Module 3 .International Business & Entrepreneurship				
GEF3007	International Business for Entrepreneurs	1~4	2	1	2
GEF3008	Japanese Industries and Companies (The Global Competition)	1~4	2	1	2
GEF3009	Business & Japanese People	1~4	2	1	2
GEF3010	Marketing in Japan	1~4	2	1	2
GEF3011	Business for SDGs (Sustainable Development Goals)	1~4	2	1	2
	Module 4 . Japan Studies				
GEF3012	Japanese Philosophy and Thoughts	1~4	2	1	2
GEF3013	Japanese Religion	1~4	2	1	2
GEF3014	Japanese Arts	1~4	2	1	2
GEF3015	Japanese History (The History and Culture of Medieval Japan)	1~4	2	1	2
GEF3016	Japanese History (Bushido: The Way of the Warrior)	1~4	2	1	2
GEF3017	Japanese Literature (Survey of Post-1945)	1~4	2	1	2
GEF3018	Japanese Literature (Intro. to Classical JPN Literature)	1~4	2	1	2
GEF3019	Japanese Culture (Modern Culture and Post-war History)	1~4	2	1	2
GEF3020	Japanese Culture (JPN Culture and Contemporary Literature)	1~4	2	1	2
GEF3021	Comparative Asian Cultures Studies	1~4	2	1	2
GEF3022	Japanese Law and Politics	1~4	2	1	2
GEF3023	Japanese Economy (Topics in Japanese Economy and Discussion)	1~4	2	1	2
GEF3024	Japanese Society	1~4	2	1	2
GEF3025	Japanese Popular Culture (Postwar Japanese Culture)	1~4	2	1	2
GEF3026	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. to Kendo)	1~4	2	1	2
GEF3027	Seminar in Japanology (The Japanese Language and Society)	1~4	2	1	2
GEF3028	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. To Naginata)	1~4	2	1	2
GEF3029	Seminar in Japanology (War and Conflict through JPN Film)	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	Module 6 . Studies on Foreign Affairs				
GEF3037	International Development	1~4	2	1	2
GEF3038	Area Studies (Europe I)	1~4	2	1	2
GEF3039	Area Studies (Europe II)	1~4	2	1	2
GEF3040	Area Studies (India)	1~4	2	1	2
GEF3041	Japan in International Affairs	1~4	2	1	2
	Module 7 . Fundamentals for Social Science Studies				
GEF3042	Critical Thinking for Social and Global Issues	1~4	2	1	2
GEF3043	Research Methods for Social Science	1~4	2	1	2
GEF3044	Global Sociology	1~4	2	1	2
GEF3045	Japanese Computerization and Society	1~4	2	1	2
GEF3046	Methods of Comparative Analysis (ENG and JPN Communication)	1~4	2	1	2
GEF3047	Contemporary Gender Studies	1~4	2	1	2
	Module 8 . Applied Science and Engineering				
GEF3048	Japanese Science and Technology	1~4	2	1	2
GEF3049	Environmental Biology	1~4	2	1	2
GEF3050	Information and Communication Technologies	1~4	2	1	2
GEF3051	Introduction to Applied Science	1~4	2	1	2
	【留学実践科目】				
GEF1004	KUGF Field Study（各プログラム）	1~4	2	1	4
GEF1005	海外研修（各セミナー）	1~4	1~2	1	4
GEF1006	外国語運用実習(各セミナー)	1~4	1	1	2

《大学・学部・社会連携科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【大学連携科目】				
	〔大学コンソーシアム大阪プログラム〕				
GEG1001	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【学部連携科目】				
	〔学部オープン科目〕				
GEG1002	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【社会連携科目】				
	(講義科目)				
GEG1003	国際協力の基礎を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1004	国際協力ボランティアの理論を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1005	国際協力レディネス	1~4	2	1	2
GEG1006	国際協力フォローアップ	1~4	2	1	2
	(実習科目)				
GEG1007	国際協力ボランティア実習A	1~4	4	1	8
GEG1008	国際協力ボランティア実習B	1~4	2	1	4
GEG1009	国際協力ボランティア実習C	1~4	1	1	2
GEG3001	サービスラーニング(各テーマ)	3	2	1	2

※共通教養科目の開講科目等詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

外国語科目

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GFE3001	英　語 Ⅴa（各テーマ）	3	1	1	2
GFE3002	英　語 Ⅴb（各テーマ）	3	1	1	2
GFE3003	英　語 Ⅵa（各テーマ）	3	1	1	2
GFE3004	英　語 Ⅵb（各テーマ）	3	1	1	2
GFG2001	ドイツ語 Ⅲa	2	1	1	2
GFG2002	ドイツ語 Ⅲb	2	1	1	2
GFG2003	ドイツ語 Ⅳa	2	1	1	2
GFG2004	ドイツ語 Ⅳb	2	1	1	2
GFG3001	ドイツ語 Ⅴa	3	1	1	2
GFG3002	ドイツ語 Ⅴb	3	1	1	2
GFG3003	ドイツ語 Ⅵa	3	1	1	2
GFG3004	ドイツ語 Ⅵb	3	1	1	2
GFF2001	フランス語 Ⅲa	2	1	1	2
GFF2002	フランス語 Ⅲb	2	1	1	2
GFF2003	フランス語 Ⅳa	2	1	1	2
GFF2004	フランス語 Ⅳb	2	1	1	2
GFF3001	フランス語 Ⅴa	3	1	1	2
GFF3002	フランス語 Ⅴb	3	1	1	2
GFF3003	フランス語 Ⅵa	3	1	1	2
GFF3004	フランス語 Ⅵb	3	1	1	2
GFR2001	ロシア語 Ⅲa	2	1	1	2
GFR2002	ロシア語 Ⅲb	2	1	1	2
GFR2003	ロシア語 Ⅳa	2	1	1	2
GFR2004	ロシア語 Ⅳb	2	1	1	2
GFR3001	ロシア語 Ⅴa	3	1	1	2
GFR3002	ロシア語 Ⅴb	3	1	1	2
GFR3003	ロシア語 Ⅵa	3	1	1	2
GFR3004	ロシア語 Ⅵb	3	1	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GFS2001	スペイン語 Ⅲa	2	1	1	2
GFS2002	スペイン語 Ⅲb	2	1	1	2
GFS2003	スペイン語 Ⅳa	2	1	1	2
GFS2004	スペイン語 Ⅳb	2	1	1	2
GFS3001	スペイン語 Ⅴa	3	1	1	2
GFS3002	スペイン語 Ⅴb	3	1	1	2
GFS3003	スペイン語 Ⅵa	3	1	1	2
GFS3004	スペイン語 Ⅵb	3	1	1	2
GFC2001	中国語 Ⅲa	2	1	1	2
GFC2002	中国語 Ⅲb	2	1	1	2
GFC2003	中国語 Ⅳa	2	1	1	2
GFC2004	中国語 Ⅳb	2	1	1	2
GFC3001	中国語 Ⅴa	3	1	1	2
GFC3002	中国語 Ⅴb	3	1	1	2
GFC3003	中国語 Ⅵa	3	1	1	2
GFC3004	中国語 Ⅵb	3	1	1	2
GFK2001	朝鮮語 Ⅲa	2	1	1	2
GFK2002	朝鮮語 Ⅲb	2	1	1	2
GFK2003	朝鮮語 Ⅳa	2	1	1	2
GFK2004	朝鮮語 Ⅳb	2	1	1	2
GFK3001	朝鮮語 Ⅴa	3	1	1	2
GFK3002	朝鮮語 Ⅴb	3	1	1	2
GFK3003	朝鮮語 Ⅵa	3	1	1	2
GFK3004	朝鮮語 Ⅵb	3	1	1	2
GFO1001	検定認定１（各検定試験）	1~4	2	—	—
GFO1002	検定認定２（各検定試験）	1~4	2	—	—
GFO1003	検定認定３（各検定試験）	1~4	2	—	—

（注）外国語学部専門教育科目の外国語科目とは異なります。

外国人留学生科目

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	（選択科目）				
FOS1001	Contemporary Japan（Japan in Mass Media 1）	1~4	2	1	2
FOS1002	Contemporary Japan（Japan in Mass Media 2）	1~4	2	1	2
FOS1003	Communication in Japanese Society（Business Japanese）	1~4	2	1	2
FOS1004	Communication in Japanese Society（JPN Corporate Culture）	1~4	2	1	2
FOS2001	実践ビジネス日本語Ⅰ	2	2	1	2
FOS2002	実践ビジネス日本語Ⅱ	2	2	1	2
FOS2003	キャリアデザインⅠ（日本の社会と企業）	2	2	1	2
FOS2004	キャリアデザインⅡ（日本の就職と働き方）	2	2	1	2
FOS2005	キャリアデザインⅢ（日本の社会で働く）	3	2	1	2
	（自由科目）				
FOS1005	Japanese（1-a）	1~4	2	1	4
FOS1006	Japanese（1-b）	1~4	2	1	4
FOS1007	Japanese（2-a）	1~4	2	1	4
FOS1008	Japanese（2-b）	1~4	2	1	4
FOS1009	Japanese（3-a）	1~4	2	1	4

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
FOS1010	Japanese（3-b）	1~4	2	1	4
FOS1011	Japanese（4-a）	1~4	2	1	4
FOS1012	Japanese（4-b）	1~4	2	1	4
FOS1013	Japanese（5-a）	1~4	2	1	4
FOS1014	Japanese（5-b）	1~4	2	1	4
FOS1015	Japanese（6-a）	1~4	2	1	4
FOS1016	Japanese（6-b）	1~4	2	1	4
FOS1017	Japanese（7-a）	1~4	2	1	4
FOS1018	Japanese（7-b）	1~4	2	1	4
FOS1019	Contemporary Japan（Understanding Japan）	1~4	2	1	2
FOS1020	Contemporary Japan（Researching Japan）	1~4	2	1	2
FOS1021	Communication in Japanese Society（Learning Kansai 1）	1~4	2	1	2
FOS1022	Communication in Japanese Society（Learning Kansai 2）	1~4	2	1	2
FOS1023	Field-Based Learning（Society and Workplace Culture in Japan）	1~4	2	1	2

（注）外国人留学生科目の選択科目を修得した場合は、共通教養科目の卒業所要単位に算入します。外国人留学生科目の自由科目を履修した場合は履修制限単位に含めますが、これを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

外国語学部　専門教育科目一覧表

導入科目

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	(必修科目)				
BA100	基礎演習 1	1	2	1	2
BA101	データサイエンス入門	1	2	1	2
	(選択必修科目)				
BA102	基礎演習 2	1	2	1	2
BA103	データサイエンス発展(各テーマ)	1	2	1	2
SP100	ことばの世界(英語)	1	2	1	2
SP101	ことばの世界(中国語)	1	2	1	2
SP102	スタディ・アブロード地域文化入門	1	2	1	2
SP103	日本文化論	1	2	1	2
SP104	言語教育学概論	1	2	1	2
SP105	異文化コミュニケーション概論	1	2	1	2
SP106	通訳翻訳概論	1	2	1	2
SP107	英語文学概論	1	2	1	2
SP108	中国文学概論	1	2	1	2

専攻言語科目

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	(必修科目)				
	〔主専攻言語：英語〕				
LE100	Academic Listening and Speaking a	1	1	1	2
LE101	Academic Listening and Speaking b	1	1	1	2
LE102	Academic Writing a	1	1	1	2
LE103	Academic Writing b	1	1	1	2
LE104	Academic Reading a	1	1	1	2
LE105	Academic Reading b	1	1	1	2
LE106	Grammar and Vocabulary Development a	1	1	1	2
LE107	Grammar and Vocabulary Development b	1	1	1	2
LE108	English Communication for Study Abroad	1	1	1	2
LE109	Critical Literacy for Study Abroad	1	1	1	2
	〔主専攻言語：中国語〕				
LC100	中国語総合 1a	1	1	1	2
LC101	中国語総合 1b	1	1	1	2
LC102	中国語総合 2a	1	1	1	2
LC103	中国語総合 2b	1	1	1	2
LC104	中国語理解 1	1	1	1	2
LC105	中国語理解 2	1	1	1	2
LC106	中国語理解 3	1	1	1	2
LC107	中国語表現 1	1	1	1	2
LC108	中国語表現 2	1	1	1	2
LC109	応用中国語	1	1	1	2
	〔両言語共通〕				
LA100	スタディ・アブロード・プレパレーション	1	—	2	—
LA200	スタディ・アブロード(各大学)各授業科目	2	—	—	—
	(選択必修科目)				
	〔主専攻言語：英語〕				
LE300	Advanced Academic Reading 1	3	2	1	2
LE301	Advanced Academic Reading 2	3	2	1	2
LE302	Advanced Academic Communication	3	2	1	2
LE303	Advanced Writing 1	3	2	1	2
LE304	Advanced Writing 2	3	2	1	2
LE305	Critical Thinking Skills	3	2	1	2
LE306	Projects in English 1	3	2	1	2
LE307	Projects in English 2	3	2	1	2
LE308	英語資格試験対策 1	3	2	1	2
LE309	英語資格試験対策 2	3	2	1	2
	〔主専攻言語：中国語〕				
LC300	中国語講読	3	2	1	2
LC301	中国語口頭表現	3	2	1	2
LC304	中国語方言	3	2	1	2
LC305	中国語プラクティカルライティング	3	2	1	2
LC306	中国語アカデミックライティング	3	2	1	2
LC307	中国語プロジェクトワーク	3	2	1	2
LC308	中国語上級 a	3	2	1	2
LC309	中国語上級 b	3	2	1	2
LC310	古典中国語	3	2	1	2
	〔主専攻言語：日本語〕				
LJ300	日本語アカデミックコミュニケーション1	3	2	1	2
LJ301	日本語アカデミックコミュニケーション2	3	2	1	2
LJ302	日本語読解作文 1	3	2	1	2
LJ303	日本語読解作文 2	3	2	1	2
LJ304	日本語プロジェクトワーク	3	2	1	2
LJ303	日本語読解作文 2	3	2	1	2
LJ304	日本語プロジェクトワーク	3	2	1	2

プラスワン外国語科目

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	(選択必修科目)				
LA101	プラスワン外国語（各言語）1a	1	1	1	2
LA102	プラスワン外国語（各言語）1b	1	1	1	2
LA103	プラスワン外国語（各言語）2a	1	1	1	2
LA104	プラスワン外国語（各言語）2b	1	1	1	2
	(選択科目)				
LA300	プラスワン外国語（各言語）3a	3	1	1	2
LA301	プラスワン外国語（各言語）3b	3	1	1	2
LA302	プラスワン外国語（各言語）4a	3	1	1	2
LA303	プラスワン外国語（各言語）4b	3	1	1	2
LA105	副専攻言語（各言語）クロス留学	1	1	1	2
LA304	副専攻言語(各言語)3a	3	1	1	2
LA305	副専攻言語(各言語)3b	3	1	1	2
LA306	副専攻言語(各言語)4a	3	1	1	2
LA307	副専攻言語(各言語)4b	3	1	1	2
LA308	副専攻言語(各言語)5a	4	1	1	2
LA309	副専攻言語(各言語)5b	4	1	1	2
LE200	＊Intensive English Program Ⅰ	2	1	1	2
LE201	＊Intensive English Program Ⅱ	2	1	1	2
LE202	＊Intensive English Program Ⅲ	2	1	1	2
LE203	＊Intensive English Program Ⅳ	2	1	1	2
LC111	＊実践中国語(中級)	1	1	1	2
LC112	＊実践中国語(上級)	1	1	1	2
LC200	＊中国古典文講読 a	2	1	1	2
LC201	＊中国古典文講読 b	2	1	1	2

プラスワン外国語科目のうち、＊印の科目は８単位まで卒業所要単位に含める

外国語学部　専門教育科目一覧表

演習科目

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	(選択科目)				
SP399	専門演習	3	2	1	2
SP400	卒業演習1	4	2	1	2
SP401	卒業演習2	4	2	1	2

プログラム科目

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	(選択必修科目)				
	【プログラム共通科目】				
SP318	言語の構造(音声・音韻)	3	2	1	2
SP319	言語の構造(意味・談話)	3	2	1	2
SP320	言語と社会(欧米)	3	2	1	2
SP321	言語と社会(アジア)	3	2	1	2
SP327	言語分析研究(英語)	3	2	1	2
SP328	言語分析研究(日本語)	3	2	1	2
SP329	言語分析研究(中国語)	3	2	1	2
	【外国語教育】				
	(基幹科目)				
SP300	言語教育学(英語)	3	2	1	2
SP301	言語教育学(中国語)	3	2	1	2
SP302	言語教育学(日本語)	3	2	1	2
SP303	第二言語習得論	3	2	1	2
SP312	心理言語学研究	3	2	1	2
	(発展科目)				
SP308	外国語学習者論	3	2	1	2
SP309	外国語テスト・評価論	3	2	1	2
SP310	外国語教育メディア・教材論	3	2	1	2
SP311	外国語早期教育論	3	2	1	2
SP313	日本語教育演習	3	2	1	2
	【エリア・スタディーズ】				
	(基幹科目)				
SP335	エリア・スタディーズ(各地域)	3	2	1	2
	(発展科目)				
SP346	カルチュラル・インタラクション1	3	2	1	2
SP347	カルチュラル・インタラクション2	3	2	1	2
SP349	現代日本文化論	3	2	1	2
SP350	アメリカ文化論	3	2	1	2
SP351	地域言語文化論(各地域)	3	2	1	2
	【異文化コミュニケーション】				
	(基幹科目)				
SP354	文化とコミュニケーション	3	2	1	2
SP356	コミュニケーション論	3	2	1	2
SP358	非言語コミュニケーション論	3	2	1	2
	(発展科目)				
SP355	比較文化論	3	2	1	2
SP363	コミュニケーション研究	3	2	1	2
SP364	国際ビジネスコミュニケーション論	3	2	1	2
SP365	メディアコミュニケーション論	3	2	1	2
SP366	観光コミュニケーション論	3	2	1	2
SP367	国際協力・ボランティア論	3	2	1	2
SP368	ジャーナリズム・メディア論	3	2	1	2
	【通訳翻訳】				
	(基幹科目)				
SP373	通訳翻訳の理論と実技1	3	2	1	2
SP374	通訳翻訳の理論と実技2	3	2	1	2
SP375	通訳演習1(各テーマ)	3	2	1	2
SP376	翻訳演習1(各テーマ)	3	2	1	2
	(発展科目)				
SP381	文化翻訳論	3	2	1	2
SP382	通訳演習2(各テーマ)	3	2	1	2
SP383	翻訳演習2(各テーマ)	3	2	1	2
	【国際協力・地域協力】				
	(基幹科目)				
SP390	国際協力論(各テーマ)	3	2	1	2
SP391	地域協力論(各テーマ)	3	2	1	2
	(発展科目)				
SP395	国際協力・地域協力演習(各テーマ)	3	2	1	2

資格科目・専門関連科目

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	(選択科目)				
SP110	国際関係論入門	1	2	1	2
SP389	会計学入門	3	2	1	2
SP390	アジア経済論	3	2	1	2
SP391	国際社会と経済	3	2	1	2
SP393	国際協力論	3	2	1	2
SP394	外交政策	3	2	1	2
SP113	ロシア文化論a	1	2	1	2
SP114	ロシア文化論b	1	2	1	2
SP388	ロシア経済とビジネス	3	2	1	2
SP111	寄附講座(各テーマ)	1	2	1	2
SP112	特殊講義(各テーマ)	1	2	1	2
ED100	教職概説	1	2	1	2
ED101	教育原理	1	2	1	2
ED200	英語科教育法㈠	2	2	1	2
ED201	英語科教育法㈡	2	2	1	2
ED304	英語科教育法㈢	3	2	1	2
ED305	英語科教育法㈣	3	2	1	2
ED202	教育制度論	2	2	1	2
ED203	教育心理学	2	2	1	2
ED204	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用を含む)	2	2	1	2
ED205	道徳教育の理論と方法	2	2	1	2
ED206	特別活動論	2	2	1	2
ED207	教育相談論	2	2	1	2
ED208	人権教育論	2	2	1	2
ED300	中国語科教育法㈠	3	2	1	2
ED301	中国語科教育法㈡	3	2	1	2
ED306	中国語科教育法㈢	3	2	1	2
ED307	中国語科教育法㈣	3	2	1	2
SP396	ドイツ語教育法1	3	2	1	2
SP397	ドイツ語教育法2	3	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	(選択科目)				
SP398	フランス語教育法1	3	2	1	2
SP399	フランス語教育法2	3	2	1	2
ED302	カリキュラム開発論	3	2	1	2
ED303	生徒・進路指導論	3	2	1	2
ED309	特別支援教育論	3	1	1	2
ED310	総合的な学習の時間の指導法	3	1	1	2
	(自由科目)				
ED209	メディア教育論	2	2	1	2
ED210	教育実習事前指導	2	1	1	2
ED308	教育実習 ㈠	3・4	2	1	4
ED400	教育実習 ㈡	4	2	1	4
ED401	教職実践演習(中等)	4	2	1	2
ED102	図書館情報資源概論	1	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
ED211	情報資源組織論	2	2	1	2
ED212	学校経営と学校図書館	2	2	1	2
ED213	学習指導と学校図書館	2	2	1	2
ED214	読書と豊かな人間性	2	2	1	2
ED215	情報メディアの活用	2	2	1	2
ED103	国語学概論a	1	2	1	2
ED104	国語学概論b	1	2	1	2
ED216	日本語表現論a	2	2	1	2
ED217	日本語表現論b	2	2	1	2
ED218	日本語学Ⅰa	2	2	1	2
ED219	日本語学Ⅰb	2	2	1	2
ED220	日本語学Ⅱa	2	2	1	2
ED221	日本語学Ⅱb	2	2	1	2
ED402	日本語教育実習	4	2	1	2

緊急時対応科目

次の科目は、2年次のスタディ・アブロード・プログラムの実施が困難又は不可能になった場合のみ開講する。各科目とも卒業所要単位に算入するが、科目区分ごとに必要な最低単位数には含めない。

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	専攻言語科目				
	(選択必修科目)				
	〔主専攻言語:英語〕				
LE200	言語技術(英語)1a	2	1	1	2
LE201	言語技術(英語)1b	2	1	1	2
LE202	言語技術(英語)2a	2	1	1	2
LE203	言語技術(英語)2b	2	1	1	2
LE204	地域事情(英語)1a	2	1	1	2
LE205	地域事情(英語)1b	2	1	1	2
LE206	地域事情(英語)2a	2	1	1	2
LE207	地域事情(英語)2b	2	1	1	2
	〔主専攻言語:中国語〕				
LC200	言語技術(中国語)1a	2	1	1	2
LC201	言語技術(中国語)1b	2	1	1	2
LC202	言語技術(中国語)2a	2	1	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
LC203	言語技術(中国語)2b	2	1	1	2
LC204	地域事情(中国語)1a	2	1	1	2
LC205	地域事情(中国語)1b	2	1	1	2
LC206	地域事情(中国語)2a	2	1	1	2
LC207	地域事情(中国語)2b	2	1	1	2
	プラスワン外国語科目				
	(選択科目)				
LA201	副専攻言語(各言語)1a	2	1	1	2
LA202	副専攻言語(各言語)1b	2	1	1	2
LA203	副専攻言語(各言語)2a	2	1	1	2
LA204	副専攻言語(各言語)2b	2	1	1	2
	プログラム科目				
	(選択必修科目)				
SP200	専門基礎(各テーマ)	2	2	1	2

[科目番号について]

本学では、科目の特性・配当年次を示すため、各科目に科目番号を付与しています。

〈共通教養科目〉

アルファベット3桁で「共通教養科目」と「群」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。また、共通教養科目のうちグローバル科目群の留学準備スキルアップ科目及びグローバル・フロンティア科目は、配当年次に代えて外部テストによる難易度を示しています。

GE　A　1　000
種別　群　配当年次(難易度)　連番

種別　共通教養科目はすべてGE

群

A	関西大学科目群
B	基盤科目群
C	自己形成科目群
D	健康・スポーツ科目群
E	キャリア形成科目群
F	グローバル科目群
G	大学・学部・社会連携科目群

難易度（受講には各レベルの英語運用能力が必要です）

番号	レベル
1	GTECテスト180点未満 TOEFL ITP®Test430点未満 TOEFL iBT®Test40点未満 TOEIC®L&RTest375点未満 英語検定準２級未満
2	GTECテスト180点以上260点未満 TOEFL ITP®Test430点以上505点未満 TOEFL iBT®Test40点以上60点未満 TOEIC®L&RTest375点以上580点未満 英語検定準２級及び２級
3	GTECテスト260点以上 TOEFL ITP®Test505点以上 TOEFL iBT®Test60点以上 TOEIC®L&RTest580点以上 英語検定準１級及び１級

〈外国語科目〉

アルファベット３桁で「外国語科目」と「語種」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。

GF（種別）　E（語種）　1（配当年次）　000（連番）

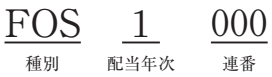
種別　外国語科目はすべてGF

語種

E	英語
G	ドイツ語
F	フランス語
R	ロシア語
S	スペイン語
C	中国語
K	朝鮮語
O	検定認定：Official-Test Accreditation

〈外国人留学生科目〉

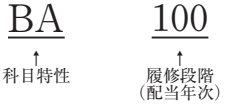
アルファベット３桁で「外国人留学生科目」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。



種別　外国人留学生科目はすべてFOS

〈専門教育科目〉

外国語学部では、科目の特性・履修段階を示すため、各科目に科目番号を付与しています。科目の特性を示すアルファベット２桁と履修段階を示す数字３桁で構成されています。



アルファベットが表す意味は以下のとおりです。

BA：Basic　ED：Education　LA：Language
LC：Language Chinese　LE：Language English
LF：Language French　LG：Language German
SP：Specialized Subject　LJ：Language Japanese

また、数字の百の位は配当年次を示しています。

システム理工学部

システム理工学部には、数学科、物理・応用物理学科(基礎・計算物理コース、応用物理コース)、機械工学科、電気電子情報工学科（電気電子工学コース、情報通信工学コース、応用情報工学コース）の４学科があります。

Ⅰ　教育に関する三つの方針

[工学]

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

システム理工学部は、学問と実践との融合の精神に基づき、社会に役立つ「しくみづくり」に貢献する技術者の育成を目的としています。学士（工学）の学位は、次の知識・技能、思考力・判断力・表現等の能力及び主体的な態度を身につけた者に対して授与します。

1　（知識・技能）

学問と実践との融合の精神に基づき、幅広い学びと豊かな人間性を基盤として、社会に役立つ「しくみづくり」に貢献する専門知識・技能を修得し、それらを活用することができる。

2　（思考力・判断力・表現等の能力）

社会に役立つ「しくみづくり」を新たに創造する力を培い、科学技術を支える社会に貢献する「考動力」を身につけ、高い柔軟性のある思考能力を身に付けることができる。

3　（主体的な態度）

社会のものごとに対して問題意識を持ち、情報収集の過程で他者の意見にも耳を傾け、解決に向けて主体的にかかわることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

システム理工学部（工学）（以下、本学部という）は、「学の実化」（学理と実際の調和）の理念のもと、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、次の点を踏まえた教育課程を編成します。

1　教育内容

⑴　教養教育

ア　専門教育科目の理解を深めるために、社会に役立つ「しくみづくり」に貢献する基盤となる学科指定の自己形成科目を配置する。

イ　社会で活躍するためのグローバルな視野と外国語運用能力の基礎を育成するため、「外国語科目」を配置し、実践的な英語力の向上を図る。

⑵　専門教育

ア　「しくみ」の原理を理解し、新たな「しくみづくり」へと応用展開できる知識や価値の創出力、技術力、問題解決能力を身につけられるように、講義科目と実験・実習・演習科目を配置する。

イ　数学や物理に重点を置いた導入科目と、機械及び電気・電子・情報に関する知識の修得を目指した専門科目を配置する。特に、上位年次の選択科目には多様な科目を配当し、各専門分野の情報が得られる配置となっている。また、学科で設置された各コースの科目を中心に学ぶ以外に、コースを横断して学べる科目も配置し、幅広い知識の修得を目指す。

ウ　各学年に配置された少人数制の実験・実習・演習などの実技科目は、講義内容との有機的な連携に重点が置かれ、知識と実践技術のバランスを考慮した修得状況を目指す。

エ　４年次の「特別研究（必修）」では共同研究者と協力し、より実践的な研究について学ぶとともに、これまでの知識と技能を実際の問題に適用し、創造力や論理的思考能力及び問題解決能力などの涵養を目指す。また、ゼミナールや卒業研究発表会では、プレゼンテーションとコミュニケーションの能力向上を目指す。

2　教育評価

⑴「特別研究」の履修に際し、履修の前学期末までの単位修得状況を確認し、受講資格を満たしているかをチェックする。

⑵　4年間の学修成果は、修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、新たに設定された課題を解決する能力について評価する。具体的には、能動的な学習が中心となる「特別研究」において、本学部の評価基準を満たした者を合格とする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

システム理工学部は、学位授与（工学）の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできるものとして、多様な入試制度を通じて、次に掲げる知識・技能・資質・能力及び態度を備えた入学者を広く受け入れます。

1　高等学校での教育課程の全般的な基礎学力を有している。特に、数学と理科（主に、物理）に関する基礎的な知識と技能を幅広く習得している。

2　社会に関心を持ち、幅広い教養と実践能力を兼ね備えた「考動力」の基盤を有している。

3　知的好奇心旺盛で、「しくみづくり」に興味を持ち、修得した知識・情報・技能を「しくみづくり」を通して社会に役立てたいという意欲がある。

[理学]

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

システム理工学部は、学問と実践との融合の精神に基づき、社会に役立つ「しくみづくり」に貢献する技術者の育成を目的としています。学士（理学）の学位は、次の知識・技能、思考力・判断力・表現等の能力及び主体的な態度を身につけた者に対して授与します。

1　（知識・技能）

学問と実践との融合の精神に基づき、幅広い人間力を基盤として、ものごとを分析し、その結果を表現するための数学・物理学に関する専門知識・技能を修得しそれを実践できる。

2　（思考力・判断力・表現等の能力）

円滑なコミュニケーション能力と将来を構想する力を持ち、「考動力」を身につけ、社会や他者のために、システム理工学にかかる専門性を基盤とした責任ある行動をとることができる。

3　（主体的な態度）

社会とのつながりのなかで自ら課題を探求し、実践において他者と共感しながら協働することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

システム理工学部（理学）（以下、本学部という）は、「学の実化（学理と実際の調和）」の理念のもと、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために次の点を踏まえた教育課程を編成します。

1　教育内容

⑴　教養教育

ア　社会で活躍するために必要な広い知識・視野と柔軟な思考を育成するために、共通教養教育として自己形成科目群や基盤科目群等を配置し、総合的な人間力を養う。

イ　共通教養科目の指定科目として配置した数理系基礎科目を通して、専門科目を学習するための基礎力を養う。

ウ　外国語文献の読解やコミュニケーションスキルを身につけるための「外国語科目」を配置し、4年間を通じた実践的な英語力育成を図る。

⑵　専門教育

ア　初年次の課題探求学習を取り入れた少人数教育を用いて、学習態度の醸成とアカデミックスキルの獲得を目指す。

イ　実験科目及びコンピュータ関連科目を通し、ものごとを分析することを実践する。

ウ　「数学科」では、現代数学の基礎である抽象的な諸概念を学び、現象の本質的理解や数理的定式化・解析に役立つ論理的思考力を身につける。また、演習形式の科目を通して、数理科学的内容を的確に伝える能力を修得する。

エ　「物理・応用物理学科」では、現代の科学技術の基盤となる物理学の諸分野について学び、現象の本質的理解や数理的定式化・解析に役立つ論理的思考力を身につける。また、通常科目や実験科目にふんだんに取り入れられたプレゼンテーションを通して、抽象的な数理学の概念を、分かりやすくかつ正確に伝える技術を身につける。

オ　本学部の教育のまとめである「特別研究」では、学生が個別の研究テーマに取組み、「考動」を実践する。

2　教育評価

⑴　特別研究への円滑な移行を図ることを目的とし、各学期終了時には必修科目及び専門教育科目を中心に単位修得状況を確認する。

⑵　4年間の学修成果は、特別研究（必修）によって行う。本学の評価基準を満たしたものを合格とする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

システム理工学部では、学位授与（理学）の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできるものとして、多様な入試制度を通じて、次に掲げる知識・技能及び態度を備えた者を広く受け入れます。

1　高等学校での教育課程の全般的な基礎学力を有している。特に、数学と理科（主に、物理）に関する基礎的な知識と技能を幅広く習得している。

2　社会に関心を持ち、幅広い教養と実践能力を兼ね備えた「考動力」の基盤を有している。

3　「数学科」では、数学が好きであること、あるいは自然科学、情報科学、社会科学における数理的側面に好奇心を持ち、じっくりと物事を考えることに高い志向性を有している。

4　「物理・応用物理学科」では、自然現象のしくみを解き明かすこと及びそれを数学を用いて表現することに興味関心を持ち、科学技術や科学教育の実践や発展に積極的に貢献したいという意欲がある。

Ⅱ　教育課程について

授業科目の構成

システム理工学部の授業科目は、共通教養科目、外国語科目及び専門教育科目に大別されます。

1　共通教養科目は、関西大学科目群、基盤科目群、自己形成科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群、グローバル科目群及び大学・学部・社会連携科目群の7つの科目群で構成されています。なお、共通教養科目の詳細については別に掲載する「共通教養科目について」を確認してください。

2　外国語科目は、次の科目で構成されています。

⑴　英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語の各々Ⅰａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂ、Ⅲａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂ、Ⅴａ、Ⅴｂ、Ⅵａ、Ⅵｂ

⑵　海外特別研修（各プログラム）

⑶　外国語検定科目

検定認定1（各検定試験）、検定認定2（各検定試験）、検定認定3（各検定試験）

3　専門教育科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目及び自由科目に分かれます。

上記のほか、外国人留学生のために外国人留学生科目があります。

授業科目の詳細は、「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）のとおりです。

Ⅲ　卒業所要単位について

卒業所要単位の内訳

システム理工学部に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、128単位以上を修得した者に卒業を認め、数学科及び物理・応用物理学科の卒業者には学士（理学）、機械工学科及び電気電子情報工学科の卒業者には学士（工学）の学位が与えられます。

128単位の内訳は、次のとおりです。

１　共通教養科目（20単位）

共通教養科目については、以下の通り修得しなければなりません。

⑴　自己形成科目群「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」のうち、２つ以上の領域からそれぞれ２単位以上修得しなければなりません。

なお、２つ以上の領域の必要単位については、各学科で設定する「指定科目」から修得したものを含みます。

⑵　自己形成科目群には、各学科で設定する「指定科目」があります。「指定科目」は12単位以上を修得しなければなりません。

なお、12単位を超過して修得した単位の取扱いは、学科によって異なりますので、各学科の「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）を参照してください。

⑶　グローバル科目群については２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑷　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群及び大学・学部・社会連携科目群の科目については合計２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

２　外国語科目（12単位）

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語のうち、英語を含む２つの外国語を第１選択外国語、第２選択外国語として修得しなければなりません。

ただし、外国語科目は２か国語しか履修・修得することはできません。

なお、外国語科目の所定の単位数を超過して修得した単位は卒業所要単位に含めることはできません。

⑴　第１選択外国語は、Ⅰａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂ、Ⅲａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂの計８単位を修得しなければなりません。

なお、Ⅴａ、Ⅴｂ、Ⅵａ、Ⅵｂは、これらを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

⑵　第２選択外国語は、第１選択外国語以外の外国語（第１選択外国語が英語以外の場合は英語）を選択し、〔Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ〕〔Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ〕〔Ⅴａ・Ⅴｂ・Ⅵａ・Ⅵｂ〕のいずれかの組合せで計４単位を修得しなければなりません。

⑶　英語の単位の取り扱いについて

①英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂとして単位の認定を行うことができます（詳細は277ページ参照）。

②英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの８単位を修得したうえで、さらに検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）、検定認定３（各検定試験）を修得した場合は、合計６単位まで外国語科目の単位に含めることができます。

③前述の①、②を合わせて卒業所要単位に含めることのできる単位数は、６単位（第２選択外国語とした場合は４単位）を限度とします。

⑷　英語以外の単位の取り扱いについて

①検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）を修得した場合は、各４単位まで当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

②海外特別研修（各プログラム）を修得した場合は、４単位まで当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

③前述の①、②を合わせて卒業所要単位に含めることのできる単位数は、４単位を限度とします。

3　専門教育科目（96単位）

専門教育科目は、各学科の定める条件に従って96単位以上修得しなければなりません。詳細については、「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）を参照してください。ただし、自由科目は修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

外国人留学生

1　外国人留学生における外国語科目は、日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの計８単位を修得しなければなりません。また、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語のうちから１か国語（日常使用語を除く）を選択し、その外国語のⅠａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂの計４単位を修得しなければなりません。

2　その他、外国語科目の取扱いについては、前述「２　外国語科目⑶～⑷」のとおりとします。

3　外国人留学生科目の選択科目を修得した場合、共通教養科目の卒業所要単位に含めることができます。

4　外国人留学生科目の自由科目を履修した場合、履修制限単位に含めますが、これを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

編・転入学生

２・３年次に編・転入学した者で共通教養科目、外国語科目が学部の所定の単位に満たない者は、学部長の指示する不足単位を修得しなければなりません。

Ⅳ　履修・修得について特に注意すべき事項

履修制限単位

履修制限単位は、次のとおりとします。

１年次	春学期	年間50単位未満
	秋学期	
２年次	春学期	
	秋学期	
３年次	春学期	
	秋学期	
４年次	春学期	
	秋学期	

通年科目を履修した場合は、当該科目の単位数の２分の１の単位数を、春学期と秋学期それぞれの履修単位に算入するものとします。

なお、次の科目は履修制限単位に含めません。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C
検定認定１・２・３（各検定試験）	海外特別研修（各プログラム）
海外体験研修（各プログラム）	海外インターン

科目履修の配当年次

配当年次は、当該年次以上において履修できることを示していますので、履修する科目は、当該年次及び下位年次の配当科目のうちから選択しなければなりません。

なお、第２選択外国語について、上位年次配当科目の受講を希望する者は、あらかじめ申込手続を行い、許可された場合のみ履修することができます。

４年次生の履修単位

４年次生においては、在学８学期目には１科目以上の履修をしなければなりません。

共通教養科目の履修

共通教養科目の履修については、次の点に注意してください。

1　共通教養科目の概要については、「共通教養科目について」（後掲）を参照してください。ただし、システム理工学部で履修・修得できる授業科目は「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。学科ごとに「指定科目」がありますので、留意してください。

2　特に指定された科目を除き、同一年度の春学期及び秋学期に同じ授業科目を二度履修することはできません。

3　クラス指定のある科目については、指定されたクラスで受講してください。また、定員制等のため事前登録が必要な科目、履修者数が一定以上に達した場合に事後抽選を行う科目があります。詳細はインフォメーションシステムで確認してください。

4　次の科目は履修制限単位に含めません。それぞれ該当のプログラムに応募のうえ参加許可を受けることをもって、履修登録に代えます。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C

共通教養科目の配当外科目の履修

所属する学科に配当されていない共通教養科目の履修を希望する場合、所定の手続を経て、許可された場合のみ、各年次の履修制限単位の範囲内で履修することができます。

なお、その科目を修得しても、卒業所要単位に含めることはできません。

外国語科目の履修

1　卒業所要単位に含める外国語科目は、当該科目を履修する初年度において、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵのそれぞれａ・ｂをセットで履修登録することを原則とします。ただし、英語Ⅴａ・ｂ（各テーマ）、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、各テーマを複数科目履修することができ、かつ、ａ・ｂセット履修の必要はありません。

2　英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの履修に際しては、原則として事前にプレースメントテストを受験しなければなりません。

なお、受験に関する詳細については、インフォメーションシステム等により指示します。

3　３年次配当の英語Ⅴａ・ｂ（各テーマ）、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、一定の条件を付して下位年次生の履修を認めています。履修希望者は所定の受付期間中に必要な手続きを行ってください。

外国語科目の選択パターンの変更

外国語科目の第１選択・第２選択の選択パターンの変更は、１年次の所定の届出期間中に届け出なければなりません。日程については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

なお、決定後の変更はできません。

英語以外の外国語の履修要件

英語以外の外国語のⅢａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂは、その外国語のⅠｂ、Ⅱｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅰａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。また、英語以外の外国語のⅤａ、Ⅴｂ、Ⅵａ、ⅥｂはそのⅢｂ、Ⅳｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅲａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

コース選択・登録

物理・応用物理学科及び電気電子情報工学科においては、２年次の秋学期にコース選択手続を行い、３年次の春学期に許可されたコースを登録しなければなりません。コース選択手続及び登録方法等の詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

システム理工学部　他学科配当科目の履修

システム理工学部の他学科配当の専門教育科目の履修を希望する場合は、所定の手続を経て、許可された場合のみ、履修を許可します。

なお、履修要件は以下のとおりです。

1　履修年次等の履修条件は、当該科目配当学科の指定によります。
2　配当外科目として取り扱います。
3　修得した単位については、卒業所要単位に含めることはできません。
4　原則として実験・実習、製図科目は履修できません。
5　自由科目及び配当外科目の履修制限単位（年間20単位以内）に含まれます。

専門教育科目の自由科目、配当外科目（各種資格取得に必要な他学部配当科目）の履修

1　自由科目及び配当外科目の履修制限単位は、春学期・秋学期を通じて20単位以内です。
　ただし、教育実習事前指導１単位、教育実習㈠２単位、教育実習㈡２単位はこの20単位には含めません。
2　他学部配当の授業科目は、所定の手続を経て、許可された場合のみ、履修を許可します。
3　自由科目については、当該科目の配当年次以上の年次でなければ履修することはできません。また、他学部配当の科目については、当該学部の指定する年次以上でなければ履修することはできません。

特別研究の配属

1　特別研究Ⅰ・Ⅱについては、履修要件を満たした者に対し、秋学期末（３月）に各研究室への配属を決定します。
2　ガイダンス等、配属に伴う行事の詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

関西大学大学院理工学研究科の授業科目の履修

関西大学大学院理工学研究科への強い進学意欲をもつ成績優秀な学部生に対して、より高度な視野に立つ勉学の機会を与えるとともに、大学院進学後は、本制度により修得した単位を一定の条件のもとで、博士課程前期課程の修了所要単位に算入することにより、大学院での研究活動に充てる時間をより多く確保し、高等技術者の育成に有利な環境を提供することを目的としています。

大学院授業科目の履修資格、履修制限単位、修得単位の取扱い等の概要は次のとおりです。

なお、詳細についてはインフォメーションシステム等によりお知らせします。

1　履修資格
　「特別研究Ⅰ」の履修資格を有し、かつ各学科が定めた成績を修め、所定の手続を経て、許可された者に限り履修することができます。
2　履修制限単位
　春学期・秋学期合わせて５科目10単位まで履修することができます。
　また、この履修単位数は、自由科目及び配当外科目の履修制限単位（年間20単位以内）に含まれます。
3　修得単位の取扱い
　修得した単位については、卒業所要単位に含めることはできません。
　ただし、関西大学大学院理工学研究科に進学した場合は、所定の手続を経て許可された者に限り、博士課程前期課程の修了所要単位に含めることができます。

機械工学科の早期卒業制度

学部教育と大学院教育の連携を強化するため、機械工学科に在学するきわめて優秀な学生が、７学期間（3.5年）で早期に卒業し、本学大学院理工学研究科システム理工学専攻機械工学分野へと進学することを目的とした制度です。概要については、次のとおりです。

なお、詳細についてはインフォメーションシステム等によりお知らせします。

⑴　募集時期

３年次秋学期中にガイダンス・募集を行います。

⑵　早期卒業制度適用条件

早期卒業制度の適用を受ける者は、以下の条件をすべて満たしていなければなりません。

ア　機械工学科に入学後、連続して５学期在学している者（編・転入学生については、機械工学科に編・転入学をした時点で、編・転入学をする以前も本学に在学していたものとみなす（ただし、早期卒業制度を設ける大学からの編・転入学生に限る。））

イ　本学大学院理工学研究科システム理工学専攻機械工学分野への進学を強く希望する者

ウ　応募時に「早期特別研究」を履修しており、かつ当該特別研究担当者が早期卒業制度への応募を認めた者

エ　３年次春学期（５学期）末時点において、卒業所要単位に含まれる科目の成績が高い者（成績判定基準は、別に定めます。）

オ　早期卒業希望者を対象に行う口頭試問において優秀な成績の者

⑶　早期卒業が認められる条件

以下の条件をすべて満たしていなければなりません。

ア　４年次春学期末時点において、連続して７学期在学し、卒業所要単位を全て修得した者

イ　４年次春学期（７学期）末時点において、卒業所要単位に含まれる科目の成績が高い者（成績判定基準は、別に定めます。）

ウ「特別研究Ⅰ」及び「特別研究Ⅱ」を修得した者

エ　本学大学院理工学研究科システム理工学専攻の開講する授業科目を４年次春学期に10単位履修している者（４年次春学期に10単位履修したうち、少なくとも６単位を修得しておかなければ、本学大学院理工学研究科に入学後、早期修了制度（注）適用対象者となる条件を満たすことができなくなります。）

※４年次春学期に修得した単位は、本学大学院理工学研究科に入学後、一括して単位認定を行い、単位認定された単位は修了所要単位に含まれます。また、早期修了適用対象者となる条件を満たすためには、第１学期末時点において、成績が優秀であり、修了所要単位のうち、20単位(ゼミナールを含む)以上を修得している必要があります。

なお、本学大学院理工学研究科に入学後、第１学期で履修できる単位数は14単位となっています。

⑷　その他の事項

ア　早期卒業制度の適用を認められた者には、４年次春学期に「特別研究Ⅰ」及び「特別研究Ⅱ」の並行履修を認めます。

イ　早期卒業制度の適用を認められた者に、休学・退学等の学籍異動があった場合は、早期卒業制度適用の許可を取り消します。

ウ　早期卒業制度適用の辞退もしくは取消があった場合は、４年次春学期（７学期）末時点で卒業所要単位を全て修得している場合においても、４年次秋学期以降に１科目以上の履修をしたうえで、通算８学期以上在学しなければなりません。

エ　本学大学院理工学研究科システム理工学専攻の開講する授業科目の履修申請手続前(３年次秋学期末(３月))に履修に関するガイダンスを実施します。

早期卒業制度　スケジュール（予定）

3年次　秋学期（～3月）	早期卒業制度適用対象者　募集
3年次　秋学期（3月）	早期卒業制度適用対象者　決定
同　上	関西大学大学院理工学研究科システム理工学専攻の開講する授業科目の履修ガイダンス・履修申請手続
4年次　春学期（9月）	早期卒業制度適用対象者　早期卒業

（注）　関西大学大学院理工学研究科システム理工学専攻機械工学分野の早期修了制度について

優秀な学生に対し、学部から大学院博士課程前期課程までの連携した一貫教育を行い、社会の要請に応えるきわめて質の高い人材（高度専門技術者）を輩出するため、学部を3.5年で早期卒業し、大学院博士課程前期課程に入学した学生のうち、大学院において特に優秀な成績を修めた者が、博士課程前期課程を3学期（1.5年）で修了することができる制度です。機械工学分野においては、博士課程前期課程を修了後に、同後期課程への進学を強く薦めます。概要については、次の通りです。

なお、詳細については、インフォメーションシステム等により、大学院博士課程前期課程入学後にお知らせします。

⑴　対象者

関西大学システム理工学部機械工学科を早期卒業し、関西大学大学院理工学研究科システム理工学専攻機械工学分野に在学中で、早期修了を希望する者

⑵　募集時期

第2学期の所定の時期

⑶　早期修了制度適用条件

早期修了制度の適用を受ける者は、以下の条件をすべて満たしていなければなりません。

ア　システム理工学専攻機械工学分野に入学後、学籍異動を行わず、1学期在学している者

イ　第1学期に行う中間審査において、早期修了が可能であると判断された者（注1）

ウ　第1学期末時点において、成績が優秀（注2）であり、修了所要単位のうち、20単位（ゼミナールを含む）以上を修得している者（注3）

⑷　早期修了が認められる条件

早期修了をするためには、以下の条件をすべて満たしていなければなりません。

ア　第2学期末時点において、修了所要単位に含まれる科目の成績が優秀な者（注2）

イ　第3学期末時点において、連続して3学期在学し、修了所要単位を全て修得した者

ウ　修士論文の審査及び試験に合格した者

⑸　履修上の措置及びその他の事項

ア　早期修了制度の適用を認められた者には、第3学期にゼミナールⅢ、Ⅳの並行履修を認めます。

イ　早期修了制度の適用を認められた者に、学籍異動があった場合は、早期修了制度適用の許可を取り消し、通算4学期以上在学し、修士論文の審査及び試験に合格しなければ修了を認めません。

ウ　早期修了制度の適用を認められた者から、指導教員を通じて、理工学研究科長に第2学期末までに早期修了制度適用辞退の申し出（注4）があった場合は、早期修了制度適用許可を取り消し、第3学期におけるゼミナールⅢ、Ⅳの平行履修と第3学期の修士論文の提出を認めません。

また、第3学期末までに早期修了制度適用辞退の申し出（注4）があった場合は、早期修了制度適用許可を取り消し、第3学期の修士論文の提出を認めません。

エ　大学院博士課程前期課程入学時にガイダンスを実施し、大学院早期修了制度の概要説明を行います。

注1：中間審査については、別に実施要領を定めます。

注2：成績判定基準については、別に定めます。

注3：第1学期の履修制限単位は14単位であるため、4年次春学期に10単位履修した大学院理工学研究科授業科目のうち、少なくとも6単位を修得しておかなければ、早期修了適用対象者となる条件を満たすことができません。

注4：早期修了辞退申請の詳細については、別に定めます。

なお、詳細については、インフォメーションシステム等により、大学院博士課程前期課程入学後にお知らせします。

授業科目一覧表

1　共通教養科目

《関西大学科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	関西大学を知る				
GEA1001	日本の近現代史と関西大学―知の群像	1	2	1	2
GEA1002	吹田市と関西大学	1	2	1	2
GEA1003	学生生活とリスク	1	2	1	2
	戦略トピックス				
GEA1004	SDGs入門	1	2	1	2
GEA1005	SDGsの実践	1	2	1	2
GEA1006	金融の実務から見るSDGs	1	2	1	2
GEA1007	環境問題と環境政策のルーツ	1	2	1	2
GEA1008	活用法を見聞するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1009	活用法を体験するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1010	起業に学ぶ「考動力」入門（関大出身起業家と考える未来の自分）	1	2	1	2
GEA1011	起業に学ぶ「考動力」実践（企業と考える未来のデザイン）	1	2	1	2
GEA2001	社会のためのデータサイエンス実践基礎	2	2	1	2
GEA2002	AI・データエンジニアリング実践基礎	2	2	1	2

《基盤科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEB1001	スタディスキルゼミ（各テーマ）	1	2	1	2
GEB1002	プロジェクト学習１	1	2	1	2
GEB2001	プロジェクト学習２	2	2	1	2

《自己形成科目群》

領域：人間を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1001	こころとからだを哲学する
	GEC1002	文化・社会と心理学
	GEC1003	身体運動の人間学
	GEC1004	ことばと思考
	GEC1005	地図の知恵、地図の思想
	GEC1006	自己と他者
	GEC1007	自己をみつめる
	GEC1008	日本人の宗教観
	GEC1009	美術からみる表現と理解
	GEC1010	入門・新しい部落問題
	GEC1011	現代社会とジェンダー
	GEC1012	現代社会とセクシュアリティ
	GEC1013	生と死の倫理学
	GEC1014	食を知る
	GEC1015	食のリスクマネジメント
	GEC1016	宗教と現代
	GEC1017	新しい人権論への招待
教養を深める（知の見取り図）	GEC1018	哲学を学ぶ
	GEC1019	論理学を学ぶ
	GEC1020	心理学を学ぶ
	GEC1021	宗教学を学ぶ
	GEC1022	イスラーム世界の歴史を学ぶ
	GEC1023	考古学を学ぶ
	GEC1024	日本語を学ぶ
	GEC1025	日本文学を学ぶ
	GEC1026	人文地理学を学ぶ
	GEC1027	地域社会の生活と資源
	GEC1028	芸術学を学ぶ
	GEC1029	人類学入門
教養を深める（知の探求）	GEC1030	日本の古典文学を読む
	GEC1031	日本の近代文学を読む
	GEC1032	わかる諸子百家
	GEC1033	日本の文化と人間を考える
	GEC1034	子供から大人への過程を考える
	GEC1035	社会と個人の心理学
	GEC1036	世界の文学を味わう
	GEC1037	西洋美術を味わう
	GEC1038	日本・東洋美術を味わう
	GEC1039	文化史に親しもう
	GEC1040	アジアの文化と世界遺産
	GEC1041	大学教育論～大学の主人公はきみたちだ！～
チャレンジ科目	GEC1042	各テーマ

【配当年次：１・２・３・４　　単位：２
授業期間：１　　毎週授業時間：２】

領域：社会を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1043	今日の道徳的ディレンマ
	GEC1044	世界の宗教
	GEC1045	環境の倫理学
	GEC1046	企業と社会
	GEC1047	技術と社会
	GEC1048	生活の中の経済学
	GEC1049	メディア・リテラシー入門
	GEC1050	イスラム社会を考える
	GEC1051	日本の伝統文化
	GEC1052	方言学入門
	GEC1053	共生社会のライフデザイン
	GEC1054	日本の社会と生活の歴史
	GEC1055	優良企業の見分け方
	GEC1056	社会学で学ぶ現代社会
	GEC1057	政治学と21世紀社会
	GEC1058	法実務入門
	GEC1059	地域再発見の旅
	GEC1060	旅から始める知の冒険
	GEC1061	移動する人々
	GEC1062	オリンピックの共生思想
	GEC1063	外来文化と日本の歴史
	GEC1064	アジアの中の日本歴史
	GEC1065	世界の中の日本経済
	GEC1066	日本史の中の平和と戦争
	GEC1067	世界史の中の平和と戦争
	GEC1068	読書への誘い
教養を深める（知の見取り図）	GEC1069	倫理学を学ぶ
	GEC1070	法学を学ぶ
	GEC1071	政治学のすすめ
	GEC1072	民俗学を学ぶ
	GEC1073	基礎からのマクロ経済学
	GEC1074	基礎からのミクロ経済学
	GEC1075	社会学入門
	GEC1076	日本国憲法
	GEC1077	基礎からの情報処理
	GEC1078	ビジネスを学ぶ
	GEC1079	日本の歴史を学ぶ
	GEC1080	アジア史を学ぶ
	GEC1081	西洋の歴史を学ぶ
	GEC1082	社会思想史を学ぶ
教養を深める（知の探求）	GEC1083	名作を読む
	GEC1084	哲学の古典を読み解く
	GEC1085	聖典と宗教思想
	GEC1086	近代市民社会思想を知ろう
	GEC1087	労働と雇用を考える
	GEC1088	日本の地域史を考える
	GEC1089	世界の地域文化を知ろう
	GEC1090	少子高齢化社会を考える
	GEC1091	法の社会学
	GEC1092	日本史の中の女性と社会を知ろう
	GEC1093	日本社会の成熟と変動を知ろう
	GEC1094	強い会社のマネジメントを知る
	GEC1095	西洋世界の社会と歴史を考える
	GEC1096	欧米世界の歴史と文化を知ろう
	GEC1097	中国と日本の文化交流
	GEC1098	異文化への理解を深める
	GEC1099	現代都市の生態とエスニシティ
	GEC1100	社会的養育を考える
チャレンジ科目	GEC1101	各テーマ

領域：自然と向き合う

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1102	確率・統計でものを考える
	GEC1103	自然災害の科学
	GEC1104	科学と文化
	GEC1105	生物と環境
	GEC1106	人類紀の環境変動
	GEC1107	建築と景観
	GEC1108	エネルギーと環境
	GEC1109	科学と技術
	GEC1110	現代科学の展開
	GEC1111	統計学を学ぶ
教養を深める（知の見取り図）	GEC1112	自然地理学を学ぶ
	GEC1113	自然科学史を学ぶ
	GEC1114	バイオサイエンス入門
	GEC1115	数学を学ぶ（各テーマ）＊
	GEC1116	物理を学ぶ（各テーマ）＊
	GEC1117	物理を学ぶ（演習含）（各テーマ）＊
	GEC1118	化学を学ぶ（各テーマ）＊
	GEC1119	化学を学ぶ（演習含）（各テーマ）＊
教養を深める（知の探求）	GEC1120	仕組みを形にする科学技術
	GEC1121	現代社会を支える電気電子情報技術
	GEC1122	宇宙のすがたと歴史
	GEC1123	近代科学の系譜
	GEC1124	気象と気候を学ぶ
	GEC1125	地球の科学
	GEC1126	地震と火山のメカニズムと防災
チャレンジ科目	GEC1127	各テーマ

＊：履修可能なテーマは学科により異なりますので、各学科の「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）を参照してください。

【配当年次：1・2・3・4　　単位：2　　授業期間：1　　毎週授業時間：2】

《健康・スポーツ科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GED1001	健康・スポーツ科学実習a(各種目)	1	1	1	2
GED1002	健康・スポーツ科学実習b(各種目)	1	1	1	2
GED1003	健康・スポーツ科学実習c(各種目)	1	1	1	2
GED1004	健康・スポーツ科学論	1	2	1	2
	(生涯スポーツ・身体運動文化コース)				
GED1005	関西大学スポーツ文化論	1	2	1	2
GED1006	スポーツ運動学概論	1	2	1	2
GED1007	スポーツ社会学概論	1	2	1	2
GED1008	スポーツ心理学概論	1	2	1	2
GED1009	スポーツ栄養学概論	1	2	1	2
GED1010	コーチングの科学	1	2	1	2
GED1011	トレーニング科学概論	1	2	1	2
GED1012	コンディショニング科学概論	1	2	1	2

《キャリア形成科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEE1001	大学生から始めるキャリア形成	1	2	1	2
GEE1002	キャリア形成入門演習	1	2	1	2
GEE2001	理論と実践から探求するキャリア形成	2	2	1	2
GEE2002	現代社会を生き抜くためのキャリア形成	2	2	1	2
GEE2003	キャリア形成実践演習	2	2	1	2
GEE1003	インターンシップ(ビジネス)	1~3	2	1	4
GEE1004	インターンシップ（学校１）	1~4	2	1	4
GEE1005	インターンシップ（学校２）	1~4	2	1	4
GEE1006	インターンシップ（学校３）	1~4	2	1	4

《グローバル科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学準備スキルアップ科目】				
GEF2001	Foundation for Academic English	1~4	2	1	2
GEF1001	Academic Writing Practice	1~4	2	1	2
GEF2002	Academic Discussions & Debates	1~4	2	1	2
GEF2003	Presentation Skills	1~4	2	1	2
GEF2004	留学のための英語スキルアップ	1~4	2	1	2
GEF2005	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2006	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2007	ASEAN Studies	1~4	2	1	2
GEF1002	Understanding Cross-Cultural Communication	1~4	2	1	2
GEF1003	KUGF Independent Study (English Skills Development)	1~4	2	1	2
GEF2008	KUGF Independent Study (Doing a Research in English)	1~4	2	1	2
GEF2009	Global Awareness Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2010	Global Awareness Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2011	English Communication Skills for Business Contexts	1~4	2	1	2
	【グローバル・フロンティア科目】				
	Module 1 . Engineering Approach to Urban Issues				
GEF3001	Disaster Transport Planning	1~4	2	1	2
	Module 2. Food Science & Biotechnology				
GEF3002	Biotechnology and Bioethics	1~4	2	1	2
GEF3003	Marketing of Food, Alcohol and Cosmetics	1~4	2	1	2
GEF3004	Science of Washoku (Japanese Cuisine)	1~4	2	1	2
GEF3005	Food Safety	1~4	2	1	2
GEF3006	Polysaccharide Science	1~4	2	1	2
	Module 3 .International Business & Entrepreneurship				
GEF3007	International Business for Entrepreneurs	1~4	2	1	2
GEF3008	Japanese Industries and Companies (The Global Competition)	1~4	2	1	2
GEF3009	Business & Japanese People	1~4	2	1	2
GEF3010	Marketing in Japan	1~4	2	1	2
GEF3011	Business for SDGs (Sustainable Development Goals)	1~4	2	1	2
	Module 4 . Japan Studies				
GEF3012	Japanese Philosophy and Thoughts	1~4	2	1	2
GEF3013	Japanese Religion	1~4	2	1	2
GEF3014	Japanese Arts	1~4	2	1	2
GEF3015	Japanese History (The History and Culture of Medieval Japan)	1~4	2	1	2
GEF3016	Japanese History (Bushido: The Way of the Warrior)	1~4	2	1	2
GEF3017	Japanese Literature (Survey of Post-1945)	1~4	2	1	2
GEF3018	Japanese Literature (Intro. to Classical JPN Literature)	1~4	2	1	2
GEF3019	Japanese Culture (Modern Culture and Post-war History)	1~4	2	1	2
GEF3020	Japanese Culture (JPN Culture and Contemporary Literature)	1~4	2	1	2
GEF3021	Comparative Asian Cultures Studies	1~4	2	1	2
GEF3022	Japanese Law and Politics	1~4	2	1	2
GEF3023	Japanese Economy (Topics in Japanese Economy and Discussion)	1~4	2	1	2
GEF3024	Japanese Society	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEF3025	Japanese Popular Culture (Postwar Japanese Culture)	1~4	2	1	2
GEF3026	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. to Kendo)	1~4	2	1	2
GEF3027	Seminar in Japanology (The Japanese Language and Society)	1~4	2	1	2
GEF3028	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. To Naginata)	1~4	2	1	2
GEF3029	Seminar in Japanology (War and Conflict through JPN Film)	1~4	2	1	2
	Module 5 . Language Teaching & Communication				
GEF3030	Second Language Acquisition	3	2	1	2
GEF3031	Individual Differences in Language Learning	3	2	1	2
GEF3032	Ed. Tech. & Materials Development in FLT	3	2	1	2
GEF3033	Early Foreign Language Education	3	2	1	2
GEF3034	Structure of Language (discourse and meaning)	3	2	1	2
GEF3035	Linguistic Analysis (English)	3	2	1	2
GEF3036	International Business Communication	3	2	1	2
	Module 6 . Studies on Foreign Affairs				
GEF3037	International Development	1~4	2	1	2
GEF3038	Area Studies (Europe I)	1~4	2	1	2
GEF3039	Area Studies (Europe II)	1~4	2	1	2
GEF3040	Area Studies (India)	1~4	2	1	2
GEF3041	Japan in International Affairs	1~4	2	1	2
	Module 7 . Fundamentals for Social Science Studies				
GEF3042	Critical Thinking for Social and Global Issues	1~4	2	1	2
GEF3043	Research Methods for Social Science	1~4	2	1	2
GEF3044	Global Sociology	1~4	2	1	2
GEF3045	Japanese Computerization and Society	1~4	2	1	2
GEF3046	Methods of Comparative Analysis (ENG and JPN Communication)	1~4	2	1	2
GEF3047	Contemporary Gender Studies	1~4	2	1	2
	Module 8 . Applied Science and Engineering				
GEF3048	Japanese Science and Technology	1~4	2	1	2
GEF3049	Environmental Biology	1~4	2	1	2
GEF3050	Information and Communication Technologies	1~4	2	1	2
GEF3051	Introduction to Applied Science	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学実践科目】				
GEF1004	KUGF Field Study（各プログラム）	1~4	2	1	4
GEF1005	海外研修（各セミナー）	1~4	1~2	1	4
GEF1006	外国語運用実習(各セミナー)	1~4	1	1	2

《大学・学部・社会連携科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【大学連携科目】				
	〔大学コンソーシアム大阪プログラム〕				
GEG1001	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【学部連携科目】				
	〔学部オープン科目〕				
GEG1002	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【社会連携科目】				
	(講義科目)				
GEG1003	国際協力の基礎を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1004	国際協力ボランティアの理論を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1005	国際協力レディネス	1~4	2	1	2
GEG1006	国際協力フォローアップ	1~4	2	1	2
	(実習科目)				
GEG1007	国際協力ボランティア実習A	1~4	4	1	8
GEG1008	国際協力ボランティア実習B	1~4	2	1	4
GEG1009	国際協力ボランティア実習C	1~4	1	1	2
GEG3001	サービスラーニング(各テーマ)	3	2	1	2

※共通教養科目の開講科目等詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

外国語科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GFE1001	英語Ⅰa	1	1	2	1
GFE1002	英語Ⅰb	1	1	2	
GFE1003	英語Ⅱa	1	1	2	
GFE1004	英語Ⅱb	1	1	2	
GFG1001	ドイツ語Ⅰa	1	1	2	
GFG1002	ドイツ語Ⅰb	1	1	2	
GFG1003	ドイツ語Ⅱa	1	1	2	
GFG1004	ドイツ語Ⅱb	1	1	2	
GFF1001	フランス語Ⅰa	1	1	2	
GFF1002	フランス語Ⅰb	1	1	2	
GFF1003	フランス語Ⅱa	1	1	2	
GFF1004	フランス語Ⅱb	1	1	2	
GFR1001	ロシア語Ⅰa	1	1	2	
GFR1002	ロシア語Ⅰb	1	1	2	
GFR1003	ロシア語Ⅱa	1	1	2	
GFR1004	ロシア語Ⅱb	1	1	2	
GFS1001	スペイン語Ⅰa	1	1	2	
GFS1002	スペイン語Ⅰb	1	1	2	
GFS1003	スペイン語Ⅱa	1	1	2	
GFS1004	スペイン語Ⅱb	1	1	2	
GFC1001	中国語Ⅰa	1	1	2	
GFC1002	中国語Ⅰb	1	1	2	
GFC1003	中国語Ⅱa	1	1	2	
GFC1004	中国語Ⅱb	1	1	2	
GFK1001	朝鮮語Ⅰa	1	1	2	
GFK1002	朝鮮語Ⅰb	1	1	2	
GFK1003	朝鮮語Ⅱa	1	1	2	
GFK1004	朝鮮語Ⅱb	1	1	2	
GFE2001	英語Ⅲa	1	1	2	2
GFE2002	英語Ⅲb	1	1	2	
GFE2003	英語Ⅳa	1	1	2	
GFE2004	英語Ⅳb	1	1	2	
GFG2001	ドイツ語Ⅲa	1	1	2	
GFG2002	ドイツ語Ⅲb	1	1	2	
GFG2003	ドイツ語Ⅳa	1	1	2	
GFG2004	ドイツ語Ⅳb	1	1	2	
GFF2001	フランス語Ⅲa	1	1	2	
GFF2002	フランス語Ⅲb	1	1	2	
GFF2003	フランス語Ⅳa	1	1	2	
GFF2004	フランス語Ⅳb	1	1	2	
GFR2001	ロシア語Ⅲa	1	1	2	
GFR2002	ロシア語Ⅲb	1	1	2	
GFR2003	ロシア語Ⅳa	1	1	2	
GFR2004	ロシア語Ⅳb	1	1	2	
GFS2001	スペイン語Ⅲa	1	1	2	
GFS2002	スペイン語Ⅲb	1	1	2	
GFS2003	スペイン語Ⅳa	1	1	2	2
GFS2004	スペイン語Ⅳb	1	1	2	
GFC2001	中国語Ⅲa	1	1	2	
GFC2002	中国語Ⅲb	1	1	2	
GFC2003	中国語Ⅳa	1	1	2	
GFC2004	中国語Ⅳb	1	1	2	
GFK2001	朝鮮語Ⅲa	1	1	2	
GFK2002	朝鮮語Ⅲb	1	1	2	
GFK2003	朝鮮語Ⅳa	1	1	2	
GFK2004	朝鮮語Ⅳb	1	1	2	
GFE3001	英語Ⅴa(各テーマ)	1	1	2	3
GFE3002	英語Ⅴb(各テーマ)	1	1	2	
GFE3003	英語Ⅵa(各テーマ)	1	1	2	
GFE3004	英語Ⅵb(各テーマ)	1	1	2	
GFG3001	ドイツ語Ⅴa	1	1	2	
GFG3002	ドイツ語Ⅴb	1	1	2	
GFG3003	ドイツ語Ⅵa	1	1	2	
GFG3004	ドイツ語Ⅵb	1	1	2	
GFF3001	フランス語Ⅴa	1	1	2	
GFF3002	フランス語Ⅴb	1	1	2	
GFF3003	フランス語Ⅵa	1	1	2	
GFF3004	フランス語Ⅵb	1	1	2	
GFR3001	ロシア語Ⅴa	1	1	2	
GFR3002	ロシア語Ⅴb	1	1	2	
GFR3003	ロシア語Ⅵa	1	1	2	
GFR3004	ロシア語Ⅵb	1	1	2	
GFS3001	スペイン語Ⅴa	1	1	2	
GFS3002	スペイン語Ⅴb	1	1	2	
GFS3003	スペイン語Ⅵa	1	1	2	
GFS3004	スペイン語Ⅵb	1	1	2	
GFC3001	中国語Ⅴa	1	1	2	
GFC3002	中国語Ⅴb	1	1	2	
GFC3003	中国語Ⅵa	1	1	2	
GFC3004	中国語Ⅵb	1	1	2	
GFK3001	朝鮮語Ⅴa	1	1	2	
GFK3002	朝鮮語Ⅴb	1	1	2	
GFK3003	朝鮮語Ⅵa	1	1	2	
GFK3004	朝鮮語Ⅵb	1	1	2	
GFP1001	海外特別研修(各プログラム)	6	1	12	1～4
GFO1001	検定認定1(各検定試験)	2	—	—	
GFO1002	検定認定2(各検定試験)	2	—	—	
GFO1003	検定認定3(各検定試験)	2	—	—	

外国人留学生科目・外国語科目

種別	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
外国人留学生科目	（必修科目）					
	FOS1001	日本語Ⅰ	2	1	4	1
	FOS1002	日本語Ⅱ	2	1	4	
	FOS1003	日本語Ⅲ	2	1	4	
	FOS1004	日本語Ⅳ	2	1	4	
	（選択科目）					
	FOS1005	日本事情Ⅰ	2	1	2	1
	FOS1006	日本事情Ⅱ	2	1	2	
	（自由科目）					
	FOS2001	実践ビジネス日本語Ⅰ	2	1	2	2
	FOS2002	実践ビジネス日本語Ⅱ	2	1	2	
	FOS2003	キャリアデザインⅠ(日本の社会と企業)	2	1	2	
	FOS2004	キャリアデザインⅡ(日本の就職と働き方)	2	1	2	
	FOS3001	キャリアデザインⅢ(日本の社会で働く)	2	1	2	3
	FOS1007	Contemporary Japan (Understanding Japan)	2	1	2	1~4
	FOS1008	Contemporary Japan (Researching Japan)	2	1	2	1~4
	FOS1009	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 1)	2	1	2	1~4
	FOS1010	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 2)	2	1	2	1~4
	FOS1011	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 1)	2	1	2	1~4
	FOS1012	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 2)	2	1	2	1~4
	FOS1013	Communication in Japanese Society (Business Japanese)	2	1	2	1~4
	FOS1014	Communication in Japanese Society (JPN Corporate Culture)	2	1	2	1~4
	FOS1015	Field-Based Learning (Society and Workplace Culture in Japan)	2	1	2	1~4
	FOS1016	Japanese (1-a)	2	1	4	1~4
	FOS1017	Japanese (1-b)	2	1	4	1~4
	FOS1018	Japanese (2-a)	2	1	4	1~4
	FOS1019	Japanese (2-b)	2	1	4	1~4
	FOS1020	Japanese (3-a)	2	1	4	1~4
	FOS1021	Japanese (3-b)	2	1	4	1~4
	FOS1022	Japanese (4-a)	2	1	4	1~4
	FOS1023	Japanese (4-b)	2	1	4	1~4
	FOS1024	Japanese (5-a)	2	1	4	1~4
	FOS1025	Japanese (5-b)	2	1	4	1~4
	FOS1026	Japanese (6-a)	2	1	4	1~4
	FOS1027	Japanese (6-b)	2	1	4	1~4
	FOS1028	Japanese (7-a)	2	1	4	1~4
	FOS1029	Japanese (7-b)	2	1	4	1~4
外国語科目	GFE1001	英語Ⅰa	1	1	2	1
	GFE1002	英語Ⅰb	1	1	2	
	GFE1003	英語Ⅱa	1	1	2	
	GFE1004	英語Ⅱb	1	1	2	
	GFG1001	ドイツ語Ⅰa	1	1	2	
	GFG1002	ドイツ語Ⅰb	1	1	2	

種別	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
外国語科目	GFG1003	ドイツ語Ⅱa	1	1	2	1
	GFG1004	ドイツ語Ⅱb	1	1	2	
	GFF1001	フランス語Ⅰa	1	1	2	
	GFF1002	フランス語Ⅰb	1	1	2	
	GFF1003	フランス語Ⅱa	1	1	2	
	GFF1004	フランス語Ⅱb	1	1	2	
	GFR1001	ロシア語Ⅰa	1	1	2	
	GFR1002	ロシア語Ⅰb	1	1	2	
	GFR1003	ロシア語Ⅱa	1	1	2	
	GFR1004	ロシア語Ⅱb	1	1	2	
	GFS1001	スペイン語Ⅰa	1	1	2	
	GFS1002	スペイン語Ⅰb	1	1	2	
	GFS1003	スペイン語Ⅱa	1	1	2	
	GFS1004	スペイン語Ⅱb	1	1	2	
	GFC1001	中国語Ⅰa	1	1	2	
	GFC1002	中国語Ⅰb	1	1	2	
	GFC1003	中国語Ⅱa	1	1	2	
	GFC1004	中国語Ⅱb	1	1	2	
	GFK1001	朝鮮語Ⅰa	1	1	2	
	GFK1002	朝鮮語Ⅰb	1	1	2	
	GFK1003	朝鮮語Ⅱa	1	1	2	
	GFK1004	朝鮮語Ⅱb	1	1	2	
	GFE2001	英語Ⅲa	1	1	2	2
	GFE2002	英語Ⅲb	1	1	2	
	GFE2003	英語Ⅳa	1	1	2	
	GFE2004	英語Ⅳb	1	1	2	
	GFG2001	ドイツ語Ⅲa	1	1	2	
	GFG2002	ドイツ語Ⅲb	1	1	2	
	GFG2003	ドイツ語Ⅳa	1	1	2	
	GFG2004	ドイツ語Ⅳb	1	1	2	
	GFF2001	フランス語Ⅲa	1	1	2	
	GFF2002	フランス語Ⅲb	1	1	2	
	GFF2003	フランス語Ⅳa	1	1	2	
	GFF2004	フランス語Ⅳb	1	1	2	
	GFR2001	ロシア語Ⅲa	1	1	2	
	GFR2002	ロシア語Ⅲb	1	1	2	
	GFR2003	ロシア語Ⅳa	1	1	2	
	GFR2004	ロシア語Ⅳb	1	1	2	
	GFS2001	スペイン語Ⅲa	1	1	2	
	GFS2002	スペイン語Ⅲb	1	1	2	
	GFS2003	スペイン語Ⅳa	1	1	2	
	GFS2004	スペイン語Ⅳb	1	1	2	
	GFC2001	中国語Ⅲa	1	1	2	
	GFC2002	中国語Ⅲb	1	1	2	
	GFC2003	中国語Ⅳa	1	1	2	
	GFC2004	中国語Ⅳb	1	1	2	
	GFK2001	朝鮮語Ⅲa	1	1	2	
	GFK2002	朝鮮語Ⅲb	1	1	2	
	GFK2003	朝鮮語Ⅳa	1	1	2	
	GFK2004	朝鮮語Ⅳb	1	1	2	

種別	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
外国語科目	GFE3001	英　語Ⅴa(各テーマ)	1	1	2	3
	GFE3002	英　語Ⅴb(各テーマ)	1	1	2	
	GFE3003	英　語Ⅵa(各テーマ)	1	1	2	
	GFE3004	英　語Ⅵb(各テーマ)	1	1	2	
	GFG3001	ドイツ語　Ⅴa	1	1	2	
	GFG3002	ドイツ語　Ⅴb	1	1	2	
	GFG3003	ドイツ語　Ⅵa	1	1	2	
	GFG3004	ドイツ語　Ⅵb	1	1	2	
	GFF3001	フランス語　Ⅴa	1	1	2	
	GFF3002	フランス語　Ⅴb	1	1	2	
	GFF3003	フランス語　Ⅵa	1	1	2	
	GFF3004	フランス語　Ⅵb	1	1	2	
	GFR3001	ロシア語　Ⅴa	1	1	2	
	GFR3002	ロシア語　Ⅴb	1	1	2	
	GFR3003	ロシア語　Ⅵa	1	1	2	
	GFR3004	ロシア語　Ⅵb	1	1	2	
	GFS3001	スペイン語　Ⅴa	1	1	2	
	GFS3002	スペイン語　Ⅴb	1	1	2	
	GFS3003	スペイン語　Ⅵa	1	1	2	
	GFS3004	スペイン語　Ⅵb	1	1	2	
	GFC3001	中　国　語　Ⅴa	1	1	2	
	GFC3002	中　国　語　Ⅴb	1	1	2	
	GFC3003	中　国　語　Ⅵa	1	1	2	
	GFC3004	中　国　語　Ⅵb	1	1	2	
	GFK3001	朝　鮮　語　Ⅴa	1	1	2	
	GFK3002	朝　鮮　語　Ⅴb	1	1	2	
	GFK3003	朝　鮮　語　Ⅵa	1	1	2	
	GFK3004	朝　鮮　語　Ⅵb	1	1	2	
	GFP1001	海外特別研修(各プログラム)	6	1	12	1～4
	GFO1001	検定認定1(各検定試験)	2	—	—	
	GFO1002	検定認定2(各検定試験)	2	—	—	
	GFO1003	検定認定3(各検定試験)	2	—	—	

専門教育科目

自由科目

配当学科	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
数・物・機・電	ENS１	教職概説	2	1	2	
	ENS１	教育原理	2	1	2	1
	ENS１	図書館情報資源概論	2	1	2	
	ENS２	教育制度論	2	1	2	
	ENS２	教育心理学	2	1	2	
	ENS２	道徳教育の理論と方法	2	1	2	
	ENS２	特別活動論	2	1	2	
	ENS２	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用を含む）	2	1	2	
	ENS２	メディア教育論	2	1	2	
	ENS２	教育相談論	2	1	2	2
	ENS２	人権教育論	2	1	2	
	ENS２	情報資源組織論	2	1	2	
	ENS２	学校経営と学校図書館	2	1	2	
	ENS２	学習指導と学校図書館	2	1	2	
	ENS２	読書と豊かな人間性	2	1	2	
	ENS２	情報メディアの活用	2	1	2	
	ENS３	特別支援教育論	1	1	2	
	ENS３	総合的な学習の時間の指導法	1	1	2	
	ENS３	カリキュラム開発論	2	1	2	3
	ENS３	生徒・進路指導論	2	1	2	
	ENS３	教育実習事前指導	1	1	2	
	ENS３	教育実習㈠	2	1	4	3･4
	ENS４	教育実習㈡	2	1	4	4
	ENS４	教職実践演習（中等）	2	1	2	

配当学科	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
物	ENS２	化学概論	2	1	2	2
物・機・電	ENS２	解析学	2	1	2	
	ENS２	数学科教育法㈠	2	1	2	
	ENS２	数学科教育法㈡	2	1	2	
	ENS２	代数学概論	2	1	2	
	ENS２	生物学実験	1	1	4	2
	ENS２	地学実験	1	1	4	
	ENS２	理科教育法㈠	2	1	2	
	ENS２	理科教育法㈡	2	1	2	
	ENS３	数学科教育法㈢	2	1	2	
	ENS３	数学科教育法㈣	2	1	2	
	ENS３	理科教育法㈢	2	1	2	3
	ENS３	理科教育法㈣	2	1	2	
物・電	ENS２	幾何学概論Ⅰ	2	1	2	2
	ENS２	幾何学概論Ⅱ	2	1	2	
機・電	ENS２	工業技術概論	2	1	2	
	ENS２	化学実験	1	1	4	
	ENS２	工業科教育法㈠	2	1	2	
	ENS２	工業科教育法㈡	2	1	2	
	ENS２	職業指導㈠	2	1	2	2
	ENS２	職業指導㈡	2	1	2	
	ENS２	生物学概論	2	1	2	
	ENS２	地学概論	2	1	2	
電	ENS２	情報科教育法㈠	2	1	2	2
	ENS２	情報科教育法㈡	2	1	2	

数…数学科
物…物理・応用物理学科
機…機械工学科
電…電気電子情報工学科
自由科目は、修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

数学科　卒業に必要な単位数及び授業科目一覧

1　卒業要件

システム理工学部数学科に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、所定の単位数を修得していること。

2　「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」の履修について

４年次配当の「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」を履修するには、６学期以上在学し、履修する前学期末までに次の要件を満たしていなければなりません。

⑴　卒業所要単位数（128単位）のうち、110単位以上を修得していること。

⑵　卒業に必要な共通教養科目、外国語科目及び１・２年次配当の専門教育科目の必修科目のうち、未修得単位が８単位以内であること。

⑶　「特別研究Ⅱ」を履修するには、「特別研究Ⅰ」を修得していること。

卒業所要単位

区分	共通教養科目									外国語科目		専門教育科目			合計
	自己形成科目群			グローバル科目群	関西大学科目群	基盤科目群	健康・スポーツ科目群	キャリア形成科目群	大学・学部・社会連携科目群	第１選択外国語	第２選択外国語	必修科目	選択必修科目	選択科目	
	人間を知る	社会を知る	自然と向き合う												
単位数	2つ以上の領域からそれぞれ2以上＊ 指定科目12単位以上（※）			2以内	2以内					8	4	42	28以上	任意選択	128
	20									12		96			

＊各領域の必要単位については、指定科目から修得したものを含む。

共通教養科目

卒業所要単位について

⑴　自己形成科目群には、学科で設定する「指定科目」があります。「指定科目」は12単位を修得しなければなりません。

⑵　（※）学科で設定する「指定科目」を、12単位を超えて修得した単位は、４単位を限度に専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。なお、「指定科目」の12単位を超えて修得した単位は、共通教養科目の卒業所要単位に含めることはできません。

⑶　自己形成科目群について、「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」のうち、２つ以上の領域からそれぞれ２単位以上修得しなければなりません。

なお、２つ以上の領域の必要単位については、「指定科目」から修得したものを含めることができます。

⑷　グローバル科目群については２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑸　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群及び大学・学部・社会連携科目群の科目については合計２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑹　上記⑴～⑸を踏まえたうえで、「指定科目」12単位に加え、「指定科目」以外の共通教養科目から８単位の合計20単位を修得しなければなりません。

共通教養科目　自己形成科目群「指定科目」

科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	1
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅱ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	
GEB1102	物理を学ぶ(力　学　Ⅰ)	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1102	物理を学ぶ(力　学　Ⅱ)	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1102	物理を学ぶ(電磁気学Ⅰ)	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1104	化学を学ぶ(基 礎 化 学)	自然と向き合う		2	1	2	

科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GEB1111	地 球 の 科 学	自然と向き合う		2	1	2	1
GEB1091	生 物 と 環 境	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1100	バイオサイエンス入門	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1071	基礎からの情報処理	社会を知る		2	1	2	
GEB1016	食　を　知　る	人間を知る		2	1	2	

◎印の科目は必修科目で、すべて修得しなければなりません。

専門教育科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
（必修科目）					
MAT１	線形代数Ⅰ	2	1	2	1
MAT１	線形代数Ⅱ	2	1	2	
MAT１	オリエンテーションゼミナール	2	1	2	
MAT１	フレッシュマンゼミナール	2	1	2	
MAT１	基礎数学演義Ⅰ	2	1	2	
MAT１	基礎数学演義Ⅱ	2	1	2	
MAT２	集合と位相Ⅰ	2	1	2	2
MAT２	集合と位相Ⅱ	2	1	2	
MAT２	集合と位相Ⅲ	2	1	2	
MAT２	線形代数Ⅲ	2	1	2	
MAT２	代数学Ⅰ	2	1	2	
MAT２	基礎解析学Ⅰ	2	1	2	
MAT２	基礎解析学Ⅱ	2	1	2	
MAT２	基礎解析学Ⅲ	2	1	2	
MAT２	数学基礎ゼミナールⅠ	2	1	2	
MAT２	数学基礎ゼミナールⅡ	2	1	2	
MAT３	現代数学入門	2	1	2	3
MAT３	専門ゼミナール	2	1	2	
MAT４	特別研究Ⅰ	3	1	—	4
MAT４	特別研究Ⅱ	3	1	—	
（選択必修科目）					
MAT１	コンピューター実験数学Ⅰ	2	1	2	1
MAT２	集合と位相Ⅳ	2	1	2	2
MAT２	線形代数Ⅳ	2	1	2	
MAT２	代数学Ⅱ	2	1	2	
MAT２	微分方程式Ⅰ	2	1	2	
MAT２	数学特論Ⅰ	2	1	2	
MAT２	基礎統計学	2	1	2	
MAT２	基礎数学演義Ⅲ	2	1	2	
MAT２	基礎数学演義Ⅳ	2	1	2	
MAT３	代数学Ⅲ	2	1	2	3
MAT３	代数学Ⅳ	2	1	2	
MAT３	幾何学Ⅰ	2	1	2	
MAT３	幾何学Ⅱ	2	1	2	
MAT３	幾何学Ⅲ	2	1	2	
MAT３	幾何学Ⅳ	2	1	2	
MAT３	関数論Ⅰ	2	1	2	
MAT３	関数論Ⅱ	2	1	2	
MAT３	解析学Ⅰ	2	1	2	
MAT３	解析学Ⅱ	2	1	2	
MAT３	解析学Ⅲ	2	1	2	
MAT３	解析学Ⅳ	2	1	2	3
MAT３	関数解析学Ⅰ	2	1	2	
MAT３	関数解析学Ⅱ	2	1	2	
MAT３	微分方程式Ⅱ	2	1	2	
MAT３	確率論Ⅰ	2	1	2	
MAT３	確率論Ⅱ	2	1	2	
MAT３	統計学Ⅰ	2	1	2	
MAT３	統計学Ⅱ	2	1	2	
MAT３	数学特論Ⅱ	2	1	2	
MAT３	数学特論Ⅲ	2	1	2	
MAT４	数学特論Ⅳ	2	1	2	4
MAT４	数学特論Ⅴ	2	1	2	
MAT４	数学特論Ⅵ	2	1	2	
（選択科目）					
MAT１	コンピュータ基礎	2	1	2	1
MAT１	代数学概論	2	1	2	
MAT２	数学科教育法(一)	2	1	2	2
MAT２	数学科教育法(二)	2	1	2	
MAT２	数学科教育法(三)	2	1	2	
MAT２	数学科教育法(四)	2	1	2	
MAT２	コンピューター実験数学Ⅱ	2	1	2	
MAT２	応用解析学	2	1	2	
MAT２	幾何学概論Ⅰ	2	1	2	
MAT２	幾何学概論Ⅱ	2	1	2	
MAT２	コンピュータシステム序論	2	1	2	
MAT２	海外体験研修（数学Ⅰ）	2	1	4	
MAT３	情報セキュリティ	2	1	2	3
MAT３	データ構造とアルゴリズム	2	1	2	
MAT３	データベース工学	2	1	2	
MAT３	知的情報工学	2	1	2	
MAT３	量子力学基礎	2	1	2	
MAT３	海外体験研修（数学Ⅱ）	2	1	4	
MAT４	知的財産権法	2	1	2	4
MAT４	ナノバイオ化学入門	2	1	2	
MAT４	情報理論	2	1	2	
MAT４	科学技術と法	2	1	2	
MAT４	技術者倫理	2	1	2	
MAT４	環境と経済	2	1	2	
MAT４	安全工学	2	1	2	
MAT４	福祉工学概論	2	1	2	
MAT４	量子力学Ⅰ	2	1	2	
MAT１	寄附講座（各テーマ）	2	1	2	1~4

卒業所要単位について

専門教育科目について、必修科目42単位及び選択必修科目28単位以上を含めて、合計96単位以上を修得しなければなりません。

物理・応用物理学科　卒業に必要な単位数及び授業科目一覧

1　卒業要件

システム理工学部物理・応用物理学科に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、所定の単位数を修得していること。

2　「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」の履修について

４年次配当の「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」を履修するには、６学期以上在学し、履修する前学期末までに次の要件を満たしていなければなりません。

⑴　卒業所要単位数（128単位）のうち、110単位以上を修得していること。

⑵　卒業に必要な共通教養科目、外国語科目及び１～３年次配当の専門教育科目の必修科目のうち、未修得科目及び単位が４科目12単位以内であること。

⑶「特別研究Ⅱ」を履修するには、「特別研究Ⅰ」を修得していること。

3　「物理学・応用物理学演習Ⅱ」「物理学・応用物理学演習Ⅲ」の履修について

４年次配当の「物理学・応用物理学演習Ⅱ」「物理学・応用物理学演習Ⅲ」を履修するには、２に記載の「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」の履修要件を満たしていなければなりません。

卒業所要単位

<table>
<tr><th rowspan="2">区分</th><th rowspan="2">コース</th><th colspan="8">共通教養科目</th><th colspan="2">外国語科目</th><th colspan="3">専門教育科目</th><th rowspan="2">合計</th></tr>
<tr><th colspan="3">自己形成科目群</th><th>グローバル科目群</th><th>関西大学科目群</th><th>基盤科目群</th><th>健康・スポーツ科目群</th><th>キャリア形成科目群</th><th>大学・学部・社会連携科目群</th><th>第１選択外国語</th><th>第２選択外国語</th><th>必修科目</th><th>選択必修科目</th><th>選択科目</th></tr>
<tr><td rowspan="3">単位数</td><td>基礎・計算物理</td><td colspan="3" rowspan="2">２つ以上の領域からそれぞれ２以上＊</td><td rowspan="2">２以内</td><td colspan="5" rowspan="2">２以内</td><td>8</td><td>4</td><td>48</td><td>４以上</td><td>任意選択</td><td rowspan="3">128</td></tr>
<tr><td>応用物理</td><td colspan="2">12</td><td colspan="3">96</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">指定科目12単位以上(※)</td><td colspan="8">20</td></tr>
</table>

＊各領域の必要単位については、指定科目から修得したものを含む。

共通教養科目

卒業所要単位について

⑴　自己形成科目群には、学科で設定する「指定科目」があります。「指定科目」は12単位を修得しなければなりません。

⑵　（※）学科で設定する「指定科目」を、12単位を超えて修得した単位は、専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。なお、「指定科目」の12単位を超えて修得した単位は、共通教養科目の卒業所要単位に含めることはできません。

⑶　自己形成科目群について、「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」のうち、２つ以上の領域からそれぞれ２単位以上修得しなければなりません。

なお、２つ以上の領域の必要単位については、「指定科目」から修得したものを含めることができます。

⑷　グローバル科目群については２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑸　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群及び大学・学部・社会連携科目群の科目については合計２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑹　上記⑴～⑸を踏まえたうえで、「指定科目」12単位に加え、「指定科目」以外の共通教養科目から８単位の合計20単位を修得しなければなりません。

共通教養科目　自己形成科目群「指定科目」

科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次	科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	1	GEB1104	化学を学ぶ(基礎化学)	自然と向き合う		2	1	2	1
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅱ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1111	地球の科学	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1103	物理を学ぶ(演習含)(力学Ⅰ)	自然と向き合う	◎	4	1	4		GEB1100	バイオサイエンス入門	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1103	物理を学ぶ(演習含)(電磁気学Ⅰ)	自然と向き合う	◎	4	1	4		GEB1071	基礎からの情報処理	社会を知る		2	1	2	

◎印の科目は必修科目で、すべて修得しなければなりません。

専門教育科目（基礎・計算物理コース・応用物理コース）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
（必修科目）					
PAP１	フレッシュマン物理学	2	1	2	
PAP１	振動・波動の物理学	2	1	2	
PAP１	力学Ⅱ（演習含む）	4	1	4	1
PAP１	物理学実験	1	1	4	
PAP１	線形代数Ⅰ	2	1	2	
PAP２	電磁気学Ⅱ（演習含む）	4	1	4	
PAP２	物理学・応用物理学実験論A	2	1	2	
PAP２	物理学・応用物理学実験A	1	1	4	
PAP２	数値計算基礎（演習含む）	4	1	4	
PAP２	量子力学基礎	2	1	2	2
PAP２	熱・統計力学	2	1	2	
PAP２	物理学・応用物理学実験論B	2	1	2	
PAP２	物理学・応用物理学実験B	1	1	4	
PAP３	物理学・応用物理学実験論C	2	1	2	
PAP３	物理学・応用物理学実験C	1	1	4	
PAP３	物理学・応用物理学基礎研究	4	1	4	3
PAP３	物理学・応用物理学演習Ⅰ	2	1	2	
PAP４	物理学・応用物理学演習Ⅱ	2	1	2	
PAP４	物理学・応用物理学演習Ⅲ	2	1	2	
PAP４	特別研究Ⅰ	3	1	—	4
PAP４	特別研究Ⅱ	3	1	—	
（選択必修科目）					
〔各コース共通〕					
PAP３	量子力学Ⅰ	2	1	2	
PAP３	統計力学Ⅰ	2	1	2	
PAP３	量子力学・統計力学演習Ⅰ	2	1	2	
PAP３	シミュレーション物理	2	1	2	3
PAP３	物性物理C	2	1	2	
PAP３	物性物理B	2	1	2	
〔基礎・計算物理コース〕					
PAP３	流体力学	2	1	2	
PAP３	放射線物理	2	1	2	
PAP３	統計力学Ⅱ	2	1	2	
PAP３	量子力学Ⅱ	2	1	2	3
PAP３	量子力学・統計力学演習Ⅱ	2	1	2	
PAP３	原子核物理	2	1	2	
〔応用物理コース〕					
PAP３	電磁気学Ⅳ	2	1	2	
PAP３	超音波・弾性波	2	1	2	3

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
PAP３	電子デバイス	2	1	2	
PAP３	プラズマ・放射光の物理学	2	1	2	3
PAP３	光物性	2	1	2	
（選択科目）					
PAP１	大学の物理学	2	1	2	
PAP１	物理数学Ⅰ	2	1	2	
PAP１	線形代数Ⅱ	2	1	2	
PAP１	確率・統計	2	1	2	1
PAP１	幾何光学	2	1	2	
PAP１	基礎幾何学	2	1	2	
PAP１	情報処理演習	2	1	2	
PAP２	電気・電子回路	2	1	2	
PAP２	物理数学Ⅱ	2	1	2	
PAP２	解析力学	2	1	2	
PAP２	解析力学演習	2	1	2	
PAP２	物理の教育	2	1	2	
PAP２	計測工学	2	1	2	
PAP２	物性物理A	2	1	2	
PAP２	電磁気学Ⅲ	2	1	2	2
PAP２	科学技術表現論A	2	1	2	
PAP２	連続体力学	2	1	2	
PAP２	現代物理学・応用物理学概論	2	1	2	
PAP２	基礎統計学	2	1	2	
PAP２	化学実験	1	1	4	
PAP２	知的財産権法	2	1	2	
PAP２	技術者ビジネス法	2	1	2	
PAP３	プログラミング数学	2	1	2	
PAP３	科学技術表現論B	2	1	2	
PAP３	理数の教育	2	1	2	
PAP３	物理数学Ⅲ	2	1	2	3
PAP３	統計学Ⅰ	2	1	2	
PAP３	統計学Ⅱ	2	1	2	
PAP３	安全工学	2	1	2	
PAP３	技術者倫理	2	1	2	
PAP４	量子情報の数学	2	1	2	
PAP４	最先端機能物質	2	1	2	4
PAP４	図学	2	1	2	
PAP１	寄附講座（各テーマ）	2	1	2	1~4
〔医工薬連環科学プログラム〕					
〔大阪医科薬科大学設置科目〕					
PAP１	各授業科目	1~4	—	—	1~4

卒業所要単位について

1　基礎・計算物理コース及び応用物理コースは、次に従って96単位以上を修得しなければなりません。

⑴　必修科目　48単位

⑵　選択必修科目　所属するコースから２単位以上修得した上で合計４単位以上

⑶　選択科目　任意選択

2　医工薬連環科学プログラム科目を修得した場合は、６単位まで選択科目の単位に算入することができます。

機械工学科　卒業に必要な単位数及び授業科目一覧

1　卒業要件

システム理工学部機械工学科に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、所定の単位数を修得していること。

2　「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」の履修について

４年次配当の「特別研究Ⅰ」、４年次配当の「特別研究Ⅱ」を履修するには、６学期以上在学し、履修する前学期末までに次の⑴～⑷の要件を満たしていなければなりません。

⑴　卒業所要単位数（128単位）のうち、110単位以上修得していること。

⑵　卒業に必要な共通教養科目、外国語科目及び１～３年次配当の専門教育科目の必修科目の全てを修得していること。

⑶　卒業に必要な選択必修科目のうち、28単位以上修得していること。

⑷　「特別研究Ⅱ」を履修するには、「特別研究Ⅰ」を修得していること。

その他、履修については以下の条件があります。

⑸　「早期特別研究」は、「特別研究Ⅰ」及び「特別研究Ⅱ」と同時に履修することはできません。

3　「早期特別研究」の履修について

３年次配当の「早期特別研究」を履修するには、５学期以上在学し、履修する前学期末までに次の⑴～⑷の要件を満たしていなければなりません。

⑴　卒業所要単位数（128単位）のうち、110単位以上修得していること。

⑵　卒業に必要な共通教養科目、外国語科目及び１～２年次配当の専門教育科目の必修科目の全てと、３年次配当の「機械製図」及び「工作実習」を修得していること。

⑶　卒業に必要な選択必修科目のうち、28単位以上修得していること。

⑷　３年次配当の「設計製図」及び「機械工学実験」を履修もしくは修得していること。

卒業所要単位

<table>
<tr><td rowspan="3">区分</td><td colspan="8">共通教養科目</td><td colspan="2">外国語科目</td><td colspan="3">専門教育科目</td><td rowspan="3">合計</td></tr>
<tr><td colspan="3">自己形成科目群</td><td rowspan="2">グローバル科目群</td><td rowspan="2">関西大学科目群</td><td rowspan="2">基盤科目群</td><td rowspan="2">健康・スポーツ科目群</td><td rowspan="2">キャリア形成科目群</td><td rowspan="2">大学・学部・社会連携科目群</td><td rowspan="2">第１選択外国語</td><td rowspan="2">第２選択外国語</td><td rowspan="2">必修科目</td><td rowspan="2">選択必修科目</td><td rowspan="2">選択科目</td></tr>
<tr><td>人間を知る</td><td>社会を知る</td><td>自然と向き合う</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">２つ以上の領域からそれぞれ２以上＊
指定科目12単位以上（※）</td><td>２以内</td><td colspan="5">２以内</td><td>8</td><td>4</td><td>40</td><td>28以上</td><td>任意選択</td><td>128</td></tr>
<tr><td colspan="9">20</td><td colspan="2">12</td><td colspan="3">96</td></tr>
</table>

＊各領域の必要単位については、指定科目から修得したものを含む。

共通教養科目

卒業所要単位について

⑴　自己形成科目群には、学科で設定する「指定科目」があります。「指定科目」は12単位を修得しなければなりません。

⑵　（※）学科で設定する「指定科目」を、12単位を超えて修得した単位は、２単位を限度に専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。なお、「指定科目」の12単位を超えて修得した単位は、共通教養科目の卒業所要単位に含めることはできません。

⑶　自己形成科目群について、「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」のうち、２つ以上の領域からそれぞれ２単位以上修得しなければなりません。

なお、２つ以上の領域の必要単位については、「指定科目」から修得したものを含めることができます。

⑷　グローバル科目群については２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑸　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群及び大学・学部・社会連携科目群の科目については合計２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑹　上記⑴～⑸を踏まえたうえで、「指定科目」12単位に加え、「指定科目」以外の共通教養科目から８単位の合計20単位を修得しなければなりません。

共通教養科目　自己形成科目群「指定科目」

科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次	科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	1	GEB1102	物理を学ぶ(力　学　Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	1
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅱ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1102	物理を学ぶ(力　学　Ⅱ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	
GEB1101	数学を学ぶ(線形代数Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1104	化学を学ぶ(基礎化学)	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1101	数学を学ぶ(線形代数Ⅱ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1071	基礎からの情報処理	社会を知る		2	1	2	

◎印の科目は必修科目で、すべて修得しなければなりません。

専門教育科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
（必修科目）					
MEE１	基礎数学演習	2	1	2	1
MEE１	機械工学入門（講義）	2	1	2	
MEE１	機械工学入門（実技）	1	1	4	
MEE１	機械物理学実験	1	1	4	
MEE１	情報処理演習Ⅰ	2	1	2	
MEE２	情報処理演習Ⅱ	2	1	2	2
MEE２	材料力学Ⅰ	2	1	2	
MEE２	機械力学Ⅰ	2	1	2	
MEE２	熱力学Ⅰ	2	1	2	
MEE２	流体力学Ⅰ	2	1	2	
MEE２	機械加工学	2	1	2	
MEE２	機械工学基礎実験	1	1	4	
MEE２	機械基礎製図	2	1	4	
MEE３	機械製図	2	1	4	3
MEE３	工作実習	3	1	6	
MEE３	設計製図	2	1	4	
MEE３	機械工学実験	2	1	6	
MEE４	機械工学特別講義	2	1	2	4
MEE４	特別研究Ⅰ	3	1	—	
MEE４	特別研究Ⅱ	3	1	—	
（選択必修科目）					
MEE２	数学解析	2	1	2	2
MEE２	ベクトル解析	2	1	2	
MEE２	材料力学Ⅱ	2	1	2	
MEE２	機械力学Ⅱ	2	1	2	
MEE２	熱力学Ⅱ	2	1	2	
MEE２	流体力学Ⅱ	2	1	2	
MEE２	機械材料	2	1	2	
MEE２	制御工学Ⅰ	2	1	2	
MEE２	機械要素Ⅰ	2	1	2	
MEE２	計測工学Ⅰ	2	1	2	
MEE２	電気工学	2	1	2	
MEE２	電磁気学	2	1	2	
MEE２	人間工学	2	1	2	
MEE３	応用数学	2	1	2	3
MEE３	連続体力学入門	2	1	2	
MEE３	機械要素Ⅱ	2	1	2	
MEE３	機械製作法	2	1	2	
MEE３	メカトロニクス	2	1	2	
MEE３	レーザ工学	2	1	2	
MEE３	量子力学入門	2	1	2	
MEE３	電子工学	2	1	2	
（選択科目）					
MEE１	科学技術と法	2	1	2	1
MEE１	機械工学の実際	1	1	2	
MEE１	確率・統計	2	1	2	
MEE１	福祉工学概論	2	1	2	
MEE１	数値解法入門	2	1	2	
MEE１	基礎幾何学	2	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
MEE２	機械データサイエンスの基礎と実践	2	1	2	2
MEE２	図学	2	1	2	
MEE２	制御工学Ⅱ	2	1	2	
MEE２	幾何学概論Ⅰ	2	1	2	
MEE２	幾何学概論Ⅱ	2	1	2	
MEE２	基礎統計学	2	1	2	
MEE３	早期特別研究	3	1	—	3
MEE３	材料力学Ⅲ	2	1	2	3~4
MEE３	機械力学Ⅲ	2	1	2	
MEE３	熱力学Ⅲ	2	1	2	
MEE３	流体力学Ⅲ	2	1	2	
MEE３	トライボロジー	2	1	2	
MEE３	計測工学Ⅱ	2	1	2	
MEE３	センサ工学	2	1	2	
MEE３	ロボティクス	2	1	2	
MEE３	流体機械	2	1	2	
MEE３	伝熱工学	2	1	2	
MEE３	ヒューマンインタフェース	2	1	2	
MEE３	生体計測	2	1	2	
MEE３	マイクロマシン	2	1	2	
MEE３	モデルベース開発入門	2	1	2	
MEE３	CAD演習	2	1	2	
MEE３	計算機シミュレーション	2	1	2	
MEE３	固体力学	2	1	2	
MEE３	材料・構造強度学	2	1	2	
MEE３	生産システム工学	2	1	2	
MEE３	統計力学	2	1	2	
MEE３	超精密加工学	2	1	2	
MEE３	音響工学	2	1	2	
MEE３	エネルギー変換論	2	1	2	
MEE３	実験流体力学	2	1	2	
MEE３	物性論	2	1	2	
MEE３	光応用計測	2	1	2	
MEE３	画像解析	2	1	2	
MEE３	バイオメカニクス	2	1	2	
MEE３	生体システム論	2	1	2	
MEE３	ナノバイオ化学入門	2	1	2	
MEE３	応用プログラミング	2	1	2	
MEE３	航空宇宙工学	2	1	2	
MEE３	固体物性化学概論	2	1	2	
MEE３	環境と経済	2	1	2	
MEE３	安全工学	2	1	2	
MEE３	知的財産権法	2	1	2	
MEE３	技術者倫理	2	1	2	
MEE３	統計学Ⅰ	2	1	2	
MEE３	統計学Ⅱ	2	1	2	
MEE４	コンピュータグラフィックス	2	1	2	4
MEE４	パターン認識	2	1	2	
MEE４	量子情報の数学	2	1	2	
MEE１	寄附講座（各テーマ）	2	1	2	1~4
MEE１	海外体験研修(各プログラム)	2	1	4	
〔医工薬連環科学プログラム〕					
〔大阪医科薬科大学設置科目〕					
MEE１	各授業科目	1~4	—	—	1~4

卒業所要単位について

1　専門教育科目について、必修科目40単位及び選択必修科目28単位以上を含めて、合計96単位以上を修得しなければなりません。

2　医工薬連環科学プログラム科目を修得した場合は、８単位まで選択科目の単位に算入することができます。

電気電子情報工学科　卒業に必要な単位数及び授業科目一覧

1　卒業要件

システム理工学部電気電子情報工学科に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、所定の単位数を修得していること。

2　実験科目の履修条件について

「電気電子情報工学実験Ⅲ」、「電気電子工学実験」（電気電子工学コース）、「情報通信工学実験」（情報通信工学コース）、「応用情報工学実験」（応用情報工学コース）を履修するには、「電気電子情報工学実験Ⅰ」及び「電気電子情報工学実験Ⅱ」を修得していなければなりません。

3　「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」の履修について

４年次配当の「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」を履修するには、６学期以上在学し、履修する前学期末までに次の要件を満たしていなければなりません。

⑴　卒業所要単位数（128単位）のうち、110単位以上を修得していること。

⑵　共通教養科目、外国語科目、１～３年次配当の専門教育科目の必修科目及び選択必修科目の卒業所要単位のうち、未修得科目及び単位が４科目８単位以内であること。

⑶　３年次配当の「電気電子情報工学実験Ⅲ」を修得し、かつ「電気電子工学実験」（電気電子工学コース）、「情報通信工学実験」（情報通信工学コース）、「応用情報工学実験」（応用情報工学コース）のいずれか１科目を修得していること。

⑷「特別研究Ⅱ」を履修するには、「特別研究Ⅰ」を修得していること。

卒業所要単位

<table>
<tr><th rowspan="3">区分</th><th rowspan="3">コース</th><th colspan="8">共通教養科目</th><th colspan="2">外国語科目</th><th colspan="3">専門教育科目</th><th rowspan="3">合計</th></tr>
<tr><th colspan="3">自己形成科目群</th><th rowspan="2">グローバル科目群</th><th rowspan="2">関西大学科目群</th><th rowspan="2">基盤科目群</th><th rowspan="2">健康・スポーツ科目群</th><th rowspan="2">キャリア形成科目群</th><th rowspan="2">大学･学部･社会連携科目群</th><th rowspan="2">第１選択外国語</th><th rowspan="2">第２選択外国語</th><th rowspan="2">必修科目</th><th rowspan="2">選択必修科目</th><th rowspan="2">選択科目</th></tr>
<tr><th>人間を知る</th><th>社会を知る</th><th>自然と向き合う</th></tr>
<tr><td rowspan="4">単位数</td><td>電気電子工学</td><td colspan="3" rowspan="3">２つ以上の領域からそれぞれ２以上＊</td><td rowspan="3">２以内</td><td colspan="5" rowspan="3">２以内</td><td rowspan="3">8</td><td rowspan="3">4</td><td rowspan="3">24</td><td rowspan="3">43以上</td><td rowspan="3">任意選択</td><td rowspan="4">128</td></tr>
<tr><td>情報通信工学</td></tr>
<tr><td>応用情報工学</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">指定科目12単位以上(※)</td><td colspan="5">12</td><td colspan="3">96</td></tr>
<tr><td colspan="9">20</td></tr>
</table>

＊各領域の必要単位については、指定科目から修得したものを含む。

共通教養科目

卒業所要単位について

⑴　自己形成科目群には、学科で設定する「指定科目」があります。「指定科目」は12単位を修得しなければなりません。

⑵　（※）学科で設定する「指定科目」を、12単位を超えて修得した単位は、２単位を限度に専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。なお、「指定科目」の12単位を超えて修得した単位は、共通教養科目の卒業所要単位に含めることはできません。

⑶　自己形成科目群について、「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」のうち、２つ以上の領域からそれぞれ２単位以上修得しなければなりません。

なお、２つ以上の領域の必要単位については、「指定科目」から修得したものを含めることができます。

⑷　グローバル科目群については２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑸　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群及び大学・学部・社会連携科目群の科目については合計２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑹　上記⑴～⑸を踏まえたうえで、「指定科目」12単位に加え、「指定科目」以外の共通教養科目から８単位の合計20単位を修得しなければなりません。

共通教養科目　自己形成科目群「指定科目」

科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	1
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅱ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	
GEB1101	数学を学ぶ(確率統計)	自然と向き合う	◎	2	1	2	
GEB1101	数学を学ぶ(ベクトル解析)	自然と向き合う	◎	2	1	2	

科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GEB1102	物理を学ぶ(力学Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	1
GEB1102	物理を学ぶ(力学Ⅱ)	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1104	化学を学ぶ(基礎化学)	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1071	基礎からの情報処理	社会を知る	◎	2	1	2	

◎印の科目は必修科目で、すべて修得しなければなりません。

専門教育科目（電気電子工学コース、情報通信工学コース、応用情報工学コース）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
（必修科目）					
〔各コース共通〕					
EEE1	電気回路Ⅰ	2	1	2	1
EEE1	電気回路Ⅱ	2	1	2	
EEE1	基礎プログラミング	2	1	2	
EEE2	電磁気学Ⅰ	2	1	2	2
EEE2	電磁気学Ⅱ	2	1	2	
EEE2	電気電子情報工学実験Ⅰ	2	1	6	
EEE2	電気電子情報工学実験Ⅱ	2	1	6	
EEE3	電気電子情報工学実験Ⅲ	2	1	6	3
EEE4	特別研究Ⅰ	3	1	—	4
EEE4	特別研究Ⅱ	3	1	—	
〔電気電子工学コース〕					
EEE3	電気電子工学実験	2	1	6	3
〔情報通信工学コース〕					
EEE3	情報通信工学実験	2	1	6	3
〔応用情報工学コース〕					
EEE3	応用情報工学実験	2	1	6	3
（選択必修科目）					
〔各コース共通〕					
EEE1	線形代数Ⅰ	2	1	2	1~4
EEE1	コンピュータシステム序論	2	1	2	
EEE1	線形代数Ⅱ	2	1	2	
EEE1	ディジタル回路基礎	2	1	2	
EEE2	応用プログラミング実習	1	1	2	2
EEE2	数学解析Ⅰ	2	1	2	
EEE2	情報数学	2	1	2	
EEE2	電気回路Ⅲ	2	1	2	
EEE2	アナログ電子回路Ⅰ	2	1	2	
EEE2	計測とセンシング	2	1	2	
EEE2	電子物性基礎	2	1	2	
EEE2	通信方式Ⅰ	2	1	2	
EEE2	数学解析Ⅱ	2	1	2	
EEE2	アナログ電子回路Ⅱ	2	1	2	
EEE2	基礎電力工学	2	1	2	
EEE2	電気電子材料	2	1	2	
EEE2	情報通信ネットワークⅠ	2	1	2	
EEE2	コンピュータアーキテクチャ	2	1	2	
EEE2	データ構造とアルゴリズム	2	1	2	
EEE3	基礎制御工学	2	1	2	3
EEE3	信号処理論	2	1	2	
EEE3	情報理論	2	1	2	
〔電気電子工学コース〕					
EEE3	回路システム理論	2	1	2	3
EEE3	半導体デバイス工学	2	1	2	
EEE3	電気機器	2	1	2	
EEE3	高周波電磁気学	2	1	2	
〔情報通信工学コース〕					
EEE3	光・電磁波工学	2	1	2	3
EEE3	情報通信ネットワークⅡ	2	1	2	
EEE3	通信方式Ⅱ	2	1	2	
EEE3	マルチメディア通信	2	1	2	
〔応用情報工学コース〕					
EEE3	画像情報処理	2	1	2	3
EEE3	オペレーティング・システム	2	1	2	
EEE3	音声・音響情報処理	2	1	2	
EEE3	パターン認識	2	1	2	
（選択科目）					
〔各コース共通〕					
EEE1	情報リテラシー実習	1	1	2	1~4
EEE1	データサイエンス入門	2	1	2	
EEE1	工業製図とCAD	2	1	4	
EEE1	物理学実験	1	1	4	
EEE2	情報社会と情報倫理	2	1	2	2
EEE2	情報と職業	2	1	2	
EEE2	海外体験研修(電気電子情報工学)	2	1	4	
EEE2	データサイエンス基礎PBL	2	1	2	
EEE2	プログラミングプロジェクト実習Ⅰ	1	1	2	
EEE2	知的財産権法	2	1	2	
EEE2	グローバルPBL	2	1	2	
EEE3	プログラミングプロジェクト実習Ⅱ	1	1	2	3
EEE3	応用確率統計	2	1	2	
EEE3	ディジタル電子回路	2	1	2	
EEE3	情報セキュリティ	2	1	2	
EEE3	メカトロニクス	2	1	2	
EEE3	海外インターン	2	1	4	
EEE3	データサイエンス応用PBL	2	1	2	
EEE3	高電圧工学	2	1	2	
EEE3	エネルギー工学	2	1	2	
EEE3	ロボティクス	2	1	2	
EEE3	システム制御工学	2	1	2	
EEE3	光エレクトロニクス	2	1	2	
EEE3	システム最適化	2	1	2	
EEE4	環境工学	2	1	2	4
EEE4	技術者倫理	2	1	2	
EEE4	電気通信及び電波法規	2	1	2	
EEE4	電気法規及び施設管理	2	1	2	
EEE1	寄附講座（各テーマ）	2	1	2	1~4
〔電気電子工学コース〕					
EEE3	電力システム工学	2	1	2	3
EEE3	LSIプロセス工学	2	1	2	
EEE3	パワーエレクトロニクス	2	1	2	
〔情報通信工学コース〕					
EEE3	光情報通信工学	2	1	2	3
EEE3	通信機器	2	1	2	
EEE3	ワイヤレス・モバイル通信	2	1	2	
〔応用情報工学コース〕					
EEE3	コンピュータグラフィックス	2	1	2	3
EEE3	データベース工学	2	1	2	
EEE3	知的情報工学	2	1	2	

卒業所要単位について

1　電気電子工学コース、情報通信工学コース及び応用情報工学コースは、次に従って96単位以上を修得しなければなりません。

(1)　必修科目　所属するコースから24単位

(2)　選択必修科目　所属するコースから43単位以上

(3)　選択科目　所属するコース又は他コースから任意選択

2　他コースの選択必修科目を修得した場合は、選択科目の単位に算入することができます。

［科目番号について］

本学では、科目の特性・配当年次を示すため、各科目に科目番号を付与しています。

〈共通教養科目〉

アルファベット３桁で「共通教養科目」と「群」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。また、共通教養科目のうちグローバル科目群の留学準備スキルアップ科目及びグローバル・フロンティア科目は、配当年次に代えて外部テストによる難易度を示しています。

GE（種別）　A（群）　1（配当年次（難易度））　000（連番）

種別　共通教養科目はすべてGE

群

A	関西大学科目群
B	基盤科目群
C	自己形成科目群
D	健康・スポーツ科目群
E	キャリア形成科目群
F	グローバル科目群
G	大学・学部・社会連携科目群

難易度（受講には各レベルの英語運用能力が必要です）

番号	レベル
1	GTECテスト180点未満 TOEFL ITP®Test430点未満 TOEFL iBT®Test40点未満 TOEIC®L&RTest375点未満 英語検定準２級未満
2	GTECテスト180点以上260点未満 TOEFL ITP®Test430点以上505点未満 TOEFL iBT®Test40点以上60点未満 TOEIC®L&RTest375点以上580点未満 英語検定準２級及び２級
3	GTECテスト260点以上 TOEFL ITP®Test505点以上 TOEFL iBT®Test60点以上 TOEIC®L&RTest580点以上 英語検定準１級及び１級

〈外国語科目〉

アルファベット3桁で「外国語科目」と「語種」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

GF（種別）　E（語種）　1（配当年次）　000（連番）

種別　外国語科目はすべてGF

語種

E	英語
G	ドイツ語
F	フランス語
R	ロシア語
S	スペイン語
C	中国語
K	朝鮮語
O	検定認定：Official-Test Accreditation

〈外国人留学生科目〉

アルファベット3桁で「外国人留学生科目」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

FOS（種別）　1（配当年次）　000（連番）

種別　外国人留学生科目はすべてFOS

〈専門教育科目〉

学科を示すアルファベット3桁、配当年次を示す1桁で構成されています。

ENS（学部）　1（配当年次）

学科コード　ＭＡＴ：数学科
ＰＡＰ：物理・応用物理学科
ＭＥＥ：機械工学科
ＥＥＥ：電気電子情報工学科
ＥＮＳ：(学科共通科目)

環境都市工学部

環境都市工学部には、建築学科、都市システム工学科（都市インフラ設計コース、社会システム計画コース）、エネルギー環境・化学工学科の３学科があります。

Ⅰ　教育に関する三つの方針

卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

環境都市工学部（以下、「本学部」という）では、環境、都市デザイン、建築、社会基盤、情報、資源、エネルギー、環境化学プロセスをキーワードとして、総合的で融合的な新しい科学技術を駆使し、より快適で調和のある持続可能な環境都市を創造・再生するための「まちづくり」を担う専門技術者の育成を推進し、以下に挙げる力を身につけた人物に対して学位（工学）を授与します。

1　（知識・技能）

本学部の基本理念である『都市産業社会における市民と生産活動が融合する「まち」空間の創生と再生』の趣旨を理解し、本学部に関する専門知識と技術を身につけ、都市が抱える環境問題をはじめ様々な課題の解決に向けて考動力を基盤に柔軟に対応することができる。そのために必要となる基礎学力・論理的思考力を有している。

2　（思考力・判断力・表現力等の能力）

本学部の専門教育を通じて習得した、最先端の科学技術力を発揮できる思考判断力を有し、同時に、グローバルな視点から考察することのできる国際力を有している。

3　（主体的な態度）

より快適に、より安全に、そしてエネルギーをより有効かつ効率的に使いながら自然と共生した活動を営む都市の創造を念頭に、市民と意識を共有しながら、主体性を持って問題解決に向かうことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

環境都市工学部では、精緻な理論に基づく高い技術力と応用力で、環境・エネルギー問題に配慮した未来都市を創造できる技術者・研究者を育成することを目標として、以下に挙げる方針に基づいて、共通教養科目、専門教育科目を含む教育課程を編成します。

1　教育内容

⑴　教養教育

ア　学生は、建築学科、都市システム工学科、エネルギー環境・化学工学科のいずれかの学科枠で入学して、各学科で設定している専門教育科目を履修するために必要となる共通教養科目を受講する。

イ　国際力を身につけるための「外国語科目」を配置し、実践的な英語力の習得と共に、専門教育を履修する上で必要となる英語力も習得できる。

⑵　専門教育

ア　各学科の定めた共通教養教育の履修による学習成果を踏まえ、各学科が設定する専門教育カリキュラムに沿って学習を行い、学生各自が興味・関心のある分野から「まちづくり」にアプローチできる。

イ　「まちづくり」について学生各自が多角的に考えられる能力の習得を目指す。

ウ　「建築学科」では、全ての学生が建築学全般を学ぶことを基本に、建築学を構成する「計画」、「構造」、「環境」の３つ分野の基礎を必修科目として、各分野の応用・発展的内容を選択科目として配し、学修段階に応じた講義、設計製図、演習、実習の連携により、知識の深化とともに、実践的技能や総合力の養成を目指す。

エ 「都市システム工学科」では、3年次より「都市インフラ設計コース」「社会システム計画コース」の2コースに分属し、各コースの特徴を活かした専門教育内容の習得と共に、コースによらずに設定した共通の専門科目も併せて習得することを目指す。

オ 「エネルギー環境・化学工学科」では、2年次までに教養・基礎教育内容の習得を目指す。また、2年次より「化学工学」を基盤にした独自のカリキュラム編成に応じた、専門教育内容の習得を目指す。

カ 4年次に「特別研究」（必修）を課し、個別指導を通じて4年間の学習成果の取りまとめを行う。

2 教育評価

⑴ 各セメスター終了時には単位習得状況を確認し、次のセメスターに配置されたカリキュラムの学習への円滑な移行を行えるように学習指導を行う。

⑵ 4年次配当の「特別研究」（必修）では、各学科により専門性を考慮して定められた評価基準を満たしたものを合格とする。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

環境都市工学部（以下、「本学部」という）では、地球環境にやさしい「まちづくり」を基本コンセプトに、環境、都市デザイン、建築、社会基盤、情報、資源、エネルギー、環境化学プロセスをキーワードに位置付けて、環境問題をはじめ、様々な課題の解決に向けて科学技術の力を発揮し、持続可能な開発目標に向けて国際的に活躍できる人材を養成するために、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力を備えた入学者を広く受け入れます。

1 （知識・技能）

現象をモデル化して記述するために必要となる、数学的な能力や、物理・化学を中心とした理科の基礎力を有している。さらに、建築学科については、建築と密接に関連する地理歴史、家庭、芸術などの教科についての基本的知識や技術を、都市システム工学科については、都市とそれが抱える諸問題に対する関心と基本的知識を、エネルギー環境・化学工学科については、エネルギー問題や環境問題の現状について基本的知識を、それぞれ有している。

2 （思考・判断・表現）

数学・理科に関する基本的知識や、それぞれの学科で必要となる基本的知識に基づいて、本学部における様々な問題に取り組む思考判断力を有している。

3 （主体性・協働）

人々の基本的な都市活動を豊かなものにしていくための「まちづくり」に取り組み、技術者・研究者として快適な都市環境を創造・再生することに対する意欲をもって取り組む姿勢を有している。

4 （考動力）

自らの思考に基づいて、社会に貢献する行動力を有している。さらに、建築学科については、「すまい」や「まち」に深い関心を持ち、それらのあり方や課題について考える能力を、都市システム工学科については、都市のシステムの変化や問題、あるべき姿などに関して常に問題意識を持って考える能力を、エネルギー環境・化学工学科については、世界が抱えるエネルギー問題や地球環境の変化に関心を持ち、新しい技術に関して興味を持って考える能力を、それぞれ有している。

Ⅱ　教育課程について

授業科目の構成

環境都市工学部の授業科目は、共通教養科目、外国語科目及び専門教育科目に大別されます。

1　共通教養科目は、関西大学科目群、基盤科目群、自己形成科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群、グローバル科目群及び大学・学部・社会連携科目群の７つの科目群で構成されています。なお、共通教養科目の詳細については別に掲載する「共通教養科目について」を確認してください。

2　外国語科目は、次の科目で構成されています。

⑴　英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語の各々Ⅰａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂ、Ⅲａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂ、Ⅴａ、Ⅴｂ、Ⅵａ、Ⅵｂ

⑵　海外特別研修（各プログラム）

⑶　外国語検定科目

検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）、検定認定３（各検定試験）

3　専門教育科目は、建築学科及び都市システム工学科においては必修科目、選択科目及び自由科目、エネルギー環境・化学工学科においては必修科目、選択必修科目、選択科目及び自由科目に分かれます。

上記のほか、外国人留学生のために外国人留学生科目があります。

授業科目の詳細は、「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）のとおりです。

Ⅲ　卒業所要単位について

卒業所要単位の内訳

環境都市工学部に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、128単位以上を修得した者に卒業を認め、卒業者には学士（工学）の学位が与えられます。

128単位の内訳は、次のとおりです。

1　共通教養科目（20単位）

共通教養科目については、以下の通り修得しなければなりません。

⑴　自己形成科目群「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」のうち、２つ以上の領域からそれぞれ２単位以上修得しなければなりません。

なお、２つ以上の領域の必要単位については、各学科で設定する「指定科目」から修得したものを含みます。

⑵　自己形成科目群には、各学科で設定する「指定科目」があります。「指定科目」は12単位以上を修得しなければなりません。

なお、12単位を超過して修得した単位の取扱いは、学科によって異なりますので、各学科の「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）を参照してください。

⑶　グローバル科目群については２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

ただし、「海外研修（各セミナー）」及び「外国語運用実習（各セミナー）」を修得した場合、その単位は共通教養科目の卒業所用単位に含めることはできません。「２　外国語科目」（後掲）を参照してください。

⑷　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群及び大学・学部・社会連携科目群の科目については合計２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

2　外国語科目（12単位）

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語のうち、英語を含む２つの外国語を第１選択外国語、第２選択外国語として修得しなければなりません。

ただし、外国語科目は２か国語しか履修・修得することはできません。

なお、外国語科目の所定の単位数を超過して修得した単位は卒業所要単位に含めることはできません。

⑴　第１選択外国語は、Ⅰａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂ、Ⅲａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂの計８単位を修得しなければなりません。

なお、Ⅴａ、Ⅴｂ、Ⅵａ、Ⅵｂは、これらを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

⑵　第２選択外国語は、第１選択外国語以外の外国語（第１選択外国語が英語以外の場合は英語）を選択し、〔Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ〕〔Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ〕〔Ⅴａ・Ⅴｂ・Ⅵａ・Ⅵｂ〕のいずれかの組合せで計４単位を修得しなければなりません。

⑶　英語の単位の取り扱いについて

①　英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂとして単位の認定を行うことができます（詳細は277ページ参照）。

②　英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの８単位を修得したうえで、さらに検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）、検定認定３（各検定試験）を修得した場合は、合計６単位まで外国語科目の単位に含めることができます。

③　共通教養科目グローバル科目群の海外研修（各セミナー）を修得した場合は、２セミナー４単位まで英語の卒業所要単位に含めることができます。

④　共通教養科目グローバル科目群の外国語運用実習（各セミナー）を修得した場合は、２セミナー２単位まで英語の卒業所要単位に含めることができます。

⑤　前述の①～④を合わせて卒業所要単位に含めることのできる単位数は、６単位（第２選択外国語とした場合は４単位）を限度とします。

⑷　英語以外の単位の取り扱いについて

①　検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）を修得した場合は、各４単位まで当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

②　共通教養科目グローバル科目群の海外研修（各セミナー）を修得した場合は、２セミナー４単位まで当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

③　海外特別研修（各プログラム）を修得した場合は、４単位まで当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

④　前述の①～③を合わせて卒業所要単位に含めることのできる単位数は、４単位を限度とします。

3　専門教育科目（96単位）

専門教育科目は、各学科の定める条件に従って96単位以上修得しなければなりません。詳細については、「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）を参照してください。ただし、自由科目は修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

外国人留学生

1　外国人留学生における外国語科目は、日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの計８単位を修得しなければなりません。また、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語のうちから１か国語（日常使用語を除く）を選択し、その外国語のⅠａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂの計４単位を修得しなければなりません。

2　その他、外国語科目の取扱いについては、前述「２　外国語科目⑶～⑷」のとおりとします。

3　外国人留学生科目の選択科目を修得した場合、共通教養科目の卒業所要単位に含めることができます。

4　外国人留学生科目の自由科目を履修した場合、履修制限単位に含めますが、これを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

編・転入学生

２・３年次に編・転入学した者で共通教養科目、外国語科目が学部の所定の単位に満たない者は、学部長の指示する不足単位を修得しなければなりません。

Ⅳ　履修・修得について特に注意すべき事項

履修制限単位

履修制限単位は、次のとおりとします。

１年次	春学期	年間50単位未満
	秋学期	
２年次	春学期	
	秋学期	
３年次	春学期	
	秋学期	
４年次	春学期	
	秋学期	

通年科目を履修した場合は、当該科目の単位数の２分の１の単位数を、春学期と秋学期それぞれの履修単位に算入するものとします。

なお、次の科目は履修制限単位に含めません。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習A・B・C
検定認定１・２・３（各検定試験）	海外特別研修（各プログラム）
海外体験研修（各プログラム）	滞在型交流ワークキャンプ（各テーマ）
地域再生（各テーマ）	

科目履修の配当年次

配当年次は、当該年次以上において履修できることを示していますので、履修する科目は、当該年次及び下位年次の配当科目のうちから選択しなければなりません。

なお、第２選択外国語について、上位年次配当科目の受講を希望する者は、あらかじめ申込手続を行い、許可された場合のみ履修することができます。

４年次生の履修単位

４年次生においては、在学８学期目には１科目以上の履修をしなければなりません。

共通教養科目の履修

共通教養科目の履修については、次の点に注意してください。

1　共通教養科目の概要については、「共通教養科目について」（後掲）を参照してください。ただし、環境都市工学部で履修・修得できる授業科目は「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。学科ごとに「指定科目」がありますので、留意してください。

2　特に指定された科目を除き、同一年度の春学期及び秋学期に同じ授業科目を二度履修することはできません。

3　クラス指定のある科目については、指定されたクラスで受講してください。また、定員制等のため事前登録が必要な科目、履修者数が一定以上に達した場合に事後抽選を行う科目があります。詳細はインフォメーションシステムで確認してください。

4　次の科目は履修制限単位に含めません。それぞれ該当のプログラムに応募のうえ参加許可を受けることをもって、履修登録に代えます。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習Ａ・Ｂ・Ｃ

共通教養科目の配当外科目の履修

所属する学科に配当されていない共通教養科目の履修を希望する場合、所定の手続を経て、許可された場合のみ、各年次の履修制限単位の範囲内で履修することができます。

なお、その科目を修得しても、卒業所要単位に含めることはできません。

外国語科目の履修

1　卒業所要単位に含める外国語科目は、当該科目を履修する初年度において、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵのそれぞれａ・ｂをセットで履修登録することを原則とします。ただし、英語Ⅴａ・ｂ(各テーマ)、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、各テーマを複数科目履修することができ、かつ、ａ・ｂセット履修の必要はありません。

2　英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの履修に際しては、原則として事前にプレースメントテストを受験しなければなりません。

なお、受験に関する詳細については、インフォメーションシステム等により指示します。

3　３年次配当の英語Ⅴａ・ｂ（各テーマ)、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、一定の条件を付して下位年次生の履修を認めています。履修希望者は所定の受付期間中に必要な手続きを行ってください。

外国語科目の選択パターンの変更

外国語科目の第１選択・第２選択の選択パターンの変更は、１年次の所定の届出期間中に届け出なければなりません。日程については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

なお、決定後の変更はできません。

英語以外の外国語の履修要件

英語以外の外国語のⅢａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂは、その外国語のⅠｂ、Ⅱｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅰａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。また、英語以外の外国語のⅤａ、Ⅴｂ、Ⅵａ、ⅥｂはそのⅢｂ、Ⅳｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅲａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

コース選択・登録

都市システム工学科においては、２年次の秋学期にコース選択手続きを行い、３年次の春学期に許可されたコースを登録しなければなりません。コース選択手続及び登録方法等の詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

環境都市工学部　他学科配当科目の履修

環境都市工学部の他学科配当の専門教育科目の履修を希望する場合は、所定の手続を経て、許可された場合のみ、履修を許可します。

なお、履修要件は以下のとおりです。

1　建築学科

⑴　履修年次等の履修条件は当該科目配当学科の指定によります。

⑵　修得した単位については専門教育科目の卒業所要単位に算入することができます。詳細は「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）を参照してください。

⑶　原則として実験・実習、製図科目は履修できません。

⑷　卒業に必要な科目の履修制限単位に含まれます。

2　都市システム工学科、エネルギー環境・化学工学科

⑴　履修年次等の履修条件は当該科目配当学科の指定によります。

⑵　配当外科目として取り扱います。

⑶　修得した単位については卒業所要単位に含めることはできません。

⑷　原則として実験・実習、製図科目は履修できません。

⑸　自由科目及び配当外科目の履修制限単位（年間20単位以内）に含まれます。

専門教育科目の自由科目、配当外科目（各種資格取得に必要な他学部配当科目）の履修

1　自由科目及び配当外科目の履修制限単位は、春学期・秋学期を通じて20単位以内です。

ただし、教育実習事前指導１単位、教育実習(一) 2 単位、教育実習(二) 2 単位はこの20単位には含めません。

2　他学部配当の授業科目は、所定の手続を経て、許可された場合のみ、履修を許可します。

3　自由科目については、当該科目の配当年次以上の年次でなければ履修することはできません。また、他学部配当の科目については、当該学部の指定する年次以上でなければ履修することはできません。

特別研究の配属

1　特別研究Ⅰ・Ⅱについて、履修要件を満たした者に対し、秋学期末（３月）に各研究室への配属を決定します。

2　ガイダンス等、配属に伴う行事の詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

関西大学大学院理工学研究科の授業科目の履修

関西大学大学院理工学研究科への強い進学意欲をもつ成績優秀な学部生に対して、より高度な視野に立つ勉学の機会を与えるとともに、大学院進学後は、本制度により修得した単位を一定の条件のもとで、博士課程前期課程の修了所要単位に算入することにより、大学院での研究活動に充てる時間をより多く確保し、高等技術者の育成に有利な環境を提供することを目的としています。

大学院授業科目の履修資格、履修制限単位、修得単位の取扱い等の概要は次のとおりです。

なお、詳細についてはインフォメーションシステム等によりお知らせします。

1　履修資格

「特別研究Ⅰ」の履修資格を有し、かつ各学科が定めた成績を修め、所定の手続を経て、許可された者に限り履修することができます。

2　履修制限単位

春学期・秋学期合わせて５科目10単位まで履修することができます。

また、この履修単位数は、自由科目及び配当外科目の履修制限単位（年間20単位以内）に含まれます。

3　修得単位の取扱い

修得した単位については、卒業所要単位に含めることはできません。

ただし、関西大学大学院理工学研究科に進学した場合は、所定の手続を経て許可された者に限り、博士課程前期課程の修了所要単位に含めることができます。

授業科目一覧表

1　共通教養科目

《関西大学科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	関西大学を知る				
GEA1001	日本の近現代史と関西大学―知の群像	1	2	1	2
GEA1002	吹田市と関西大学	1	2	1	2
GEA1003	学生生活とリスク	1	2	1	2
	戦略トピックス				
GEA1004	SDGs入門	1	2	1	2
GEA1005	SDGsの実践	1	2	1	2
GEA1006	金融の実務から見るSDGs	1	2	1	2
GEA1007	環境問題と環境政策のルーツ	1	2	1	2
GEA1008	活用法を見聞するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1009	活用法を体験するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1010	起業に学ぶ「考動力」入門（関大出身起業家と考える未来の自分）	1	2	1	2
GEA1011	起業に学ぶ「考動力」実践（企業と考える未来のデザイン）	1	2	1	2
GEA2001	社会のためのデータサイエンス実践基礎	2	2	1	2
GEA2002	AI・データエンジニアリング実践基礎	2	2	1	2

《基盤科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEB1001	スタディスキルゼミ（各テーマ）	1	2	1	2
GEB1002	プロジェクト学習１	1	2	1	2
GEB2001	プロジェクト学習２	2	2	1	2

《自己形成科目群》

領域：人間を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1001	こころとからだを哲学する
	GEC1002	文化・社会と心理学
	GEC1003	身体運動の人間学
	GEC1004	ことばと思考
	GEC1005	地図の知恵、地図の思想
	GEC1006	自己と他者
	GEC1007	自己をみつめる
	GEC1008	日本人の宗教観
	GEC1009	美術からみる表現と理解
	GEC1010	入門・新しい部落問題
	GEC1011	現代社会とジェンダー
	GEC1012	現代社会とセクシュアリティ
	GEC1013	生と死の倫理学
	GEC1014	食を知る
	GEC1015	食のリスクマネジメント
	GEC1016	宗教と現代
	GEC1017	新しい人権論への招待
教養を深める（知の見取り図）	GEC1018	哲学を学ぶ
	GEC1019	論理学を学ぶ
	GEC1020	心理学を学ぶ
	GEC1021	宗教学を学ぶ
	GEC1022	イスラーム世界の歴史を学ぶ
	GEC1023	考古学を学ぶ
	GEC1024	日本語を学ぶ
	GEC1025	日本文学を学ぶ
	GEC1026	人文地理学を学ぶ
	GEC1027	地域社会の生活と資源
	GEC1028	芸術学を学ぶ
	GEC1029	人類学入門
教養を深める（知の探求）	GEC1030	日本の古典文学を読む
	GEC1031	日本の近代文学を読む
	GEC1032	わかる諸子百家
	GEC1033	日本の文化と人間を考える
	GEC1034	子供から大人への過程を考える
	GEC1035	社会と個人の心理学
	GEC1036	世界の文学を味わう
	GEC1037	西洋美術を味わう
	GEC1038	日本・東洋美術を味わう
	GEC1039	文化史に親しもう
	GEC1040	アジアの文化と世界遺産
	GEC1041	大学教育論～大学の主人公はきみたちだ！～
チャレンジ科目	GEC1042	各テーマ

【配当年次：１・２・３・４　　単位：２
授業期間：１　　毎週授業時間：２】

領域：社会を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1043	今日の道徳的ディレンマ
	GEC1044	世界の宗教
	GEC1045	環境の倫理学
	GEC1046	企業と社会
	GEC1047	技術と社会
	GEC1048	生活の中の経済学
	GEC1049	メディア・リテラシー入門
	GEC1050	イスラム社会を考える
	GEC1051	日本の伝統文化
	GEC1052	方言学入門
	GEC1053	共生社会のライフデザイン
	GEC1054	日本の社会と生活の歴史
	GEC1055	優良企業の見分け方
	GEC1056	社会学で学ぶ現代社会
	GEC1057	政治学と21世紀社会
	GEC1058	法実務入門
	GEC1059	地域再発見の旅
	GEC1060	旅から始める知の冒険
	GEC1061	移動する人々
	GEC1062	オリンピックの共生思想
	GEC1063	外来文化と日本の歴史
	GEC1064	アジアの中の日本歴史
	GEC1065	世界の中の日本経済
	GEC1066	日本史の中の平和と戦争
	GEC1067	世界史の中の平和と戦争
	GEC1068	読書への誘い
教養を深める（知の見取り図）	GEC1069	倫理学を学ぶ
	GEC1070	法学を学ぶ
	GEC1071	政治学のすすめ
	GEC1072	民俗学を学ぶ
	GEC1073	基礎からのマクロ経済学
	GEC1074	基礎からのミクロ経済学
	GEC1075	社会学入門
	GEC1076	日本国憲法
	GEC1077	基礎からの情報処理
	GEC1078	ビジネスを学ぶ
	GEC1079	日本の歴史を学ぶ
	GEC1080	アジア史を学ぶ
	GEC1081	西洋の歴史を学ぶ
	GEC1082	社会思想史を学ぶ
教養を深める（知の探求）	GEC1083	名作を読む
	GEC1084	哲学の古典を読み解く
	GEC1085	聖典と宗教思想
	GEC1086	近代市民社会思想を知ろう
	GEC1087	労働と雇用を考える
	GEC1088	日本の地域史を考える
	GEC1089	世界の地域文化を知ろう
	GEC1090	少子高齢化社会を考える
	GEC1091	法の社会学
	GEC1092	日本史の中の女性と社会を知ろう
	GEC1093	日本社会の成熟と変動を知ろう
	GEC1094	強い会社のマネジメントを知る
	GEC1095	西洋世界の社会と歴史を考える
	GEC1096	欧米世界の歴史と文化を知ろう
	GEC1097	中国と日本の文化交流
	GEC1098	異文化への理解を深める
	GEC1099	現代都市の生態とエスニシティ
	GEC1100	社会的養育を考える
チャレンジ科目	GEC1101	各テーマ

領域：自然と向き合う

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1102	確率・統計でものを考える
	GEC1103	自然災害の科学
	GEC1104	科学と文化
	GEC1105	生物と環境
	GEC1106	人類紀の環境変動
	GEC1107	建築と景観
	GEC1108	エネルギーと環境
	GEC1109	科学と技術
	GEC1110	現代科学の展開
	GEC1111	統計学を学ぶ
教養を深める（知の見取り図）	GEC1112	自然地理学を学ぶ
	GEC1113	自然科学史を学ぶ
	GEC1114	バイオサイエンス入門
	GEC1115	数学を学ぶ（各テーマ）＊
	GEC1116	物理を学ぶ（各テーマ）＊
	GEC1117	物理を学ぶ（演習含）（各テーマ）＊
	GEC1118	化学を学ぶ（各テーマ）＊
	GEC1119	化学を学ぶ（演習含）（各テーマ）＊
教養を深める（知の探求）	GEC1120	仕組みを形にする科学技術
	GEC1121	現代社会を支える電気電子情報技術
	GEC1122	宇宙のすがたと歴史
	GEC1123	近代科学の系譜
	GEC1124	気象と気候を学ぶ
	GEC1125	地球の科学
	GEC1126	地震と火山のメカニズムと防災
チャレンジ科目	GEC1127	各テーマ

＊：履修可能なテーマは学科により異なりますので、各学科の「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）を参照してください。

【配当年次：1・2・3・4　　単位：2　　授業期間：1　　毎週授業時間：2】

《健康・スポーツ科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GED1001	健康・スポーツ科学実習a(各種目)	1	1	1	2
GED1002	健康・スポーツ科学実習b(各種目)	1	1	1	2
GED1003	健康・スポーツ科学実習c(各種目)	1	1	1	2
GED1004	健康・スポーツ科学論	1	2	1	2
	(生涯スポーツ・身体運動文化コース)				
GED1005	関西大学スポーツ文化論	1	2	1	2
GED1006	スポーツ運動学概論	1	2	1	2
GED1007	スポーツ社会学概論	1	2	1	2
GED1008	スポーツ心理学概論	1	2	1	2
GED1009	スポーツ栄養学概論	1	2	1	2
GED1010	コーチングの科学	1	2	1	2
GED1011	トレーニング科学概論	1	2	1	2
GED1012	コンディショニング科学概論	1	2	1	2

《キャリア形成科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEE1001	大学生から始めるキャリア形成	1	2	1	2
GEE1002	キャリア形成入門演習	1	2	1	2
GEE2001	理論と実践から探求するキャリア形成	2	2	1	2
GEE2002	現代社会を生き抜くためのキャリア形成	2	2	1	2
GEE2003	キャリア形成実践演習	2	2	1	2
GEE1003	インターンシップ(ビジネス)	1~3	2	1	4
GEE1004	インターンシップ（学校１）	1~4	2	1	4
GEE1005	インターンシップ（学校２）	1~4	2	1	4
GEE1006	インターンシップ（学校３）	1~4	2	1	4

《グローバル科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学準備スキルアップ科目】				
GEF2001	Foundation for Academic English	1~4	2	1	2
GEF1001	Academic Writing Practice	1~4	2	1	2
GEF2002	Academic Discussions & Debates	1~4	2	1	2
GEF2003	Presentation Skills	1~4	2	1	2
GEF2004	留学のための英語スキルアップ	1~4	2	1	2
GEF2005	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2006	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2007	ASEAN Studies	1~4	2	1	2
GEF1002	Understanding Cross-Cultural Communication	1~4	2	1	2
GEF1003	KUGF Independent Study (English Skills Development)	1~4	2	1	2
GEF2008	KUGF Independent Study (Doing a Research in English)	1~4	2	1	2
GEF2009	Global Awareness Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2010	Global Awareness Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2011	English Communication Skills for Business Contexts	1~4	2	1	2
	【グローバル・フロンティア科目】				
	Module 1 . Engineering Approach to Urban Issues				
GEF3001	Disaster Transport Planning	1~4	2	1	2
	Module 2. Food Science & Biotechnology				
GEF3002	Biotechnology and Bioethics	1~4	2	1	2
GEF3003	Marketing of Food, Alcohol and Cosmetics	1~4	2	1	2
GEF3004	Science of Washoku (Japanese Cuisine)	1~4	2	1	2
GEF3005	Food Safety	1~4	2	1	2
GEF3006	Polysaccharide Science	1~4	2	1	2
	Module 3 .International Business & Entrepreneurship				
GEF3007	International Business for Entrepreneurs	1~4	2	1	2
GEF3008	Japanese Industries and Companies (The Global Competition)	1~4	2	1	2
GEF3009	Business & Japanese People	1~4	2	1	2
GEF3010	Marketing in Japan	1~4	2	1	2
GEF3011	Business for SDGs (Sustainable Development Goals)	1~4	2	1	2
	Module 4 . Japan Studies				
GEF3012	Japanese Philosophy and Thoughts	1~4	2	1	2
GEF3013	Japanese Religion	1~4	2	1	2
GEF3014	Japanese Arts	1~4	2	1	2
GEF3015	Japanese History (The History and Culture of Medieval Japan)	1~4	2	1	2
GEF3016	Japanese History (Bushido: The Way of the Warrior)	1~4	2	1	2
GEF3017	Japanese Literature (Survey of Post-1945)	1~4	2	1	2
GEF3018	Japanese Literature (Intro. to Classical JPN Literature)	1~4	2	1	2
GEF3019	Japanese Culture (Modern Culture and Post-war History)	1~4	2	1	2
GEF3020	Japanese Culture (JPN Culture and Contemporary Literature)	1~4	2	1	2
GEF3021	Comparative Asian Cultures Studies	1~4	2	1	2
GEF3022	Japanese Law and Politics	1~4	2	1	2
GEF3023	Japanese Economy (Topics in Japanese Economy and Discussion)	1~4	2	1	2
GEF3024	Japanese Society	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEF3025	Japanese Popular Culture (Postwar Japanese Culture)	1~4	2	1	2
GEF3026	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. to Kendo)	1~4	2	1	2
GEF3027	Seminar in Japanology (The Japanese Language and Society)	1~4	2	1	2
GEF3028	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. To Naginata)	1~4	2	1	2
GEF3029	Seminar in Japanology (War and Conflict through JPN Film)	1~4	2	1	2
	Module 5 . Language Teaching & Communication				
GEF3030	Second Language Acquisition	3	2	1	2
GEF3031	Individual Differences in Language Learning	3	2	1	2
GEF3032	Ed. Tech. & Materials Development in FLT	3	2	1	2
GEF3033	Early Foreign Language Education	3	2	1	2
GEF3034	Structure of Language (discourse and meaning)	3	2	1	2
GEF3035	Linguistic Analysis (English)	3	2	1	2
GEF3036	International Business Communication	3	2	1	2
	Module 6 . Studies on Foreign Affairs				
GEF3037	International Development	1~4	2	1	2
GEF3038	Area Studies (Europe I)	1~4	2	1	2
GEF3039	Area Studies (Europe II)	1~4	2	1	2
GEF3040	Area Studies (India)	1~4	2	1	2
GEF3041	Japan in International Affairs	1~4	2	1	2
	Module 7 . Fundamentals for Social Science Studies				
GEF3042	Critical Thinking for Social and Global Issues	1~4	2	1	2
GEF3043	Research Methods for Social Science	1~4	2	1	2
GEF3044	Global Sociology	1~4	2	1	2
GEF3045	Japanese Computerization and Society	1~4	2	1	2
GEF3046	Methods of Comparative Analysis (ENG and JPN Communication)	1~4	2	1	2
GEF3047	Contemporary Gender Studies	1~4	2	1	2
	Module 8 . Applied Science and Engineering				
GEF3048	Japanese Science and Technology	1~4	2	1	2
GEF3049	Environmental Biology	1~4	2	1	2
GEF3050	Information and Communication Technologies	1~4	2	1	2
GEF3051	Introduction to Applied Science	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学実践科目】				
GEF1004	KUGF Field Study（各プログラム）	1~4	2	1	4
GEF1005	海外研修（各セミナー）	1~4	1~2	1	4
GEF1006	外国語運用実習(各セミナー)	1~4	1	1	2

《大学・学部・社会連携科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【大学連携科目】				
	〔大学コンソーシアム大阪プログラム〕				
GEG1001	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【学部連携科目】				
	〔学部オープン科目〕				
GEG1002	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【社会連携科目】				
	(講義科目)				
GEG1003	国際協力の基礎を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1004	国際協力ボランティアの理論を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1005	国際協力レディネス	1~4	2	1	2
GEG1006	国際協力フォローアップ	1~4	2	1	2
	(実習科目)				
GEG1007	国際協力ボランティア実習A	1~4	4	1	8
GEG1008	国際協力ボランティア実習B	1~4	2	1	4
GEG1009	国際協力ボランティア実習C	1~4	1	1	2
GEG3001	サービスラーニング(各テーマ)	3	2	1	2

＊海外研修（各セミナー）及び外国語運用実習（各セミナー）を修得した場合、当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

※共通教養科目の開講科目等詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

外国語科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GFE1001	英語Ⅰa	1	1	2	1
GFE1002	英語Ⅰb	1	1	2	
GFE1003	英語Ⅱa	1	1	2	
GFE1004	英語Ⅱb	1	1	2	
GFG1001	ドイツ語Ⅰa	1	1	2	
GFG1002	ドイツ語Ⅰb	1	1	2	
GFG1003	ドイツ語Ⅱa	1	1	2	
GFG1004	ドイツ語Ⅱb	1	1	2	
GFF1001	フランス語Ⅰa	1	1	2	
GFF1002	フランス語Ⅰb	1	1	2	
GFF1003	フランス語Ⅱa	1	1	2	
GFF1004	フランス語Ⅱb	1	1	2	
GFR1001	ロシア語Ⅰa	1	1	2	
GFR1002	ロシア語Ⅰb	1	1	2	
GFR1003	ロシア語Ⅱa	1	1	2	
GFR1004	ロシア語Ⅱb	1	1	2	
GFS1001	スペイン語Ⅰa	1	1	2	
GFS1002	スペイン語Ⅰb	1	1	2	
GFS1003	スペイン語Ⅱa	1	1	2	
GFS1004	スペイン語Ⅱb	1	1	2	
GFC1001	中国語Ⅰa	1	1	2	
GFC1002	中国語Ⅰb	1	1	2	
GFC1003	中国語Ⅱa	1	1	2	
GFC1004	中国語Ⅱb	1	1	2	
GFK1001	朝鮮語Ⅰa	1	1	2	
GFK1002	朝鮮語Ⅰb	1	1	2	
GFK1003	朝鮮語Ⅱa	1	1	2	
GFK1004	朝鮮語Ⅱb	1	1	2	
GFE2001	英語Ⅲa	1	1	2	2
GFE2002	英語Ⅲb	1	1	2	
GFE2003	英語Ⅳa	1	1	2	
GFE2004	英語Ⅳb	1	1	2	
GFG2001	ドイツ語Ⅲa	1	1	2	
GFG2002	ドイツ語Ⅲb	1	1	2	
GFG2003	ドイツ語Ⅳa	1	1	2	
GFG2004	ドイツ語Ⅳb	1	1	2	
GFF2001	フランス語Ⅲa	1	1	2	
GFF2002	フランス語Ⅲb	1	1	2	
GFF2003	フランス語Ⅳa	1	1	2	
GFF2004	フランス語Ⅳb	1	1	2	
GFR2001	ロシア語Ⅲa	1	1	2	
GFR2002	ロシア語Ⅲb	1	1	2	
GFR2003	ロシア語Ⅳa	1	1	2	
GFR2004	ロシア語Ⅳb	1	1	2	
GFS2001	スペイン語Ⅲa	1	1	2	
GFS2002	スペイン語Ⅲb	1	1	2	
GFS2003	スペイン語Ⅳa	1	1	2	2
GFS2004	スペイン語Ⅳb	1	1	2	
GFC2001	中国語Ⅲa	1	1	2	
GFC2002	中国語Ⅲb	1	1	2	
GFC2003	中国語Ⅳa	1	1	2	
GFC2004	中国語Ⅳb	1	1	2	
GFK2001	朝鮮語Ⅲa	1	1	2	
GFK2002	朝鮮語Ⅲb	1	1	2	
GFK2003	朝鮮語Ⅳa	1	1	2	
GFK2004	朝鮮語Ⅳb	1	1	2	
GFE3001	英語Ⅴa(各テーマ)	1	1	2	3
GFE3002	英語Ⅴb(各テーマ)	1	1	2	
GFE3003	英語Ⅵa(各テーマ)	1	1	2	
GFE3004	英語Ⅵb(各テーマ)	1	1	2	
GFG3001	ドイツ語Ⅴa	1	1	2	
GFG3002	ドイツ語Ⅴb	1	1	2	
GFG3003	ドイツ語Ⅵa	1	1	2	
GFG3004	ドイツ語Ⅵb	1	1	2	
GFF3001	フランス語Ⅴa	1	1	2	
GFF3002	フランス語Ⅴb	1	1	2	
GFF3003	フランス語Ⅵa	1	1	2	
GFF3004	フランス語Ⅵb	1	1	2	
GFR3001	ロシア語Ⅴa	1	1	2	
GFR3002	ロシア語Ⅴb	1	1	2	
GFR3003	ロシア語Ⅵa	1	1	2	
GFR3004	ロシア語Ⅵb	1	1	2	
GFS3001	スペイン語Ⅴa	1	1	2	
GFS3002	スペイン語Ⅴb	1	1	2	
GFS3003	スペイン語Ⅵa	1	1	2	
GFS3004	スペイン語Ⅵb	1	1	2	
GFC3001	中国語Ⅴa	1	1	2	
GFC3002	中国語Ⅴb	1	1	2	
GFC3003	中国語Ⅵa	1	1	2	
GFC3004	中国語Ⅵb	1	1	2	
GFK3001	朝鮮語Ⅴa	1	1	2	
GFK3002	朝鮮語Ⅴb	1	1	2	
GFK3003	朝鮮語Ⅵa	1	1	2	
GFK3004	朝鮮語Ⅵb	1	1	2	
GFP1001	海外特別研修(各プログラム)	6	1	12	1～4
GFO1001	検定認定1(各検定試験)	2	—	—	
GFO1002	検定認定2(各検定試験)	2	—	—	
GFO1003	検定認定3(各検定試験)	2	—	—	

外国人留学生科目・外国語科目

種別	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
外国人留学生科目	（必修科目）					
	FOS1001	日本語Ⅰ	2	1	4	1
	FOS1002	日本語Ⅱ	2	1	4	
	FOS1003	日本語Ⅲ	2	1	4	
	FOS1004	日本語Ⅳ	2	1	4	
	（選択科目）					
	FOS1005	日本事情Ⅰ	2	1	2	1
	FOS1006	日本事情Ⅱ	2	1	2	
	（自由科目）					
	FOS2001	実践ビジネス日本語Ⅰ	2	1	2	2
	FOS2002	実践ビジネス日本語Ⅱ	2	1	2	
	FOS2003	キャリアデザインⅠ(日本の社会と企業)	2	1	2	
	FOS2004	キャリアデザインⅡ(日本の就職と働き方)	2	1	2	
	FOS3001	キャリアデザインⅢ(日本の社会で働く)	2	1	2	3
	FOS1007	Contemporary Japan (Understanding Japan)	2	1	2	1~4
	FOS1008	Contemporary Japan (Researching Japan)	2	1	2	1~4
	FOS1009	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 1)	2	1	2	1~4
	FOS1010	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 2)	2	1	2	1~4
	FOS1011	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 1)	2	1	2	1~4
	FOS1012	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 2)	2	1	2	1~4
	FOS1013	Communication in Japanese Society (Business Japanese)	2	1	2	1~4
	FOS1014	Communication in Japanese Society (JPN Corporate Culture)	2	1	2	1~4
	FOS1015	Field-Based Learning (Society and Workplace Culture in Japan)	2	1	2	1~4
	FOS1016	Japanese (1-a)	2	1	4	1~4
	FOS1017	Japanese (1-b)	2	1	4	1~4
	FOS1018	Japanese (2-a)	2	1	4	1~4
	FOS1019	Japanese (2-b)	2	1	4	1~4
	FOS1020	Japanese (3-a)	2	1	4	1~4
	FOS1021	Japanese (3-b)	2	1	4	1~4
	FOS1022	Japanese (4-a)	2	1	4	1~4
	FOS1023	Japanese (4-b)	2	1	4	1~4
	FOS1024	Japanese (5-a)	2	1	4	1~4
	FOS1025	Japanese (5-b)	2	1	4	1~4
	FOS1026	Japanese (6-a)	2	1	4	1~4
	FOS1027	Japanese (6-b)	2	1	4	1~4
	FOS1028	Japanese (7-a)	2	1	4	1~4
	FOS1029	Japanese (7-b)	2	1	4	1~4
外国語科目	GFE1001	英語Ⅰa	1	1	2	1
	GFE1002	英語Ⅰb	1	1	2	
	GFE1003	英語Ⅱa	1	1	2	
	GFE1004	英語Ⅱb	1	1	2	
	GFG1001	ドイツ語Ⅰa	1	1	2	
	GFG1002	ドイツ語Ⅰb	1	1	2	
	GFG1003	ドイツ語Ⅱa	1	1	2	
	GFG1004	ドイツ語Ⅱb	1	1	2	
	GFF1001	フランス語Ⅰa	1	1	2	
	GFF1002	フランス語Ⅰb	1	1	2	
	GFF1003	フランス語Ⅱa	1	1	2	
	GFF1004	フランス語Ⅱb	1	1	2	
	GFR1001	ロシア語Ⅰa	1	1	2	
	GFR1002	ロシア語Ⅰb	1	1	2	
	GFR1003	ロシア語Ⅱa	1	1	2	
	GFR1004	ロシア語Ⅱb	1	1	2	
	GFS1001	スペイン語Ⅰa	1	1	2	
	GFS1002	スペイン語Ⅰb	1	1	2	1
	GFS1003	スペイン語Ⅱa	1	1	2	
	GFS1004	スペイン語Ⅱb	1	1	2	
	GFC1001	中国語Ⅰa	1	1	2	
	GFC1002	中国語Ⅰb	1	1	2	
	GFC1003	中国語Ⅱa	1	1	2	
	GFC1004	中国語Ⅱb	1	1	2	
	GFK1001	朝鮮語Ⅰa	1	1	2	
	GFK1002	朝鮮語Ⅰb	1	1	2	
	GFK1003	朝鮮語Ⅱa	1	1	2	
	GFK1004	朝鮮語Ⅱb	1	1	2	
	GFE2001	英語Ⅲa	1	1	2	2
	GFE2002	英語Ⅲb	1	1	2	
	GFE2003	英語Ⅳa	1	1	2	
	GFE2004	英語Ⅳb	1	1	2	
	GFG2001	ドイツ語Ⅲa	1	1	2	
	GFG2002	ドイツ語Ⅲb	1	1	2	
	GFG2003	ドイツ語Ⅳa	1	1	2	
	GFG2004	ドイツ語Ⅳb	1	1	2	
	GFF2001	フランス語Ⅲa	1	1	2	
	GFF2002	フランス語Ⅲb	1	1	2	
	GFF2003	フランス語Ⅳa	1	1	2	
	GFF2004	フランス語Ⅳb	1	1	2	
	GFR2001	ロシア語Ⅲa	1	1	2	
	GFR2002	ロシア語Ⅲb	1	1	2	
	GFR2003	ロシア語Ⅳa	1	1	2	
	GFR2004	ロシア語Ⅳb	1	1	2	
	GFS2001	スペイン語Ⅲa	1	1	2	
	GFS2002	スペイン語Ⅲb	1	1	2	
	GFS2003	スペイン語Ⅳa	1	1	2	
	GFS2004	スペイン語Ⅳb	1	1	2	
	GFC2001	中国語Ⅲa	1	1	2	
	GFC2002	中国語Ⅲb	1	1	2	
	GFC2003	中国語Ⅳa	1	1	2	
	GFC2004	中国語Ⅳb	1	1	2	
	GFK2001	朝鮮語Ⅲa	1	1	2	
	GFK2002	朝鮮語Ⅲb	1	1	2	
	GFK2003	朝鮮語Ⅳa	1	1	2	
	GFK2004	朝鮮語Ⅳb	1	1	2	
	GFE3001	英語Ⅴa（各テーマ）	1	1	2	3

種別	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
外国語科目	GFE3002	英語Ⅴb(各テーマ)	1	1	2	
	GFE3003	英語Ⅵa(各テーマ)	1	1	2	
	GFE3004	英語Ⅵb(各テーマ)	1	1	2	
	GFG3001	ドイツ語Ⅴa	1	1	2	
	GFG3002	ドイツ語Ⅴb	1	1	2	
	GFG3003	ドイツ語Ⅵa	1	1	2	
	GFG3004	ドイツ語Ⅵb	1	1	2	
	GFF3001	フランス語Ⅴa	1	1	2	
	GFF3002	フランス語Ⅴb	1	1	2	
	GFF3003	フランス語Ⅵa	1	1	2	
	GFF3004	フランス語Ⅵb	1	1	2	
	GFR3001	ロシア語Ⅴa	1	1	2	
	GFR3002	ロシア語Ⅴb	1	1	2	
	GFR3003	ロシア語Ⅵa	1	1	2	3
	GFR3004	ロシア語Ⅵb	1	1	2	
	GFS3001	スペイン語Ⅴa	1	1	2	
	GFS3002	スペイン語Ⅴb	1	1	2	
	GFS3003	スペイン語Ⅵa	1	1	2	
	GFS3004	スペイン語Ⅵb	1	1	2	
	GFC3001	中国語Ⅴa	1	1	2	
	GFC3002	中国語Ⅴb	1	1	2	
	GFC3003	中国語Ⅵa	1	1	2	
	GFC3004	中国語Ⅵb	1	1	2	
	GFK3001	朝鮮語Ⅴa	1	1	2	
	GFK3002	朝鮮語Ⅴb	1	1	2	
	GFK3003	朝鮮語Ⅵa	1	1	2	
	GFK3004	朝鮮語Ⅵb	1	1	2	
	GFP1001	海外特別研修(各プログラム)	6	1	12	1～4
	GFO1001	検定認定1(各検定試験)	2	—	—	
	GFO1002	検定認定2(各検定試験)	2	—	—	
	GFO1003	検定認定3(各検定試験)	2	—	—	

専門教育科目

自由科目

配当学科	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
建・都・エ	EUE１	教職概説	2	1	2	
	EUE１	教育原理	2	1	2	1
	EUE１	図書館情報資源概論	2	1	2	
	EUE２	教育制度論	2	1	2	
	EUE２	教育心理学	2	1	2	
	EUE２	道徳教育の理論と方法	2	1	2	
	EUE２	特別活動論	2	1	2	
	EUE２	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用を含む)	2	1	2	
	EUE２	メディア教育論	2	1	2	
	EUE２	教育相談論	2	1	2	2
	EUE２	人権教育論	2	1	2	
	EUE２	情報資源組織論	2	1	2	
	EUE２	学校経営と学校図書館	2	1	2	
	EUE２	学習指導と学校図書館	2	1	2	
	EUE２	読書と豊かな人間性	2	1	2	
	EUE２	情報メディアの活用	2	1	2	
	EUE３	特別支援教育論	1	1	2	
	EUE３	総合的な学習の時間の指導法	1	1	2	
	EUE３	カリキュラム開発論	2	1	2	3
	EUE３	生徒・進路指導論	2	1	2	
	EUE３	教育実習事前指導	1	1	2	
	EUE３	教育実習 (一)	2	1	4	3・4
	EUE４	教育実習 (二)	2	1	4	4
	EUE４	教職実践演習（中等）	2	1	2	

配当学科	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
都	EUE２	解析学	2	1	2	2
	EUE２	幾何学概論 I	2	1	2	
	EUE２	幾何学概論 II	2	1	2	
	EUE２	数学科教育法 (一)	2	1	2	
	EUE２	数学科教育法 (二)	2	1	2	
	EUE２	代数学概論	2	1	2	
	EUE２	情報と職業	2	1	2	
	EUE２	情報社会と情報倫理	2	1	2	
	EUE２	情報科教育法 (一)	2	1	2	
	EUE２	情報科教育法 (二)	2	1	2	
	EUE３	数学科教育法 (三)	2	1	2	3
	EUE３	数学科教育法 (四)	2	1	2	
エ	EUE２	生物学実験	1	1	4	2
	EUE２	地学実験	1	1	4	
	EUE２	理科教育法 (一)	2	1	2	
	EUE２	理科教育法 (二)	2	1	2	
	EUE２	生物学概論	2	1	2	
	EUE２	地学概論	2	1	2	
	EUE３	理科教育法 (三)	2	1	2	3
	EUE３	理科教育法 (四)	2	1	2	
建・都・エ	EUE２	工業技術概論	2	1	2	2
	EUE２	工業科教育法 (一)	2	1	2	
	EUE２	工業科教育法 (二)	2	1	2	
	EUE２	職業指導 (一)	2	1	2	
	EUE２	職業指導 (二)	2	1	2	

建…建築学科
都…都市システム工学科
エ…エネルギー環境・化学工学科
自由科目は、修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

建築学科　卒業に必要な単位数及び授業科目一覧

1　卒業要件

環境都市工学部建築学科に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、所定の単位数を修得していること。

2　「特別研究Ⅰ・Ⅱ」の履修について

４年次配当の「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を履修するには、６学期以上在学し、履修する前学期末までに次の要件を満たしていなければなりません。

⑴　卒業所要単位数（128単位）のうち、110単位以上を修得していること。

⑵　卒業に必要な共通教養科目、外国語科目及び１・２年次配当の専門教育科目の必修科目のうち、未修得科目及び単位が３科目８単位以内であること。

⑶　「建築設計製図Ⅰ」、「建築設計製図Ⅱ」、「建築設計製図Ⅲ」を修得していること。

⑷　「特別研究Ⅱ」を履修するには、「特別研究Ⅰ」を修得していること。

卒業所要単位

区分	共通教養科目									外国語科目		専門教育科目		合計
	自己形成科目群			グローバル科目群	関西大学科目群	基盤科目群	健康・スポーツ科目群	キャリア形成科目群	大学・学部・社会連携科目群	第１選択外国語	第２選択外国語	必修科目	選択科目	
	人間を知る	社会を知る	自然と向き合う											
単位数	2つ以上の領域からそれぞれ2以上＊ 指定科目12単位以上（※）			2以内	2以内					8	4	52	44	128
	20									12		96		

＊各領域の必要単位については、指定科目から修得したものを含む。

共通教養科目

卒業所要単位について

⑴　自己形成科目群には、学科で設定する「指定科目」があります。「指定科目」は12単位を修得しなければなりません。

⑵　（※）学科で設定する「指定科目」を、12単位を超えて修得した単位は、専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。なお、「指定科目」の12単位を超えて修得した単位は、共通教養科目の卒業所要単位に含めることはできません。

⑶　自己形成科目群について、「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」のうち、２つ以上の領域からそれぞれ２単位以上修得しなければなりません。

なお、２つ以上の領域の必要単位については、「指定科目」から修得したものを含めることができます。

⑷　グローバル科目群については２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑸　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群及び大学・学部・社会連携科目群の科目については合計２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑹　上記⑴～⑸を踏まえたうえで、「指定科目」12単位に加え、「指定科目」以外の共通教養科目から８単位の合計20単位を修得しなければなりません。

共通教養科目　自己形成科目群「指定科目」

科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次	科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1102	物理を学ぶ(力学Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分演習Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1102	物理を学ぶ(力学Ⅱ)	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅱ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	1	GEB1104	化学を学ぶ(基礎化学)	自然と向き合う		2	1	2	1
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分演習Ⅱ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1071	基礎からの情報処理	社会を知る		2	1	2	

◎印の科目は必修科目で、すべて修得しなければなりません。

専門教育科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
（必修科目）					
ARC１	図学	2	1	2	1
ARC１	建築図法	2	1	4	
ARC１	建築設計製図Ⅰ	2	1	4	
ARC１	建築構造力学基礎	2	1	2	
ARC１	建築静定構造力学	2	1	2	
ARC１	建築一般構造	2	1	2	
ARC１	建築環境工学概論	2	1	2	
ARC２	日本建築史	2	1	2	2
ARC２	建築計画Ⅰ	2	1	2	
ARC２	建築計画Ⅱ	2	1	2	
ARC２	建築設計製図Ⅱ	3	1	6	
ARC２	建築設計製図Ⅲ	3	1	6	
ARC２	建築不静定構造力学	2	1	2	
ARC２	建築構造材料学	2	1	2	
ARC２	鉄筋コンクリート構造学Ⅰ	2	1	2	
ARC２	鉄骨構造学Ⅰ	2	1	2	
ARC２	建築空気環境学	2	1	2	
ARC２	建築光環境学	2	1	2	
ARC２	建築音響学	2	1	2	
ARC２	都市熱環境学	2	1	2	
ARC３	都市計画Ⅰ	2	1	2	3
ARC３	都市と住宅の歴史	2	1	2	
ARC４	特別研究Ⅰ	3	1	—	4
ARC４	特別研究Ⅱ	3	1	—	
（選択科目）					
ARC１	西洋建築史	2	1	2	1
ARC１	建築スケッチ	2	1	4	
ARC１	建築ＣＡＤ演習Ⅰ	2	1	2	
ARC１	環境と建築	2	1	2	
ARC２	線形代数	2	1	2	2
ARC２	数学解析	2	1	2	
ARC２	物理学実験	1	1	4	
ARC２	情報処理演習	2	1	2	
ARC２	建築ＣＡＤ演習Ⅱ	2	1	2	
ARC２	近代建築史	2	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
ARC２	住居計画	2	1	2	2
ARC２	建築構造解析学	2	1	2	
ARC２	建築仕上材料学	2	1	2	
ARC２	建築数値計算基礎	2	1	2	
ARC３	知的財産権法	2	1	2	3
ARC３	建築計画Ⅲ	2	1	2	
ARC３	都市計画Ⅱ	2	1	2	
ARC３	ランドスケープデザイン	2	1	2	
ARC３	建築法規	2	1	2	
ARC３	建築設計製図Ⅳ	3	1	6	
ARC３	建築史演習	4	1	4	
ARC３	都市・地域調査実習	3	1	6	
ARC３	建築設計製図Ⅴ	3	1	6	
ARC３	建築保存再生	2	1	2	
ARC３	建築生産	2	1	2	
ARC３	建築施工法	2	1	2	
ARC３	鉄筋コンクリート構造学Ⅱ	2	1	2	
ARC３	鉄筋コンクリート構造演習	4	1	4	
ARC３	鉄骨構造学Ⅱ	2	1	2	
ARC３	鉄骨構造演習	4	1	4	
ARC３	構造・材料試験演習	4	1	4	
ARC３	建築振動学	2	1	2	
ARC３	建築基礎工学	2	1	2	
ARC３	木造構造学	2	1	2	
ARC３	木造構造実習	2	1	6	
ARC３	建築環境･設備デザイン	2	1	2	
ARC３	建築設備工学Ⅰ	2	1	2	
ARC３	建築設備工学Ⅱ	2	1	2	
ARC３	建築環境工学演習Ⅰ	4	1	4	
ARC３	建築環境工学演習Ⅱ	4	1	4	
ARC３	建築シミュレーション演習	2	1	2	
ARC４	測量学実習	2	1	4	4
ARC４	建築設計製図Ⅵ	3	1	6	
ARC１	滞在型交流ワークキャンプ(各テーマ)	2	1	4	1~4
ARC１	海外体験研修(各プログラム)	2	1	4	
ARC１	寄附講座（各テーマ）	2	1	2	
ARC２	地域再生（各テーマ）	2	1	2	2~4

卒業所要単位について

1　専門教育科目については、必修科目52単位及び選択科目44単位以上を含めて、合計96単位以上を修得しなければなりません。

2　都市システム工学科またはエネルギー環境・化学工学科配当の専門教育科目を修得した場合は、８単位を限度に専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。

なお、履修条件等の詳細については、当該科目の配当学科の指定によります。

都市システム工学科　卒業に必要な単位数及び授業科目一覧

1　卒業要件

環境都市工学部都市システム工学科に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、所定の単位数を修得していること。

2　「特別研究Ⅰ・Ⅱ」の履修について

４年次配当の「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を履修するには、６学期以上在学し、履修する前学期末までに次の要件を満たしていなければなりません。

⑴　卒業所要単位数（128単位）のうち、110単位以上を修得していること。

⑵　卒業に必要な共通教養科目、外国語科目及び１・２年次配当の専門教育科目の必修科目のうち、未修得科目及び単位が３科目８単位以内であること。

⑶　「特別研究Ⅱ」を履修するには、「特別研究Ⅰ」を修得していること。

卒業所要単位

<table>
<tr><th rowspan="3">区分</th><th rowspan="3">コース</th><th colspan="9">共通教養科目</th><th colspan="2">外国語科目</th><th colspan="2">専門教育科目</th><th rowspan="3">合計</th></tr>
<tr><th colspan="3">自己形成科目群</th><th rowspan="2">グローバル科目群</th><th rowspan="2">関西大学科目群</th><th rowspan="2">基盤科目群</th><th rowspan="2">健康・スポーツ科目群</th><th rowspan="2">キャリア形成科目群</th><th rowspan="2">大学・学部・社会連携科目群</th><th rowspan="2">第１選択外国語</th><th rowspan="2">第２選択外国語</th><th rowspan="2">必修科目</th><th rowspan="2">選択科目</th></tr>
<tr><th>人間を知る</th><th>社会を知る</th><th>自然と向き合う</th></tr>
<tr><td rowspan="3">単位数</td><td>都市インフラ設計</td><td colspan="3" rowspan="2">２つ以上の領域からそれぞれ２以上＊</td><td rowspan="2">２以内</td><td colspan="6" rowspan="2">２以内</td><td rowspan="2">8</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">38</td><td rowspan="2">58</td><td rowspan="3">128</td></tr>
<tr><td>社会システム計画</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">指定科目12単位以上(※)</td><td colspan="6">20</td><td colspan="2">12</td><td colspan="2">96</td></tr>
</table>

＊各領域の必要単位については、指定科目から修得したものを含む。

共通教養科目

卒業所要単位について

⑴　自己形成科目群には、学科で設定する「指定科目」があります。「指定科目」は12単位を修得しなければなりません。

⑵　（※）学科で設定する「指定科目」を、12単位を超えて修得した単位は、専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。なお、「指定科目」の12単位を超えて修得した単位は、共通教養科目の卒業所要単位に含めることはできません。

⑶　自己形成科目群について、「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」のうち、２つ以上の領域からそれぞれ２単位以上修得しなければなりません。

なお、２つ以上の領域の必要単位については、「指定科目」から修得したものを含めることができます。

⑷　グローバル科目群については２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑸　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群及び大学・学部・社会連携科目群の科目については合計２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑹　上記⑴～⑸を踏まえたうえで、「指定科目」12単位に加え、「指定科目」以外の共通教養科目から８単位の合計20単位を修得しなければなりません。

共通教養科目　自己形成科目群「指定科目」

科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次	科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1102	物理を学ぶ(力学Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分演習Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1102	物理を学ぶ(電磁気学Ⅰ)	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅱ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	1	GEB1104	化学を学ぶ(基礎化学)	自然と向き合う		2	1	2	1
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分演習Ⅱ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1111	地球の科学	自然と向き合う		2	1	2	

◎印の科目は必修科目で、すべて修得しなければなりません。

専門教育科目（都市インフラ設計コース、社会システム計画コース）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
（必修科目）					
〔各コース共通〕					
CES1	線形代数Ⅰ	2	1	2	1
CES1	都市システム工学概論	2	1	2	
CES1	情報活用実習	2	1	4	
CES1	デザイン実習	2	1	4	
CES2	応用解析学	2	1	2	2
CES2	基礎プログラミング実習	2	1	4	
CES2	応用プログラミング実習	2	1	4	
CES2	技術者倫理	2	1	2	
CES3	都市システムモデリング	2	1	2	3
CES3	都市システム工学セミナー	2	1	2	
CES4	特別研究Ⅰ	3	1	—	4
CES4	特別研究Ⅱ	3	1	—	
〔都市インフラ設計コース〕					
CES3	不静定構造力学	2	1	2	3
CES3	応用水理学	2	1	2	
CES3	応用地盤力学	2	1	2	
CES3	メンテナンス工学	2	1	2	
CES3	インフラ工学実験	2	1	6	
CES3	都市インフラ設計実習	2	1	4	
〔社会システム計画コース〕					
CES3	応用社会計画	2	1	2	3
CES3	環境計画学	2	1	2	
CES3	都市情報システム	2	1	2	
CES3	信頼性工学	2	1	2	
CES3	システム開発実習	2	1	4	
CES3	社会システム計画実習	2	1	4	
（選択科目）					
〔各コース共通〕					
CES1	線形代数Ⅱ	2	1	2	1
CES1	コンピュータ科学Ⅰ	2	1	2	
CES2	統計モデル分析	2	1	2	2
CES2	確率モデル分析	2	1	2	
CES2	数値解析	2	1	2	
CES2	静定構造力学	2	1	2	
CES2	静定構造力学演習	2	1	2	
CES2	インフラ設計学	2	1	2	
CES2	水理学	2	1	2	
CES2	水理学演習	2	1	2	
CES2	地盤力学	2	1	2	
CES2	地盤力学演習	2	1	2	
CES2	社会計画	2	1	2	
CES2	社会計画演習	2	1	2	
CES2	都市地域計画	2	1	2	2
CES2	測量学	2	1	2	
CES2	応用測量学	2	1	2	
CES2	測量学実習	3	1	6	
CES2	建設材料学	2	1	2	
CES2	環境工学	2	1	2	
CES2	情報システム学	2	1	2	
CES2	情報ネットワーク論Ⅰ	2	1	2	
CES2	知的財産権法	2	1	2	
CES3	鋼構造学	2	1	2	3
CES3	耐震工学	2	1	2	
CES3	河川工学	2	1	2	
CES3	海岸工学	2	1	2	
CES3	地盤設計学	2	1	2	
CES3	都市交通システム	2	1	2	
CES3	都市システム計画	2	1	2	
CES3	景観デザイン	2	1	2	
CES3	社会意思決定論	2	1	2	
CES3	RC構造学	2	1	2	
CES3	プロジェクト・マネジメント	2	1	2	
CES3	アセットマネジメント	2	1	2	
CES3	環境工学演習	2	1	2	
CES3	地球環境システム	2	1	2	
CES3	情報の数理	2	1	2	
CES3	コンピュータ科学Ⅱ	2	1	2	
CES3	データマイニング	2	1	2	
CES3	情報メディアシステム	2	1	2	
CES3	情報ネットワーク論Ⅱ	2	1	2	
CES3	最適化分析	2	1	2	
CES3	技術英語	1	1	2	
CES1	海外体験研修(各プログラム)	2	1	4	1~4
CES1	寄付講座（各テーマ）	2	1	2	
CES2	地域再生（各テーマ）	2	1	2	2~4
〔都市インフラ設計コース〕					
CES3	応用社会計画	2	1	2	3
CES3	環境計画学	2	1	2	
CES3	都市情報システム	2	1	2	
CES3	信頼性工学	2	1	2	
〔社会システム計画コース〕					
CES3	不静定構造力学	2	1	2	3
CES3	応用水理学	2	1	2	
CES3	応用地盤力学	2	1	2	
CES3	メンテナンス工学	2	1	2	

卒業所要単位について

都市インフラ設計コース及び社会システム計画コースは、次に従って96単位以上を修得しなければなりません。

(1)　必修科目　所属するコースから38単位

(2)　選択科目　所属するコースから58単位以上

エネルギー環境・化学工学科　卒業に必要な単位数及び授業科目一覧

1　卒業要件

環境都市工学部エネルギー環境・化学工学科に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、所定の単位数を修得していること。

2　実験科目の履修条件について

「分析化学実験」「物理化学実験」「化学工学実験」及び「有機化学実験」を履修するには、履修する前学期末までに次の要件を具備していなければなりません。

⑴　２年次配当の「分析化学実験」及び「物理化学実験」を履修するには、１年次配当の「化学実験」を修得していること。

⑵　３年次配当の「化学工学実験」及び「有機化学実験」を履修するには、２年次配当の「分析化学実験」及び「物理化学実験」を修得していること。

3　「特別研究Ⅰ・Ⅱ」の履修について

４年次配当の「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を履修するには、６学期以上在学し、履修する前学期末までに次の要件を満たしていなければなりません。

⑴　卒業所要単位数（128単位）のうち、110単位以上を修得していること。

⑵　卒業に必要な共通教養科目、外国語科目及び１～３年次配当の専門教育科目の必修科目のうち、未修得科目及び単位が４科目８単位以内であること。

⑶　卒業に必要な選択必修科目のうち、24単位以上を修得していること。

⑷　「化学工学実験」、「有機化学実験」を修得していること。

⑸　「特別研究Ⅱ」を履修するには、「特別研究Ⅰ」を修得していること。

卒業所要単位

<table>
<tr><th rowspan="3">区分</th><th colspan="9">共通教養科目</th><th colspan="2">外国語科目</th><th colspan="3">専門教育科目</th><th rowspan="3">合計</th></tr>
<tr><th colspan="3">自己形成科目群</th><th rowspan="2">グローバル科目群</th><th rowspan="2">関西大学科目群</th><th rowspan="2">基盤科目群</th><th rowspan="2">健康・スポーツ科目群</th><th rowspan="2">キャリア形成科目群</th><th rowspan="2">大学・学部・社会連携科目群</th><th rowspan="2">第１選択外国語</th><th rowspan="2">第２選択外国語</th><th rowspan="2">必修科目</th><th rowspan="2">選択必修科目</th><th rowspan="2">選択科目</th></tr>
<tr><th>人間を知る</th><th>社会を知る</th><th>自然と向き合う</th></tr>
<tr><td rowspan="2">単位数</td><td colspan="3">２つ以上の領域からそれぞれ２以上＊
指定科目12単位以上（※）</td><td>２以内</td><td colspan="6">２以内</td><td>8</td><td>4</td><td>53</td><td>30以上</td><td>任意選択</td><td rowspan="2">128</td></tr>
<tr><td colspan="9">20</td><td colspan="2">12</td><td colspan="3">96</td></tr>
</table>

＊各領域の必要単位については、指定科目から修得したものを含む。

共通教養科目

卒業所要単位について

⑴　自己形成科目群には、学科で設定する「指定科目」があります。「指定科目」は12単位を修得しなければなりません。

⑵　（※）学科で設定する「指定科目」を、12単位を超えて修得した単位は、専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。なお、「指定科目」の12単位を超えて修得した単位は、共通教養科目の卒業所要単位に含めることはできません。

⑶　自己形成科目群について、「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」のうち、２つ以上の領域からそれぞれ２単位以上修得しなければなりません。

なお、２つ以上の領域の必要単位については、「指定科目」から修得したものを含めることができます。

⑷　グローバル科目群については２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑸　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群及び大学・学部・社会連携科目群の科目については合計２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑹　上記⑴～⑸を踏まえたうえで、「指定科目」12単位に加え、「指定科目」以外の共通教養科目から８単位の合計20単位を修得しなければなりません。

共通教養科目　自己形成科目群「指定科目」

科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次	科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	1	GEB1102	物理を学ぶ(力学Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2	1
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分演習Ⅰ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1102	物理を学ぶ(電磁気学Ⅰ)	自然と向き合う		2	1	2	
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分Ⅱ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1104	化学を学ぶ(基礎化学)	自然と向き合う	◎	2	1	2	
GEB1101	数学を学ぶ(微分積分演習Ⅱ)	自然と向き合う	◎	2	1	2		GEB1071	基礎からの情報処理	社会を知る		2	1	2	

◎印の科目は必修科目で、すべて修得しなければなりません。

専門教育科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
（必修科目）					
CEE１	線形代数Ⅰ	2	1	2	1
CEE１	線形代数Ⅱ	2	1	2	
CEE１	化学実験	1	1	4	
CEE１	入門化学結合論	2	1	2	
CEE１	化学工学量論及び演習	2	1	2	
CEE１	プロセス量論及び演習	2	1	2	
CEE２	数学解析Ⅰ	2	1	2	2
CEE２	分析化学実験	2	1	6	
CEE２	物理化学実験	2	1	6	
CEE２	有機化学	2	1	2	
CEE２	応用有機化学	2	1	2	
CEE２	ユニットオペレーションⅠ	2	1	2	
CEE２	ユニットオペレーションⅡ	2	1	2	
CEE２	物理化学Ⅰ	2	1	2	
CEE２	物理化学Ⅱ	2	1	2	
CEE２	物理化学Ⅲ	2	1	2	
CEE２	反応工学	2	1	2	
CEE２	プロセス数理	2	1	2	
CEE２	工業製図	2	1	4	
CEE３	外国書講読Ⅰ	1	1	2	3
CEE３	外国書講読Ⅱ	1	1	2	
CEE３	化学工学実験	4	1	12	
CEE３	有機化学実験	4	1	12	
CEE４	特別研究Ⅰ	3	1	—	4
CEE４	特別研究Ⅱ	3	1	—	
（選択必修科目）					
CEE２	基礎分析化学	2	1	2	2
CEE２	物理化学演習	2	1	2	
CEE２	ユニットオペレーション演習Ⅰ	2	1	2	
CEE３	基礎分離工学	2	1	2	3
CEE３	応用反応工学	2	1	2	
CEE３	粉体工学	2	1	2	
CEE３	プロセス最適化工学	2	1	2	
CEE３	プロセス制御工学	2	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
CEE３	有機化学反応論	2	1	2	3
CEE３	応用界面工学	2	1	2	
CEE３	電気エネルギー化学	2	1	2	
CEE３	環境熱工学	2	1	2	
CEE３	触媒化学工学	2	1	2	
CEE３	大気・水環境化学工学	2	1	2	
CEE３	化学プラント設計	2	1	2	
CEE３	化学技術の安全と倫理	2	1	2	
CEE３	流体工学	2	1	2	
CEE３	ユニットオペレーション演習Ⅱ	2	1	2	
（選択科目）					
CEE１	情報処理演習	2	1	2	1
CEE１	入門エネルギー環境学	2	1	2	
CEE１	フレッシュマンゼミナール	2	1	2	
CEE１	無機化学	2	1	2	
CEE１	物理学実験	1	1	4	
CEE２	図学	2	1	2	2
CEE２	基礎化学英語	1	1	2	
CEE２	機器分析化学	2	1	2	
CEE２	熱・統計力学	2	1	2	
CEE３	シミュレーション演習	2	1	2	3
CEE３	※エネルギー工学ディスカッション	2	1	2	
CEE３	未来エネルギー工学	2	1	2	
CEE３	機能性材料学	2	1	2	
CEE３	高度分離工学	2	1	2	
CEE３	エネルギー材料学	2	1	2	
CEE３	特別講義Ⅰ	2	1	2	
CEE３	特別講義Ⅱ	2	1	2	
CEE４	知的財産権法	2	1	2	4
CEE４	品質管理	2	1	2	
CEE４	グリーンケミストリー	2	1	2	
CEE４	技術者ビジネス法	2	1	2	
CEE１	寄附講座（各テーマ）	2	1	2	1~4
CEE２	※地域再生（各テーマ）	2	1	2	2~4

卒業所要単位について

1　専門教育科目について、必修科目53単位及び選択必修科目30単位以上を含めて、合計96単位以上を修得しなければなりません。

2　「エネルギー工学ディスカッション」と「地域再生（各テーマ）」をいずれも修得した場合は、2単位を限度に卒業所要単位に算入されます。

［科目番号について］

本学では、科目の特性・配当年次を示すため、各科目に科目番号を付与しています。

〈共通教養科目〉

アルファベット３桁で「共通教養科目」と「群」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。また、共通教養科目のうちグローバル科目群の留学準備スキルアップ科目及びグローバル・フロンティア科目は、配当年次に代えて外部テストによる難易度を示しています。

GE（種別）　A（群）　1（配当年次（難易度））　000（連番）

種別　共通教養科目はすべてGE

群

A	関西大学科目群
B	基盤科目群
C	自己形成科目群
D	健康・スポーツ科目群
E	キャリア形成科目群
F	グローバル科目群
G	大学・学部・社会連携科目群

難易度（受講には各レベルの英語運用能力が必要です）

番号	レベル
1	GTECテスト180点未満 TOEFL ITP®Test430点未満 TOEFL iBT®Test40点未満 TOEIC®L&RTest375点未満 英語検定準２級未満
2	GTECテスト180点以上260点未満 TOEFL ITP®Test430点以上505点未満 TOEFL iBT®Test40点以上60点未満 TOEIC®L&RTest375点以上580点未満 英語検定準２級及び２級
3	GTECテスト260点以上 TOEFL ITP®Test505点以上 TOEFL iBT®Test60点以上 TOEIC®L&RTest580点以上 英語検定準１級及び１級

〈外国語科目〉

アルファベット３桁で「外国語科目」と「語種」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。

GF（種別）　E（群）　1（配当年次）　000（連番）

種別　外国語科目はすべてGF

語種

E	英語
G	ドイツ語
F	フランス語
R	ロシア語
S	スペイン語
C	中国語
K	朝鮮語
O	検定認定：Official-Test Accreditation

〈外国人留学生科目〉

アルファベット３桁で「外国人留学生科目」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。

FOS（種別）　1（配当年次）　000（連番）

種別　外国人留学生科目はすべてFOS

〈専門教育科目〉

学科を示すアルファベット３桁、配当年次を示す１桁で構成されています。

EUE（学部）　1（配当年次）

学科コード　ＡＲＣ：建築学科
ＣＥＳ：都市システム工学科
ＣＥＥ：エネルギー環境・化学工学科
ＥＵＥ：（学科共通科目）

化学生命工学部

化学生命工学部には、化学・物質工学科（マテリアル科学コース、応用化学コース、バイオ分子化学コース）、生命・生物工学科（生命科学コース、生物工学コース）の２学科があります。

Ⅰ　教育に関する三つの方針

卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

化学生命工学部では、本教育プログラムにおける所定の教育課程を修めたうえで、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を身につけた者に対して学士（工学）の学位を授与します。

1　（知識・技能）

幅広い教養と基礎的な外国語運用能力に加えて、化学生命工学における専門分野の基礎知識・応用能力及び運用能力を修得し、それらを総合的に活用することができる。

2　（思考力・判断力・表現力等の能力）

周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりながら、グローバルな視点から「考動力」を発揮して社会に貢献することができる。

3　（主体的な態度）

特別研究Ⅰ・Ⅱを始めとした科目の修得で培われた自らの学びを継続的に発展させる意思を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

化学生命工学部（以下、「本学部」という）では、学位授与の方針に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を修得できるように、以下の点を踏まえて、共通教養科目、専門教育科目及びその他必要な科目を体系的に編成した教育課程を構築します。

1　教育内容

⑴　教養教育

ア　社会で活躍するために基盤科目群や自己形成科目群などの科目の履修を通じて必要な幅広い教養と柔軟な思考を培う。

イ　理工系の基礎であり根幹となる数学・物理学・化学・生物学などについて中等教育での学びから高等教育での学びへと誘うことにより、各専門分野への興味を醸成するとともに、「積極的な学びの姿勢」を培う。

ウ　習熟度編成による英語教育（英語１ａ（初級）・(中級)・(上級)、英語１ｂ（初級）・(中級)・(上級)、英語２ａ（初級）・(中級)・(上級)、英語２ｂ（初級）・(中級)・(上級）など）により、異文化を理解し、異なる意見を持つ人々の立場に立って考えることができる能力、及び外国語によるコミュニケーション力を培う。

⑵　専門教育

ア　講義と演習・実験・実習とを体系的に組み合わせて、専門的知識・技術を有機的に修得させることを目指す。

イ　初年次においては、様々な学習履歴を持った学生に本学部への学びの転換を促す導入・入門科目として「フレッシュマンゼミナール」を準備し、学問分野を横断した「考動力」の基礎を育成する。

ウ　上位年次においては、学生一人ひとりの学問研究を促進するために講義と演習とを有機的に一体化させた科目や専門に特化した実習・演習科目などの少人数教育を中心とした学問の本質に接する場を提供し、さらに進化した「考動力」を育成する。

2　教育評価

⑴　知識・技術の修得度に関しては、各種の達成度調査、学生インタビュー、総合GPAの分析を組み合わせて把握する。

⑵「考動力」に集約される思考力・判断力・表現力等の能力の評価に関しては、特別研究１・２などの総合的学習プログラムでの活動とその成果の解析に基づいて行う。

⑶　主体的に学びに取り組む態度に関しては、授業評価アンケート等の学生調査の集計結果を解析することによって把握する。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

化学生命工学部では、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づく教育を受けることのできる者として、様々な入試制度を通じて、次に掲げる知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な態度を備えた者を広く受け入れます。

1　高等学校の教育課程を通じて、理科系科目（数学・物理学・化学・生物学）の基礎的知識と技能に加えて、「国語」「英語」さらに「社会」の基礎的な知識・技能を幅広く習得している。

2　高等学校の正課及び正課外での学習を通じて、柔軟な思考力、旺盛な知的好奇心、社会に貢献しようとする高い目的意識など、「考動力」の基盤を培っている。

3　「ものづくり」に必要な「化学・生物学・数学・物理学」を基礎とする学問領域を主体的に学んでいく強い意欲を持っている。

Ⅱ　教育課程について

授業科目の構成

化学生命工学部の授業科目は、共通教養科目、外国語科目及び専門教育科目に大別されます。

1　共通教養科目は、関西大学科目群、基盤科目群、自己形成科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群、グローバル科目群及び大学・学部・社会連携科目群の７つの科目群で構成されています。なお、共通教養科目の詳細については別に掲載する「共通教養科目について」を確認してください。

2　外国語科目は、次の科目で構成されています。

⑴　英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語の各々Ⅰａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂ、Ⅲａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂ、Ⅴａ、Ⅴｂ、Ⅵａ、Ⅵｂ

⑵　海外特別研修（各プログラム）

⑶　外国語検定科目

検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）、検定認定３（各検定試験）

3　専門教育科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目及び自由科目に分かれます。

上記のほか、外国人留学生のために外国人留学生科目があります。

授業科目の詳細は、「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）のとおりです。

Ⅲ　卒業所要単位について

卒業所要単位の内訳

化学生命工学部に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、128単位以上を修得した者に卒業を認め、卒業者には学士（工学）の学位が与えられます。

128単位の内訳は、次のとおりです。

１　共通教養科目（20単位）

共通教養科目については、以下の通り修得しなければなりません。

⑴　自己形成科目群「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」のうち、２つ以上の領域からそれぞれ２単位以上修得しなければなりません。

なお、２つ以上の領域の必要単位については、各学科で設定する「指定科目」から修得したものを含みます。

⑵　自己形成科目群には、各学科で設定する「指定科目」があります。「指定科目」は12単位以上を修得しなければなりません。

なお、12単位を超過して修得した単位の取扱いは、学科によって異なりますので、各学科の「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）を参照してください。

⑶　グローバル科目群については２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

ただし、「海外研修（各セミナー）」及び「外国語運用実習（各セミナー）」を修得した場合、その単位は共通教養科目の卒業所要単位に含めることはできません。「２　外国語科目」（後掲）を参照してください。

⑷　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群及び大学・学部・社会連携科目群の科目については合計２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

２　外国語科目（12単位）

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語のうち、英語を含む２つの外国語を第１選択外国語、第２選択外国語として修得しなければなりません。

ただし、外国語科目は２か国語しか履修・修得することはできません。

なお、外国語科目の所定の単位数を超過して修得した単位は卒業所要単位に含めることはできません。

⑴　第１選択外国語は、Ⅰａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂ、Ⅲａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂの計８単位を修得しなければなりません。

なお、Ⅴａ、Ⅴｂ、Ⅵａ、Ⅵｂは、これらを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

⑵　第２選択外国語は、第１選択外国語以外の外国語（第１選択外国語が英語以外の場合は英語）を選択し、〔Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ〕〔Ⅲａ・Ⅲｂ・Ⅳａ・Ⅳｂ〕〔Ⅴａ・Ⅴｂ・Ⅵａ・Ⅵｂ〕のいずれかの組合せで計４単位を修得しなければなりません。

⑶　英語の単位の取り扱いについて

①　英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの単位を修得していない場合、外国語検定認定制度により英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂとして単位の認定を行うことができます（詳細は277ページ参照）。

②　英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの８単位を修得したうえで、さらに検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）、検定認定３（各検定試験）を修得した場合は、合計６単位まで外国語科目の単位に含めることができます。

③　共通教養科目グローバル科目群の海外研修（各セミナー）を修得した場合は、２セミナー４単位まで英語の卒業所要単位に含めることができます。

④　共通教養科目グローバル科目群の外国語運用実習（各セミナー）を修得した場合は、２セミナー２単位まで英語の卒業所要単位に含めることができます。

⑤　前述の①～④を合わせて卒業所要単位に含めることのできる単位数は、６単位（第２選択外国語とした場合は４単位）を限度とします。

⑷　英語以外の単位の取り扱いについて

①　検定認定１（各検定試験）、検定認定２（各検定試験）を修得した場合は、各４単位まで当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

②　共通教養科目グローバル科目群の海外研修（各セミナー）を修得した場合は、２セミナー４単位まで当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

③　海外特別研修（各プログラム）を修得した場合は、４単位まで当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

④　前述の①～③を合わせて卒業所要単位に含めることのできる単位数は、４単位を限度とします。

3　専門教育科目（96単位）

専門教育科目は、各学科の定める条件に従って96単位以上修得しなければなりません。詳細については、「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）を参照してください。ただし、自由科目は修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

外国人留学生

1　外国人留学生における外国語科目は、日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの計８単位を修得しなければなりません。また、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語のうちから１か国語（日常使用語を除く）を選択し、その外国語のⅠａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂの計４単位を修得しなければなりません。

2　その他、外国語科目の取扱いについては、前述「２　外国語科目⑶～⑷」のとおりとします。

3　外国人留学生科目の選択科目を修得した場合、共通教養科目の卒業所要単位に含めることができます。

4　外国人留学生科目の自由科目を履修した場合、履修制限単位に含めますが、これを修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

編・転入学生

２・３年次に編・転入学した者で共通教養科目、外国語科目が学部の所定の単位に満たない者は、学部長の指示する不足単位を修得しなければなりません。

Ⅳ　履修・修得について特に注意すべき事項

履修制限単位

履修制限単位は、次のとおりとします。

<table>
<tr><td rowspan="2">１年次</td><td>春学期</td><td rowspan="8">年間50単位未満</td></tr>
<tr><td>秋学期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２年次</td><td>春学期</td></tr>
<tr><td>秋学期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３年次</td><td>春学期</td></tr>
<tr><td>秋学期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">４年次</td><td>春学期</td></tr>
<tr><td>秋学期</td></tr>
</table>

通年科目を履修した場合は、当該科目の単位数の２分の１の単位数を、春学期と秋学期それぞれの履修単位に算入するものとします。

なお、次の科目は履修制限単位に含めません。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習Ａ・Ｂ・Ｃ
検定認定１・２・３（各検定試験）	海外特別研修（各プログラム）
海外体験研修（各プログラム）	

科目履修の配当年次

配当年次は、当該年次以上において履修できることを示していますので、履修する科目は、当該年次及び下位年次の配当科目のうちから選択しなければなりません。

なお、第２選択外国語について、上位年次配当科目の受講を希望する者は、あらかじめ申込手続を行い、許可された場合のみ履修することができます。

４年次生の履修単位

４年次生においては、在学８学期目には１科目以上の履修をしなければなりません。

共通教養科目の履修

共通教養科目の履修については、次の点に注意してください。

1　共通教養科目の概要については、「共通教養科目について」（後掲）を参照してください。ただし、化学生命工学部で履修・修得できる授業科目は「授業科目一覧表」（後掲）のとおりです。学科ごとに「指定科目」がありますので、留意してください。

2　特に指定された科目を除き、同一年度の春学期及び秋学期に同じ授業科目を二度履修することはできません。

3　クラス指定のある科目については、指定されたクラスで受講してください。また、定員制等のため事前登録が必要な科目、履修者数が一定以上に達した場合に事後抽選を行う科目があります。詳細はインフォメーションシステムで確認してください。

4　次の科目は履修制限単位に含めません。それぞれ該当のプログラムに応募のうえ参加許可を受けることをもって、履修登録に代えます。

インターンシップ（ビジネス）	インターンシップ（学校１・２・３）
KUGF Field Study（各プログラム）	海外研修（各セミナー）
外国語運用実習（各セミナー）	国際協力ボランティア実習Ａ・Ｂ・Ｃ

共通教養科目の配当外科目の履修

所属する学科に配当されていない共通教養科目の履修を希望する場合、所定の手続を経て、許可された場合のみ、各年次の履修制限単位の範囲内で履修することができます。

なお、その科目を修得しても、卒業所要単位に含めることはできません。

外国語科目の履修

1　卒業所要単位に含める外国語科目は、当該科目を履修する初年度において、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵのそれぞれａ・ｂをセットで履修登録することを原則とします。ただし、英語Ⅴａ・ｂ(各テーマ)、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、各テーマを複数科目履修することができ、かつ、ａ・ｂセット履修の必要はありません。

2　英語Ⅰａ・Ⅰｂ、Ⅱａ・Ⅱｂ、Ⅲａ・Ⅲｂ、Ⅳａ・Ⅳｂの履修に際しては、原則として事前にプレースメントテストを受験しなければなりません。

なお、受験に関する詳細については、インフォメーションシステム等により指示します。

3　３年次配当の英語Ⅴａ・ｂ（各テーマ)、英語Ⅵａ・ｂ（各テーマ）については、一定の条件を付して下位年次生の履修を認めています。履修希望者は所定の受付期間中に必要な手続きを行ってください。

外国語科目の選択パターンの変更

外国語科目の第１選択・第２選択の選択パターンの変更は、１年次の所定の届出期間中に届け出なければなりません。日程については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

なお、決定後の変更はできません。

英語以外の外国語の履修要件

英語以外の外国語のⅢａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂは、その外国語のＩｂ、Ⅱｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ｉａ、Ｉｂ、Ⅱａ、Ⅱｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。また、英語以外の外国語のＶａ、Ｖｂ、Ⅵａ、ⅥｂはそのⅢｂ、Ⅳｂのうちのいずれか１科目を含めて、Ⅲａ、Ⅲｂ、Ⅳａ、Ⅳｂから２科目以上を修得していなければ履修することはできません。

コース選択・登録

化学・物質工学科及び生命・生物工学科においては､次のとおりコース選択を行わなければなりません｡コース選択手続及び登録方法等の詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

1　化学・物質工学科

１年次の秋学期にコース選択手続を行い、２年次の春学期に許可されたコースを登録しなければなりません。

2　生命・生物工学科

２年次の秋学期にコース選択手続を行い、３年次の春学期に許可されたコースを登録しなければなりません。

化学・物質工学科　他コース配当専門教育科目の履修について

３年次生以上で、次に記載の他コース（所属外コース）配当専門教育科目の履修を希望する場合は、所定の手続きを経て、許可された場合のみ、履修を許可します。

なお、修得した単位については、専門教育科目の選択科目の卒業所要単位に算入することができます。

〔科目一覧〕

マテリアル科学コース	「結晶構造とＸ線回折」､「固体の物理的性質」
応用化学コース	「有機工業化学」､「エネルギー化学」
バイオ分子化学コース	「生体分子化学Ⅰ」､「生体分子化学Ⅱ」

化学生命工学部　他学科配当科目の履修

化学生命工学部の他学科配当の専門教育科目の履修を希望する場合は、所定の手続を経て、許可された場合のみ、履修を許可します。

なお、履修要件は以下のとおりです。

1　履修年次等の履修条件は、当該科目配当学科の指定によります。
2　配当外科目として取り扱います。
3　修得した単位については、卒業所要単位に含めることはできません。
4　原則として実験・実習、製図科目は履修できません。
5　自由科目及び配当外科目の履修制限単位（年間20単位以内）に含まれます。

専門教育科目の自由科目、配当外科目（各種資格取得に必要な他学部配当科目）の履修

1　自由科目及び配当外科目の履修制限単位は、春学期・秋学期を通じて20単位以内です。
ただし、教育実習事前指導１単位、教育実習㈠２単位、教育実習㈡２単位はこの20単位には含めません。
2　他学部配当の授業科目は、所定の手続を経て、許可された場合のみ、履修を許可します。
3　自由科目については、当該科目の配当年次以上の年次でなければ履修することはできません。また、他学部配当の科目については、当該学部の指定する年次以上でなければ履修することはできません。

特別研究の配属

1　特別研究Ⅰ・Ⅱについては、履修要件を満たした者に対し、秋学期末（３月）に各研究室への配属を決定します。
2　ガイダンス等、配属に伴う行事の詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

学際グローバルプログラム

学際グローバルプログラムは、グローバル科目群など留学準備のための講義科目や海外体験研修等を一体的に履修し、理工系海外大学へ短・中期留学することで、専門性、国際性、学際性をあわせもつ理工系グローバル人材を育成することを目的としています。その他学際グローバルプログラムに関する詳細は、インフォメーションシステムまたはガイダンスでお知らせします。なお、学際グローバルプログラムの修了者には、修了証を授与します。

関西大学大学院理工学研究科の授業科目の履修

関西大学大学院理工学研究科への強い進学意欲をもつ成績優秀な学部生に対して、より高度な視野に立つ勉学の機会を与えるとともに、大学院進学後は、本制度により修得した単位を一定の条件のもとで、博士課程前期課程の修了所要単位に算入することにより、大学院での研究活動に充てる時間をより多く確保し、高等技術者の育成に有利な環境を提供することを目的としています。

大学院授業科目の履修資格、履修制限単位、修得単位の取扱い等の概要は次のとおりです。

なお、詳細についてはインフォメーションシステム等によりお知らせします。

1　履修資格

「特別研究Ⅰ」の履修資格を有し、かつ各学科が定めた成績を修め、所定の手続を経て、許可された者に限り履修することができます。

2　履修制限単位

春学期・秋学期合わせて５科目10単位まで履修することができます。

また、この履修単位数は、自由科目及び配当外科目の履修制限単位（年間20単位以内）に含まれます。

3　修得単位の取扱い

修得した単位については、卒業所要単位に含めることはできません。

ただし、関西大学大学院理工学研究科に進学した場合は、所定の手続を経て許可された者に限り、博士課程前期課程の修了所要単位に含めることができます。

授業科目一覧表

1　共通教養科目

《関西大学科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	関西大学を知る				
GEA1001	日本の近現代史と関西大学―知の群像	1	2	1	2
GEA1002	吹田市と関西大学	1	2	1	2
GEA1003	学生生活とリスク	1	2	1	2
	戦略トピックス				
GEA1004	SDGs入門	1	2	1	2
GEA1005	SDGsの実践	1	2	1	2
GEA1006	金融の実務から見るSDGs	1	2	1	2
GEA1007	環境問題と環境政策のルーツ	1	2	1	2
GEA1008	活用法を見聞するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1009	活用法を体験するAI・データサイエンス	1	2	1	2
GEA1010	起業に学ぶ「考動力」入門（関大出身起業家と考える未来の自分）	1	2	1	2
GEA1011	起業に学ぶ「考動力」実践（企業と考える未来のデザイン）	1	2	1	2
GEA2001	社会のためのデータサイエンス実践基礎	2	2	1	2
GEA2002	AI・データエンジニアリング実践基礎	2	2	1	2

《基盤科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEB1001	スタディスキルゼミ（各テーマ）	1	2	1	2
GEB1002	プロジェクト学習１	1	2	1	2
GEB2001	プロジェクト学習２	2	2	1	2

《自己形成科目群》

領域：人間を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1001	こころとからだを哲学する
	GEC1002	文化・社会と心理学
	GEC1003	身体運動の人間学
	GEC1004	ことばと思考
	GEC1005	地図の知恵、地図の思想
	GEC1006	自己と他者
	GEC1007	自己をみつめる
	GEC1008	日本人の宗教観
	GEC1009	美術からみる表現と理解
	GEC1010	入門・新しい部落問題
	GEC1011	現代社会とジェンダー
	GEC1012	現代社会とセクシュアリティ
	GEC1013	生と死の倫理学
	GEC1014	食を知る
	GEC1015	食のリスクマネジメント
	GEC1016	宗教と現代
	GEC1017	新しい人権論への招待
教養を深める（知の見取り図）	GEC1018	哲学を学ぶ
	GEC1019	論理学を学ぶ
	GEC1020	心理学を学ぶ
	GEC1021	宗教学を学ぶ
	GEC1022	イスラーム世界の歴史を学ぶ
	GEC1023	考古学を学ぶ
	GEC1024	日本語を学ぶ
	GEC1025	日本文学を学ぶ
	GEC1026	人文地理学を学ぶ
	GEC1027	地域社会の生活と資源
	GEC1028	芸術学を学ぶ
	GEC1029	人類学入門
教養を深める（知の探求）	GEC1030	日本の古典文学を読む
	GEC1031	日本の近代文学を読む
	GEC1032	わかる諸子百家
	GEC1033	日本の文化と人間を考える
	GEC1034	子供から大人への過程を考える
	GEC1035	社会と個人の心理学
	GEC1036	世界の文学を味わう
	GEC1037	西洋美術を味わう
	GEC1038	日本・東洋美術を味わう
	GEC1039	文化史に親しもう
	GEC1040	アジアの文化と世界遺産
	GEC1041	大学教育論～大学の主人公はきみたちだ！～
チャレンジ科目	GEC1042	各テーマ

【配当年次：１・２・３・４　　単位：２
授業期間：１　　毎週授業時間：２】

領域：社会を知る

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1043	今日の道徳的ディレンマ
	GEC1044	世界の宗教
	GEC1045	環境の倫理学
	GEC1046	企業と社会
	GEC1047	技術と社会
	GEC1048	生活の中の経済学
	GEC1049	メディア・リテラシー入門
	GEC1050	イスラム社会を考える
	GEC1051	日本の伝統文化
	GEC1052	方言学入門
	GEC1053	共生社会のライフデザイン
	GEC1054	日本の社会と生活の歴史
	GEC1055	優良企業の見分け方
	GEC1056	社会学で学ぶ現代社会
	GEC1057	政治学と21世紀社会
	GEC1058	法実務入門
	GEC1059	地域再発見の旅
	GEC1060	旅から始める知の冒険
	GEC1061	移動する人々
	GEC1062	オリンピックの共生思想
	GEC1063	外来文化と日本の歴史
	GEC1064	アジアの中の日本歴史
	GEC1065	世界の中の日本経済
	GEC1066	日本史の中の平和と戦争
	GEC1067	世界史の中の平和と戦争
	GEC1068	読書への誘い
教養を深める（知の見取り図）	GEC1069	倫理学を学ぶ
	GEC1070	法学を学ぶ
	GEC1071	政治学のすすめ
	GEC1072	民俗学を学ぶ
	GEC1073	基礎からのマクロ経済学
	GEC1074	基礎からのミクロ経済学
	GEC1075	社会学入門
	GEC1076	日本国憲法
	GEC1077	基礎からの情報処理
	GEC1078	ビジネスを学ぶ
	GEC1079	日本の歴史を学ぶ
	GEC1080	アジア史を学ぶ
	GEC1081	西洋の歴史を学ぶ
	GEC1082	社会思想史を学ぶ
教養を深める（知の探求）	GEC1083	名作を読む
	GEC1084	哲学の古典を読み解く
	GEC1085	聖典と宗教思想
	GEC1086	近代市民社会思想を知ろう
	GEC1087	労働と雇用を考える
	GEC1088	日本の地域史を考える
	GEC1089	世界の地域文化を知ろう
	GEC1090	少子高齢化社会を考える
	GEC1091	法の社会学
	GEC1092	日本史の中の女性と社会を知ろう
	GEC1093	日本社会の成熟と変動を知ろう
	GEC1094	強い会社のマネジメントを知る
	GEC1095	西洋世界の社会と歴史を考える
	GEC1096	欧米世界の歴史と文化を知ろう
	GEC1097	中国と日本の文化交流
	GEC1098	異文化への理解を深める
	GEC1099	現代都市の生態とエスニシティ
	GEC1100	社会的養育を考える
チャレンジ科目	GEC1101	各テーマ

領域：自然と向き合う

	科目番号	授業科目
日常への洞察	GEC1102	確率・統計でものを考える
	GEC1103	自然災害の科学
	GEC1104	科学と文化
	GEC1105	生物と環境
	GEC1106	人類紀の環境変動
	GEC1107	建築と景観
	GEC1108	エネルギーと環境
	GEC1109	科学と技術
	GEC1110	現代科学の展開
	GEC1111	統計学を学ぶ
教養を深める（知の見取り図）	GEC1112	自然地理学を学ぶ
	GEC1113	自然科学史を学ぶ
	GEC1114	バイオサイエンス入門
	GEC1115	数学を学ぶ（各テーマ）＊
	GEC1116	物理を学ぶ（各テーマ）＊
	GEC1117	物理を学ぶ（演習含）（各テーマ）＊
	GEC1118	化学を学ぶ（各テーマ）＊
	GEC1119	化学を学ぶ（演習含）（各テーマ）＊
教養を深める（知の探求）	GEC1120	仕組みを形にする科学技術
	GEC1121	現代社会を支える電気電子情報技術
	GEC1122	宇宙のすがたと歴史
	GEC1123	近代科学の系譜
	GEC1124	気象と気候を学ぶ
	GEC1125	地球の科学
	GEC1126	地震と火山のメカニズムと防災
チャレンジ科目	GEC1127	各テーマ

＊：履修可能なテーマは学科により異なりますので、各学科の「卒業に必要な単位数及び授業科目一覧」（後掲）を参照してください。

【配当年次：1・2・3・4　　単位：2　　授業期間：1　　毎週授業時間：2】

《健康・スポーツ科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GED1001	健康・スポーツ科学実習a(各種目)	1	1	1	2
GED1002	健康・スポーツ科学実習b(各種目)	1	1	1	2
GED1003	健康・スポーツ科学実習c(各種目)	1	1	1	2
GED1004	健康・スポーツ科学論	1	2	1	2
	(生涯スポーツ・身体運動文化コース)				
GED1005	関西大学スポーツ文化論	1	2	1	2
GED1006	スポーツ運動学概論	1	2	1	2
GED1007	スポーツ社会学概論	1	2	1	2
GED1008	スポーツ心理学概論	1	2	1	2
GED1009	スポーツ栄養学概論	1	2	1	2
GED1010	コーチングの科学	1	2	1	2
GED1011	トレーニング科学概論	1	2	1	2
GED1012	コンディショニング科学概論	1	2	1	2

《キャリア形成科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEE1001	大学生から始めるキャリア形成	1	2	1	2
GEE1002	キャリア形成入門演習	1	2	1	2
GEE2001	理論と実践から探求するキャリア形成	2	2	1	2
GEE2002	現代社会を生き抜くためのキャリア形成	2	2	1	2
GEE2003	キャリア形成実践演習	2	2	1	2
GEE1003	インターンシップ(ビジネス)	1~3	2	1	4
GEE1004	インターンシップ（学校１）	1~4	2	1	4
GEE1005	インターンシップ（学校２）	1~4	2	1	4
GEE1006	インターンシップ（学校３）	1~4	2	1	4

《グローバル科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学準備スキルアップ科目】				
GEF2001	Foundation for Academic English	1~4	2	1	2
GEF1001	Academic Writing Practice	1~4	2	1	2
GEF2002	Academic Discussions & Debates	1~4	2	1	2
GEF2003	Presentation Skills	1~4	2	1	2
GEF2004	留学のための英語スキルアップ	1~4	2	1	2
GEF2005	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2006	TOEFL/IELTSを通した英語学習Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2007	ASEAN Studies	1~4	2	1	2
GEF1002	Understanding Cross-Cultural Communication	1~4	2	1	2
GEF1003	KUGF Independent Study (English Skills Development)	1~4	2	1	2
GEF2008	KUGF Independent Study (Doing a Research in English)	1~4	2	1	2
GEF2009	Global Awareness Ⅰ	1~4	2	1	2
GEF2010	Global Awareness Ⅱ	1~4	2	1	2
GEF2011	English Communication Skills for Business Contexts	1~4	2	1	2
	【グローバル・フロンティア科目】				
	Module 1 . Engineering Approach to Urban Issues				
GEF3001	Disaster Transport Planning	1~4	2	1	2
	Module 2. Food Science & Biotechnology				
GEF3002	Biotechnology and Bioethics	1~4	2	1	2
GEF3003	Marketing of Food, Alcohol and Cosmetics	1~4	2	1	2
GEF3004	Science of Washoku (Japanese Cuisine)	1~4	2	1	2
GEF3005	Food Safety	1~4	2	1	2
GEF3006	Polysaccharide Science	1~4	2	1	2
	Module 3 .International Business & Entrepreneurship				
GEF3007	International Business for Entrepreneurs	1~4	2	1	2
GEF3008	Japanese Industries and Companies (The Global Competition)	1~4	2	1	2
GEF3009	Business & Japanese People	1~4	2	1	2
GEF3010	Marketing in Japan	1~4	2	1	2
GEF3011	Business for SDGs (Sustainable Development Goals)	1~4	2	1	2
	Module 4 . Japan Studies				
GEF3012	Japanese Philosophy and Thoughts	1~4	2	1	2
GEF3013	Japanese Religion	1~4	2	1	2
GEF3014	Japanese Arts	1~4	2	1	2
GEF3015	Japanese History (The History and Culture of Medieval Japan)	1~4	2	1	2
GEF3016	Japanese History (Bushido: The Way of the Warrior)	1~4	2	1	2
GEF3017	Japanese Literature (Survey of Post-1945)	1~4	2	1	2
GEF3018	Japanese Literature (Intro. to Classical JPN Literature)	1~4	2	1	2
GEF3019	Japanese Culture (Modern Culture and Post-war History)	1~4	2	1	2
GEF3020	Japanese Culture (JPN Culture and Contemporary Literature)	1~4	2	1	2
GEF3021	Comparative Asian Cultures Studies	1~4	2	1	2
GEF3022	Japanese Law and Politics	1~4	2	1	2
GEF3023	Japanese Economy (Topics in Japanese Economy and Discussion)	1~4	2	1	2
GEF3024	Japanese Society	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
GEF3025	Japanese Popular Culture (Postwar Japanese Culture)	1~4	2	1	2
GEF3026	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. to Kendo)	1~4	2	1	2
GEF3027	Seminar in Japanology (The Japanese Language and Society)	1~4	2	1	2
GEF3028	Seminar in Japanology (Japanese Budo: An Intro. To Naginata)	1~4	2	1	2
GEF3029	Seminar in Japanology (War and Conflict through JPN Film)	1~4	2	1	2
	Module 5 . Language Teaching & Communication				
GEF3030	Second Language Acquisition	3	2	1	2
GEF3031	Individual Differences in Language Learning	3	2	1	2
GEF3032	Ed. Tech. & Materials Development in FLT	3	2	1	2
GEF3033	Early Foreign Language Education	3	2	1	2
GEF3034	Structure of Language (discourse and meaning)	3	2	1	2
GEF3035	Linguistic Analysis (English)	3	2	1	2
GEF3036	International Business Communication	3	2	1	2
	Module 6 . Studies on Foreign Affairs				
GEF3037	International Development	1~4	2	1	2
GEF3038	Area Studies (Europe I)	1~4	2	1	2
GEF3039	Area Studies (Europe II)	1~4	2	1	2
GEF3040	Area Studies (India)	1~4	2	1	2
GEF3041	Japan in International Affairs	1~4	2	1	2
	Module 7 . Fundamentals for Social Science Studies				
GEF3042	Critical Thinking for Social and Global Issues	1~4	2	1	2
GEF3043	Research Methods for Social Science	1~4	2	1	2
GEF3044	Global Sociology	1~4	2	1	2
GEF3045	Japanese Computerization and Society	1~4	2	1	2
GEF3046	Methods of Comparative Analysis (ENG and JPN Communication)	1~4	2	1	2
GEF3047	Contemporary Gender Studies	1~4	2	1	2
	Module 8 . Applied Science and Engineering				
GEF3048	Japanese Science and Technology	1~4	2	1	2
GEF3049	Environmental Biology	1~4	2	1	2
GEF3050	Information and Communication Technologies	1~4	2	1	2
GEF3051	Introduction to Applied Science	1~4	2	1	2

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【留学実践科目】				
GEF1004	KUGF Field Study（各プログラム）	1~4	2	1	4
GEF1005	海外研修（各セミナー）	1~4	1~2	1	4
GEF1006	外国語運用実習(各セミナー)	1~4	1	1	2

《大学・学部・社会連携科目群》

科目番号	授業科目	配当年次	単位	授業期間	毎週授業時間
	【大学連携科目】				
	〔大学コンソーシアム大阪プログラム〕				
GEG1001	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【学部連携科目】				
	〔学部オープン科目〕				
GEG1002	各授業科目	1~4	1~4	1又は2	2~4
	【社会連携科目】				
	(講義科目)				
GEG1003	国際協力の基礎を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1004	国際協力ボランティアの理論を学ぶ	1~4	2	1	2
GEG1005	国際協力レディネス	1~4	2	1	2
GEG1006	国際協力フォローアップ	1~4	2	1	2
	(実習科目)				
GEG1007	国際協力ボランティア実習A	1~4	4	1	8
GEG1008	国際協力ボランティア実習B	1~4	2	1	4
GEG1009	国際協力ボランティア実習C	1~4	1	1	2
GEG3001	サービスラーニング(各テーマ)	3	2	1	2

＊海外研修（各セミナー）及び外国語運用実習（各セミナー）を修得した場合、当該外国語の卒業所要単位に含めることができます。

※共通教養科目の開講科目等詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

外国語科目

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GFE1001	英語Ⅰa	1	1	2	
GFE1002	英語Ⅰb	1	1	2	
GFE1003	英語Ⅱa	1	1	2	
GFE1004	英語Ⅱb	1	1	2	
GFG1001	ドイツ語Ⅰa	1	1	2	
GFG1002	ドイツ語Ⅰb	1	1	2	
GFG1003	ドイツ語Ⅱa	1	1	2	
GFG1004	ドイツ語Ⅱb	1	1	2	
GFF1001	フランス語Ⅰa	1	1	2	
GFF1002	フランス語Ⅰb	1	1	2	
GFF1003	フランス語Ⅱa	1	1	2	
GFF1004	フランス語Ⅱb	1	1	2	
GFR1001	ロシア語Ⅰa	1	1	2	
GFR1002	ロシア語Ⅰb	1	1	2	1
GFR1003	ロシア語Ⅱa	1	1	2	
GFR1004	ロシア語Ⅱb	1	1	2	
GFS1001	スペイン語Ⅰa	1	1	2	
GFS1002	スペイン語Ⅰb	1	1	2	
GFS1003	スペイン語Ⅱa	1	1	2	
GFS1004	スペイン語Ⅱb	1	1	2	
GFC1001	中国語Ⅰa	1	1	2	
GFC1002	中国語Ⅰb	1	1	2	
GFC1003	中国語Ⅱa	1	1	2	
GFC1004	中国語Ⅱb	1	1	2	
GFK1001	朝鮮語Ⅰa	1	1	2	
GFK1002	朝鮮語Ⅰb	1	1	2	
GFK1003	朝鮮語Ⅱa	1	1	2	
GFK1004	朝鮮語Ⅱb	1	1	2	
GFE2001	英語Ⅲa	1	1	2	
GFE2002	英語Ⅲb	1	1	2	
GFE2003	英語Ⅳa	1	1	2	
GFE2004	英語Ⅳb	1	1	2	
GFG2001	ドイツ語Ⅲa	1	1	2	
GFG2002	ドイツ語Ⅲb	1	1	2	
GFG2003	ドイツ語Ⅳa	1	1	2	
GFG2004	ドイツ語Ⅳb	1	1	2	
GFF2001	フランス語Ⅲa	1	1	2	
GFF2002	フランス語Ⅲb	1	1	2	2
GFF2003	フランス語Ⅳa	1	1	2	
GFF2004	フランス語Ⅳb	1	1	2	
GFR2001	ロシア語Ⅲa	1	1	2	
GFR2002	ロシア語Ⅲb	1	1	2	
GFR2003	ロシア語Ⅳa	1	1	2	
GFR2004	ロシア語Ⅳb	1	1	2	
GFS2001	スペイン語Ⅲa	1	1	2	
GFS2002	スペイン語Ⅲb	1	1	2	

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GFS2003	スペイン語Ⅳa	1	1	2	
GFS2004	スペイン語Ⅳb	1	1	2	
GFC2001	中国語Ⅲa	1	1	2	
GFC2002	中国語Ⅲb	1	1	2	
GFC2003	中国語Ⅳa	1	1	2	
GFC2004	中国語Ⅳb	1	1	2	2
GFK2001	朝鮮語Ⅲa	1	1	2	
GFK2002	朝鮮語Ⅲb	1	1	2	
GFK2003	朝鮮語Ⅳa	1	1	2	
GFK2004	朝鮮語Ⅳb	1	1	2	
GFE3001	英語Ⅴa（各テーマ）	1	1	2	
GFE3002	英語Ⅴb（各テーマ）	1	1	2	
GFE3003	英語Ⅵa（各テーマ）	1	1	2	
GFE3004	英語Ⅵb（各テーマ）	1	1	2	
GFG3001	ドイツ語Ⅴa	1	1	2	
GFG3002	ドイツ語Ⅴb	1	1	2	
GFG3003	ドイツ語Ⅵa	1	1	2	
GFG3004	ドイツ語Ⅵb	1	1	2	
GFF3001	フランス語Ⅴa	1	1	2	
GFF3002	フランス語Ⅴb	1	1	2	
GFF3003	フランス語Ⅵa	1	1	2	
GFF3004	フランス語Ⅵb	1	1	2	
GFR3001	ロシア語Ⅴa	1	1	2	
GFR3002	ロシア語Ⅴb	1	1	2	
GFR3003	ロシア語Ⅵa	1	1	2	3
GFR3004	ロシア語Ⅵb	1	1	2	
GFS3001	スペイン語Ⅴa	1	1	2	
GFS3002	スペイン語Ⅴb	1	1	2	
GFS3003	スペイン語Ⅵa	1	1	2	
GFS3004	スペイン語Ⅵb	1	1	2	
GFC3001	中国語Ⅴa	1	1	2	
GFC3002	中国語Ⅴb	1	1	2	
GFC3003	中国語Ⅵa	1	1	2	
GFC3004	中国語Ⅵb	1	1	2	
GFK3001	朝鮮語Ⅴa	1	1	2	
GFK3002	朝鮮語Ⅴb	1	1	2	
GFK3003	朝鮮語Ⅵa	1	1	2	
GFK3004	朝鮮語Ⅵb	1	1	2	
GFP1001	海外特別研修(各プログラム)	6	1	12	
GFO1001	検定認定１（各検定試験）	2	—	—	1～4
GFO1002	検定認定２（各検定試験）	2	—	—	
GFO1003	検定認定３（各検定試験）	2	—	—	

外国人留学生科目・外国語科目

種別	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
外国人留学生科目	（必修科目）					
	FOS1001	日本語Ⅰ	2	1	4	1
	FOS1002	日本語Ⅱ	2	1	4	
	FOS1003	日本語Ⅲ	2	1	4	
	FOS1004	日本語Ⅳ	2	1	4	
	（選択科目）					
	FOS1005	日本事情Ⅰ	2	1	2	1
	FOS1006	日本事情Ⅱ	2	1	2	
	FOS2001	実践ビジネス日本語Ⅰ	2	1	2	2
	FOS2002	実践ビジネス日本語Ⅱ	2	1	2	
	FOS2003	キャリアデザインⅠ(日本の社会と企業)	2	1	2	
	FOS2004	キャリアデザインⅡ(日本の就職と働き方)	2	1	2	
	FOS3001	キャリアデザインⅢ(日本の社会で働く)	2	1	2	3
	（自由科目）					
	FOS1007	Contemporary Japan (Understanding Japan)	2	1	2	1~4
	FOS1008	Contemporary Japan (Researching Japan)	2	1	2	1~4
	FOS1009	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 1)	2	1	2	1~4
	FOS1010	Contemporary Japan (Japan in Mass Media 2)	2	1	2	1~4
	FOS1011	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 1)	2	1	2	1~4
	FOS1012	Communication in Japanese Society (Learning Kansai 2)	2	1	2	1~4
	FOS1013	Communication in Japanese Society (Business Japanese)	2	1	2	1~4
	FOS1014	Communication in Japanese Society (JPN Corporate Culture)	2	1	2	1~4
	FOS1015	Field-Based Learning (Society and Workplace Culture in Japan)	2	1	2	1~4
	FOS1016	Japanese (1-a)	2	1	4	1~4
	FOS1017	Japanese (1-b)	2	1	4	1~4
	FOS1018	Japanese (2-a)	2	1	4	1~4
	FOS1019	Japanese (2-b)	2	1	4	1~4
	FOS1020	Japanese (3-a)	2	1	4	1~4
	FOS1021	Japanese (3-b)	2	1	4	1~4
	FOS1022	Japanese (4-a)	2	1	4	1~4
	FOS1023	Japanese (4-b)	2	1	4	1~4
	FOS1024	Japanese (5-a)	2	1	4	1~4
	FOS1025	Japanese (5-b)	2	1	4	1~4
	FOS1026	Japanese (6-a)	2	1	4	1~4
	FOS1027	Japanese (6-b)	2	1	4	1~4
	FOS1028	Japanese (7-a)	2	1	4	1~4
	FOS1029	Japanese (7-b)	2	1	4	1~4
外国語科目	GFE1001	英語Ⅰa	1	1	2	1
	GFE1002	英語Ⅰb	1	1	2	
	GFE1003	英語Ⅱa	1	1	2	
	GFE1004	英語Ⅱb	1	1	2	
	GFG1001	ドイツ語Ⅰa	1	1	2	
	GFG1002	ドイツ語Ⅰb	1	1	2	

種別	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
外国語科目	GFG1003	ドイツ語Ⅱa	1	1	2	1
	GFG1004	ドイツ語Ⅱb	1	1	2	
	GFF1001	フランス語Ⅰa	1	1	2	
	GFF1002	フランス語Ⅰb	1	1	2	
	GFF1003	フランス語Ⅱa	1	1	2	
	GFF1004	フランス語Ⅱb	1	1	2	
	GFR1001	ロシア語Ⅰa	1	1	2	
	GFR1002	ロシア語Ⅰb	1	1	2	
	GFR1003	ロシア語Ⅱa	1	1	2	
	GFR1004	ロシア語Ⅱb	1	1	2	
	GFS1001	スペイン語Ⅰa	1	1	2	
	GFS1002	スペイン語Ⅰb	1	1	2	
	GFS1003	スペイン語Ⅱa	1	1	2	
	GFS1004	スペイン語Ⅱb	1	1	2	
	GFC1001	中国語Ⅰa	1	1	2	
	GFC1002	中国語Ⅰb	1	1	2	
	GFC1003	中国語Ⅱa	1	1	2	
	GFC1004	中国語Ⅱb	1	1	2	
	GFK1001	朝鮮語Ⅰa	1	1	2	
	GFK1002	朝鮮語Ⅰb	1	1	2	
	GFK1003	朝鮮語Ⅱa	1	1	2	
	GFK1004	朝鮮語Ⅱb	1	1	2	
	GFE2001	英語Ⅲa	1	1	2	2
	GFE2002	英語Ⅲb	1	1	2	
	GFE2003	英語Ⅳa	1	1	2	
	GFE2004	英語Ⅳb	1	1	2	
	GFG2001	ドイツ語Ⅲa	1	1	2	
	GFG2002	ドイツ語Ⅲb	1	1	2	
	GFG2003	ドイツ語Ⅳa	1	1	2	
	GFG2004	ドイツ語Ⅳb	1	1	2	
	GFF2001	フランス語Ⅲa	1	1	2	
	GFF2002	フランス語Ⅲb	1	1	2	
	GFF2003	フランス語Ⅳa	1	1	2	
	GFF2004	フランス語Ⅳb	1	1	2	
	GFR2001	ロシア語Ⅲa	1	1	2	
	GFR2002	ロシア語Ⅲb	1	1	2	
	GFR2003	ロシア語Ⅳa	1	1	2	
	GFR2004	ロシア語Ⅳb	1	1	2	
	GFS2001	スペイン語Ⅲa	1	1	2	
	GFS2002	スペイン語Ⅲb	1	1	2	
	GFS2003	スペイン語Ⅳa	1	1	2	
	GFS2004	スペイン語Ⅳb	1	1	2	
	GFC2001	中国語Ⅲa	1	1	2	
	GFC2002	中国語Ⅲb	1	1	2	
	GFC2003	中国語Ⅳa	1	1	2	
	GFC2004	中国語Ⅳb	1	1	2	
	GFK2001	朝鮮語Ⅲa	1	1	2	
	GFK2002	朝鮮語Ⅲb	1	1	2	
	GFK2003	朝鮮語Ⅳa	1	1	2	
	GFK2004	朝鮮語Ⅳb	1	1	2	

種別	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
外国語科目	GFE3001	英語Ⅴa(各テーマ)	1	1	2	3
	GFE3002	英語Ⅴb(各テーマ)	1	1	2	
	GFE3003	英語Ⅵa(各テーマ)	1	1	2	
	GFE3004	英語Ⅵb(各テーマ)	1	1	2	
	GFG3001	ドイツ語Ⅴa	1	1	2	
	GFG3002	ドイツ語Ⅴb	1	1	2	
	GFG3003	ドイツ語Ⅵa	1	1	2	
	GFG3004	ドイツ語Ⅵb	1	1	2	
	GFF3001	フランス語Ⅴa	1	1	2	
	GFF3002	フランス語Ⅴb	1	1	2	
	GFF3003	フランス語Ⅵa	1	1	2	
	GFF3004	フランス語Ⅵb	1	1	2	
	GFR3001	ロシア語Ⅴa	1	1	2	
	GFR3002	ロシア語Ⅴb	1	1	2	
	GFR3003	ロシア語Ⅵa	1	1	2	
	GFR3004	ロシア語Ⅵb	1	1	2	
	GFS3001	スペイン語Ⅴa	1	1	2	
	GFS3002	スペイン語Ⅴb	1	1	2	
	GFS3003	スペイン語Ⅵa	1	1	2	
	GFS3004	スペイン語Ⅵb	1	1	2	
	GFC3001	中国語Ⅴa	1	1	2	
	GFC3002	中国語Ⅴb	1	1	2	
	GFC3003	中国語Ⅵa	1	1	2	
	GFC3004	中国語Ⅵb	1	1	2	
	GFK3001	朝鮮語Ⅴa	1	1	2	
	GFK3002	朝鮮語Ⅴb	1	1	2	
	GFK3003	朝鮮語Ⅵa	1	1	2	
	GFK3004	朝鮮語Ⅵb	1	1	2	
	GFP1001	海外特別研修(各プログラム)	6	1	12	1～4
	GFO1001	検定認定1(各検定試験)	2	—	—	
	GFO1002	検定認定2(各検定試験)	2	—	—	
	GFO1003	検定認定3(各検定試験)	2	—	—	

専門教育科目

自由科目

配当学科	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
化・生	CMB1	教職概説	2	1	2	1
	CMB1	教育原理	2	1	2	
	CMB1	図書館情報資源概論	2	1	2	
	CMB2	教育制度論	2	1	2	2
	CMB2	教育心理学	2	1	2	
	CMB2	道徳教育の理論と方法	2	1	2	
	CMB2	特別活動論	2	1	2	
	CMB2	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用を含む)	2	1	2	
	CMB2	メディア教育論	2	1	2	
	CMB2	教育相談論	2	1	2	
	CMB2	人権教育論	2	1	2	
	CMB2	情報資源組織論	2	1	2	
	CMB2	学校経営と学校図書館	2	1	2	
	CMB2	学習指導と学校図書館	2	1	2	
	CMB2	読書と豊かな人間性	2	1	2	
	CMB2	情報メディアの活用	2	1	2	
	CMB3	特別支援教育論	1	1	2	3
	CMB3	総合的な学習の時間の指導法	1	1	2	

配当学科	科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
化・生	CMB3	カリキュラム開発論	2	1	2	3
	CMB3	生徒・進路指導論	2	1	2	
	CMB3	教育実習事前指導	1	1	2	
	CMB3	教育実習(一)	2	1	4	3･4
	CMB4	教育実習(二)	2	1	4	4
	CMB4	教職実践演習(中等)	2	1	2	
	CMB2	地学概論	2	1	2	2
	CMB2	地学実験	2	1	4	
	CMB2	理科教育法(一)	2	1	2	
	CMB2	理科教育法(二)	2	1	2	
	CMB3	理科教育法(三)	2	1	2	3
	CMB3	理科教育法(四)	2	1	2	
	CMB3	特別演習	2	1	—	
化	CMB2	工業技術概論	2	1	2	2
	CMB2	工業科教育法(一)	2	1	2	
	CMB2	工業科教育法(二)	2	1	2	
	CMB2	職業指導(一)	2	1	2	
	CMB2	職業指導(二)	2	1	2	
	CMB2	生物学概論	2	1	2	
	CMB2	生物学実験	1	1	4	

化…化学・物質工学科
生…生命・生物工学科
自由科目は、修得しても卒業所要単位に含めることはできません。

化学・物質工学科　卒業に必要な単位数及び授業科目一覧

1　卒業要件

化学生命工学部化学・物質工学科に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、所定の単位数を修得していること。

2　「特別研究Ⅰ・Ⅱ」の履修について

４年次配当の「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を履修するには、６学期以上在学し、履修する前学期末までに次の要件を満たしていなければなりません。

⑴　卒業所要単位数（128単位）のうち、110単位以上を修得していること。

⑵　卒業に必要な共通教養科目、外国語科目及び１～３年次配当の専門教育科目の必修科目のうち、未修得科目及び単位が３科目８単位以内であること。

⑶　マテリアル科学コースについては、１年次配当の「化学実験」、２年次配当の「マテリアル科学実験Ⅰ」「マテリアル科学実験Ⅱ」、３年次配当の「マテリアル工学実験Ⅰ」「マテリアル工学実験Ⅱ」を修得していること。

⑷　応用化学コースについては、１年次配当の「化学実験」、２年次配当の「基礎化学実験」「応用化学実験Ⅰ」、３年次配当の「応用化学実験Ⅱ」を修得していること。

⑸　バイオ分子化学コースについては、１年次配当の「化学実験」、２年次配当の「基礎化学実験」「バイオ分子化学実験Ⅰ」、３年次配当の「バイオ分子化学実験Ⅱ」を修得していること。

⑹　「特別研究Ⅱ」を履修するには、「特別研究Ⅰ」を修得していること。

卒業所要単位

<table>
<tr><th rowspan="3">区分</th><th rowspan="3">コース</th><th colspan="8">共通教養科目</th><th colspan="2">外国語科目</th><th colspan="3">専門教育科目</th><th rowspan="3">合計</th></tr>
<tr><th colspan="3">自己形成科目群</th><th rowspan="2">グローバル科目群</th><th rowspan="2">関西大学科目群</th><th rowspan="2">基盤科目群</th><th rowspan="2">健康・スポーツ科目群</th><th rowspan="2">キャリア形成科目群</th><th rowspan="2">大学・学部・社会連携科目群</th><th rowspan="2">第１選択外国語</th><th rowspan="2">第２選択外国語</th><th rowspan="2">必修科目</th><th rowspan="2">選択必修科目</th><th rowspan="2">選択科目</th></tr>
<tr><th>人間を知る</th><th>社会を知る</th><th>自然と向き合う</th></tr>
<tr><td rowspan="4">単位数</td><td>マテリアル科学</td><td colspan="3" rowspan="3">２つ以上の領域からそれぞれ２以上＊</td><td rowspan="3">２以内</td><td colspan="5" rowspan="3">２以内</td><td rowspan="3">8</td><td rowspan="3">4</td><td>63</td><td>29</td><td>4</td><td rowspan="4">128</td></tr>
<tr><td>応用化学</td><td>61</td><td>29</td><td>6</td></tr>
<tr><td>バイオ分子化学</td><td>61</td><td>29</td><td>6</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">指定科目12単位以上(※)</td><td colspan="5" rowspan="2">12</td><td colspan="3" rowspan="2">96</td></tr>
<tr><td colspan="9">20</td></tr>
</table>

＊各領域の必要単位については、指定科目から修得したものを含む。

共通教養科目

卒業所要単位について

⑴　自己形成科目群には、学科で設定する「指定科目」があります。「指定科目」は12単位を修得しなければなりません。

⑵　（※）学科で設定する「指定科目」を、12単位を超えて修得した単位は、専門教育科目の選択必修科目の単位に算入することができます。なお、「指定科目」の12単位を超えて修得した単位は、共通教養科目の卒業所要単位に含めることはできません。

⑶　自己形成科目群について、「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」のうち、２つ以上の領域からそれぞれ２単位以上修得しなければなりません。

なお、２つ以上の領域の必要単位については、「指定科目」から修得したものを含めることができます。

⑷　グローバル科目群については２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑸　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群及び大学・学部・社会連携科目群の科目については合計２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑹　上記⑴～⑸を踏まえたうえで、「指定科目」12単位に加え、「指定科目」以外の共通教養科目から８単位の合計20単位を修得しなければなりません。

共通教養科目　自己形成科目群「指定科目」

科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GEB1101	数学を学ぶ（関数と微分積分の基礎Ⅰ）	自然と向き合う	◎	2	1	2	
GEB1101	数学を学ぶ（関数と微分積分の基礎Ⅱ）	自然と向き合う	◎	2	1	2	1
GEB1103	物理を学ぶ(演習含)（基礎物理学Ⅰ）	自然と向き合う	◎	2	1	2	
GEB1103	物理を学ぶ(演習含)（基礎物理学Ⅱ）	自然と向き合う	◎	2	1	2	
GEB1105	化学を学ぶ(演習含)（基礎化学Ⅰ）	自然と向き合う	◎	4	1	4	1
GEB1071	基礎からの情報処理	社会を知る		2	1	2	

◎印の科目は必修科目で、すべて修得しなければなりません。

専門教育科目（マテリアル科学コース、応用化学コース、バイオ分子化学コース）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
（必修科目）					
（各コース共通）					
CME1	基礎化学Ⅱ	2	1	2	1
CME1	基礎化学Ⅲ（演習含）	4	1	4	
CME1	物理化学Ⅰ（演習含）	4	1	4	
CME1	物理化学Ⅱ（演習含）	4	1	4	
CME1	物理化学Ⅲ	2	1	2	
CME1	フレッシュマンゼミナール	2	1	2	
CME1	オリエンテーションゼミナール	2	1	2	
CME1	化学実験	1	1	4	
CME3	安全工学	2	1	2	3
CME3	科学技術英語Ⅰ	1	1	2	
CME3	科学技術英語Ⅱ	1	1	2	
CME4	特別研究Ⅰ	3	1	—	4
CME4	特別研究Ⅱ	3	1	—	
〔マテリアル科学コース〕					
CME2	材料の強さと変形(演習含)	4	1	4	2
CME2	材料熱力学	2	1	2	
CME2	固体の物理的性質	2	1	2	
CME2	結晶構造とX線回折	2	1	2	
CME2	状態図と材料組織	2	1	2	
CME2	速度論と物質移動	2	1	2	
CME2	情報処理演習	2	1	2	
CME2	マテリアル科学実験Ⅰ	2	1	6	
CME2	マテリアル科学実験Ⅱ	2	1	6	
CME3	技術者倫理	2	1	2	3
CME3	金属材料	2	1	2	
CME3	マテリアル科学演習Ⅰ	2	1	2	
CME3	マテリアル科学演習Ⅱ	2	1	2	
CME3	マテリアル工学実験Ⅰ	2	1	6	
CME3	マテリアル工学実験Ⅱ	2	1	6	
〔応用化学コース〕					
CME2	有機化学Ⅰ（演習含）	4	1	4	2
CME2	有機化学Ⅱ	4	1	4	
CME2	反応速度論	2	1	2	
CME2	無機化学Ⅰ	2	1	2	
CME2	無機化学Ⅱ	2	1	2	
CME2	高分子化学	2	1	2	
CME2	機器分析演習Ⅰ	2	1	2	
CME2	基礎化学実験	2	1	6	
CME2	応用化学実験Ⅰ	4	1	12	
CME3	機器分析演習Ⅱ	2	1	2	3
CME3	応用化学実験Ⅱ	4	1	12	
〔バイオ分子化学コース〕					
CME2	生体分子化学Ⅰ	2	2	2	2
CME2	生体分子化学Ⅱ	2	1	2	
CME2	生物物理化学	2	1	2	
CME2	有機化学Ⅰ（演習含）	4	1	4	
CME2	有機化学Ⅱ	4	1	4	
CME2	無機化学Ⅰ	2	1	2	
CME2	高分子化学	2	1	2	
CME2	機器分析演習Ⅰ	2	1	2	
CME2	基礎化学実験	2	1	6	
CME2	バイオ分子化学実験Ⅰ	4	1	12	
CME3	バイオ分子化学実験Ⅱ	4	1	12	3
（選択必修科目）					
〔各コース共通〕					
CME1	線形代数	2	1	2	1
CME1	物理学実験	1	1	4	
〔マテリアル科学コース〕					
CME2	数学解析Ⅰ	2	1	2	2
CME2	材料の強さと組織	2	1	2	
CME2	格子欠陥と塑性変形	2	1	2	
CME2	相変態と組織制御	2	1	2	
CME2	核生成・成長と凝固過程	2	1	2	
CME2	材料電気化学	2	1	2	
CME2	工業製図	2	1	4	
CME3	塑性加工学	2	1	2	3
CME3	鋳造工学	2	1	2	
CME3	材料精製工学	2	1	2	
CME3	複合化プロセス	2	1	2	
CME3	セラミック材料化学	2	1	2	
CME3	半導体材料	2	1	2	
CME3	社会環境適応材料	2	1	2	
CME3	高分子材料化学	2	1	2	
CME3	材料機器分析	2	1	2	
CME3	マテリアルコロキウム	2	1	2	
〔応用化学コース〕					
CME2	分光物理化学	2	1	2	2
CME2	高分子合成化学	2	1	2	
CME2	生物有機化学	2	1	2	
CME2	生体材料化学	2	1	2	
CME3	有機合成論	2	1	2	3
CME3	有機反応論	2	1	2	
CME3	有機工業化学	2	1	2	
CME3	機能性高分子	2	1	2	
CME3	高分子材料化学	2	1	2	
CME3	錯体化学	2	1	2	
CME3	無機材料化学	2	1	2	
CME3	電気化学	2	1	2	
CME3	環境化学	2	1	2	
CME3	エネルギー化学	2	1	2	
CME3	量子化学	2	1	2	
CME3	化学工学	2	1	2	
CME3	応用化学コロキウム	2	1	2	
〔バイオ分子化学コース〕					
CME2	分光物理化学	2	1	2	2
CME2	高分子合成化学	2	1	2	
CME2	高分子材料化学	2	1	2	
CME2	無機化学Ⅱ	2	1	2	
CME2	反応速度論	2	1	2	
CME3	量子化学	2	1	2	3
CME3	電気化学	2	1	2	
CME3	有機合成論	2	1	2	
CME3	生物有機化学	2	1	2	
CME3	生物無機化学	2	1	2	
CME3	生体無機材料	2	1	2	
CME3	分子生物学	2	1	2	
CME3	医用材料化学	2	1	2	
CME3	機能性高分子	2	1	2	
CME3	機器分析演習Ⅱ	2	1	2	
CME3	環境化学	2	1	2	
CME3	化学工学	2	1	2	
CME3	バイオ分子化学コロキウム	2	1	2	
（選択科目）					
〔各コース共通〕					
CME2	統計的品質管理	2	1	2	2
CME2	海外体験研修(化学・物質工学)	2	1	4	2
CME3	知的財産権法	2	1	2	3
CME1	寄附講座（各テーマ）	2	1	2	1~4
〔医工薬連環科学プログラム〕					
〔大阪医科薬科大学設置科目〕					
CME1	各授業科目	1~4	—	—	1~4
〔マテリアル科学コース〕					
CME3	量子化学	2	1	2	3
CME3	技術者ビジネス法	2	1	2	
CME4	環境工学	2	1	2	4
〔応用化学コース〕					
CME2	情報処理演習	2	1	2	2
CME3	技術者倫理	2	1	2	3
〔バイオ分子化学コース〕					
CME2	情報処理演習	2	1	2	2
CME3	技術者倫理	2	1	2	3

卒業所要単位について

1　各コースは、次に従って96単位以上を修得しなければなりません。

（1）マテリアル科学コース

ア　必修科目　所属するコースから63単位　　イ　選択必修科目　所属するコースから29単位以上

ウ　選択科目　所属するコースから４単位以上

（2）応用化学コース、バイオ分子化学コース

ア　必修科目　所属するコースから61単位　　イ　選択必修科目　所属するコースから29単位以上

ウ　選択科目　所属するコースから６単位以上

2　所属するコースの選択必修科目を所定の単位を超過して取得した場合は、２単位を限度に選択科目の単位に算入することができます。

3　医工薬連環科学プログラム科目を修得した場合は、２単位まで選択科目の単位に算入することができます。

※「海外体験研修（化学・物質工学）」については、あらかじめ申込手続を行い、許可された者に限り履修することができます。

生命・生物工学科　卒業に必要な単位数及び授業科目一覧

1　卒業要件

化学生命工学部生命・生物工学科に４年〈８学期〉以上（８年〈16学期〉以内）在学し、所定の単位数を修得していること。

2　「特別研究Ⅰ・Ⅱ」の履修について

４年次配当の「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を履修するには、６学期以上在学し、履修する前学期末までに次の要件を満たしていなければなりません。

⑴　卒業所要単位数（128単位）のうち、110単位以上を修得していること。

⑵　卒業に必要な共通教養科目、外国語科目及び１～２年次配当の専門教育科目の必修科目のすべてと、３年次配当の「生命科学実験」（生命科学コース）・「生物工学実験」（生物工学コース）を修得していること。

⑶「特別研究Ⅱ」を履修するには、「特別研究Ⅰ」を修得していること。

卒業所要単位

<table>
<tr><th rowspan="2">区分</th><th rowspan="2">コース</th><th colspan="8">共通教養科目</th><th colspan="2">外国語科目</th><th colspan="3">専門教育科目</th><th rowspan="2">合計</th></tr>
<tr><th colspan="3">自己形成科目群</th><th>グローバル科目群</th><th>関西大学科目群</th><th>基盤科目群</th><th>健康・スポーツ科目群</th><th>キャリア形成科目群</th><th>大学・学部・社会連携科目群</th><th>第１選択外国語</th><th>第２選択外国語</th><th>必修科目</th><th>選択必修科目</th><th>選択科目</th></tr>
<tr><th>人間を知る</th><th>社会を知る</th><th>自然と向き合う</th></tr>
<tr><td rowspan="3">単位数</td><td>生命科学
生物工学</td><td colspan="3">２つ以上の領域からそれぞれ２以上＊</td><td rowspan="2">２以内</td><td colspan="5" rowspan="2">２以内</td><td>8</td><td>4</td><td>43</td><td>44以上</td><td>任意選択</td><td rowspan="3">128</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3">指定科目12単位以上(※)</td><td colspan="2">12</td><td colspan="3">96</td></tr>
<tr><td colspan="9">20</td></tr>
</table>

＊各領域の必要単位については、指定科目から修得したものを含む。

共通教養科目

卒業所要単位について

⑴　自己形成科目群には、学科で設定する「指定科目」があります。「指定科目」は12単位を修得しなければなりません。

⑵　（※）学科で設定する「指定科目」を、12単位を超えて修得した単位は、専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。なお、「指定科目」の12単位を超えて修得した単位は、共通教養科目の卒業所要単位に含めることはできません。

⑶　自己形成科目群について、「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」のうち、２つ以上の領域からそれぞれ２単位以上修得しなければなりません。

なお、２つ以上の領域の必要単位については、「指定科目」から修得したものを含めることができます。

⑷　グローバル科目群については２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑸　関西大学科目群、基盤科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群及び大学・学部・社会連携科目群の科目については合計２単位を限度に共通教養科目の卒業所要単位に算入することができます。

⑹　上記⑴～⑸を踏まえたうえで、「指定科目」12単位に加え、「指定科目」以外の共通教養科目から８単位の合計20単位を修得しなければなりません。

共通教養科目　自己形成科目群「指定科目」

科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次	科目番号	授業科目	領域	種別	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
GEB1101	数学を学ぶ（関数と微分積分の基礎Ⅰ）	自然と向き合う	◎	2	1	2	1	GEB1104	化学を学ぶ（基礎化学）	自然と向き合う	◎	2	1	2	1
GEB1101	数学を学ぶ（関数と微分積分の基礎Ⅱ）	自然と向き合う		2	1	2		GEB1104	化学を学ぶ（基礎有機化学Ⅰ）	自然と向き合う	◎	2	1	2	
GEB1103	物理を学ぶ(演習含)（基礎物理学Ⅰ）	自然と向き合う		2	1	2		GEB1104	化学を学ぶ（基礎有機化学Ⅱ）	自然と向き合う	◎	2	1	2	
GEB1103	物理を学ぶ(演習含)（基礎物理学Ⅱ）	自然と向き合う		2	1	2		GEB1105	化学を学ぶ(演習含)（基礎分析化学Ⅰ）	自然と向き合う		2	1	2	
								GEB1105	化学を学ぶ(演習含)（基礎分析化学Ⅱ）	自然と向き合う		2	1	2	

◎印の科目は必修科目で、すべて修得しなければなりません。

専門教育科目（生命科学コース、生物工学コース）

科目番号	授業科目	単位	授業期間	毎週授業時間	配当年次
（必修科目）					
〔各コース共通〕					
LSB1	生物学Ⅰ	2	1	2	1
LSB1	生物学Ⅱ	2	1	2	
LSB1	生物学実験	2	1	6	
LSB1	化学実験	1	1	4	
LSB1	フレッシュマンゼミナール	2	1	2	
LSB1	オリエンテーションゼミナール	2	1	2	
LSB2	有機化学Ⅰ	2	1	2	2
LSB2	有機化学Ⅱ	2	1	2	
LSB2	生化学Ⅰ	2	1	2	
LSB2	生化学Ⅱ	2	1	2	
LSB2	生化学Ⅲ	2	1	2	
LSB2	生化学Ⅳ	2	1	2	
LSB2	生命工学基礎実験	4	1	12	
LSB3	技術者倫理	2	1	2	3
LSB3	安全工学	2	1	2	
LSB3	科学技術英語Ⅰ	1	1	2	
LSB3	科学技術英語Ⅱ	1	1	2	
LSB4	特別研究Ⅰ	3	1	—	4
LSB4	特別研究Ⅱ	3	1	—	
〔生命科学コース〕					
LSB3	生命科学実験	4	1	12	3
〔生物工学コース〕					
LSB3	生物工学実験	4	1	12	3
（選択必修科目）					
〔各コース共通〕					
LSB1	微生物学Ⅰ	2	1	2	1
LSB1	線形代数	2	1	2	
LSB2	微生物学Ⅱ	2	1	2	2
LSB2	微生物学Ⅲ	2	1	2	
LSB2	分析化学	2	1	2	
LSB2	機器分析	2	1	2	
LSB2	物理化学	2	1	2	
LSB2	生物化学工学Ⅰ	2	1	2	
LSB2	栄養科学	2	1	2	
LSB2	食品科学Ⅰ	2	1	2	
LSB2	食品衛生学	2	1	2	
LSB2	酵素工学	2	1	2	
LSB3	遺伝子工学	2	1	2	3
LSB3	分子生物学	2	1	2	
LSB3	生物統計学	2	1	2	
LSB3	微生物制御工学	2	1	2	
〔生命科学コース〕					
LSB3	発生生物学	2	1	2	3
LSB3	生物物理化学	2	1	2	
LSB3	医薬品薬理学	2	1	2	
LSB3	タンパク質工学	2	1	2	
LSB3	バイオインフォマティクス論	2	1	2	
LSB3	バイオ機器分析	2	1	2	
LSB3	植物細胞工学	2	1	2	
LSB3	植物生理学	2	1	2	
LSB3	生命科学コロキウム	2	1	2	
〔生物工学コース〕					
LSB3	微生物学Ⅳ	2	1	2	3
LSB3	生物化学工学Ⅱ	2	1	2	
LSB3	分離・精製工学	2	1	2	
LSB3	培養工学	2	1	2	
LSB3	食品科学Ⅱ	2	1	2	
LSB3	機能性食品	2	1	2	
LSB3	公衆衛生学	2	1	2	
LSB3	環境科学	2	1	2	
LSB3	生物工学コロキウム	2	1	2	
（選択科目）					
LSB1	物理学実験	1	1	4	1
LSB2	知的財産権法	2	1	2	2
LSB2	情報処理演習	2	1	2	
LSB2	生命倫理	2	1	2	
LSB2	食品・医薬品等の関連法規	2	1	2	
LSB3	臨床検査学	2	1	2	3
LSB3	健康生命科学	2	1	2	
LSB1	海外体験研修(各プログラム)	2	1	4	1～4
LSB1	寄附講座（各テーマ）	2	1	2	
〔医工薬連環科学プログラム〕					
〔大阪医科薬科大学設置科目〕					
LSB1	各授業科目	1～4	—	—	1～4

卒業所要単位について

1　生命科学コース及び生物工学コースは、次に従って96単位以上を修得しなければなりません。
- (1)　必修科目　所属するコースから43単位
- (2)　選択必修科目　所属するコースから44単位以上
- (3)　選択科目　任意選択

2　他コースの選択必修科目を修得した場合は、選択科目の単位に算入することができます。

3　医工薬連環科学プログラム科目を修得した場合は、4単位まで選択科目の単位に算入することができます。

［科目番号について］

本学では、科目の特性・配当年次を示すため、各科目に科目番号を付与しています。

〈共通教養科目〉

アルファベット３桁で「共通教養科目」と「群」を表しています。数字４桁のうち、１桁目で配当年次を表し、後の３桁は連番としています。また、共通教養科目のうちグローバル科目群の留学準備スキルアップ科目及びグローバル・フロンティア科目は、配当年次に代えて外部テストによる難易度を示しています。

GE（種別）　A（群）　1（配当年次（難易度））　000（連番）

種別　共通教養科目はすべてGE

群

A	関西大学科目群
B	基盤科目群
C	自己形成科目群
D	健康・スポーツ科目群
E	キャリア形成科目群
F	グローバル科目群
G	大学・学部・社会連携科目群

難易度（受講には各レベルの英語運用能力が必要です）

番号	レベル
1	GTECテスト180点未満 TOEFL ITP®Test430点未満 TOEFL iBT®Test40点未満 TOEIC®L&RTest375点未満 英語検定準２級未満
2	GTECテスト180点以上260点未満 TOEFL ITP®Test430点以上505点未満 TOEFL iBT®Test40点以上60点未満 TOEIC®L&RTest375点以上580点未満 英語検定準２級及び２級
3	GTECテスト260点以上 TOEFL ITP®Test505点以上 TOEFL iBT®Test60点以上 TOEIC®L&RTest580点以上 英語検定準１級及び１級

〈外国語科目〉

アルファベット3桁で「外国語科目」と「語種」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

GF（種別）　E（語種）　1（配当年次）　000（連番）

種別　外国語科目はすべてGF

語種

E	英語
G	ドイツ語
F	フランス語
R	ロシア語
S	スペイン語
C	中国語
K	朝鮮語
O	検定認定：Official-Test Accreditation

〈外国人留学生科目〉

アルファベット3桁で「外国人留学生科目」を表しています。数字4桁のうち、1桁目で配当年次を表し、後の3桁は連番としています。

FOS（種別）　1（配当年次）　000（連番）

種別　外国人留学生科目はすべてFOS

〈専門教育科目〉

学科を示すアルファベット3桁、配当年次を示す1桁で構成されています。

CMB（学部）　1（配当年次）

学科コード　ＣＭＥ：化学・物質工学科
ＬＳＢ：生命・生物工学科
ＣＭＢ：（学科共通科目）

共通教養科目について

共通教養教育プログラムの教育目標（プログラムポリシー）

共通教養科目は、学士課程教育の一翼を担う教育プログラムとして大学での学びの基盤となる知識・技能と資質・能力を身に付け、深い教養を涵養することを目的としています。

1（知識・技能）
学士課程教育の基盤となる幅広い学問的および社会的知識と技能を身に付けることができる。

2（思考力・判断力・表現力等の能力）
学部横断型教育プログラムの特徴を活かし、違う視点を持った学生同士が協働的に学ぶことで、「考動力（自律力、人間力、社会力、国際力、革新力）」を身に付けることができる。

3（主体的な態度）
自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

専門教育と対を成す共通教養科目は、初年次の基盤レベルから高年次における学部の枠を超えた深い教養レベルまで幅広い学びを提供することを目的に、くさび型で教育課程を編成します。

1 「関西大学科目群」では、関西大学という一つのコミュニティに属する学生としてのアイデンティティを形成するため、地域や歴史、地域との関わりの中から大学で学ぶ意義を再確認し、また学生を取り巻く社会環境の変化に対応するトピックスに取り組むことで、現代を生き抜き未来を創る力を養う。

2 「基盤科目群」では、大学の学びの基盤となるリテラシーおよびスキルを獲得する。

3 「自己形成科目群」では、「人間を知る」「社会を知る」「自然と向き合う」という3つの教育領域に区分し、かつ「日常への洞察」「教養を深める（知の見取り図）」「教養を深める（知の探求）」「チャレンジ科目」の4つのレベルに分けて科目を配置、学問知や社会的知識を幅広く習得し、活用、探求を行う。

4 「健康・スポーツ科目群」では、集団活動におけるリーダーシップ養成、市民としての救急医療技法の体得、高齢者・障害者介護の基本的な知識を習得する。

5 「キャリア形成科目群」では、社会を知り、自己理解を深め、自立した大人になるために必要な知識やスキルを理論的・実践的・体系的に身につけられるよう、講義や演習を通して理論と実践を循環させながら学んでいく。

6 「グローバル科目群」では、初年次に異文化理解、海外留学準備を行い、在学中に海外留学、帰国後もイマージョン教育によりさらに能力を伸長するといった履修モデルを想定して科目を配置し、グローバルな視野と経験を養う。

7 「大学・学部・社会連携科目群」では、異なった専門教育を学ぶ学生が横断的に集い、企業や自治体と連携して実際に社会が抱える課題に取り組む高年次向け課題解決型学習に取り組むほか、他学部の専門科目、他大学の科目を学ぶことにより、深い教養を身に付ける。

共通教養科目

関西大学では、「学の実化」という教学の理念を反映し、みなさんが社会に対して問題意識を持ち、広い視野から学ぶことで総合知を獲得し、同時にそれを社会の中で積極的かつ協調的に発揮する実際的な能力を備えることで自己決定がおこなえる自立した個人となるためのプログラムとして「共通教養科目」を開設しています。

授業科目を履修・修得した場合の取り扱いは、学部により異なりますので、各学部の教育課程等を参照してください。

また、履修定員が定められている科目や事後抽選が実施される科目もありますので、開講科目等の詳細は、インフォメーションシステムを参照してください。

関西大学科目群

教育の目的・科目の性格

みなさんが学部を超えて関西大学の学生として関西大学という一つのコミュニティに属している、そのアイデンティティの形成を目指す科目、そして現代を生き抜き未来を創る関西大学生として意欲的に取り組んで欲しいトピックスをテーマとした科目を開設する科目群です。今日の社会で大学に求められている役割や、そこで学ぶことの意味を考え、歴史や地域とのかかわりの中から関西大学がどのような大学であったのか、そして今後どうあるべきなのか、さらに、いま社会環境はどのように変化しているのかを考えることで、学生のみなさん一人ひとりが今自分の立つところを知り、関西大学そして広く国際社会の中で学ぶことの意味を確認していくことになります。

また、本科目群の科目は、オンデマンド配信または各キャンパスの教室へ配信により授業を行い、全キャンパスの学生がともに学べる形態で開講します。

関西大学を知る

これまで関西大学の輩出した人物を手掛かりにして歴史を通して、あるいは吹田、高槻、堺というキャンパスが位置する地域社会を通して関西大学を知るための科目や学生生活を送る中で起こりうるリスクについて気づき、知識や対処法を身につける、あるいは他者に共感することの大切さを理解することにより大学生活の充実を図るための科目を設置しています。

戦略トピックス

みなさんを取り巻く社会環境は著しいスピードで変化しています。戦略トピックスでは、社会が抱える多くの課題の中で、特に関西大学生に意識してほしいトピックスをテーマに科目を設置しています。

今期のテーマは、SDGs、カーボンニュートラル、データサイエンス、アントレプレナーシップです。

基盤科目群

教育の目的・科目の性格

新入生のみなさんが実習を通して大学での学びや実社会に役立つスキルの獲得と資質・能力の育成を目的とした科目群です。PBL（Project-Based Learning）、レポート作成技法、ディスカッション技法、プレゼンテーション技法、図書館やインターネットからの情報収集、その際の情報リテラシー、文章を作成するうえでの規制やアカデミックな倫理、そして論理的に考える技法など、必要性に沿って履修できるように各科目の内容が組み立てられています。

自己形成科目群

教育の目的・科目の性格

「高校生」から「社会人」へといたる成長を促す科目群です。「人間を知る」、「社会を知る」、「自然と向き合う」の三つの領域からなり、みなさんがそれぞれの科目を通して自分が何を修得すべきかを意識しながら履修できるようになっています。

それぞれの科目は、三つの領域と三つの目標を掛け合わせてできるマトリックス表に分類されますので、みなさんはその中から自らの必要性や関心に沿って各科目を選択してください。

健康・スポーツ科目群

教育の目的・科目の性格

みなさんが自己形成科目群や学部での教育と密接に関連づけながら、「生きる力」を身につけるための科目群です。社会の構成員として求められる能力を積極的に修得することを目的とします。スポーツ実技や保健科目を通してのからだや心の育成にとどまらず、集団活動におけるリーダーシップ養成、市民としての救急医療技法の

体得、高齢者・障害者介護の基本的な知識の習得などを目指しています。

キャリア形成科目群

教育の目的・科目の性格

共通教養科目や学部専門教育での学びと関連づけつつ、これからの時代を生きるために必要な知識やスキルを身につけることが出来る科目群です。また、みなさんのキャリア形成を促すために、入学年次から高年次にかけて、理論と実践を循環させながら学べるよう体系的な科目群となっています。キャリア教育は、就職活動といった短期的な進路選択に必要なテクニックやハウツーの提示に留まるものではなく、長期的な人生全体の中で自分がどう生きていきたいかを考え、その実現に向けて、社会を知り、自己理解を深め、必要な力を身につける（自立した大人になる）ことを目的としています。こうした目的のもと、学部や文理の隔たりなく、学生同士が交流し、自身のキャリアを探究・発見・形成していくことを目指します。

グローバル科目群

教育の目的・科目の性格

本学が目指す「グローバル人材育成」のため、グローバルな視野を養い、経験を重ねることを目的とした科目群で、初年次に異文化理解、海外留学準備を行い、在学中に海外留学、帰国後もイマージョン教育によってさらに能力を伸長させるといった履修モデルを想定しています。

各科目は、外国語科目「英語」科目による基本学習に加えて、海外留学を念頭においた英語スキル習得を目的とする「留学準備スキルアップ科目」、使用言語を原則として英語とする比較的小人数での討論中心の「グローバル・フロンティア科目」、国際部主催の語学セミナーや留学に向けて、オーラルコミュニケーション能力の伸長をめざして英語力を鍛える「留学実践科目」の３つに分類されています。

留学準備スキルアップ科目

留学を視野に入れ、語学力をアップさせたい学生が履修できる科目です。外部英語試験のスコアアップはもちろん、留学中に必要なプレゼンテーションスキルやディスカッションスキル、異文化理解能力の向上を目的とした科目を配置しています。

グローバル・フロンティア科目

留学生との混合クラスにおいて、国際社会で活躍するために必要な知識・教養を「英語で」学ぶことができる科目です。留学生とともに学習する機会を望む学生だけでなく、留学を視野に入れ英語のスキルアップを目指す学生や留学から帰国した学生の語学力の維持向上に役立つ科目です。一部のグローバル・フロンティア科目では、ICTを活用して海外の教育機関との協働学習を行う「COIL／Virtual Exchange授業」を実施し、異文化交流の共修学習の一環として英語を用いた学習活動が行われています。

留学実践科目

夏季休業及び春季休業期間中に、海外のさまざまな国で英語をはじめとする諸外国語を学ぶことができる短期留学プログラムや、海外の大学において語学学習だけでなく現地でのフィールドワーク等の実践活動を通して、その国の文化や歴史、考え方や生活習慣を、一人ひとりが自分の感性で受けとめ、直接肌でふれることができるような海外研修プログラムを組んでいます。

また、国内留学と、オーラルコミュニケーション能力の伸長をめざして英語力を鍛えます。

大学・学部・社会連携科目群

教育の目的・科目の性格

大学そして学部等を超えて開かれた場で学ぶことを目的とした科目群です。科目の性格に応じて、大学を超え

た「大学連携科目」、学部を超えた「学部連携科目」、企業や自治体等と連携して実社会の課題を解決する「社会連携科目」があります。

大学連携科目

「大学コンソーシアム大阪単位互換制度」による大学コンソーシアム大阪プログラムがあります。「大学コンソーシアム大阪」は、大阪府下に設置されている国公私立の4年制大学が加盟し、大学の知的財産を地域社会や産業界等に活用することを目的として結成された団体です。同団体の設立趣旨に基づき、加盟大学間で単位互換制度が設けられています。

本単位互換制度では、開講科目が「オンキャンパス科目」と「センター科目」に分かれています。

○オンキャンパス科目

各大学の既存カリキュラムの科目の一部に単位互換履修生の定員枠を設け、開設する科目です。

○センター科目

各大学のキャンパスで開講されるのではなく、都心部の会場で開講される科目で、各大学から提供される「大阪学」や資格関係科目等があります。

なお、本単位互換制度により他大学の授業科目を履修する際の履修制限単位、修得単位の取扱い等については、学部によって異なりますので、各学部の教育課程欄を参照してください。詳細は、インフォメーションシステム等で確認してください。

学部連携科目について

学部専門教育科目のうち、全学的にオープンされた科目を、所属学部を超えて受講ができます。受講にあたっては、人数制限などの履修上の制限がありますので注意してください。詳細は、インフォメーションシステム等で確認してください。

社会連携科目

企業や自治体等と連携して、実際に社会が抱える現実の課題に取り組むPBL（Project-Based Learning）型授業「サービスラーニング（各テーマ）」を設置しています。専門教育の基礎を修めた3年次以上の各学部学生を対象とし、学際的なテーマへの取り組みを目指します。

また、次代を担うグローカル（グローバルとローカルをかけあわせた造語）人材には、リーダーシップと同様にフォロワーシップ（補佐力）が求められます。具体的には、①専門的技能と知識、②高度な語学運用能力、③コミュニケーション能力、④問題解決能力及び「考動力」、⑤国際適応力及び異文化理解力を培う課程で、信念の強さや異文化に対する感受性、さらには良好な人的ネットワークの構築力などのコンピテンシー、すなわち高い成果を生み出すための行動特性を涵養します。

健康・スポーツ科目群の履修について

ねらい

関西大学では、「学の実化」という教育方針にもとづいて「体育の奨励」を高らかに謳い、「生涯スポーツ研究ステーション計画」というプランにもとづいてユニークな授業開発に力を入れてきました。そこでは、単に健康管理や運動量確保だけでなく、仲間づくりや生活習慣の安定、学生間の相互支援など、大学生活を有意義に過ごすために必要な学びが得られるはずです。開講科目については下表を参照してください。

授業科目名	単位	配当年次
健康・スポーツ科学実習ａ（各種目）	1	1
健康・スポーツ科学実習ｂ（各種目）	1	1
健康・スポーツ科学実習ｃ（各種目）	1	1
健康・スポーツ科学論	2	1

成績評価について

各科目では、積極的な授業参加をとおしてさまざまな学びを得ることを期待しています。成績評価については、出席状況、受講姿勢、振り返りのレポートなどによって総合的に評価します。

健康･スポーツ科学実習ａ（春学期）　健康･スポーツ科学実習ｂ（秋学期）　健康･スポーツ科学実習ｃ（集中）

「健康・スポーツ科学実習a」･「健康・スポーツ科学実習b」･「健康・スポーツ科学実習c」は、生涯にわたってスポーツを楽しむ「スポーツライフ」を送れることが大きな意義を持ち、誰もがいつでもどこでもスポーツを実践できる生涯スポーツ社会を実現するための環境の整備が求められている今日において、大学教育が担う生涯学習機能の考えのもと、生涯スポーツとしてのスポーツ種目を実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、大学卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計・実践できる能力を培います。

ひとつの種目を半年間15週をとおして履修し、基礎的な知識や技術を修得するとともに、生涯スポーツの実践に繋げることを目的とします。

種目としては、テニス、フットサル、バドミントン、卓球、バレーボール等の一般的な球技のほか、ダンス（ストリートダンス）やヨガ＆ピラティス、フィットネストレーニング、護身術などのクラスも開講されます。

また「健康・スポーツ科学実習c」は、集中授業の学外応用編として、アイススケート、アウトドアスポーツ、ゴルフ、アドベンチャープログラム等を展開します。

健康・スポーツ科学論

「健康・スポーツ科学論」は、大学学齢期である青年を対象に、人間の身体と心の仕組みを熟知させ、生涯を通じて健やかに過ごす術を教授する健康教育科目であり、本科目の授業をとおして得られる知識は、大学生活を健康で有意義に過ごすための一助となるだけではなく、卒業後の人生を豊かにし、健康で活力ある家庭や社会を築く上でも欠かすことのできない重要なものです。

「健康・スポーツ科学実習」と併せて受講することで、本学の理念である「学の実化」（学理と実際との調和）の遂行となり、学んだ内容を実践的な知識として生活化することができるようになっています。

留意事項

「健康・スポーツ科学実習ａ」「健康・スポーツ科学実習ｂ」「健康・スポーツ科学実習ｃ」を履修するには、**本学所定の健康診断を受診してください。**

外国語検定試験の単位認定について

〈英語〉

各自が受験した外国語検定試験は、所定の申請手続を行うことにより、次のとおり未修得科目に限り単位認定されます。単位認定された場合の評価は「認」となります。

<table>
<tr><th rowspan="3">各検定試験の
認定条件スコア</th><th colspan="4">単位認定対象科目（単位数）</th><th rowspan="3">認定単位数</th><th rowspan="3">備　考</th></tr>
<tr><th colspan="3">①英語Ⅰab～Ⅳabとしての認定</th><th rowspan="2">②「検定認定科目」（各2単位）としての認定</th></tr>
<tr><th>検定認定1相当</th><th>検定認定2相当</th><th>検定認定3相当</th></tr>
<tr><td>TOEIC® L&R 490～569
TOEIC® L&R IP 490~569(備考1)
TOEFL iBT® 44～53
TOEFL ITP® 446~477(備考1)
実用英語技能検定2級
IELTS 4.5、5.0</td><td>英語Ⅰa（1）
英語Ⅰb（1）
英語Ⅱa（1）
英語Ⅱb（1）
のうち
未修得の単位
2単位以内
（備考2）</td><td>—</td><td>—</td><td>英語Ⅰab・Ⅱabを
修得済の場合

「検定認定1（各検定試験）」
として認定</td><td>最大2単位</td><td rowspan="3">（備考1）
学内試験分のみ
単位認定可能

（備考2）
再履修の場合のみ
単位認定可能

（備考3）
2年次の履修に先行して単位認定</td></tr>
<tr><td>TOEIC® L&R 570～669
TOEIC® L&R IP 570~669(備考1)
TOEFL iBT® 54～66
TOEFL ITP® 478~516(備考1)
実用英語技能検定準1級
IELTS 5.5</td><td>英語Ⅰa（1）
英語Ⅰb（1）
英語Ⅱa（1）
英語Ⅱb（1）
のうち
未修得の単位
2単位以内
（備考2）</td><td>1年次申請
英語Ⅲa（1）
英語Ⅲb（1）
2単位(備考3)

2年次以降申請
英語Ⅲa（1）
英語Ⅲb（1）
英語Ⅳa（1）
英語Ⅳb（1）
のうち
未修得の単位
2単位以内
（備考2）</td><td>—</td><td>英語Ⅰab～Ⅳabを
修得済の場合

単位数に応じて
「検定認定2（各検定試験）」
「検定認定1（各検定試験）」
として上位レベルから認定</td><td>最大4単位</td></tr>
<tr><td>TOEIC® L&R 670～990
TOEIC® L&R IP 670~990(備考1)
TOEFL iBT® 67～120
TOEFL ITP® 517~677(備考1)
実用英語技能検定1級
IELTS 6.0～9.0</td><td>英語Ⅰa（1）
英語Ⅰb（1）
英語Ⅱa（1）
英語Ⅱb（1）
のうち
未修得の単位
2単位以内
（備考2）</td><td colspan="2">1年次申請
英語Ⅲa（1）　英語Ⅳa（1）
英語Ⅲb（1）　英語Ⅳb（1）
4単位
（備考3）

2年次以降申請
英語Ⅲa（1）　英語Ⅳa（1）
英語Ⅲb（1）　英語Ⅳb（1）
のうち未修得の単位
4単位以内
（備考2）</td><td>英語Ⅰab～Ⅳabを
修得済の場合

単位数に応じて
「検定認定3（各検定試験）」
「検定認定2（各検定試験）」
「検定認定1（各検定試験）」
として上位レベルから認定</td><td>最大6単位</td></tr>
</table>

（注1）　同一レベルの認定は重複して行いません。
　　例：実用英語技能検定2級にて「検定認定1」の単位認定を受けた場合は、TOEIC® L&Rスコア 490で申請はできません。
（注2）　上表「①英語Ⅰab～Ⅳabとしての認定」後、当該科目の履修はできません。
（注3）　上表「①英語Ⅰab～Ⅳabとしての認定」を行った結果、1単位分の余剰が発生した場合、その1単位は認定されず、再度申請することもできません。
（注4）　上表「②『検定認定科目』（各2単位）」として認定された単位の取り扱いは、各学部の教育課程に記されていますので、確認してください。
（注5）　上表「①英語Ⅰab～Ⅳabとしての認定」を行う場合の優先順位は以下のとおりです。
　　（1）　abセットの科目を優先して認定します。
　　（2）　1年次配当科目は英語Ⅰab→Ⅱab、2年次配当科目はⅢab→Ⅳabの順で認定します。
（注6）　外国語学部生は「②「検定認定科目」（各2単位）としての認定」にて、「検定認定2（各検定試験）」「検定認定3（各検定試験）」のみ申請可能です。

万一、認定条件スコア等に変更があった場合は、インフォメーションシステム等により最新の情報をお知らせしますので、最新の情報に基づいて手続きをしてください。

〈ドイツ語、フランス語、ロシア語、スペイン語、中国語、朝鮮語〉

各自が受験した外国語検定試験は、所定の申請手続を行うことにより、次のとおり単位認定されます。単位認定された場合の評価は「認」となります。

各検定試験の認定条件スコア		単位認定対象科目（単位数） 「検定認定科目」（各２単位）としての認定
ドイツ語	ドイツ語技能検定４級 ドイツ語A１相当の検定試験	「検定認定１（各検定試験）」として認定
フランス語	実用フランス語技能検定４級 フランス語A１相当の検定試験	
ロシア語	ロシア語能力検定４級	
スペイン語	スペイン語技能検定４級 スペイン語A１相当の検定試験	
中国語	中国語検定３級 HSK５級	
朝鮮語	ハングル能力検定３級 韓国語能力試験２級	
ドイツ語	ドイツ語技能検定３級以上 ドイツ語A２以上相当の検定試験	「検定認定１（各検定試験）」 「検定認定２（各検定試験）」として認定
フランス語	実用フランス語技能検定３級以上 フランス語A２以上相当の検定試験	
ロシア語	ロシア語能力検定３級以上	
スペイン語	スペイン語技能検定３級以上 スペイン語A２以上相当の検定試験	
中国語	中国語検定２級・準１級以上 HSK６級	
朝鮮語	ハングル能力検定準２級以上 韓国語能力試験３級以上	

（注１） ドイツ語、フランス語、スペイン語については、言語能力の認定基準としてヨーロッパで広く普及しているヨーロッパ共通参照枠に準拠して、検定認定１をA１、検定認定２をA２以上に対応させます。認定機関が行う語学能力試験ではこのレベルが明記されていますので、受験の際に確認してください。

（注２） 同一外国語における同一レベルの認定は重複して行いません。
例：ハングル能力検定３級にて「検定認定１」の単位認定を受けた場合は、韓国語能力試験２級の申請はできません。

（注３）外国語学部生の申請については以下のとおりです。
（１） 中国語の単位認定については、主専攻言語中国語選択者に限り、「検定認定２」のみ申請可能です。
（２） 中国語以外の単位認定については、他学部と同様の扱いとなります。

万一、認定条件スコア等に変更があった場合は、インフォメーションシステム等により最新の情報をお知らせしますので、最新の情報に基づいて手続きをしてください。

申請手続〈全言語共通〉

所定の期間中に、外国語検定試験の結果を証明する書類（合格証明書、スコア証明書等）を添えて、申請書を提出してください。外国語検定試験の結果を証明する書類（合格証明書、スコア証明書等）は、申請日から過去２年間のものを有効とします。また、申請手続き・申請期間等詳細については、インフォメーションシステム等によりお知らせします。

なお、英語Ⅰab～Ⅳabとしての認定及び「検定認定１（各検定試験）」「検定認定２（各検定試験）」「検定認定３（各検定試験）」は履修制限単位に含みません。

各種資格取得課程について

本学で取得できる免許・資格は次のとおりです。

〈教職課程〉

種類	教科	種類	教科
小学校教諭一種免許状		高等学校教諭一種免許状	国語 地理歴史 公民 数学 理科 商業 工業 英語 フランス語 ドイツ語 中国語 情報
中学校教諭一種免許状	国語 社会 数学 理科 英語 フランス語 ドイツ語 中国語		

注　取得できる教育職員免許状の教科については学部・学科・専修により異なります。

〈図書館情報学・博物館学課程・社会教育〉

課程	資格名
図書館情報学	司書 司書教諭
博物館学	学芸員
社会教育	社会教育主事

・上記資格の他に、専ら学校図書館の職務に従事する職員に求められる知識・技能を習得できる「学校司書プログラム」もあります。

・各種資格取得・プログラムのための履修方法については教職支援センターホームページから自身の入学年度用の「教職課程履修の手引き」を参照してください。

Ⅰ　教職課程

概要

中学校・高等学校及び小学校の教育職員免許状の取得を希望する者は、各学部の教育課程のほかに、教育職員免許法の定めるところによって所定の科目（単位）を履修・修得し（中学校及び小学校の場合は介護等体験が必要）、免許申請手続を経て、免許状を取得することができます。

取得できる免許状の教科・種類（学部・学科・専修別）

法・文・経済・商・社会・政策創造・外国語・システム理工・環境都市工・化学生命工学部

学部・学科		免許教科	免許状の種類
法学部	法学政治学科	社会	中一種※1
		地理歴史	高一種※2
		公民	
文学部	総合人文学科	国語	中一種 高一種
		社会	中一種
		地理歴史	高一種
		公民	
		英語	中一種 高一種
		ドイツ語	
		フランス語	
		中国語	
経済学部	経済学科	社会	中一種
		地理歴史	高一種
		公民	
商学部	商学科	社会	中一種
		地理歴史	高一種
		公民	
		商業	
社会学部	社会学科	社会（※3）	中一種
		地理歴史（※4）	高一種
		公民（全専攻）	
政策創造学部	政策学科	社会	中一種
		地理歴史	高一種
		公民	
	国際アジア学科	公民	高一種
外国語学部	外国語学科	英語	中一種 高一種
		中国語	

※1　中一種：中学校教諭一種免許状
※2　高一種：高等学校教諭一種免許状
※3　社会学専攻・メディア専攻・社会システムデザイン専攻のみ取得可能
※4　社会学専攻・社会システムデザイン専攻のみ取得可能

学部・学科		免許教科	免許状の種類
システム理工学部	数学科	数学	中一種 高一種
	物理・応用物理学科	数学	中一種 高一種
		理科	
	機械工学科	数学	中一種 高一種
		理科	
		工業	高一種
	電気電子情報工学科	数学	中一種 高一種
		理科	
		情報	高一種
		工業	
環境都市工学部	建築学科	工業	高一種
	都市システム工学科	数学	中一種 高一種
		情報	高一種
		工業	
	エネルギー環境・化学工学科	理科	中一種 高一種
		工業	高一種
化学生命工学部	化学・物質工学科	理科	中一種 高一種
		工業	高一種
	生命・生物工学科	理科	中一種 高一種

学部・学科・専修	免許状の種類
文学部総合人文学科 初等教育学専修	小学校教諭一種 免許状

免許状取得に必要な基礎資格と最低修得単位数等

免許状の種類	基礎資格	介護等体験	法定上の最低修得単位数			
			文部科学省令に定める科目	教育の基礎的理解に関する科目等	教科及び教科の指導法に関する科目	大学が独自に設定する科目
小学校一種	学士の学位を有すること。	要	8	27	30	2
中学校一種	学士の学位を有すること。	要	8	27	28	4
高等学校一種	学士の学位を有すること。	—	8	23	24	12

履修・修得の方法

教育職員免許状を取得するためには、「文部科学省令に定める科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「教科及び教科の指導法に関する科目」等の所定の単位を修得するとともに、基礎資格として学士の学位を有することが必須要件であり、その履修・修得の方法は、概ね次のとおりです。

1　文部科学省令に定める科目

文部科学省令に定める科目（教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目）は、日本国憲法（２単位)、体育（２単位)、外国語コミュニケーション（２単位)、数理、データ活用及び人工知能に関する科目（２単位）又は情報機器の操作（２単位）の計８単位が必要です。

これらの法定科目（単位）に対応する本学の授業科目（単位）は、所属学部により異なりますので、詳細は教職支援センターホームページから自身の入学年度用の「教職課程履修の手引き」を参照してください。

2　教育の基礎的理解に関する科目等

教育の基礎的理解に関する科目等については、次の必修科目があります。

〔中学校・高等学校〕

科目	中一種の単位数	高一種の単位数
教育原理	2	2
教職概説	2	2
教育制度論	2	2
人権教育論	2	2
教育心理学	2	2
特別支援教育論	1	1
カリキュラム開発論	2	2
道徳教育の理論と方法	2	—
総合的な学習の時間の指導法	1	1
特別活動論	2	2
教育の方法及び技術(情報通信技術の活用を含む)	2	2
生徒・進路指導論	2	2
教育相談論	2	2
教育実習事前指導	1	1
教育実習㈠	2	—
教育実習㈡	2	2
教職実践演習（中等）	2	2
合計	31	27

〔小学校〕

科目	小一種の単位数
教育原理（初等）	2
教職の実際	2

教育政策論	2
学習・発達論（初等）	2
特別支援教育論（初等）	2
カリキュラム論	2
道徳教育の理論と実践	2
総合的な学習の時間の指導法（初等）	2
特別活動論（初等）	2
教育方法学（初等）	2
ＩＣＴを活用した教育に関する理論及び方法	1
生徒・進路指導論（初等）	2
教育相談論（初等）	2
小学校教育実習事前指導	1
小学校教育実習㈠	2
小学校教育実習㈡	2
教職実践演習（初等）	2
合計	32

3　教科及び教科の指導法に関する科目

教科及び教科の指導法に関する科目は、免許状の種類・教科により科目（単位）が異なりますので、詳細は教職支援センターホームページから自身の入学年度用の「教職課程履修の手引き」を参照してください。

4　介護等体験

教育職員免許法の特例等に関する法律により、中学校及び小学校教諭一種免許状を取得するためには介護等体験を行う必要があります。介護等体験は社会福祉施設５日間、特別支援学校２日間の体験を行うことになります。

教職支援センターホームページについて

教員を志望する学生を対象に、教職課程の年間スケジュールや履修の方法（教職課程履修の手引き）、最新のニュースなど様々な情報を発信していますので活用してください。

URL：www.kansai-u.ac.jp/kyoshoku/index.html

教員採用試験に関する相談

教職支援センターでは、教職を志望する学生のみなさんを支援するために、学校現場の現状や課題に熟知し、実務経験豊富な専門のアドバイザーが、教員として必要な資質、能力を身に付けるためのアドバイスや教員採用試験対策などの相談に応じています。教職支援センターの詳細は、322ページを参照してください。

Ⅱ　小学校教諭一種免許状取得プログラム

全学部学生を対象として、神戸親和大学通信教育部との提携により、在学中に小学校教諭一種免許状を取得するためのプログラムを実施しています。本プログラムの詳細は教職支援センターホームページを参照してください。

なお、本プログラムは、中学校又は高等学校教員免許状取得を前提としたものであり、小学校教員免許状のみの取得はできません。

Ⅲ　図書館情報学課程

司書教諭

学校図書館（小・中・高等学校）の運営の中心は「司書教諭」の資格を有するものが掌ることになっており、その資格を取得するためには、まず教育職員免許状を取得していなければなりません。したがって、教育職員免許状取得に必要な科目の単位と司書教諭の資格取得に必要な科目の単位を修得し、卒業時に教育職員免許状を取得したのちに、所定の手続を経て取得することができます。

司書

図書館（国・公・私立）の専門的事務には「司書（及び司書補）」の資格を有するものが従事することになっており、司書資格取得に必要な科目を修得すればこの資格を取得することができます。（この場合は、教育職員免許状の取得は必要ありません。）

具体的には本学において、図書館情報学課程における司書に必要な科目の単位を修得すれば、図書館法による「司書となる資格を有する者」である旨の証明書の交付を受けることができます。

※上記資格の他に、専ら学校図書館（小・中・高等学校）の職務に従事する職員に求められる知識・技能を習得できる「学校司書プログラム」もあります。学校司書プログラム修了者には、修了した旨を記載した「単位修得証明書」を発行します。

Ⅳ　博物館学課程

学芸員

博物館には博物館資料の収集・保管・展示及び調査研究、指導、その他関連する事業についての専門的業務を掌る専門職員として「学芸員」を置くことになっており、在学中に学芸員資格取得に必要な科目を修得し、卒業すればこの資格を取得することができます。

具体的には本学において、博物館学課程における学芸員に必要な科目の単位を修得すれば、博物館法による「学芸員となる資格を有する者」である旨の証明書の交付を受けることができます。

Ⅴ　社会教育課程

社会教育主事

社会教育法では、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に、社会教育主事を置くよう義務づけており、その職務は「社会教育を行う者に専門的、技術的な助言と指導を与える」こととされています。大学に２年以上在学して62単位以上を修得し、かつ大学において文部科学省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得した者が都道府県及び市町村の教育委員会に就職した場合、社会教育主事補として１年以上経過すれば、社会教育主事として任用される資格が得られます。

また、上記の「社会教育主事」任用資格に加え、2020年度から、社会教育主事養成課程修了者は「社会教育士（養成課程）」と称することができることになりました。社会教育士は、NPOや企業等の多様な主体と連携・協働し、社会教育施設における活動のみならず、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる役割が期待されています。

第 2 章　学生生活いろいろ

コラム ― 学生生活のルールと危機管理

公共交通機関の乗車マナーを遵守

各キャンパスへのアクセスとして、公共交通機関を利用することになります。関大生だけでなく一般の方も利用しますので、乗車の際はマナーを遵守して、周囲の方の迷惑にならないようにしてください。
大学生として恥ずかしくない行動を心がけましょう。

自動車・バイクによる通学は禁止

関西大学は、自動車・バイクでの通学を全面禁止しています。これは、周辺地域の生活環境保全及び通学途中での事故による負傷や賠償などにより学業の継続が困難になるケースを防止するためです。
ただし、身体に障がいのある学生がやむを得ず使用する車両及び学生が機材等の搬入に必要な自動車等については、許可を得た上で入構できます。入構に際しては、「関西大学交通規制に関する規程」をよく読んで、所定の手続きを行ってください。

自転車は専用の駐輪場へ

大学では、学内の教育環境の維持・整備を目的に、自転車専用の駐輪場を設置しています。自転車は必ず駐輪場に停めてください。また大阪府では、条例により自転車保険（賠償責任保険）への加入が義務付けられていますので、ご留意ください。

キャンパス内は清潔に

関西大学では、将来計画を含めてよりよい環境づくりを目指していますので、キャンパス内の環境保全のため、次の項目を遵守してください。
・「指定喫煙所」以外での喫煙は禁止です。
・掲示・ポスター等の無断掲出は禁止です。事前に必ず許可をとってください。

夜間の行動には注意

夜間、卒業研究や課外活動などで遅くまでキャンパス内に残る場合は、キャンパス内外において事故等予測できない事態が起きる可能性があるため、夜間の行動には十分、注意してください。

学生証の提示

学生規程第３条に基づき、学生は学生証の提示について教職員から請求があった場合、必ず提示しなければならないことになっています。なお、夜間は人気がなくなることもあり、キャンパス内でも防犯上危険が生じる可能性があります。
学生の皆さんはキャンパス内の安全確保と防犯のため、学生証の携帯及び教職員や警備員から学生証の提示を求められた場合の提示にもご協力をお願いします。

盗難を防ぐために

近年大学構内において、盗難にあったり、忘れ物や落とし物をする人が増えています。現金や貴重品は必ず身につけるようにしてください。
・図書館、体育館、食堂・トイレ等で、カバン等は絶対に放置しないでください。
・課外活動の部室、会議室、更衣ロッカー等を利用する際はしっかりと施錠を行い、貴重品等の取扱は十分に注意してください。
・自転車は二個以上の鍵をつけるか、Ｕ字錠や太いワイヤー錠をかけて被害防止対策を行ってください。
万が一盗難被害にあった場合、落とし物を拾った場合は、速やかに各種対応窓口へ届け出てください。

悪質商法

学生を狙う悪質商法が後を絶ちません。
・アポイントメント商法：「あなたが選ばれました」「楽しいサークルがあるから来てみないか」等、電話やＳＮＳで呼び出す商法。
・キャッチセールス商法：「アンケートに答えてほしい」等と路上で声を掛けてくる商法。
・ネットワークビジネス（いわゆるマルチ商法）：「入会すれば人脈を広げられる」「よいアルバイトがある」等と声を掛けられる説明会等に参加した結果、「友達を誘えば簡単にお金が手に入る。ネットワークビジネスだからマルチ商法ではない。一緒に“勝ち組”になろう」等と勧誘し、高額な資産運用ソフト等の契約をさせるという商法。
以上に記載している手口は一例にしかすぎません。近年はより一層巧妙になり、絶えずあなたを狙っています。「うまい話には落とし穴がある」ということを肝に銘じ、軽率な行動をさけるとともに、契約書等にはうかつに個人情報の記入やサインをしないようにしてください。
万一被害にあった際は、直ちに最寄りの消費生活センター、国民生活センター又は各種対応窓口に連絡、相談してください。

クレジットカード・学生ローン

サインするだけで手軽にショッピングやホテル、レストラン等の利用ができるクレジットカード、又は学生証のみで即日借入れをすることのできる学生ローン等を安易に利用すると、その返済に追われ学生生活の継続が危ぶまれることになります。
家計が急変し、学費支弁や生活の資金繰りが困難となった場合には、奨学金や教育ローンの制度があります。
また短期間のみの生活資金や、やむを得ない一時的な出費に対して援助する短期貸付制度もあります。上記制度の利用に関しては、学生センター奨学支援グループ又は各キャンパス窓口に相談してください。

通学定期券・学割証など

通学定期券について

通学定期券は、現住所の最寄駅から大学の最寄駅までの『**通学を目的**』とする『**最短経路**』『**最安経路**』など、著しく迂回とならない経路で購入することができます。

最短経路・最安経路が判断し難い場合や、その他の不明点については、各交通機関にお問い合わせください。

なお、通学定期券の購入・使用に際しては、特に次の事項に注意してください。

1　クラブ活動やアルバイト等の目的では通学定期券を購入することはできません。

2　通学経路を変更する場合は、教務センター（千里山キャンパス以外の学部生は各キャンパス窓口）備え付けの異動届に必要事項を記入のうえ、在籍確認票を添えて届け出てください。

なお、以下のような不正行為を行った場合は、通常運賃の数倍の不正使用期間分の料金が追徴されるとともに、大学からも懲戒されることになります。また、大学に対しても、通学定期券の発行が取り消されることもありますので、通学定期券の不正購入・使用は絶対に行わないでください。

⑴　大学へ虚偽の届出を行い、通学定期券を購入すること。

⑵　大学へ届け出ずに、本人が勝手に在籍確認票記載の通学経路を書き換えて通学定期券を購入すること。

⑶　通学定期券を他人へ譲り渡すこと。又は、他人から譲り受け使用すること。

⑷　期間や乗車区間の重複した通学定期券を使用すること。

定期券の購入方法

1　通学定期乗車券を購入するときは、定期券発売所に備えてある申込用紙に必要事項を記入し、学生証と在籍確認票（兼通学定期券発行控）を一緒に提示して購入してください。

また、交通機関によっては、学生証と在籍確認票（兼通学定期券発行控）のほかに別途通学証明書が必要な場合があります。この通学証明書の発行は、教務センター（千里山キャンパス以外の学部生は各キャンパス窓口）で行います。

2　各交通機関の連絡定期乗車券やＩＣカード乗車券など、交通機関によりサービスが異なります。詳細については直接、定期券発売所等で確認してください。

所属学部以外のキャンパスに通学する場合の通学定期券発行について

所属する学部のあるキャンパス以外のキャンパスで授業を受ける場合、週３日以上履修登録することにより、両キャンパスへの通学定期券の購入申請が可能となります。
申請手続きについては、以下の窓口で行ってください。

所属学部	申請窓口
下記以外の学部	千里山キャンパス 教務センター
総合情報学部	総合情報学部オフィス
社会安全学部	ミューズオフィス
人間健康学部	堺キャンパス事務室

※申請方法や申請にかかる注意事項等の詳細は、インフォメーションシステムにてお知らせします。

学割証の利用方法

学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）は、各キャンパスの証明書自動発行機で発行します（所属外キャンパスでも発行可）。発行機の設置場所・取扱時間は、巻頭の「証明書・学割証自動発行サービスについて」を確認してください。

交付枚数は年度ごとに１人20枚に限られ、１回の発行枚数は原則として１週間に３枚以内です。学割証の使用については、学割証裏面の注意事項を厳守することはもちろん、次の事項に注意してください。

1　学割証は、本人に限って使用できます(他人に渡して使わせたり、他人からもらって使うことはできません)。ただし、学生証を携帯しない場合は購入及び使用できません。

2　学割証を不正使用した場合、使用者は３倍の運賃を追徴され、学割証の交付が停止されます。

なお、そればかりでなく大学は、割引制度の特典を喪失し、大学に保管されている学割証をすべて回収されますので、不正使用は絶対に行わないでください。

3　学割証は、片道101㎞以上の区間を乗車・乗船する場合に使用できます。

割引率は、普通運賃の２割引で、有効期間は発行日から３カ月です。

団体旅行証明書とは

JRでは、合宿・遠征等の課外活動やゼミ旅行等で、学生８人以上が教職員に引率されて同じ経路により旅行する場合、普通運賃について学生団体割引の制度（割引率５割）が適用されます。

大学所定の団体旅行証明願に必要事項を記入し、ＪＲ窓口又は旅行業者の所定用紙を添えて、ゼミ等の団体は教職支援センター（千里山キャンパス以外の学部所属団体は各キャンパス窓口)、体育会は学生センタースポーツ振興グループ、その他の課外活動団体は学生センター学生生活支援グループ（千里山キャンパス以外の所属団体は各キャンパス窓口）へ提出し証明を受けてください。

団体旅行の手続きは、乗車日の９カ月前から14日前まで行っていますので、指定席・寝台等を利用する場合、早めに手続きをしてください。

総合図書館

概要

関西大学図書館は、千里山キャンパスの総合図書館、高槻キャンパスの高槻キャンパス図書館、高槻ミューズキャンパスのミューズ大学図書館及び堺キャンパスの堺キャンパス図書館で構成されています。

みなさんは、いずれも直接利用することができ、予約をすれば所属するキャンパスの図書館に資料を取り寄せて利用することもできます。また図書館ウェブサイトは図書館の施設案内や利用案内及び各種サービスについて掲載しているほか、蔵書検索システムKOALA、各種データベース、電子書籍、電子ジャーナル等を利用する入口となっていますので、積極的に活用して学習に役立ててください。

主要施設

○　地下１・２階：書庫　研究個室（20室）
○　１階：レファレンス室　特別閲覧室　ラーニング・コモンズ
　　ＥＵ情報センター(EUi)
○　２階：開架閲覧室
○　３階：一般閲覧室（３室）　グループ閲覧室（３室）　Global Smart Classroom
　　貴重書庫

開館時間など

開館時間

期間 / 区分	学部の授業・試験を行っている期間		学部の授業・試験を行っていない期間		
	月～土曜日	日曜日・祝日	月～金曜日	土曜日	日曜日・祝日
１階・２階・書庫	９：00～22：00	10：00～18：00	10：00～20：00	10：00～18：00	休　館
１階ラーニング・コモンズ	９：00～20：00	閉　室	10：00～17：00	10：00～17：00	
３階一般閲覧室	９：00～18：00	閉　室	閉　室	閉　室	
３階グループ閲覧室	９：00～21：10	10：30～17：30	10：30～19：30	10：30～17：30	

休館日

・学部の授業、試験を行っていない期間中の日曜日と国民の祝日に関する法律に規定する休日（ただし、授業日となった場合は開館）
・８/11～20　・年末年始
・大学の昇格記念日（６/５）及び創立記念日（11/４）（ただし、授業日となった場合は開館）
・入学試験期間
・年度末の３日間（ただし、日曜日を含む場合は４日間）
・学園祭開催期間

・その他臨時休館日
※臨時休館や開館時間を変更する場合については、図書館内の掲示と図書館ウェブサイトでお知らせします。

学生証

学生証は、図書館を利用するときに必要ですので必ず携帯してください。

利用指導

効果的な図書館利用と文献情報に対する知識の習得を目的として、各種ガイダンスを行っています。
詳細については、図書館ウェブサイトを参照してください。

1階　エントランス・レファレンス室

エントランスカウンター

学外利用者の受付を行っています。

メインカウンター

図書館の総合案内の役割を担っています。

レファレンスカウンター

所蔵調査、事項調査や利用相談などを受け付けています。

ラーニング・コモンズ

学生の主体的な学習を支援するため、ノートパソコンやプロジェクター等の設備が整っています。ワーキング・エリアの個室やラーニング・エリアを利用して、ディスカッションやゼミの発表準備などができ、ライティング・エリアでは、ティーチングアシスタントから文章指導が受けられます。またワークショップ・エリアには大型スクリーンやマイク設備等があり、図書館ガイダンスを行っているほか、授業、ゼミ発表や小グループに分かれてのディスカッション等で利用できます。（ワークショップ・エリアの利用申し込みは本学教員のみ可能です。）

2階　開架閲覧室

開架カウンター

開架図書の貸出・返却・更新・予約・問合せのほか、AV資料の利用、購入希望図書の申し込み、3階グループ閲覧室の利用申込の受付などを行っています。貸出・更新については、自動貸出機を利用してください。

3階　一般閲覧室・グループ閲覧室

一般閲覧室

自習用の閲覧室が3室あり、それぞれ部屋の雰囲気が異なっています。

グループ閲覧室（予約申込制）

図書館の蔵書を活用してグループ討議しながらの学習に利用できます。利用日の1か月前から予約を受け付けています。

図書・雑誌のさがし方

蔵書検索システム（KOALA） 携帯電話・スマートフォンでも検索可

KOALAは、関西大学の蔵書を検索するシステムです。

必要な図書や雑誌が、関西大学にあるか、どこに何冊あるか、貸出中かどうかなどがわかります。学外から検索することもできます。

冊子目録

冊子目録は図書の形態をしており、個人文庫を中心とするコレクションの目録や近世文書目録、マイクロ資料目録があります。

図書・雑誌の利用のしかた

館内閲覧

1階・2階の図書や新着雑誌は、書架から自由に手に取って利用してください。利用後は、必ず元の場所に戻してください。

館外貸出

2階の図書の貸出を希望する場合は、開架カウンター又は自動貸出機を利用してください。

貸出冊数・期間

貸出冊数	貸出期間	備　　考
10冊以内	2週間以内	雑誌（バックナンバー）は3日以内
試験期間は貸出期間が短縮されます。また、試験期間以外でも利用が集中した図書の貸出期間は短縮されることがあります。		

※　貸出できない資料もありますので注意してください。

貸出期間の延長（貸出更新） オンラインでも手続可

貸出期間を延長したいときは、返却期限内に図書を持参のうえ、貸出手続をしたカウンターで申し込んでください。他の予約がない場合に限り、1回だけ延長することができます。ただし、返却期限が過ぎている図書がある場合は延長できません。また、試験期間中は返却期限内であっても延長できません。

返却

借りた図書は、期日までに必ず返却してください。また、延滞中の図書がある場合は、新たに図書を借りたり予約したりすることはできません。なお、貸出中の図書を紛失したり破損・汚損したときは、速やかに貸出手続をしたカウンターに申し出てください。相当金額の弁償を求めます。

予約（取寄せ） オンラインでも申込可

他の人が借りている図書、他キャンパスの図書館から取寄せを希望する図書については、1人12冊まで予約することができます。予約した図書が利用できるようになれば、図書館ウェブサイトからアクセスできるMyLibraryに登録されたメールアドレスにお知らせします。予約資料の取置期間は通常は1週間、試験期間中は3日間です。

オンラインサービス　携帯電話・スマートフォンでも利用可（一部機能のみ）

図書館のカウンターで行っている各種申し込み（予約、貸出更新、購入希望など）やその状況確認などを、インターネットを利用して行うことができます。KOALAからアクセスできます。

図書以外の利用

データベース（情報検索）

図書館ウェブサイト「情報検索」の「データベースポータル」には、雑誌論文や新聞などの情報検索に効果的な各種Web版データベースを収録しています。また「KOALA」「電子リソースポータル」では、本学で利用できる電子書籍、電子ジャーナルを検索できます。学内ネットワークに接続したパソコンからは、利用契約の範囲内で多くの資料を利用できます(一部学外からの利用も可能)。総合図書館内では、１階レファレンスカウンター前に、インターネット用パソコンとプリンターを設置し、こうしたネットワークで利用する資料を提供しています。なお、このプリンターは●●ページITセンターの「関大Myプリント」で説明されている内容と同じ方法で出力できます。他にも、レファレンスカウンターで手続きを行って利用するDVD資料等も所蔵しています。

電子書籍

図書館では、電子書籍を所蔵しています。「KOALA」でも検索が可能で、リンクをクリックすることで、同時アクセス制限数に空きがある限り、パソコンやスマートフォンで利用できます。

マイクロ資料

国内外の新聞をはじめ多数のマイクロ資料を所蔵しています。利用する場合は、１階レファレンスカウンター前の「マイクロ資料一覧」又は「マイクロ資料リスト（和文・欧文)」で必要事項を調べて、レファレンスカウンターに申し込んでください。また、図書館ウェブサイト「情報検索」の「マイクロ資料一覧」からも検索することができます。

AV（Audio Visual）資料

２階のAV資料閲覧コーナーでは、AV資料を利用することができます。蔵書検索システム（KOALA）で調べて申し込んでください。

そ　の　他

複写

図書館所蔵資料の複写は、著作権法により図書の一部分、又は雑誌論文単位で一人１部に限られています。

なお、複写をする際は、備付の「文献複写申込書」に必要事項を記入して、回収箱に入れてください。また、図書館内では図書館資料でないもの（個人の本・ノート等）の複写はできません。

所蔵していない資料の利用

図書館に所蔵していない資料を、他キャンパス図書館、学部資料室などから取り寄せることができます。また、他大学の図書館から図書を借用したり複写物を取り寄せることができます（有料)。ただし、貴重書等取り寄せできないものもあります。希望者はレファレンスカウンターに申し込んでください。

無線LAN　KU Wi-Fiエリア

図書館内には無線LANが使用できるKU Wi-Fiエリアと、機器類が一切使用不可のサイレントエリアがあります。詳細については館内に掲示してあるマップを参照してください。

インフォメーションテクノロジーセンター（ITセンター）

概要

ITセンターは千里山キャンパスにある全学共同利用の施設です。最先端のICT（Information and Communication Technology）環境を整備し、学習や研究活動、学内事務を支援しています。学生や教職員が利用できるパソコンやプリンタを設置し、さらに、学内各所に無線LANアクセスポイントを設置していますので、個人のパソコンも学内ネットワークに接続して利用することができます。

利用者IDとパスワード

入学と同時に利用者IDが与えられます。利用者IDは「在籍確認票」の“ITセンター利用者ID”欄に記載されています。初期パスワードは入学時に配付される「パスワード通知書」でお知らせします。

パスワードは他人に推測されにくいものに変更し、厳重に管理しましょう。変更はITセンターWebサイトからできます。

パソコン相談コーナー

自分のノートパソコンやスマートフォンなどの情報端末を大学生活で活用するためのサポートを行っています。無線LAN（KU Wi-Fi）の設定、関大Webメール、大学が包括契約しているソフトウェア（Microsoft 365、ウイルス対策ソフトなど）のインストール相談などを受けています。（問い合わせ先：06-6368-1275）

○　千里山キャンパス：ITセンター1階
○　高槻キャンパス：C棟3階学生サービスステーション内
○　高槻ミューズキャンパス：4階ITステーション内
○　堺キャンパス：A棟3階PC教室受付内

サービス利用

ITセンターでは主に以下のサービスを提供しています。詳細はITセンターWebサイトで確認してください。

○　KU Wi-Fi（ネットワーク接続/無線LAN）
○　関大Webメール（メール/Outlook）
○　サイトライセンスソフトウェア利用（ウイルス対策ソフト・Microsoft365・SPSSなど）
○　関大Myプリント（オンデマンド印刷）
○　Dropbox Kansai University（オンラインストレージ）
○　Zoom（オンライン会議）
○　オープンPCコーナー（パソコン・プリンタ利用）　※ITセンター4階

詳細情報

ITセンターWebサイトのアドレスはwww.itc.kansai-u.ac.jpです。

開室カレンダーや各種サービスのマニュアル、ITセンターからのお知らせなどを閲覧することができます。

ライティングラボ

概要

ライティングラボは、対話による文章作成のサポートをとおして、考える力、伝える力、組み立てる力を養う施設です。授業の課題レポート、ゼミでの発表資料から卒業論文に至るまで、日本語のアカデミック・ライティング（学術的文章の作成）に対応しています。対面でのアドバイスに加え、インターネットを介したオンラインでのアドバイスも受けられます。

文章作成のアドバイスは、訓練を受けた大学院生等のライティング・チューターから受けることができます（１回のセッションは40分です）。チューターとの質問や対話をとおして、みなさんの文章をさらに良いものにしていきます。添削や書き直しの指導を受けるのではなく、チューターと一緒に文章上の問題点を発見し、どのように改善すれば良いかを考えます。

予約方法

ライティングラボのウェブサイトから予約をお願いします。まだ文章を作成していない段階から完成後まで、文章作成のあらゆる段階でアドバイスを受けることができます。書きかけの文章がある場合は、予約時にファイルを添付してください。よりスムーズにアドバイスを受けられます。

予約方法の詳細は学内で配布しているパンフレット「ライティングラボ利用案内」もしくは、以下のライティングラボのウェブサイトをご確認ください。

利用対象者

本学の学部生・博士課程前期課程生であれば誰でも利用できます。

開室曜日・場所

授業期間中の月曜日から金曜日まで（休日を除く）開室しています。

千里山キャンパス総合図書館１階ラーニング・コモンズ内ライティング・エリア、第１学舎１号館５階、第４学舎１号館１階協同学習室で対面でのサポートを受けることができます。ただし変更の可能性があるため、最新情報を下記のライティングラボのウェブサイトで確認してください。

＊オンラインでのアドバイスは学内外を問わず、どこからでも質問・相談することができます。

授業外講座・e-Learning教材

上述の個別アドバイスとは別に、レポートや発表資料などを作成するためのスキルを身に付ける「ワンポイント講座」を授業外で開催しています。詳しくは、以下のライティングラボのウェブサイトをご確認ください。

また、「関大LMS」の以下のコースにライティングスキル向上に役に立つ資料やビデオ教材などを公開しています。ライティングラボの利用と合わせて活用してください。

関大LMSでのコース登録の手順は次のとおりです。

【コース名】「ライティング力 を高めて、いいレポート・卒論を書こう ！」

【登録手順】関大LMS（https://kulms.tl.kansai-u.ac.jp/）→ログイン→右下［コースの追加］→［参加可能なコース］→上記コース名の［メンバーになる］をクリックする

ウェブサイト

www.kansai-u.ac.jp/ctl/labo/

こちらのサイトには、さまざまな文章作成に役立つ資料もあります。

ぜひ一度アクセスしてみてください。

コラボレーションコモンズ

概要

コラボレーションコモンズとは、ラーニングエリア、ラーニングエリア２、グローバルエリア、ピアエリア、ICTエリアから構成される専門エリアに加え、多目的エリアのコラボレーションエリアを設け、他者と共同した学習を支援する施設です。

専門エリアでは、各専門性を活かした学びと学習支援を行います。例えば、ラーニングエリア２では、プレゼンテーション、ノートテイク、文献を読むコツなどについて学ぶラーニングカフェを実施します。プロジェクター、モニター、ホワイトボードを使用し、ゼミでの学習、サークルや課外活動の勉強会、研修などグループワークをすることができます。グローバルエリアでは、学生スタッフを活用し、留学生による留学相談などを実施します。ピアエリアでは、ピア・コミュニティに関する情報の提供や活動に参加する学生への説明会を実施します。ICTエリアでは、グループでPCを囲んで作業をすることができます。

リンコムライブラリーでは話題の書籍、雑誌、新聞等を自由に閲覧することができます。

コンシェルジュカウンター対応時間

授業期間：９：00～17：45（ただし、土曜日は10：00～15：45）

授業期間外及び学期末試験期間：９：00～16：45

＊大学行事等により変更になる場合がありますので、大学ホームページ等で確認してください。

愛称

コラボレーションコモンズの愛称は「LinCom（リンコム）」です。愛称は、学生の応募の中から選ばれ、LinComのLinは、凜風館の（Lin）、つながるという意味のLinkを、Comは、コラボレーションコモンズ（Commons）、コミュニケーション（Communication）を表現しています。

利用について

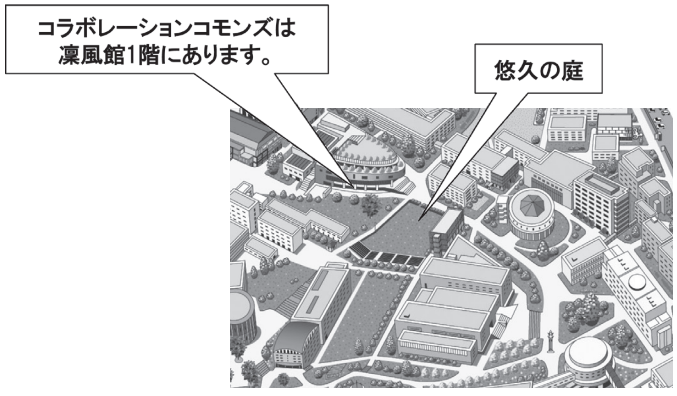
本学の学生であれば誰でも利用できます。

貸出備品・設備等

貸出備品として、ノートパソコン・プロジェクター・OHC（書画カメラ）・ホワイトボード・BIGPAD（インタラクティブホワイトボード）・大型モニター・デジタルカメラ・ビデオカメラを配置しています。またレーザーポインター・LANケーブル・延長コードの貸出も行っています。なお、コラボレーションコモンズ全域で無線LANが使える環境を整備しています。

場所

千里山キャンパス　総合学生会館メディアパーク　凜風館　１階



国　際　部

概要

関西大学は、海外40か国・地域の204を超える数の大学と協定を結んでいます。

国際部は、世界各国・地域にある協定校との学生・研究者交流をはじめとして、多様な国際交流活動を展開し、本学のグローバル化を推進しています。

場　　所：第２学舎１号館２階

開室時間：月～土曜日　９：00～17：00

※　英語による開講科目の運営等を行う国際教育支援室は、ソシオネットワーク戦略研究機構・経商研究棟２階にあります。

留学情報の提供

留学プログラムについてのガイダンス・各種イベント情報や、派遣先大学の情報、留学を終えた学生の現地での学習や生活に関するレポート、奨学金についての情報を、冊子版・Web版『GLOBAL NAVI』で紹介しています。

また、各種SNS（LINE、Facebook、Instagram、Twitter）でも随時情報を発信していますので、「関西大学国際部」で検索してください。

留学相談

国際部では、留学カウンセラーが常駐し、留学に関する情報やノウハウを提供し、留学実現に向けての支援やキャリア設計に的確なアドバイスを対面及びオンラインで個別に行っています。

また、留学から帰国した学生が留学アドバイザー（SAPA）として留学相談に応じています。

Mi-Room（マルチリンガルイマージョンルーム）

場　　所：第２学舎１号館２階

開室時間：月～金曜日　９：00～17：00（祝日除く）

開室時間中は自由に利用可能です。利用する場合は、入退室管理のため学生証（IDカード）をお持ちください。様々な国から来た留学生と関大生の交流スペースです。英語をはじめとした外国語習得のための各種セッション・イベントを実施しています。留学に関する資料の閲覧も可能で、協定校の情報、過去に留学した学生の報告書、留学に関する情報誌、語学習得教材等を配架しています。

また、2022年度より「バーチャルMi-Room」が開室しました。オンラインツールを使用して、関大生と海外協定校の学生が自由に交流できる空間です。関西大学で学べる外国語の会話スペースがオープンしており、どこからでも各自のPCでアクセスが可能です。

Mi-Room、バーチャルMi-Roomのセッション・イベント案内は、Web版『GLOBAL NAVI』や各種SNSで随時公開しています。

外国人留学生の支援

外国人留学生の在留手続、外国人留学生のみが対象となる奨学金の各種手続、学内外での国際交流イベントの実施及び参加受付、国際学生寮等に関する窓口は、国際部です。その他、日本での生活や本学での学習・生活に関して困った時には、気軽に国際部に相談してください。

博　物　館

概要：50年以上の歴史を誇る文化遺産学の拠点

関西大学博物館は、1954年に故末永雅雄名誉教授が設置した考古学資料室を前身とし、1994年４月「博物館法」による博物館相当施設として簡文館内に開設されました。簡文館（1928年建築、1955年円形部分増築）は2007年７月に登録有形文化財（建造物）に登録され、2018年３月に大阪府指定有形文化財（建造物）に指定されています。

常設展示室は日本の考古学資料を展示し、特別展示室では、企画展や博物館実習展を開催します。2008年３月に竣工した「高松塚古墳壁画再現展示室」では、原寸大の美術陶板で高松塚の壁画を作成し、1972年に発見された当時の石室内部を再現しています。

所蔵資料：約７万点の考古学や歴史学の資料を所蔵し、広く一般にも公開

2011年６月に登録有形文化財（考古資料の部）に登録された「本山コレクション」（元大阪毎日新聞社社長本山彦一氏蒐集資料）と、本学が発掘調査・購入・受贈により収集した考古、歴史、民俗資料等約７万点を収蔵しています。藤井寺市国府遺跡出土の玦状耳飾など15点と天理市出土の石枕は重要文化財に指定されています。

展示公開

開館日：月曜日～土曜日　10：00～16：00（入館は15：30まで）
休館日：日曜・祝日・その他大学の定めた休日
入館料：無料
展示内容の詳細や行事の日程は博物館ホームページでご確認ください。www.kansai-u.ac.jp/Museum/

教育研究活動

所蔵資料は、学内外の研究者によって調査研究に利用されるとともに、考古学実習をはじめとする実物資料教育に利用されています。また、博物館学課程の博物館実習生を受入れ、資料取扱方法や展示などの実習を実施しています。

普及事業

収蔵資料の紹介として、『博物館資料図録』『展示図録』を刊行している他、学術論文、調査報告、資料紹介等を収録した『博物館紀要』や博物館だより『阡陵』を発行し、博物館の情報を公開しています。また企画展と関連して開催する講演会や「ミュージアム講座」で、博物館情報の発信を行っています。その他、夏休みには小中学生を対象とした体験型行事も実施しています。

国立博物館キャンパスメンバーズ

本学は、京都国立博物館・奈良国立博物館の「キャンパスメンバーズ制度」に入会しており、学生証を提示すれば平常展が無料で何度でも観覧できます。

「キャンパスメンバーズ制度」とは、国立博物館と大学等が連携を図ることによって、博物館が所蔵する文化財を核として、文化や歴史を学ぶ場や機会を学生に提供することを目的としたものです。学習活動や研究、文化活動を行っていく上で、ぜひ、この制度を活用してください。

保健管理センター

健康診断

毎年４月に全学年を対象に定期健康診断を実施しています。これは、学校保健安全法により年１回必ず受診するよう義務づけられているものです。日程については、インフォメーションシステム等でお知らせしますので、必ず指定の日に受診してください。

また、健康診断を受診していないと健康診断証明書の発行ができませんので注意してください。

健康管理

定期健康診断において、病気もしくはその疑いが見つかった場合、本人宛に通知し、保健管理センターにて、保健指導や病院紹介等を行います。

健康相談

健康に関する疑問、悩みごと、心配ごとなどがあれば、医師・保健師・看護師が相談に応じています。

健康診断証明書の発行

卒業見込者は、証明書自動発行機で、卒業見込者以外の方は、保健管理センター事務室で申込を受け付け発行します。進学、留学や就職などで指定用紙による健康診断証明書が必要な場合は、保健管理センター事務室に申し込んでください。特別な検査を必要とする証明書については、日数がかかりますので、余裕を持って申し込んでください。ただし、証明書の内容によっては、保健管理センター事務室では発行できないこともありますので、保健管理センター事務室にご相談ください。なお、発行は、当該年度の定期健康診断を受けていることが原則で、受診していなければ発行できません。

環境衛生

大学の学舎、諸施設などの衛生管理（主として防疫、衛生害虫の駆除・殺菌消毒）及び食品衛生（保健所の指導により食中毒・感染症の予防）などの問題について、その場に応じた指導あるいは助言を行っています。

応急処置

急病やケガの応急処置を行っています。

第一診療所

風邪をひいた、胃腸の調子が悪いなどの日常おこる病気に対する診療を行っています。

なお、第一診療所は保険医療機関として保険診療を行っていますので、受診の際には健康保険証を提示のうえ受診してください。

業務取扱時間

	受付時間
保健管理センター事務室	月～金　９：00～19：00（土は17：00まで）（日・祝日 閉室）
第一診療所	月～金　９：30～12：00、13：30～15：30（土・日・祝日 休診）

（注１）　センターの夏季・冬季・春季の各休業期間中の受付時間（月～金）は17：00まで、定期試験期間中は18：00までとなります。

（注２）　第一診療所では医薬品の院外処方を行っています。

「遠隔地被保険者証」（学生用被保険者証）について

保険診療を受ける際には健康保険証が必要です。下宿や寮生活をしている学生には、各個人の保険証（カード）又は「遠隔地被保険者証」が発行されます。

詳細につきましては、関係先の健康保険組合又は市町村の役所・役場へお問い合わせください。

「学校において予防すべき感染症」に罹患した場合について

学校保健安全法及び学校保健安全法施行規則により、「学校において予防すべき感染症」が定められています。医療機関において、以下の感染症の診断を受けた場合、同法に準じ、登校せず療養するよう周知しています。

また、大学が感染状況を把握するために、「学校において予防すべき感染症」と診断された場合には、保健管理センター事務室（TEL 06-6368-1175、メールアドレスhokekan@ml.kandai.jp）に速やかに連絡してください。なお、連絡報告による情報については、第三者への開示をいたしません。

【学校において予防すべき感染症】

	病　　名
第１種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、特定鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１及びＨ７Ｎ９型）、中東呼吸器症候群（MERS）、新型インフルエンザ等感染症、新型コロナウイルス感染症、指定感染症、新感染症
第２種	インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１及びＨ７Ｎ９型を除く）、百日咳、麻しん（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん（三日ばしか）、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第３種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

※詳細については、関西大学ホームページのメニュー/学生生活・キャリア・資格/健康管理（保健管理センター）を参照してください。

誠之館（せいしかん）

概要

誠之館とは、中国古典『中庸』のなかに「誠は天の道なり。誠に之（いたる）は人の道なり。」とあるところからその名称がとられており、みなさんが単に教室ばかりではなく教室外においても、社会性や自立性を養い身につけることを目的として建てられた課外活動施設です。

2号館

1階には多目的会議室、共済会事務局・関大パンセ、ボランティアステーション、2階には各クラブの会議室があります。

3号館

旧館・新館・茶室・別棟からなっており、各クラブ部室・会議室・和室及び音楽練習室等があります。

5号館（凱風館（がいふうかん））

課外体育活動施設であり、凱風館という愛称は、『詩経国風篇』のなかに「凱風（万物を育てるという南風）南より、彼の棘心（いばらの蕾のような固い心、転じて青年の心）を吹く」とあるところからとられています。

ここには体育会各クラブ部室・道場・重量挙練習場・ボクシング練習場・パワージム等があります。

6号館（有鄰館（ゆうりんかん））

各クラブ部室・大小会議室・音楽練習室等があります。

有鄰館という愛称は、論語に「子曰く、徳は孤ならず、必ず鄰有り。」とあるところからとられています。

7号館（新凱風館（しんがいふうかん））

課外体育活動施設であり、体育会各クラブ部室・スポーツ振興グループ・会議室・相撲道場等があります。

8号館（養心館）

課外体育活動施設であり、養心館という愛称は、『孟子』尽心（章句）下篇のなかに「孟子いわく“心を養うは欲を寡（すくな）くするより善（よき）はなし”と。（孟子曰、養心莫善於寡欲。）」とあるところからとられています。

ここには、射撃場・柔道場・剣道場・アーチェリー場があります。

使用について

誠之館に関する使用申込みは、誠之館3号館新館（1階管理人室）・学生センター学生生活支援グループ・スポーツ振興グループにて取り扱っており、使用については、原則として課外活動団体（届出団体）単位とします。

KUシンフォニーホール

概要

舞台設備・照明設備・映写設備等が設置されたホールで、映画会・演奏会・演劇会等各種の催物に広く利用されています。総客席数は362席です。

使用について

KUシンフォニーホールに関する使用申込みは、学生センター学生生活支援グループにて取り扱っており、使用については、原則として課外活動団体（届出団体）単位とします。

総合学生会館（メディアパーク凜風館（りんぷうかん））

概要

「コミュニケーション広場の創出」を基本コンセプトに、１階の学生ラウンジは、学生が快適なキャンパスライフを謳歌し、多くの友と出会い、語り合える場を提供しています。2013年４月からは課外活動及び授業外学習に取り組む学生を支援するために、「コラボレーションコモンズ」を設置しています。２、３階には生活協同組合の食堂ならびに売店、物販、総合サービスカウンター、事務室等があります。また、４階は、学生の課外活動のためにミーティングルーム・和室・小ホール等の施設を備えています。

使用について

総合学生会館に関する使用申込みは、学生センター学生生活支援グループにて取り扱っており、使用については、原則として課外活動団体（届出団体）単位とします。

なお、「コラボレーションコモンズ」の使用については、１階のコンシェルジュまでお問い合わせください。

体 育 施 設

体育施設は、正課体育及び課外体育活動等に広く利用されています。

体育館概要

各体育館の使用概要については、次のとおりです。

千里山キャンパス	中央体育館	１Ｆ：サブアリーナA・サブアリーナ Ｂ・トレーニングルーム・図書資料室・更衣室・シャワー室及び中央体育館事務室・教員控室・器具庫 ２Ｆ：メインアリーナ ３Ｆ：ランニングレーン
	東体育館	１Ｆ：スポーツ図書コーナー、会議室、災害用備蓄倉庫、器械体操練習場、更衣室、シャワー室、体育会クラブ部室、管理室及び器具庫、ATルーム ２Ｆ：メインアリーナ、フィットネススタジオ ３Ｆ：観覧席
高槻キャンパス	Ｇ棟（体育館）	アリーナ、更衣室、教室、シャワー、事務室、器具庫 （隣接施設）多目的コート
高槻ミューズキャンパス	北館	４Ｆ：アリーナ

堺キャンパス	体育館	1F：挌技・実習教室、トレーニングルーム 2F：アリーナ（バレーボールコート2面など）

グラウンド概要

各グラウンドの使用概要については、次のとおりです。

千里山キャンパス	中央グラウンド	アメリカンフットボール、サッカー、ラグビー、陸上競技等
	KAISERS BASEBALL FIELD	硬式野球、準硬式野球
	北広場	アメリカンフットボール、サッカー、陸上ホッケー、ラグビー
高槻キャンパス	第1・2グランド	アメリカンフットボール、サッカー、ラグビー、陸上競技、陸上ホッケー
	第3グラウンド	硬式野球、準硬式野球
	多目的コート	ミニサッカー等
高槻ミューズ キャンパス	グラウンド	フットサルなど各種スポーツ
堺キャンパス	広場・Evergreen	ソフトボールなど各種スポーツ

テニスコート（千里山キャンパス・高槻キャンパス）

各テニスコートの概要は、次のとおりです。

千里山キャンパス	空中テニスコート （第4学舎3号館屋上）	テニスコート4面
高槻キャンパス	テニスコート	オムニコート4面

屋内練習場（千里山キャンパス）

屋内練習場は、第4学舎3号館に隣接しており、普段は課外体育活動に使用しています。また、雨天時には正課体育が屋内練習場を使用する場合があります。

室内温水プール（千里山キャンパス）

大学教育の一環として、身体運動の適正な発達を図る場として、25mプール（7コース）が100周年記念会館1階にあります。正課体育、体育会のクラブ活動及び学生、教職員、その他大学関係者の体育・スポーツ活動に利用されています。

プールの使用手続き及び注意事項

関西大学室内温水プールを使用するときは、プール事務室にて所定の用紙（使用願）に必要事項を記入し、使用許可を得たうえで使用料（210円）を納入し、所定の証紙を使用願に添付して入場してください。

なお、一般学生、教職員、その他大学関係者の使用時間帯については、一般開放の時間帯に限ります。

※プール使用者は、使用心得を厳守してください。

ゴルフ練習場（高槻キャンパス）

高槻キャンパスには、打球練習20打席・パター練習場1面を備えるゴルフ練習場があり、正課体育及び課外体育活動に使用しています。

関西大学たかつきアイスアリーナ（高槻キャンパス）

高槻キャンパスには、国際競技規格の通年型アイススケートリンクがあり、正課体育及び課外体育活動等に使用しています。

千里山キャンパス・高槻キャンパス体育施設使用について

千里山キャンパス体育施設の使用については、スポーツ振興グループの窓口に直接問い合わせてください。高槻キャンパス体育施設利用については、G棟（体育館）事務室もしくはスポーツ振興グループに問い合わせてください。高槻ミューズ及び堺キャンパスの体育施設は、各キャンパスの事務室にお問い合わせください。

なお、体育施設の使用についての電話での問い合わせには一切応じません。

体育館・グラウンドの使用手続き及び注意事項

千里山キャンパスの体育施設

1　体育館・グラウンドとも、体育会各部の使用責任者は使用日の２週間前までにスポーツ振興グループ備付けの所定の用紙に、使用目的・使用場所・使用日時・使用人員等を記入し、署名捺印のうえスポーツ振興グループに提出し、許可を受けてください。

2　上記以外の課外活動団体における使用は、使用日の前日午後１時以降に申込みをし、使用許可を受けてください。ただし、使用申込みが重複している場合は、使用できないこともあります。

また、体育館・グラウンドを使用するにあたっては、体育施設使用規程等に基づいた使用に限ります。

高槻キャンパスの体育施設

利用する際は、G棟（体育館）事務室にて備え付けの「事業届」に必要事項を記入のうえ、申込んでください。なお、申込みの受付け開始日は次のとおりとなります。

1　第１・２グラウンド

使用する前々日の11時から

2　G棟（体育館）、テニスコート、多目的コート、ゴルフ練習場

使用する１週間前の11時から

高槻ミューズキャンパスの体育施設

平日授業日の19時～20時に限り使用できます。

利用する際は、使用する前週の金曜日に西館２階ミューズオフィスに申込んでください。

堺キャンパスの体育施設

堺キャンパス事務室に所定用紙を提出してください。

利用上の注意事項

1　使用許可を受けた目的以外に使用したり、他者への転貸を禁じます。

2　設備、用具は大切に使用し、施設の設備を無断で変更して使用したり、備品及び用具を無断で使用しないでください。なお、器具・備品を取り扱う場合は、持上げて移動させてください。万一破損が生じた場合は、直ちに各事務室に届け出て指示を受けてください。

3　施設使用後は、元どおりに片付けてください。

4　清潔・整頓に協力し、特に火気に注意してください。

5　貴重品は各自責任をもって管理し、盗難に注意してください。

6　火気、漏水、窓の開閉等は、使用終了後にもう一度確認してください。

各種セミナーハウス

飛鳥文化研究所・植田記念館

ゼミナール、研究室、クラス単位の正課教育の施設として利用されているセミナーハウスで、奈良県高市郡明日香村稲渕にあります。1975年竣工の本館は、教育後援会元会長故植田正路氏の寄付金によって建設され、その尊意を顕彰して「植田記念館」の名を冠しています。その後、1987年には本館背後の山側に、飛鳥の風物に溶け込む瀟洒な新館を建設し、2018年には、本館をリニューアルしました。

100周年記念セミナーハウス・高岳館

本学創立100周年記念事業の一環として高槻キャンパス内に建設されました。教育と研究の一層の推進をはかり、学生の豊かな人間形成を導く場として、正課授業・課外活動の合宿はもとより、各種セミナーや研修会などに学生・教職員が幅広く利用できる施設となっています。

彦根荘

琵琶湖の東湖畔に位置し、正課授業の学外教育の場として利用できる施設として、また、教職員の教育・研究活動及び厚生の施設となっています。

白馬栂池高原ロッジ

関西大学教育後援会創立50周年記念事業の一環として、自然豊かな長野県の北部、栂池高原に建設され、本学に寄贈されました。このロッジは、豊かな自然に囲まれた栂池高原スキー場の麓に位置し、学生・生徒、教職員の教育・研究活動はもとより課外活動の場としても利用できる施設となっています。

六甲山荘

神戸市の北部に連なる六甲山脈の主峰、六甲山の自然豊かな山腹に学生・生徒、教職員の教育・研究活動の場及び厚生施設として、教育後援会の寄贈により開設されました。この山荘は正課授業の学外教育や課外活動の場として、また各種セミナーや研修会の場として幅広く利用できる施設となっています。

	施　　設	休館日	交通案内	利用申込方法
飛鳥文化研究所・植田記念館	【本館】 木造瓦葺き２階建 和室（８室） ホール 茶屋２棟 【新館】 鉄筋コンクリート造、瓦葺き １～８号館で構成 （地上２階、地下１階の棟を含む） ホール 講堂 教室（３室） 図書室 ラウンジ 食堂（72席） 浴室（２室） 宿泊室 洋室（15室） 和室（12畳２室、24畳３室） 本館40名、新館72名の宿泊が可能。	毎週水曜日 ８月11日～ ８月20日 12月26日～ 翌年１月９日	・近鉄南大阪線・橿原線「橿原神宮前駅」から、タクシーで約20分 ・近鉄吉野線「飛鳥駅」からタクシーで約15分	（※）
100周年記念セミナーハウス・高岳館	鉄筋コンクリート造３階建 【研究棟】 教室６室 （200名収容１室、100名収容１室、 50名収容３室、和室１室）があります。 【宿泊棟】 食道（152席） 浴室（２室） ラウンジ（２室） 洋室（28室）和室（12室） 190名の宿泊が可能。	12月26日～ 翌年１月６日	・JR東海道本線（京都線）「摂津富田駅」又は「高槻駅」から高槻市営バス「関西大学」又は「萩谷」又は「萩谷総合公園」行きに乗車、約20分後、「西の口（関大正門前）」で下車、徒歩約５分	
彦根荘	鉄筋コンクリート造２階建 宿泊室　和室（12畳２室、６畳４室） 会議室（１室） 食堂・ラウンジ 娯楽室 浴室（２室） テニスコート（２面） シャワールーム・更衣室 屋外バーベキューテーブル（２組） 24名の宿泊が可能。	毎週水曜日 12月30日～ 翌年１月６日	・JR東海道本線（琵琶湖線）「彦根駅」から、近江鉄道バス彦根県立大学線「県立大学」行き又は、三津屋線「県立大学」行きに乗車、「八坂北口（はっさかきたぐち）」又は「八坂北町（はっさかきたまち）」で下車、徒歩約３分。 ・名神高速道路「彦根IC」より自動車で約15分	
白馬拇池高原ロッジ	【本館】 鉄筋コンクリート造　３階建 宿泊室　和室（６室）洋室（２室） 食堂 浴室（２室） 乾燥室（２室） ラウンジ 本館46名の宿泊が可能。	毎週木曜日	・JR大糸線「白馬駅」又は「白馬大池駅」から、バス「栂池高原」行きに乗車、約15分後、終点で下車、徒歩約20分 ・「白馬駅」又は「南小谷駅」から、タクシーで約20分 ・長野自動車道「安曇野IC」より自動車で約70km ・北陸自動車道「糸魚川IC」より自動車で約40km	
六甲山荘	【本館】 鉄筋コンクリート造　３階建 宿泊室　和室（５室）洋室（４室） セミナー室（和室１室） 多目的室 食堂・談話室 浴室（２室） 【別館】 鉄筋コンクリート造　２階建 宿泊室　和室（２室）洋室（４室） セミナー室（２室） シャワー室 本館30名、別館21名の宿泊が可能。	毎週水曜日	・JR東海道本線（神戸線）「六甲道駅」又は阪急「六甲駅」又は阪神「御影駅」から、神戸市営バス「六甲ケーブル下」行きに乗車、終点で下車 ・六甲ケーブルに乗車、約10分後、「六甲山上」で下車 ・「六甲ケーブル山上駅」から山上バス（循環バス）「六甲ガーデンテラス」行きに乗車、「アスレチックパーク前」で下車、徒歩約５分	

※利用予定日の受付状況を千里山キャンパスにおいては、教育後援会（校友・父母会館１階）（【受付】月～金曜日９～17時）、千里山キャンパス以外のキャンパスにおいては各キャンパス事務室（【受付】月～金曜日９～17時）にて確認のうえ、予約してください。利用開始の２週間前までに、申込書及び利用者名簿を提出するとともに、宿泊料及び食事料を納入してください。関西大学セミナーハウスホームページで利用状況が確認できます。（更新日以降、利用受付状況に変更がある場合がありますので、留意してください）

なお、100周年記念セミナーハウス・高岳館については、課外活動の体育会団体は、スポーツ振興グループ（新凱風館内）（【受付】月～金曜日９～17時）に申込みをしてください。その他の団体については、学生生活支援グループ（凜風館１階）（【受付】月～金曜日９～17時）にて申込みをしてください。

奨学金について

奨学金の種類

本学で取り扱っている奨学金は次のとおりです。

返還義務のある貸与制奨学金

〈無利子貸与奨学金〉

日本学生支援機構第一種奨学金
民間企業・団体等奨学金
地方公共団体奨学金

〈有利子貸与奨学金〉

日本学生支援機構第二種奨学金
民間企業・団体等奨学金
地方公共団体奨学金

返還義務のない給付制奨学金

関西大学「学の実化」入学前予約採用型給付奨学金　※入学前に受付終了
関西大学新入生給付奨学金　※対象者には採用内定通知を入学試験合格通知に同封し、案内
関西大学学部給付奨学金
植田奨励金
赤井・柳楽・久井・野田奨学基金給付奨学金
関西大学校友会学部給付奨学金
賛助企業等からの寄付金による奨学金
スポーツ振興奨学・奨励金
関西大学文化・学術活動等奨励金
関西大学家計急変者給付奨学金
関西大学教育後援会家計急変者給付奨学金
関西大学災害時支援給付奨学金
民間企業・団体等奨学金
地方公共団体奨学金
国による高等教育の修学支援新制度
・授業料減免
・日本学生支援機構給付奨学金

本学では多様な奨学金制度を設けていますので、みなさんの希望に応じた奨学金制度を活用してください。なお、主な奨学金制度の概要については、次ページからの一覧表を参照してください。

上記の他にも、父母の居住地（地方自治体）や勤務先などで奨学金制度を設けていることがあります。大学に募集案内がない場合もありますので、各自で問い合わせてください。

なお、私費外国人留学生のみが対象となる奨学金については、国際部のウェブサイトをご確認ください。

募集の日程

主に春募集（２月下旬募集案内開始）と秋募集（７月下旬募集案内開始）がありますが、年度により募集時期の変更がありますので、十分ご注意ください。詳細は、奨学支援グループホームページ（www.kansai-u.ac.jp/scholarship/）、学生センター掲示板、インフォメーションシステムでお知らせします。各自でしっかりと確認し、出願してください。

万一在学中に、家計支持者の死別や失職、倒産などの著しい収入の減少、又は火災・風水害・震災などの災害により家計が急変し、修学が困難になった場合には、「緊急・応急奨学金」（貸与制・給付制）があります。事由が発生した際はすみやかに各キャンパス奨学金窓口にて相談してください。

《注》2023年度現行の関西大学独自の給付型奨学金と大学入学後に申し込むことができる貸与型の制度を掲載しています。年度により募集方法、時期が変更されることがあります。
★国の修学支援新制度の対象者は、給付金額が減額調整されます。

	名　称	概　要	募集時期（予定）	採用・振込（予定）
貸与制	日本学生支援機構 第一種奨学金（無利子）	貸与月額： 自宅通学　20,000円、30,000円 40,000円、54,000円 自宅外通学　20,000円、30,000円 40,000円、50,000円 64,000円 から希望選択 貸与期間：標準修業年限（毎学期継続審査あり） 資　格：学業・人物ともに特に優れているが、経済的理由により修学が困難な者	【春募集】 出願案内：２月（全学年） 出　願：３～４月(上位年次) ４月（１年次） 【秋募集】 出願案内：９月（全学年） 出　願：10月（全学年）	採　用： 【春募集】６月（上位年次） ７月（１年次） 【秋募集】12月（全学年）
	日本学生支援機構 第二種奨学金（有利子）	貸与月額：２～12万円（１万円単位）から希望選択 貸与期間：標準修業年限（毎学期継続審査あり） 資　格：学業・人物ともに優れているが、経済的理由により修学が困難な者		初回振込： 【春募集】６月（上位年次） ７月（１年次） 【秋募集】12月（全学年）
給付制（一年次対象）	関西大学「学の実化」★ 入学前予約採用型給付奨学金	給付年額：30万～55万円　※１ 給付期間：標準修業年限　※２ 資　格：本学への入学を強く希望し入学前に予約採用を受けた者のうち、一般入学試験又は大学入学共通テスト利用入学試験により入学した学部学生で、経済的理由により修学が困難な者 ※１　学部、出身高校の地域により給付金額が異なる ※２　毎年学業成績及び「修学状況報告書」による継続審査あり	※入学前に受付終了	採　用：４月 振　込： 【１年次】７月・10月 【上位年次】５月・10月
	関西大学新入生給付★ 奨学金	給付年額：次ページ下部の表に記載 給付期間：１年間（２年次以降は関西大学学部給付奨学金への出願が可能） 資　格：学部新入生のうち、経済的理由により修学が困難で、かつ入学試験の成績が特に優秀な者	出願案内：対象者（入学試験成績優秀者）に対して合格通知に採用内定通知を同封し、案内 出　願：４月	採　用：６月 振　込：７月・12月
給付制（上位年次対象）	関西大学学部給付奨学金★	給付年額：次ページ下部の表に記載 給付期間：１年間（再出願可） 資　格：２年次以上に在学する学部学生のうち、経済的理由により修学が困難で、かつ学業成績が特に優秀な者	出願案内：２月 出　願：４月	採　用：６月 振　込：７月・12月
	植田奨励金	給付年額：500,000円 給付期間：１年間（再出願可） 資　格：２年次以上に在学する優秀な学生で、家計状況により修学が困難であるが、修学に強い熱意のある者 備　考：本学教育後援会　元会長　植田正路氏からの寄付により創設された基金による奨励金	出願案内：２月 出　願：３月	採　用：４月 振　込：７月・12月
	赤井・柳楽・久井・野田奨学基金給付奨学金	給付年額：240,000円 給付期間：３年間（毎年度継続審査あり） 資　格：２年次に在学する特に優秀な学生で、修学の熱意があり、家計状況により修学が困難な者（野田奨学基金は総合情報学部生のみ対象） 備　考：本学卒業生からの寄付により創設された奨学基金による奨学金	出願案内：７月 出　願：９月 ※１年次の秋学期に募集	採用内定：１年次の12月 振　込：５月・10月
	関西大学校友会学部給付奨学金	給付年額：240,000円 給付期間：３年間又は１年間 資　格：２年次以上の春学期に在学する学業成績が優秀な学生で、家計状況により修学が困難であるが、修学に強い熱意のある者 備　考：関西大学校友会からの寄付により創設された奨学金	出願案内：７月 出　願：９月 ※受給年次の前年度秋学期に募集	採用内定：受給前年の12月 振　込：５月・10月
給付制	賛助企業等からの寄付金による奨学金	給付年額：240,000円 給付期間：１年間（再出願可） 資　格：春学期に在学する学業成績が優秀な学生で、家計状況により修学は困難であるが修学に強い熱意のある者	【１年次】 出　願：４月 【上位年次】 出願案内：２月 出　願：３月	採　用：５月 振　込：７月・12月

（国の修学支援新制度）
日本学生支援機構給付奨学金及び文部科学省による授業料減免制度を併せた手厚い経済支援制度です。

名　称		概　要	募集時期（予定）	採用・振込（予定）
修学支援新制度		世帯収入の状況により、国が経済支援を実施 支援が受けられる世帯を三つに区分し、支援額を区分ごとに設定	【春募集】 出願案内：２月（全学年） 出　願：３～４月(上位年次) ４月（１年次） 【秋募集】 出願案内：９月（全学年） 出　願：10月（全学年）	採　用： 【春募集】６月（上位年次） ７月（１年次） 【秋募集】12月（全学年）
	文部科学省授業料減免	最高70万円を支援		大学から別途お知らせ
	日本学生支援機構給付奨学金	給付年額（月々払込） 自宅通学　：最高約46万円 自宅外通学：最高約91万円		初回振込： 【春募集】６月（上位年次） ７月（１年次） 【秋募集】12月（全学年）

	名　　称	概　　要	募集時期（予定）	採用・振込（予定）
給付制（諸活動支援奨学金）	スポーツ振興奨学・奨励金	給付年額：（個人）上限　300,000円 （団体）上限 1,000,000円 給付期間：１年間（再出願可） 資　　格：スポーツ活動の面で卓越した成果をあげ、かつ、人物として優れた者、もしくは、スポーツ活動の面で卓越した成績をあげた団体	願書交付：４月 出　　願：４月	採　用：６月上旬 振　込：６月下旬
	関西大学文化・学術活動等奨励金	給付年額：（個人）上限　200,000円 （団体）企画内容・業績により決定 給付期間：１年間 資　　格：文化、学術、福祉、ボランティア活動等の分野において、優れた企画を有する個人又は団体及び当該年度に優れた業績をあげた個人又は団体	【企画部門】 願書交付：５月 出　　願：５月 【業績部門】 願書交付：12月 出　　願：12月	【企画部門】 採　用：７月中旬 振　込：８月上旬 【業績部門】 採　用：２月中旬 振　込：３月中旬
給付制（緊急・応急奨学金）	関西大学家計急変者給付奨学金	給付年額：240,000円 給付期間：１年間（在学中１回限り） 資　　格：家計支持者が①～③（①死亡したとき②所定の長期療養者となり、失業したとき③勤務先の倒産により失業したとき、又は自営業であって廃業したとき）のいずれかに該当し、家計が急変したことにより修学が困難となった者 備　　考：給付事由は本学在学中に生じたものに限る。また、給付事由が発生した日から１年を超えない期間内に出願しなければならない	【春募集】 出願案内：３月 出　　願：４月 【秋募集】 出願案内：９月 出　　願：９月	【春募集】 採　用：５月 振　込：７月 【秋募集】 採　用：10月 振　込：12月
	関西大学教育後援会家計急変者給付奨学金	給付年額：250,000円 給付期間：１年間（在学中１回限り） 資　　格：家計支持者が死亡し、家計が急変したことにより修学が困難となった者 備　　考：給付事由は本学在学中に生じたものに限る。また、給付事由が発生した日から１年を超えない期間内に出願しなければならない	【春募集】 出願案内：３月 出　　願：４月 【秋募集】 出願案内：９月 出　　願：９月	【春募集】 採　用：５月 振　込：７月 【秋募集】 採　用：10月 振　込：12月
	関西大学災害時支援給付奨学金	給付年額：授業料相当額を上限とする 給付期間：１年間 資　　格：※１　災害救助法又は天災融資法の適用された災害により、学部学生又は学費支弁者の居住する家屋が損壊、滅失又は流出し、家計が急変した者 ※２　災害救助法又は天災融資法の適用された災害により、学部学生又は学費支弁者が死亡又は所定の長期療養者となり、家計が急変した者 備　　考：給付事由が発生した日から１年を超えない期間内に出願しなければならない	該当する災害発生時に随時募集	採用決定後に随時振込
一時貸与制	関西大学短期貸付金	貸付金額：原則1,000円～30,000円まで 返済期間：原則３ヶ月以内 資格･条件：家庭からの仕送りの遅延や急病等、真にやむを得ない事由により一時的あるいは緊急に生活資金が必要になった者	随時受付	即日貸付
教育ローン	日本政策金融公庫 「国の教育ローン」	融 資 額：学生・生徒１人につき350万円以内 返済期間：18年以内 ※詳細については、コールセンターやお近くの日本政策金融公庫の支店窓口までご相談ください。 《コールセンター》0570-008656 《ホームページ》www.jfc.go.jp/	随時	申込完了から10日程度で審査結果を連絡
	オリエントコーポレーション（以下、オリコという） 「関西大学学費サポートプラン」	概　　要：授業料などの学納金や留学費用を簡単な申込手続きで利用できる、本学との提携による学費の立替払い制度 対　　象：授業料・留学費用・教材費など学校納付金 分割手数料率：実質年率2.5％（固定）〈2022年10月現在〉 ※ 詳細については、オリコの学費サポートデスクまでご相談ください。 《学費サポートデスク》0120-517-325 《ホームページ》http://orico.jp/gakusapo/ 学校コード：13007489　申込コード：0418	随時	利用承認日の２日後にオリコから本学へ振込

【関西大学新入生給付奨学金・関西大学学部給付奨学金　給付年額】

学　　部	給付年額
法・文・経済・商・社会学部	300,000円
政策創造・人間健康学部	330,000円
外国語・総合情報・社会安全学部	380,000円
システム理工・環境都市工・化学生命工学部	450,000円

アルバイトについて

―関西大学 学生アルバイト紹介システムの利用について―

はじめに

学生生活における福利厚生の一環として、Web上でのみアルバイト求人情報の紹介を行っています。このサービスでは、パソコンや携帯電話から関西大学の学生を対象とするアルバイト求人情報サイトを閲覧することができます。

学業や健康に支障がないように考慮し、労働条件等も十分に確認の上、アルバイトを選択するよう心がけてください。

登録方法及び利用方法

1　大学内のパソコンの場合

⑴　関西大学 学生アルバイト紹介システムホームページ（www.aines.net/kansai-u）にアクセスしてください。

⑵　希望のアルバイトが見つかったら、直接求人先に連絡してください（家庭教師など、申し込み方法が異なる場合もあるので、各求人の記載事項をよく確認してください）。

⑶　求人先を訪問する際は必ず「学生証」を携帯してください。

2　携帯電話・大学外のパソコンから

⑴　新規登録画面（www.aines.net/kansai-u/register）を開いてください。大学が発行するE-mailアドレスを登録してください。（注１）

⑵　数分後、登録メールアドレス宛にIDとパスワードが届きます。

⑶　IDとパスワードを入力し、ログインしてください。

⑷　希望のアルバイトが見つかったら、直接求人先に連絡してください（家庭教師など、申し込み方法が異なる場合もあるので、各求人の記載事項をよく確認してください）。

⑸　求人先を訪問する際は必ず「学生証」を携帯してください。

（注１）新規登録の際に大学が発行するE-mailアドレス（○○○@kansai-u.ac.jp）が必要になりますので、あらかじめ学内のパソコンで《ITセンター利用申請（web）》を行い、取得してください。申請の方法についてはITセンターHP（www.itc.kansai-u.ac.jp）にアクセスし、「ITセンター利用申請」（www.itc.kansai-u.ac.jp/application.html）を参照してください。

その他

《家庭教師アルバイトに関する注意》

最近、家庭教師アルバイトに関するトラブルの報告が増加しています。家庭教師の登録・派遣については、契約内容をよく確認し、登録の際は慎重に対応するようにしてください。

大学内や大学近辺で業者が募集・登録を行っていても、関西大学とは一切関係ありませんので安易に登録しないようにしてください。

＊＊＊掲示板によるアルバイト紹介はしておりません＊＊＊

学生寮について

学生寮の概要

本学には５つの学生寮があります。そのうち国際学生寮『学生国際交流館・秀麗寮』『ドミトリー月が丘』『南千里国際プラザ留学生寮』及び『南千里国際学生寮』では、留学生・一般学生が共住して、異文化交流を図るとともに、主に留学生の寮生活や日常生活をサポートするレジデント・アシスタントを配置しています。また、寮生のみが参加できる人材育成プログラムを用意して、学生の成長を期待する施設として運営しています。

この他、業務提携により株式会社共立メンテナンスが運営する提携国際学生寮『KU I-House』もあります。詳細は、国際学生寮ウェブサイト（www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/Dormitory/）をご覧ください。

学生国際交流館・秀麗寮【男女共生寮】

千里山キャンパスから徒歩約５分の場所にある男女共生の寮です。寮室は全て有線・無線LAN及び冷暖房完備の個室で、共用施設も充実しており、日常生活のなかで自然な国際交流ができる環境となっています。

ドミトリー月が丘【女子寮】

千里山キャンパスから徒歩約15分の場所にある女子専用寮です。寮室は全て有線・無線LAN及び冷暖房完備の２人部屋で、共用施設も充実しており、日常生活のなかで自然な国際交流ができる環境となっています。また、管理人が住み込みで常駐しているため、安全・安心な生活環境が整っています。

南千里国際プラザ留学生寮【男女共生寮】

阪急電鉄千里線「南千里」駅から徒歩約５分の場所にある男女共生の寮です。寮室は全て有線LAN及び冷暖房完備の個室ですが、６～７人でラウンジやキッチン、洗濯室を共有する「ユニット」を構成し、ユニットの仲間同士で自然と交流できる環境を整えています。また、多目的室やレクリエーションルームなど共用設備も充実しています。

南千里国際学生寮【男女共生寮】

阪急電鉄千里線「南千里」駅から徒歩約10分の場所にある男女共生の寮です。寮室は全て有線・無線LAN及び冷暖房完備の個室（一部、２人部屋有り）で、寮生の交流の場として多目的室や調理室などの共用設備も充実しています。

千里凱風寮【体育会男子専用寮】

阪急電鉄千里線「千里山」駅から徒歩約10分の距離にある体育会男子専用寮（2004年２月教育後援会寄贈）です。鉄骨３階建で、１階に浴室・ランドリー、各階にシャワー室やパントリーがあり、寮室は全て冷暖房完備の個室です。

各キャンパスまでの所要時間

キャンパス	秀麗寮	ドミトリー月が丘	南千里国際プラザ留学生寮	南千里国際学生寮	千里凱風寮
千里山キャンパス	徒歩　約５分	徒歩　約15分	電車　約15分 自転車　約15分	電車　約20分 自転車　約20分	電車　約15分 自転車　約15分
高槻キャンパス	電車　約70分	電車　約75分	電車　約80分	電車　約80分	電車　約75分
高槻ミューズキャンパス	電車　約40分	電車　約45分	電車　約50分	電車　約50分	電車　約45分
堺キャンパス	電車　約70分	電車　約75分	電車　約80分	電車　約80分	電車　約75分

取り扱い部署

国際教育グループ（学生国際交流館・秀麗寮／ドミトリー月が丘）
国際プラザグループ（南千里国際プラザ留学生寮／南千里国際学生寮）
スポーツ振興グループ（千里凱風寮）

下宿について

概要

自宅からの通学が困難な学生を対象に、下表のとおり下宿斡旋業務を行っております。下宿斡旋を希望される方は各自で下記宛にお問い合わせください。また、下宿に関するトラブル等の相談は各キャンパス窓口で行っています。

（お問い合わせ先）

対象学部	全学部		人間健康学部のみ		
業者	関西大学生活協同組合 ひとり暮らしサポート事業部 （凜風館３階）	関西大学生活協同組合グループ ユニヴ・ライフ高槻店	学生情報センター （大阪ミナミ店） マンション・アパート紹介窓口	共立メンテナンス 食事付学生寮紹介窓口	上野芝学生寮 （女子寮）
TEL	06-6368-7533	072-682-9481	0120-749-373	0120-80-5103	072-277-0280
URL	https://kandai-heya.jp/	https://www.univlife-takatsuki.com	749.jp/store/minami/	www.gakuseikaikan.com/	ono-syougakukai.com/uenoshiba/index.html

※上野芝学生寮の入寮条件は、大阪府下の大学に在学中の女子学生となっています。寮の所在地が堺市であることから、本学では人間健康学部生を対象としておりますが、本学女子学生全員に応募資格がございますので、応募を検討される方は、学生生活支援グループまでお問い合わせください。

下宿の選択

住居は学生生活を送る上での重要な要素となりますので、慎重に選択することが必要と思われます。下宿エリアについては、課外活動を含めた入学後の学生生活を考慮して選択することをお薦めします。例年、実際に入居してから環境や条件の食い違いなどでトラブルが発生しています。また、毎月経常的に家賃等の経費がかかりますし、住居費以外にも食費や学生生活を送る上での経費も必要です。４年間の大学生活を有意義に過ごすために、経済的に無理が生じない自分にあった下宿を選んでください。

注意事項

入試シーズンを中心に、複数の外部業者が大学や駅付近で『おとり広告（物件がない広告等）』を掲載した「学生向け賃貸マンション等のパンフレット」を配布している可能性がありますので、十分に注意してください。

契約内容

契約時に特に多いトラブルを、未然に防ぐポイントを数点あげておきますので、契約に際しては各自で注意してください。

1　事前に不動産の相場をよく確認しておくこと。
2　入居を希望する物件は、必ず本人が現地に出向き、部屋を確認すること。
3　契約内容を十分に確認し、不明点は必ず質問すること。
4　契約はあせらず、曖昧な返事はしないこと。

外部業者

各キャンパスでは、上記斡旋先以外に下宿紹介で外部の業者を指定したり、委託を行ってはおりません。いかにも本学の指定業者であるかのように名称を使用している場合もありますが、本学とは一切関係はありませんのでご注意ください。

学生教育研究災害傷害保険について

概要

正課中（授業中、体育実技中、実験実習中等）、学校行事中、キャンパス内での休憩中、課外活動中といった教育研究活動中に、不慮の災害事故が発生し、傷害を受けた場合に、保険金の給付が受けられるよう、全学生を対象として「学生教育研究災害傷害保険」に一括加入しています。入学と同時に全員この保険に加入していますので、「ケガ」をした時は手続きをしてください。

なお、病気はこの保険の対象とはなりません。

保険の内容

1　担保範囲

保険金が支払われる傷害や事故は約款で詳しく定められていますので、『学生教育研究災害傷害保険のしおり』を参照してください。

2　保険金の種類と金額

種類＼適用	正課中・学校行事中	キャンパス内での休憩中・課外活動中
死亡保険金	1,200万円	600万円
後遺障害保険金	後遺障害の程度に応じて72万円～1,800万円	後遺障害の程度に応じて36万円～900万円
医療保険金	治療日数１日以上でその日数に応じて3,000円～30万円	（キャンパス内での休憩中） 治療日数４日以上でその日数に応じて6千円～30万円 （課外活動中） 治療日数14日以上でその日数に応じて3万円～30万円
	（入院加算金）入院１日につき4,000円	

事故が起きたときの手続き

事故の発生状況に応じて本人が各事故報告窓口に申し出て事故報告を行ってください。また、「**事故報告書**」は事故発生後20日以内に提出してください。

傷害が治癒したら、事故報告窓口で「**保険金請求書**」等を受け取り、保険金請求の手続きを行ってください。保険金は原則として、被保険者（本人）が指定した銀行口座に振り込まれます。

※その他不明な点がある場合は、各事故報告窓口へ問い合わせてください。

事故報告窓口

事故発生状況／キャンパス	正課中 学校行事中（入学式等） キャンパス内での休憩中	課外活動中 （体育会以外の届出団体） 学校行事中（学園祭等）	課外活動中 （体育会）
千里山キャンパス	教務センター（庶務窓口）	学生生活支援グループ	スポーツ振興グループ
高槻キャンパス	高槻キャンパスオフィス		
高槻ミューズキャンパス	ミューズオフィス		
堺キャンパス	堺キャンパス事務室		

※上表の活動範囲以外での事故については、別途取り扱い窓口までご相談ください。

その他

上記以外に以下の保険制度があります。

1　「学研災付帯賠償責任保険」

大学の行うインターンシップ・介護体験活動・教育実習中等の事故に対する賠償責任保険制度（個人負担）です。加入に関しては、それぞれの活動を取り扱う各事務室へ問い合わせてください。

2　「関西大学共済保障制度」

「学生教育研究災害傷害保険」を補完する保険制度です。不慮の事故等に備えて、原則、学生の皆さんはご加入いただきますようお願いいたします。

詳細な資料をご希望の方は、関西大学共済会までお問い合わせください（関西大学共済会 TEL：06-6368-1964）。

生活協同組合

生協とは

生協は、消費者が自ら出資する自発的な協同組合組織で、生活の文化的経済的向上を図ることを目的とした「消費生活協同組合法」にもとづく事業活動を行っています。

「関西大学生活協同組合」は、学生・教員・事務職員を構成員として1962年に設立以来、関西大学の理解と協力の下、学内の福利厚生の柱として学生食堂の運営、教科書、学用品、パソコン、電子辞書等の学習用教材や旅行、各種講座、自動車学校、下宿斡旋等利用事業の提供など、大学生活を送るうえで欠かせない役割を担っております。

生協加入にあたっては出資金が必要です。

出資金をもとに、生協は運営しており、出資者（生協組合員）には、教科書と書籍は10％の割引、飲食・物販等の施設では５～10％の割引又は利用還元を行う仕組みになっています。

なお、出資金には利息はつきませんが卒業後に全額返還されます。

関大生協では出資金をもとに、組合員価格での商品供給をはじめとするサービスの充実を図り、学生・教職員の大学生活がより満足できるよう努めています。

現在の組合員数は25,705人、学生の約９割の方が加入されています（2022年２月末時点）。

2021年度の供給高等は、1,904,978千円の実績をみています。

総代会

生協の事業方針、決算報告の承認、理事・監事の選出等を行う最高決議機関です。総代は組合員から選出されます。

理事会

総代会で決められた方針に基づいて、事業の運営を行います。

学生企画室

学生組合員で運営し、KU-COOP TIMESの発行や、映画上映会などの企画を通じて組合員相互のコミュニケーションを図っています。

生協加入

生協への加入手続きについては、千里山キャンパス凜風館３F組合員カウンター、又は高槻キャンパス厚生棟２F購買店にお問い合わせください。

千里山キャンパス／TEL：06-6368-7569

高槻キャンパス／TEL：072-699-0275

生活協同組合のホームページは、以下の通りです。

https://www.kandai.ne.jp/

※人間健康学部（堺キャンパス）と社会安全学部（高槻ミューズキャンパス）については、生協の店舗がありません。部活動・サークル・下宿所在地などの関係で千里山キャンパス又は高槻キャンパスをご利用される方や、大学院生については手続きが異なりますので加入をご希望の場合はご相談ください。

学生相談について

学生相談

入学してから卒業するまでみなさんは学生生活の全般において、いろいろと困難な問題に直面することがあるでしょう。

たとえば、それは勉学上のことであるかもしれません。あるいは、広く人生上の問題、対人関係であるとか、家庭、就職の問題であるかもしれません。時には思想上の問題で考え、悩むこともあると思います。

新入生のみなさんにとっては特に、大学という新しい環境に入り、大学生活にいかに適応し、豊かで意義ある学生生活を送るかは重要な問題であると思います。入学してから卒業するまでの間に、自分一人で解決や処理ができないことに直面したときには、大学はいろいろな形でみなさんの相談に応じ、サポートする体制をとっています。

専門の相談窓口として、**①教務センター・学部学生相談室、②学生センター・大学学生相談室、③学生相談・支援センター（障がいのある学生に対する修学支援）、④心理相談室、⑤ハラスメント相談室**が設けられています。どのようなことでも遠慮せずに相談窓口を訪ねてください。

なお、「どこに相談に行けばいいのかわからない」といった場合は、学生相談・支援センター（新関西大学会館北棟１階）を訪ねてください。

いずれの相談においても、個人の秘密は守られますのでご安心ください。

①教務センター・学部学生相談室

履修や成績などの学習面の悩み、休学や退学、転学部などの学籍の問題等、主として修学（学業）に関する疑問や悩み、問題があれば、**「教務センター」（第２学舎１号館１階）**又は**「学部学生相談室」（窓口：教務センター）**を訪ねてください。

各学部の「学部学生相談室」には学識と経験豊かな学生相談主事の先生が、みなさんの悩みや問題の解消に向けて相談に応じています。大切な学生生活を有意義なものにするためにも壁にぶつかったときは遠慮なく相談に来てください。

②学生センター・大学学生相談室

対人関係、家庭、経済、課外活動などの大学生活において困難な場合が生じたり、あるいは性格、思想、異性に関する悩みや問題、また、将来のことが気になるなど、誰かになんとなく話を聞いてもらいたい時、悩みがあるけれど誰に相談してよいかわからないという時は、気軽に**「大学学生相談室」の窓口である学生センター（総合学生会館凜風館１階）**を訪ねてください。

③学生相談・支援センター（障がいのある学生に対する修学支援）

障がいのある学生に対する修学支援について相談したい場合は、「学生相談・支援センター」（新関西大学会館北棟１階）を訪ねてください。詳細については、８ページを参照してください。

④心理相談室

心理相談室では、カウンセラー（公認心理師・臨床心理士など）が、学生やその家族、教職員あるいは卒業生の方々を対象に心理的援助を行っています。詳細については、８ページを参照してください。

⑤ハラスメント相談室

大学は教育研究活動を中心とする機関であり、すべての学生・教職員にとって、個人の尊厳と人格の尊重、相互の信頼関係の形成は、教育研究活動の基礎となるものです。学生のみなさんには、快適な学習環境のもとで、勉学や課外活動などに励み、充実した学生生活を送る権利があります。

ハラスメントはこうした学生・教職員の権利を侵害し、学生・教職員の信頼関係を損なわせ、大学における教育研究活動を阻害するものです。

ハラスメントを防止し、平穏で安心できる学習環境、教育研究環境、就業環境等を維持することは、大学の責任です。したがって、ハラスメントが発生した場合には、不当に人格を侵害された個人の権利を回復し、失われた信頼関係を取り戻すために必要なあらゆる措置を大学は責任をもって講じます。

大学では2022年10月現在、教職員22名と学外からの専門家２名からなる、ハラスメント相談窓口を設けています。ハラスメントを受けたと感じたら、ひとりで悩まないで相談窓口を訪ねてください。匿名での相談や、友人が被害を受けて困っているという第三者からの相談も受け付けています。相談窓口では、あなたのプライバシーを厳守します。相談したり、証言することで、あなたが不利益を受けることは決してありません。

また、ハラスメント防止推進室のホームページでは、相談方法をはじめ、相談窓口の受付時間や相談員の氏名、所属、連絡用電話番号、Eメールアドレスなども公表しており、メールでの相談もできます。

～学生相談窓口一覧～

千里山キャンパス	高槻キャンパス	高槻ミューズキャンパス	堺キャンパス
相談内容　学生生活全般の悩みや問題の相談に応じています。			
○学生センター ○大学学生相談室 （総合学生会館凜風館１階）	○高槻キャンパスオフィス （A棟（管理・研究棟）１階）	○ミューズオフィス （西館２階）	○堺キャンパス事務室 （A棟１階）
相談内容　授業のこと、単位取得・履修のことなど修学上の悩みや問題の相談に応じています。			
○教務センター （第２学舎１号館１階） ○学部学生相談室 （教務センター）	○総合情報学部オフィス ○学部学生相談室 （A棟（管理・研究棟）１階）	○ミューズオフィス （西館２階）	○堺キャンパス事務室 （A棟１階）
相談内容　健康上のこと、心理的なことなどの悩みや問題の相談に応じています。			
○保健管理センター ○心理相談室 （新関西大学会館北棟４階）	○高槻キャンパス保健室 ○高槻キャンパス心理相談室 （K棟（情報演習棟）１階）	○ミューズ保健センター ○ミューズ心理相談室 （西館９階）	○堺保健室 ○堺キャンパス心理相談室 （A棟１階）
相談内容　ハラスメントの悩みや問題の相談に応じています。 ＊匿名での相談、友人などの第三者からの相談も受付けています。			
○ハラスメント相談室 （100周年記念会館２階）	○高槻キャンパスオフィス ○総合情報学部オフィス （A棟（管理・研究棟）１階）	○ミューズオフィス （西館２階）	○堺キャンパス事務室 （A棟１階）
相談内容　障がいのある学生の修学支援についての相談に応じています。			
○学生相談・支援センター （新関西大学会館北棟１階）	○高槻キャンパスオフィス ○総合情報学部オフィス （A棟（管理・研究棟）１階）	○ミューズオフィス （西館２階）	○堺キャンパス事務室 （A棟１階）

※「どこに相談に行けばいいのかわからない」といった場合は、学生相談・支援センター（千里山キャンパス 新関西大学会館北棟１階）を訪ねてください。

学生相談窓口のホームページは、以下のとおりです。
【www.kansai-u.ac.jp/ja/support/consultation/】

留学について

国際部が主催する留学プログラム

	短期留学	
種　　類	海外体験型研修（SDGsを学ぶ）	語学セミナー
期　　間	１～２週間 （春季・夏季休業期間中）	３～４週間 （春季・夏季休業期間中）
必要経費	参加費（約20～36万円：2019年度実績）	参加費（約53～90万円：2022年度実績） ※費用はセミナー毎によって異なる ※参加費には、プログラム費・渡航費・宿泊（滞在）費・海外旅行保険料等を含む
単位認定	なし	あり
募集時期	夏季：４月～６月 春季：10月～11月	夏期セミナー：４月中旬～５月上旬 春期セミナー：10月中旬～11月上旬 ※インフォメーションシステムから申込
奨学金等	短期派遣奨学金	短期派遣奨学金

	中長期留学	
種　　類	認定留学	交換派遣留学
期　　間	１学期間又は２学期間	１学期間又は２学期間
必要経費	認定留学在籍料（１学期につき10万円） 留学先の学費等 渡航費／海外旅行保険料 生活費等（食費・滞在費）	関西大学の学費 渡航費／海外旅行保険料 生活費等（食費・滞在費）
単位認定	あり	
募集時期	春学期留学：留学前年度の10月 秋学期留学：５月	春学期留学：留学前年度の９月 秋学期留学：留学前年度の３月
奨学金等	本学の学費を免除（認定留学在籍料は必要） 認定留学特別援助金 （国の修学支援新制度に基づき、家計状況により支給）	留学先の授業料免除 交換派遣留学奨学金を支給 語学能力試験受験料補助

※上記内容は変更される場合があります。留学要件や選考方法等詳細については、各種リーフレットや募集時期に配布する募集要項にて確認してください。

※留学制度に係わる単位認定等については、教務事務窓口においてご相談ください。

エクステンション・リードセンター

概要

エクステンション・リードセンターは、関西大学在学生の各種資格取得、国家試験受験対策、キャリア形成及び就職活動支援等の教育事業を展開するとともに、卒業生をはじめとする社会人にも門戸を開放しています。

専門的な知識や技術を習得することによって、各種資格試験や国家試験の合格につながり、在学生のキャリア形成や就職活動支援に寄与するため、資格専門学校と提携して学内において各種講座を提供しています。

各講座の詳細については、毎年発行される「講座案内」を参照してください。「講座案内」は、各キャンパスの各所に配架しています。

例：2023年度開講講座

・英語講座	・公務員講座	・税理士講座
・簿記検定講座	・公認会計士講座	・宅地建物取引士講座
・就職試験対策講座	・ファイナンシャル・プランナー講座	・デジタル関連講座
・総合旅行業務取扱管理者WEB講座	・ビジネス資格パックWEB講座	・日本語教育能力検定直前対策講座
・行政書士WEB講座	・司法講座	

開講場所

○関西大学千里山キャンパス　第３学舎（社会学部：案内図参照）内
○関西大学高槻ミューズキャンパス　西館（案内図参照）内
○関西大学堺キャンパス　学舎内

施設の概要

千里山キャンパス・高槻ミューズキャンパス

講座によっては、関連する参考図書や資料も用意しています。

受講料

市中の資格専門学校等に通学する場合と比較して、低価格で受講できます。

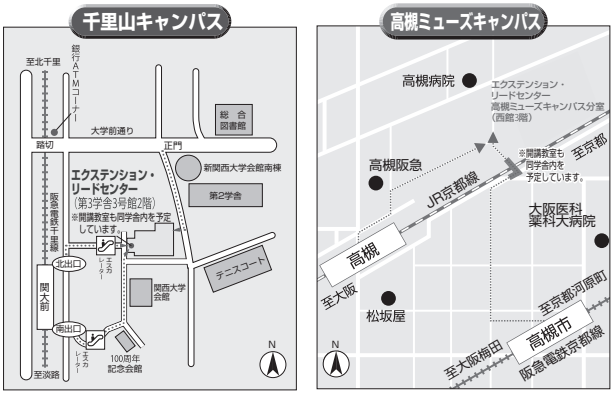
受講料は、エクステンション・リードセンターの「講座案内」を参照してください。

その他

開室時間やエクステンション・リードセンターについての詳細は、ホームページを参照してください。

〔URL〕www.kansai-u.ac.jp/extension/

エクステンション・リードセンター案内図



阪急電鉄千里線「関大前」駅下車、徒歩約5分

JR京都線「高槻」駅下車、徒歩約7分
阪急電鉄京都線「高槻市」駅下車、徒歩約10分

キャリアセンターの就職・進路選択に関するサポート

キャリアデザインブック

就職や進学など、卒業後の進路は4年次生になってから考えるものではありません。就職活動が本格化する3年次生からでもありません。実は入学した1年次生の段階から、皆さんはもうスタートラインに立っているのです。

その理由や、進路を決めるための考え方・就職活動で求められる力等、まずはこの『キャリアデザインブック』から基本的な概念を学びましょう。

『キャリアデザインブック』は、キャリアセンターのホームページ（「在学生の方」から「キャリアデザインラボ」のページへ）に掲載しています。
新入生を対象としたキャリアガイダンスで詳細を説明します。

キャリアセンター

自分の進路を考え、その準備をしておくことを「キャリアデザイン」と言います。

キャリアセンターは、1年次生の段階から皆さんのキャリアデザインをサポートするため、就職や進路選択に関する様々な取り組みを行い、相談にも応じています。

キャリアセンターは千里山キャンパスの他、高槻・高槻ミューズ・堺の各キャンパスに分室があります。

また、理工系学部生の窓口として、千里山キャンパスにはキャリアセンター理工系事務室があります。

さらに、各キャンパスのキャリアセンターでは、日々の新聞やビジネス系雑誌、公務員対策本など就職や進路に関する図書を置いています。閲覧や貸し出しが可能です。

〈学内・各キャンパス〉窓　　口	場　　所
キャリアセンター（卒業生就業支援室）	新関西大学会館北棟3階
キャリアセンター　理工系事務室	第4学舎1号館2階
キャリアセンター　高槻キャンパス分室	高槻キャンパスK棟（情報演習棟）1階
キャリアセンター　高槻ミューズキャンパス分室	高槻ミューズキャンパス西館3階
キャリアセンター　堺キャンパス分室	堺キャンパスA棟2階

【キャリアデザインラボ】

キャリアセンターを利用する前段階として、学生のキャリアステップの入口となる仕組みを作りたいという構想から、2021年4月に開設しました。

就職活動対象学年だけでなく、低年次生から将来のキャリアデザインを考える場所としての活用も目的とし、就職に関する興味関心を広げるワークショップや学内イベントの紹介、進路が決定した先輩や常駐スタッフに予約不要で学生生活の悩み事や困りごとを相談できる場所です。また、キャリアデザインや就職活動に関する資料や書籍が配架されており、閲覧や貸し出しが可能です。（千里山キャンパス以外は、キャリアセンター内にあります。）

【キャリアセンター梅田オフィス（梅田キャンパス）】

千里山キャンパスのキャリアセンター、高槻・高槻ミューズ・堺の各キャンパスのキャリアセンター分室とは別に、梅田キャンパス5階にキャリアセンター梅田オフィスを設けています。各キャンパスのキャリアセンターで行っている就職相談、企業情報の提供、面接対策の相談といった支援はもちろんのこと、就職活動中の休憩、各種証明書や学割証の発行等もできます。また就職活動中の学生だけでなく、1年次生から利用できますので、積極的に活用してください。

開室時間や場所等の詳細は、キャリアセンターのホームページを参照してください。
URL：www.kansai-u.ac.jp/career/facilities/index.html

【東京センター】

首都圏での就職活動の拠点として、東京センターをご利用いただけます。就職活動中の休憩や着替え、卒業見込証明書や成績証明書等の入手、情報収集等の場として有効活用してください。

開室時間や場所等の詳細は、東京センターのホームページを参照してください。
URL：www.kansai-u.ac.jp/tokyo

【キャリアセンターが実施する主な行事】

〔１・２年次生対象〕

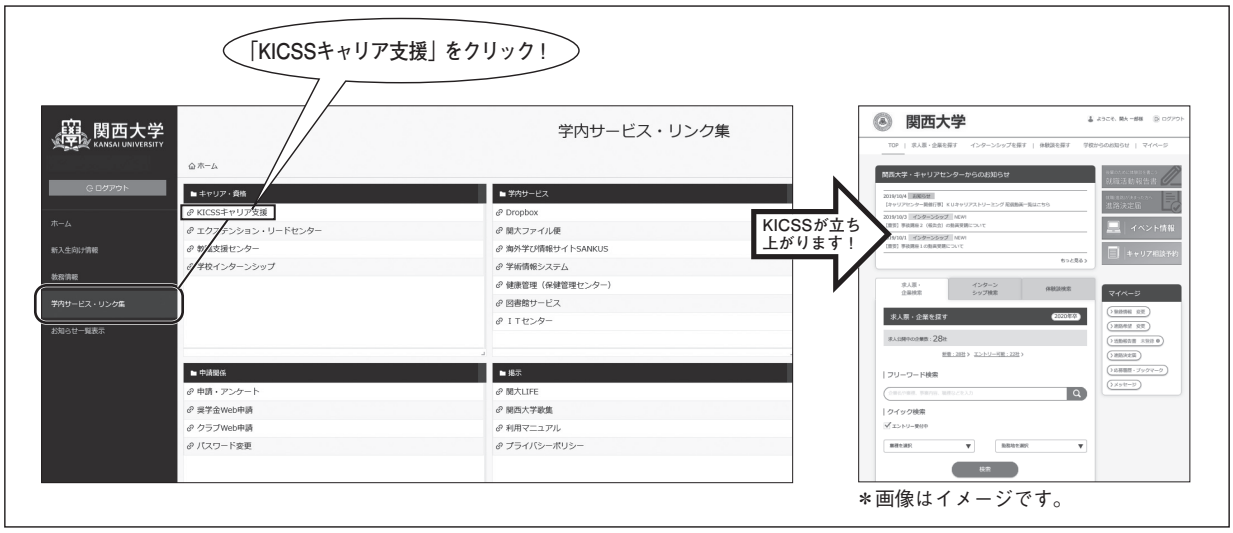
新入生キャリアガイダンス／関大版ハタチのトビラ（キャリア支援ＷＥＢツール）／企業連携型キャリアスタートプログラム／理工系キャリアプランニングセミナー／公務員基礎講座

〔１～４年次生対象〕

就職ガイダンス／就活対策講座／就活スキルアップセミナー／社会課題×業界理解実践セミナー／業界（企業）研究セミナー／グループ面接実践会／WEBテスト体験会／Ｕ・Ｉターン就職ガイダンス／OB・OG懇談会

開催時期・内容は毎年変更されます。最新の情報は、KICSS・インフォメーションシステム・ポスター等、キャリアセンターからの各種お知らせを確認してください。

KICSS



＊画像はイメージです。

KICSSとは、関西大学キャリアセンターが提供するキャリア支援システムです。

インターネットを利用することにより、「いつでも」「どこでも」キャリアセンターが発信するすべての情報を知ることができます。

KICSSには、約29,000社の企業・公共団体の企業情報・求人情報などがデータベース化されています。

また、キャリアセンター主催行事の案内はもちろん、キャリアセンターが得た独自の採用情報など、毎日多くの情報が更新され、関大生にとって欠かせない、情報源として活用されています。

このサイトから入手できるのは、具体的な就職活動に関する情報だけではありません。TOEIC®や公務員試験など、国家試験や資格に関する情報、イベントのお知らせも常に発信しており、皆さんがキャリアプランニングを行う上で、強力な味方となるシステムです。

KICSSへはインフォメーションシステム、もしくは、キャリアセンターのHPからアクセスが可能です。

CAPシステム（適性テスト&ワーク）

CAPシステムは、関大生の特徴に合わせて独自に開発されたシステムで、各種の適性テストとワークから構成されています。

CAPシステムには、職業興味や行動タイプ等６種類の適性テストが用意されており、これを実施し、結果を確認することで自分をよりよく理解することができます。また、今までの生き方を振り返り、将来の働き方・生き方を考えるためのワークが約40種類収録されています。

これらの適性テストとワークを活用することで、効果的に自己分析を進め、職業に関する理解を深めることができます。

CAPシステムへは、キャリアセンターホームページにある、学生用KICSSログイン画面からアクセスできます。

キャリアカウンセリング

進路についての悩み、働くことへの不安、就きたい職業への就職活動の進め方など、学生が自らの将来について悩み､考えることは実に様々です｡そんな学生のためにキャリアカウンセリングとキャリアカウンセリングルーム*が用意されています。

＊高槻キャンパス・高槻ミューズキャンパス・堺キャンパスでは､各分室内にその機能が設置され､千里山キャンパスのキャリアカウンセリングルームと同様のサービスを提供しています。

【キャリアカウンセリング】

キャリアに関する専門知識や実績を有したキャリアカウンセラーが、「自分の適性を知りたい」「進路選択に向けてどのように進めていったらいいのか不安」など、進路上の悩みを持った学生に対し、学生の精神的ケアを中心に、丁寧なアドバイスを行います。

キャリアカウンセリングは予約制ですので、じっくりと時間をかけて個別に相談することができます。

開室時間や申し込み方法等の詳細は、キャリアセンターのホームページを参照してください。

就職ガイダンス

学部３年次生・博士課程前期課程1年次生になれば、いよいよ就職活動が本格的にスタートします。

就職ガイダンスでは就職活動の流れや心構えなど、年に複数回、その時期に必要な情報を、丁寧にレクチャーしていきます。

スムーズに就職活動を進めるために参加必須のガイダンスです。

開催時期・内容は毎年変更されます。最新の情報は、KICSS・インフォメーションシステム・ポスター等、キャリアセンターからの各種お知らせを確認してください。

就職・進路内定決定届

本学学生は「関西大学職業紹介に関する取扱規程」に基づき、卒業時までに卒業後の進路をキャリアセンターに届け出なければなりません。

ここでいう卒業後の進路とは、就職に限らず、起業や進学・留学・資格試験の受験等で就職しない場合や、卒業後も継続して就職活動を行う場合も含まれます。

『就職・進路内定決定届』は、必ずキャリアセンターに提出してください。

『就職・進路内定決定届』は、キャリアセンターに備え付けられています。また、KICSSから登録することもできます。

インターンシップ

インターンシップとは、在学中に企業や官公庁等に出向き、主に春休みや夏休みといった長期休暇時に期間限定で就業体験を行う制度です。

主な目的は、実際に就業体験を積むことで社会や企業に関する知識を身に付け、理解を深めること、入社後のミスマッチを事前に防ぐこと等が挙げられます。

特に近年では、インターンシップが就職活動で極めて重要な位置づけとなっています。

実施形式は対面やオンライン、期間も半日から５日間以上など様々です。

インターンシップを通じて「働くこと」を現実的に捉え、自身の進路を考える上での有効な手段として、積極的に参加することが重要となります。

詳細は、キャリアセンターが発信する各種情報を参照してください。

資格

学生から「就職活動の際には、資格があれば有利ですか？」という質問が寄せられることがあります。

確かに「資格」は、皆さんのキャリア形成や就職活動のアピールポイントのひとつとして有益なものであることに間違いはありません。難関資格を計画的に取得することは学生生活を充実させ、自信にもつながります。皆さんが目指す進路に求められる「資格」をエクステンション・リードセンター等で学習するのも一つの方法です。

しかし、「資格」があればそれで就職活動は大丈夫だというものではありません。採用選考の際には、取得した「資格」とともに皆さんの資質やコミュニケーション能力等、人間性の全てが評価されるものと考えてください。

教員をめざすには

教員をめざす方は、教職支援センターのページを参照してください。

U・Iターン就職

U・Iターン就職を希望する人には地元就職を目指す方に特化したU・Iターン就職ガイダンスを開催しています。

各自治体が主催するU・Iターン就職のイベントなどはKICSSを通じてお知らせしていますので、ぜひKICSSをチェックしてください。

障がいのある学生への就職支援

個別面談を基本として実践しています。

一人ひとりと個別に向き合い、学生の障がいの内容・程度を踏まえた上で、「やりたいこと」と「できること」のすり合わせ、また、障がいのある学生を対象とした就職ガイダンスやサポートプログラムを実施し、人生選択の大きな岐路となる就職活動に臨む上での心構えや具体的な活動方法についてレクチャーを行っています。

外国人留学生に対しての就職支援

関西大学を卒業後、日本企業で働いてみたいという外国人留学生に対して、日本の就職活動のシステム等を紹介する外国人留学生対象のガイダンスや就活対策講座等を実施しています。外国人留学生の採用に関する各種情報提供を行うとともに、エントリーシートや面接等の相談にも応じていますので、気軽にキャリアセンターを訪ねてください。

教職支援センター

概要

教職支援センターは、教員養成段階から、卒業後の教職生活までを一つの過程として捉え、教員として必要な資質能力の開発や実践的指導力の養成、教員採用試験対策等の就業支援を行う教員養成の拠点として開設されています。センターでは、学校現場の現状や課題に熟知し、実務経験豊富な専門のアドバイザーが教職を目指すみなさんの相談に応じています。「教師になりたい」というみなさんの熱い思いを精一杯支援していきますので、積極的に利用してください。

主な支援内容

・教職を志望する方のためのキャリア相談、アドバイス（随時）
・教科書及び教職関係資料の閲覧、貸出
・都道府県教育委員会による教員採用試験説明会（４～５月・11～12月）
・教員採用試験対策講座（12月・２～５月）
・教員採用試験エントリーシートの添削や小論文作成等の指導
・教員採用試験面接対策セミナー（４～９月）
（注） 教職課程の履修に関する相談は、千里山キャンパス第２学舎１号館１階教職支援センター及び総合情報学部オフィス・ミューズオフィス・堺キャンパス事務室で受け付けています。

場所・開室時間

キャンパス	場　　所	開 室 時 間
千　里　山　キ　ャ　ン　パ　ス	第２学舎１号館１階　教職支援センター	月～金　10：00～17：00
高　槻　キ　ャ　ン　パ　ス	教職相談の日時・場所については、インフォメーションシステム及び教職支援センターホームページで確認してください。	
高槻ミューズキャンパス		
堺　キ　ャ　ン　パ　ス		

※開室時間やアドバイザーの在室時間は、業務の都合により変更になることがありますので、インフォメーションシステム及び教職支援センターホームページで確認してください。

教職支援センターホームページについて

教職課程の履修の方法（教職課程履修の手引き）や教員採用試験に関する情報等、教職に関する様々な情報を発信していますので、活用してください。
URL: www.kansai-u.ac.jp/kyoshoku/index.html

公認会計士試験受験の支援について

商学部においては公認会計士試験について、次のような支援策を講じています。

公認会計士について

公認会計士（CPA）は、複雑な経済社会の要求に対応するため、会計、監査証明、税金及び経営相談などの業務サービスを提供する職務を行うことができる資格です。これらのうち監査は、公認会計士しか行えない業務となっています。

支援策

商学部では第一線で活躍している公認会計士の方から直接に仕事の内容や勉強方法を聞くことのできる各種講演会を実施しています。

また、千里山キャンパス第２学舎に公認会計士試験受験支援自習室（有料）を設置し、受験に備えた勉学が可能な環境を提供しています。

これらは、商学部学生に限らず公認会計士を目指す学生であれば誰でも利用することができます。詳細については、経商オフィスへ問い合わせてください。

大学院への進学について

※以下は、2022年度現在の内容を記載しています。

概要

新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる領域において重要性を増す「知識基盤社会」においては、とりわけ大学院が果たすべき役割は極めて大きく、今後の社会を牽引する人材として、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等とともに高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成が求められています。そうした社会的要請に応えるため、本学大学院では博士課程13研究科及び専門職学位課程２研究科を設置しています。博士課程13研究科では、それぞれの分野での理論や技術について専門的に研究し、有能な技術者や研究者をはじめ、社会を先導する人材を養成する一方、法務研究科、会計研究科ではそれぞれ有為な法曹や会計人を養成するための高度な教育を行っています。そうした研究教育成果は、国内外の学会や国際会議などで発表され、高い評価を受けています。

修業年限

大学院博士課程の修業年限は５年で、これを前期課程２年、後期課程３年に分け、研究指導を行っています。博士課程前期課程では、広い視野を持って専攻分野の研究に取り組める能力、また、高度な専門性を要する職業に必要な知識や技術能力を養成し、修了者には“修士”の学位を授与しています。博士課程後期課程では、研究者として自立し、専攻分野の研究をさらに深めていくために必要な高度な研究能力と、その基礎となる豊かな学識を養います。所定の期間在学し、学位論文の審査に合格した学生には“博士”の学位が授与されます。

法務研究科の修業年限は３年（法学の基礎的な学識を有すると認められる者は２年）で、修了者には“法務博士（専門職）”の学位が授与され、司法試験の受験資格を得ることができます。また、法科大学院在学中に一定の要件を満たした場合、在学中に司法試験の受験資格を得ることも可能です。

会計研究科の修業年限は２年で、修了者には“会計修士（専門職）”の学位が授与され、一定の単位修得条件を満たせば、公認会計士試験短答式試験のうち、財務会計論・管理会計論・監査論が免除されます（免除の可否は公認会計士・監査審査会が決定）。

長期履修学生制度

法学研究科、文学研究科、総合情報学研究科、外国語教育学研究科、心理学研究科（心理学専攻）、東アジア文化研究科、ガバナンス研究科、人間健康研究科の博士課程前期課程及び会計研究科では、大学院入学者の多様なニーズに対応し、教育研究の機会を拡充するため、従来の標準修業年限（２年）の他に、修業年限を３年とし、授業科目を計画的に履修できる長期履修学生制度を導入しています。

なお、会計研究科では、修業年限を４年とする制度も設けています。

飛び級制度

文学研究科、外国語教育学研究科、東アジア文化研究科、法務研究科及び会計研究科には成績優秀な学部学生に、大学を卒業しなくても３年終了段階で大学院への入学を認める「飛び級制度」があります。

早期卒業制度

法学部、経済学部、商学部、政策創造学部、システム理工学部には、一定の基準を満たした成績優秀な学部学生に、早期に卒業し本学大学院へ進学することを認める「早期卒業制度」があります。詳細は各学部のページを参照してください。

大学院博士課程前期課程の授業科目の履修について

法学部、文学部、社会学部、政策創造学部、外国語学部、総合情報学部、システム理工学部、環境都市工学部及び化学生命工学部では、大学院への強い進学意欲をもつ学部学生が所定の基準を満たした場合、大学院科目の履修を許可しています。履修の詳細については、インフォメーションシステム等でお知らせします。

研究科と専攻

研究科	〔博士課程前期課程・後期課程〕	
法学	法学・政治学専攻	
文学	総合人文学専攻	
経済学	経済学専攻	
商学	商学専攻	
社会学	社会学専攻 社会システムデザイン専攻 マス・コミュニケーション学専攻	
総合情報学	〔博士課程前期課程〕 社会情報学専攻 知識情報学専攻	〔博士課程後期課程〕 総合情報学専攻
理工学	〔博士課程前期課程〕 システム理工学専攻 環境都市工学専攻 化学生命工学専攻	〔博士課程後期課程〕 総合理工学専攻
外国語教育学	外国語教育学専攻	
心理学	〔博士課程前期課程〕 心理学専攻 心理臨床学専攻	〔博士課程後期課程〕 心理学専攻
社会安全	防災・減災専攻	
東アジア文化	文化交渉学専攻	
ガバナンス	ガバナンス専攻	
人間健康	人間健康専攻	

研究科	〔専門職学位課程〕
法務	法曹養成専攻
会計	会計人養成専攻

編入学・転入学について

概要

就学途中で学部をかわりたい、学科をかわりたい、といったケースがあります。このような場合の方法、手続は次のとおりですが、主要な点は「学部事務取扱規程」（後掲の「学則及び諸規程」のページ）を参照してください。

編入学

一つの課程を修了した者があらためて就学することを編入学といいます。

本学の学部（学科）を卒業した者又は卒業見込みの者が他の学部（学科）に編入学を希望するときは、学士入学として取り扱います。

なお、受験する学部によって、編入学年次が異なります。詳しくは「編・転入学試験要項」を参照してください。

転入学

ある学部（学科・専攻）から他の学部（学科・専攻）へ移ることを転学部（学科・専攻）といいますが、転学部（学科・専攻）を希望するときは、学則第33条に定める転入学試験を受験して、これに合格しなければなりません。

なお、受験する学部によって、出願資格・転入学年次が異なります。事前に各キャンパス教務事務窓口で確認してください。詳しくは「編・転入学試験要項」を参照してください。

課外活動について

課外活動について

学生のみなさんが行う自主的な活動は、自治会活動や文化・学術研究・体育等のクラブ・サークル活動等さまざまですが、これらの自主的な活動には、学生生活において自立性の涵養、社会性の陶冶、あるいは学生相互の啓発等に教育的な意義があるものと考えます。

もとより、大学における人間形成が専門教育を含む正課教育を中心に行われることはいうまでもありませんが、課外活動において学生の人間形成上の効果を期待し、大学はこれを認めて助成しているものです。全学部生が体育会・文化会・学術研究会・単独パート・同好会・準登録団体に参加できます。各キャンパスを拠点に活動している団体もあります。

課外活動に関する相談は、下記の各窓口に申し出てください。

団体種別	対応窓口
体育会・応援団	スポーツ振興グループ
文化会・学術研究会・放送研究会・同好会・準登録団体	学生生活支援グループ
高槻キャンパスの準登録団体	高槻キャンパスオフィス
高槻ミューズキャンパスの準登録団体	ミューズオフィス
堺キャンパスの準登録団体	堺キャンパス事務室

※ボランティア活動については、ボランティア活動支援グループ

※総合情報学部届出団体（Media Creative Supporter, Versear, Virtual Dive LAB.）については、高槻キャンパスオフィス

人間健康学部届出団体（準硬式野球部）については、堺キャンパス事務室

団体の結成

何らかの目的で、団体を組織し活動をしようとする場合は、団体結成に関する届を届け出ることになっています。詳しい内容については学生センター学生生活支援グループ又は各キャンパス窓口にお問い合わせください。

学内施設の使用について

計画した行事・集会のために学内施設の使用を希望する場合は、使用願を下記へ提出し、許可を得てください。

使用願の提出先

1　誠之館（2・3・6号館）、凜風館、KUシンフォニーホール　学生生活支援グループ
2　誠之館（5・7・8号館）、体育館、グラウンド、プールその他の体育施設　スポーツ振興グループ
3　第1学舎及び付帯施設　法文オフィス
4　第2学舎及び付帯施設　経商オフィス
5　第3学舎及び付帯施設　第3学舎オフィス
6　第4学舎及び付帯施設　理工系オフィス
7　高槻キャンパス施設　高槻キャンパスオフィス
8　高槻ミューズキャンパス施設　ミューズオフィス
9　堺キャンパス施設　堺キャンパス事務室

※第1～4学舎及び付帯施設を使用する場合は、使用願を学生生活支援グループ又はスポーツ振興グループに提出し、許可を得てから各学舎へ申請してください。

物品の販売及び募金等の行為

学内において販売行為及び募金等を行うときは、行為許可願を提出し、許可を得る必要があります。

なお、事後速やかに事業報告を行ってください。

学外で募金等を行う場合は、当該場所の所轄警察署の認可が必要ですので、この点も留意してください。また、学内で行う場合は、当該場所の管理責任者の了解を得なければなりません。

学生諸団体一覧表

体育会

（2022年10月末日現在）

団体名	団体名	団体名
体育会本部	自転車部	馬術部
（関大スポーツ編集局・学生トレーナー部等含む）	自動車部	バスケットボール部
アーチェリー部	射撃部	バドミントン部
合気道部	柔道部	バレーボール部
アイススケート部	重量挙部	ハンドボール部
アイスホッケー部	準硬式野球部	フェンシング部
アメリカンフットボール部	少林寺拳法部	ボクシング部
空手道部	水上競技部	ホッケー部
器械体操部	スキー競技部	野球部
弓道部	相撲部	ヨット部
剣道部	漕艇部	ラグビー部
拳法部	ソフトテニス部	陸上競技部
航空部	ソフトボール部	レスリング部
古武道部	卓球部	ワンダーフォーゲル部
ゴルフ部	テニス部	
サッカー部	なぎなた部	

文化会

文化会本部	混声合唱団ひびき	美術部
囲碁部	茶道部	文芸部
映画研究部	写真部	マンドリン倶楽部
演劇研究部	書道部	ユースホステルクラブ
奇術研究部	将棋部	ユネスコ研究部
グリークラブ	速記部	レコード音楽部
軽音楽部	探検部	ギタークラブ
交響楽団	能楽部	落語大学
ポピュラーミュージック創作研究会	邦楽部	混声合唱団「葦」

学術研究会

学術研究会本部	会計学研究部	仏蘭西文学研究部
英語研究部	証券研究部	法律相談所
経済研究部	マス・コミュニケーション学研究部	スペイン語研究部
現代文学研究部	心理学教育学研究部	情報処理研究部
広告研究部	千里山法律学会	海外調査研究部
国文学研究部	中国語研究部	
史学研究部	独逸文学研究部	

単独パート

応援団	放送研究会	
吹奏楽部		
バトン・チアリーダー部		
リーダー部		

同好会　（2022年10月末日現在）

団体名	団体名	団体名
イエローサブマリンテニスクラブ	自然愛好会	ハイキング同好会
SF研究会	児童文化研究サークルあかとんぼ	服部ローンテニスクラブ
関西大学Jazz研究会	児童文化実践サークル「うぷ」	バスケットボール同好会（OBSTIN）
関西大学軟式野球同好会	手話サークル「あっぷる」	バックパッキング同好会
関西大学MUSIC SYNDICATE ZERO	スキューバダイビング同好会	バドミントン同好会
関西大学四連SOFTTENNIS同好会	生命哲学研究会	バレーボール同好会
基礎スキー同好会	第三文明研究会	BEGINテニスクラブ
キネマちゃんねる	チアリーディング同好会 CLAIRS	HUMAN BEING
KFGテニスクラブ	鉄道研究会	舞踏研究会
K.U.E（関西大学工学部ラグビー部）	テニス友の会	ボランティアサークル「チャレンジャー」
建築研究会	電気通信工学研究会	漫画同好会
剣道クラブ有鄰会	天文同好会CANCER	民謡研究会
硬式テニス同好会	展覧劇場	ラクロス同好会
コンピューター同好会	同好会吹奏楽サークルBis	レーシングカート同好会
サイクルツーリングクラブ	2部バレーボール同好会	

準登録団体（千里山キャンパス）

音楽映像団体MUVA	関西大学クイズサークル	関西大学ベリーダンスサークルBelly Divas
関西大学アカペラサークル Brooklyn304	関西大学ダブルダッチ会 mix package	関西大学模型同好会
関西大学お笑いサークル 関大ストラット	関西大学Tailers	Japan Anime Culture研究会
関西大学学生チーム“漢舞”	関西大学トライアスロンサークルINFINITY	大道芸サークル ジャグりま専科
関西大学競技かるたサークル	関西大学フラサークル cocogirl	M2gk 関西大学服飾サークル

準登録団体（高槻キャンパス）

関西大学アカペラサークル「VOCALISE」	関西大学創作研究会	関西大学軟式野球サークル「JANZIES」
関西大学演劇サークル劇団「万絵巻」	関西大学高槻バドミントンサークル	関西大学バレーボール同好会ボラボラ
関西大学軽音楽サークル同好会「Banditz」	関西大学高槻放送局「KTB」	GAME CREATION CIRCLE「C」

準登録団体（高槻ミューズキャンパス）

学生団体KUMC	つなたか Lab.	

準登録団体（堺キャンパス）

いろは。	関西大学軟式野球サークル HUMANS	TC Allegrone
WEVO	関西大学 Performance Theater KAYMO	Bumps
関西大学K.S.Hearts	関西大学野球チーム Squeeze	BLACKYZ
関西大学 socias	がんばFLY HIGH	

ボランティアセンター

概要

関西大学では、学生の広く社会の利益に沿った活動への参加を支援することにより、学生の自主性と社会性の涵養に資することを目的として、千里山キャンパスにボランティアセンターを開設しています。当センターでは、皆さんがボランティア活動を通して、たくさんの気づきが得られるよう、さまざまな支援を行っています。また、当センターでは、「ボランティアセンター職員と共にセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」という理念のもと活動する学生スタッフが、さまざまな取り組みを行っていますので、積極的に利用してください。

各キャンパス窓口では、ボランティアセンターを通じて紹介されるボランティアの募集及びイベントに関する情報提供や相談受付を行っております。

さらに堺キャンパスでは、堺市との地域連携事業に関わるボランティアやスクールボランティアなど、堺市から人間健康学部に直接依頼のあったボランティア活動を積極的に推進していますので、学生の皆さんは積極的に参加してください。

ボランティア活動に関する相談

これからボランティアを始めたいという学生や、ボランティアにはどんな活動があるんだろう、という学生のボランティアに関する相談に応じています。また、活動中の悩みごとや困りごとに関しても相談を受け付けていますので、気軽にボランティアセンターの窓口へお越しください。

ボランティア情報の収集及び提供

吹田市、高槻市、堺市、大阪府の社会福祉協議会及び大阪ボランティア協会などと連携して、ボランティア募集やイベント情報を収集し、提供します。また、学外団体からのボランティア募集に関しても、「関西大学ボランティアセンターにおけるボランティア団体の紹介に関する方針」に基づき紹介します。

講座・講演会の開講

ボランティアセンターでは、ボランティアに関わる足がかりとしての講演会やコミュニケーション能力の向上のための講座などを開講しています。詳細については、当センターまでお問い合わせください。

課外活動団体のボランティア活動に対する支援

学内のボランティア団体（届出団体）や、本学学生で構成される課外活動団体等の地域貢献活動を積極的に支援します。また、当センターを通しての、学外からのイベント等への出演依頼をコーディネートします。

場所

千里山キャンパス　ボランティアセンター：総合学生会館（メディアパーク凜風館）１階
ボランティアステーション：誠之館２号館　１階

ボランティアセンターホームページについて

ボランティアセンターの取り組みや講座・講演会、ボランティア体験報告や学生スタッフの活動紹介等、さまざまな情報を発信していますので、ご覧ください。

URL：www.kansai-u.ac.jp/volunteer/

「大学昇格 100 年記念　関大花植え活動」

「大和川掃除」

梅田キャンパス

概要

関西大学梅田キャンパスは、創立130周年となる2016年10月に、阪急大阪梅田駅から徒歩５分の大阪市北区鶴野町に地上８階建ての施設として開設されました。

キャンパスの１・２階ブック＆カフェは、学生だけでなく広く一般の方も利用されています。

当キャンパス内では、主に「グループワークや課外活動団体での施設貸出」や「学生向けのイベントやプログラムへの参加」「就職活動の相談・拠点としての利用（キャリアセンター梅田オフィス）」、「各種証明書や学割証の発行手続き」で利用が可能です。

学生向けのプログラムとしては、課題設定・実践・価値創造ができる人材の養成を目的とした「アントレプレナーシップ醸成プログラム（Hack-Academy）」を企業や自治体と連携して実施。多くの学生が基礎から学び、起業や事業開発経験者からサポートをいただきながらトレーニングを受けました。さらに、２階には「スタートアップカフェ大阪」を置き、起業に必要な準備や、自分らしい働き方を起業の観点から知るイベント等を随時開催するとともに、みなさんが発想したアイデアがビジネスとして実現可能かどうかなどを気軽に相談できる機会を提供しています。

そのほか、社会人と学生が共に学ぶことができる多彩なプログラムやイベントを地域や企業等と連携しながら随時開催しています。これらを活用することによって、多様な社会人や学生と交流し、多くの刺激を受ける場として学部・学年に関係なく活用してください。

梅田キャンパスのホームページについて

梅田キャンパスでのイベントや、利用方法など様々な情報を発信していますので、ご覧ください。

URL：https://kandai-merise.jp

梅田キャンパスへのアクセス・お問い合わせ先

関西大学　梅田キャンパスオフィス（平日10：00～18：00）

〒530-0014　大阪府大阪市北区鶴野町１番５号

電話番号：06-4256-6816

阪急「大阪梅田駅」茶屋町口出口から徒歩５分　JR「大阪駅」から徒歩８分

東京センター

概要

JR東京駅隣接というアクセスのよさを活かし、学生の東京方面での様々な活動をサポートすべく準備を整えています。休憩や着替えなどのスペースも充実。荷物の預かりや資料などの準備、簡単な飲食、機器の充電などにも便利です。また各種証明書の発行も可能です。

就職活動、ゼミや課外活動、また卒業後も利用できますので、いつでも気軽にお立ち寄りください。

・パソコンやプリンターの設置
・各種証明書や学割証の即時発行
・更衣室の提供
・荷物の預かり
・Wi-Fiの利用
・Web面接などでの利用も可能

施設設備

・教室兼会議室
・コミュニティラウンジ（PC常設、Wi-Fi完備）
・更衣スペース
・ソロワークブース　2台
・プリント・コピー出力

利用時間

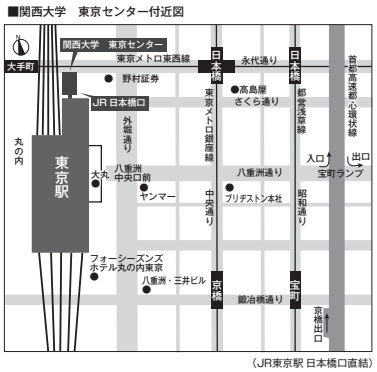
月曜日～土曜日　9時～17時
日曜・祝日、その他大学が定める休日　　閉室

利用方法

サピアタワー3階の総合受付で学生証を提示し、入館手続を行ってください。

東京センターへのアクセス

住所：東京都千代田区丸の内1-7-12　サピアタワー9階
　　JR東京駅日本橋口隣接　地下鉄大手町駅B 7出口直結



問い合わせ先

関西大学東京センター
　電話：03（3211）1670
　URL：www.kansai-u.ac.jp/tokyo/

学 会 案 内

学会

関西大学には、学部又は学科、専修を母体とした学会があります。

学会は原則として、学部、学科、専修それぞれに所属する専任の教授、准教授、専任講師、助教、助手及び副手ならびに本学の出身者、在学生等によって組織されています。

この学会は、学部それぞれの研究分野に関する研究ならびにそれに関する事業を行うことを目的にしています。

このため学会は、日々に研鑽し錬磨をかさねて、その成果としてのエッセイ、学説や学術論文を斯界に問い、また多くの紀要類を刊行したり、研究会や講演会を開催しています。

学会のこれらの学問的活動が、わが国の関係諸学会におおいなる貢献をなしていることは、あまねく知られているところです。

関西大学に入学したみなさんは、それぞれの学会に入会して、学会の行う種々の研究活動に参加することによって、より豊かな学習・研究生活を送られるよう期待しています。

なお、会員は学術機関誌等の配布をうけ、その他、学会が主催する行事に参加することができます。

各種学会・逐次刊行物一覧

学部	学会	刊行物
法学部	関西大学法学会	関西大学法学論集 関西大学法学会誌
文学部	関西大学英米文学英語学会	関西大学英米文学英語学論集
	〃 英米文化学会	Kansai University Journal of Cross Cultural Studies(電子ジャーナル)
	〃 国文学会	国文学
	〃 哲学会	関西大学哲学(電子ジャーナル)
	〃 フランス語フランス文学会	仏語仏文学
	〃 独逸文学会	独逸文学
	〃 史学・地理学会	史泉
	〃 中国文学会	関西大学中国文学会紀要
	〃 教育学会	教育科学セミナリー
	〃 初等教育学会	学校教育学論集
	〃 文学部心理学会	文学部心理学論集
	〃 映像文化学会	eizoubunka
	〃 文化共生学会	文化と共生(電子ジャーナル)
	〃 アジア文化研究会	関西大学アジア文化フォーラム
経済学部	関西大学経済学会	関西大学経済論集 関西大学経済学会報
商学部	関西大学商学会	関西大学商学論集 リサーチガイド商学

第 3 章　関西大学の組織・研究機関など

関西大学の沿革

関西初の本格的法律学校として開校

国会開設を求める自由民権運動が高まり、諸外国との不平等を解消する条約改正が国家的課題だった明治時代、近代的な法典の整備編纂とそれを運用する司法官や代言人（弁護士）を養成するための教育が急務とされました。

大阪で言論活動を展開していた自由民権運動の活動家吉田一士は、時代の要請を敏感に読み取り、児島惟謙大阪控訴院長らの後援を得て、小倉久、鶴見守義らとともに、井上操、堀田正忠、志方鍛、手塚太郎らの若い司法官たちに働きかけ、関西初の本格的な法律学校の設立を計画しました。1886（明治19）年11月４日、大阪西区京町堀の願宗寺に開校した関西法律学校――それが関西大学のルーツです。

市民が自らを守り、治める法律を

校舎はその後、北区河内町の興正寺に移りましたが、向学心に燃える多数の青年が押しかけ、薄暗いランプのもと熱気あふれる授業が続けられました。創立者たちは「法律は市民のものだ。市民は法律によって自らを守らなければならない」と学生たちに説きました。本学に今も語りつがれる「正義を権力より護れ」の言葉にある精神も、こうした伝統から生まれています。

1889（明治22）年、最初の卒業生を世に送った本学は1903（明治36）年、西区江戸堀に校舎を新築、1905（明治38）年には私立関西大学と改称しました。翌1906（明治39）年には北区上福島に学舎を移転、着実に前進を続けました。

旧制大学へ昇格

1922（大正11）年４月には千里山に新学舎が竣成し、同年６月５日に法・商の２学部をもつ大学（旧制）となりました。時の総理事山岡順太郎は「学の実化（じつげ）」の理念をかかげ「公開講座の開設」「海外留学生の派遣」など、斬新な企画を打ち出しました。この理念は、本学の学風として今も受け継がれています。また、1929（昭和４）年には天六学舎の新築に伴い、専門部が福島から移転しました。

新制大学へ転換、着実な前進

第２次大戦が終わり、わが国の教育制度が改革されると、本学は1948（昭和23）年に法・文・経済・商の４学部（各１・２部）からなる新制大学へ転換しました。その後、1950（昭和25）年に新制大学院、1958（昭和33）年に工学部（１部）、1967（昭和42）年に社会学部（１・２部）を設置して躍進をとげました。

関西大学第２世紀にはばたく

時代は平成にうつり、国際化、情報化、開かれた大学をめざしていくなか、1989（平成元）年に国際交流センターを開設し、1994（平成６）年には高槻キャンパスに総合情報学部を設置しました。また、1997（平成９）年にエクステンション・リードセンターを開設し、2000（平成12）年には外国語教育研究機構を設置しています。さらに2004（平成16）年に法科大学院を、2006（平成18）年には会計専門職大学院を設置しました。

2007（平成19）年、政策創造学部を開設し、工学部はシステム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部の３学部に生まれ変わりました。また、2008（平成20）年に大学院心理学研究科を設置しました。

2009（平成21）年、外国語学部と臨床心理専門職大学院（心理学研究科心理臨床学専攻）を設置しました。

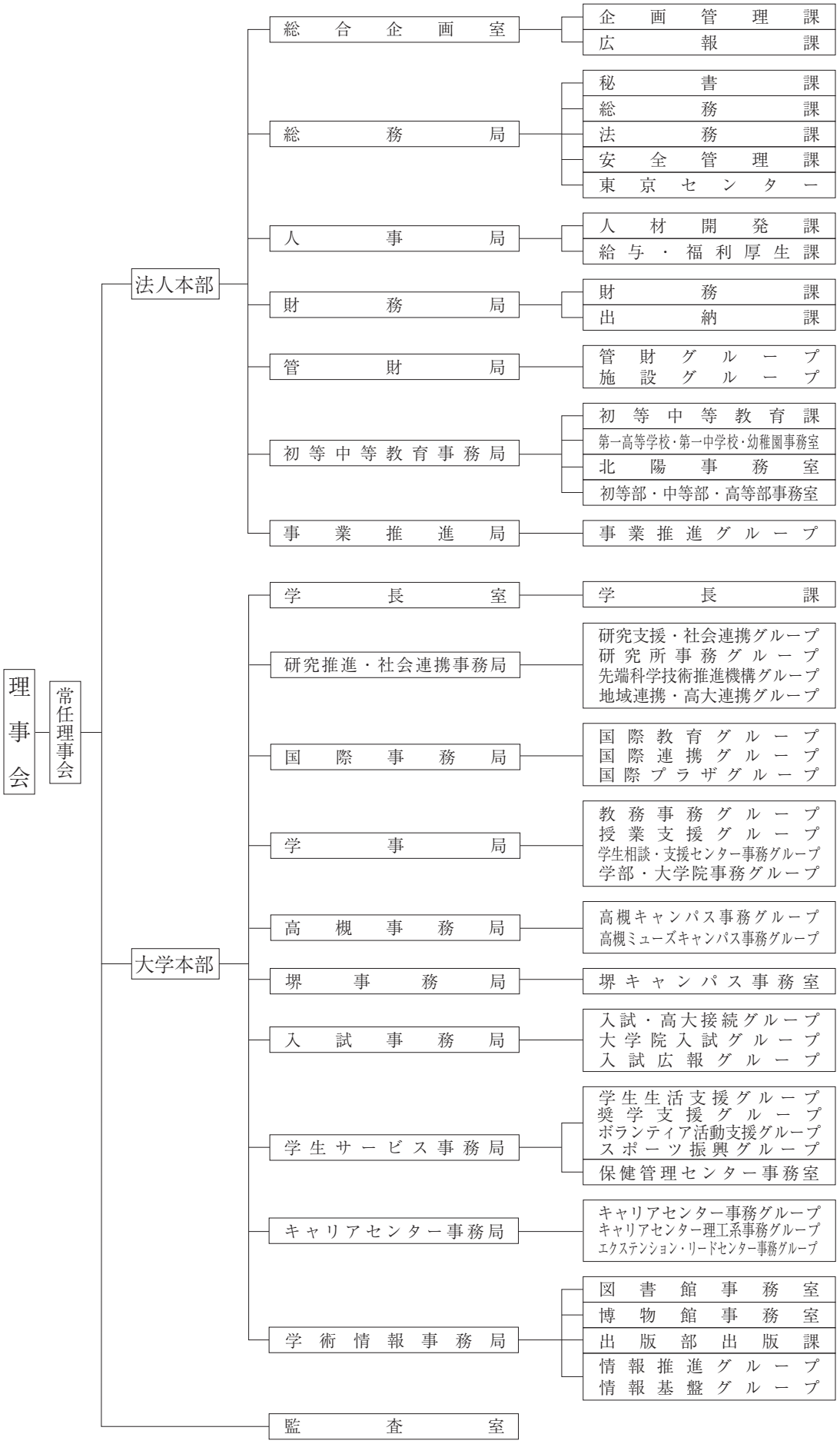
2010（平成22）年、高槻ミューズキャンパスに社会安全学部と大学院社会安全研究科、堺キャンパスには人間健康学部をそれぞれ設置し、2012（平成24）年に南千里国際プラザ（留学生別科設置）を開設しました。さらに、2014（平成26）年には大学院人間健康研究科を設置しました。2016（平成28）年10月に梅田キャンパスを開設しました。

2022（令和４）年、関西大学は大学昇格100年を迎え、６月に記念式典が挙行されました。関西大学はこれまでの伝統を踏まえつつ、未来に向かって発展を続けています。

関西大学年表

1886(明治19)年11月	大阪西区京町堀の願宗寺において関西法律学校を創立、開校
1887(〃 20)年４月	大阪北区河内町の興正寺に移転
1889(〃 22)年９月	第１回卒業証書授与式を挙行
1903(〃 36)年12月	大阪市西区江戸堀に校舎が竣成し、移転
1904(〃 37)年８月	経済学科を増設
1905(〃 38)年１月	社団法人私立関西大学と改組・改称
1906(〃 39)年９月	商業学科を増設
12月	大阪市北区上福島に学舎が竣成し、移転
1922(大正11)年４月	千里山に予科校舎が竣成し、大学部と大学予科を移転
６月	大学令による大学を設立し、法学部と商学部を設置
1924(〃 13)年４月	商学部に経済学科を増設、専門部に文学科を設置
1929(昭和４)年９月	天六学舎が竣成し、専門部を移転
1936(〃 11)年５月	創立50周年記念式典を挙行
1948(〃 23)年４月	新制大学に移行し、法・文・経済・商の４学部（各１・２部）を設置
1950(〃 25)年４月	新制大学院（修士課程）を開設
1951(〃 26)年５月	東西学術研究所を開設
1953(〃 28)年４月	大学院（博士課程）を開設
1958(〃 33)年４月	工学部（１部）を設置
４月	経済・政治研究所を開設
1964(〃 39)年１月	工業技術研究所を開設（2002年に先端科学技術推進機構へ組織変更）
1967(〃 42)年４月	社会学部（１・２部）を設置
1975(〃 50)年４月	大学院を大学院設置基準による「博士課程の大学院」に改組
1984(〃 59)年10月	総合図書館・情報処理センターが竣成
1985(〃 60)年６月	人権問題研究室を開設
1986(〃 61)年11月	創立100周年記念式典を挙行
1987(〃 62)年４月	法学研究所を開設
1989(平成元)年10月	国際交流センターを開設（2008年に国際部へ改組）
11月	関西大学100周年記念会館が竣成
1994(〃 ６)年４月	高槻キャンパスに総合情報学部（１部）を設置
４月	第２部が天六から千里山へ移転
４月	関西大学博物館を開設
1997(〃 ９)年４月	エクステンション・リードセンターを開設
2000(〃 12)年４月	全学共通教育推進機構と外国語教育研究機構（2009年に外国語学部へ改組）を設置
2002(〃 14)年４月	大学院外国語教育学研究科を設置
2003(〃 15)年４月	第１部・第２部制を廃止し、昼夜開講制を実施（2006年まで）
2004(〃 16)年４月	法科大学院を設置
４月	文学部は総合人文学科１学科10専修制度に移行（現在、１学科16専修）
2006(〃 18)年４月	会計専門職大学院を設置
2007(〃 19)年４月	政策創造学部を設置
４月	工学部はシステム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部の３学部に改組
2008(〃 20)年４月	大学院心理学研究科を設置
４月	ソシオネットワーク戦略研究機構を開設
2009(〃 21)年４月	外国語学部を設置
４月	臨床心理専門職大学院を設置
2010(〃 22)年４月	高槻ミューズキャンパスに社会安全学部、大学院社会安全研究科を設置
４月	堺キャンパスに人間健康学部を設置
2011(〃 23)年４月	大学院東アジア文化研究科とガバナンス研究科を設置
2012(〃 24)年４月	関西大学南千里国際プラザに関西大学留学生別科を開設
2014(〃 26)年４月	堺キャンパスに大学院人間健康研究科を設置
９月	天六キャンパスクロージングイベントを挙行
2016(〃 28)年10月	梅田キャンパスを開設
11月	創立130周年記念式典を挙行
2022(令和４)年６月	大学昇格100年記念式典を挙行

事務組織図


理事会
常任理事会
法人本部
総合企画室
企画管理課
広報課
総務局
秘書課
総務課
法務課
安全管理課
東京センター
人事局
人材開発課
給与・福利厚生課
財務局
財務課
出納課
管財局
管財グループ
施設グループ
初等中等教育事務局
初等中等教育課
第一高等学校・第一中学校・幼稚園事務室
北陽事務室
初等部・中等部・高等部事務室
事業推進局
事業推進グループ
大学本部
学長室
学長課
研究推進・社会連携事務局
研究支援・社会連携グループ
研究所事務グループ
先端科学技術推進機構グループ
地域連携・高大連携グループ
国際事務局
国際教育グループ
国際連携グループ
国際プラザグループ
学事局
教務事務グループ
授業支援グループ
学生相談・支援センター事務グループ
学部・大学院事務グループ
高槻事務局
高槻キャンパス事務グループ
高槻ミューズキャンパス事務グループ
堺事務局
堺キャンパス事務室
入試事務局
入試・高大接続グループ
大学院入試グループ
入試広報グループ
学生サービス事務局
学生生活支援グループ
奨学支援グループ
ボランティア活動支援グループ
スポーツ振興グループ
保健管理センター事務室
キャリアセンター事務局
キャリアセンター事務グループ
キャリアセンター理工系事務グループ
エクステンション・リードセンター事務グループ
学術情報事務局
図書館事務室
博物館事務室
出版部出版課
情報推進グループ
情報基盤グループ
監査室

大学の組織の概略

学校法人関西大学

学校法人関西大学は、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に基づき、教育を行う事を目的に、次に掲げる学校等を設置しています。

関西大学

大学院：法学、文学、経済学、商学、社会学、総合情報学、理工学、外国語教育学、心理学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、人間健康、法務（法科大学院）、会計（専門職大学院）の15研究科

学　部：法、文、経済、商、社会、政策創造、外国語、人間健康、総合情報、社会安全、システム理工、環境都市工、化学生命工の13学部

別　科：留学生別科（日本語・日本文化教育プログラム進学コース）

研究所：東西学術、経済・政治、先端科学技術推進機構、法学、ソシオネットワーク戦略研究機構の５研究所

関西大学第一高等学校（全日制課程普通科）

関西大学北陽高等学校（全日制課程普通科）

関西大学高等部（全日制課程普通科）

関西大学第一中学校

関西大学北陽中学校

関西大学中等部

関西大学初等部

関西大学幼稚園

関西大学

関西大学にはそれぞれ組織の長が置かれています。

学長は理事会の一員であり、大学の教務を統括するとともに、教務を掌理するため、種々の審議・協議機関を主宰する一方、自らの補佐として副学長、学長補佐、学生センター所長、入試センター所長、キャリアセンター所長、学生相談・支援センター長、図書館長、インフォメーションテクノロジーセンター所長、博物館長等にそれぞれの役割を委任して、教学全体の円滑な運営を図っています。

学部長・研究科長は各学部・研究科を代表し、学長が主宰する学部長・研究科長会議、大学協議会などの構成員として全学的な運営事項についての審議・協議にあたることになっています。このほか、全学的な事項についての専門委員会には、教育推進委員会、研究推進委員会、社会連携委員会、国際委員会等、また、諮問機関として人権問題委員会等があります。

学部及び大学院

学部長が代表する学部には、その学部の教育・研究にかかわる事項、教育課程、学籍事項、学生の補導などについての審議機関として、学部教授会が置かれています。

また、学部長は、自らの職務の円滑な執行を図るための補佐として副学部長、教学主任、入試主任、学生主任をおくとともに、学生の個人相談については、学生が自主的に解決するための助言を行うため学生相談主事を置いています。

本学大学院は博士課程13研究科（法学・文学・経済学・商学・社会学・総合情報学・理工学・外国語教育学・心理学・社会安全・東アジア文化・ガバナンス及び人間健康研究科）、専門職学位課程２研究科（法務及び会計研究科）を設置しており、それぞれの分野での理論や技術について専門的に研究し、有能な技術者や研究者を多数養成しています。また、法科大学院（法務研究科）では、有為な法曹を、会計専門職大学院（会計研究科）では会計人を養成するための高度な教育を行っています。

研究科には、それぞれに研究科委員会（法務及び会計研究科は研究科教授会）が組織され、当該研究科の学事事項、学位の授与の承認に関する事項、教育課程、学籍事項などについての審議を行います。

社会連携部

概要

社会連携部は、関西大学の教育・研究活動の成果を社会で活用するため、７つのセンター及び１つの機構を設置して活動しています。

1　産学官連携センターは、本学の研究活動と社会との連携を図り、官公庁や企業等との共同研究や受託研究の推進､政府の施策プロジェクトに係る申請や機関管理業務を行うと同時に､プロジェクトの円滑な活動をサポートしています。また、各地で開催する各種セミナーの実施や、展示会への出展など研究成果のアピールと技術相談への対応、イノベーション創生センターとの機能連携を行うことにより、本学の研究力と企業の技術力の相互の向上に寄与しています。

2　知財センターは、本学で創出される研究結果を、知的財産として保護し、企業へ技術移転することにより、新技術・新産業の創出や技術の革新などへの活用（社会実装）を目指します。また､「知財インターンシップ」「特許調査セミナー」等の開催を通じて、研究者や学生の知財マインドの向上・人材育成の強化にも取り組んでいます。

3　地域連携センターは、地域社会との連携窓口としての役割を果たすとともに、地域連携に関するノウハウの蓄積、連携活動の具体化を図ります。地方自治体や団体、企業との連携協定の締結や、教育研究活動を通じて連携先の課題解決をめざす地域課題解決型事業の展開を推進しています。また、学内外において多様で特色ある公開講座やセミナーを開催し、本学の教育研究活動の成果を広く社会へ届けることにより、開かれた大学の役割の一翼を担っています。

4　高大連携センターは、大学の重要な使命の一つ「次世代の人材育成」を目標に掲げ、同じ使命を共有する教育委員会、高等学校、中学校、小学校、幼稚園、支援学校等と連携を図りながら、さまざまな高大連携事業に取り組んでいます。例えば、高校生が「大学の学び」を体験できる出張講義や公開授業、現職の教員を対象とした研修講座、本学学生が教育現場で就業体験を行う「学校インターンシップ」などが挙げられます。これら各種プログラムを通じ、豊かな教育環境の創出と次世代を担う人材の育成を目指しています。

5　イノベーション創生センターは、総合大学の利点を活かした人文・社会・自然科学系の学問分野を融合し、産学官連携活動の飛躍的な活性化となる研究活動の支援と関大発ベンチャーの支援、人材育成などによる本格的なイノベーション創出の拠点となることを目指しています。また、“起業”や企業内の“新規事業立ち上げ”に関するセミナー等を開催するなどアントレプレナーシップ育成プログラムを実施しています。

6　なにわ大阪研究センターは、長年集積してきた豊富な地域研究を学術資産として受け継いでいくこと、総合大学としての特色を活かし、人文科学・社会科学・情報通信学・防災学・理工学等の各分野を統合する「総合科学」の粋を集めて､「大阪を中心とした地域研究のハブ」を形成することを目的としています。「大阪」に生まれ育まれた大学としての社会的な使命と期待に応えるため、全国、さらには世界に向けて情報を発信する「大阪研究の拠点」としてその充実を図ります。

7　関西大学・大阪医科薬科大学医工薬連環科学教育研究機構は、医学・工学・薬学・看護学を融合した医工薬連環科学分野において、二大学が連携して、大学の使命である教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。二大学の特色を活かし、またその協働によって新たな成果を産み、社会へ提供できるよう尽力しています。

8　カーボンニュートラル研究センターは、教育・研究機関の特性を活かした人材育成と新技術の創出によって、多角的に地球環境の保全に貢献する機関として社会から認知される存在となることを目指して、社会全体のカーボンニュートラル達成に貢献できる人材育成と研究活動の促進や社会、地域と連携したカーボンニュートラルに向けた社会活動の支援に取り組んでいます。CO_2排出量を、2030年度には50％削減、2050年度にはカーボンニュートラルとなることを目指して尽力しています。

場所

産学官連携センター、知財センター、カーボンニュートラル研究センター：学術フロンティア・コア１階
※研究費機関管理部門は、新関西大学会館南棟２階
地域連携センター、高大連携センター、関西大学・大阪医科薬科大学医工薬連環科学教育研究機構：新関西大学会館南棟３階
イノベーション創生センター：イノベーション創生センター
なにわ大阪研究センター：簡文館（新館）

先端科学技術推進機構

概要

本機構は、工業技術の進歩・発展に寄与することを目的として1964年に設置された調査・研究機関である工業技術研究所を前身とし、2002年４月「先端科学技術推進機構」と名称を変更し、組織を再編成しました。

社会のニーズに応える研究組織として、「N（新物質・機能素子・生産技術）研究部門」「I（情報・通信・電子）研究部門」「B（生命・人間・ロボティクス）研究部門」「E（環境・エネルギー・社会）研究部門」の４研究部門を設けて、それぞれの分野に所属する研究員が各専門分野に対応した研究活動を行っています。また、特定の分野における研究の高度化、深化を目的とした研究センターを設立し、大型プロジェクトや学外共同研究をその傘下で推進しています。「医工薬連携研究センター」は、健康の増進、疾病予防及び診断治療に貢献することを目的とし、「地域再生センター」は、地域再生をテーマとする社会基盤施設の持続的な維持管理、再生に関する研究、地域コミュニティ文化に関する研究を行うことを目的としています。「戦略的研究推進センター」は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業プロジェクトで培った研究力を基に、新たな研究分野を開拓、発展させることを目的とし、「社会空間情報科学研究センター」は、社会空間情報を正確かつ柔軟に取得する計測技術に関して深く研究し、それらの技術を多様な分野に適用して新たな気づきとなる社会空間情報サービスを開発することを目的としています。「関大メディカルポリマー研究センター」は、文部科学省私立大学研究ブランディング事業に採択された「『人に届く』関大メディカルポリマー（KUMP）による未来医療の創出」プロジェクトを発展させ、大阪医科薬科大学を中心とした医学系研究機関との共同研究等を行い、医療器材の開発と実用化をめざした研究の拠点として設立されました。医療の発展への貢献と本学のブランド力向上を目的としています。

本機構は、本学における研究成果の社会への還元を通じ、社会に向けて広く開かれた研究推進機関としての役割を担うため、受託研究、学外共同研究、起業支援等の産学官連携・協力による事業を積極的に推し進めています。

このように創出された研究成果は、毎年開催する本学の代表的な学術講演会である「関西大学先端科学技術シンポジウム」において発表されるとともに、これらは『研究成果報告書』としてまとめられ、広く社会に発信されています。また、機関誌では『先端機構ニュース（Re:ORDIST）』及び『技苑』、英文による研究者紹介『Researchers in ORDIST』も発行しています。

場所

先端科学技術推進機構（学術フロンティア・コア１階）

利用資格

本機構研究員並びに本機構の研究に従事する学部生及び大学院生

東西学術研究所

概要

本研究所は、「東西両洋文化の学術研究、殊に比較研究を行い世界文化の融合に貢献する」ことを目的として1951（昭和26）年４月に設立され、2021（令和３）年度には、創立70周年を迎えました。

本学教育職員の研究員と他大学等から招いた委嘱研究員、客員研究員が７研究班で、共同研究を行っています。これらの研究成果は、『研究叢刊』、『資料集刊』、『訳注シリーズ』、『索引シリーズ』、『国際共同研究シリーズ』、『研究叢書』、『研究所紀要』、『研究所々報』などの各種刊行物で発表しています。また、海外の研究所や多くの研究者と研究交流を行っており、研究者の招へい、特別講演会や研究会並びに国際シンポジウム等を開催しています。

また、本研究所では、若手研究者の育成にも留意し、大学院に在籍する院生を対象とする準研究員制度により研究班に大学院生を受け入れてきたほか、大学院教育を修了した若手研究者を対象とした「非常勤研究員」を設け、研究活動を支援しています。

毎年秋には、泊園記念会が、社会人の生涯学習の場を広げるべく、「泊園記念講座」を開催しています。（www.kansai-u.ac.jp/Tozaiken/）

場所

児島惟謙館　Ｂ１・１・２階

利用資格

研究員及び教育職員

なお、図書資料を利用したい学部学生の方は、総合図書館の窓口にお申し出ください。大学院学生については直接、研究所事務グループ（児島惟謙館１階）までお越しください。

経済・政治研究所

概要

本研究所は「経済・政治・社会に関する理論及び実態を研究調査し、もって学術文化の発展と人類の福祉に貢献すること」を目的として1958（昭和33）年４月に設立されました。

現代の社会問題をめぐる研究テーマを学際的・国際的に追求するため、2020年度に発足した「近代関西経済の発展とアジア・アフリカの国際関係史」研究班、2021年度に発足した「関西ファミリービジネスのBCMと東アジア戦略」研究班、2023年度に発足した「サブサハラ政策」研究班、「財政と公会計」研究班、「民主主義の再生と「公共圏」」研究班の合計５研究班が、総合大学の特徴を活かし、複数学部にまたがる幅広い研究領域の本学教育職員の研究員と学外の委嘱研究員により共同研究を行っています。

これらの研究成果は『研究双書』、『調査と資料』、『セミナー年報』などの各種刊行物で発表し、ホームページ上で公開しています。また、開かれた大学として、社会人の生涯教育のための「公開講座」や「産業セミナー」、さらに各研究班が開催する「公開研究会（公開セミナー）」という形でも広く社会への還元に務めています。
（www.kansai-u.ac.jp/Keiseiken/）

場所

児島惟謙館　Ｂ１・１・２階

利用資格

研究員及び教育職員

なお、図書資料を利用したい学部生及び大学院生は、総合図書館の窓口にお申し出ください。

法学研究所

概要

本研究所は、法学・政治学分野での最先端の研究成果を学内から生み出していくための基盤としての役割を果たすこと、そして、関西法律学校として発足した関西大学の伝統ある法学教育の充実のために、その研究成果をフィードバックしていくことを目的として、1987年（昭和62年）に設立され、これまでに、2000年には文部科学省・私立大学学術フロンティア推進事業拠点、さらに2008年には文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されるなど、様々な研究活動を展開し、成果を上げてきました。

2023年度現在では、「インターフェース政治」「行政における法執行」「商行為総則・各則規定」「技術発展をめぐる刑事法の課題」の４つの研究班が研究所の内に設置され、研究活動を行っています。

社会還元活動としては、「公開講座」「特別研究会」を開催しています。これらは、研究者・大学院生・学部生だけでなく、一般の方々にも公開されています。

研究活動・事業活動の成果と記録は、『研究叢書』（各研究班の研究成果）及び『ノモス』（年2回刊）として刊行されています。

本研究所の活動や行事の案内等は、随時研究所ホームページでお知らせしています。
（www.kansai-u.ac.jp/ILS/）

場所

児島惟謙館　Ｂ１・１・２階

利用資格

研究員及び教育職員

なお、図書資料を利用したい学部生及び大学院生は、総合図書館の窓口にお申し出ください。

人権問題研究室

概要

本研究室は、部落問題、人種・民族問題、障害、ジェンダー等、人権にかかわる国内外の諸差別の問題を研究・調査し、大学の内外における基本的人権の確立と、そのための教育・研究の向上に寄与することを目的として、1985年6月に前身である部落問題研究室（1974年4月設立）を改組して設立されました。

研究室には、専任教員の研究員と委嘱研究員及び非常勤研究員が、各研究班に所属して、共同で研究・調査を行っています。

その成果は『人権問題研究室紀要』等に発表し、全国の各関係諸機関に配布しています。また、研究室の活動状況や資料の紹介等を『人権問題研究室室報』で行っています。学生・教職員及び一般市民を対象に公開講座も開催しています。

研究室では図書資料室を設けており、人権問題に関する各種資料を収集して、研究員のみならず、全学の教職員・学生の利用に供しています。なお、高槻図書室・ミューズ大学図書館・堺キャンパス図書館においても図書室内に「人権資料コーナー」を設けていますのでご利用ください。

（www.kansai-u.ac.jp/hrs/）

場所

簡文館　3階（東出入口）

利用資格

研究員、教職員及び学生

貸出冊数期間（学生）

3冊2週間（図書館の貸出冊数とは別に借りることができます。）

開館時間

原則として月～金曜日　9：00～17：00

休館日

土曜日、日曜日、祝日、入学試験期間（準備期間含む）、8/11～20、12/26～1/6

ソシオネットワーク戦略研究機構（RISS）

概要

本機構は、2008年6月に文部科学省の「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」に採択されたことを受けて、同年7月に本学の附置研究機関として設置されました。

共同利用・共同研究拠点として、約3,000名の実験参加者プールを整備した「経済実験室」「視線計測実験室」をはじめ、RISS経済心理学データアーカイブ等の研究資源を研究者コミュニティに公開しており、産学官連携や英文査読付き学術誌『The Review of Socionetwork Strategies』の発行も行っています。

本機構の活動は随時機構ホームページでお知らせしています。

（www.kansai-u.ac.jp/riss/）

また、「経済実験室」では対面型とオンライン型の経済実験を行っており、本学学生に実験参加者の募集を行っています。興味のある方は、実験参加応募サイトにアクセスして参加登録をしてください。ご応募お待ちしております。

（www.kandai-riss-orsee.org/public/）

場所

ソシオネットワーク戦略研究機構

利用資格

本機構研究員及び共同利用・共同研究拠点の参加研究者

教育後援会

教育後援会とは

教育後援会は、関西大学と家庭との連絡を密にし、学生の勉学向上に資するため、全学生の父母が会員となって組織されている団体です。その設立は、大学が未だ旧制時代の1947年６月で、当初は戦災で荒廃したキャンパス復興のため、主として各種の施設・設備や図書の寄贈などを行っていました。その後、学生の教育指導を側面から援助する計画の実現に重点を移し、教育懇談会、就職説明懇談会などの開催、会報『葦』や父母向け大学ガイドの発行、大学紹介映画の製作など、会員にとって関心の深い事業・行事の実施へと発展させ、「大学と家庭の心のかけ橋」として、他大学でも類をみない広汎な活動を行っています。また、これらの活動は設立目的の一つである会員相互の親睦を図ることにも、十分に役立っています。

総会の開催と学部別教育懇談会

教育後援会総会を、毎年１回、５月中旬の日曜日に千里山キャンパス中央体育館において開催し、全国各地から会員である父母が多数参集されます。

総会終了後、午後からは、学部主催による学部別教育懇談会が開催されます。これには、学部長をはじめ多数の教職員が出席し、学部教育についての全体説明のほか、学生の学習状況についての個人面談も行われます。

地方教育懇談会の開催

遠隔地に在住の会員である父母のために、夏季休業期間を中心に、全国の主要都市で地方教育懇談会を開催しています。この懇談会には、大学から理事長や学長のほか、多数の教職員が出席し、大学の教育方針、学業、学生生活、就職等の諸問題について全般的な説明の後、学部に分かれて、各学部教育の特色についての説明や個人面談が行われます。また同時に、地元自治体やマスコミの後援を得て特別講演なども実施しています。

就職説明懇談会の開催

学生の就職問題の重要性に着目し、会員である父母を対象にした就職説明懇談会を開催しています。就職活動を目前に控えた３年次生会員のみならず、２年次生会員を対象にキャリアプランニングセミナーを、さらに１年次生会員を対象にキャリアデザインセミナーを開催するなど、各年次に応じた、きめ細かい懇談会を実施しています。

学生の就職活動ならびにキャリア形成に対する支援

学生のインターンシップ参加などに対する支援に加え、就活生の進路決定の一助となるよう、詳細なスケジュール管理が可能なカレンダーや就職活動に関する基本事項などを網羅した必携手帳『就職活動サポートブック』の発行に対し全面的な支援を行っています。

充実した学生生活に向けた幅広い助成

学生の課外活動の健全な発展やグローバル人材の育成に向けた、援助金・振興費を支出しています。

さらに、学生の食育推進に向けた助成の他、「家計急変者給付奨学金」や「新入生歓迎の集い」への助成に加え、教職員の研究活動に対する補助金の助成なども行っています。

会報『葦』の発行

機関誌として会報『葦』を年３回発行し、会員各位に郵送しています。この『葦』は、本会の活動状況をはじめ関西大学の近況を、会員である父母の方がたに紹介し、大学が取り組む教育研究活動や人材育成について、より理解していただくことを目的に編集したもので、他にも、会員の方がたから寄せられた随想などを掲載しています。

父母向け大学ガイド『みちしるべ―関西大学の４カ年―』の発行

会員である父母のための大学手引書を発行し、新入生会員にお贈りしています。内容は、カラーグラビア、関西大学のあゆみ（歴史）、学生生活の充実に向けた教育環境・諸制度、教育後援会の紹介、専任教育職員のプロフィールを紹介する『先生の横顔』などで、関西大学の詳細がわかっていただける冊子です。

映画の製作

広報活動としてだけではなく、貴重な記録を後世に遺すために、飛鳥の史跡を探訪した「飛鳥とともに」や、関西大学創立100周年記念事業の一つである記念映画「関西大学風雪の歴史」並びに「燃ゆる関西大学」（大学との共作）、総会の模様を収録した記録映画「新緑のキャンパス」などの映画を、これまで製作してきました。

現在も、大学紹介映画を毎年改定し、地方教育懇談会など各種行事で上映するとともに、本会ホームページやユーチューブでも公開しています。

入学・卒業記念品の贈呈

新入生及び新入生会員には、入学を記念した品を、卒業生には、卒業証書ファイルなどの卒業を記念した品を贈呈しています。

支部の設置

各地域の会員である父母が相互の交流や親睦を図り、大学との連絡を円滑にするための機関として、各都道府県ごとに（会員数の多い地域ではさらに細分化して）支部が設置されています。

各支部では、支部総会や支部役員会を開催して支部運営を図り、とくに地方教育懇談会が開催される支部においては、地域会員の〝かなめ〟の役目を果たしています。

「父母の窓口」

「父母の窓口」として学業、就職など学生生活全般の問題についての質問や照会に応じています。

セミナーハウスの運営・利用受付

関西大学には現在、学生の課外授業・課外活動及び教職員の福利厚生施設として、「飛鳥文化研究所・植田記念館」「100周年記念セミナーハウス・高岳館」「白馬栂池高原ロッジ」「六甲山荘」「彦根荘」の５つのセミナーハウスがあります。本会では、学校法人関西大学の委託を受けて、「飛鳥文化研究所・植田記念館」を運営するとともに、他の施設の利用受付も行っています。

「教育振興植田基金」の運営事務

1975年、本会元会長の故植田正路氏の寄付により、「飛鳥文化研究所・植田記念館」が建設されましたが、翌1976年に再度、植田氏から学校法人関西大学に対する多額の寄付があり、この寄付金をもって設置された「教育振興植田基金」の運営委員会事務を、法人の委託を受けて本会が行っています。

「飛鳥史学文学講座」の開催

1975年から毎月１回を基本に、「飛鳥文化研究所・植田記念館」が明日香村と共催して、本学の教授や本学出身の研究者の方がたなどに講師をお願いし、「飛鳥史学文学講座―やまと・あすか・まほろば塾―」を同村中央公民館で開催しています。

校　友　会

目的

校友会は、学校法人関西大学が設置する高等学校以上の卒業生全員を会員とし、会員相互の交誼を厚くし、母校の発展に寄与することを目的とする大学の外郭団体で、卒業生の住所管理業務は大学より全面的な委託を受けています。特に2001年度入学生からは、学生全員を学生会員として校友会組織に加えるとともに、学生の学術、スポーツ・文化振興支援に力点を置いています。

本部と組織

校友は、2023年３月末現在で50万人を超え、本部を校友・父母会館内におき、支部を全国都道府県・主要都市及び海外に設置し、その数は、職域会・同期会・ゼミOB会・関係校友会・各種団体を含め、およそ240団体にのぼっています。

本部には会長・副会長のもとに執行機関である常議員会（70人以内）と、議決機関である代議員会（1,500人程度）があり、常議員会は総務・事業・広報・組織・学生支援・財務の６部に分かれて会務を分掌し、事務局を置いて運営しています。

機関誌『關大』の発行とウェブサイト、SNSの運用

校友会は会の目的達成のため年間を通じて種々の事業を行っていますが、とりわけ機関誌『關大』の発行と校友の住所管理は大きな事業です。『關大』は、母校創立70周年の1955年に創刊され、2004年度からは時代のニーズに応じて、それまでの新聞形式からＡ４判カラーの冊子形式に変更、そして2016年度からはより若い世代にも親しんでもらえるよう、誌面の全面リニューアルを行いました。

現在634号（2023年３月）の誌齢を重ねている同誌は、毎回約10万部を発行し、全国的な規模で母校と校友、校友と校友を結ぶネットワークとしての役割を果たしており、学生会員に対しても配付を行っています。

また、タイムリーな情報発信媒体としてウェブサイト、SNSを運用し、広報活動のより一層の充実をはかっています。

校友の住所管理

大学より業務委託を受けている校友の住所管理については、プライバシー保護の観点から、これまでも慎重に取り扱ってきましたが、2005年の個人情報保護法の施行に伴い、「校友会個人情報保護規程」を制定し、更なる個人情報保護の徹底をはかっています。

在学生への支援

2005年度に制定の「学生振興支援基金規程」に定める「功績表彰制度」「給付育英奨学金制度」及び「助成制度」に基づき、学業成績優秀者の表彰をはじめ、学術振興及びスポーツ・文化振興を支援する諸施策を積極的に実施していますが、さらに援助内容を充実させるために、2012年度には常議員会内に学生支援部を設置し、学生への支援を充実させています。

評議員の推薦

学校法人関西大学の寄附行為により、校友会は、校友評議員候補者を選出する母体として、候補者の推薦を行うよう定められています。

学則及び諸規程

学　　則（抄）
非常変災その他急迫の事態が発生した場合の休講等の取扱規程
学部事務取扱規程
学　費　規　程（抜粋）
学部学生留学規程
学部学生留学規程施行細則
図書館利用規程
給付奨学金規程
新入生給付奨学金規程
学部給付奨学金規程
「学の実化」入学前予約採用型給付奨学金規程
大学院入学前予約採用型給付奨学金規程
災害時支援給付奨学金規程
家計急変者給付奨学金規程
国の修学支援新制度導入に伴う給付型奨学金の支給調整に係る規程
交通規制に関する規程
遺失・拾得物等に関する取扱要領
学　生　規　程
学生懲戒処分規程
誠 之 館 規 程
総合学生会館メディアパーク凜風館・
KUシンフォニーホール使用細則
体育施設使用規程
たかつきアイスアリーナ使用細則

関西大学学則（抄）

制定　昭和23年３月25日

第１章　通　則

（目的）

第１条　関西大学（以下「本大学」という。）は、教育基本法（平成18年法律第120号）に基づき人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な法学、文学、経済学、商学、社会学、政策学、外国語学、健康学、情報学、安全学、工学、理学等に関し、広く知識を授けるとともに深くその専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。

（自己点検及び評価）

第１条の２　本大学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

２　前項の点検項目及び実施体制に関する規定は、別に定める。

（学部及び学科等）

第２条　本大学に次の学部及び学科を置く。

法　学　部
　法学政治学科
文　学　部
　総合人文学科
経　済　学　部
　経　済　学　科
商　学　部
　商　学　科
社　会　学　部
　社　会　学　科
　　社会学専攻
　　心理学専攻
　　メディア専攻
　　社会システムデザイン専攻
政策創造学部
　政　策　学　科
　国際アジア学科
外国語学部
　外　国　語　学　科
人間健康学部
　人　間　健　康　学　科
総合情報学部
　総　合　情　報　学　科
社会安全学部
　安全マネジメント学科
システム理工学部
　数　学　科
　物理・応用物理学科
　機　械　工　学　科
　電気電子情報工学科
環境都市工学部
　建　築　学　科
　都市システム工学科
　エネルギー環境・化学工学科
化学生命工学部
　化学・物質工学科
　生命・生物工学科

（学部及び学科の教育研究上の目的）

第２条の２　法学部は、法と政治に関わる幅広い知識と判断力を培うことによって、自律的かつ創造的に思考、行動し、複雑多様で変化の激しい現代社会に柔軟に対応できる人材を育成することを目的とする。

２　文学部は、人文科学の分野において、総合的・学際的な教育研究を行い、人文科学の探究と発展に資するとともに、幅広い教養と深い専門知識を備えた21世紀型市民の育成を目的とする。

３　経済学部は、経済学の基本的原理を学ぶことで国際化と情報化の進展する現代にあって国際社会と地域社会に生じる多様な問題を総合的に理解し、その解決に向けて積極的に貢献することのできる人材を育成することを目的とする。

４　商学部は、経営に対する広い視野と鋭い洞察力を持ち、単なる利益の追求にとどまらず、企業倫理と社会的責任を深く認識した品格ある柔軟なビジネスリーダーを育てることを目的とする。

５　社会学部は、社会学、心理学、メディア及び社会システムデザインに関する理論的・実証的研究教育を行うとともに、人間や社会に関わる専門性と学際性を備えた有能な人材を育成することを目的とする。

６　政策創造学部は、国際関係、政治、経済、経営戦略、法律、地域文化等多様な領域を横断的に学ぶことによって、現代社会の諸問題を、発見する力、解決の方法を見い出す力及びそれを実行・実現する力を養うことを目的とする。

⑴　政策学科は、国際・アジア分野、政治・政策分野、地域・行政分野、組織・経営分野等における社会・人文諸科学を学ぶことにより、現代において複雑に入り組んだ問題を解決するための政策を創造しうる人材を育成することを目的とする。

⑵　国際アジア学科は、多様な歴史と文化を前提とするそれぞれの地域、国家、国際社会の公共政策、法政策及び社会的諸事情を学ぶことにより、国際的通用力を有する人材育成を目的とする。

７　外国語学部は、全学の外国語教育を担うとともに、卓越した外国語力とコミュニケーションスキルを基に、教育界を含む国際社会で活躍できる「外国語のプロフェッショナル」の育成を目的とする。

８　人間健康学部は、人間生活における健康に関わる諸問題について、人文科学・社会科学・自然科学からの学際的アプローチによる理論研究と実習・実践を重視した教育を行い、人間と健康に関する総合的な専門性を持つ人材を育成することを目的とする。

９　総合情報学部は、情報の理論とその意義や機能及び情報と人間・社会との関係について幅広い知識を培うとともに、情報技術を活用して問題の解決を図ることのできる人材の育成を目的とする。

10　社会安全学部は、現代社会の安全を脅かす様々な問題について、学際融合的・実践的な教育研究を行うとともに、安全・安心な社会の構築に寄与できる、幅広い視野と問題解決能力を備えた人材の育成を目的とする。

11　システム理工学部は、安全で質の高い生活を目指して持続的に発展を続けるための高度で信頼できる「しくみ」と「しかけ」を創造できる力量と論理的な思考能力を養い、産業技術や社会に資する有為な人材の育成を目的とする。

⑴　数学科は、現代における様々な事象を分析し抽象化する能力を養い、各々の直面する問題を解決するための数理的構成力、論理的思考力とそれらを的確に表現する能力を持つ人材の育成を目的とする。

⑵　物理・応用物理学科は、科学技術の基盤となっている物理・応用物理学の基幹分野を体系的に学習し、数理的解析法と実験計測法の修得を通して、幅広い分野に応用できる科学的思考力・分析力・創造力の育成を目的とする。

⑶　機械工学科は、社会を支える機械システムの構築・創造に不可欠な物質的機能、エネルギー的機能、情報処理的機能の基本原理の理解と応用技術を修得するとともに、問題発見・思考・解決能力をもった人材の育成を目的とする。

⑷　電気電子情報工学科は、現代社会に不可欠の電気電子、情報、通信のハードウェアとソフトウェア技術を中心に、専門的な知識を修得するとともに、問題発見・思考・解決能力をもった人材の育成を目的とする。

12　環境都市工学部は、都市産業社会における住民生活と生産活動が共生する安全・安心かつ環境に配慮した「まち」空間の創生と再生に関する科学技術の知識と豊かな創造性を備えた人材の育成を目的とする。

⑴　建築学科は、耐震・耐久性に関わる構造、熱・光・音など環境を扱う自然科学分野から、設計・計画、歴史・意匠の人文・社会科学分野にわたる幅広い科目の修得により、高度の理解力と問題解決能力、創造的な感性を備えた人材の育成を目的とする。

⑵　都市システム工学科は、自然環境に調和した都市を創造するため、環境、情報、マネジメント等の視点から、都市システムを計画、設計及び維持管理するために必要な知識と技術を修得し、まちづくりを担う技術者・研究者の育成を目的とする。

⑶　エネルギー環境・化学工学科は、物理化学、化学工学等の学問を基礎とし、これらに関する演習・実験を通して問題の本質を把

握・解決できる能力を養成し、現代の種々のエネルギー・環境問題に工学的に対処できる技術者・研究者の育成を目的とする。

13　化学生命工学部は、「もの」と「いのち」の共生を図る科学技術の開発と創成を目指し、人類と環境に貢献できる新素材・新物質の創出と目的物質の製造プロセスの構築を志す、独創的なものづくり能力を持つ人材の育成を目的とする。

⑴　化学・物質工学科は、分子、高分子、マテリアル及び生体関連物質の合成、反応、製造、加工等に関わる専門的な知識と能力を身に付けるとともに、これら物質の構造・機能に関する学理と技能も修得し、創造性豊かな人材の育成を目的とする。

⑵　生命・生物工学科は、食品・生命・医療・環境に関する諸問題に対応可能な知識と技術を持つ人材を育成するために、講義と実験を通して、生命現象を細胞内反応や生体分子の作用として理解させ、幅広い生命科学・生物工学の技法の修得を目的とする。

（収容定員等）

第３条　本大学の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部及び学科名		入学定員	編入学定員	収容定員
法学部	法学政治学科	715名		2,860名
	計	715名		2,860名
文学部	総合人文学科	770名 （初等教育学専修50名を含む。）		3,080名 （初等教育学専修200名を含む。）
	計	770名		3,080名
経済学部	経済学科	726名		2,904名
	計	726名		2,904名
商学部	商学科	726名		2,904名
	計	726名		2,904名
社会学部	社会学科			
	社会学専攻	198名		792名
	心理学専攻	198名		792名
	メディア専攻	198名		792名
	社会システムデザイン専攻	198名		792名
	計	792名		3,168名
政策創造学部	政策学科	250名		1,000名
	国際アジア学科	100名		400名
	計	350名		1,400名
外国語学部	外国語学科	165名		660名
	計	165名		660名
人間健康学部	人間健康学科	330名 （福祉と健康コース100名を含む。）		1,320名 （福祉と健康コース400名を含む。）
	計	330名		1,320名
総合情報学部	総合情報学科	500名	30名	2,090名
	計	500名	30名	2,090名
社会安全学部	安全マネジメント学科	275名		1,100名
	計	275名		1,100名
システム理工学部	数学科	33名		132名
	物理・応用物理学科	66名		264名
	機械工学科	220名		880名
	電気電子情報工学科	182名		728名
	計	501名		2,004名
環境都市工学部	建築学科	105名		420名
	都市システム工学科	132名		528名
	エネルギー環境・化学工学科	88名		352名
	計	325名		1,300名
化学生命工学部	化学・物質工学科	242名		968名
	生命・生物工学科	105名		420名
	計	347名		1,388名

（修業年限）

第４条　本大学学部の修業年限は、４年とする。ただし、在学年数８年を超えることはできない。

（外国人留学生）

第５条　本大学は、外国人留学生の入学を許可することができる。

２　外国人学部留学生に関する規定は、第７章に定める。

（委託生、聴講生及び科目等履修生）

第６条　本大学に委託生、聴講生及び科目等履修生の制度を置く。

２　委託生、聴講生及び科目等履修生に関する規定は、第８章に定める。

（大学院）

第７条　本大学に大学院を置く。

２　大学院に関する学則は、関西大学大学院学則に定める。

（留学生別科）

第７条の２　本大学に留学生別科を置く。

２　留学生別科に関する規定は、関西大学留学生別科規程に定める。

（附置機関）

第８条　本大学に次の機関を附置する。

⑴　関西大学図書館
⑵　関西大学博物館
⑶　関西大学インフォメーションテクノロジーセンター
⑷　関西大学経済・政治研究所
⑸　関西大学東西学術研究所
⑹　関西大学先端科学技術推進機構
⑺　関西大学法学研究所
⑻　関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構

２　前項各号の機関に関する規定は、第10章に定める。

（附置施設）

第９条　本大学に次の施設を附置する。

⑴　関西大学保健管理センター
⑵　関西大学学生寮

２　前項各号の施設に関する規定は、第11章に定める。

第２章　学年、学期及び休業日

（学年）

第10条　本大学の学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

（学期）

第11条　学年は、次の２学期に分ける。

春学期　４月１日から９月20日まで

秋学期　９月21日から翌年３月31日まで

（休業日）

第12条　休業日は、次のとおりとする。

⑴　日曜日

⑵　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

⑶　本大学記念日

昇格記念日　　６月５日

創立記念日　　11月４日

⑷　夏季休業　　７月29日から９月20日まで

⑸　冬季休業　　12月21日から翌年１月７日まで

⑹　春季休業　　３月21日から３月31日まで

２　必要がある場合は、学長は前項の休業日を臨時に変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。

第３章　教育課程

（授業の種類と方法）

第13条　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

２　教授会が必要と認めた場合には、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項に規定する授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　前項の授業の方法により修得する単位数は、卒業に必要な単位のうち60単位を超えないものとする。

（授業科目）

第13条の２　各学部（外国語学部、総合情報学部及び社会安全学部を除く。）の授業科目は、共通教養科目、外国語科目及び専門教育科目に分け、４学年に配当する。

２　外国語学部の授業科目は、共通教養科目、基礎科目、教養外国語科目、専門外国語科目及び専門教育科目に分け、４学年に配当する。

３　総合情報学部の授業科目は、導入科目、基礎科目、共通教養科目、外国語科目、基幹科目、展開科目、実習科目、演習科目及び教職・その他の科目に分け、４学年に配当する。

４　社会安全学部の授業科目は、基礎科目群、専門科目群、統合科目群及び自由科目群に分け、４学年に配当する。

５　学年度によっては、教授会の議に基づき開講しない授業科目又は特別に開講する授業科目がある。

（単位数計算）

第14条　授業科目の単位数は、次の基準によって計算する。

⑴　講義は、原則として毎週１時間15週の授業をもって１単位とする。

⑵　外国語科目は、原則として毎週２時間15週の授業をもって１単位とする。

⑶　演習は、原則として毎週１時間15週又は毎週２時間15週の授業をもって１単位とする。

⑷　実習及び製図は、原則として毎週２時間15週又は毎週３時間15週の授業をもって１単位とする。

⑸　実験は、原則として毎週３時間15週の授業をもって１単位とする。

⑹　前各号に規定する授業の方法を併用する場合の単位数は、前各号に規定する基準を考慮して定める。

（共通教養科目）

第15条　共通教養科目（総合情報学部及び社会安全学部を除く。）は、第18条の規定に基づき20単位以上を修得しなければならない。ただし、社会学部及び人間健康学部は16単位以上を、政策創造学部は10単位以上を、外国語学部は12単位以上を修得するものとする。

２　前項の授業科目及び単位数等は、別表第１に定めるとおりとする。

（外国語科目）

第16条　各学部（外国語学部を除く。）の外国語科目は、第18条の規定に基づき16単位以上を修得しなければならない。ただし、総合情報学部は14単位以上、社会学部、社会安全学部、システム理工学部、環境都市工学部及び化学生命工学部は12単位以上、人間健康学部は８単位以上を修得するものとする。

第17条　削除

（授業科目名称及び単位数等）

第18条　各学部の授業科目の名称、単位数及び卒業要件等は、別表第２から別表第14までに定めるとおりとする。

（他学部履修）

第19条　学生が所属以外の他の学部の授業科目の履修を希望するときは、当該学部長の許可を得なければならない。

（教職課程）

第20条　各学部にそれぞれの教育課程に応じた中学校及び高等学校の教育職員免許状授与の所要資格を取得させるための課程を置く。

２　前項の免許状の種類は、別表第15に定めるとおりとする。

３　第１項の授業科目及び単位数等は、第18条に定めるとおりとする。

（司書等の資格及び受験資格課程）

第21条　司書、司書教諭、学芸員及び社会教育主事の資格取得並びに社会福祉士受験資格の取得に必要なそれぞれの授業科目及び単位数等は、別表第16に定めるとおりとする。

（履修届）

第22条　学生は履修しようとする授業科目を選択し、指定期間内に履修届を所属学部長に提出しなければならない。

（他大学授業科目等の履修及び単位認定）

第22条の２　本大学が協定又は認定する他の大学（外国の大学を含む。）の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会が教育上有益であると認めた場合に限り、これを許可することができる。

２　文部科学大臣が定める学修であって教授会が教育上有益と認めた場合については、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

３　前２項の規定により修得した単位は、教授会の議を経て60単位を超えない範囲で本大学において修得したものとみなすことができる。

（入学前の既修得単位等の認定）

第22条の３　学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）は、教授会が教育上有益と認めた場合に限り、本大学において修得したものとして認定することができる。

２　学生が入学する前に行った短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修は、教授会が教育上有益と認めた場合に限り、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

３　前２項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編・転入学の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、前条第３項の規定により修得したものとみなす単位と合わせて、60単位を超えないものとする。

第４章　試験、卒業及び学位

（試験）

第23条　試験は、履修した科目について春学期末又は秋学期末に行う。ただし、教授会において平常成績をもって試験に代えることを認められた授業科目は、この限りでない。

２　前項の定期試験のほか、教授会の議を経て臨時に試験を行うことがある。

３　正当な理由により受験できなかった者には、教授会で認められた限度内において追試験を行うことがある。

（試験の方法）

第24条　試験の方法は、筆記試験による。ただし、授業科目によっては、論文提出をもって試験に代えることがある。

２　履修した科目の試験に合格した者には、所定の単位を与える。

（成績）

第25条　試験の成績は100点をもって満点とし、60点未満を不合格とする。その評点は、次のとおり定める。

100点～90点	秀	合格
89点～80点	優	
79点～70点	良	
69点～60点	可	
59点以下		不合格

（学位）

第26条　本大学に４年以上在学して所定の課程を履修し、かつ、その試験に合格した者には、卒業を認め、学士の学位を授与する。

２　学士の学位は、卒業した学部に応じて、次のとおりとする。

法学部	学士（法学）
文学部	学士（文学）
経済学部	学士（経済学）
商学部	学士（商学）
社会学部	学士（社会学）
政策創造学部	学士（政策学）
外国語学部	学士（外国語学）
人間健康学部	学士（健康学）
総合情報学部	学士（情報学）
社会安全学部	学士（学術）
システム理工学部	学士（工学又は理学）
環境都市工学部	学士（工学）
化学生命工学部	学士（工学）

３　前項の規定にかかわらず、第48条に規定する特別編入学生としてウェブスター大学との協定に基づく所定の課程を修了した者には、学士（教養）の学位を授与する。

４　学位及びその授与等に関する規定は、関西大学学位規程に定める。

（早期卒業）

第26条の２　前条第１項の規定にかかわらず、本大学に３年以上在学した者が、卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと教授会が認める場合は、卒業を認め、学士の学位を授与することができる。

２　前項の規定による早期卒業の認定に関する規定は、別に定める。

第５章　入学、編入学、転入学、留学、休学及び退学

（入学時期）

第27条　入学時期は、毎学年の始めとする。ただし、外国人留学生、帰国生徒その他教授会が認めた者を秋学期から入学させることができる。

（入学資格）

第28条　本大学の学部第１年次に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

⑴　高等学校又は中等教育学校を卒業した者

⑵　通常の課程による12年の学校教育を修了した者

⑶　外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

⑷　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

⑸　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

⑹　文部科学大臣の指定した者

⑺　文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

⑻　文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

⑼　本大学において、個別の入学資格審査により、第１号及び第２号に規定する者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

（入学試験）

第29条　入学を志願する者に対しては、入学試験を行う。

（入学の出願）

第30条　入学を志願する者は、第42条に規定する入学検定料を添えて、次の書類を所定の期日までに提出しなければならない。

⑴　入学願書

⑵　出身学校長作成の調査書

⑶　最近３カ月以内に撮影した写真

⑷　その他出願に必要な書類

（入学手続）

第31条　第29条の結果に基づき入学を許可された者は、第43条に規定する入学金その他の学費を添えて、次の書類を所定の期日までに提出しなければならない。

⑴　誓約書

⑵　在学保証書

⑶　その他入学に必要な書類

（保証人）

第32条　保証人は父母又は近親者とし、保証する学生が在学中誓約を守ることについて、責任を負わなければならない。

２　死亡その他の理由によって保証人に変更が生じた場合は、速やかに届け出なければならない。

（編入学及び転入学）

第33条　編入学又は転入学を志願する者があるときは、試験を行い教授会の議を経て相当年次に入学を許可することがある。

２　前項の規定により入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

⑴　大学に１年以上在学し、所定の単位を修得した者

⑵　短期大学又は高等専門学校を卒業した者

⑶　専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第１項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

⑷　高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（ただし、学校教育法第90条第１項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）

⑸　本大学において、相当の年齢に達し、前３号に規定する者と同等以上の学力があると認めた者

３　前項の規定にかかわらず、ウェブスター大学との協定に基づく編入学を志願する者があるときは、教授会の議を経て第48条に規定する特別編入学生として入学を許可する。

第34条　削除

（大卒者の編入学）

第35条　第33条の規定にかかわらず、大学を卒業した者が他の学部又は同一学部の他の学科に入学を志願するときは、試験を行い教授会の議を経て相当年次に入学を許可することがある。この場合において、同一学部の他の学科の範囲は、教授会の議を経てその都度決定する。

（留学）

第35条の２　本大学は、本大学の協定又は認定する外国又は国内の大学へ留学を希望しようとする者を教授会の議を経て留学させることができる。

２　前項の規定による留学の期間のうち第４条に規定する修業年限に算入することができるのは、原則１年とする。ただし、教授会が特に必要と認めたときは、２年まで算入することができる。

３　外国の大学への留学に関する規定は、関西大学学部学生留学規程に定める。

（休学）

第36条　病気その他やむを得ない理由により休学しようとするときは、その事実を証明する書類を添えて、保証人連署の上、休学願を所属学部長に提出し、教授会の議を経て休学の許可を得なければならない。

２　休学期間は、在学年数に算入しない。

３　休学期間中は、学校法人関西大学学費規程（以下「学費規程」という。）に定める所定の学費を納入しなければならない。

４　休学に関する規定は、関西大学学部事務取扱規程に定める。

（復学）

第37条　休学した者が、復学を希望するときは、保証人連署の復学願を所属学部長に提出し、教授会の議を経て復学することができる。

２　復学に関する規定は、関西大学学部事務取扱規程に定める。

（退学）

第38条　病気その他やむを得ない理由によって退学しようとする者は、保証人連署の退学願に学生証を添えて、所属学部長に提出しなければならない。

２　退学に関する規定は、関西大学学部事務取扱規程に定める。

（再入学）

第39条　退学した者が、再入学を希望するときは、保証人連署の

再入学願を当該学部長に提出し、教授会の議を経て再入学することができる。
2　再入学に関する規定は、関西大学学部事務取扱規程に定める。
（処分）
第40条　学生であって本大学の学則及び諸規程に違反し、またその他学生の本分に反する行為があったときは、教授会の議を経て、学生を退学、停学又は譴責の処分に付する。
2　懲戒処分に関する手続は、関西大学学生懲戒処分規程に定める。
（処分の退学）
第41条　前条の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。
⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者
⑵　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
⑶　正当な理由がなくて出席常でない者
⑷　大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第６章　入学検定料、入学金及び授業料

（入学検定料）
第42条　本大学に入学を志願する者は、第30条に規定する手続を行うと同時に学費規程に定める入学検定料を納めなければならない。
（学費）
第43条　入学又は編入学若しくは転入学を許可された者は、学費規程に定める入学金及び授業料を所定の期日までに納めなければならない。
（納入期日等）
第44条　学費の納入期日は、学費規程に定める。
2　前項の納入は、所定の手続を経て延納又は分納とすることができる。
3　前項の延納及び分納に関する規定は、学費規程に定める。
（学費の返還）
第45条　既に納めた学費その他は、返還しない。
2　入学許可を得た者で、入学日の前日（４月入学のときは３月31日、９月入学のときは９月20日）までに入学手続の取消しを願い出たものについては、入学金を除く学費を返還することがある。
（除籍）
第46条　所定の期日までに学費を納入しなかった者が、指定された納入期間内に滞納学費を納入しないときは除籍にする。
2　除籍に関する規定は、関西大学学部事務取扱規程に定める。
3　第１項の納入期間に関する規定は、学費規程に定める。
（復籍）
第46条の２　除籍となった者が、復籍を希望するときは、保証人連署の復籍願を当該学部長に提出し、教授会の議を経て復籍することができる。
2　復籍に関する規定は、関西大学学部事務取扱規程に定める。

第７章　外国人学部留学生、特別編入学生及び特別聴講学生

（外国人学部留学生）
第47条　外国人であって、外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者又はこれと同等以上の資格ある者が、本大学学部に入学を志願するときは、日本政府、日本政府の承認した外国政府若しくは日本駐在の外国公館の発行した身分証明書又はこれに準ずる証明書のある者に限り、選考の上、許可することがある。
2　前項の外国人学部留学生に対しては、第13条の２に規定する授業科目のほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置く。
（特別編入学生）
第48条　ウェブスター大学との協定に基づく編入学を志願する者があるときは、教授会の議を経て特別編入学生として入学を許可する。
（特別聴講学生）
第48条の２　他の大学の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該大学との協定に基づき、特別聴講学生として入学を許可することがある。

第８章　委託生、聴講生及び科目等履修生

（委託生の定義）
第49条　本学則において委託生とは、公共団体又はその他の機関からの委託に基づき、第28条、第33条及び第35条の規定によらないで、本大学において学習を許可された者をいう。
（委託生の選考等）
第50条　前条の入学を志願する者があるときは、正規学生の学習に妨げのない限り、学部長は教授会の議を経て許可することができる。
2　委託生の教育課程及びその単位は、委託者の希望を考慮し、教授会においてその都度決定する。
（聴講生及び科目等履修生の定義）
第51条　本学則において聴講生及び科目等履修生とは、第28条、第33条、第35条、第48条、第48条の２、及び第49条の規定によらないで、本大学において学習を許可された者をいう。
（聴講生及び科目等履修生の選考等）
第52条　前条の入学を志願する者があるときは、正規学生の学習に妨げのない限り、選考の上、学部長は教授会の議を経て許可することができる。
2　聴講生及び科目等履修生の授業科目は、一学年度について、その都度教授会において決定する。
第53条　削除
（委託生、聴講生及び科目等履修生の取扱い）
第54条　委託生、聴講生及び科目等履修生に関する規定は、それぞれ関西大学委託生取扱規程、関西大学聴講生取扱規程及び関西大学科目等履修生取扱規程に定める。
（学則の準用）
第55条　委託生及び聴講生には第４条、第18条、第24条第２項及び第26条を除き、科目等履修生には第４条、第18条及び第26条を除き、本学則の規定を準用する。

第９章　職員組織

（職員）
第56条　本大学に教育職員、事務職員及びその他の職員を置く。
（教育職員）
第57条　教育職員を分けて、教授、准教授、講師及び助教とする。
（講義担当）
第58条　講義は、原則として教授、准教授、講師及び助教が担任する。
（学長及び学部長）
第59条　本大学に学長及び学部長を置く。
2　学長は、大学の教務を統括し、最終的な決定を行う。
（事務職員）
第60条　学部等の教育・研究を支援し、その事務を処理するため、事務職員を置く。
（教授会）
第61条　各学部に教授会を置く。
2　教授会は、その学部に属する専任の教授をもって組織する。ただし、教授会の組織には、専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。
3　教授会は、その学部に関する事項の審議に当たる。
4　教授会に関する規定は、各学部の教授会規程に定める。
第61条の２　削除
（学部長・研究科長会議）
第61条の３　本大学に学部長・研究科長会議を置く。
2　学部長・研究科長会議に関する規定は、関西大学学部長・研究科長会議規程に定める。
（大学協議会）
第62条　本大学に大学協議会を置く。
2　大学協議会に関する規定は、関西大学大学協議会規程に定める。
第63条　削除
第64条　削除

第10章　図書館、博物館、インフォメーションテクノロジーセンター、研究所、先端科学技術推進機構及びソシオネットワーク戦略研究機構

（図書館）

第65条　本大学に図書館を置く。

2　図書館は、学術情報の中枢機能を担い、大学が教育及び研究を促進するのに必要な資料を収集、整理、保存及び提供することを目的とする。

3　図書館に関する規定は、別に定める。

（博物館）

第65条の２　本大学に博物館を置く。

2　博物館は、考古学、歴史学、民俗学、美学･美術史、産業技術･技術史、自然科学等の資料並びに図書等の収集、整理、保管、展示及び調査研究活動を行い、大学における教育及び研究の発展のために寄与することを目的とする。

3　博物館に関する規定は、関西大学博物館規程に定める。

（インフォメーションテクノロジーセンター）

第65条の３　本大学にインフォメーションテクノロジーセンターを置く。

2　インフォメーションテクノロジーセンターは、高度な情報通信技術を用いて、教育・研究及び業務（学校法人の業務を含む。）を支援し、教育・研究の充実及び事務能率の向上に資することを目的とする。

3　インフォメーションテクノロジーセンターに関する規定は、関西大学インフォメーションテクノロジーセンター規程に定める。

（経済・政治研究所）

第66条　本大学に経済・政治研究所を置く。

2　経済・政治研究所は、経済、政治、社会に関する理論及び実態を研究調査し、もって学術文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。

3　経済・政治研究所に関する規定は、関西大学経済・政治研究所規程に定める。

（東西学術研究所）

第67条　本大学に東西学術研究所を置く。

2　東西学術研究所は、東西両洋文化の学術研究、殊に比較研究を行い、世界文化の融合に貢献することを目的とする。

3　東西学術研究所に関する規定は、関西大学東西学術研究所規程に定める。

（先端科学技術推進機構）

第68条　本大学に先端科学技術推進機構を置く。

2　先端科学技術推進機構は、先端科学技術を推進し、もって人類の福祉の向上と地球環境の保全に貢献することを目的とする。

3　先端科学技術推進機構に関する規定は、関西大学先端科学技術推進機構規程に定める。

（法学研究所）

第69条　本大学に法学研究所を置く。

2　法学研究所は、立法、司法、行政に関する理論、政策及び実態を総合的に研究調査し、もって市民の法生活の向上と法文化の発展に寄与することを目的とする。

3　法学研究所に関する規定は、関西大学法学研究所規程に定める。

（ソシオネットワーク戦略研究機構）

第69条の２　本大学にソシオネットワーク戦略研究機構を置く。

2　ソシオネットワーク戦略研究機構は、国公私立大学を通じた共同研究の促進及び研究者ネットワークの構築並びに学術資料等の共同利用の促進等を行うため、高度な情報通信技術を活用したネットワーク戦略の総合的政策研究を行い、優れた研究体制の構築と研究基盤を形成し、世界が直面する社会的課題を解決することを目的とする。

3　ソシオネットワーク戦略研究機構に関する規定は、関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構規程に定める。

第11章　保健管理センター及び学生寮

（保健管理センター）

第70条　本大学に教職員及び学生の保健管理並びに診療業務を行うため、保健管理センターを設ける。

2　保健管理センターに関する規定は、保健管理規程(就)に定める。

（学生寮）

第71条　本大学に学生の便宜のため学生寮を設け、一定数の学生を収容する。

2　学生寮に関する規定は、関西大学学生寮規程、関西大学南千里国際プラザ留学生寮規程及び関西大学南千里国際学生寮規程に定める。

附　則

本学則は、昭和23年４月１日から施行する。

（省略）

附　則

本学則は、2022年４月１日から施行する。

非常変災その他急迫の事態が発生した場合の休講等の取扱規程

制定　2019年４月25日

（目的）

第１条　この規程は、大規模な地震や新型インフルエンザ及び新感染症の大流行等の非常変災その他急迫の事態が発生した場合に備え、学校法人関西大学が設置する学校（以下「本学」という。）における休講等の取扱いを定めることにより、学生等の安全確保を図ることを目的とする。

（定義）

第２条　この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号の定めるところによる。

⑴　非常変災　地震、風水害、火山の噴火等に起因する自然災害及び毒劇物や放射能による災害等の緊急事態をいう。

⑵　学生等　本学の学生、生徒、児童及び園児をいう。

⑶　急迫の事態　新型インフルエンザ等の大流行、キャンパス周辺における不発弾の発見、本学に対する爆破予告、ストライキ等による交通機関の運休等をいう。

⑷　休講等　授業（遠隔授業を含む。以下同じ。）の休講、休校、休園、キャンパス内への入構禁止措置、授業時間の短縮又は定期試験の延期措置をいう。

⑸　併設校　学校法人関西大学が設置する高等学校、中学校、小学校及び幼稚園をいう。

（休講等の判断）

第３条　休講等の判断は、原則として次の者が行う。

キャンパス	対象	休講等の判断者
千里山キャンパス	学部・研究科	学長
	第一高等学校・第一中学校	校長
	幼稚園	園長
高槻キャンパス	学部・研究科	総合情報学部長
高槻ミューズキャンパス	学部・研究科	社会安全学部長
	高等部・中等部・初等部	校長
堺キャンパス	学部・研究科	人間健康学部長
北陽キャンパス	北陽高等学校・北陽中学校	校長
梅田キャンパス	学部・研究科 キャリアセンター	学長
	上記以外の事業	梅田キャンパス管理執行責任者
南千里国際プラザ	留学生別科	国際部長

2　千里山キャンパス以外の学部長及び国際部長は、休講等の決定にあたり、事前に学長と協議を行う。ただし、緊急事態の発生等、やむを得ないときに休講等の判断を行った場合は、学長にその旨を速やかに報告する。

3　併設校の校長若しくは園長又は梅田キャンパス管理執行責任者は、原則として、この規程に基づき休講等の判断を行うが、生徒、児童及び園児又はキャンパス利用者の安全確保の観点から、独自に判断を行えるものとする。
4　休講等の判断は、前日に行う場合がある。
5　授業時間中に非常変災その他急迫の事態が発生した場合は、速やかに休講等の措置をとる。

（休講等の報告）

第４条　校長、園長又は梅田キャンパス管理執行責任者が休講等の判断を行った場合は、理事長にその旨を速やかに報告する。

（休講等の種別）

第５条　休講等の種別は、別に定める。

（休講等の周知）

第６条　休講等の周知及び授業再開の周知については、関西大学ホームページ等を通じて速やかに行う。

（やむを得ない欠席への対応）

第７条　学生等が、非常変災その他急迫の事態が発生したことにより、やむを得ず授業を欠席した場合は、状況に応じて、次のとおり対応する。

⑴　学生及び生徒は、非常変災時に休講等の措置が行われない場合において、通学経路上の公共交通機関の運休等又は居住地で非常変災が発生したことにより授業に出席できないときは、当該交通機関発行の証明書を添え、又は特別警報等が発表されたことを申し出ることにより欠席届を提出することができる。

⑵　本学は、前項の欠席届を提出した学生又は生徒に対して、欠席による不利益が生じないよう、授業担当教員（併設校においては、クラス担任等）へ配慮を依頼するものとする。

（補則）

第８条　この規程に定めるもののほか、休講等の取扱いに関して必要な事項は、別に定める。

附　則

この規程は、2019年４月25日から施行する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2021年４月１日から施行する。

関西大学学部事務取扱規程

制定　平成６年１月28日

第１章　総　則

（趣旨）

第１条　この規程は、関西大学学則（以下「学則」という。）の規定に基づき、学部事務取扱に関する必要な事項を定めるものとする。

（学生証）

第２条　学生に、関西大学（以下「本学」という。）の学生であることを証明する学生証を交付する。
2　学生は、学生規程第３条の規定に基づき、学内外において学生証を常に携帯しなければならない。
3　学生証を紛失したときは、学生規程第５条の規定に基づき、直ちに所管窓口に届け出て、再交付を受けなければならない。

（学籍番号）

第３条　入学と同時に学生に学籍番号を付与する。
2　学生の在学中における全ての事務は、この学籍番号によって処理する。

第２章　休学、復学、退学、再入学、除籍及び復籍

第１節　休学

（休学手続）

第４条　病気その他やむを得ない理由により休学しようとするときは、学則第36条第１項の規定に基づき、その事実を証明する書類を添えて、保証人連署の上、休学願を所属学部長に提出し、教授会の議を経て休学の許可を得なければならない。
2　前項の休学願は、休学しようとする学期の５月31日又は10月31日までに提出しなければならない。
3　前項の規定にかかわらず、当該学期の学費を納入している場合は、次の期日まで休学手続をとることができる。
春学期に休学するとき　７月30日
秋学期に休学するとき　１月30日

（休学期間）

第５条　休学期間は、休学を許可された日からその学期の末日までとする。

（休学延長の手続期間）

第６条　次学期も引き続き休学を希望する者は、休学期間中の８月28日から９月10日又は３月１日から３月14日までに第４条第１項に規定する手続を行わなければならない。

（休学の可能期間）

第７条　休学期間は、通算して４学期以内とする。ただし、在学年数に算入されない学期が通算して４学期を超えるときは、休学を許可しない。
2　前項の規定にかかわらず、教授会が相当と認める特段の事情があるときは、在学年数に算入されない学期が通算して６学期を超えない範囲で、休学を許可することがある。

（休学期間と在学年数）

第８条　学則第36条第２項の規定に基づき、休学期間を含む学期は在学年数に含めない。

（休学期間の学費）

第９条　学則第36条第３項の規定に基づき、休学期間中は、学校法人関西大学学費規程（以下「学費規程」という。）に定める所定の学費を納入しなければならない。
2　前項における所定の学費は、次のとおりとする。
⑴　春学期の休学を希望し、５月31日までに休学願を提出したときは、休学在籍料
⑵　秋学期の休学を希望し、10月31日までに休学願を提出したときは、休学在籍料
⑶　前２号に当てはまらないときは、当該学期の学費

第２節　復学

（復学手続）

第10条　休学した者が復学を希望するときは、学則第37条第１項の規定に基づき、保証人連署の復学願を所属学部長に提出し、教授会の議を経て復学することができる。

（復学の手続期間）

第11条　前条の復学願は、休学期間中の８月28日から９月10日まで又は３月１日から３月14日までに提出しなければならない。
2　病気等によって休学した者が復学を希望するときは、本学保健管理センターが作成する「診断書」を添付しなければならない。

（復学の時期）

第12条　復学の時期は、学期の始めとする。

（復学の制限）

第13条　休学している学期内に復学することはできない。

（復学者の学費）

第14条　復学した者は、復学した学期から学費規程に定める学費を納入しなければならない。

第３節　退学

（退学手続）

第15条　病気その他やむを得ない理由によって退学しようとする者は、学則第38条第１項の規定に基づき、保証人連署の退学願に学生証を添えて、所属学部長に提出しなければならない。

（未手続者の退学）

第16条　休学している者が、学則第36条第１項に規定する休学の手続又は学則第37条第１項に規定する復学の手続を行わなかったときは、その学期末日の９月20日又は３月31日をもって退学にする。

（在学年数超過者の退学）

第17条　在学年数が８年で卒業できない者は、その学期末日の９月20日又は３月31日をもって退学にする。

（処分退学）

第18条　学則第41条に規定する者は、学則第40条の規定に基づき、教授会の議を経て退学処分に付する。

（在学年数との関連）

第19条　退学となった学期は、在学年数に含めない。

第４節　再入学

（再入学手続）

第20条　第15条又は第16条によって退学した者が再入学を希望するときは、学則第39条第１項の規定に基づき、保証人連署の再入学願を当該学部長に提出し、教授会の議を経て再入学することができる。

（再入学の手続期間）

第21条　前条の再入学願は、再入学を希望する前学期の８月28日から９月10日まで又は３月１日から３月14日までに提出しなければならない。

（再入学の時期）

第22条　再入学の時期は、学期の始めとする。

（再入学の制限）

第23条　退学になった学期内の再入学は、許可しない。

２　在学年数に算入されない学期が通算して４学期を超えるときは、再入学を許可しない。

（再入学金の納入）

第24条　再入学を許可された者は、許可された日から再入学を希望する前学期末日の９月20日又は３月31日までに学費規程に定める再入学金を納入しなければならない。

２　再入学を許可された者が、前項に規定する期日までに再入学金を納入しないときは、再入学を取り消す。

第５節　除籍

（除籍）

第25条　所定の期日までに学費を納入しなかった者が、指定された納入期間内に滞納学費を納入しないときは、学則第46条の規定に基づき、除籍にする。

（除籍日）

第26条　前条の除籍日は、春学期を７月31日、秋学期を１月31日とする。

（在学年数との関連）

第27条　除籍期間を含む学期は、在学年数に含めない。

第６節　復籍

（復籍手続）

第28条　除籍となった者が復籍を希望するときは、学則第46条の２の規定に基づき、保証人連署の復籍願を当該学部長に提出し、教授会の議を経て復籍することができる。

（復籍の手続期間）

第29条　前条の復籍願は、復籍を希望する前学期の８月28日から９月10日まで又は３月１日から３月14日までに提出しなければならない。

（復籍の時期）

第30条　復籍の時期は、学期の始めとする。

（復籍の制限）

第31条　除籍になった学期内の復籍は許可しない。

２　在学年数に算入されない学期が通算して４学期を超えるときは、復籍を許可しない。

（復籍料の納入）

第32条　復籍を許可された者は、許可された日から復籍を希望する前学期末日の９月20日又は３月31日までに学費規程に定める復籍料を納入しなければならない。

２　復籍を許可された者が、前項に規定する期日までに復籍料を納入しないときは、復籍を取り消す。

第３章　学費納入と試験の関連

（学費と試験）

第33条　学費を滞納している者は、指定された納入期間内に滞納学費を納入しない限り、受験した科目の単位認定は行わない。

２　前項の納入期間及び学費は、学費規程に定める。

第４章　転学部及び学士入学

第34条及び第35条　削除

（転学部等）

第36条　他の学部、他の学科又は他の専攻へ転学部、転学科又は転専攻を希望する者は、転入学試験を受けなければならない。

２　前項の試験に合格し、所定の手続を完了すれば、転籍したものとする。

３　第１項の試験は、在籍のまま受験することができる。

（学士入学）

第37条　本学の学部を卒業した者が、他の学部又は他の学科へ編入学を志望するときは、その学部が定める編入学試験を受けなければならない。

（修業年限）

第38条　編入学又は転入学をした者の修業年限は、次のとおりとする。

⑴　第２年次に入学した者　３年
⑵　第３年次に入学した者　２年
⑶　第４年次に入学した者　１年

（在学年数）

第39条　編入学又は転入学をした者は、次に規定する年数を超えて在学することができない。

⑴　第２年次に入学した者　７年
⑵　第３年次に入学した者　６年
⑶　第４年次に入学した者　２年

（在学年数超過）

第40条　前条に規定する在学年数で卒業できない者は、その学期末日の９月20日又は３月31日をもって退学にする。

第５章　願書、届書及び証明書

（願書）

第41条　本学で定める願書は、次のとおりとする。

⑴　休学願
⑵　復学願
⑶　退学願
⑷　再入学願
⑸　復籍願
⑹　学費延納願
⑺　学費分納願
⑻　学生証再交付願
⑼　追試験受験願
⑽　団体旅行証明願

（届書）

第42条　本学で定める届書は、次のとおりとする。

⑴　履修届
⑵　異動届

（証明書）

第43条　本学で定める証明書は、次のとおりである。

⑴　在学証明書
⑵　在籍証明書
⑶　卒業見込証明書
⑷　卒業証明書
⑸　学位取得証明書
⑹　成績証明書
⑺　単位修得証明書
⑻　学生証
⑼　通学証明書
⑽　学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）

附　則

１　この規程は、平成６年４月１日から施行する。

２　学部事務取扱内規（昭和35年11月１日制定）は、廃止する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2020年４月１日から施行する。

学校法人関西大学学費規程（抜粋）

制定　昭和47年３月24日

第１章　総　則

（趣　旨）

第１条　この規程は、学校法人関西大学（以下「法人」という。）が設置する各学校の学費（幼稚園においては保育費）及びその他の納付金について必要な事項を定めるものとする。

（学費及び保育費）

第２条　大学における学費とは、入学金、授業料、休学在籍料、認定留学在籍料、研修料、聴講料、科目等履修料、外国人研究生研究料及び研修員研究料をいう。

２　高等学校、中学校及び小学校における学費とは、入学金、授業料及び施設費をいう。

３　幼稚園における保育費とは、入園料及び保育料をいう。

（その他の納付金）

第３条　大学におけるその他の納付金とは、手数料及び法人が徴収の委託を受けた諸会費をいう。

２　高等学校、中学校及び小学校におけるその他の納付金とは、手数料及び法人が徴収の委託を受けた諸会費をいう。

３　幼稚園におけるその他の納付金とは、手数料及び法人が徴収の委託を受けた諸会費をいう。

（学費等の返還）

第４条　既に納入した学費及び手数料は、返還しない。

２　入学許可を得た者で、入学日の前日（４月入学のときは３月31日、９月入学のときは９月20日）までに入学手続の取消しを願い出たものについては、入学金を除く学費を返還することがある。

第２章　大　学

（学費等の金額）

第５条　学費の金額は、別表第１、別表第２及び別表第３に定め、別表第１の１、別表第２の１及び別表第３の１に定める学費は１学期を単位とする。

２　編・転入学生の学費は、別表第１に基づき、編・転入学する年度の編・転入学する相当年次の学費を適用し、編・転入学後、４年次を超えて在籍する者は、４年次の学費を適用する。ただし、入学金については、編・転入学する年度の入学金を適用し、関西大学（以下「本学」という。）在学生の転入学に係る入学金は、徴収しない。

３　手数料の金額は、別表第６に定める。

（納入期日）

第６条　別表第１の１、２又は３、別表第２の１、２又は３及び別表第３の１又は２に定める学費は、該当学期の学費を次の期日までに納入しなければならない。ただし、別表第１の１、別表第２の１及び別表第３の１に定める学費は、春学期分納入時に学費年額を一括して納入することができる。

春学期分　５月31日
秋学期分　10月31日

２　新入学生（編・転入学生を含む。）の入学時における学費は、別に定める期日までに納入しなければならない。

３　手数料は、その都度納入しなければならない。

（延　納）

第７条　前条第１項の期日までに学費の納入ができない者は、所定の期日までに延納の手続をしなければならない。ただし、別表第１の２又は３、別表第２の２又は３及び別表第３の２に定める学費を納入する者は、延納することができない。

２　延納の手続を行った者は、次の期日までに納入しなければならない。

春学期分　６月30日
秋学期分　11月30日

（分　納）

第８条　第６条第１項による学費の納入ができない者は、所定の期日までに分納の手続をしなければならない。ただし、第15条に規定する修業年限を超えた者並びに別表第１の２又は３、別表第２の２又は３及び別表第３の２に定める学費を納入する者は、分納することができない。

２　分納の金額は、別に定める。

３　分納の手続を行った者は、次の期日までに納入しなければならない。

春学期分	第１回	第２回
	５月31日	６月30日
秋学期分	第１回	第２回
	10月31日	11月30日

４　分納の手続を行った者が、前項に規定する期日までに納入しないときは、その翌日をもって分納の手続を取り消す。

（学費を滞納した者）

第９条　所定の期日までに別表第１の１、２又は３、別表第２の１、２又は３及び別表第３の１又は２に定める学費を納入しなかった者は、指定された納入期日までに、滞納学費を納入しなければならない。

２　前項の指定された納入期日とは、次のとおりとする。

春学期分　７月30日
秋学期分　翌年１月30日

３　前項に規定する納入期日までに滞納学費を納入しなかった者は、関西大学学則第46条、関西大学大学院学則第65条若しくは関西大学大学院法務研究科（法科大学院）学則第34条若しくは関西大学大学院会計研究科（専門職大学院）学則第34条又は関西大学留学生別科規程第24条の規定により除籍となる。

（復籍者の学費等）

第10条　復籍を許可された者は、許可された日から春学期の場合は３月31日、秋学期の場合は９月20日までに別表第６の２に定める復籍料を納入しなければならない。

２　復籍を許可された者は、復籍する学期の所定の学費を納入しなければならない。

（復学者の学費）

第11条　復学を許可された者は、復学する学期の所定の学費を納入しなければならない。

（再入学者の学費等）

第12条　再入学を許可された者は、許可された日から春学期の場合は３月31日、秋学期の場合は９月20日までに別表第６の２に定める再入学金を納入しなければならない。

２　再入学を許可された者は、再入学する学期の所定の学費を納入しなければならない。

（休学者の学費）

第13条　次の期日までに休学願を提出し、休学を許可された者は、別表第１の２、別表第２の２又は別表第３の２に定める学費を納入しなければならない。

春学期　５月31日
秋学期　10月31日

２　前項に規定する期日を過ぎて休学願を提出し、休学を許可された者は、別表第１の１、別表第２の１又は別表第３の１に定める当該学期の学費を納入しなければならない。

（認定留学生の学費）

第13条の２　関西大学学部学生留学規程第８条及び関西大学大学院学生留学規程第８条に規定する学期に派遣する認定留学生の学費は、授業料、教育充実費及び実験実習料を全額減免する。ただし、学期ごとに別表第１の３又は別表第２の３に定める認定留学在籍料を納入しなければならない。

第14条　削除

（修業年限を超えた者の学費）

第15条　大学院において、所定の期間在学し、所定の単位を修得した者が、学位論文提出のため在学するときの１学期の学費は、前期課程においては、修業年限の最終学期に適用していた学費（ただし、修業年限が１年又は３年である者については、修業年限が２年である者に適用していた学費）の半額とし、後期課程においては、修業年限の最終学期に適用していた学費の４分の１の額とする。

２　前項に該当する者が、当該期間に交換派遣留学するときの１学期の学費は、同項の規定にかかわらず、修業年限の最終学期に適用していた学費の額とする。

第15条の２　削　除

（在学期間を短縮して卒業又は修了する者の学費）

第15条の３　関西大学学則第26条の２又は関西大学大学院学則第24条若しくは第25条に基づき、在学期間を短縮して卒業又は修了する場合、卒業又は修了してから修業年限までの短縮した期間の

学費は徴収しない。

（委託生）

第16条　委託生の資格検定料は、入学検定料の金額と同額とし、学費は、授業料とする。

2　授業料の金額は、次条に規定する聴講料相当額とする。ただし、実験実習を伴う科目を履修するときの授業料は、その都度定める。

3　授業料は、別に定める期日までに納入しなければならない。

（聴講生）

第17条　聴講生の選考料の金額は別表第６の１に、聴講料の金額は別表第１の４及び別表第２の４に定める。

2　春学期及び秋学期を通して開講する科目（以下「通年科目」という。）の聴講料は、所定の金額の倍額とし、通年科目を春学期又は秋学期に集中して開講するときの聴講料も同様とする。

3　聴講料は、別に定める期日までに納入しなければならない。

（科目等履修生）

第17条の２　科目等履修生の選考料の金額は別表第６の１に、登録料の金額は別表第６の２に、科目等履修料の金額は別表第１の５及び別表第２の５に定める。

2　通年科目の科目等履修料は、所定の金額の倍額とし、通年科目を春学期又は秋学期に集中して開講するときの科目等履修料も同様とする。

3　科目等履修料は、別に定める期日までに納入しなければならない。

4　１学年度に２種類以上の登録をした場合は、重複する登録料を免除する。

（私学研修員）

第17条の３　私学研修員研究料の金額は、別表第１の６に定める。

（大学院の研修生、委託学生及び交流研究生）

第18条　大学院における研修生、委託学生及び交流研究生の選考料の金額は、別表第６の１に、研修生の研修料並びに委託学生及び交流研究生の聴講料の金額は、別表第２の４に定める。

2　前項に規定する者が実験実習を伴う科目を履修又は聴講するときは、別表第２の４に定める所定の金額を納入しなければならない。

3　研修料及び聴講料は、別に定める期日までに納入しなければならない。

4　研修生は、連続する２学期について、学期を改め継続手続を行う場合（春学期から秋学期に移るときの秋学期又は秋学期から春学期に移るときの春学期）に限り選考料を免除する。

（外国人留学生）

第19条　外国人留学生の学費は、第５条の規定を適用する。

（外国人研究生）

第19条の２　外国人研究生の選考料の金額は、別表第６の１に、外国人研究生研究料の金額は、別表第２の４に定める。

2　通年科目の外国人研究生研究料は、所定の金額の倍額とし、通年科目を春学期又は秋学期に集中して開講するときの外国人研究生研究料も同様とする。

3　第１項に規定する者が実験実習を伴う科目を受講するときは、別表第２の４に定める所定の金額を納入しなければならない。

4　外国人研究生研究料は、別に定める期日までに納入しなければならない。

5　関西大学大学院外国人研究生規程第７条に該当する者は、選考料を免除する。

第３章　高等学校、中学校及び小学校

（学費等の金額）

第20条　学費の金額は、別表第４に定める。

2　転入学生の学費は、別表第４に基づき、転入学する年度の転入学する相当学年の学費を適用する。ただし、入学金については、転入学する年度の入学金を適用する。

3　高等部においては、別表第４に定める学費のうち、在学中に留学する場合、留学期間中の授業料及び施設費は半額に減免する。

4　手数料の金額は、別表第７に定める。

（納入期日）

第21条　学費は、関西大学第一高等学校、関西大学北陽高等学校、関西大学第一中学校及び関西大学北陽中学校については毎年５回に分け、４月、６月、９月、11月及び翌年１月の各月末日までに、関西大学高等部、関西大学中等部及び関西大学初等部については毎年４回に分け、４月、７月、10月及び翌年１月の各月末日までに納入しなければならない。

2　新入学生（転入学生を含む。）の入学金は、別に定める期日までに納入しなければならない。

3　手数料は、その都度納入しなければならない。

（督　促）

第22条　学費の納入を怠った者に対しては、保護者又は保証人に督促するものとする。

2　前項の督促後２週間以内に納入しないときは、除籍することがある。

（休学中の学費）

第23条　休学中の学費は、徴収しない。

（復学及び再入学者の学費）

第24条　復学及び再入学する者の学費は、復学及び再入学をした年度の学費とする。

2　再入学を許可された者は、許可された日から再入学する学期の前学期の末日までに別表第７の３に定める再入学金を納入しなければならない。

3　再入学を許可された者は、別表第４に定める学費のうち、再入学する学期の開始月以降の学費を納入しなければならない。

第４章　幼稚園

（保育費等の金額）

第25条　保育費の金額は、別表第５に定める。

2　手数料の金額は、別表第８に定める。

（納入期日）

第26条　保育費は、毎年12回に分け、４月から翌年３月までの各月末日までに納入しなければならない。ただし、4月分及び3月分の納入期日については、別に定める。

2　新入園児の入園料は、別に定める期日までに納入しなければならない。

3　手数料は、その都度納入しなければならない。

第５章　補　則

（学費の取扱特例）

第27条　法人の設置する大学の学部を卒業して他学部又は同学部他学科へ編入学する者は、入学金を半額とする。

2　法人の設置する大学の学部を卒業した者若しくは大学院を修了した者又は本学学部学生であって関西大学大学院学則第46条第１項第11号に規定する者が、大学院（法務研究科及び会計研究科を除く。）へ進学する場合は、入学金を徴収しない。

3　法人の設置する大学の学部を卒業した者若しくは大学院を修了した者又は本学学部学生であって関西大学大学院法務研究科（法科大学院）学則第26条第11号に規定する者が、法務研究科へ進学する場合は、入学金を半額とする。

4　法人の設置する大学の学部を卒業した者若しくは大学院を修了した者又は本学学部学生であって関西大学大学院会計研究科（専門職大学院）学則第26条第11号に規定する者が、会計研究科へ進学する場合は、入学金を半額とする。

5　法人の設置する大学の留学生別科を修了した者が学部若しくは大学院へ進学する場合又は留学生別科に在学する学生が修了を待たずに引き続き学部若しくは大学院へ進学する場合は、入学金を半額とする。

6　法人の設置する幼稚園の教育課程を修了した者が、関西大学初等部へ進学する場合は、入学金を200,000円とする。

（授業料の取扱特例）

第27条の２　システム理工学部、環境都市工学部及び化学生命工学部において、修業年限を超えて在学するときの１学期の学費は、別表第１の１に定める。

2　法務研究科において、修業年限を超えて在学する場合、修了に要する未修得単位が４単位以内であるときの１学期の学費は、別表第２の１に定める。

3　会計研究科において、修業年限を超えて在学する場合、修了に要する未修得単位が４単位以内であるときの１学期の学費は、別表第２の１に定める。

（再入学金の取扱特例）

第28条　本学の大学院において、所定の期間在学して所定の単位を修得した者が退学し、学位論文提出のため再入学するときは、再入学金を免除する。

（別に定める手数料等）

第29条　この規程に定める以外の手数料等については、別に定める。

第30条　削除

（高等学校における授業料及び施設費の減免措置）

第31条　高等学校において、大阪府私立高校生等就学支援推進校指定要綱に基づき、授業料及び施設費を減免する場合の取扱いについては、別に定める。

附　則

1　この規程は、昭和47年４月１日から施行する。

2　削　除

3　この規程施行の日をもって、学費納入規程はこれを廃止する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2023年４月１日から施行する。

別表第１　大学（学部）学費

１　入学金・授業料（第５条、第６条、第９条、第13条、第27条の２関係）

2023年度

2023年度入学生　大学（学部）学費									単位　円
学部別	種別	年次	１年次		２年次		３年次		４年次	
		春学期入学	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度以降	
			入学初学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
		秋学期入学	2023年度	2024年度		2025年度		2026年度		2027年度以降
			入学初学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	1学期につき
法・文（総合人文学科初等教育学専修及び心理学専修以外）・経済・商・社会学部	入学金		260,000	—	—	—	—	—	—	—
	授業料		465,000	465,000	530,000	530,000	530,000	530,000	530,000	530,000
文学部（総合人文学科初等教育学専修のみ）	入学金		260,000	—	—	—	—	—	—	—
	授業料		465,000	465,000	570,000	570,000	570,000	570,000	570,000	570,000
文学部（総合人文学科心理学専修のみ）	入学金		260,000	—	—	—	—	—	—	—
	授業料		465,000	465,000	530,000	530,000	535,000	535,000	535,000	535,000
政策創造学部	入学金		260,000	—	—	—	—	—	—	—
	授業料		475,000	475,000	540,000	540,000	540,000	540,000	540,000	540,000
外国語学部	入学金		260,000	—	—	—	—	—	—	—
	授業料		628,000	628,000	693,500	693,500	693,500	693,500	693,500	693,500
人間健康学部	入学金		260,000	—	—	—	—	—	—	—
	授業料		485,000	485,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000
総合情報・社会安全学部	入学金		260,000	—	—	—	—	—	—	—
	授業料		651,000	651,000	716,000	716,000	716,000	716,000	716,000	716,000
システム理工・環境都市工・化学生命工学部	入学金		260,000	—	—	—	—	—	—	—
	授業料		746,500	746,500	812,000	812,000	812,000	812,000	812,000	812,000

備考　システム理工学部、環境都市工学部及び化学生命工学部において、修業年限を超えて在学するときの１学期の学費は、762,000円とする。

「2022年度」～「2013年度」（省略）

２　休学在籍料（第５条～第９条、第13条関係）

大学（学部）学費	単位　円
１学期につき	60,000

３　認定留学在籍料（第５条～第９条、第13条の２関係）

大学（学部）学費	単位　円
１学期につき	100,000

備考　入学初学期は適用しない。

４　聴講料　～６　研修員研究料（省略）

別表第２～別表第５（省略）

別表第６　大学手数料

１　入学検定料・選考料・各種証明書等（第５条、第17条、第17条の２、第18条、第19条の２関係）

大学手数料　　単位　円

種別				金額
入学検定料	学部	一般入学試験・多様な入学試験	同一試験併願方式	50,000
			上記以外	35,000
		大学入学共通テスト利用入学試験	共通テスト利用方式	18,000
			共通テスト併用方式	35,000
	大学院	法科大学院入学試験		10,000
		上記以外		35,000
	留学生別科			20,000
選考料	（外国人研究生）			14,000
	（科目等履修生及び聴講生）			5,000
	（上記以外）			7,000
学位論文審査手数料				120,000
教員免許申請				500
司書教諭免許申請				500
調査書				300
学生証・在籍確認票再交付 （学生証） （在籍確認票）				900 （700） （200）

種別		金額	
		在学生・在籍者	左記以外
卒業（修了）証明書		100	300
在籍証明書		—	300
学位取得証明書		—	300
卒業見込証明書		100	—
在学証明書		100	—
成績証明書		100	300
成績優秀者証明書（法科大学院）		100	300
単位修得証明書		100	300
単位修得証明書 （社会教育主事資格用）		300	300
司書資格証明書		300	300
学芸員資格証明書		300	300
各種資格取得見込証明書		100	300
各種試験受験資格証明書		100	300
同（成績・単位記載のもの）		100	300
各種外国文の証明書		300	300
健康診断証明書	（本学指定のもの）	200	—
	（本学指定のもの以外）	500	—
	（外国文の証明書）	1,000	—
診断書	（学内提出用）	200	—
	（学外提出用）	500	—
その他の証明書		300	300

備考

１　推薦入学試験の入学検定料は、第１次選考が書類審査のみの場合、第２次選考時に35,000円を徴収する。

２　AO（アドミッション・オフィス）方式による入学試験の入学検定料は、第１次選考時に15,000円、第２次選考時に20,000円を徴収する。

３　スポーツ・フロンティア入学試験の入学検定料は、第１次選考時に15,000円、第２次選考時に20,000円を徴収する。

４　選考料において、外国人留学生入試と外国人研究生の選考を同一試験により併願する場合は、外国人研究生選考料を免除する。

５　法務研究科（法科大学院）及び心理学研究科（心理臨床学専攻）入学試験の入学検定料は、２段階で選抜する場合においては、第１次審査時に15,000円、第２次審査時に20,000円を徴収する。

６「共通テスト併用方式」において学部間又は学科間を同一日に併願する場合の入学検定料、及び「共通テスト併用方式」と同一日に実施される一般入学試験を併願する場合の入学検定料は、１受験目を35,000円とし、２受験目より15,000円とする。

７　一般入学試験の同一日に、英語外部試験を利用した入学試験によって併願する場合の入学検定料は、１受験目を35,000円とし、２受験目より15,000円とする。ただし、「同一試験併願方式」による２受験併願の同一日に、英語外部試験を利用した入学試験によって併願する場合の入学検定料は、３受験目より15,000円とする。

８　法務研究科（法科大学院）の入学試験を同一年度に複数回受験する場合は、別に定める所定の要件により、２回目以降の入学検定料を免除する。

２　再入学金・復籍料・登録料　（第５条、第10条、第12条、第17条の２関係）

大学手数料　　単位　円

種別	区分	金額
再入学金	学部入学生及び大学院入学生	130,000
復籍料	学部入学生及び大学院入学生並びに留学生別科入学生	65,000
登録料	—	科目等履修生が履修する学期又は年度の学部入学金の25分の１相当額

別表第７～別表第８（省略）

関西大学学部学生留学規程

制定　昭和62年３月27日

（趣　旨）

第１条　この規程は、関西大学学則第35条の２第３項の規定に基づき、関西大学（以下「本大学」という。）学部学生の外国留学について必要な事項を定めるものとする。

（留学の定義）

第２条　この規程において「留学」とは、本大学との間に協定を締結している外国の大学（以下「協定大学」という。）又は教授会が認定した外国の大学等への留学をいう。

（外国の大学）

第３条　外国の大学とは、外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの又はこれに相当する教育研究機関をいう。

（留学の出願資格）

第４条　留学を希望する者は、留学する時点で本大学に１学期以上在学し、所定の単位を修得しておかなければならない。

（派遣留学の決定）

第５条　本大学が協定大学への留学を希望する者を選考の上、留学させるときは、当該学部教授会が決定する。（以下「派遣留学」という。）

（認定留学の許可）

第６条　前条に定めるほか、留学を希望する者があるときは、留学願により当該学部教授会が許可する。（以下「認定留学」という。）

（認定留学の種類）

第７条　認定留学は、留学の目的及び対象により、次に定めるとおりとする。

⑴　外国の大学において所属学部に関係する専門分野の学修をする（専門科目を複数科目履修する）ことを主たる目的とする留学

⑵　大学附属の語学研究機関及び政府公認の語学学校において外国語研修をすることを主たる目的とする留学

（留学の期間）

第８条　留学期間は、原則として１学期間又は２学期間とする。

２　留学期間の始期は４月１日又は９月21日、終期は９月20日又は３月31日とし、これらの日の前後に出国又は帰国する場合は、いずれかの日に読替えることとする。

３　前項の留学期間の読み替えは、当該学部教授会が行う。

（履修届の特別措置）

第９条　留学する学年度に提出した履修届は、その留学期間終了後の学年度に継続させることができる。

２　前項により継続を希望する者は、帰国後、所定の期日までに履修継続願を提出し、所属学部の教授会の承認を得なければならない。

３　留学した学年度の春学期に履修した通年の授業科目が、帰国した学年度において不開講その他の理由により前項の継続ができない場合は、当該学部教授会がその措置を決定する。

（単位の認定）

第10条　留学期間中に修得した授業科目の単位の認定は、単位認定願により所属学部の教授会が行う。

２　当該学部教授会は、単位の認定のため必要がある場合は、単位認定願による審査のほか、面接試験又は学力試験を行うことができる。

（留学の取消し又は期間短縮）

第11条　留学中の者が次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、当該学部教授会は留学を取り消し、又は留学期間を短縮することができる。

⑴　留学先において成業の見込みがない者

⑵　本大学の学費等の納入を怠った者

⑶　留学生としてふさわしくない行為を行った者

⑷　本人の事情により留学を継続できなくなった者

（留学に対する助成）

第12条　留学に対する助成については、別に定める。

附　則

この規程は、昭和62年４月１日から施行する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2019年10月１日から施行する。

関西大学学部学生留学規程施行細則

制定　昭和62年３月27日

（派遣留学生の募集及び選考）

第１条　派遣留学生の募集及び選考は、国際部が立案し、実施する。

２　選考は、書類審査及び面接試験（外国語試験を含む。）による。

３　国際部は、選考した派遣留学候補者を所属学部の教授会に報告する。

４　当該学部教授会は、派遣留学生を決定し、学長に推薦する。

５　学長は、派遣留学生を派遣先に通知し、受入れの応諾を得て派遣する。

（留学の手続）

第２条　派遣留学を希望する者は、留学願を国際部を通じて、所属学部の学部長に提出しなければならない。

２　認定留学を希望する者は、留学願に原則として履修する授業科目及び当該科目を開設する大学の概要に関する資料を添付し、国際部を通じて、所属学部の学部長に提出しなければならない。

３　派遣留学生及び認定留学生は、所属学部の教授会が指定する留学の準備及び必要な手続を行わなければならない。

（出国準備）

第３条　派遣留学生は、国際部が行う留学の準備に関するオリエンテーションを受け、留学に必要な手続を行わなければならない。

（学習状況報告書）

第４条　派遣留学生及び認定留学生は、留学期間中、３カ月ごとに所定の学習状況報告書を国際部を通じて、所属学部の学部長に提出しなければならない。

（帰国届の提出）

第５条　派遣留学生及び認定留学生は、定められた期間内に帰国し、帰国後速やかに所定の帰国届及び単位認定願を国際部を通じて、所属学部の学部長に提出しなければならない。

２　派遣留学生及び認定留学生は、定められた期間内に帰国できないときは、あらかじめ帰国変更届を国際部を通じて、所属学部の学部長に提出しなければならない。

（学費の取扱い）

第６条　留学中の学費の取扱いは、次に定めるとおりとする。

⑴　派遣留学生に対しては、留学する大学に納入すべき学費等を関西大学（以下「本学」という。）が負担する。

⑵　認定留学生に対しては、学校法人関西大学学費規程（以下「学費規程」という。）の定めにより派遣学期の授業料、教育充実費及び実験実習料を全額減免する。ただし、学期ごとに認定留学在籍料を本学に納入するものとし、その額は学費規程に定める。

附　則

この施行細則は、昭和62年４月１日から施行する。

（省略）

附　則

この施行細則（改正）は、2019年10月１日から施行する。

関西大学図書館利用規程

制定　昭和60年２月８日

第１章　総　則

（目　的）

第１条　この規程は、関西大学図書館規程第９条第２項の規定に基づき、図書館の所蔵する図書館資料（以下「図書」という。）及び図書館施設の利用について必要な事項を定め、もって図書館の円滑な運用を図ることを目的とする。

（休館日）

第２条　図書館の休館日は、次のとおりとする。

⑴　関西大学記念日（授業日を除く。）
⑵　図書の整備、現物照合等に必要な期間
⑶　その他別に定める日

２　図書館長は、前項の休館日のほか、臨時に休館日を定めることができる。

（開館時間）

第３条　図書館の開館時間は、別に定める。

２　図書館長は、開館時間を臨時に変更することができる。

（利用者）

第４条　図書館を利用できる者は、次のとおりとする。

⑴　職　員
⑵　学　生
⑶　関西大学の卒業者
⑷　図書館間相互利用協定等に基づく者
⑸　図書館長の許可を受けた者

２　前項の範囲及び取扱いについては、図書館長が定めるものとする。

（入館手続）

第５条　図書館に入館するときは、所定の手続をしなければならない。

（利用券の交付）

第６条　第４条第１項第３号から第５号までに規定する利用者には、次の区分により利用券を交付する。

⑴　第４条第１項第３号に規定する者　校友利用券
⑵　第４条第１項第４号に規定する者　協定利用券
⑶　第４条第１項第５号に規定する者　優待利用券又は特別利用券

２　前項の手続については、別に定める。

（利用の種類）

第７条　教職員証、学生証、利用券又は入退出カード（以下「利用券等」という。）を持参した者には、図書の閲覧、貸出しその他の図書館サービスを行う。

（図書の区分）

第８条　図書は、次の７種に区分する。

⑴　第１種　普通図書
⑵　第２種　雑誌類
⑶　第３種　参考図書類
⑷　第４種　特別コレクション
⑸　第５種　貴重図書及び準貴重図書
⑹　第６種　AV・マイクロ資料類
⑺　第７種　電子資料類

第２章　閲　覧

（閲覧サービス）

第９条　図書館は、利用者の教育及び研究に資するため、図書の閲覧サービスを行う。

２　閉架式書庫内図書の閲覧を希望する者は、所定の申込書に利用券等を添えて係に提出しなければならない。ただし、第13条に定める入庫検索者については、申込書の提出を省略することができる。

３　開架式閲覧室に備付けの図書は、自由に閲覧することができる。

（閲覧冊数）

第10条　一時に閲覧できる書庫内図書の冊数は、５冊以内とする。

（特別閲覧手続）

第11条　第８条第５号に規定する図書の閲覧を希望する者は、所定の願書により、あらかじめ図書館長の許可を受けなければならない。

２　学生が前項の図書の閲覧を希望するときは、願書に指導教育職員の認印を受けなければならない。

（閲覧場所）

第12条　図書の閲覧は、所定の閲覧室で行わなければならない。

（入庫検索）

第13条　書庫内で図書を検索することができる者は、次のとおりとする。ただし、必要に応じて制限をすることがある。

⑴　大学の教育職員
⑵　大学院学生
⑶　図書館長の許可を受けた者

２　前項の入庫検索を希望する者は、所定の手続をしなければならない。

３　貴重書庫への入庫検索は、原則として認めない。

第３章　貸出し

（貸出サービス）

第14条　図書館は、利用者の教育及び研究に資するため、図書の貸出サービスを行う。

２　閉架式書庫内図書の貸出しを希望する者は、所定の申込書に利用券等を添えて係に提出しなければならない。ただし、前条第１項に定める入庫検索者については、申込書の提出を省略することができる。

３　開架式閲覧室備付図書の貸出しを希望する者は、当該図書に利用券等を添えて係に提出しなければならない。ただし、貸出冊数及び期限は、次条第１項に規定するところによる。

（貸出冊数及び期限）

第15条　貸出図書の冊数及び期限は、次のとおりとする。

⑴　大学の専任教育職員　60冊以内、６カ月以内
⑵　大学の非常勤講師、大学院学生、前号以外の専任職員及び優待利用券を交付した者　20冊以内、３カ月以内
⑶　学部学生　10冊以内、２週間以内
⑷　校友利用券を交付した者　５冊以内、２週間以内
⑸　協定利用券を交付した者については、別に定める。
⑹　特別利用券を交付した者については、別に定める。

２　図書館長は、必要に応じて制限をし、又は一時返還を求めることができる。

３　第１項の規定にかかわらず、学習用図書については、貸出冊数を10冊以内、期限を２週間以内とする。

４　貸出期限が学部の授業及び試験が行われていない期間内に及ぶときは、第４条第１項第１号及び第２号に規定する者並びに優待利用券を交付した者については、その期間の終了日の翌日までの貸出しを認めることができる。

５　研究又は教育上の理由により、図書館長が必要と認めた場合は、第１項に規定する冊数及び期限を超える貸出しを認めることができる。

（貸出制限）

第16条　第８条第２号から第７号までに規定する図書は、貸出しすることができない。ただし、同条第２号から第６号までに規定する図書については、図書館長が特に必要と認めた場合は、この限りでない。

２　図書館長は、次の各号のいずれかに該当する図書について、当該期間中貸出し期間を制限すること又は貸出しを禁止することができる。

⑴　科目担当教育職員が、授業の必要上、期間を定めて貸出サービスの制限を申し出た図書　指定の期間
⑵　特に需要の多い図書　その需要期間

（教育職員公用貸出し）

第17条　大学の教育職員が、授業又は試験に使用するため、第８条第５号及び第７号に規定するものを除く図書の公用貸出しを希望するときは、図書館の運営に支障のない限り、これを認めることができる。

（共同研究室貸出し）

第18条　学部の共同研究室管理者が、当該共同研究室に所属する教育職員の研究に使用するため、第８条第１号から第３号までに規定する図書の貸出しを希望するときは、図書館の運営に支障のない限り、これを認める。ただし、この場合においては、原則として複本のみをその対象とする。

２　前項に規定する図書は、１学科につき貸出冊数は500冊以内とし、期限は１年以内とする。

３　第１項に規定する図書の貸出しを受けるときは、所定の申込書により、あらかじめ願い出なければならない。

４　前項に規定する貸出図書は、当該共同研究室管理者が保管し、当該共同研究室外に持ち出すことはできない。

（事務職員公用貸出し）

第19条　事務職員が業務上使用するため、第８条第２号、第４号及び第５号に規定するもの以外の図書の公用貸出しを希望するときは、図書館の運営に支障のない限り、認めることができる。

２　前項に規定する図書は、当該部署の長が保管し、貸出冊数は20冊以内とし、期限は３カ月以内とする。

（学外団体貸出し）

第20条　官公庁、学校、会社及びその他諸団体が図書の貸出しを希望するときは、図書館長の許可を受けた場合に限り、認めることができる。

２　前項に規定する図書は、原則として１団体につき貸出冊数は５冊以内とし、期限は２週間以内とする。

（返還義務）

第21条　貸出図書は、次の各号のいずれかに該当する場合は、直ちにその全部を返還しなければならない。

⑴　職員が退職するとき。

⑵　学生が卒業・修了又は退学等により学籍を失ったとき。

⑶　校友利用券、優待利用券又は特別利用券の交付を受けた者は、有効期限の満了するとき。

第４章　複　写

（複写サービス）

第22条　図書館は、利用者の教育及び研究に資するため、図書の複写サービスを行う。

２　前項に規定する複写は、著作権法（昭和45年法律第48号）第31条の規定により図書の一部分を１人につき１部行うことができる。ただし、発行後相当期間を経過した逐次刊行物に掲載された個々の著作物を複写するときは、その全部について行うことができる。

３　前項に規定する複写を希望する者は、所定の手続をしなければならない。

（複写の制限）

第23条　次の各号のいずれかに該当する場合は、複写を許可しない。

⑴　第８条第５号に規定する図書

⑵　複写により図書の原形を損傷するおそれのあるとき。

⑶　図書館長が特別の理由があると認めたとき。

２　前項第１号に規定する複写について、図書館長が必要と認めた場合は、一定の条件を付して許可することができる。

（複写の料金）

第24条　複写の許可を受けた者は、所定の複写料金を出納課に納入しなければならない。

２　前項の複写料金の徴収については、別に定める。

（複写物の利用）

第25条　複写物の利用を希望する者は、所定の手続により許可を受けなければならない。

第５章　レファレンス

（レファレンスサービス）

第26条　図書館は、利用者の教育及び研究に資するため、レファレンスサービスを行う。

２　利用者からの質問、相談等に対しては、主として文献に基づいて調査し、回答するものとする。

３　第４条第１項第３号から第５号までに定める利用者に対しては、次条のレファレンスサービスの範囲を制限することができる。

（レファレンスサービスの範囲）

第27条　依頼事項に関するレファレンスサービスの範囲は、原則として次のとおりとする。

⑴　書誌的事項の調査

⑵　参考文献の紹介

⑶　参考文献の所在及び利用手段の提示

⑷　専門的調査機関等についての情報の提供

（レファレンスサービスを行わない事項）

第28条　レファレンスサービスを行わない事項は、次のとおりとする。

⑴　プライバシーに関わる事項の調査

⑵　古書、古文書、美術品等の鑑定及び市場価格の調査

⑶　学習課題及び懸賞問題に関する調査並びに解答

⑷　医療・健康相談、法律相談、人生案内又は身上相談

⑸　仮定又は将来の予想に属する事項の調査

⑹　当該サービスのために、多大な時間と経費又は労力を費やす等、業務上支障を来すと判断される調査

（レファレンスサービスの申込手続）

第29条　レファレンスサービスを希望する者は、所定の申込書により、レファレンスカウンターに申し込まなければならない。

２　レファレンスサービスの受付時間は、原則としてレファレンスカウンターのサービス時間内とする。

（情報検索サービス）

第30条　図書館は、利用者の教育及び研究に資するため、オンライン情報検索サービスを行う。

２　前項の利用については、別に定める。

（情報検索の利用料金）

第31条　オンライン情報検索の利用に伴う外部データベースの検索料金等は、利用者の負担とする場合がある。

２　前項に規定する情報検索の利用料金の徴収については、別に定める。

第６章　図書館間相互利用

（相互利用サービス）

第32条　図書館は、利用者の教育及び研究に資するため、他大学図書館等との図書館間相互利用サービスを行う。

２　前項の図書館間相互利用サービスを希望する者は、所定の手続をしなければならない。

（相互利用の範囲）

第33条　図書館間相互利用については、大学が加入する図書館間相互利用に関する協定等のある場合は、当該協定等の定めるところによる。

２　前項に該当しない他の大学図書館等に対しては、教育及び研究上支障のない場合に限り、サービスを行うことができる。

（相互利用の料金）

第34条　図書館間相互利用に要する経費は、利用者の負担とする。

第７章　雑　則

（貸出しの停止）

第35条　貸出期限を超過した図書がある者には、図書の貸出しを停止する。

（弁償）

第36条　図書を紛失、破損又は汚損した者は、弁償しなければならない。

２　弁償の方法は、相当の金額をもって行うものとする。ただし、同一の図書による弁償も認めることができる。

（その他の利用サービス）

第37条　その他の利用サービスについては、別に定める。

（規程の改廃）

第38条　この規程の改廃は、図書委員会の議を経て行う。

附　則

１　この規程は、昭和60年４月１日から施行する。

２　関西大学図書館閲覧及び帯出規程（昭和29年１月16日施行）、関西大学図書館分室規程（昭和31年６月21日施行）、関西大学共同研究室図書帯出規程（昭和34年９月15日施行）及び関西大学図書館図書複写規程（昭和47年４月15日施行）は、廃止する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2019年10月１日から施行する。

関西大学給付奨学金規程

制定　平成27年３月26日

（趣旨）

第１条　この規程は、奨学に係る基金規程第４条の規定に基づき、関西大学（以下「本学」という。）の学部学生及び大学院学生に対する助成に関して必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　この規程において、助成としての給付金を奨学金といい、その奨学金を受ける学生を奨学生という。

（奨学金の種別）

第３条　この規程に定める奨学金は、次のとおりとする。

⑴　関西大学新入生給付奨学金（以下「新入生給付奨学金」という。）

⑵　関西大学学部給付奨学金（以下「学部給付奨学金」という。）

⑶　関西大学「学の実化」入学前予約採用型給付奨学金（以下「学の実化給付奨学金」という。）

⑷　関西大学「葦の葉」給付奨学金（以下「葦の葉給付奨学金」という。）

⑸　関西大学大学院特別給付奨学金（以下「大学院特別給付奨学金」という。）

⑹　関西大学大学院給付奨学金（以下「大学院給付奨学金」という。）

⑺　関西大学大学院入学前予約採用型給付奨学金（以下「大学院入学前予約採用型給付奨学金」という。）

⑻　関西大学社会人大学院学生給付奨学金（以下「社会人大学院学生給付奨学金」という。）

⑼　関西大学災害時支援給付奨学金（以下「災害時支援給付奨学金」という。）

⑽　関西大学家計急変者給付奨学金（以下「家計急変者給付奨学金」という。）

⑾　関西大学大学院法務研究科（法科大学院）給付奨学金（以下「法科大学院給付奨学金」という。）

⑿　関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）給付奨学金（以下「会計専門職大学院給付奨学金」という。）

（奨学金の目的及び対象）

第４条　前条各号に掲げる奨学金の目的及び対象は、次のとおりとする。

⑴　新入生給付奨学金は、有為な人材の育成と経済支援を目的に、学部新入生のうち入学試験の成績が特に優秀な者に対して給付する。

⑵　学部給付奨学金は、有為な人材の育成と経済支援を目的に、学部学生のうち学業成績が特に優秀な者に対して給付する。

⑶　学の実化給付奨学金は、有為な人材の育成と経済支援を目的に、本学への入学を強く希望し入学前に予約採用を受けた者のうち一般入学試験又は大学入学共通テスト利用入学試験により入学した学部学生に対して、標準修業年限を原則とし継続して給付する。

⑷　葦の葉給付奨学金は、「考動力」あふれる関大人の育成と経済支援を目的に、学部学生のうち学業成績が優秀な者に対して給付する。

⑸　大学院特別給付奨学金は、高度の研究能力及び豊かな学識を有する研究者の養成を目的に、大学院入学試験の成績が特に優秀な大学院学生に対し、博士課程前期課程・修士課程及び博士課程後期課程ごとに、標準修業年限を原則として継続して給付する。

⑹　大学院給付奨学金は、高度の研究能力及び豊かな学識を有する研究者の養成と経済支援を目的に、大学院学生のうち学業成績が特に優秀な者に対して給付する。

⑺　大学院入学前予約採用型給付奨学金は、高度の研究能力及び豊かな学識を有する研究者の養成と経済支援を目的に、本学大学院博士課程前期課程・修士課程への進学を強く希望し入学前に予約採用を受けた者のうち学内進学試験により入学した大学院学生に対して、標準修業年限を原則とし継続して給付する。

⑻　社会人大学院学生給付奨学金は、高度の研究能力及び豊かな学識を有する研究者の養成を目的に、優秀な社会人大学院学生に対して給付する。

⑼　災害時支援給付奨学金は、修学支援を目的に、地震、台風等の災害による被災又は学費支弁者の死亡により家計が急変した学部学生及び大学院学生に対して給付する。

⑽　家計急変者給付奨学金は、修学支援を目的に、家計支持者の死亡や失業、廃業などの著しい収入の減少により家計が急変した学部学生及び大学院学生に対して給付する。

⑾　法科大学院給付奨学金は、豊かな学識を有する法曹を養成することを目的に、法科大学院学生のうち、学業人物ともに優秀な者に対して給付する。

⑿　会計専門職大学院給付奨学金は、高度な会計専門職業人を養成することを目的に、会計専門職大学院学生のうち、学業人物ともに優秀な者に対して給付する。

２　前項各号の奨学金に係る選考方法、給付手続等については、別に定める。

（大学院学生の適用範囲）

第５条　前条第１項第５号から第８号までに規定する奨学金は、専門職大学院を除く大学院学生に適用する。

（併給の禁止）

第６条　第３条第３号に掲げる奨学金は、同条第１号、第２号及び第４号に掲げる奨学金との併給を認めない。

２　第３条第５号から第８号までに掲げる奨学金は、そのいずれとも併給を認めない。

（給付金額の調整）

第７条　大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第８条の規定に基づき、授業料等減免対象として認定された者が、第３条第１号から第３号までに掲げる奨学金を受給する場合は、給付金額を調整する。

２　前項における給付金額の調整に関する必要な事項は、別に定める。

（奨学金の返還）

第８条　奨学生には、奨学金返還の義務を課さない。

２　前項の規定にかかわらず、第４条第２項に規定する定めに基づいて奨学金の返還を求められた場合は、受給した奨学金を返還しなければならない。

（異動）

第９条　奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、直ちに関西大学奨学金委員会規程に定める関西大学奨学金委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

⑴　奨学金を辞退するとき。

⑵　休学又は退学するとき。

⑶　認定留学するとき。

（所管）

第10条　本奨学金に関する事務は、奨学支援グループの所管とする。

（規程の改廃）

第11条　この規程の改廃は、委員会の議を経て行う。

附　則

１　この規程は、平成27年４月１日から施行し、平成28年度入学生から適用する。ただし、第３条第４号、第９号から第13号までに掲げる奨学金は、平成27年度以前入学生にも適用する。

２　関西大学学部・大学院給付奨学金規程（平成18年２月14日制定）、関西大学第１種（学部入学試験成績優秀者特別）給付奨学金規程施行細則（平成19年１月25日制定）、関西大学第２種（大学院入学試験成績優秀者特別）給付奨学金規程施行細則（平成19年１月25日制定）、関西大学第３種（学部成績優秀者）給付奨学金規程施行細則（平成19年１月25日制定）、関西大学第４種（大学院成績優秀者）給付奨学金規程施行細則（平成19年１月25日制定）、関西大学第５種（家計急変者）給付奨学金規程施行細則（平成19年１月25日制定）及び関西大学第７種（優秀社会人大学院生）給付奨学金規程施行細則（平成23年７月７日制定）は、廃止する。ただし、平成27年度以前入学生は、なお従前の例による。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2022年４月１日から施行する。

関西大学新入生給付奨学金規程

制定　平成27年３月26日

（趣旨）

第１条　この規程は、関西大学給付奨学金規程第４条第２項の規定に基づき、同規程第３条第１号の関西大学新入生給付奨学金に関して必要な事項を定めるものとする。

（給付対象者）

第２条　本奨学金の給付対象者は、学部新入生のうち、経済的理由により修学が困難で、かつ、入学試験の成績が特に優秀な者とする。

（給付金額）

第３条　本奨学金の給付金額は、別表に定める。

（給付人数）

第４条　本奨学金の給付人数は、予算の範囲内で別に定める。

（給付期間）

第５条　本奨学金の給付期間は、１年間とする。

（募集及び出願）

第６条　奨学生の募集は、４月とする。

２　奨学生を希望する者は、指定の期日までに、所定の願書を学長に提出しなければならない。

（候補者の選考及び推薦）

第７条　関西大学奨学金委員会規程に定める関西大学奨学金委員会（以下「委員会」という。）は、学部教授会の議を経て候補者を選考し、学長に推薦する。

（奨学生の決定及び通知）

第８条　学長は、委員会の推薦に基づいて奨学生を決定し、本人に通知する。

（奨学金の給付）

第９条　本奨学金は、本人名義の銀行口座に振り込むものとし、７月及び12月に分割して給付する。

（併給の禁止）

第10条　本奨学金と関西大学給付奨学金規程第３条第３号に掲げる奨学金との併給は認めない。

（給付の停止）

第11条　奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、委員会の議を経て奨学金の給付を停止する。

⑴　奨学金を辞退したとき。

⑵　学費未納により除籍となったとき。

⑶　休学又は退学するとき。

⑷　委員会が奨学生として不適当と認めたとき。

２　前項第２号から第４号までのいずれかに該当する場合において、奨学金を既に給付しているときは、当該学期分の奨学金の返還を求める。

（補則）

第12条　この規程に定めるもののほか、この奨学金の取扱いに関し必要な事項は、委員会の議を経て定める。

（規程の改廃）

第13条　この規程の改廃は、委員会の議を経て行う。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から施行し、平成28年度入学生から適用する。

附　則

この規程（改正）は、2019年10月１日から施行する。

別表（第３条関係）

学　部	給付金額
法学部	300,000円
文学部	300,000円
経済学部	300,000円
商学部	300,000円
社会学部	300,000円
政策創造学部	330,000円
外国語学部	380,000円
人間健康学部	330,000円
総合情報学部	380,000円
社会安全学部	380,000円
システム理工学部	450,000円
環境都市工学部	450,000円
化学生命工学部	450,000円

関西大学学部給付奨学金規程

制定　平成27年３月26日

（趣旨）

第１条　この規程は、関西大学給付奨学金規程第４条第２項の規定に基づき、同規程第３条第２号の関西大学学部給付奨学金に関して必要な事項を定めるものとする。

（給付対象者）

第２条　本奨学金の給付対象者は、第３学期以上に在学する学部学生のうち、経済的理由により修学が困難で、かつ、学業成績が特に優秀な者とする。

（給付金額）

第３条　本奨学金の給付金額は、別表に定める。

（給付人数）

第４条　本奨学金の給付人数は、予算の範囲内で別に定める。

（給付期間）

第５条　本奨学金の給付期間は、１年間とする。

（募集及び出願）

第６条　奨学生の募集は、給付前年度の３月とする。

２　奨学生を希望する者は、指定の期日までに、所定の願書を学長に提出しなければならない。

（候補者の選考及び推薦）

第７条　関西大学奨学金委員会規程に定める関西大学奨学金委員会（以下「委員会」という。）は、学部教授会の議を経て候補者を選考し、学長に推薦する。

（奨学生の決定及び通知）

第８条　学長は、委員会の推薦に基づいて奨学生を決定し、本人に通知する。

（奨学金の給付）

第９条　本奨学金は、本人名義の銀行口座に振り込むものとし、７月及び12月に分割して給付する。

（併給の禁止）

第10条　本奨学金と関西大学給付奨学金規程第３条第３号に掲げる奨学金との併給は認めない。

２　本奨学金と国際交流助成基金による助成規程に定める奨学金との併給は認めない。ただし、同規程第３条第１項第１号に定める交換派遣留学奨学金及び複数学位取得プログラム奨学金並びに同項第４号に定める短期派遣奨学金については、この限りでない。

（給付の停止）

第11条　奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、委員会の議を経て奨学金の給付を停止する。

⑴　奨学金を辞退したとき。

⑵　学費未納により除籍となったとき。

⑶　休学又は退学するとき。

⑷　認定留学するとき。

⑸　委員会が奨学生として不適当と認めたとき。

２　前項第２号から第５号までのいずれかに該当する場合において、奨学金を既に給付しているときは、当該学期分の奨学金の返還を求める。

（補則）

第12条　この規程に定めるもののほか、この奨学金の取扱いに関し必要な事項は、委員会の議を経て定める。

（規程の改廃）

第13条　この規程の改廃は、委員会の議を経て行う。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から施行し、平成28年度入学生から適用する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2020年４月１日から施行する。

別表（第３条関係）

学　部	給付金額
法学部	300,000円
文学部	300,000円
経済学部	300,000円
商学部	300,000円
社会学部	300,000円
政策創造学部	330,000円
外国語学部	380,000円
人間健康学部	330,000円
総合情報学部	380,000円
社会安全学部	380,000円
システム理工学部	450,000円
環境都市工学部	450,000円
化学生命工学部	450,000円

関西大学「学の実化」入学前予約採用型給付奨学金規程

制定　平成27年３月26日

（趣旨）

第１条　この規程は、関西大学給付奨学金規程第４条第２項の規定に基づき、同規程第３条第３号の関西大学「学の実化」入学前予約採用型給付奨学金に関して必要な事項を定めるものとする。

（給付対象者）

第２条　本奨学金の給付対象者は、関西大学（以下「本学」という。）への入学を強く希望し一般入学試験又は大学入学共通テスト利用入学試験（以下「一般入学試験」という。）により入学した学部学生で、経済的理由により修学が困難な者とする。

（募集及び出願）

第３条　奨学生の募集は、入学試験を受ける前年の11月とする。

２　奨学生を希望する者は、指定の期日までに、所定の願書を学長に提出しなければならない。

（給付金額）

第４条　本奨学金の給付金額は、別表に定める。

（給付人数）

第５条　本奨学金の給付人数は、予算の範囲内で別に定める。

（給付期間）

第６条　本奨学金の給付期間は、標準修業年限とする。

（採用内定者の選考及び推薦）

第７条　関西大学奨学金委員会規程に定める関西大学奨学金委員会（以下「委員会」という。）は、採用内定者を選考し、学長に推薦する。

（採用内定者の決定及び通知）

第８条　学長は、委員会の推薦に基づいて採用内定者を決定し、本人に通知する。

（採用内定の取消し）

第９条　採用内定者が次の各号のいずれかに該当する場合は、委員会の議を経て奨学金の採用内定を取り消すことができる。

⑴　所定の期日までに正当な理由なく、本学への入学手続を完了しないとき。

⑵　本学への入学資格を失ったとき。

⑶　奨学金を辞退するとき。

⑷　願書及び提出書類に虚偽の記載を行ったとき。

⑸　委員会が採用内定者として不適当と認めたとき。

（採用者の決定）

第10条　採用内定者のうち、次の各号のいずれにも該当する者を、本奨学金の採用者とする。

⑴　当該年度の本学学部の一般入学試験により合格し、１年次生として入学した者

⑵　入学後の所定期間内に、本奨学金の給付申請手続を行った者

（奨学金の給付）

第11条　本奨学金は、本人名義の銀行口座に振り込むものとし、５月及び10月に分割して給付する。ただし、新規採用者について

は、７月及び10月に分割して給付する。

（報告）

第12条　奨学生は、所定の修学状況報告書を毎学年度の終わりに、学長に提出しなければならない。

（給付期間の短縮）

第13条　２年次生、３年次生及び４年次生の奨学生にあっては、それぞれ１年次生、２年次生及び３年次生までの学業成績が委員会で定めた基準に達していない場合は、委員会の議を経て給付期間を短縮する。

（給付の休止）

第14条　奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、委員会の議を経て給付を休止する。

⑴　休学するとき。

⑵　認定留学するとき。

（給付の復活）

第15条　前条の規定により奨学金を休止された奨学生が給付の復活を希望するときは、所定の願書を学長に提出し、委員会の審査を受けなければならない。

２　給付の復活を認められた奨学生に対する奨学金の給付期間は、第６条に規定する給付期間から既に給付を受けた期間を控除した期間とする。

（給付の停止）

第16条　奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、委員会の議を経て奨学金の給付を停止する。

⑴　奨学金を辞退したとき。

⑵　学費未納により除籍となったとき。

⑶　退学するとき。

⑷　委員会が奨学生として不適当と認めたとき。

２　前項第２号から第４号までのいずれかに該当する場合において、奨学金を既に給付しているときは、当該学期分の奨学金の返還を求める。

（給付期間の短縮等の決定及び通知）

第17条　第13条から前条までに規定する給付期間の短縮、給付の休止、給付の復活及び給付の停止については、委員会の議を経て学長が決定し、本人に通知する。

（併給の禁止）

第18条　本奨学金と関西大学給付奨学金規程第３条第１号、第２号及び第４号に掲げる奨学金との併給は、認めない。

２　本奨学金と国際交流助成基金による助成規程に定める奨学金との併給は、認めない。ただし、同規程第３条第１項第１号に定める交換派遣留学奨学金及び複数学位取得プログラム奨学金並びに同項第４号に定める短期派遣奨学金については、この限りでない。

（補則）

第19条　この規程に定めるもののほか、この奨学金の取扱いに関し必要な事項は、委員会の議を経て定める。

（規程の改廃）

第20条　この規程の改廃は、委員会の議を経て行う。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から施行し、平成28年度入学生から適用する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2020年４月１日から施行し、2021年度入学生から適用する。

別表（第４条関係）

区分／学部	大阪府・兵庫県・京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県の高等学校又は中等教育学校の後期課程出身者	左記以外の者。（日本国外の高等学校は除く。）
法学部	300,000円	400,000円
文学部	300,000円	400,000円
経済学部	300,000円	400,000円
商学部	300,000円	400,000円
社会学部	300,000円	400,000円
政策創造学部	330,000円	430,000円
外国語学部	380,000円	480,000円
人間健康学部	330,000円	430,000円
総合情報学部	380,000円	480,000円
社会安全学部	380,000円	480,000円
システム理工学部	450,000円	550,000円
環境都市工学部	450,000円	550,000円
化学生命工学部	450,000円	550,000円

関西大学大学院入学前予約採用型給付奨学金規程

制定　平成27年３月26日

（趣旨）

第１条　この規程は、関西大学給付奨学金規程第４条第２項の規定に基づき、同規程第３条第７号の関西大学大学院入学前予約採用型給付奨学金に関して必要な事項を定めるものとする。

（給付対象者）

第２条　本奨学金の給付対象者は、関西大学（以下「本学」という。）大学院博士課程前期課程・修士課程への進学を強く希望し学内進学試験により入学した者で、経済的理由により修学が困難なものとする。ただし、関西大学特別研究生規程（就）に定める特別研究生を除く。

（募集及び出願）

第３条　奨学生の募集は、採用前年度に本学学部４年次生に在学する者を対象とし、同年の４月に募集する。

２　奨学生を希望する者は、指定の期日までに、所定の願書を学長に提出しなければならない。

（給付金額）

第４条　本奨学金の給付金額は、別表に定める。

（給付人数）

第５条　本奨学金の給付人数は、予算の範囲内で別に定める。

（給付期間）

第６条　本奨学金の給付期間は、標準修業年限とする。

（採用内定者の選考及び推薦）

第７条　関西大学奨学金委員会規程に定める関西大学奨学金委員会（以下「委員会」という。）は、研究科委員会の議を経て採用内定者を選考し、学長に推薦する。

（採用内定者の決定及び通知）

第８条　学長は、委員会の推薦に基づいて採用内定者を決定し、本人に通知する。

（採用内定の取消し）

第９条　採用内定者が、次の各号のいずれかに該当する場合は、委員会の議を経て奨学金の採用内定を取り消すことができる。

⑴　所定の期日までに正当な理由なく、本学の入学手続を完了しないとき。

⑵　本学の入学資格を失ったとき。

⑶　奨学金を辞退するとき。

⑷　願書及び提出書類に虚偽の記載を行ったとき。

⑸　委員会が採用内定者として不適当と認めたとき。

（採用者の決定）

第10条　採用内定者のうち、次の各号のいずれにも該当する者を、本奨学金の採用者とする。

⑴　当該年度の本学大学院の学内進学試験により合格し、入学した者

⑵　入学後の所定期間内に、本奨学金の給付申請手続を行った者

（奨学金の給付）

第11条　本奨学金は、本人名義の銀行口座に振り込むものとし、５月及び10月に分割して給付する。ただし、新規採用者については、７月及び10月に分割して給付する。

（報告）

第12条　奨学生は、所定の修学状況報告書を毎学年度の終わりに、学長に提出しなければならない。

（給付期間の短縮）

第13条　奨学生が受給資格を欠くと認められる場合は、委員会の議を経て給付期間を短縮する。

（給付の休止）

第14条　奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、委員会の議を経て給付を休止する。

⑴　休学するとき。

⑵　認定留学するとき。

（給付の復活）

第15条　前条の規定により奨学金を休止された奨学生が給付の復活を希望するときは、所定の願書を学長に提出し、委員会の審査を受けなければならない。

2　給付の復活を認められた奨学生に対する奨学金の給付期間は、第6条に規定する給付期間から既に給付を受けた期間を控除した期間とする。

（給付の停止）

第16条　奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、委員会の議を経て奨学金の給付を停止する。

⑴　奨学金を辞退したとき。

⑵　学費未納により除籍となったとき。

⑶　退学するとき。

⑷　委員会が奨学生として不適当と認めたとき。

2　前項第2号から第4号までのいずれかに該当する場合において、奨学金を既に給付しているときは、当該学期分の奨学金の返還を求める。

（給付期間の短縮等の決定及び通知）

第17条　第13条から前条までに規定する給付期間の短縮、給付の休止、給付の復活及び給付の停止については、委員会の議を経て学長が決定し、本人に通知する。

（併給の禁止）

第18条　本奨学金と関西大学給付奨学金規程第3条第5号、第6号及び第8号に掲げる奨学金との併給は認めない。

2　本奨学金と国際交流助成基金による助成規程に定める奨学金との併給は、認めない。ただし、同規程第3条第1項第1号に定める交換派遣留学奨学金及び複数学位取得プログラム奨学金並びに同項第4号に定める短期派遣奨学金については、この限りでない。

（補則）

第19条　この規程に定めるもののほか、この奨学金の取扱いに関し必要な事項は、委員会の議を経て定める。

（規程の改廃）

第20条　この規程の改廃は、委員会の議を経て行う。

附　則

この規程（改正）は、2020年4月1日から施行し、2020年度入学生から適用する。

附　則

この規程（改正）は、2019年10月1日から施行する。

別表（第4条関係）

【前期課程・修士課程】

研究科	給付金額
法学研究科	250,000円
文学研究科	250,000円
経済学研究科	250,000円
商学研究科	250,000円
社会学研究科	250,000円
総合情報学研究科	300,000円
理工学研究科	375,000円
外国語教育学研究科	275,000円
心理学研究科心理学専攻	250,000円
心理臨床学専攻	325,000円
社会安全研究科	300,000円
東アジア文化研究科	250,000円
ガバナンス研究科	250,000円
人間健康研究科	250,000円

【前期課程・修士課程】（1年コース）

研究科	給付金額
文学研究科	350,000円
外国語教育学研究科	385,000円
ガバナンス研究科	350,000円

【前期課程・修士課程】（3年コース）

研究科	給付金額
法学研究科	166,500円
文学研究科	166,500円
総合情報学研究科	200,000円
外国語教育学研究科	183,000円
心理学研究科心理学専攻	166,500円
東アジア文化研究科	166,500円
ガバナンス研究科	166,500円
人間健康研究科	166,500円

備考　3年コースから2年コースへ在学期間を途中で変更した場合は、2年次に、3年次に給付する奨学金を合わせて給付する。

関西大学災害時支援給付奨学金規程

制定　平成27年３月26日

（趣旨）

第１条　この規程は、関西大学給付奨学金規程第４条第２項の規定に基づき、同規程第３条第９号の関西大学災害時支援給付奨学金に関して必要な事項を定めるものとする。

（給付対象者）

第２条　本奨学金の給付対象者は、次の各号のいずれかに該当する本学学生とする。

⑴　災害救助法又は天災融資法の適用された地域に居住する学部学生若しくは大学院学生（以下「在学生」という。）又は学費支弁者が、災害により家屋の損壊、滅失又は流失し、家計が急変した場合

⑵　災害救助法（昭和22年法律第118号）又は天災による被害農林漁業者等に対する資金の融通に関する暫定措置法（昭和30年法律第136号。以下「天災融資法」という。）の適用された地域に居住する在学生の学費支弁者が、災害により死亡又は症候の程度が障害認定等級２級以上の長期療養者となり、家計が急変した場合

２　前項にかかわらず、関西大学奨学金委員会規程に定める関西大学奨学金委員会（以下「委員会」という。）が、次の各号のいずれかに該当すると認める在学生には、前項を準用する。

⑴　災害救助法又は天災融資法が適用される地域外であっても、当該災害により前項各号と同程度以上の被害を受けた場合

⑵　国外における災害が、災害救助法又は天災融資法が適用される国内の災害と同程度以上で、かつ、当該災害により前項各号と同程度以上の被害を受けた場合

（給付金額）

第３条　本奨学金の給付金額は、次のとおりとする。

⑴　前条第１項第１号の場合において被災程度が、家屋の全壊、滅失又は流失の場合は、授業料、教育充実費及び実験実習料の合計額（以下「学費」という。）の２分の１相当額を上限とする。

⑵　前条第１項第１号の場合において被災程度が、家屋の半壊又は半焼失の場合は、学費の４分の１相当額を上限とする。

⑶　前条第１項第２号の場合において学費支弁者の死亡又は症候の程度が障害認定等級２級以上の長期療養者の場合は、学費の２分の１相当額を上限とする。

２　本奨学金の年額は、学費相当額を上限とする。

３　給付金額は、予算の範囲内で決定する。

（募集及び出願）

第４条　奨学生の募集は、第２条に規定する要件のいずれかに該当し、かつ、予算の範囲内において随時行う。

２　同一災害における募集は、１回限りとする。

３　本奨学金の出願は、給付事由が発生した日から１年を超えない期間内に行わなければならない。

４　奨学生を希望する者は、次の書類を学長に提出しなければならない。

⑴　所定の奨学生願書

⑵　家計が急変した事由を証明する関係官庁の証明書又はそれに準ずる証明書。ただし、出願時点で証明書の入手が困難である場合は、出願者本人から事情書を徴して、後日、証明書を提出させることとする。

（候補者の選考及び推薦）

第５条　委員会は、候補者を選考し、学長に推薦する。

（奨学生の決定及び通知）

第６条　学長は、委員会の推薦に基づいて奨学生及び給付金額を決定し、本人に通知する。

（給付期間）

第７条　本奨学金の給付期間は、１年間とする。

（奨学金の給付）

第８条　本奨学金は、本人名義の銀行口座に振り込むものとし、採用決定後、遅滞なく給付する。

（給付の停止）

第９条　奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、奨学金の給付を停止する。

⑴　奨学金を辞退したとき。

⑵　学費未納により除籍となったとき。

⑶　認定留学するとき。

⑷　休学又は退学するとき。

⑸　委員会が奨学生として不適当と認めたとき。

２　前項第２号から第５号までのいずれかに該当する場合は、奨学金の返還を求めることがある。

（補則）

第10条　この規程に定めるもののほか、この奨学金の取扱いに関し必要な事項は、委員会の議を経て定める。

（規程の改廃）

第11条　この規程の改廃は、委員会の議を経て行う。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から施行し、平成28年度在学生から適用する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2020年４月１日から施行する。

関西大学家計急変者給付奨学金規程

制定　平成27年３月26日

（趣旨）

第１条　この規程は、関西大学給付奨学金規程第４条第２項の規定に基づき、同規程第３条第10号の家計急変者給付奨学金に関して必要な事項を定めるものとする。

（給付対象者）

第２条　本奨学金の給付対象者は、主たる家計支持者が次の各号のいずれかに該当し、家計が急変したことにより修学が困難となった関西大学（以下「本学」という。）学生とする。

⑴　死亡したとき。

⑵　症候の程度が障害認定等級２級以上の長期療養者となったとき。

⑶　勤務先の倒産により失業したとき、又は自営業であって廃業したとき。

（給付金額）

第３条　本奨学金の給付金額は、年額24万円とする。

（給付人数）

第４条　本奨学金の給付人数は、予算の範囲内で別に定める。

（募集及び出願）

第５条　奨学生の募集は、４月及び９月に行う。

２　第２条に規定する給付事由は、本学在学中に生じたものに限る。

３　本奨学金への出願は、給付事由が発生した日から１年を超えない期間内に行わなければならない。ただし、認定留学期間及び外国語学部においてスタディ・アブロードを履修する期間は、当該出願期間に含まない。

４　本奨学金の採用は、事由のいかんにかかわらず、在学中１度限りとする。

５　奨学生を希望する者は、次の書類を学長に提出しなければならない。

⑴　所定の奨学生願書

⑵　家計が急変した事由を証明する関係官庁の証明書又はそれに準ずる証明書

（候補者の選考及び推薦）

第６条　関西大学奨学金委員会規程に定める関西大学奨学金委員会（以下「委員会」という。）は、候補者を選考し、学長に推薦する。

（奨学生の決定及び通知）

第７条　学長は、委員会の推薦に基づいて奨学生を決定し、本人に通知する。

（給付期間）

第８条　本奨学金の給付期間は、１年間とする。

（奨学金の給付）

第９条　本奨学金は、本人名義の銀行口座に振り込むものとし、４月募集による採用者は７月に、９月募集による採用者は12月に給付する。

（給付の停止）

第10条　奨学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、奨学金の給付を停止する。

⑴　奨学金を辞退したとき。

⑵　学費未納により除籍となったとき。

⑶　認定留学するとき。

⑷　休学又は退学するとき。

⑸　委員会が奨学生として不適当と認めたとき。

２　前項第２号から第５号までのいずれかに該当する場合は、奨学

金の返還を求めることがある。

（補則）

第11条　この規程に定めるもののほか、この奨学金の取扱いに関し必要な事項は、委員会の議を経て定める。

（規程の改廃）

第12条　この規程の改廃は、委員会の議を経て行う。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から施行し、平成28年度在学生から適用する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2020年４月１日から施行する。

国の修学支援新制度導入に伴う給付型奨学金の支給調整に係る規程

制定　2019年12月５日

（目的）

第１条　この規程は、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）（以下「法」という。）及び大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）（以下「施行令」という。）の施行に伴い、関西大学給付奨学金規程（以下「規程」という。）に規定する奨学金の給付金額を調整することを目的とする。

（対象となる給付奨学金）

第２条　前条に基づく給付奨学金は、規程第３条のうち、次のとおりとする。

⑴　関西大学新入生給付奨学金

⑵　関西大学学部給付奨学金

⑶　関西大学「学の実化」入学前予約採用型給付奨学金

（調整が必要となる給付対象者）

第３条　給付金額の調整が必要となる対象者は、前条各号に規定する奨学金受給者となる学部学生のうち、法第８条第１項に規定する授業料等の減免を受ける者をいう。

（法令に基づく区分）

第４条　前条における給付対象者は、施行令第２条第１項に規定する授業料等減免対象者に係る減免額算定基準額の各号に掲げる区分によるものとする。

２　前項における区分に変更があった場合は、変更後の区分によるものとする。

（給付額の調整）

第５条　給付対象者の給付額は、第２条各号に規定する奨学金の給付金額をもとに、前条に定める区分に応じて、調整するものとする。

２　前項に基づき給付額を調整する算定方法は、施行令第２条第１項各号の区分に応じて定められた授業料減免額（第２号及び第３号においては、１万円未満を切り捨てるものとする。）を学費規程に定める授業料で除した値を１から減じて得た割合に、第２条各号に定める奨学金給付金額を乗じた額とする。ただし、１万円未満は切り上げるものとする。

（調整後の給付額）

第６条　前条に基づき調整された第２条各号における奨学金の給付額は、別表に定める。

（規程の改廃）

第７条　この規程の改廃は、関西大学奨学金委員会の議を経て行う。

（所管）

第８条　この規程に係る奨学金に関する事務は、奨学支援グループの所管とする。

附　則

１　この規程は、2020年４月１日から施行する。

２　第２条第３号の奨学金を受給する2019年度以前入学生については、なお従前の例による。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2023年４月１日から施行する。

別表（第６条関係）

１　関西大学新入生給付奨学金

学　部	給付金額		
	施行令第２条第１項第１号に該当する者	施行令第２条第１項第２号に該当する者	施行令第２条第１項第３号に該当する者
法学部	80,000円	160,000円	230,000円
文学部	80,000円	160,000円	230,000円
経済学部	80,000円	160,000円	230,000円
商学部	80,000円	160,000円	230,000円
社会学部	80,000円	160,000円	230,000円
政策創造学部	90,000円	180,000円	260,000円
外国語学部	170,000円	250,000円	320,000円
人間健康学部	100,000円	180,000円	260,000円
総合情報学部	180,000円	250,000円	320,000円
社会安全学部	180,000円	250,000円	320,000円
システム理工学部	240,000円	320,000円	390,000円
環境都市工学部	240,000円	320,000円	390,000円
化学生命工学部	240,000円	320,000円	390,000円

２　関西大学学部給付奨学金

2023年度入学生

学　部	給付金額		
	施行令第２条第１項第１号に該当する者	施行令第２条第１項第２号に該当する者	施行令第２条第１項第３号に該当する者
法学部	110,000円	170,000円	240,000円
文学部	110,000円	170,000円	240,000円
経済学部	110,000円	170,000円	240,000円
商学部	110,000円	170,000円	240,000円
社会学部	110,000円	170,000円	240,000円
政策創造学部	120,000円	190,000円	260,000円
外国語学部	190,000円	260,000円	320,000円
人間健康学部	120,000円	200,000円	270,000円
総合情報学部	200,000円	260,000円	320,000円
社会安全学部	200,000円	260,000円	320,000円
システム理工学部	260,000円	330,000円	390,000円
環境都市工学部	260,000円	330,000円	390,000円
化学生命工学部	260,000円	330,000円	390,000円

2022年度入学生

学　部	給付金額		
	施行令第２条第１項第１号に該当する者	施行令第２条第１項第２号に該当する者	施行令第２条第１項第３号に該当する者
法学部	110,000円	170,000円	240,000円
文学部	110,000円	170,000円	240,000円
経済学部	110,000円	170,000円	240,000円
商学部	110,000円	170,000円	240,000円
社会学部	110,000円	170,000円	240,000円
政策創造学部	120,000円	190,000円	260,000円
外国語学部	190,000円	260,000円	320,000円
人間健康学部	120,000円	200,000円	270,000円
総合情報学部	200,000円	260,000円	320,000円
社会安全学部	200,000円	260,000円	320,000円
システム理工学部	260,000円	330,000円	390,000円
環境都市工学部	260,000円	330,000円	390,000円
化学生命工学部	260,000円	330,000円	390,000円

2021年度入学生

学　部	給付金額		
	施行令第２条第１項第１号に該当する者	施行令第２条第１項第２号に該当する者	施行令第２条第１項第３号に該当する者
法学部	110,000円	170,000円	240,000円
文学部	110,000円	170,000円	240,000円
経済学部	110,000円	170,000円	240,000円
商学部	110,000円	170,000円	240,000円
社会学部	110,000円	170,000円	240,000円
政策創造学部	120,000円	190,000円	260,000円
外国語学部	190,000円	260,000円	320,000円
人間健康学部	120,000円	200,000円	270,000円
総合情報学部	200,000円	260,000円	320,000円
社会安全学部	200,000円	260,000円	320,000円
システム理工学部	260,000円	330,000円	390,000円
環境都市工学部	260,000円	330,000円	390,000円
化学生命工学部	260,000円	330,000円	390,000円

2020年度入学生

学　部	給付金額		
	施行令第２条第１項第１号に該当する者	施行令第２条第１項第２号に該当する者	施行令第２条第１項第３号に該当する者
法学部	110,000円	170,000円	240,000円
文学部	110,000円	170,000円	240,000円
経済学部	110,000円	170,000円	240,000円
商学部	110,000円	170,000円	240,000円
社会学部	110,000円	170,000円	240,000円
政策創造学部	120,000円	190,000円	260,000円
外国語学部	190,000円	260,000円	320,000円
人間健康学部	120,000円	200,000円	270,000円
総合情報学部	200,000円	260,000円	320,000円
社会安全学部	200,000円	260,000円	320,000円
システム理工学部	260,000円	330,000円	390,000円
環境都市工学部	260,000円	330,000円	390,000円
化学生命工学部	260,000円	330,000円	390,000円

2019年度入学生

学　部	給付金額		
	施行令第２条第１項第１号に該当する者	施行令第２条第１項第２号に該当する者	施行令第２条第１項第３号に該当する者
法学部	100,000円	170,000円	240,000円
文学部	100,000円	170,000円	240,000円
経済学部	100,000円	170,000円	240,000円
商学部	100,000円	170,000円	240,000円
社会学部	100,000円	170,000円	240,000円
政策創造学部	120,000円	190,000円	260,000円
外国語学部	190,000円	260,000円	320,000円
人間健康学部	120,000円	190,000円	260,000円
総合情報学部	190,000円	260,000円	320,000円
社会安全学部	190,000円	260,000円	320,000円
システム理工学部	260,000円	320,000円	390,000円
環境都市工学部	260,000円	320,000円	390,000円
化学生命工学部	260,000円	320,000円	390,000円

2018年度入学生

学　部	給付金額		
	施行令第２条第１項第１号に該当する者	施行令第２条第１項第２号に該当する者	施行令第２条第１項第３号に該当する者
法学部	90,000円	160,000円	230,000円
文学部	90,000円	160,000円	230,000円
経済学部	90,000円	160,000円	230,000円
商学部	90,000円	160,000円	230,000円
社会学部	90,000円	160,000円	230,000円
政策創造学部	110,000円	190,000円	260,000円
外国語学部	180,000円	250,000円	320,000円
人間健康学部	110,000円	190,000円	260,000円
総合情報学部	190,000円	260,000円	320,000円
社会安全学部	190,000円	260,000円	320,000円
システム理工学部	250,000円	320,000円	390,000円
環境都市工学部	250,000円	320,000円	390,000円
化学生命工学部	250,000円	320,000円	390,000円

2017年度入学生

学　部	給付金額		
	施行令第２条第１項第１号に該当する者	施行令第２条第１項第２号に該当する者	施行令第２条第１項第３号に該当する者
法学部	90,000円	160,000円	230,000円
文学部	90,000円	160,000円	230,000円
経済学部	90,000円	160,000円	230,000円
商学部	90,000円	160,000円	230,000円
社会学部	90,000円	160,000円	230,000円
政策創造学部	110,000円	190,000円	260,000円
外国語学部	180,000円	250,000円	320,000円
人間健康学部	110,000円	190,000円	260,000円
総合情報学部	190,000円	260,000円	320,000円
社会安全学部	190,000円	260,000円	320,000円
システム理工学部	250,000円	320,000円	390,000円
環境都市工学部	250,000円	320,000円	390,000円
化学生命工学部	250,000円	320,000円	390,000円

３　関西大学「学の実化」入学前予約採用型給付奨学金

2023年度入学生
（大阪府・兵庫県・京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県の高等学校又は中等教育学校の後期課程出身者）

学　部	給付金額					
	施行令第２条第１項第１号に該当する者		施行令第２条第１項第２号に該当する者		施行令第２条第１項第３号に該当する者	
	2023年度	2024年度以降	2023年度	2024年度以降	2023年度	2024年度以降
法学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
文学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
経済学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
商学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
社会学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
政策創造学部	90,000円	120,000円	180,000円	190,000円	260,000円	260,000円
外国語学部	170,000円	190,000円	250,000円	260,000円	320,000円	320,000円
人間健康学部	100,000円	120,000円	180,000円	200,000円	260,000円	270,000円
総合情報学部	180,000円	200,000円	250,000円	260,000円	320,000円	320,000円
社会安全学部	180,000円	200,000円	250,000円	260,000円	320,000円	320,000円
システム理工学部	240,000円	260,000円	320,000円	330,000円	390,000円	390,000円
環境都市工学部	240,000円	260,000円	320,000円	330,000円	390,000円	390,000円
化学生命工学部	240,000円	260,000円	320,000円	330,000円	390,000円	390,000円

2023年度入学生
（大阪府・兵庫県・京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県以外の高等学校又は中等教育学校の後期課程出身者（日本国外の高等学校は除く））

学部	給付金額					
	施行令第２条第１項第１号に該当する者		施行令第２条第１項第２号に該当する者		施行令第２条第１項第３号に該当する者	
	2023年度	2024年度以降	2023年度	2024年度以降	2023年度	2024年度以降
法学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
文学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
経済学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
商学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
社会学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
政策創造学部	120,000円	160,000円	230,000円	250,000円	330,000円	340,000円
外国語学部	220,000円	240,000円	310,000円	330,000円	400,000円	410,000円
人間健康学部	120,000円	160,000円	230,000円	260,000円	330,000円	350,000円
総合情報学部	230,000円	250,000円	320,000円	330,000円	400,000円	410,000円
社会安全学部	230,000円	250,000円	320,000円	330,000円	400,000円	410,000円
システム理工学部	300,000円	320,000円	390,000円	400,000円	470,000円	480,000円
環境都市工学部	300,000円	320,000円	390,000円	400,000円	470,000円	480,000円
化学生命工学部	300,000円	320,000円	390,000円	400,000円	470,000円	480,000円

2022年度入学生
（大阪府・兵庫県・京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県の高等学校又は中等教育学校の後期課程出身者）

学　部	給付金額					
	施行令第２条第１項第１号に該当する者		施行令第２条第１項第２号に該当する者		施行令第２条第１項第３号に該当する者	
	2022年度	2023年度以降	2022年度	2023年度以降	2022年度	2023年度以降
法学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
文学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
経済学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
商学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
社会学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
政策創造学部	90,000円	120,000円	180,000円	190,000円	260,000円	260,000円
外国語学部	170,000円	190,000円	250,000円	260,000円	320,000円	320,000円
人間健康学部	100,000円	120,000円	180,000円	200,000円	260,000円	270,000円
総合情報学部	180,000円	200,000円	250,000円	260,000円	320,000円	320,000円
社会安全学部	180,000円	200,000円	250,000円	260,000円	320,000円	320,000円
システム理工学部	240,000円	260,000円	320,000円	330,000円	390,000円	390,000円
環境都市工学部	240,000円	260,000円	320,000円	330,000円	390,000円	390,000円
化学生命工学部	240,000円	260,000円	320,000円	330,000円	390,000円	390,000円

2022年度入学生
（大阪府・兵庫県・京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県以外の高等学校又は中等教育学校の後期課程出身者（日本国外の高等学校は除く））

学部	給付金額					
	施行令第２条第１項第１号に該当する者		施行令第２条第１項第２号に該当する者		施行令第２条第１項第３号に該当する者	
	2022年度	2023年度以降	2022年度	2023年度以降	2022年度	2023年度以降
法学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
文学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
経済学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
商学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
社会学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
政策創造学部	120,000円	160,000円	230,000円	250,000円	330,000円	340,000円
外国語学部	220,000円	240,000円	310,000円	330,000円	400,000円	410,000円
人間健康学部	120,000円	160,000円	230,000円	260,000円	330,000円	350,000円
総合情報学部	230,000円	250,000円	320,000円	330,000円	400,000円	410,000円
社会安全学部	230,000円	250,000円	320,000円	330,000円	400,000円	410,000円
システム理工学部	300,000円	320,000円	390,000円	400,000円	470,000円	480,000円
環境都市工学部	300,000円	320,000円	390,000円	400,000円	470,000円	480,000円
化学生命工学部	300,000円	320,000円	390,000円	400,000円	470,000円	480,000円

2021年度入学生
（大阪府・兵庫県・京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県の高等学校又は中等教育学校の後期課程出身者）

学　部	給付金額					
	施行令第２条第１項第１号に該当する者		施行令第２条第１項第２号に該当する者		施行令第２条第１項第３号に該当する者	
	2021年度	2022年度以降	2021年度	2022年度以降	2021年度	2022年度以降
法学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
文学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
経済学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
商学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
社会学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
政策創造学部	90,000円	120,000円	180,000円	190,000円	260,000円	260,000円
外国語学部	170,000円	190,000円	250,000円	260,000円	320,000円	320,000円
人間健康学部	100,000円	120,000円	180,000円	200,000円	260,000円	270,000円
総合情報学部	180,000円	200,000円	250,000円	260,000円	320,000円	320,000円
社会安全学部	180,000円	200,000円	250,000円	260,000円	320,000円	320,000円
システム理工学部	240,000円	260,000円	320,000円	330,000円	390,000円	390,000円
環境都市工学部	240,000円	260,000円	320,000円	330,000円	390,000円	390,000円
化学生命工学部	240,000円	260,000円	320,000円	330,000円	390,000円	390,000円

2021年度入学生
（大阪府・兵庫県・京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県以外の高等学校又は中等教育学校の後期課程出身者（日本国外の高等学校は除く））

学　部	給付金額					
	施行令第２条第１項第１号に該当する者		施行令第２条第１項第２号に該当する者		施行令第２条第１項第３号に該当する者	
	2021年度	2022年度以降	2021年度	2022年度以降	2021年度	2022年度以降
法学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
文学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
経済学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
商学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
社会学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
政策創造学部	120,000円	160,000円	230,000円	250,000円	330,000円	340,000円
外国語学部	220,000円	240,000円	310,000円	330,000円	400,000円	410,000円
人間健康学部	120,000円	160,000円	230,000円	260,000円	330,000円	350,000円
総合情報学部	230,000円	250,000円	320,000円	330,000円	400,000円	410,000円
社会安全学部	230,000円	250,000円	320,000円	330,000円	400,000円	410,000円
システム理工学部	300,000円	320,000円	390,000円	400,000円	470,000円	480,000円
環境都市工学部	300,000円	320,000円	390,000円	400,000円	470,000円	480,000円
化学生命工学部	300,000円	320,000円	390,000円	400,000円	470,000円	480,000円

2020年度入学生
（大阪府・兵庫県・京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県の高等学校又は中等教育学校の後期課程出身者）

学　部	給付金額					
	施行令第２条第１項第１号に該当する者		施行令第２条第１項第２号に該当する者		施行令第２条第１項第３号に該当する者	
	2020年度	2021年度以降	2020年度	2021年度以降	2020年度	2021年度以降
法学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
文学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
経済学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
商学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
社会学部	80,000円	110,000円	160,000円	170,000円	230,000円	240,000円
政策創造学部	90,000円	120,000円	180,000円	190,000円	260,000円	260,000円
外国語学部	170,000円	190,000円	250,000円	260,000円	320,000円	320,000円
人間健康学部	100,000円	120,000円	180,000円	200,000円	260,000円	270,000円
総合情報学部	180,000円	200,000円	250,000円	260,000円	320,000円	320,000円
社会安全学部	180,000円	200,000円	250,000円	260,000円	320,000円	320,000円
システム理工学部	240,000円	260,000円	320,000円	330,000円	390,000円	390,000円
環境都市工学部	240,000円	260,000円	320,000円	330,000円	390,000円	390,000円
化学生命工学部	240,000円	260,000円	320,000円	330,000円	390,000円	390,000円

2020年度入学生
（大阪府・兵庫県・京都府・滋賀県・奈良県・和歌山県以外の高等学校又は中等教育学校の後期課程出身者（日本国外の高等学校は除く））

学　部	給付金額					
	施行令第２条第１項第１号に該当する者		施行令第２条第１項第２号に該当する者		施行令第２条第１項第３号に該当する者	
	2020年度	2021年度以降	2020年度	2021年度以降	2020年度	2021年度以降
法学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
文学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
経済学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
商学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
社会学部	100,000円	140,000円	210,000円	230,000円	310,000円	320,000円
政策創造学部	120,000円	160,000円	230,000円	250,000円	330,000円	340,000円
外国語学部	220,000円	240,000円	310,000円	330,000円	400,000円	410,000円
人間健康学部	120,000円	160,000円	230,000円	260,000円	330,000円	350,000円
総合情報学部	230,000円	250,000円	320,000円	330,000円	400,000円	410,000円
社会安全学部	230,000円	250,000円	320,000円	330,000円	400,000円	410,000円
システム理工学部	300,000円	320,000円	390,000円	400,000円	470,000円	480,000円
環境都市工学部	300,000円	320,000円	390,000円	400,000円	470,000円	480,000円
化学生命工学部	300,000円	320,000円	390,000円	400,000円	470,000円	480,000円

関西大学交通規制に関する規程

制定　昭和43年11月１日

第１章　総　則

（目的）

第１条　この規程は、関西大学千里山キャンパス、高槻キャンパス、高槻ミューズキャンパス、堺キャンパス、梅田キャンパス及び北陽キャンパス（以下「各キャンパス」という。）とその周辺において自動車及び原動機付自転車（以下「自動車」という。）による混雑を緩和し、学内の通行を円滑にするため、自動車の運行を規制し、大学関係者全員が相協力して各キャンパスとその周辺の環境保持及び交通事故の防止に努めることを目的とする。

（規制の原則）

第２条　各キャンパスにおける交通規制は、自動車による通学及び通勤を禁止し、外来者及び出入業者等の自動車の乗入れを大幅に制限することを原則とする。

（通路）

第３条　千里山キャンパスへの進入及び退出は、大学正門前から西に通じる道路（通称：大学前通り）を避けるものとする。

２　千里山キャンパスの大学構内への進入及び退出は、原則として名神高速道路上から３号門を経て進入し、用務終了後は進入した順路を通り３号門を経て名神高速道路上から退出するものとする。

３　高槻キャンパスへの進入及び退出は、東門を使用し、北門は避けるものとする。

４　高槻ミューズキャンパスへの進入及び退出は、北門を使用する。

５　堺キャンパスへの進入及び退出は、西門を使用する。

６　梅田キャンパスへの進入及び退出は、東側出入口を使用する。

７　北陽キャンパスへの進入及び退出は、正門を使用する。

第２章　特別に入構を認める自動車

（入構許可自動車）

第４条　次に定めるものは、許可を得て、入構することができる。

⑴　法人所有の自動車

⑵　病気又は身体障害によって必要と認められた自動車

⑶　関西大学生活協同組合（以下「生協」という。）及び業務委託業者等所有の業務用自動車

⑷　救急車、消防車その他の緊急自動車

⑸　物品運搬のために必要と認められた自動車

⑹　教職員及び学生が機材等の搬出入のために必要と認められた自動車

⑺　緊急を要する用務、疾病者の護送その他の法人、大学、高等学校、中学校、小学校又は幼稚園等（以下「大学等」という。）が特に必要と認めた自動車

（入構許可の種別）

第５条　入構の許可は、通常入構許可と臨時入構許可の２種とする。

⑴　通常入構許可は、前条第１号から第３号までに規定する自動車とし、許可期限つき自動車等入構許可証（以下「入構許可証」という。）を発行する。

⑵　臨時入構許可は、前条第４号から第７号までに規定する自動車とし、原則として臨時自動車等入構許可証（以下「臨時入構許可証」という。）をその都度発行する。

（通常入構許可）

第６条　通常入構を必要とする第４条第２号に規定する者は、所定の手続を経て、許可を受けるものとする。

（臨時入構許可）

第７条　臨時入構を必要とする者は、所定の手続を経て、許可を受けるものとする。

２　第５条第２号に規定する臨時入構の許可は、高等学校、中学校、小学校及び幼稚園においては、校長又は園長が行うものとする。

３　臨時入構を許可された自動車は、退出の際には必ず臨時入構許可証を返さなければならない。

（入構車の駐車）

第８条　入構を許可された自動車は、各キャンパス所定の駐車場に駐車するものとする。

（入構者心得）

第９条　入構を許可された者は、次の事項を守らなければならない。

⑴　入構車は、警備詰所で一旦停車し、係員に入構許可証を提示する。

⑵　自動車の前面ガラスその他の車外から許可内容を容易に認め得る箇所に入構許可証を掲げる。

⑶　運行速度は、時速10キロメートル以内とする。

⑷　歩行者の障害にならないよう注意する。

⑸　騒音防止に留意する。

⑹　その他係員の指示に従う。

２　高等学校、中学校、小学校及び幼稚園への入構者については、前項第１号及び第２号の規定にかかわらず、校長又は園長の指示に従うものとする。

（駐車料金）

第10条　千里山キャンパスへの自動車入構に伴う駐車料金については、別に定める。

２　前条の駐車料金を支払い、入構する自動車については、第５条から第７条まで並びに前条第１号及び第２号に規定する手続を省略できるものとする。

（臨時入構特別規制）

第11条　大学等において特に必要ある場合は、臨時に別の交通規制を行う。

附　則

この規程は、昭和43年12月１日から施行する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2021年４月１日から施行する。

遺失・拾得物等に関する取扱要領

制定　昭和48年４月１日
昭和48年度通達（学生第560号）

1　適用範囲

関西大学（以下「本学」という。）構内において発生した遺失物及び拾得物については、この要領による。

2　遺失物の届出

遺失物については、本人から所定の届を千里山キャンパスは学生生活支援グループ、高槻キャンパスは高槻キャンパス事務グループ、高槻ミューズキャンパスは高槻ミューズキャンパス事務グループ、堺キャンパスは堺キャンパス事務室、南千里国際プラザは国際プラザグループ（以下「所管窓口」という。）に提出しなければならない。なお、この届の有効期間は、届出日から３カ月間とする。

3　拾得物の届出

⑴　本学構内で拾得した物品、金銭などについては最寄りの事務室（教務センター、図書館、学生センター、正門インフォメーション、キャリアセンター及び南千里国際プラザ）に本人が拾得物届（用紙は、各事務室に備付け）を添えて拾得後24時間以内に届け出なければならない。ただし、拾得者が24時間経過後届け出た場合は、報労金等拾得物に関する権利を失う。

⑵　各事務室に届け出られた拾得物については、事務室において確認ののち拾得届出者に拾得物預り証を交付する。

⑶　各事務室において受理した拾得物は、受理日の翌日午前中に拾得物届を添付の上、所管窓口に回付する。ただし、記名等によって渡し先の明らかなものは、受理した事務室で処理するものとする。

4　拾得物の公示

所管窓口に回付された拾得物は、千里山キャンパスにおいては凜風館掲示板、高槻キャンパス及び堺キャンパスにおいては学部掲示板、高槻ミューズキャンパスにおいてはミューズオフィス掲示板、南千里国際プラザにおいては国際プラザ事務室内に公示する。なお、公示期間は、回付された翌日から３日間とする。

5　遺失物の引渡し

遺失者に遺失物を引き渡すときは、その特徴、内容その他参考となるべき事項を指摘させ正当な権利者であることを確認した後、本人に引き渡すものとする。この場合、遺失者は、遺失物台帳に必要事項を記入するものとする。なお、遺失者は拾得者に対して遺失物法（平成18年法律第73号）により物件価格の５/100～20/100の範囲で報労金を渡さなければならない。

6　法定の届出

公示期間が過ぎても遺失者が判明しない物件については、遺失物法に基づき大学から所轄警察署長に届け出るものとする。

7　遺失物の処分

⑴　上記６により所轄警察署に届け出た物件は、公告期間14日間終了後３カ月を過ぎると拾得者がその所有権を取得することになるので、拾得物預り証を所轄警察署に提出し、拾得物を受領するものとする。

⑵　遺失物法によって取り扱われない物件については、公示の日から起算して３カ月間本学に保管し、その後本学において処分するものとする。

附　則

この要領は、昭和48年４月１日から施行する。

（省略）

附　則

この要領（改正）は、2019年10月１日から施行する。

学　生　規　程

制定　昭和39年７月１日

（学内秩序保持等）

第１条　学生は、健全なる自治活動に努めるものとする。

第２条　学生が、大学又は法人に対する希望、意見等を申し出る場合は、それぞれの機関を通じて行わなければならない。

（学生証）

第３条　学生は、入学と同時に大学から学生証の交付を受け、これを携帯し、本学教職員の請求があったときは、必ず提示しなければならない。

第４条　学生証は、卒業・退学・除籍の場合又はその有効期間を経過したときは、直ちに千里山キャンパスは教務事務グループ、高槻キャンパスは高槻キャンパス事務グループ、高槻ミューズキャンパスは高槻ミューズキャンパス事務グループ、堺キャンパスは堺キャンパス事務室（以下「所管窓口１」という。）に返納しなければならない。

第５条　学生証を紛失したときは、直ちに所管窓口１に届け出て、再交付を受けなければならない。

（保証人の住居変更）

第６条　学生は、入学後自己又は保証人の住居に変更が生じたときは、直ちに所管窓口１に届け出なければならない。

（団体及び集会）

第７条　学生は、団体を結成しようとするときは、所定の手続をし千里山キャンパスは学生生活支援グループ、高槻キャンパスは高槻キャンパス事務グループ、高槻ミューズキャンパスは高槻ミューズキャンパス事務グループ、堺キャンパスは堺キャンパス事務室（以下「所管窓口２」という。）に届け出なければならない。

２　団体の規約・会則その他の届出事項に変更が生じたとき、又は解散をしたときは、直ちに所管窓口２に届け出なければならない。

３　各団体の名簿は、毎年６月末までに提出しなければならない。

第８条　学生は、学内外において集会又は対外試合を催すときは、所定の様式に従ってその届を所管窓口２に出さなければならない。

２　届は、３日前とし、休講を要するものは１週間前に提出しなければならない。ただし、緊急の場合の届出は、この限りでない。

第９条　学生は、本学の学生、教職員又は一般人を対象として金銭の収受を伴う行為をするときは、所管窓口２に届け出て認可を受けなければならない。

第10条　学生は、本学の学生を対象として印刷物（ビラ等）の配布又は拡声器の使用等をするときは、所管窓口２に届け出なければならない。

附　則

この規程は、昭和39年７月１日から施行する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2019年10月１日から施行する。

関西大学学生懲戒処分規程

制定　平成19年５月10日

第１章　総　則

（趣旨）

第１条　この規程は、関西大学学則第40条、関西大学大学院学則第85条、関西大学大学院法務研究科（法科大学院）学則第51条、関西大学大学院会計研究科（専門職大学院）学則第51条及び関西大学留学生別科規程第26条に規定する学生の懲戒処分に関し必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第２条　この規程において「学生」とは、関西大学（以下「本学」という。）に在籍する学部学生、大学院学生、留学生別科の学生及び科目等履修生等をいう。

２　この規程において「学部等」とは、学部及び研究科をいう。

３　この規程において「学部長等」とは、学部長及び研究科長をいう。

４　この規程において「教授会等」とは、学部、法務研究科及び会計研究科の教授会並びに研究科委員会をいう。

５　前３項の規定にかかわらず、関西大学留学生別科規程第26条に規定する学生の懲戒処分の場合は、「学部等」を「留学生別科」と、「学部長等」を「国際教育センター長」と、「教授会等」を「国際教育センター委員会」と読み替える。

第２章　懲戒事由及び懲戒処分の種類

（懲戒事由）

第３条　懲戒処分は、次の各号のいずれかに該当する学生の本分に反する行為をなした者（以下「処分対象者」という。）について行うことができる。

⑴　犯罪行為

⑵　著しく人権を侵害する行為

⑶　本学の規程に反する行為

⑷　その他著しく社会的に非難されるべき行為

（懲戒処分の種類）

第４条　懲戒処分の種類は、次のとおりとする。

⑴　譴責　大学の教育的意思表示として書面により戒めるもの

⑵　停学　登校を停止し、自宅での謹慎を命じるもの

⑶　退学　本学学生としての身分を剥奪するもの

（譴責）

第５条　譴責は、学部長等が行う。

（停学）

第６条　停学は、無期停学又は６カ月未満の有期停学とする。

２　停学期間は、在学期間に含め、修業年限に含めないものとする。ただし、停学期間が２カ月未満の短期の場合は、この間の教育指導に基づき修業年限に算入することができる。

３　停学期間の開始日は、教授会等が決定した日とする。

４　停学期間中は、授業等への出席を停止するほか、課外活動等への参加、大学施設の使用を禁止する。ただし、学部長等が教育指導上必要と認めたときは、この限りでない。

５　学部長等は、無期停学処分を受けた学生について、その反省の程度、学習意欲等を総合的に判断して、その処分を解除することが適当であると認めるときは、学長と協議の上、教授会等の議を経て、処分を解除できる。

６　無期停学の解除は、処分の開始日から６カ月以上経過しなければ行うことができない。

（退学）

第７条　退学は、関西大学学則第41条、関西大学大学院学則第85条第３項、関西大学大学院法務研究科（法科大学院）学則第51条第３項、関西大学大学院会計研究科（専門職大学院）学則第51条第３項及び関西大学留学生別科規程第27条に掲げる者について行う。

２　学部長等は、処分対象者から、懲戒処分の決定前に自主退学の申出があった場合、懲戒処分が決定するまでこの申出を受理してはならない。

３　懲戒処分の決定後に自主退学の申出があった場合でも、懲戒処分の内容が退学であったときは、関西大学学則第40条、関西大学大学院学則第85条第２項、関西大学法務研究科（法科大学院）学則第51条第２項、関西大学大学院会計研究科（専門職大学院）学則第51条第２項及び関西大学留学生別科規程第26条の規定による退学とし、本学の全ての学部等への再入学を認めないものとする。

（謹慎の措置）

第８条　学部長等は、学生の行為が明らかに懲戒処分に該当すると判断した場合は、懲戒処分決定前に、２カ月を超えない範囲で、当該学生に対し、謹慎を命ずることができる。

２　前項の謹慎期間中は、第６条第４項の規定を準用する。

３　謹慎期間は、停学期間に算入することができるものとする。

第３章　懲戒処分手続

（懲戒処分手続）

第９条　学部長等は、懲戒事由に当たる行為があったことを知り得たときは、遅滞なく事実確認及び当該学生に対する事情聴取を行い、懲戒処分が相当と判断した場合は、学長と協議の上、次項に従って、懲戒処分手続を選択する。

２　懲戒処分手続は、単独の学部等の学生が関与する懲戒処分対象行為については、当該学生の所属学部等の教授会等が事案を調査の上、審議、決定し、複数の学部等の学生が関与している事案については、第11条の懲戒調査委員会が事案を調査し、処分に理由及び必要性があると判断した場合には、処分内容を提案し、その後、関係学部等の教授会等において処分を審議、決定する。

３　学部等における事実確認、事情聴取に基づく懲戒対象行為の認定手続は、当該学部等で定める手続に従い、学部長等の責任において適正に行う。

４　学部等が懲戒対象行為に関する事実認定及び事情聴取を行うに当たっては、事前に当該学生に被疑事実の要旨を告知し、口頭による弁明の機会を与えなければならない。ただし、当該学生が心身の故障、身柄の拘束、長期の旅行その他の事由により口頭による弁明ができないときは、文書をもって代えることができる。

５　調査に際し、学生に事情聴取を行う場合は、学生の要請があれば、学生を補佐する教員等を同席させることができる。

６　第３条に定める懲戒事由のうちハラスメントに該当する懲戒処分手続に係る事実関係の調査等は、関西大学ハラスメント防止に関する規程に定める手続によるものとする。

（逮捕・勾留された場合等の処分手続）

第10条　学部長等は、次の各号のいずれかに当たり、迅速な処分が必要と判断される場合には、事情聴取の手続を経ずに、懲戒処分手続を進めることができる。

⑴　学生が逮捕・勾留され、学生の身柄拘束が長期に及び接見不可能な場合

⑵　学生が逃走中又は所在不明の場合

⑶　被疑事実が重大かつ明白であり、当該学生が罪状を認めている場合

第４章　複数の学部等に係る処分手続

（懲戒調査委員会の設置）

第11条　複数の学部等の学生が関与している懲戒対象行為については、当該学部長等からの要請により、学長は、速やかに懲戒調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

２　委員会は、次の者をもって構成する。

⑴　副学長のうち１名

⑵　学生センター所長

⑶　学長が指名する教育職員５名（両性で構成する。）

３　委員会に委員長を置き、前項第１号に規定する者をもって充てる。

４　委員に欠員が生じたときは、学長は、速やかに後任の委員を補充しなければならない。

５　委員会は、委員長が招集し、議長となる。

６　委員会は、全委員の出席をもって成立し、議事は５名以上の委員の賛同をもって決する。

７　委員長は、必要がある場合には、委員会の承認を得た上で、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

８　委員会は、懲戒事由に該当する行為の内容、結果、影響等を総合的に検討し、１カ月以内に調査を完了し、その調査内容を処分の提案を添えて学長に文書で報告しなければならない。ただし、

特段の事由が生じた場合は、更に１カ月延長することができる。
9　その他懲戒処分手続については、第９条第４項及び第５項の規定を準用する。この場合において、「学部等」は「委員会」に読み替える。

（懲戒処分の決定）

第12条　学長は、委員会から調査結果の報告を受けたときは、直ちに当該学部長等に、報告書を添付の上、文書で伝達するものとする。
2　学長からの伝達を受けた学部長等は、委員会から必要な資料を引き継いだ上、教授会等における審議に付し、教授会等は、報告書に基づき、懲戒処分を決定する。この場合において、学部等の教授会等における審議の際には、第９条第４項及び第５項の手続を省略することができる。

第５章　不服申立手続

（不服申立手続）

第13条　懲戒処分を受けた学生は、処分の通知を受けた日から30日以内にその処分に対する不服申立てをすることができる。
2　不服申立書には、不服理由を記載して、処分をした教授会等に提出する。
3　教授会等は、処分の理由を示す資料、教授会議事録とともに、不服申立書を不服審査委員会に送付する。
4　不服審査委員会は、次の者をもって構成する。
⑴　副学長（第11条第２項第１号に規定する副学長を除く。）
⑵　学長が指名する弁護士１名
⑶　学長が指名する教育職員で、懲戒処分を受けた学生の所属する学部等に属しない者２名（両性で構成する。）
5　不服審査委員会は副学長が委員長を務め、議事は多数決で決する。
6　不服審査委員会は、教授会等から提出された資料のほか、必要に応じ事実を調査することができる。
7　不服申立てをした学生は、自ら意見を述べ、又は資料を提出することができる。ただし、本人が出席できないなど特別の事情がある場合は、代理人をたてることができる。
8　不服審査委員会は、処分を相当とする場合は、不服申立てを却下し、処分が相当でないとする場合は処分を取り消し、又は変更する。この場合において、不服審査委員会は、懲戒処分を重く変更することができない。
9　前項の決定は、不服申立人に通知したときに効力を生じる。

第６章　処分の通知及び告示

（懲戒処分の通知及び告示）

第14条　学部長等は、懲戒処分を決定したときは、原則として、懲戒の原因たる事実、決定された処分の内容及びその理由を記載した文書を作成し、被処分者に通知し、これを告示する。
2　成績証明書その他の学生の修学状況に関する文書には、原則として懲戒処分を受けた旨の記載は行わないものとする。

第７章　守秘義務

（守秘義務）

第15条　懲戒処分手続に関与した者は、任期中及び退任後、学生の名誉とプライバシーを侵害することのないよう、慎重に行動するとともに、任務において知り得た事項を、正当な理由なく他に漏らしたり、私事に利用してはならない。

第８章　雑　則

（事務）

第16条　この規程に関する事務は、学部等に関しては学部・大学院事務グループ、高槻キャンパス事務グループ、高槻ミューズキャンパス事務グループ、堺キャンパス事務室及び国際プラザグループが、委員会及び不服審査委員会に関しては学長課が行う。

（補則）

第17条　この規程に定めるもののほか、懲戒処分の実施に必要な事項は、別に定める。

附　則

この規程は、平成19年５月10日から施行する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2022年４月１日から施行する。

関西大学誠之館規程

制定　昭和37年４月１日

（目的）

第１条　関西大学誠之館（以下「会館」という。）は、学生相互及び学生、教職員、校友等の間の人間関係を緊密にして学生の教養をゆたかにするとともに、学生、教職員等の福祉を増進することを目的とする。

（職員）

第２条　会館に次の職員を置く。
⑴　館長　学生センター所長をもって充てる。
⑵　次長　学生サービス事務局次長をもって充てる。
⑶　主幹　学生生活支援グループ長及びスポーツ振興グループ長をもって充てる。
⑷　館員　若干名

（職務）

第３条　館長は、会館の事務を統括する。
2　次長は、館長を助け、館長に事故があるときは、その職務を代行する。
3　主幹は、上司の命を受け、会館の事務を掌理する。
4　館員は、上司の命を受け、会館の事務に従事する。

（会館委員会）

第４条　会館の管理運営の基本的な事項を審議するため、会館委員会を置く。
2　会館委員会は、次の者をもって組織する。
⑴　学　長
⑵　学生センター所長
⑶　学部長
⑷　総務局長
⑸　財務局長
⑹　学生サービス事務局長
⑺　学生サービス事務局次長
3　会館委員会の委員長は、学長をもって充てる。
4　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

第５条　会館委員会の事務は、学生生活支援グループが行う。

第６条　会館委員会は、委員長が必要があると認めたとき招集する。

（運営委員会）

第７条　会館の運営を円滑にするため、運営委員会を設ける。
2　運営委員会は、次の者をもって組織する。
⑴　学生センター所長
⑵　学生センター副所長
⑶　学生サービス事務局長
⑷　学生サービス事務局次長
⑸　学生生活支援グループ長
⑹　スポーツ振興グループ長

（使用）

第８条　会館は、次の用途に使用する。
⑴　大学の行事
⑵　学生及び教職員の集会、レクリエーション並びに福祉
⑶　学生の課外活動
⑷　校友の主催する集会
⑸　学会、講演会等の開催
⑹　その他会館委員会において必要と認めた事業

（細則）

第９条　この規程に定めるもののほか、会館の管理運営に関し必要な事項は、細則で定める。

附　則

この規程は、昭和37年４月１日から施行する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2019年10月１日から施行する。

関西大学総合学生会館メディアパーク凜風館・KUシンフォニーホール使用細則

制定　平成18年３月２日

（趣旨）

第１条　この細則は、関西大学総合学生会館メディアパーク凜風館・KUシンフォニーホール管理規程第８条の規定に基づき、関西大学総合学生会館メディアパーク凜風館（以下「凜風館」という。）及びKUシンフォニーホール（以下「シンフォニーホール」という。）の使用に関して必要な事項を定めるものとする。

（管理）

第２条　凜風館及びシンフォニーホールの使用管理は、学生生活支援グループの所管とする。

（施設）

第３条　凜風館の施設の名称は、次のとおりとする。

⑴　学生ラウンジ
⑵　食堂
⑶　購買店エリア
⑷　ミーティングルーム（１、２）
⑸　会議室（１、２）
⑹　和室（１、２）
⑺　小ホール

（用途）

第４条　凜風館及びシンフォニーホールの施設は、次の用途に使用する。

⑴　学生のキャンパスライフ全般にわたる支援活動
⑵　学生の課外活動
⑶　学校法人関西大学の関係する行事
⑷　学生と近隣住民との交歓・交流行事
⑸　その他凜風館・シンフォニーホール委員会が必要と認めた事業

（期間及び時間）

第５条　使用期間及び時間は、原則として次のとおりとする。

⑴　使用期間は、１月７日から８月10日まで及び８月21日から12月25日までとする。
⑵　使用時間は、９時から20時まで（日曜、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日及び大学の記念日は９時から17時まで）とし、時間を延長する必要がある場合は、管理責任者の許可を得なければならない。

２　前項の規定にかかわらず、管理責任者が特に必要と認める場合は、使用期間及び使用時間を変更することがある。

（使用の申込み）

第６条　凜風館及びシンフォニーホールの施設を使用するときは、使用の目的、日時、予定人数等を所定の様式に記入の上、学生生活支援グループに申し込み、管理責任者の使用許可を得なければならない。

（使用の変更等）

第７条　凜風館及びシンフォニーホールの各施設の使用許可を受けた者が、使用について変更又は取消しをするときは、事前にその旨を管理責任者に申し出なければならない。

（使用料）

第８条　使用料の扱いは、次のとおりとする。

⑴　第４条第１号から第４号までに規定する使用は、無料とする。
⑵　第４条第５号に規定する用途による使用は原則として有料とし、使用料の額は別に定める。

（遵守事項）

第９条　使用者は、次の事項を遵守しなければならない。

⑴　目的外の使用をしないこと。
⑵　施設、設備、備品等を破損しないこと。
⑶　決められた場所以外での喫煙又は飲食をしないこと。
⑷　秩序又は風紀を乱す行為をしないこと。
⑸　使用者は、その使用が終わったとき、又はその使用を中止したときは、使用場所を原状に復して返還すること。

２　使用者が前項各号のいずれかに違反したときは、管理責任者は、その使用許可を取り消し、又は退出を命じることができる。

（損害賠償）

第10条　使用者は、施設、設備、備品等を破損又は汚損したときは、その損害を賠償しなければならない。

附　則

この細則は、平成18年３月１日から施行する。

（省略）

附　則

この細則（改正）は、2019年10月１日から施行する。

関西大学体育施設使用規程

制定　平成26年12月11日

（趣旨）

第１条　この規程は、学校法人関西大学体育施設管理運営規程に基づき、関西大学（以下「本学」という。）の体育施設の使用に関して必要な事項を定めるものとする。

（対象）

第２条　この規程における体育施設とは、次に掲げる施設をいう。

⑴　千里山キャンパス
- ア　千里山中央グラウンド
- イ　KAISERS BASEBALL FIELD
- ウ　千里山北広場
- エ　千里山中央体育館
- オ　千里山東体育館
- カ　誠之館５号館（凱風館）
- キ　誠之館７号館（新凱風館）
- ク　誠之館８号館（養心館）
- ケ　第４学舎３号館屋内グラウンド
- コ　第４学舎３号館空中テニスコート
- サ　ソフトテニスコート
- シ　弓道場
- ス　100周年記念会館室内温水プール

⑵　高槻キャンパス
- ア　第１グラウンド
- イ　第２グラウンド
- ウ　第３グラウンド
- エ　ゴルフ練習場
- オ　テニスコート
- カ　多目的コート
- キ　G棟（体育館）
- ク　馬場

⑶　堺キャンパス
- ア　体育館（格技・実習教室、アリーナ）
- イ　プール

（使用）

第３条　体育施設は、次の用途に使用する。

⑴　大学の行事
⑵　正課体育授業
⑶　課外体育活動
⑷　併設校の課外体育活動
⑸　関西大学施設貸与規程に定める学外団体への貸与
⑹　その他の課外団体の活動
⑺　本学学生及び教職員の体育活動
⑻　その他、学校法人関西大学体育施設運営協議会規程に規定する学校法人関西大学体育施設運営協議会（以下「運営協議会」という。）において、特に体育施設の使用を適当と認める活動

２　施設利用の優先順位は、前項各号の記載順によるものとする。ただし、運営協議会において認めた場合は、この限りでない。

（使用休止日）

第４条　体育施設の使用休止日は、次のとおりとする。

⑴　日曜日
⑵　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
⑶　大学の昇格記念日及び創立記念日
⑷　夏季及び冬季休業期間
- ア　８月11日から８月20日まで
- イ　12月26日から翌年１月６日まで

⑸　その他運営協議会が定めた日及び期間

２　前項の規定にかかわらず、管理責任者が必要と認めたときは、使用休止日を変更することがある。

（使用時間）

第５条　体育施設の使用時間は、次のとおりとする。

⑴　第２条第１号に規定する体育施設
- ア　屋外施設
  午前９時から午後８時までとする。
- イ　屋内施設
  午前９時から午後10時までとする。

⑵　第２条第２号に規定する体育施設
- ア　屋外施設
  午前９時から午後９時までとする。
- イ　屋内施設
  午前９時から午後５時までとする。

⑶　第２条第３号に規定する体育施設
- ア　屋外施設及び屋内施設
  午前９時から午後７時30分までとする。

２　前項の規定にかかわらず、管理責任者が必要と認めたときは、使用時間の一部を変更することができる。

３　課外体育活動の本学の授業期間中における体育施設の使用可能時間は、原則として午後２時30分以降とする。ただし、正課体育実技の授業に差し支えないときは、この限りでない。

（使用許可）

第６条　体育施設の使用については、所定の手続に従って許可を受けなければならない。

なお、必要な場合は、運営協議会においてその使用の可否を協議することができる。

２　使用許可申請に関する事務取扱は、別表による。

（目的外の使用及び転貸の禁止）

第７条　体育施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、許可を受けた目的以外に使用したり、又は他の者にその全部若しくは一部を転貸してはならない。

（使用者の遵守義務）

第８条　使用者は、次の事項を遵守しなければならない。

⑴　体育施設内の設備を無断で変更して使用したり、又は備品及び用具を無断で使用してはならない。
⑵　体育施設内においては、喫煙又は飲食してはならない。
⑶　使用者は、品位を旨とし、清潔及び整頓に協力し、特に火気や盗難に注意しなければならない。
⑷　使用者は、その使用を終えたとき、又はその使用を停止されたときは、必ず使用場所を原状に復して返還しなければならない。

（使用条件の変更又は使用許可の取消し）

第９条　管理責任者は、次の各号のいずれかに該当するときは、使用条件を変更し、又は使用許可を取り消すことができる。

⑴　緊急の必要が生じたとき。
⑵　施設の維持管理上必要が生じたとき。
⑶　使用目的及び許可の条件に違反すると認めたとき。
⑷　使用者の遵守義務に著しく違反すると認めたとき。

２　大学は、前項各号の場合に使用者が受けた損害につき、補償の責めを負わない。

（損害補填）

第10条　使用者は、施設及び備品を破損又は滅失したときは、原状を回復又は損害を賠償しなければならない。

附　則

１　この規程は、平成26年12月11日から施行する。
２　関西大学体育館規程（昭和44年３月29日制定）は、廃止する。
３　関西大学室内温水プール規程（平成元年７月14日制定）は、廃止する。

（省略）

附　則

この規程（改正）は、2021年４月１日から施行する。

別表（第６条関係）

キャンパス名	体育施設名	使用許可申請に関する事務取扱
(1)　千里山キャンパス	ア　千里山中央グラウンド	スポーツ振興グループ
	イ　KAISERS BASEBALL FIELD	
	ウ　千里山北広場	
	エ　千里山中央体育館	
	オ　千里山東体育館	
	カ　誠之館５号館（凱風館）	
	キ　誠之館７号館（新凱風館）	
	ク　誠之館８号館（養心館）	
	ケ　第４学舎３号館屋内グラウンド	
	コ　第４学舎３号館空中テニスコート	
	サ　ソフトテニスコート	
	シ　弓道場	
	ス　100周年記念会館室内温水プール	
(2)　高槻キャンパス	ア　第１グラウンド	高槻キャンパス事務チーム スポーツ振興グループ
	イ　第２グラウンド	
	ウ　第３グラウンド	
	エ　ゴルフ練習場	
	オ　テニスコート	
	カ　多目的コート	
	キ　G棟（体育館）	
	ク　馬場	スポーツ振興グループ
(3)　堺キャンパス	ア　体育館（格技・実習教室、アリーナ）	堺キャンパス事務室 スポーツ振興グループ
	イ　プール	

関西大学たかつきアイスアリーナ使用細則

制定　平成18年６月22日

（趣旨）

第１条　この細則は、関西大学たかつきアイスアリーナ管理規程第８条の規定に基づき、関西大学たかつきアイスアリーナ（以下「アイスアリーナ」という。）の使用に関して必要な事項を定めるものとする。

（使用）

第２条　アイスアリーナの使用は、次のとおりとする。

(1)　大学の行事

(2)　正課体育

(3)　課外活動

(4)　学生、生徒、児童、教職員等大学関係者の活動

(5)　高槻市民をはじめとする地域住民を対象とした行事

(6)　その他アイスアリーナ委員会が、特にアイスアリーナの使用を適当と認めるスポーツ活動

（使用時間）

第３条　アイスアリーナの使用時間は、原則として午前９時から午後10時までとする。

２　前項の規定にかかわらず、管理責任者が特に必要と認める場合は、使用時間を変更することができる。

（休館日）

第４条　アイスアリーナの休館日は、別に定める。

２　管理責任者が特に必要と認める場合は、休館日の使用を許可することができる。

（使用許可）

第５条　アイスアリーナの使用は、所定の手続により許可を受けなければならない。

（使用料）

第６条　アイスアリーナの使用料の扱いは、次のとおりとする。

(1)　第２条第１号及び第２号に規定する使用は、無料とする。

(2)　第２条第３号から第６号までに規定する使用は原則として有料とし、使用料の額は別に定める。

（取消し又は変更時の使用料の取扱い）

第７条　アイスアリーナの貸与を受けて使用する者（以下「使用者」という。）が、使用開始日の６日前から前日までに貸与の申込みを取り消した場合は、貸与許可時の使用料金の２分の１を、当日に取り消した場合は、使用料金の全額を支払わなければならない。

（目的外の使用及び転貸の禁止）

第８条　使用者は、許可を受けた目的以外に使用したり、又は他の者にその全部若しくは一部を転貸してはならない。

（使用者の遵守義務）

第９条　使用者は、次の事項を遵守しなければならない。

(1)　アイスアリーナの設備を無断で変更して使用したり、又は備品及び用具を無断で使用してはならない。

(2)　アイスアリーナにおいては、館内全面禁煙とする。また、所定の場所以外で飲食してはならない。

(3)　使用者は、品位を旨とし、清潔及び整頓に協力し、特に火気や盗難に注意しなければならない。

(4)　使用者は、その使用を終えたとき、又はその使用を停止されたときは、必ず使用場所を原状に復して返還しなければならない。

（使用許可の取消し）

第10条　次の各号のいずれかに該当する場合は、使用許可を取り消すことがある。

(1)　施設の維持管理上必要が生じたとき。

(2)　使用目的及び許可の条件に違反すると認めたとき。

(3)　使用者の遵守義務に著しく違反すると認めたとき。

（損害賠償）

第11条　使用者が、施設及び備品を破損又は滅失したときは、原状を回復又は損害を賠償しなければならない。

（責任の免除）

第12条　関西大学は、アイスアリーナ、駐車場等、高槻キャンパス構内における事故・傷害・盗難について、一切の責任を負わない。

附　則

この細則は、平成18年６月22日から施行する。

（省略）

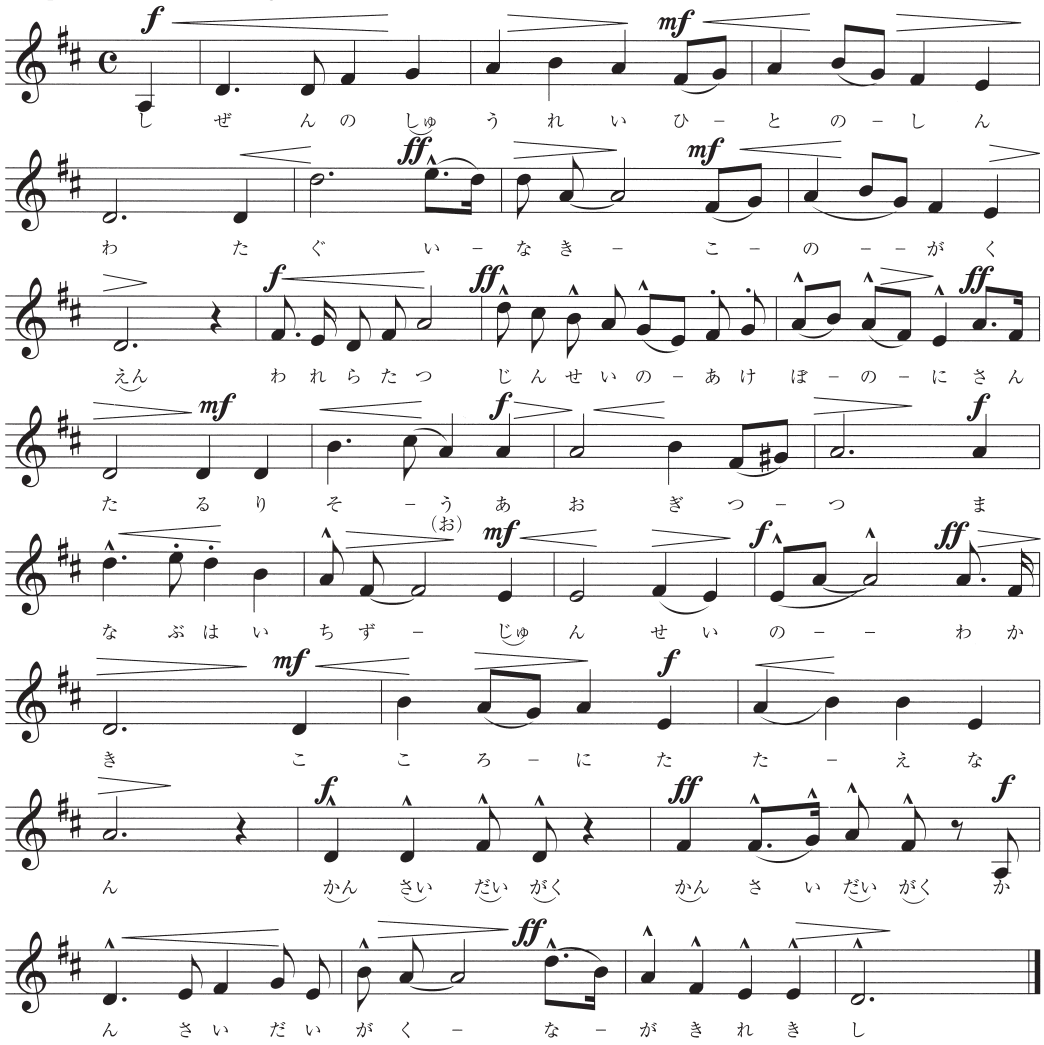
附　則

この細則（改正）は、2019年10月１日から施行する。

学　　歌

服部嘉香　作詞
山田耕筰　作曲

Tempo di Marcia molto energico ben marcato



学　歌

(一)
自然の秀麗　人の親和
たぐいなき　此の学園
我等立つ　人生の曙に
燦たる理想　仰ぎつつ
学ぶは一途　純正の
若き心に　讃えなん
関西大学　関西大学
関西大学　長き歴史

(二)
真理の討究　学の実化
たぐいなき　此の学園
我等有つ　潑剌の精神に
栄ある文化　創るべく
励むは一途　研鑽の
日々を楽しみ　忘れまじ
関西大学　関西大学
関西大学　重き使命

(三)
自由の尊重　自治の訓練
たぐいなき　此の学園
我等期す　人格の向上に
正義の奉仕　世に為すと
希うは一途　先進の
歩みさだかに　伝えばや
関西大学　関西大学
関西大学　高き権威

学　歌

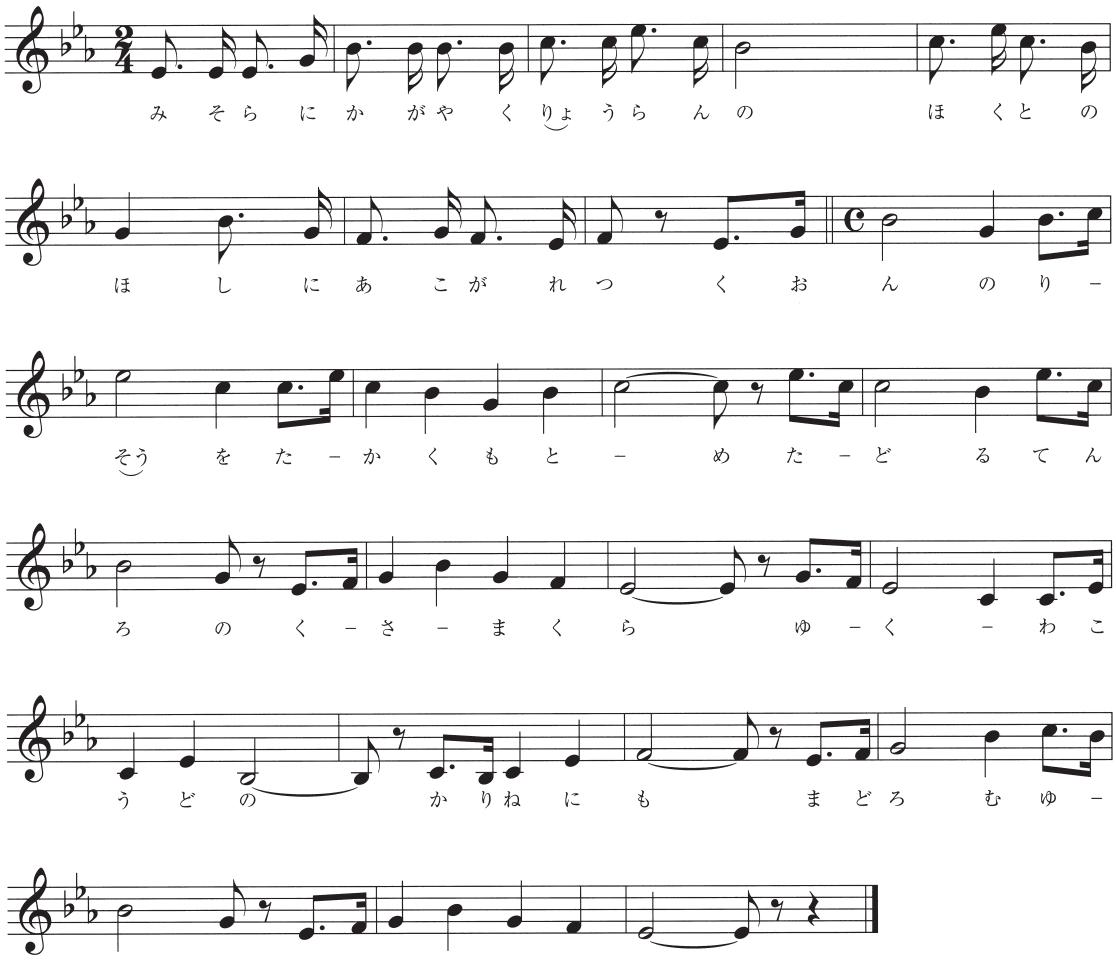
「自然の秀麗　人の親和…」で始まる学歌は、1922（大正11）年９月、関西大学が大学令による大学に昇格した後に制定された。校歌はすでにあったが、時の総理事山岡順太郎が提唱する「学の実化」をうけて、新時代の学歌が待望されていた。本学教授服部嘉香が作詞し、服部の知人で作曲界の異才山田耕筰が作曲した。その後、山田耕筰は、歌唱上の制約から第３節の「自由の訓練　自治の発揮」を「自由の尊重　自治の訓練」と、また第２節の「学の実化」をじつげと歌うように指導した。それから今日に至るまで、その歌詞で歌い継がれている。

関西大学学歌は、理想に向かって歩む学生の意気を力強く歌い上げており、山田耕筰によるニ長調のメロディは、荘重にして高い格調で歌われるすばらしい学歌といえる。

この学歌の完成後、作曲した山田がわざわざ歌唱指導に来学した際に、マーチのごときテンポで、力強く、明瞭に、そして歯切れよく歌うように指導している。

学　生　歌

浪江源治　作詞
中村良之助　作曲



学生歌

(一)
御空に輝く撩爛の
北斗の星に憧憬れつ
久遠の理想を高く求め
辿る天路の草枕
行く若人の仮寝にも
円む夢の清き哉

(二)
紺碧深き海洋の
底方に知れず秘められし
幾十の宝捜すべく
腕鉄の丈夫が
丈余の櫓櫂舵取りて
今し舟出の朝ぼらけ

(三)
空に瞬く夕星の
さやけき光仰ぎみつ
いざ高誦さん精進の
自学の曲も朗かに
歌う歌人の胸底に
若き命の響あり

(四)
若き海士の背夕陽あび
月苫の上に傾きて
暮るればゆらぐ漁火の
友の燈と手を取りて
語り交しつすなどりの
今宵愬わん自治の島

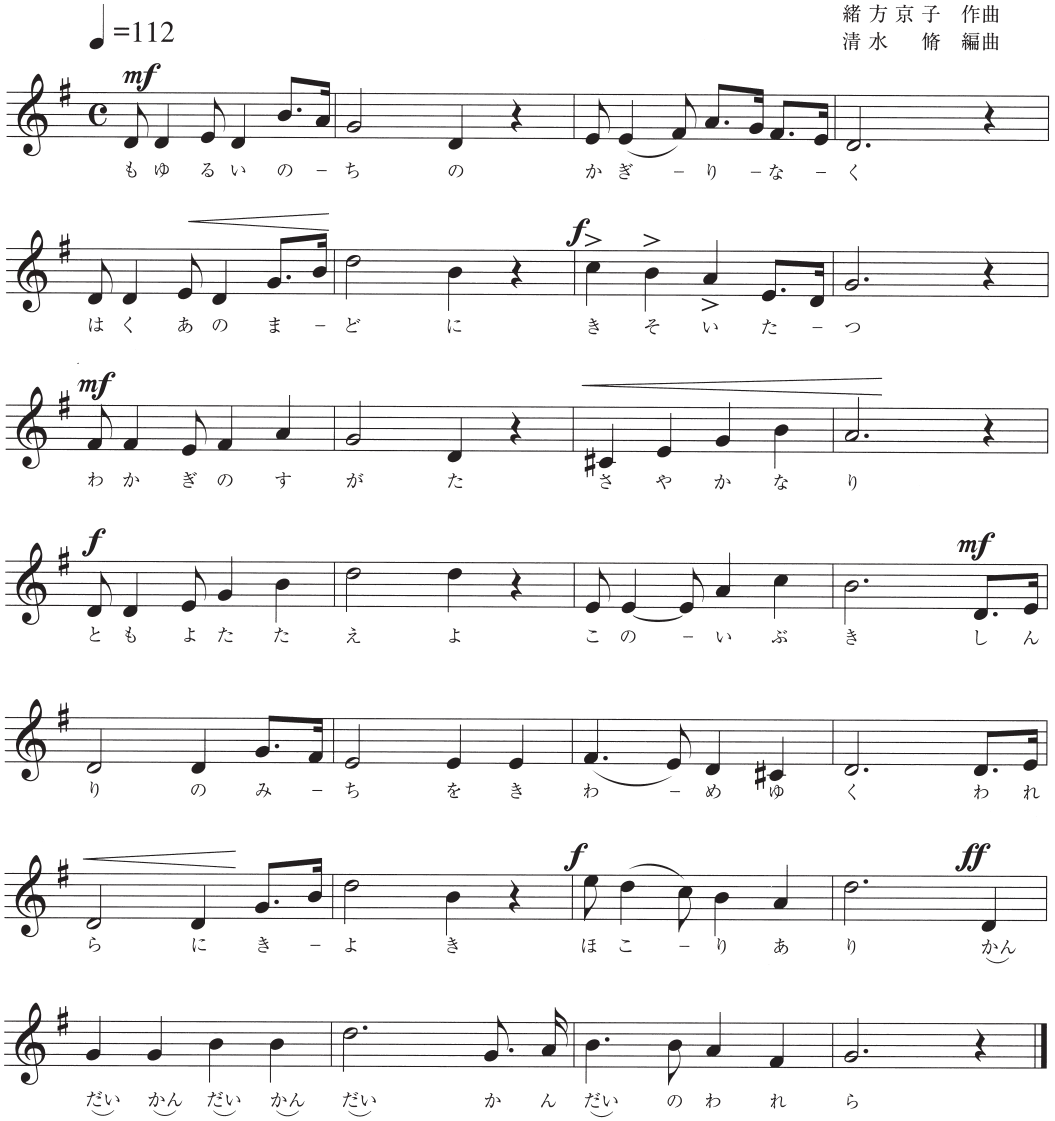
(五)
瞬く星の啓示受け
囁く波の私語聞きて
青葉隠くるる丘の上の
自学と自治の学園に
灯す燈火の清ければ
千里の原に月淡し

学生歌

制定は1923(大正12)年４月。当時、予科３年生の浪江源治が作詞し、同期生の中村良之助が作曲して完成した。後年、浪江は「寒中、深夜まで下宿で布団にもぐり必死に歌詞を書いたものだ」と回想している。現在は通常、第２節までしか歌われていないが、漢籍の素養を垣間見る原詞は第５節まで存在する。

新 学 生 歌

明珍　昇　作詞
緒方京子　作曲
清水　脩　編曲



新学生歌

(一)
燃ゆるいのちの　限りなく
白亜の窓に　競い立つ
若木の姿　さやかなり
友よたたえよ　この息吹き
真理の道を究めゆく
われらに清き　誇りあり
関大 関大 関大のわれら

(二)
流れる淀は　さわやかに
葦原遠く　わたる風
歴史の歩み　さだかなり
友よたたえよ　この伝統
正義の光かざしゆく
われらに愛と　自由あり
関大 関大 関大のわれら

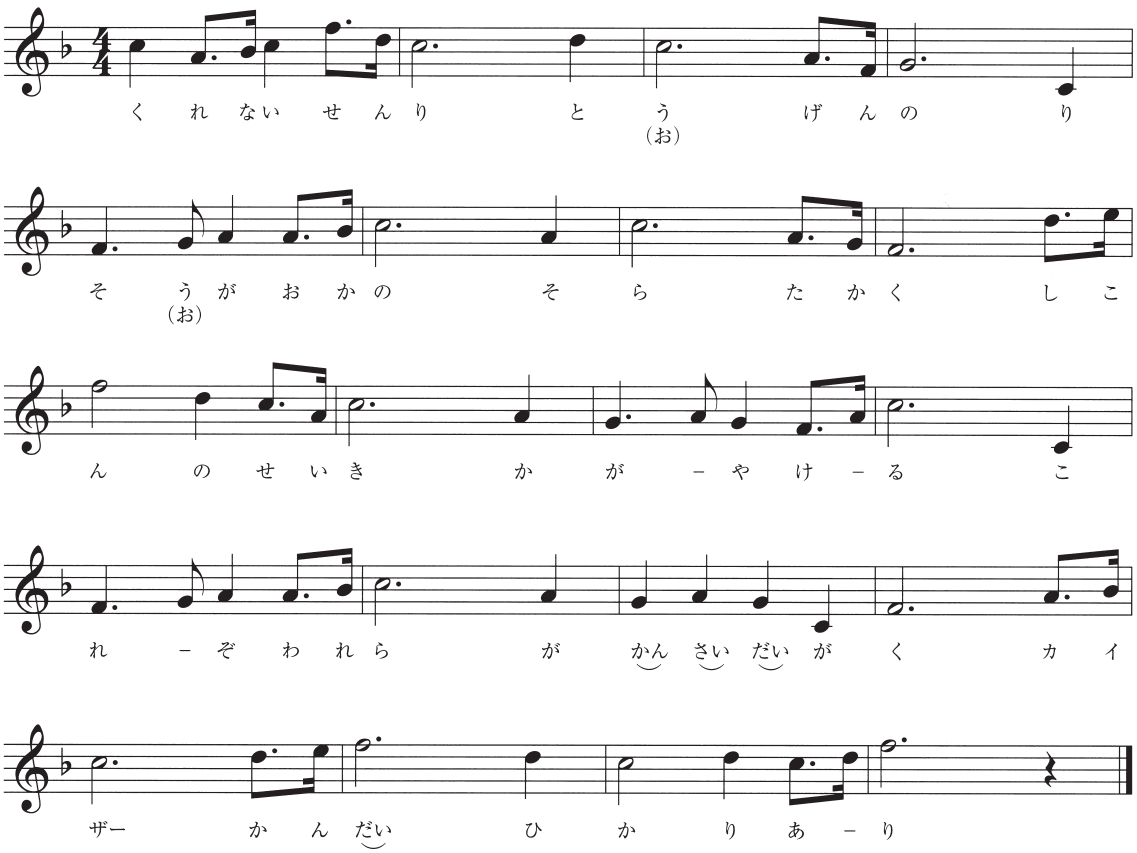
(三)
夢みる明日を　描きつつ
大空はるか　翔ける鳥
羽ばたく翼　力あり
友よたたえよ　この若さ
世界に挑む雄々しくも
われらに高き　理想あり
関大 関大 関大のわれら

新学生歌

関西大学創立80周年（1965年）の佳節に際して、新しい学生歌を作ろうとの機運が高まり、広く学生や校友から公募した。入選作の作詞は校友の明珍昇（公立高校教員）、大阪市歌や府下の高校の校歌を多く手がけてきたベテランである。歌詞が決まった後に曲が公募され、当時、文学部3年次生であった緒方京子の応募曲が入選し、清水脩が編曲して完成した。創立80周年記念式典で、関西大学讃歌とともに演奏された。

応　援　歌

阿賀杜里　作詞
阪東政一　作曲



応援歌

(一)

紅千里桃源の
理想が丘の空高く
紫紺の旌旗輝ける
之ぞ我等が関西大学
カイザー関大　光あり

(二)

若きを誇る丈夫が
真理の討究高らかに
求めて進む学術の
白亜の殿堂ぞ関西大学
カイザー関大　力あり

応援歌

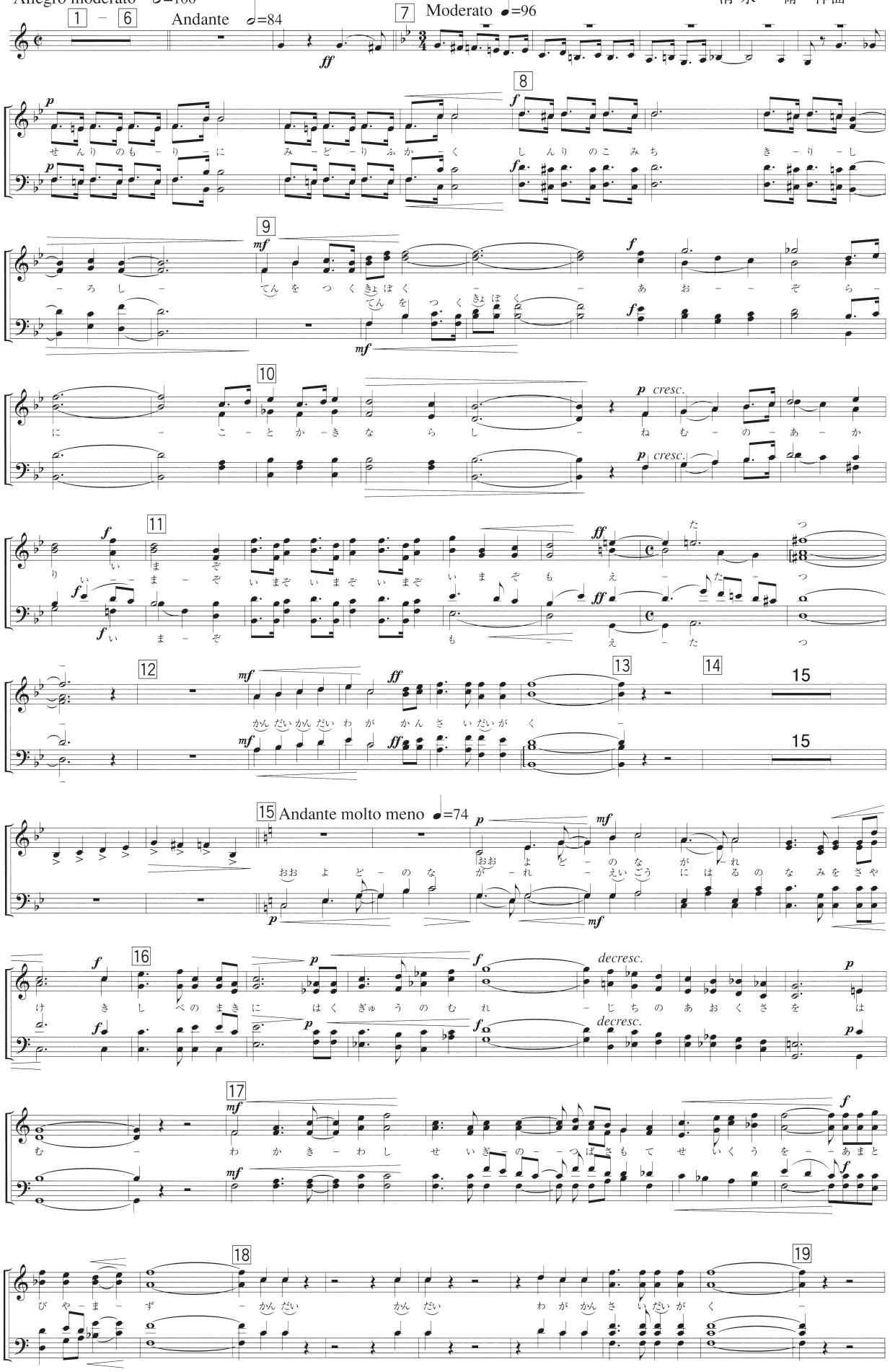
スポーツ競技で母校の勝利を願って威勢よく歌う応援歌。「カイザー」は古代ローマの勇者カエサルに由来し「皇帝」の意。競技を応援するスタンドで誇らかに歌い継がれてきた。

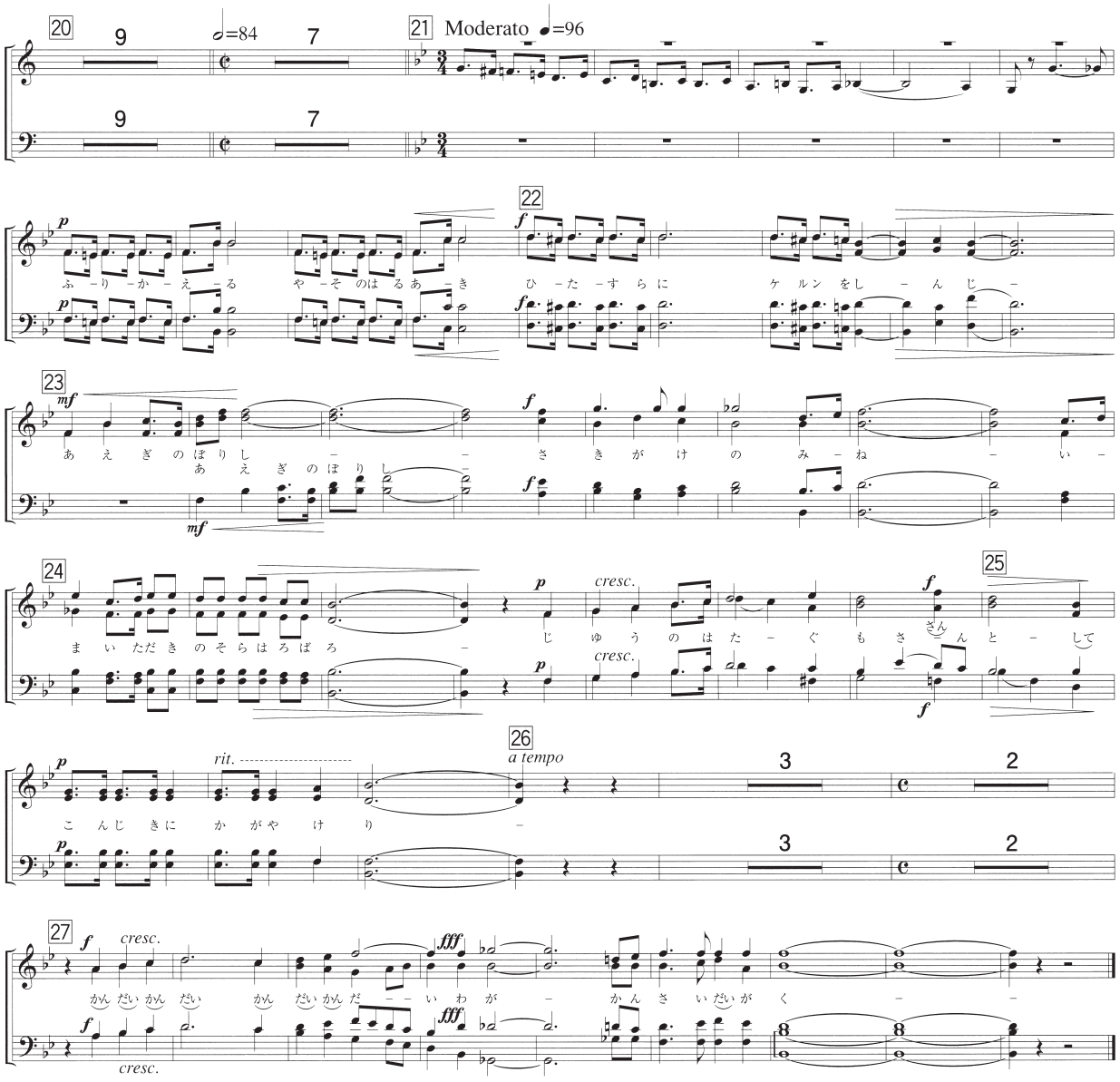
作詞･作曲者は、日本コロムビアレコードが昭和初期に製作したレコード及び歌詞カードによって判明しているので、ここに表記することとした。作曲者の阪東政一は当時、本学の学生で、数多くの作品を世に出したという記録が残っている。

関 西 大 学 讃 歌

（合唱譜）

北條秀司 作詞
清水 脩 作曲





関西大学讃歌

(一)
千里の森
緑深く
真理の小径
霧白し
天をつく巨木
蒼穹に琴かき鳴らし
合歓の炬火
いまぞ燃え立つ
関大　関大　わが関西大学

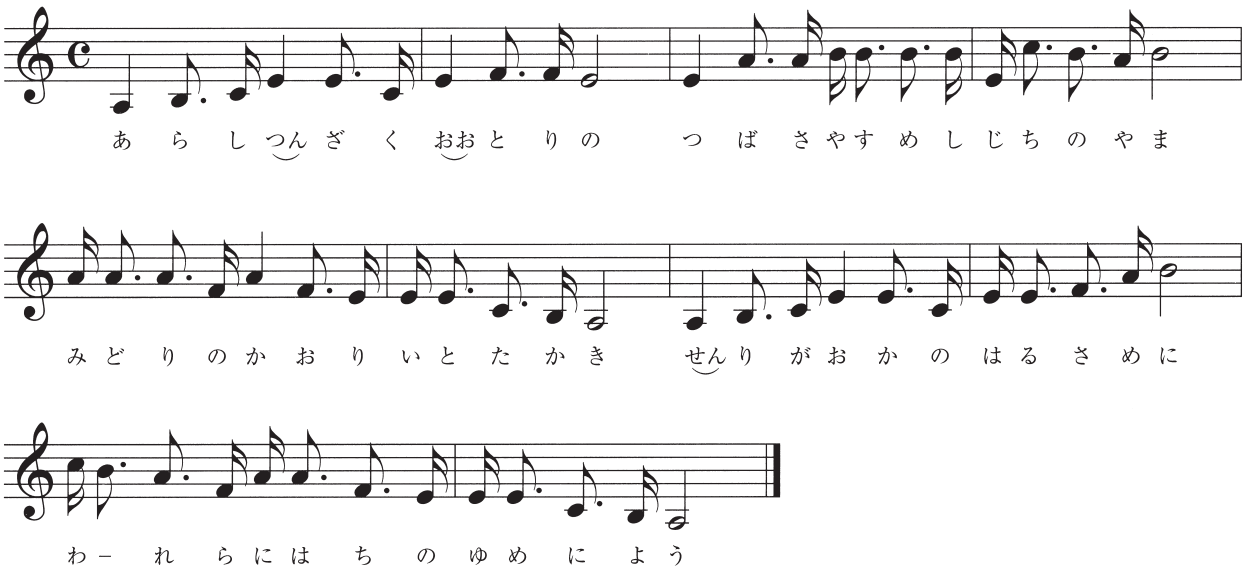
(二)
大淀の流れ
永劫に青春の波を清け
岸辺の牧に
白牛の群れ
自治の青草を食む
若き鷲
正義の翼もて
聖空を天飛びやまず
関大　関大　わが関西大学

(三)
ふりかえる
八十の春秋
ひたすらにケルンを信じ
あえぎ攀りし先駆の嶺
いま頂の空はろばろ
自由の旗雲
燦として
金色に耀けり
関大　関大　わが関西大学

関西大学讃歌

関西大学創立80周年（1965年）の記念曲。校友の劇作家北條秀司の作詞、作曲家清水脩の作曲で完成した。気宇壮大で生命力にあふれたこの曲は、式典当日、朝比奈隆指揮、大阪フィルハーモニー交響楽団と大阪放送合唱団によって演奏された。また、創立100周年記念式典（1986年）では、歌詞の「…八十（やそ）の春秋」を「…百（ひゃく）の春秋」と読み替えて、学生の各音楽団体が混声合唱曲として演奏した。

逍　遙　歌



序　　誦

静かに去り行く春（夏・秋・冬）の日に、契りし夢も永遠（とこしえ）に、
ここ千里山上（地名）に花と咲く。
帰らぬ情に駒止どめ、しばしの憩（いこ）い、供にせん。
さればいざ歌わんかな、舞わんかな、我等が関西大学逍遙の歌
一番、二番、三番……。

逍遙歌

㈠
嵐劈（つんざ）く鳳（おおとり）の
翼休めし自治の山
緑の香（かおり）いと高き
千里が丘の春雨に
我等二八（にはち）の夢に酔う

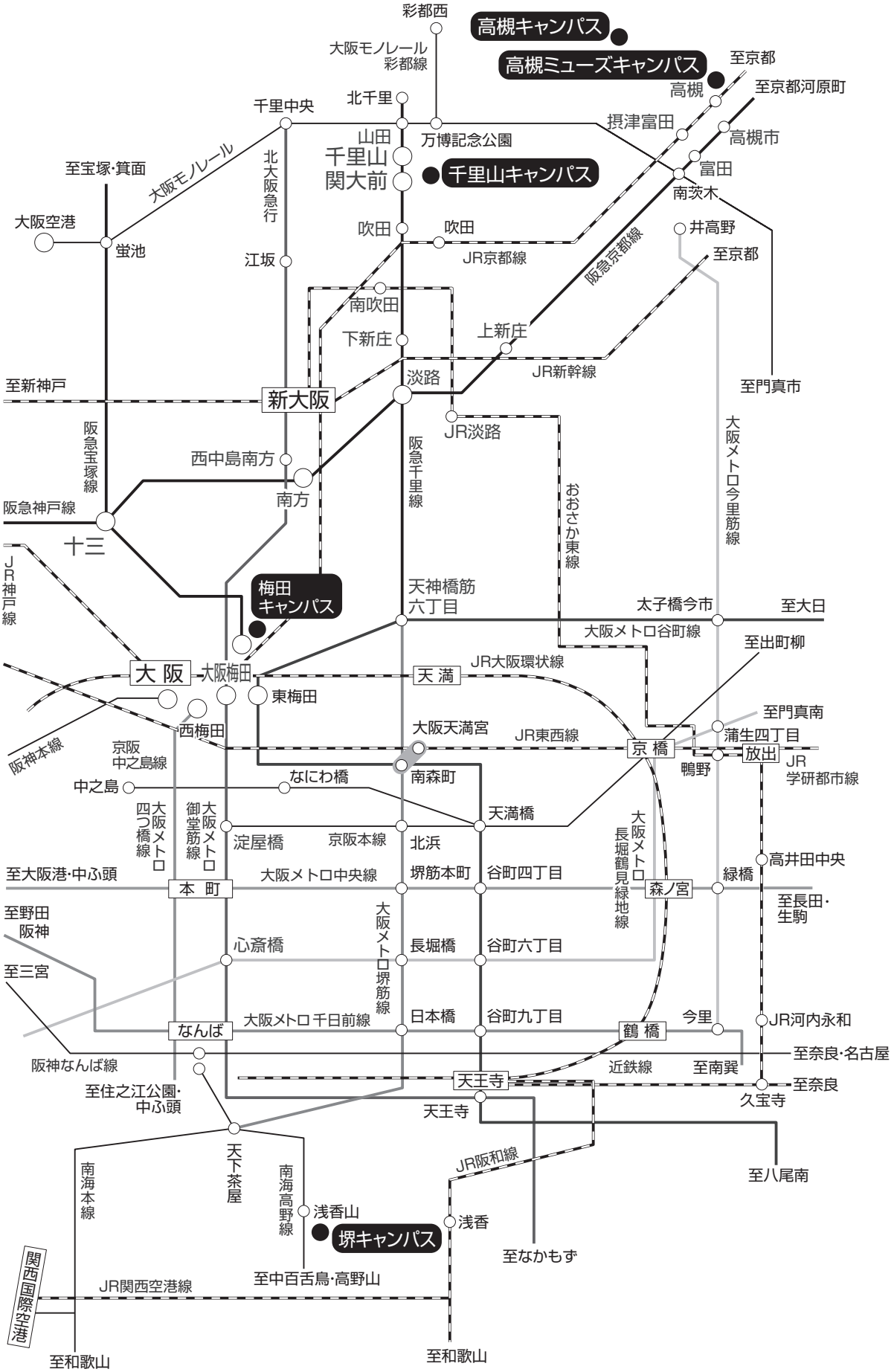
㈡
金蘭の花散りて無し
千里が丘に月落ちぬ
眺むる彼方（かなた）白明に
雁高（かりがね）く鳴きて飛ぶ
嗚呼（ああ）青春の若き夢

㈢
浪華の都に華と咲く
名も千陵の丈夫（ますらお）が
葦（あし）の葉繁れる淀川に
暫（しば）し咲きけん自治の花
自由の曲ぞ今誦（ず）しぬ

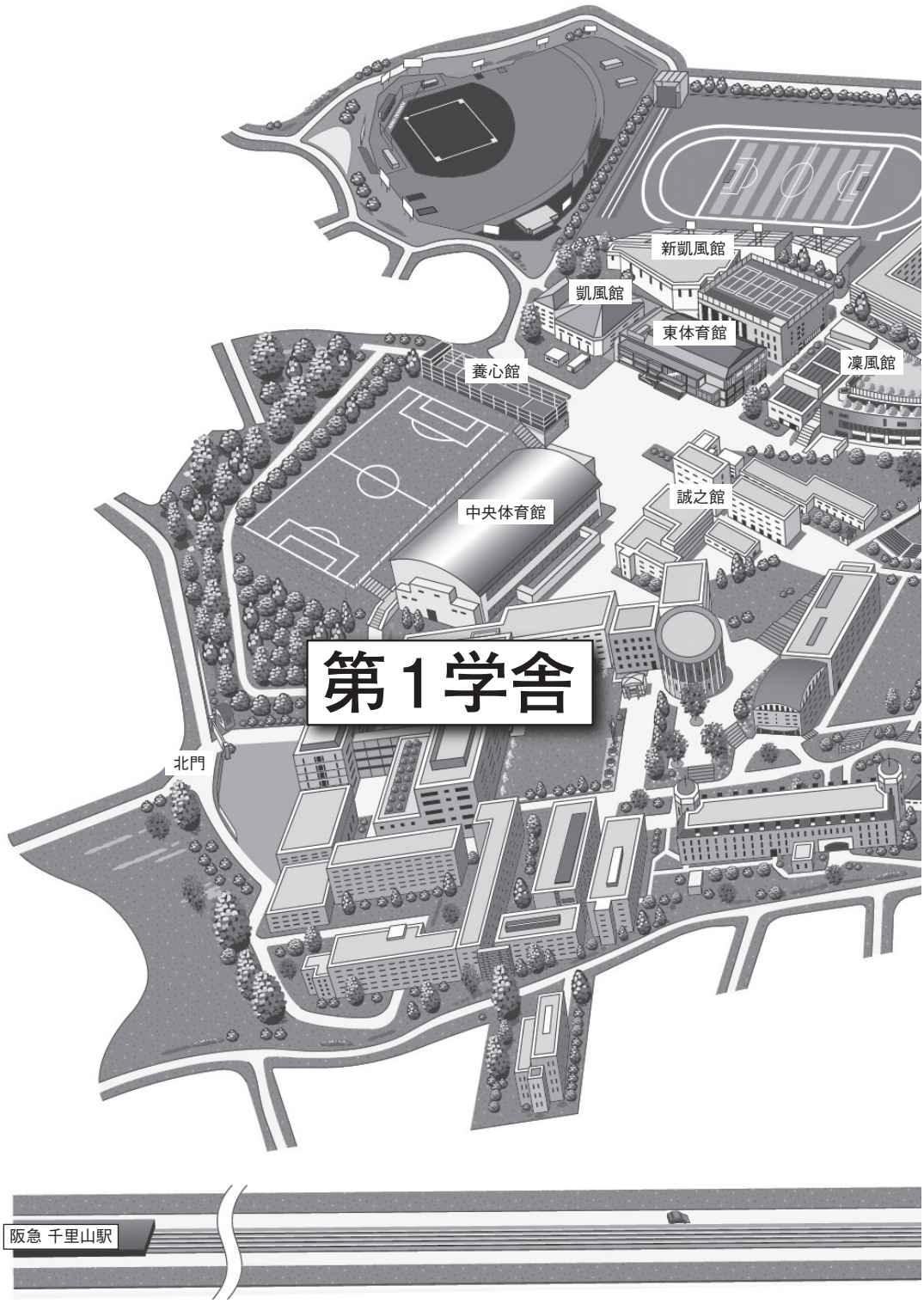
逍遙歌

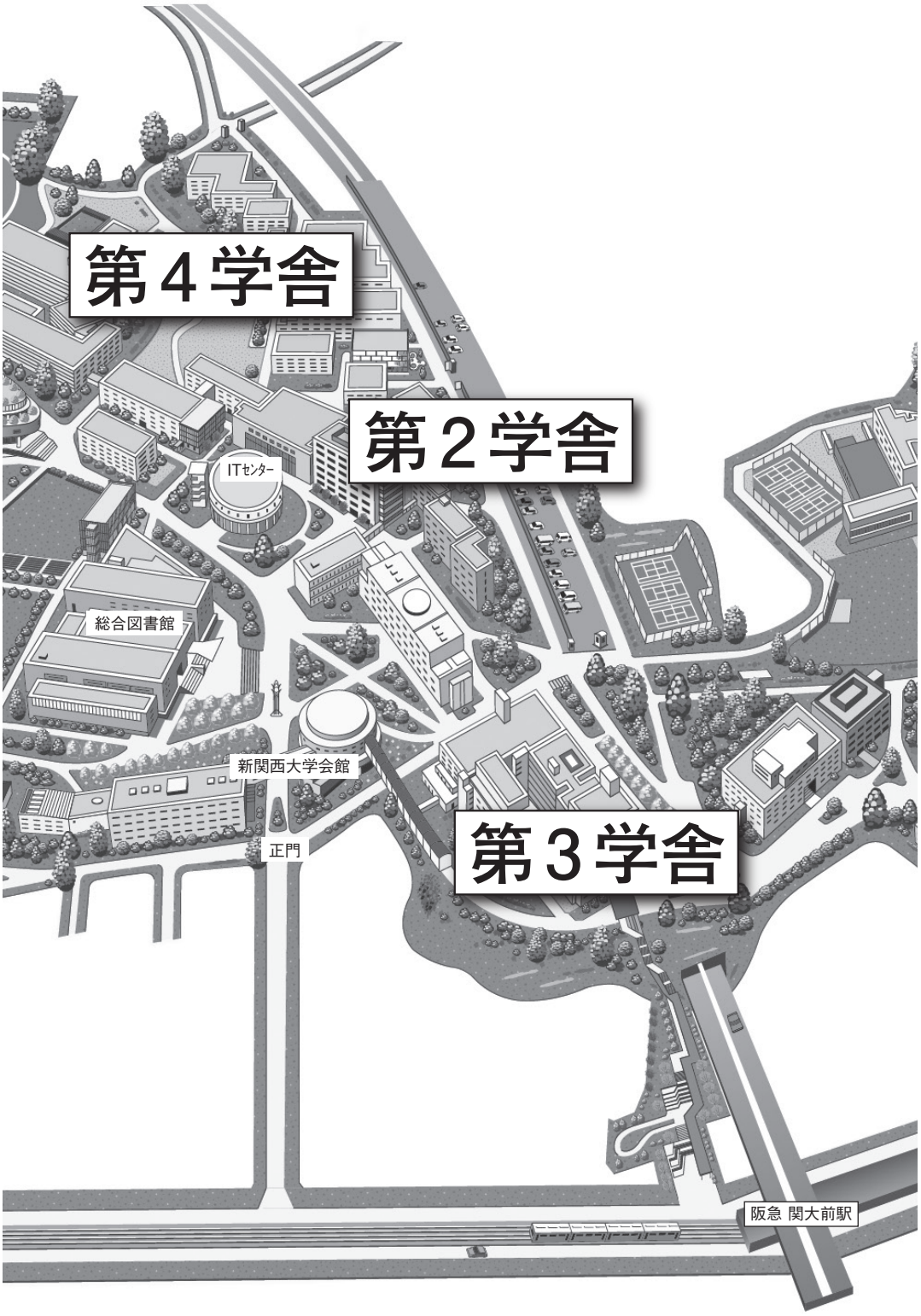
作詞、作曲者は不詳。歌詞は３節からなり、哀調を帯びた大正メロディはしっとりと若人や校友の琴線に触れて母校への絆を確認させる。校友も教職員も、いろいろな場面で肩を組んで歌い、母校への愛着の念を高揚させる。リーダーの「序誦」に続いて「嵐劈く鳳の…」とゆるやかなテンポで歌いだす。

キャンパス位置図

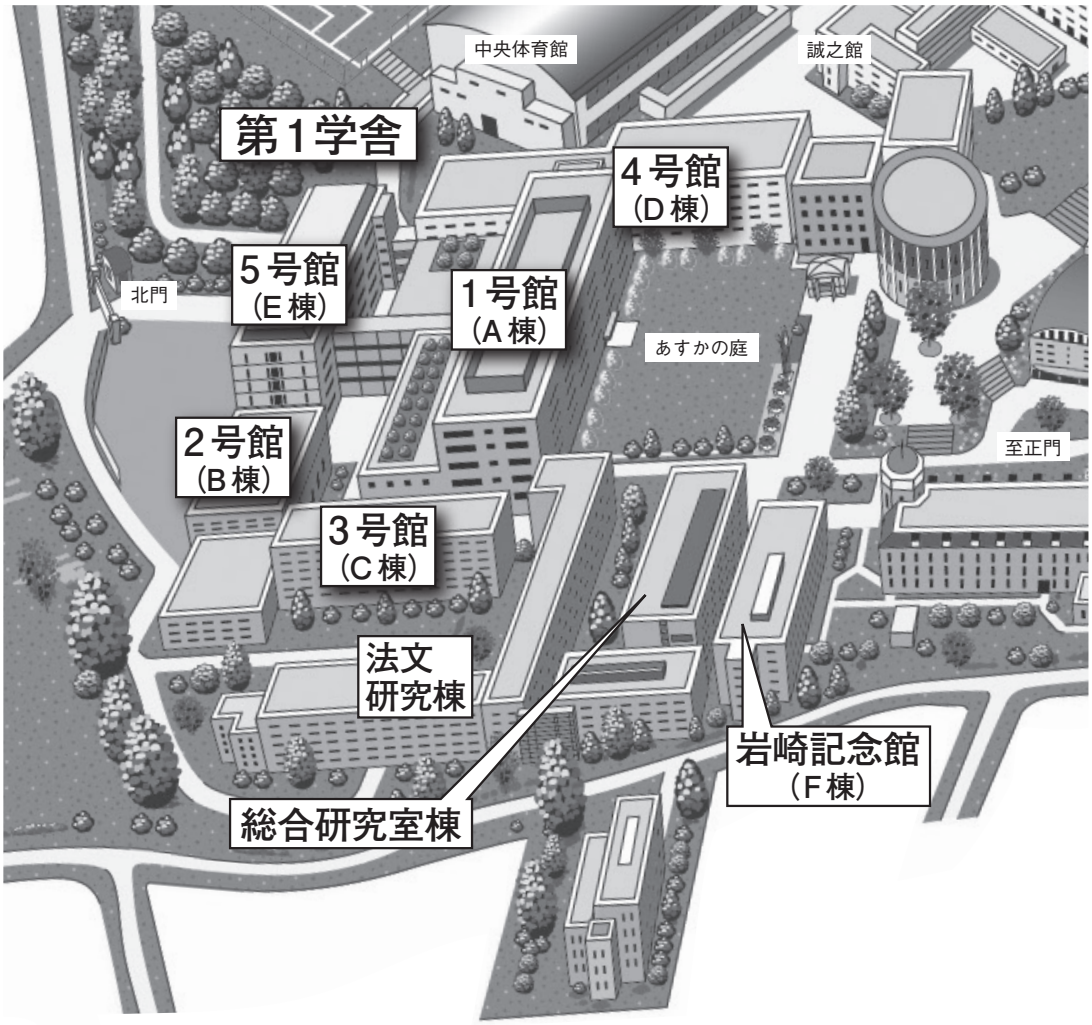

彩都西
高槻キャンパス
大阪モノレール
彩都線
高槻ミューズキャンパス
至京都
高槻
至京都河原町
千里中央
北千里
摂津富田
高槻市
山田
万博記念公園
千里山
関大前
千里山キャンパス
富田
至宝塚・箕面
大阪モノレール
北大阪急行
南茨木
大阪空港
蛍池
吹田
吹田
井高野
江坂
JR京都線
阪急京都線
至京都
南吹田
下新庄
上新庄
JR新幹線
至新神戸
新大阪
淡路
至門真市
阪急宝塚線
JR淡路
大阪メトロ今里筋線
西中島南方
阪急千里線
南方
おおさか東線
阪急神戸線
十三
JR神戸線
梅田
キャンパス
天神橋筋
六丁目
太子橋今市
至大日
大阪メトロ谷町線
至出町柳
大 阪
大阪梅田
JR大阪環状線
天 満
東梅田
至門真南
西梅田
大阪天満宮
JR東西線
蒲生四丁目
京 橋
放出
阪神本線
京阪
中之島線
鴨野
JR
学研都市線
なにわ橋
南森町
中之島
天満橋
大阪メトロ
四つ橋線
大阪メトロ
御堂筋線
淀屋橋
京阪本線
北浜
大阪メトロ
長堀鶴見緑地線
高井田中央
至大阪港・中ふ頭
本 町
大阪メトロ中央線
堺筋本町
谷町四丁目
森ノ宮
緑橋
至長田・
生駒
至野田
阪神
心斎橋
長堀橋
谷町六丁目
大阪メトロ堺筋線
至三宮
なんば
大阪メトロ 千日前線
日本橋
谷町九丁目
今里
鶴 橋
JR河内永和
至奈良・名古屋
阪神なんば線
近鉄線
至南巽
天王寺
至奈良
至住之江公園・
中ふ頭
久宝寺
天王寺
南海本線
天下茶屋
南海高野線
JR阪和線
至八尾南
浅香山
堺キャンパス
浅香
至なかもず
関西国際空港
JR関西空港線
至中百舌鳥・高野山
至和歌山
至和歌山

千里山キャンパス学舎配置図

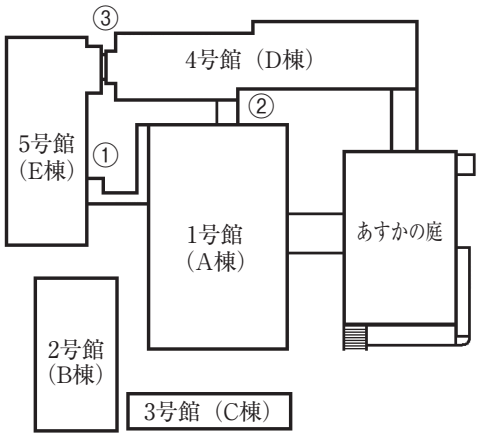



第４学舎
第２学舎
ITセンター
総合図書館
新関西大学会館
正門
第３学舎
阪急 関大前駅

第１学舎・岩崎記念館　配置図



1号館・4号館・5号館間 連絡通路



① 1号館･5号館間

1号館	－	5号館
2階	－	2階
3階	－	3階
4階	－	4階

② 1号館･4号館間

1号館	－	4号館
1階	－	1階
2階	－	3階

③ 4号館･5号館間

4号館	－	5号館
2階	－	1階
3階	－	2階
4階	－	3階

第１学舎１号館　A棟

1階	法文オフィス 授業支援ステーション 食堂
2階	千里ホールA 千里ホールB A201教室
3階	A301教室 講師控室
4階	A401教室 実験実習・語学系教室(1) 実験実習・語学系教室(2) 実験実習・語学系教室(3) 多目的室
5階	A501～A504教室 実験実習・語学系教室(4) ライティングラボ１
6階	A601～A603教室 ライティングラボ２

第１学舎２号館　B棟

1階	B101教室 B102教室
2階	B201教室 B202教室
3階	B301教室

第１学舎３号館　C棟

1階	C101～104教室
2階	C201～204教室
3階	C301～304教室
4階	C401(ALC)教室 C402(ALC)教室
5階	C501(ALC)教室 C502(AVC)教室

第１学舎４号館　D棟

1階	D101～D119教室
2階	D201～D214教室 古文書実習室 古文書室 法廷教室
3階	D301～D318教室
4階	D401～D403教室 地理学実習室 心理第3実験室 法・情報演習室 文・情報演習室 法・教材開発室 文・教材開発室 法文マルチメディア・パソコンステーション （第1ステーション） 事務室

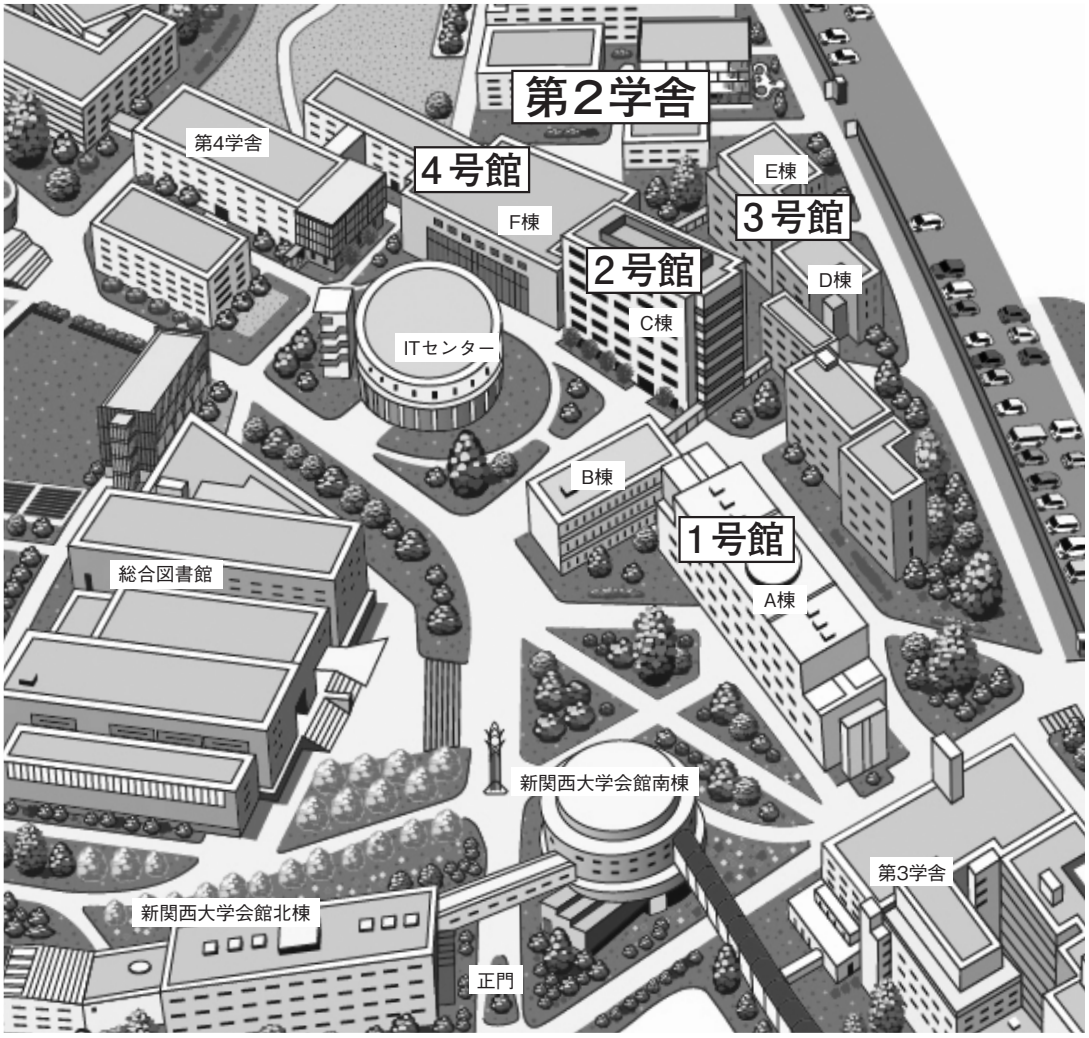
第１学舎５号館　E棟

1階	多目的室(学生談話室、自習室)
2階	E201～E210教室
3階	E301～E306教室 情報処理教室A･B･C･D
4階	E401～E403教室
5階	E501～E503教室
6階	E601～E603教室

岩崎記念館　F棟

1階	政外オフィス SAセンター（外国語学部）
2階	F201教室　F202教室 F203(ALC)教室
3階	CALL教室 同時通訳ブース
4階	F401教室　F402教室 英語教育連環センター（e-LINC）

第２学舎　配置図



第2学舎1号館　A棟･B棟

A棟

1階	教務センター 教職支援センター 授業支援ステーション CTLアクティブラーニングルーム「KITENE」 経済学会室	4階	CAL教室 MML室 AV･PC教室 PCゼミ 1教室 PCゼミ 2教室 経商ステーション A402(ALC) A405(ALC) A406(ALC)
2階	商学会室 経商オフィス 教員控室 国際部 Mi-room		
3階	A301～A305･A307～A310 カンファレンスルーム コラボルーム プロジェクトルーム	5階	A501～A503

B棟

1階	B101 ～ B104
2階	B201 ～ B206
3階	B301 ～ B306
4階	B401

第2学舎2号館　C棟

1階	食堂	7階	公認会計士試験受験支援自習室 会計専門職大学院自習室1･2 会計専門職大学院図書資料室 会計専門職大学院図書閲覧室 パソコン教室
2階	C201～C209		
3階	C301～C304		
4階	C401～C404		
5階	C501～C507		
6階	C601～C607		

第2学舎3号館　D棟･E棟

D棟

1階	D101～D104
2階	D201～D204
3階	D301～D304

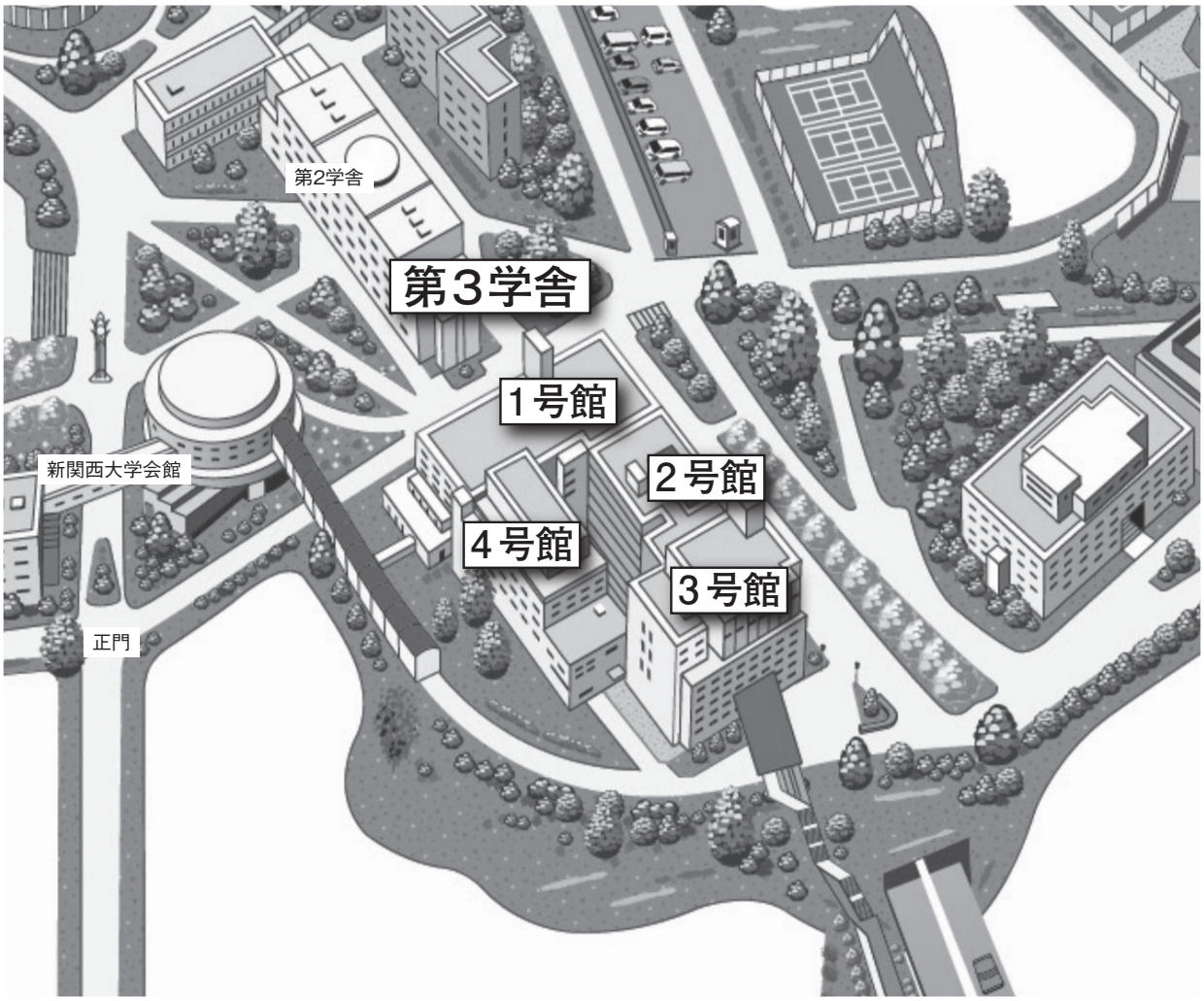
E棟

1階	E101
2階	E201
3階	E301

第2学舎4号館　F棟

1～3階	BIGホール100
4階	F401～F403

第３学舎　配置図



第３学舎１号館

地階	玄関ホール カフェソシオ（食堂）	2階	A201～A204・A207教室 第3学舎コモンズ・読書室
1階	A101教室 講師控室 第3学舎オフィス（社会学部） 授業支援ステーション（第３学舎）	3階	A301・A303～A307教室
		4階	A401(A)・(B)～A407教室

第３学舎２号館

1階	B101(A)教室 ソシオ音響スタジオ(B101(B)教室) ソシオ映像スタジオ(B102・103教室) メディア実習準備室 救護室
2階	B201～B207教室 社会調査実習準備室 自習室
3階	B301～B304・B306・B307教室 コンピュータ実習準備室
4階	B401・B402・B404～B407教室 心理検査室
5階	B502～B505教室 社会システムデザイン実習準備室 共同研究室

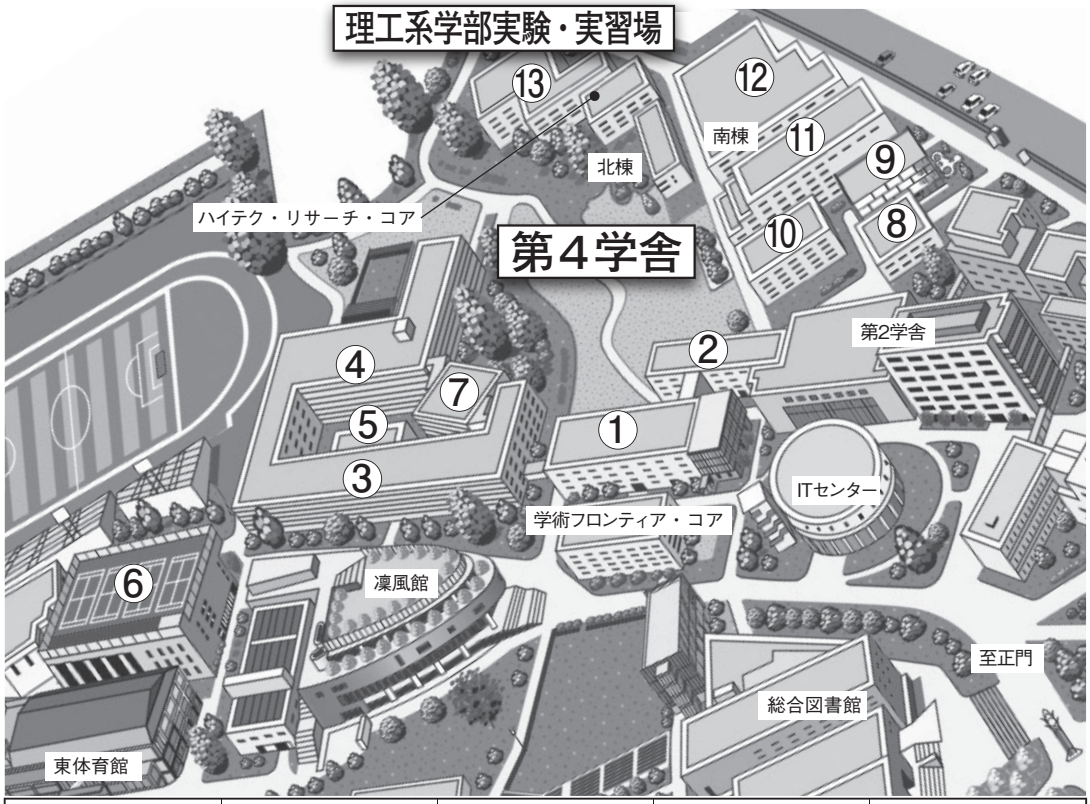
第３学舎３号館

2階	エクステンション・リードセンター事務室 エクステンション・リードセンター多目的室 リードセンター講師控室・相談室	6階	個人研究室 共同研究室 資料室
		7階	個人研究室
3階	C301～C304教室	8階	個人研究室
4階	C401～C404教室	9階	個人研究室
5階	C501～C502・C505教室 共同研究室	10階	個人研究室

第３学舎４号館

1～2階	関大ソシオAV大ホール （D101教室）
3階	D301・D302教室
4階	D401・D403教室 屋上広場
5階	D501・D502教室

第４学舎　配置図



① 1号館	④ 2号館（研究棟）	⑦ 4号館	⑩ 第3実験棟	⑬ 第6実験棟
② 1号館（教授棟）	⑤ 2号館(研究棟別館)	⑧ 第1実験棟	⑪ 第4実験棟	
③ 2号館（教室棟）	⑥ 3号館	⑨ 第2実験棟	⑫ 第5実験棟	

①1号館

1階	理工系オフィス 学習支援室 授業支援ステーション（第４学舎） 学習支援室･協同学習室
2階	講師控室 キャリアセンター理工系事務室 安全管理課 数学科諸室 統計数学研究室 整教論研究室 微分幾何学研究室 個人研究室 1201（Iotセンシングスタジオ） 1202（ラーニングコモンズ〈サイレント〉）
3階	人間工学研究室 ロボットマイクロシステム研究室 システム最適化研究室 知識情報システム研究室 1301（ゼミナール室Ⅰ） 1302（ゼミナール室Ⅱ）
4階	人間工学研究室 ネットワーク工学研究室 メディア工学 社会基盤情報学研究室 システムモデリング研究室 1401（院生共同自主研究室） 1402（ラーニングコモンズ〈グループ〉）

②1号館（教授棟）

1階	都市システム実験室 構造工学研究室
2階	数理モデル研究室 確率論研究室
3階	数学資料室 可積分系研究室 計算科学研究室
4階	表現論研究室
5階	代数学研究室 確率解析研究室 社会システム計画研究室

③2号館（教室棟）

地階	錯体機能化学研究室 分子認識化学研究室
1階	2101～2106教室 理工系学部情報処理教室
2階	2201～2208教室 物理教育研究室 アルゴリズム工学研究室
3階	2301～2308教室
4階	2401～2404教室 先端高分子化学研究室 医工学材料研究室 無機材料化学研究室 化学･物質工学科分析室
5階	2501教室 2502教室 第２製図室 OD１教室 OD２教室

④2号館（研究棟）

地階	知能分子学研究室 透過型電子顕微鏡室 高分子設計創生学研究室 光・高分子化学研究室 機能物質工学研究室 エネ環・化共同第Ⅰ研究室 エネ環・化会議・資料室 触媒有機化学研究室 有機化学反応研究室 錯体機能化学研究室 エネルギー材料研究室
1階	材料界面工学研究室 凝固プロセス研究室 水素エネルギー材料研究室 化学・物質NMR室 機能材料研究室 環境材料研究室 機能性高分子研究室 電子顕微鏡室 光・高分子化学研究室 高分子合成化学研究室 有機合成化学研究室
2階	材料生産工学研究室 材料組織制御学研究室 表面処理室 透過電子顕微鏡室 セラミック材料学研究室 資源循環工学研究室 高磁場NMR室 化学工学科機器分析室 電気電子会議室 イオニクス材料研究室 理論・計算化学研究室 表面観察解析装置室 分析室 水素エネルギー材料研究室 融体加工研究室 化学・物質NMR室
3階	アルゴリズム工学研究室 電気電子共同室 高分子応用材料研究室 界面化学研究室 触媒工学研究室 反応システム工学研究室 プロセスデザイン研究室 環境機能化学研究室 生体物質化学研究室 生体材料学研究室 エネ環・化共同第Ⅱ研究室
4階	環境マネジメント研究室 社会資本計画研究室 都市地域計画研究室 建築環境工学第Ⅰ研究室 エネ環・化共同第Ⅲ研究室 ナノ粒子工学研究室 分離システム工学研究室 交通システム研究室 建築資料室 景観研究室 都市資料室
5階	住環境デザイン 建築計画第Ⅰ研究室 建築計画第Ⅱ研究室 建築史研究室 建築環境デザイン研究室 建築環境工学第Ⅱ研究室 建築環境工学第Ⅲ研究室 建築設計製図室 エネ環・化共同第Ⅳ研究室 建築意匠研究室 都市設計研究室 建築学科共通院生室 都市建築研究室

⑤２号館(研究棟別館)

地階	超音波物理研究室 量子放射光物理学研究室 物理実験場分室
1階	物理実験場

⑥３号館

1階	3101教室
2階	3201・3202教室
3階	デザインルーム１・２
4階	3401～3403教室

⑦４号館

地階	4001～4003教室
1階	4101～4103教室
2階	4201～4202教室
3階	4301教室

⑧第１実験棟

1階	計測物性工学研究室 光情報システム研究室 電気光学実験室 工作室
2階	計測物性工学研究室 光情報システム研究室 情報回路システム研究室
3階	電気電子実験場１ 電気電子実験準備室 電気電子実験控室
4階	情報回路システム研究室 情報電磁気学研究室 ダイナミクスコンピューティング研究室

⑨第２実験棟

地階	排水処理場 環境管理室 分析測定室
1階	テクノサポートオフィス 電子制御研究室 電気電子情報工学科共用室
2階	電気化学研究室 生体材料学研究室 高分子設計創生学研究室 構造有機化学研究室 極限環境化学研究室
3階	共同化学実験場１ 試薬調製室 機器分析室 準備室
4階	共同化学実験場２ 試薬調製室 天秤室 準備室

⑩第３実験棟

地階	電気電子実験場 河川防災研究室 海岸工学研究室 水槽室 医薬品工学研究室
1階	電気機器研究室 電気エネルギー工学研究室 情報通信工学研究室 食品栄養化学研究室
2階	波動情報工学研究室 電気エネルギー研究室 ワイヤレスネットワーキング研究室 情報回路システム研究室
3階	情報ネットワーク研究室 超高周波工学研究室 電気応用システム研究室 ワイヤレスネットワーキング研究室
4階	計算機システム工学研究室 音情報システム研究室 電気応用システム研究室

⑪第４実験棟

地階	生物化学工学研究室 材料試験室 材料調整室 材料溶解・鋳造室 組織試験室 物性試験室 研磨室 天秤室 材料加工室Ⅰ 材料加工室Ⅱ 化学工学科実験場 化学工学科準備室 細胞工学研究室
1階	化学物質実験場 材料分析室 材料物理化学実験室 材料熱処理室 細胞工学研究室 医薬品工学研究室 低温室 恒温室 先端・材料準備室 生物化学工学研究室 天然素材工学研究室 環境微生物工学研究室 酵素工学研究室
2階	食品栄養化学研究室 生命機能工学研究室 環境微生物工学研究室 天然素材工学研究室 医薬品工学研究室 微生物制御工学研究室 生物化学工学研究室
3階	生命・生物工学実験場 準備室 微生物制御工学研究室 生命機能工学研究室 食品栄養化学研究室 先端高分子化学研究室
4階	共同実験室Ⅰ 共同実験室Ⅱ 発生工学研究室 ４Ａ教室 ４Ｂ教室

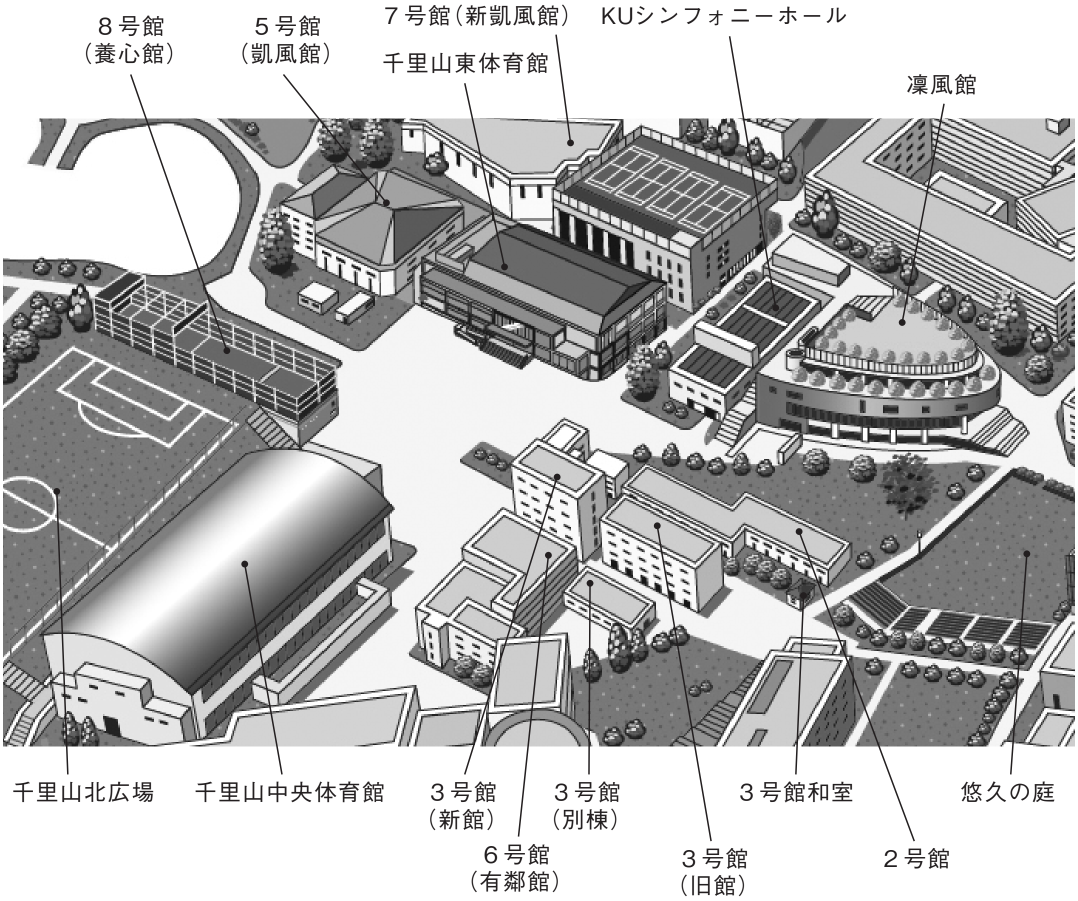
⑫第５実験棟

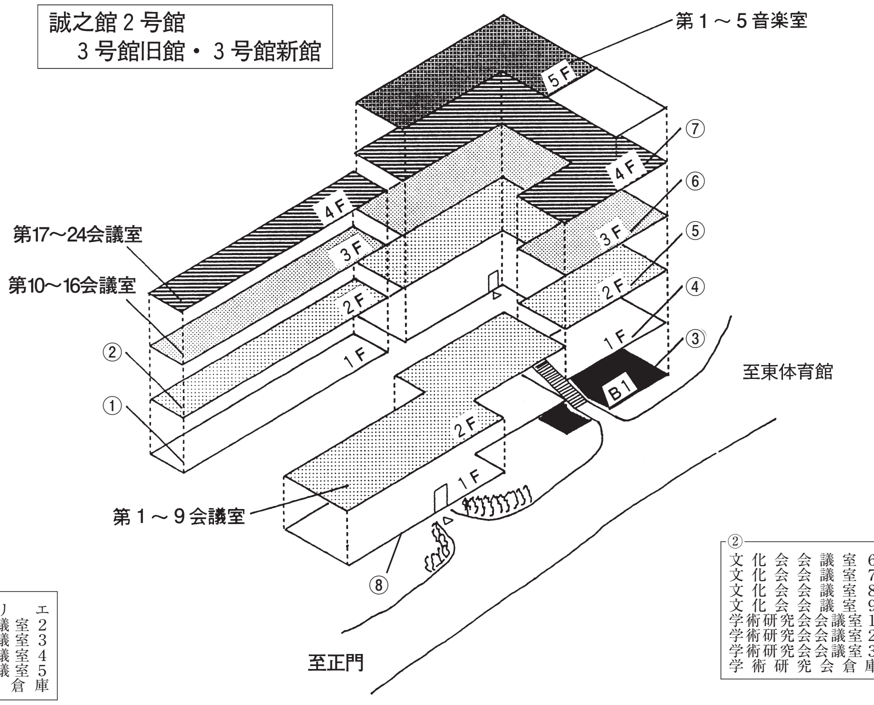
地階	機械共同実験場 流体工学・バイオメカニクス研究室 環境デバイス物理研究室 電子デバイス工学研究室 ナノ機能物理工学研究室 熱工学研究室
1階	機械系実習工場(2) 機械共同実験場１～３ 共通機器室３ 共通機器室５～８ 共同研究室 発生工学研究室 ナノ機能物理工学研究室 機械設計研究室 材料工学研究室 生産加工システム研究室 酵素工学研究室 天然素材工学研究室 共通ゼミ室
2階	機械力学・制御工学研究室 熱工学研究室 計測システム研究室 材料工学研究室 流体工学・バイオメカニクス研究室 機械設計研究室 生産加工システム研究室
3階	画像処理工学研究室 感性情報システム研究室 耐震工学研究室 ネットワークデザイン研究室 建築基礎工学研究室 建築制御工学研究室 建築構造学研究室 プロジェクトマネジメント研究室 情報数理工学研究室 構造工学研究室 地盤防災工学研究室
4階	物性理論研究室 河川防災研究室 海岸工学研究室 構造工学研究室 量子多体物理研究室 環境デバイス物理研究室 流体物理学研究室 コンクリート工学研究室 複合材料構造研究室 都市システム工学科資料室 地盤環境工学研究室 物理・応用物理共同研究室

⑬第６実験棟

1階	建築器具庫 建築恒温・恒湿室 建築コンクリート実験室 建築土質実験室 建築構造実験室 都市構造実験室 都市恒温・恒湿室 都市建設材料実験室 都市環境シミュレーション室 都市遠心力載荷装置室 建築油圧ポンプ室 機械切り屑庫
2階	共用室 建築準備室１ 建築準備室２ 女子学生更衣室
3階	機械実習工場 都市システム工学科実験実習室 建築環境工学温熱実験室 都市倉庫 都市地盤実験室１～３ 都市システム工学科準備室 男子学生更衣室
4階	個人研究室

誠之館配置図





①
アトリエ
文化会会議室２
文化会会議室３
文化会会議室４
文化会会議室５
同好会用倉庫

②
文化会会議室６
文化会会議室７
文化会会議室８
文化会会議室９
学術研究会会議室１
学術研究会会議室２
学術研究会会議室３
学術研究会倉庫

③
放送研究会
スタジオ
アナウンスブース
テープ室
調整室
ユースホステルクラブ

④
文化会本部
文化会本部会議室
管理人室
ユネスコ研究部
映画研究部
探検部
茶道部
写真部
演劇研究部
演劇団体倉庫
美術部
文化会会議室１
邦楽部
能楽部
奇術研究部

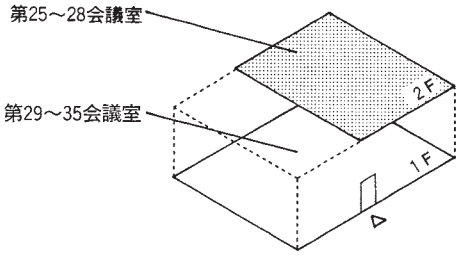
⑤
英語研究部
経済研究部
千里山法律学会
マス・コミュニケーション学研究部
スペイン語研究部
国文学研究部
心理学教育学研究部
広告研究部
学術研究会本部
学術研究会会議室
新館会議室
同好会スペース
会計学研究部
現代文学研究部
法律相談所
ポピュラーミュージック創作研究会

⑥
将棋部
囲碁部
落語大学
速記部
書道部
文芸部
独逸文学研究部
中国語研究部
和室
証券研究部
史学研究部
仏蘭西文学研究部
海外調査研究部

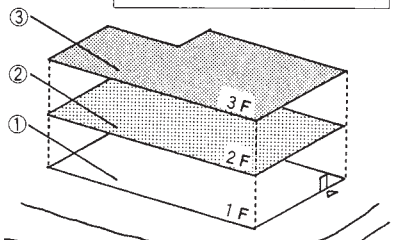
⑦
マンドリンクラブ
ギタークラブ
交響楽団
混声合唱団「葦」
混声合唱団ひびき
グリークラブ
レコード音楽部
音楽室６
和室
軽音楽部

⑧
多目的会議室
共済会事務局・関大パンセ
ボランティアステーション

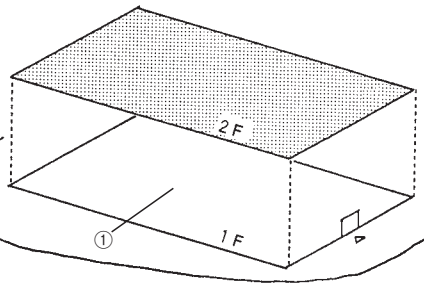
誠之館３号館別棟

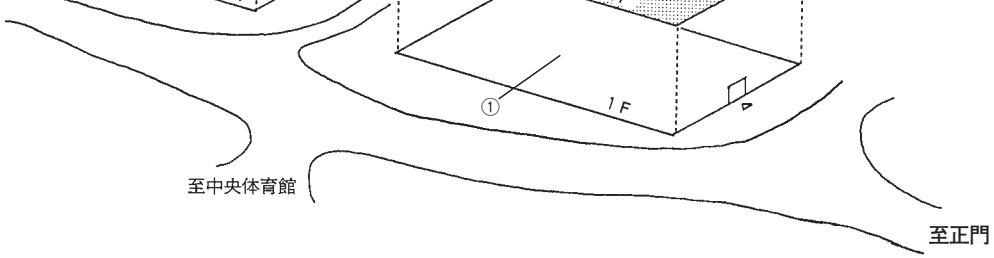


誠之館５号館(凱風館)



東体育館





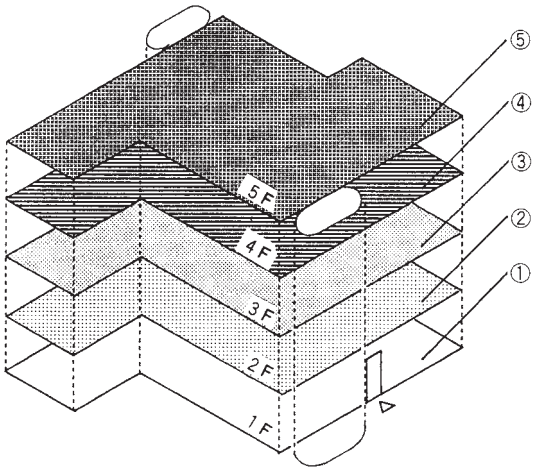
誠之館５号館（凱風館）

①	②	③
重量挙練習場 トレーニングルーム	応援団 リーダー部 バトン・チアリーダー部 水上競技部 重量挙部 空手道部 少林寺拳法部(男子) 学生Ｓ＆Ｃクラブ 女子更衣室 多目的フロア３	拳法部 道場 ボクシング部 ボクシング練習場

東体育館

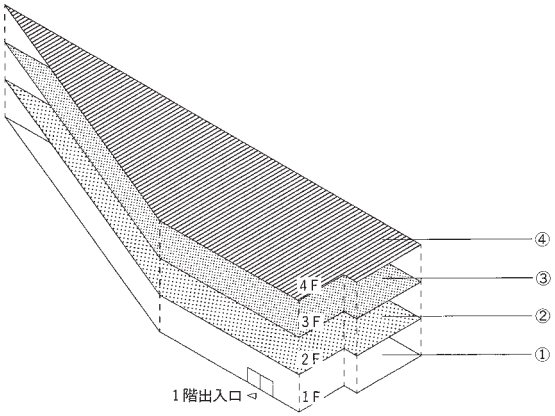
①		
レスリング部 バドミントン部(男子) バドミントン部(女子) バレーボール部(男子) 少林寺拳法部(女子) バスケットボール部(男子)	器械体操部 卓球部（男子） 卓球部（女子） フェンシング部 準硬式野球部 合気道部	アイスホッケー部 なぎなた部 馬術部 ＡＴルーム

誠之館６号館（有鄰館）



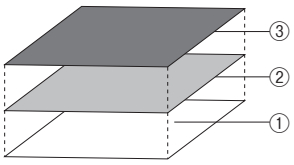
①	②	③	④	⑤
応援団 備品倉庫 音楽練習室１ 多目的ホール	自転車部 アクティブスタジオ	吹奏楽部 情報処理研究部 音楽練習室２ 和応援団	文化会議室 演劇研究部 写真部 文芸部 軽音楽部 音楽練習室８ 音楽練習室９ 音楽練習室10	音楽練習室３ 音楽練習室４ 音楽練習室５ 音楽練習室６ 音楽練習室７ 軽音楽器庫

誠之館７号館（新凱風館）



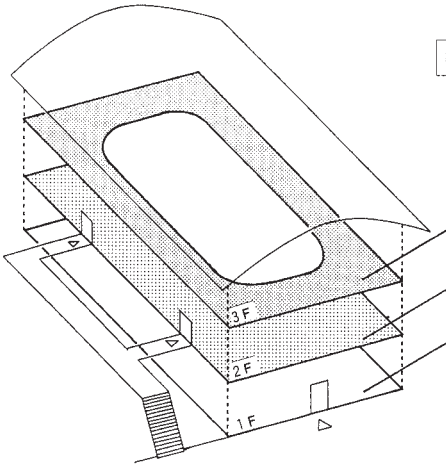
①	②	③	④
学生センター スポーツ振興グループ 体育会本部 会議室ア 多目的フロア 相撲道場	アーチェリー部（男子） アメリカンフットボール部 サッカー部 ソフトテニス部 ソフトボール部 ホッケー部 ラグビー部 男子更衣室 関大スポーツ編集局	アーチェリー部（女子） ゴルフ部 スキー競技部 テニス部（女子） バスケットボール部（女子） バレーボール部（女子） ハンドボール部（男子） ハンドボール部（女子） 野球部 陸上競技部 陸上競技部（女子） 女子更衣室	合気道部 アイススケート部 弓道部 航空部 古武道部 自動車部 ヨット艇部 ワンダーフォーゲル部 ミーティングルーム

誠之館８号館（養心館）



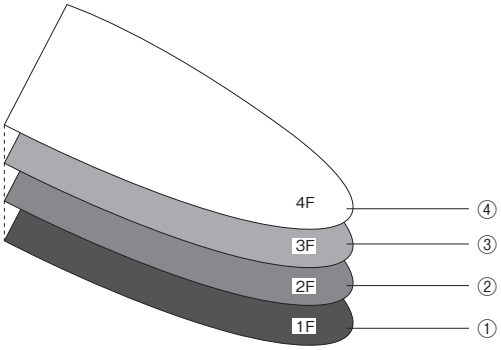
①	②	③
射撃場	剣道場 柔道場	アーチェリー場

中央体育館



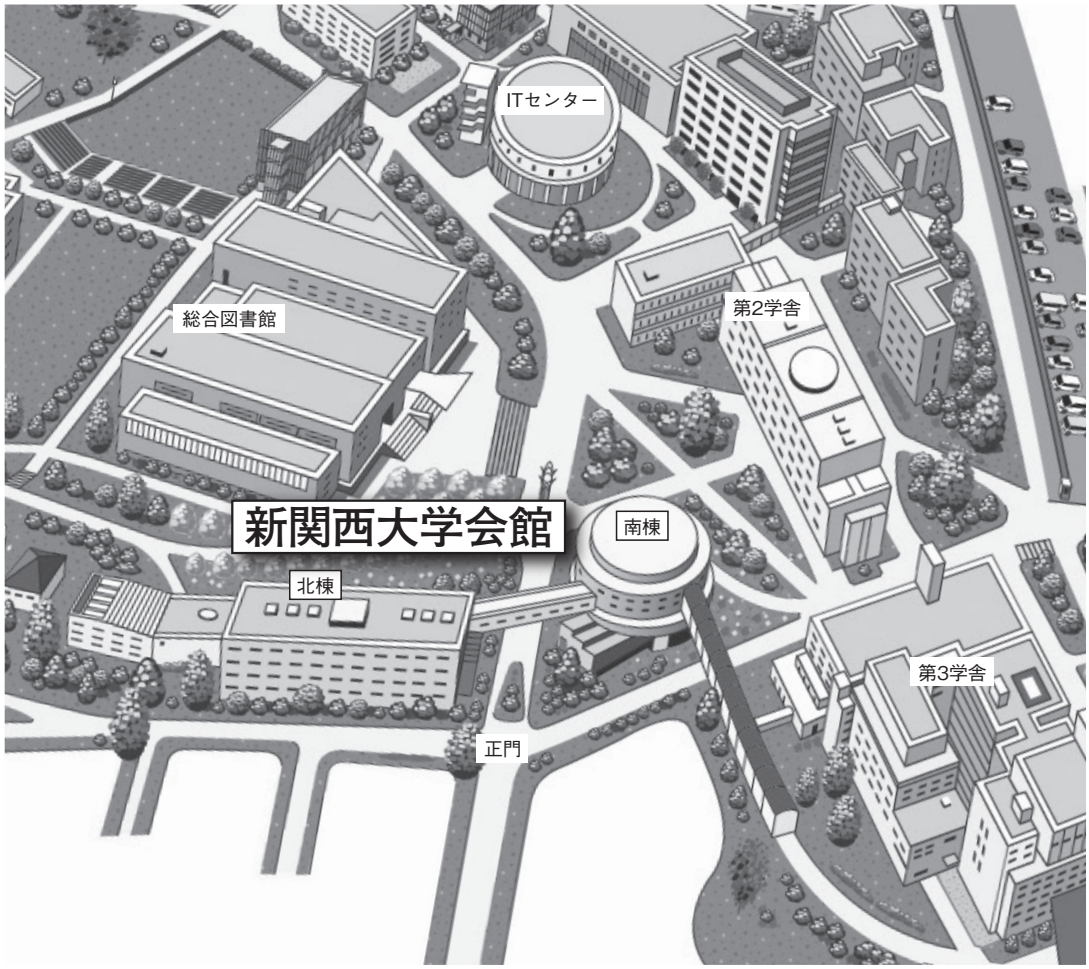
中央体育館事務室	
教員控室	
器具庫	
図書資料室	
特任体育講師室	
男子更衣室	
女子更衣室	
サブアリーナA	
サブアリーナB	
トレーニングルーム	

総合学生会館（メディアパーク凜風館）



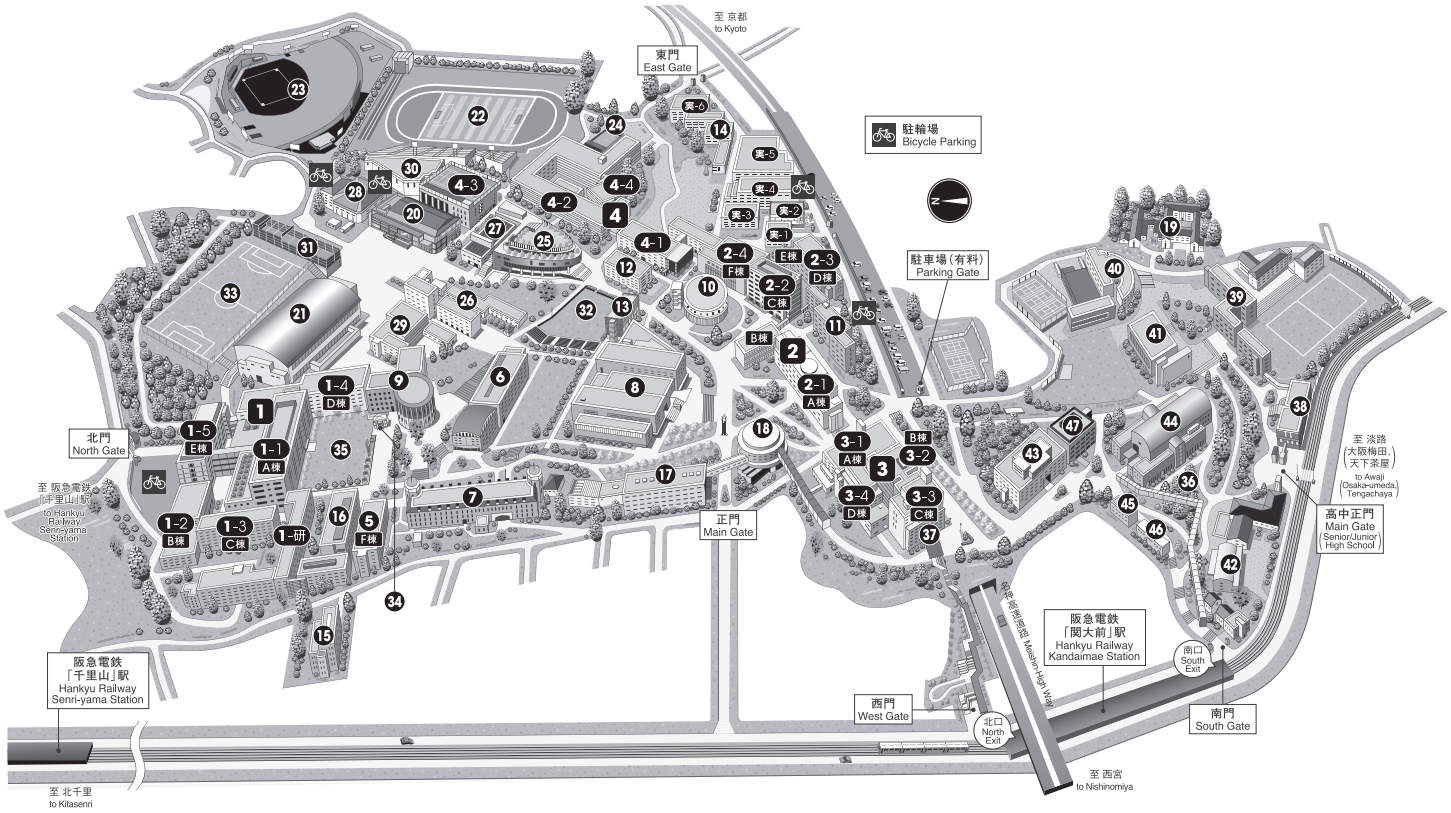
①	②	③	④
学生センター 学生生活支援グループ 奨学支援グループ ボランティア活動支援グループ 大学学生相談室 学生ラウンジ コラボレーションコモンズ	生協（食堂）	生協（総合サービスカウンター／生協加入受付／住宅相談室／物品売場／トラベル／ライセンス）	和室１・２・ミーティングルーム（大）・ミーティングルーム（小)･小ホール･会議室１・学生支援室

新関西大学会館配置図



北棟	1階	入試センター 学生相談・支援センター 北棟ホール
	3階	キャリアセンター事務室 キャリアデザインルーム（進路支援室） 就職情報資料室 セミナールーム 卒業生就業支援室
	4階	保健管理センター 心理相談室
南棟	1階	インフォメーションロビー、出納課分室
	2階・3階	研究推進部・社会連携部

千里山キャンパス　Senriyama Campus



1 第1学舎（法学部、文学部、政策創造学部、外国語学部、食堂、購買店）
Area 1 (Faculties of Law, Letters, Policy Studies, Foreign Language Studies; Cafeteria, Store)

1-1 A棟 第1学舎1号館 / 千里ホールA・B
Bldg.1, Area 1 / Senri Hall A・B

1-2 B棟 第1学舎2号館
Bldg.2, Area 1

1-3 C棟 第1学舎3号館
Bldg.3, Area 1

1-4 D棟 第1学舎4号館
Bldg.4, Area 1

1-5 E棟 第1学舎5号館
Bldg.5, Area 1

1-研 法文研究室棟
HOBUN Research Laboratory

2 第2学舎（経済学部、商学部、会計専門職大学院、教務センター、CTLアクティブラーニングルーム「KITENE」、教職支援センター、国際部、Mi-Room（マルチリンガル・イマージョン学習スペース）、食堂、購買店）
Area 2 (Faculties of Economics, Business & Commerce; School of Accountancy, Center for Academic Affairs, Center for Teaching & Learning Active Learning room "Kandai InTEractive NEtwork room", Center for Teacher Certification & Development, Division of International Affairs, Multilingual Immersion Room, Cafeteria, Store)

2-1 A棟 B棟 第2学舎1号館
Bldg.1, Area 2

2-2 C棟 第2学舎2号館
Bldg.2, Area 2

2-3 D棟 E棟 第2学舎3号館
Bldg.3, Area 2

2-4 F棟 第2学舎4号館 / BIGホール100
Bldg.4, Area 2 / BIG Hall 100

3 第3学舎（社会学部、食堂、購買店）
Area 3 (Faculty of Sociology, Cafeteria, Store)

3-1 A棟 第3学舎1号館
Bldg.1, Area 3

3-2 B棟 第3学舎2号館
Bldg.2, Area 3

3-3 C棟 第3学舎3号館
Bldg.3, Area 3

3-4 D棟 第3学舎4号館 / 関大ソシオAV大ホール
Bldg.4, Area 3 / Kandai Socio AV Large Hall

4 第4学舎（システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部、キャリアセンター理工系事務室（1号館）、購買店）
Area 4 (Faculties of Engineering Science, Environmental & Urban Engineering, Chemistry, Materials & Bioengineering; Center for Career Development Office for Science & Engineering(Bldg.1), Store)

4-1 第4学舎1号館
Bldg.1, Area 4

4-2 第4学舎2号館
Bldg.2, Area 4

4-3 第4学舎3号館
Bldg.3, Area 4

4-4 第4学舎4号館
Bldg.4, Area 4

実-1～6 第4学舎第1～6実験棟
Laboratory Bldg.1~6, Area 4

5 F棟 岩崎記念館（外国語教育学研究科英語教育連環センター）
IWASAKI KINENKAN (English Language Instruction Network Center)

6 尚文館（大学院、臨床心理専門職大学院、教育開発支援センター）/ マルチメディアAV大教室
SHOBUNKAN (Graduate Schools, Graduate School of Professional Clinical Psychology, Center for Teaching & Learning) / Multimedia AV Large Hall

7 以文館（法科大学院、グローバル教育イノベーション推進機構、アジア・オープン・リサーチセンター、食堂、購買店）
IBUNKAN (School of Law, Institute for Innovative Global Education, Open Research Center for Asian Studies, Cafeteria, Store)

8 総合図書館
University Library

9 簡文館（関西大学博物館、年史資料展示室、なにわ大阪研究センター、人権問題研究室）
KANBUNKAN (Museum, University Archival Gallery, Research Center for Naniwa-Osaka Studies, Institute of Human Rights Studies)

10 円神館（ITセンター）
ENSHINKAN (Center for Information Technology)

11 ソシオネットワーク戦略研究機構、経商研究棟、国際教育支援室、留学生就職支援コンソーシアムSUCCESS事務局
Research Institute for Socionetwork Strategies, Economics & Commerce Researchers Office, International Education Support Office, SUCCESS Consortium Secretariat

12 学術フロンティア・コア（先端科学技術推進機構、産学官連携センター、知財センター）
Frontier Sciences Core (Organization for Research & Development of Innovative Science & Technology (ORDIST); Center for Business, Government & Universities; Center for Intellectual Property)

13 イノベーション創生センター
Center for Innovation & Creativity

14 ハイテク・リサーチ・コア（先端科学技術推進機構）
High Technology Research Core (Organization for Research & Development of Innovative Science & Technology (ORDIST))

15 児島惟謙館（経済・政治研究所、東西学術研究所［文化交渉学研究拠点］、法学研究所、心理臨床センター千里山カウンセリングルーム）
KOJIMA KOREKATA-KAN (Institute of Economic & Political Studies, Institute of Oriental & Occidental Studies [Institute for Cultural Interaction Studies], Institute of Legal Studies, Psychological Services Center Senriyama Counseling Room)

16 総合研究室棟
Researchers Office

17 新関西大学会館北棟（学生相談・支援センター、心理相談室、入試センター、保健管理センター、キャリアセンター）/ 新関西大学会館北棟ホール
SHIN-KANSAIDAIGAKU-KAIKAN North Bldg. (Center for Student Study & Counseling, Student Counseling Room, Center for Admissions, Medical Center, Center for Career Development), SHIN-KANSAIDAIGAKU-KAIKAN North Bldg. Hall

18 新関西大学会館南棟（インフォメーション、研究推進部、社会連携部、地域連携センター、高大連携センター、関西大学・大阪医科薬科大学医工薬連環科学教育研究機構、出納課分室、レストラン）
SHIN-KANSAIDAIGAKU-KAIKAN South Bldg. (Information Center; Division of Research Development; Division of Community & Business Partnerships; Center for Community Collaboration; Center for High School & University Partnerships; The Organization for Education & Research Collaboration in Medical, Pharmaceutical & Engineering Sciences between Kansai University & Osaka Medical & Pharmaceutical University; Cashiers Division; Restaurant)

19 学生国際交流館・秀麗寮
SHUREIRYO (International Student House)

20 千里山東体育館
Senriyama East Gymnasium

21 千里山中央体育館（購買店）
Senriyama Central Gymnasium (Store)

22 千里山中央グラウンド
Senriyama Central Athletic Ground

23 KAISERS BASEBALL FIELD
KAISERS BASEBALL FIELD

24 弓道場
Kyudo Range

25 総合学生会館 メディアパーク 濂風館（学生生活支援グループ、奨学支援グループ、ボランティア活動支援グループ、コラボレーションコモンズ、生協本部、食堂、購買店）
Mediapark RINPUKAN (Student Support Division, Scholarships & Financial Aid Division, Volunteer Activities Support Division, Collaboration Commons, Cafeteria, Shops)

26 誠之館2・3号館（関西大学共済会事務局）
SEISHIKAN 2·3 (Clubrooms, Kansai University Mutual Aid Association Office)

27 誠之館4号館 / KU シンフォニーホール
SEISHIKAN 4 / KU Symphony Hall

28 誠之館5号館 凱風館
GAIFUKAN / SEISHIKAN 5 (Athletic Clubrooms)

29 誠之館6号館 有鄰館
YURINKAN / SEISHIKAN 6 (Clubrooms)

30 誠之館7号館 新凱風館（スポーツ振興グループ）
SHIN-GAIFUKAN / SEISHIKAN 7 (Athletic Clubrooms, Sports Promotion Division)

31 誠之館8号館 養心館
YOSHINKAN / SEISHIKAN 8 (Sports Complex)

32 悠久の庭
YUKYU NO NIWA (Open Space)

33 千里山北広場
SENRIYAMA KITAHIROBA (Sports Ground)

34 高松塚古墳壁画再現展示室
TAKAMATSUZUKA KOFUN "Ancient Tomb" Exhibition Room

35 あすかの庭
ASUKA NO NIWA (Open Space)

36 飛翔の庭
HISHO NO NIWA (Japanese Garden)

37 エクステンション・リードセンター
Extension Center

38 親和館
SHINWAKAN (Hall, Cafeteria)

39 関西大学第一高等学校
Kansai University Dai-ichi Senior High School

40 関西大学第一中学校
Kansai University Dai-ichi Junior High School

41 秀麗館
SHUREIKAN (Senior/Junior High School Gymnasium)

42 関西大学幼稚園
Kansai University Kindergarten

43 関西大学会館（法人本部、大学本部、出版部）
KANSAIDAIGAKU-KAIKAN (Administration Office, Kansai University Press)

44 100周年記念会館（室内温水プール、株式会社関大パンセ、ハラスメント相談室）
Centenary Memorial Hall (Swimming Pool, KANDAI Pensee, Harassment Counseling Office)

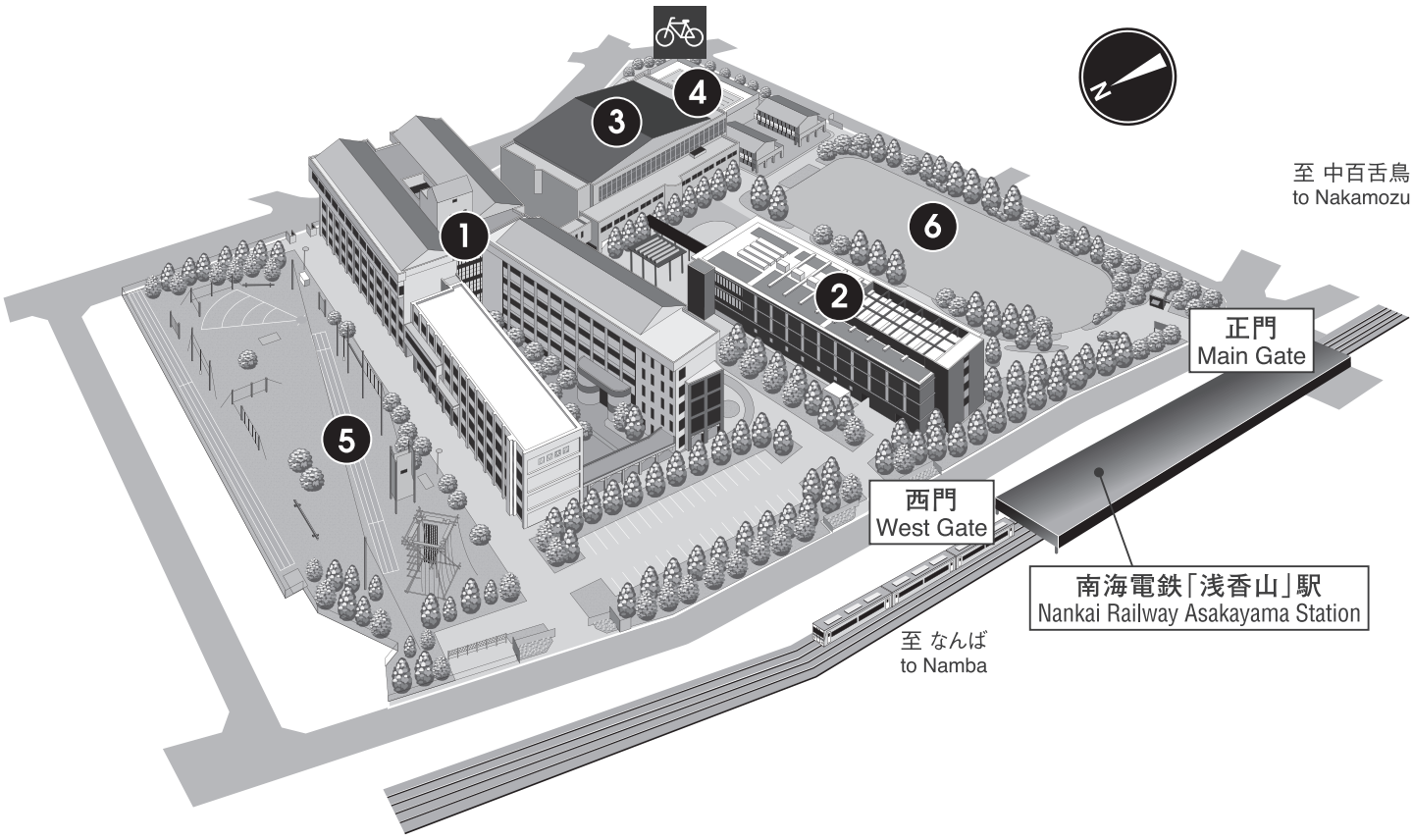
45 教育会館
KYOIKUKAIKAN

46 教育会館別館
KYOIKUKAIKAN Annex

47 校友・父母会館（校友会、教育後援会）
KOYUFUBOKAIKAN (Alumni & Alumnae Association, Parents' Association)

※2023年2月現在のものを掲載しています。

堺キャンパス　Sakai Campus



人間健康学部・人間健康研究科

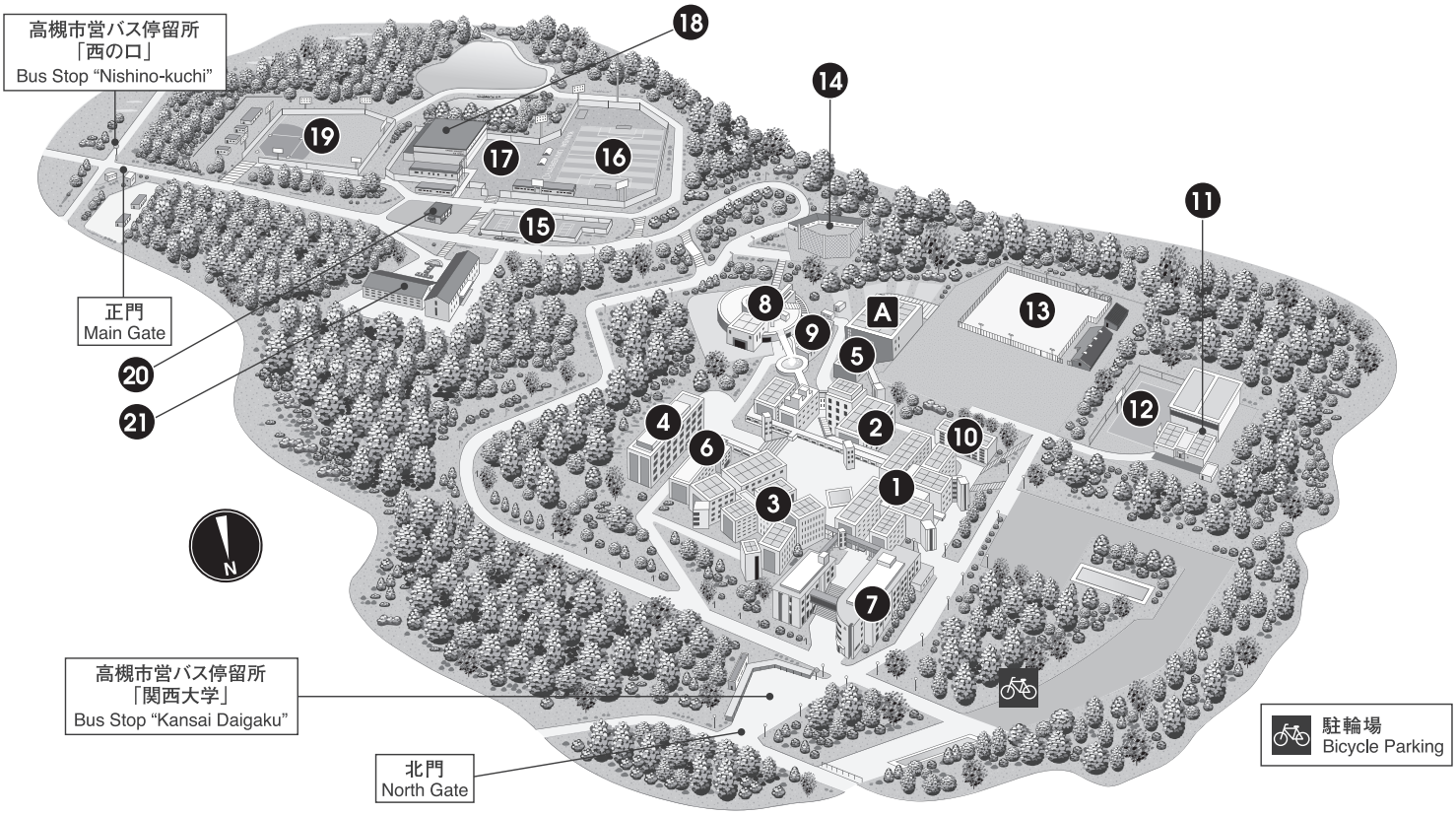
❶ A棟（教室、キャリアセンター、堺キャンパス事務室、保健室、心理相談室）
❷ B棟（教室、堺キャンパス図書館、カフェテリア、購買店）
❸ 体育館（アリーナ、格技･実習教室、トレーニングルーム）
❹ プール
❺ 体験学習エリア
❻ 広場･Evergreen

Faculty of Health & Well-being
Graduate School of Health & Well-being

❶ Bldg.A (Classrooms, Center for Career Development, Office, Health Room, Student Counseling Room)
❷ Bldg.B (Classrooms, Library, Cafeteria, Store)
❸ Gymnasium (Arena, Budo & Fitness Gym, Training Room)
❹ Swimming Pool
❺ Facility for Experiential Learning Activities
❻ Evergreen (Open Space)

※2023年2月現在のものを掲載しています。

高槻キャンパス　Takatsuki Campus



総合情報学部･総合情報学研究科

❶A棟 管理･研究棟（総合情報学部オフィス、高槻キャンパスオフィス）
❷B棟 図書･教室棟（高槻キャンパス図書館）
❸C棟 スタジオ棟（MonoLab、学生サービスステーション）
❹D棟 大学院棟
❺E棟 教室棟
❻F棟 ネットワーキング研究センター
❼K棟 情報演習棟（キャリアセンター、保健室、心理相談室）
❽L棟 厚生棟（食堂、購買店）
❾S棟 ステューデントハウス
❿R棟 リサーチハウス
⓫G棟 体育館
⓬多目的コート
⓭馬場
⓮ゴルフ練習場
⓯テニスコート
⓰第1グラウンド
⓱第2グラウンド
⓲関西大学 たかつき アイスアリーナ
⓳第3グラウンド
⓴航空部 艇庫
㉑セミナーハウス 高岳館

ホール

Ⓐ 情報メディアホール（TEホール）

Faculty of Informatics,
Graduate School of Informatics

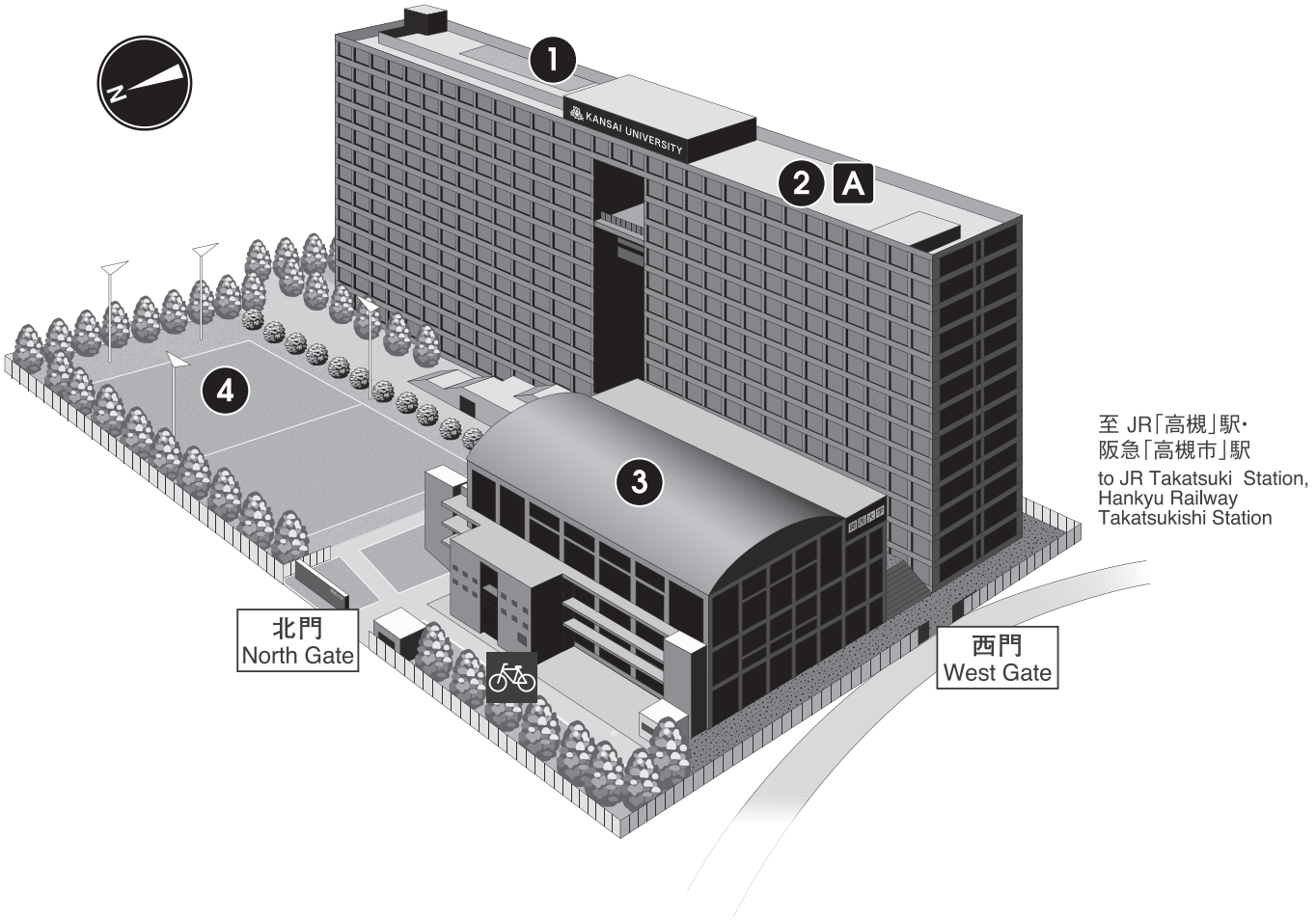
❶Bldg.A (Faculty Office, Administration Office)
❷Bldg.B (Classrooms, Library)
❸Bldg.C (Computer Rooms, Studio, MonoLab, Student Service Station)
❹Bldg.D (Graduate School)
❺Bldg.E (Classrooms)
❻Bldg.F (Research Center for Networking)
❼Bldg.K (Seminar Rooms, Laboratories, Center for Career Development, Health Room, Student Counseling Room)
❽Bldg.L (Cafeteria, Store)
❾Bldg.S (Student House)
❿Bldg.R (Research House)
⓫Bldg.G (Gymnasium)
⓬Multipurpose Court
⓭Horseriding Ground
⓮Golf Range
⓯Tennis Courts
⓰Athletic Ground 1
⓱Athletic Ground 2
⓲KANSAI UNIVERSITY TAKATSUKI ICE ARENA
⓳Athletic Ground 3
⓴Aviation Club Hangar
㉑Seminar House KOGAKUKAN

HALL

Ⓐ TE Hall

※2023年2月現在のものを掲載しています。

高槻ミューズキャンパス　Takatsuki Muse Campus



❶ **東館**（初等部･中等部･高等部校舎棟）
関西大学初等部･中等部･高等部
❷ **西館**（大学･大学院学舎棟、ミューズオフィス）
社会安全学部･社会安全研究科
- ミューズ大学図書館
- 関西大学児童図書館
- 安全ミュージアム
- 生涯学習センター、キャリアセンター、エクステンション･リードセンター
- ミューズ保健センター
- 心理相談室

❸ **北館**（体育･厚生棟）
- レストラン、購買店　● 武道場
- 室内温水プール　● アリーナ

❹ グラウンド

ホール
Ⓐ ミューズホール

❶ **East Bldg.** (Kansai University Senior High/Junior High/ Elementary School)
❷ **West Bldg.** (Faculty, Graduate School, Muse Office)
Faculty of Societal Safety Sciences, Graduate School of Societal Safety Sciences
- University Library,"Muse"
- Kids' Library
- Museum of Safety Science
- Center for Continuing Education, Center for Career Development, Extension Center
- Muse Health Center
- Student Counseling Room

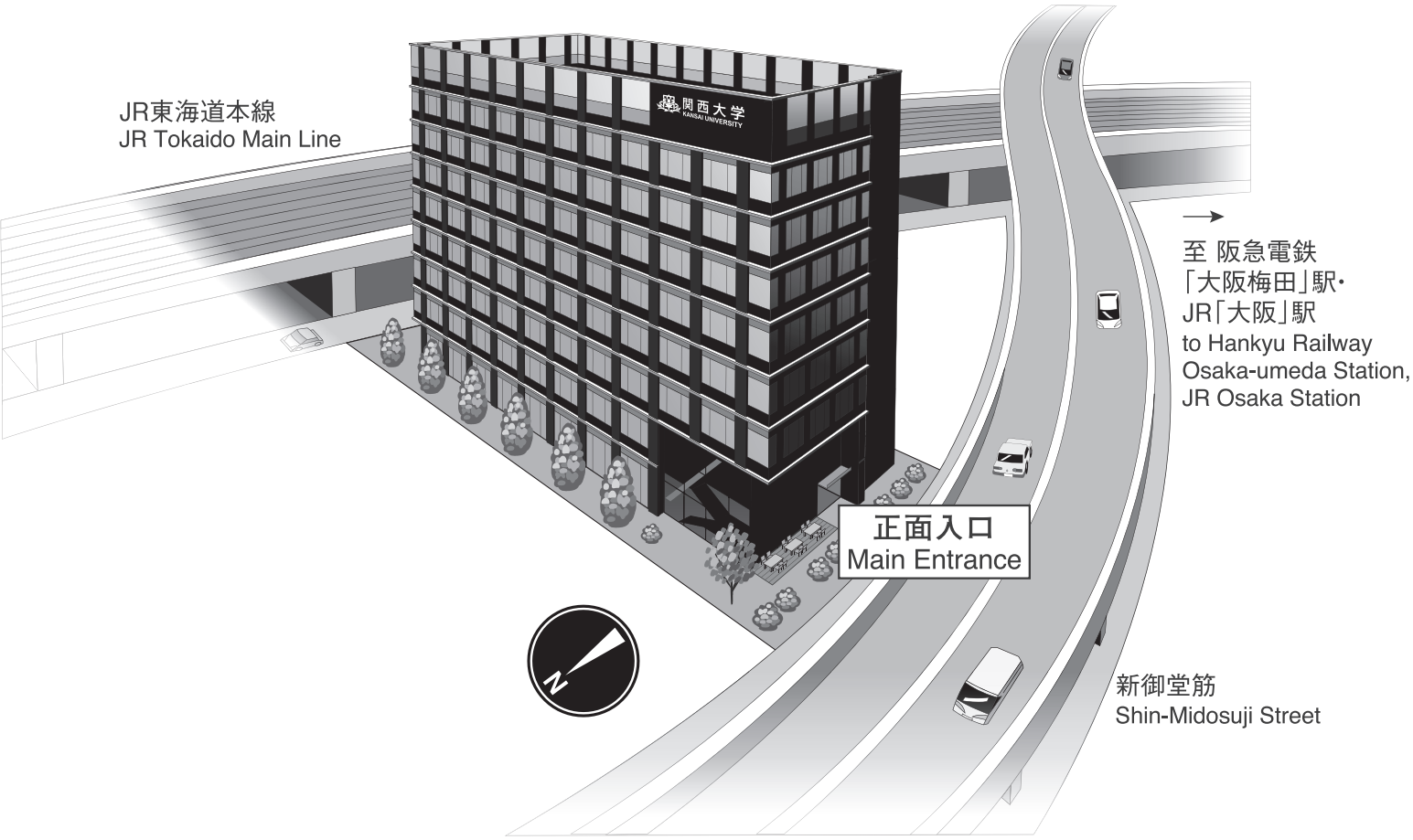
❸ **North Bldg.** (Gymnasium, Restaurant)
- Restaurant, Store
- Budo Gym
- Swimming Pool
- Arena

❹ Athletic Field

HALL
Ⓐ Muse Hall

※2023年2月現在のものを掲載しています。

梅田キャンパス　Umeda Campus



- 8F KANDAI Me RISE ホール
- 6・7F 社会人向け教育・生涯学習フロア
- 5F キャリアセンター
- 4F KANDAI Me RISE ラボ(多目的室)
- 3F 会員制異業種交流サロン
- 2F スタートアップカフェ大阪
- 1F BOOK & CAFE

- 8F KANDAI Me RISE Hall
- 6・7F Retraining & Life-long Learning for Adults
- 5F Center for Career Development
- 4F KANDAI Me RISE Lab (Multipurpose room)
- 3F Membership Salon
- 2F Startup cafe OSAKA
- 1F BOOK & CAFÉ

※2023年2月現在のものを掲載しています。

HANDBOOK 2023
—大学要覧—
（千里山キャンパス）
編　集　　関 西 大 学

千里山キャンパス
〒564-8680　大阪府吹田市山手町３丁目３番35号

高槻キャンパス
〒569-1095　大阪府高槻市霊仙寺町２丁目１番１号

高槻ミューズキャンパス
〒569-1098　大阪府高槻市白梅町７番１号

堺キャンパス
〒590-8515　大阪府堺市堺区香ヶ丘町１丁11番１号

電話番号　06-6368-1121（大代表）